

熊本県文化財調査報告書第199集

梅ノ木遺跡 II

下 卷

— 県道益城菊陽線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2001

熊本県教育委員会

本文目次 (下巻)

第Ⅲ章

第4節 平安時代

(1) 調査の概要	1
(2) 竪穴住居	1
(3) 屋外炉	2
(4) Pit群1	5
(5) Pit群2	5
(6) 溝	6
(7) 遺物包含層・攪乱の遺物	7

第5節 江戸時代以降

(1) 調査の概要	16
(2) 耕作遺構	16

第6節 確認調査

(1) 調査区1	16
(2) 調査区2	18
(3) 調査区3	21
(4) 調査区4	21
(5) 調査区5	23

(6) 調査区6	23
----------	----

第Ⅳ章 自然科学分析

A 年代測定・樹種同定・種実同定・植物珪酸体 蛍光X線・リン、カルシウム分析	25
B 弥生時代人骨の分析	46
C 鉄製品の金属学的分析	55

第Ⅴ章 考古学的分析

第1節 熊本平野周辺の弥生土器の編年案	115
第2節 竪穴住居群について	119
第3節 墓について	120
第4節 鉄器について	121
第5節 石器について	122

第Ⅵ章 まとめと課題

弥生時代遺跡分布図	147
観察表	150-218
写真図版	219-272

付編 六地藏・鹿埴瀬遺跡の調査	273
-----------------	-----

挿図目次 (下巻)

第Ⅲ-730図 2区平安・古代遺構配置図	1	第Ⅲ-750図 1区へ地区出土須恵器実測図	11
第Ⅲ-731図 198 S I 出土石器実測図	1	第Ⅲ-751図 1区子地区出土須恵器・土師器実測図	11
第Ⅲ-732図 198 S I 平面・断面図	2	第Ⅲ-752図 1区・4区用水路出土須恵器・土師器実測図	12
第Ⅲ-733図 198 S I 出土石器実測図	3	第Ⅲ-753図 1区・4区遺構配置図	13
第Ⅲ-734図 G 6923 遺物包含層出土須恵器・ 土師器実測図	4	第Ⅲ-754図 1区自然流路断面図	14
第Ⅲ-735図 202・120 S X 平面・断面図	5	第Ⅲ-755図 1区排水路断面図	14
第Ⅲ-736図 202 S X 出土石器実測図	5	第Ⅲ-756図 1区耕作溝断面図1	14
第Ⅲ-737図 120 S X 出土石器実測図	5	第Ⅲ-757図 4区耕作溝断面図・土層断面図	15
第Ⅲ-738図 No.82 調査区第一次検出遺構配置図	6	第Ⅲ-758図 1区耕作溝断面図2	16
第Ⅲ-739図 09 S X 平面・断面図	6	第Ⅲ-759図 確認調査調査区遺構配置図	17
第Ⅲ-740図 2b層検出Pit群1平面・断面図	6	第Ⅲ-760図 確認調査調査区1 平面図	18
第Ⅲ-741図 09 S X 出土石器実測図	7	第Ⅲ-761図 確認調査調査区1 503 S X 平面・ 断面図	18
第Ⅲ-742図 2区遺物包含層出土須恵器・ 土師器実測図	8	第Ⅲ-762図 確認調査調査区1 505・504 S X 平面・断面図	19
第Ⅲ-743図 2区攪乱出土須恵器・土師器実測図	9	第Ⅲ-763図 確認調査調査区1 508・515 S X 平面・断面図	20
第Ⅲ-744図 2区遺物包含層・ 攪乱出土土製品実測図	9	第Ⅲ-764図 確認調査調査区2 平面図・527・ 519・529・521・522 S X 断面図	21
第Ⅲ-745図 1・4区須恵器(S) 出土分布図	10	第Ⅲ-765図 確認調査調査区2 出土鉄器実測図	21
第Ⅲ-746図 1・4区土師器(H) 出土分布図	10	第Ⅲ-766図 確認調査調査区3 平面図・ 柱状土層断面図・802・804・805・806・ 803・804 S K	22
第Ⅲ-747図 4区口地区出土須恵器実測図	11		
第Ⅲ-748図 4区ハ地区出土土師器実測図	11		
第Ⅲ-749図 1区ニ地区出土須恵器・土師器実測図	11		

第Ⅲ -767 図	確認調査調査区3 801 S K 平面・断面図 ……………	23	第Ⅳ -9 図	梅ノ木遺跡から出土した顔料付着土器の蛍光X線分析結果(おもな元素について表示)	42
第Ⅲ -768 図	確認調査調査区4 平面図・S K 01 ~ 03 平面・断面図 ……………	23	第Ⅳ -10 図	梅ノ木遺跡から出土した甕棺墓、土壙墓におけるリン・カルシウムの検出状況	45
第Ⅲ -769 図	確認調査調査区5 平面図・902・903・906・904・905 S X 断面図 ……………	24	第Ⅳ -11 図	遺跡の位置 ……………	47
第Ⅲ -770 図	確認調査調査区6 901 S X 平面・断面図・908 S X 断面図 ……	24	第Ⅳ -12 図	人骨の残存部、アミかけ部分 ……	52
第Ⅳ -1 図	土壌分析資料 ……………	26	第Ⅴ -1 ~ 4 図	熊本平野周辺の弥生土器の編年案(甕・鉢) ……………	124
第Ⅳ -2 図	梅ノ木遺跡、2区6903-a・b西壁における植物珪酸体分析結果 ……………	39	第Ⅴ -5 ~ 8 図	熊本平野周辺の弥生土器の編年案(壺・高坏・器台他) ……………	128
第Ⅳ -3 図	梅ノ木遺跡、2区6903-a・b住居跡における植物珪酸体分析結果 ……………	39	第Ⅴ -9 図	甕形土器棺(専用)1(大型棺)編年案 ……	132
第Ⅳ -4 図	梅ノ木遺跡、183- S I における植物珪酸体分析結果 ……………	39	第Ⅴ -10 図	甕形土器棺(専用)2(中型棺)編年案 ……	133
第Ⅳ -5 図	植物珪酸体分析結果 ……………	39	第Ⅴ -11 図	甕形土器棺・鉢形土器棺(転用)編年案	134
第Ⅳ -6 図	梅ノ木遺跡2区北側出土資料の蛍光X線分析結果(おもな元素について表示)	41	第Ⅴ -12 図	壺形土器棺編年案 ……………	135
第Ⅳ -7 図	2区出土顔料分析土器実測図 ……	42	第Ⅴ -13・14 図	弥生時代遺構変遷案1・2 ……	136
第Ⅳ -8 図	赤色度の蛍光X線スペクトル図 ……	42	第Ⅴ -16 図	木棺墓形態図 ……………	139
			第Ⅴ -17 ~ 19 図	鉄器分類図案1 ~ 3 ……………	140
			第Ⅴ -20 ~ 22 図	石器分類図案1 ~ 3 ……………	142
			第Ⅵ -1 図	弥生時代遺跡分布図 ……………	147

表 目 次 (下巻)

表1	樹種同定結果一覧表 ……………	28	表17	2区出土縄文土器観察表1 ~ 7 ……	151
表2	熊本県、梅ノ木遺跡における植物珪酸体分析結果 ……	36	〃	2区竪穴住居弥生土器観察表1 ~ 40	158
表3	顔料土器観察表 ……………	41	〃	No.82区竪穴住居出土土器観察表1 ~ 3	197
表4	蛍光X線分析結果(2区北側赤色土)	41	〃	東西水路調査区出土弥生土器観察表1 ~ 3	199
表5	梅ノ木遺跡出土顔料付着土器の蛍光X線分析結果 ……	42	〃	2区屋外土坑出土土器観察表1 ~ 3	202
表6	梅ノ木遺跡出土甕棺墓、木棺墓、土壙墓における蛍光X線分析結果 ……	45	〃	No.82区屋外土坑出土土器観察表 ……	204
表7	(人骨分析) 資料数 ……………	46	〃	2区屋外炉出土土器観察 ……	205
表8	出土人骨一覧 ……………	48	〃	土器棺墓出土土器観察表1・2 ……	205
表9	年齢区分 ……………	48	〃	土壙墓・木棺墓出土土器観察表 ……	207
表10	大腿骨計測値(比数表) ……………	51	〃	新No.61区出土土器観察表 ……	207
表11	大腿骨計測値(1135 S X) ……………	52	〃	2区遺物包含層・攪乱出土弥生土器観察表 ……	207
表12	弥生時代以降子タン系鉱物含有遺物一覧表 ……	74	〃	東西水路調査区遺物包含層・攪乱出土土器観察表 ……	207
表13	供試材の履歴と調査項目(鉄分析) ……	75	〃	1・4区出土弥生土器観察表1 ~ 3	208
表14	出土遺物の調査結果のまとめ(鉄分析)	76	〃	平安時代遺構出土土器	
表15	梅ノ木周辺遺跡名 ……………	146	〃	古代屋外炉出	211
表16	1区・4区土器型式記号対照表 ……	149	〃	No.82区古代遺構出土土器観察表 ……	211
	縄文(J)、弥生(Y)、須恵器(S)、土師器(H)		〃	2区遺物包含層・攪乱出土	
表17	出土遺物観察表		〃	須恵器・土師器観察表 ……………	212
〃	1・4区出土縄文土器観察表1・2 ……	150	〃	1・4区出土須恵器・土師器観察表	212
			〃	縄文時代遺物観察表 ……………	213
			〃	砥石・凹石・石槍・石剣観察表 ……	213

表 17	石包丁・石斧・抉入石斧観察表 ……	214
"	石鏃観察表 ……	215
"	敲石・磨石・石皿・石台観察表 ……	216

表 17	土器棺墓出土石観察表 ……	216
"	勾玉・玉類観察表 ……	216
"	鉄器観察表 1・2 ……	216

図 版 目 次

表紙	梅ノ木遺跡周辺航空写真(西から) …	219
P L . 1	2区全景 ……	221
(1)	2区北側全景(空中写真)	
(2)	2区南側全景(空中写真)	
P L . 2	2区北部・中央部全景 ……	222
(1)	2区北部土器棺墓出土状況(空中写真)	
(2)	2区中央部遺構発掘状況(空中写真)	
P L . 3	2区竪穴住居発掘状況 ……	223
(1)	2区中央部全景(東から)	
(2)	2区中央部全景(北から)	
(3)	169 S I (南から)	
P L . 4	2区竪穴住居発掘状況 ……	224
(1)	173 S I (東から)	
(2)	209・210 S I (東から)	
(3)	221 S I (東から)	
P L . 5	2区竪穴住居完掘状況 ……	225
(1)	216・217・210・221 S I (東から)	
(2)	270・272 S I (北から)	
(3)	275 S I (北から)	
P L . 6	2区竪穴住居完掘状況 ……	226
(1)	101 S I (西から)	
(2)	122 S I (北から)	
(3)	1194・1174・1175・123 S I (東から)	
P L . 7	2区竪穴住居完掘状況 ……	227
(1)	123・1196 S I (東から)	
(2)	1172・1173 S I (東から)	
(3)	1095 S I (東から)	
P L . 8	2区竪穴住居完掘状況 ……	228
(1)	129 S I (西から)	
(2)	129 S I (東から)	
(3)	1095・1097 S I (東から)	
P L . 9	2区竪穴住居完掘状況 ……	229
(1)	1139 S I (東から)	
(2)	1152 S I (東から)	
(3)	1096 S I (東から)	
P L . 10	2区竪穴住居完掘状況 ……	230
(1)	1182・1186 S I (東から)	
(2)	1179 S I (東から)	
(3)	1096 S I (東から)	
P L . 11	1・4・No.82区・東西水路遺構発掘状況	231

(1)	縄文前期～中期初めの遺構検出状況	
(2)	1区V層検出集石(北東から)	
(3)	1区V層検出集石断面(北東から)	
(4)	No.82区03 S I・05 S I (南から)	
(5)	No.82区05・02・07 S I (南から)	
(6)	No.82区 15 S I (西から)	
(7)	東西水路A・B地区(西から)	
(8)	東西水路D地区05SI炭化材出土状況(北から)	
P L . 12	2区土器棺墓出土状況 ……	232
(1)	1076・1079・1078 S X 他(北西から)	
(2)	1077・1079・1078・1082・ 1081・1084 S X 他(北西から)	
(3)	2区北側土器棺墓完掘状況 (西から)	
P L . 13	2区土器棺墓出土状況 ……	233
(1)	230 S X (北東から)	
(2)	229 S X (北から)	
(3)	228 S X (北から)	
(4)	289 S X (北東から)	
(5)	1129 S X (南から)	
(6)	1129 S X 土器棺内遺物出土状況(東から)	
(7)	1150 S X (南東から)	
(8)	1150 S X 土器棺内遺物出土状況(北から)	
P L . 14	2区土器棺墓出土状況 ……	234
(1)	1154 S X (南から)	
(2)	1154 S X 土器棺内遺物出土状況(南西から)	
(3)	1075 S X (北から)	
(4)	1075 S X 土器棺内遺物出土状況(東から)	
(5)	1131 S X (北から)	
(6)	1083 S X (東から)	
(7)	1076 S X (北から)	
(8)	1108 S X (北東から)	
P L . 15	2区・新No.61区土器棺墓出土状況	235
(1)	2区1081 S X (北から)	
(2)	2区1082 S X (南から)	
(3)	2区1080 S X (西から)	
(4)	2区1082 S X 土器棺内遺物出土状況	
(5)	2区1077 S X (南から)	
(6)	2区1077 S X 土器棺内遺物出土状況(南から)	
(7)	2区1079 S X (北から)	
(8)	新No.61区 04 S X (東から)	

P L . 1 6	木棺墓・土壙墓出土状況 …………… 236	P L . 2 6	2区竪穴住居出土弥生土器② …………… 246
(1)	2区 287 S X(東から)	(1)	160 S I(第Ⅲ-70-7 図)
(2)	2区 1135 S X(南から)	(2)	192 S I(第Ⅲ-64-2 図)
(3)	2区 1153 S X(北から)	(3)	179 S I(第Ⅲ-104-11 図)
(4)	2区 1135 S X 木棺墓内遺物出土状況(南から)	(4・7・8)	167 S X(第Ⅲ-87-1、88-15、89-17 図)
(5)	新 No.61 区全景(東から)	(5)	1236 S I(第Ⅲ-88-3 図)
(6)	新 No.61 区 04 S X 周	(6)	169 S I(第Ⅲ-94-17 図)
(7)	新 No.61 区 05・90 S X 他(西から)	P L . 2 7	2区竪穴住居出土弥生土器③ …………… 247
(8)	仮 No.61 区全景(南から)	(1・2)	180 S I(第Ⅲ-106-5・7 図)
P L . 1 7	1区・4区・確認調査区発掘状況 … 237	(3)	183 S I 炉(第Ⅲ-112-1 図)
(1)	1区全景(南から)	(4・6)	286 S I(第Ⅲ-204-8・2 図)
(2)	4区全景(南西から)	(5)	272 S I(第Ⅲ-226-3 図)
(3)	確認調査区 1 505 S X 他(南から)	(7)	269 S I(第Ⅲ-207-2 図)
(4)	確認調査区 1 508 S X 他(北から)	(8)	132 S I(第Ⅲ-256-30 図)
(5)	確認調査区 1 504 S X 他(南から)	P L . 2 8	2区竪穴住居出土弥生土器④ …………… 248
(6)	確認調査区 2 全景(東から)	(1)	272 S I(第Ⅲ-226-1 図)
(7)	発掘作業風景 1	(2)	141 S I(第Ⅲ-276-9 図)
(8)	発掘作業風景 2	(3)	128 S I(第Ⅲ-274-1 図)
P L . 1 8	1区 V層出土縄文土器 …………… 238	(4)	101 S I(第Ⅲ-236-7 図)
(1)	子地区出土縄文土器(尾田式)第Ⅲ-6-1 図	(5)	126 S I(第Ⅲ-262-22 図)
(2)	子地区出土縄文土器(轟 C・D 式)第Ⅲ-7-1 図	(6)	127 S I(第Ⅲ-281-3 図)
P L . 1 9	1区・4区出土縄文土器① …………… 239	(7)	138 S I(第Ⅲ-318-3 図)
(1)	第Ⅲ-21-8、13-2・5、20-7、14-3、22-4・6、 17-2、15-1 図	(8)	123 S I(第Ⅲ-328-1 図)
(2)	第Ⅲ-21-12、16-1 図	P L . 2 9	2区・No.82区竪穴住居出土弥生土器 249
P L . 2 0	1区・4区・2区出土縄文土器② …… 240	(1～4)	123 S I(第Ⅲ-332-21、329-8・9・7 図)
(1)	第Ⅲ-17-5、19-1～4、20-2・5、24-2～5 図	(5)	1185 S I(第Ⅲ-371-11 図)
(2)	第Ⅲ-18-2・3、20-1・4、21-5 図	(6)	1103 S I(第Ⅲ-415-4 図)
P L . 2 1	2区出土縄文土器① …………… 241	(7)	1146 S I(第Ⅲ-456-1 図)
(1)	第Ⅲ-26-3・6、27-2・5～9・11、31-1・2・4 図	(8)	No.82区 01 S I(第Ⅲ-481-9 図)
(2)	第Ⅲ-27-14、28-13、25-2、29-12 図	P L . 3 0	2区土器棺墓出土土器① …………… 250
P L . 2 2	2区出土縄文土器② …………… 242	(1)	230 S X(第Ⅲ-591-1 図)
(1)	第Ⅲ-33-16、32-1・2・10・11・18 図	(2)	229 S X(第Ⅲ-597-1 図)
(2)	第Ⅲ-38-8、32-4、33-11・13、35-1・10、 39-12、36-3 図	(3・4)	228 S X(第Ⅲ-601-1・2 図)
P L . 2 3	2区出土縄文土器③ …………… 243	(5・6)	289 S X(第Ⅲ-605-1・2 図)
(1)	第Ⅲ-39-7、35-6・7・13、42-1 図	P L . 3 1	2区土器棺墓出土土器② …………… 251
(2)	第Ⅲ-41-1・3・4、42-16・2・6・13 図	(1)	1129 S X(第Ⅲ-610-1 図)
P L . 2 4	2区出土縄文土器④ …………… 244	(2)	1150 S X(第Ⅲ-612-1 図)
(1)	第Ⅲ-44-2、45-4・5・2・3・6 図	(3)	1154 S X(第Ⅲ-615-1 図)
(2)	第Ⅲ-46-10・4・6・7・12・15・17、49-1・7・5、 48-7、47-1・11 図	(4)	1075 S X(第Ⅲ-618-1 図)
P L . 2 5	2区竪穴住居出土弥生土器① …………… 245	P L . 3 2	2区土器棺墓出土土器③ …………… 252
(1・2)	181 S I(第Ⅲ-53-11・12 図)	(1)	1131 S X(第Ⅲ-620-1 図)
(3)	186 S I(第Ⅲ-55-3 図)	(2)	1083 S X(第Ⅲ-625-1 図)
(4)	160 S I(第Ⅲ-70-1 図)	(3)	1076 S X(第Ⅲ-627-1 図)
(5)	182 S I(第Ⅲ-79-10 図)	(4)	1084 S X(第Ⅲ-628-1 図)
		P L . 3 3	2区土器棺墓出土土器④ …………… 253
		(1)	1108 S X(第Ⅲ-630-1 図)
		(2)	1081 S X(第Ⅲ-632-1 図)

(3)	1082 S X (第Ⅲ -634-1 図)	(9)	103 S I (第Ⅲ -266-1 図)
(4)	1080 S X (第Ⅲ -638-1 図)	(10·11·15)	126 S I (第Ⅲ -263-1·2·3 図)
P L . 3 4	2 区・新 No.61 区土器棺墓出土土器⑤ 254	(12)	127 S I (第Ⅲ -282-1 図)
(1)	1079 S X (第Ⅲ -643-1 図)	(13·14)	122 S I (第Ⅲ -287-1·2 図)
(2)	1077 S X (第Ⅲ -645-1 図)	P L . 4 2	2 区竪穴住居出土石器④ …………… 262
(3·4)	208 S X (第Ⅲ -594-1·2 図)	(1·5·7)	123 S I (第Ⅲ -333-3,334-3·1 図)
(5)	新 No.61 区 04 S X (第Ⅲ -657-1 図)	(2)	1194 S I (第Ⅲ -304-2 図)
P L . 3 5	P 18 区土器棺墓出土土器⑥ …… 255	(34·6)	124 S I (第Ⅲ -295-2·3·1 図)
(1)	P 18 区 1238 S X (第Ⅲ -652-1 図)	(8)	1190 S I (第Ⅲ -367-1 図)
(2)	P 18 区 1239 S X (第Ⅲ -654-1 図)	(9)	1095 S I (第Ⅲ -379-1 図)
	2 区屋外土坑出土土器 …………… 255	(10·11)	1172 S I (第Ⅲ -348-1·2 図)
(3)	2 区 170 S X (第Ⅲ -536-1 図)	(12)	1173 S I (第Ⅲ -350-1 図)
(4)	2 区 1033 S K (第Ⅲ -532-4 図)	(13)	1105 S I (第Ⅲ -360-1 図)
P L . 3 6	2 区遺物包含層出土土器 …………… 256	P L . 4 3	2 区竪穴住居出土石器⑤ …………… 263
(1)	夜臼式～板付式土器(第Ⅲ -690-1·3·6 図)	(1)	1185 S I (第Ⅲ -373-1 図)
(2～4)	第Ⅲ -691-5·4·3 図	(2)	1167 S I (第Ⅲ -384-1 図)
P L . 3 7	2 区出土須恵器・土師器・土製品 …… 257	(3)	129 S I (第Ⅲ -401-1 図)
(1·2·4·8)	198 S I (第Ⅲ -733-1·3·5 図)	(4·5)	1095 S I (第Ⅲ -377-1,378-1 図)
(3)	G 6923(第Ⅲ -734-6·3·9·7 図)	(6)	1101 S I (第Ⅲ -412-1 図)
(5·7)	攪乱(第Ⅲ -744-2·3 図)	(7·8)	1103 S I (第Ⅲ -418-1·2 図)
(6)	遺物包含層(第Ⅲ -744-1 図)	(9·10·12～14)	1133 S I (第Ⅲ -417-1～5 図)
P L . 3 8	2 区・1·4 区遺物包含層攪乱出土遺物 258	(11·15)	1096 S I (第Ⅲ -433-3·1 図)
(1)	1·4 区出土陶磁器	(16)	1121 S I (第Ⅲ -423-1 図)
(2)	2 区攪乱・G 5963 出土銅銭	P L . 4 4	2 区土坑出土石器 …………… 264
(3)	1 区・2 区攪乱出土銅製品	(1)	227 S X (第Ⅲ -558-1 図)
P L . 3 9	2 区竪穴住居出土石器① …………… 259	(2)	139 S K (第Ⅲ -568-1 図)
(1)	162 S I (第Ⅲ -62-1 図)	(3)	249 S K (第Ⅲ -564-1 図)
(23)	167 S X (第Ⅲ -84-1·2 図)	(4)	134 S X (第Ⅲ -566-1 図)
(4)	160 S I (第Ⅲ -74-1 図)	(5)	251 S X (第Ⅲ -582-1 図)
(5～9)	169 S I (第Ⅲ -98-3·2·4,99-2·1 図)	(6)	244 S X (第Ⅲ -542-1 図)
(10)	198 S I (第Ⅲ -731-1 図)	(7)	1140 S K (第Ⅲ -573-1 図)
(11)	190 S I (第Ⅲ -136-1 図)	2 区遺物包含層出土石器① …………… 264	
P L . 4 0	2 区竪穴住居出土石器② …………… 260	(8～11)	第Ⅲ -695-1,694-3·2·1 図
(13)	180 S I (第Ⅲ -109-1·2 図)	P L . 4 5	2 区遺物包含層出土石器② …………… 265
(2)	165 S I (第Ⅲ -153-1 図)	(1)	第Ⅲ -695-2～7,703-1,696-1·3～6·8·9 図
(46)	161 S I (第Ⅲ -157-2·1 図)	(2)	第Ⅲ -697-1,698-1·2,699-1·2 図
(5)	209 S I (第Ⅲ -172-1 図)	P L . 4 6	2 区攪乱・遺物包含層 I …… 266
(7)	270 S I (第Ⅲ -216-1 図)	(1)	2 区攪乱(第Ⅲ -705-1～5 図)
(8·12)	286 S I (第Ⅲ -205-2·1 図)	(2)	2 区攪乱(第Ⅲ -704-1～7 図)
(9)	272 S I (第Ⅲ -227-1 図)	(3)	2 区遺物包含層出土块状耳飾(第Ⅲ -111-1 図)
(10)	275 S I (第Ⅲ -229-1 図)	P L . 4 7	2 区攪乱・遺物包含層出土石器 …… 267
(11·13·14)	101 S I (第Ⅲ -238-2·3·4 図)	(1)	2 区攪乱出土石器(第Ⅲ -706-1～3 図)
P L . 4 1	2 区竪穴住居出土石器③ …………… 261	(2)	遺物包含層出土石器(第Ⅲ -700-1 図)
(1·2·5)	132 S I (第Ⅲ -257-1·2·3 図)	P L . 4 8	1 区・4 区・2 区出
(4·6·7)	132 S I (第Ⅲ -259-2·1·3 図)	(1)	1 区・4 区出土打製石斧
(3)	234 S I (第Ⅲ -249-1 図)	(2)	2 区遺物包含層出土石斧・ 円盤状石器・Y 字形石器ほか
(8)	224 S I (第Ⅲ -245-1 図)		

P L . 4 9	1区・4区・2区出土石器……………	269	P L . 5 1	2区東西水路遺構・遺物包含層出土鉄器②	271
(1)	石鏃・石匙		(1)	1172 S I (第Ⅲ-349-1 図)	
(2)	石斧・抉入片刃石斧扁平片刃石斧		(2)	129 S I (第Ⅲ-396-1・2 図)	
P L . 5 0	2区遺構出土鉄器①……………	270	(3)	1190 S I (第Ⅲ-369-1・2 図)	
(1)	162 S I (第Ⅲ-63-1～4 図)		(4)	1096 S I (第Ⅲ-435-1～3 図)	
(2)	175 S I (第Ⅲ-67-1 図)		(5)	1183 S I (第Ⅲ-452-1 図)	
(3)	167 S X (第Ⅲ-85-1・2 図)		(6)	東西水路 05 S I (第Ⅲ-529-1 図)	
(4)	169 S I (第Ⅲ-97-1～3 図)		(7)	1036 S K (第Ⅲ-533-1 図)	
(5)	179 S I (第Ⅲ-104-24 図)		(8)	2区遺物包含層出土鉄器	
(6)	183 S I (第Ⅲ-111-1 図)			(第Ⅲ-707-1～11 図、708-1～7 図)	
(7)	190 S I (第Ⅲ-137-1・2 図)		(9)	No.82 区(第Ⅲ-711-1 図)	
(8)	1058 S I (第Ⅲ-118-1 図)		P L . 5 2	2区・1区・4区攪乱出土鉄器……………	272
(9)	212 S I (第Ⅲ-142-1 図)		(1)	2区攪乱(第Ⅲ-709-1～4・6～8 図、710-1～6 図)	
(10)	161 S I (第Ⅲ-158-1 図)		(2)	1区 (第Ⅲ-728-6・7、729-3・4・7・8 図)	
(11)	210 S I (第Ⅲ-169-1 図)		(3)	4区 (第Ⅲ-727-5・1・3・2 図)	
(12)	216 S I (第Ⅲ-177-1 図)				
(13)	269 S I (第Ⅲ-210-1 図)				
(14)	132 S I (第Ⅲ-258-1 図)				
(15)	101 S I (第Ⅲ-239-1～4 図)				
(16)	126 S I (第Ⅲ-264-1～3 図)				
(17)	102 S X (第Ⅲ-271-1・2 図)				
(18)	122 S I (第Ⅲ-283-1 図)				
(19)	124 S I (第Ⅲ-296-1 図)				

第4節 平安時代

(1) 調査の概要 (第III-730図)

1982年度の調査では、竈付の竪穴住居が重複して5軒検出されている。また、遺物としては墨書土器も出土している。

今回の調査では、竪穴住居1軒(検出のみ)、屋外炉2基を検出した。住居を検出した場所が、1982年度で検出した場所から南西に30m以上離れていることから新たな住居群が検出されたことになる。

(2) 竪穴住居

198 S I (第III-731・732・733・734図、PL.37)

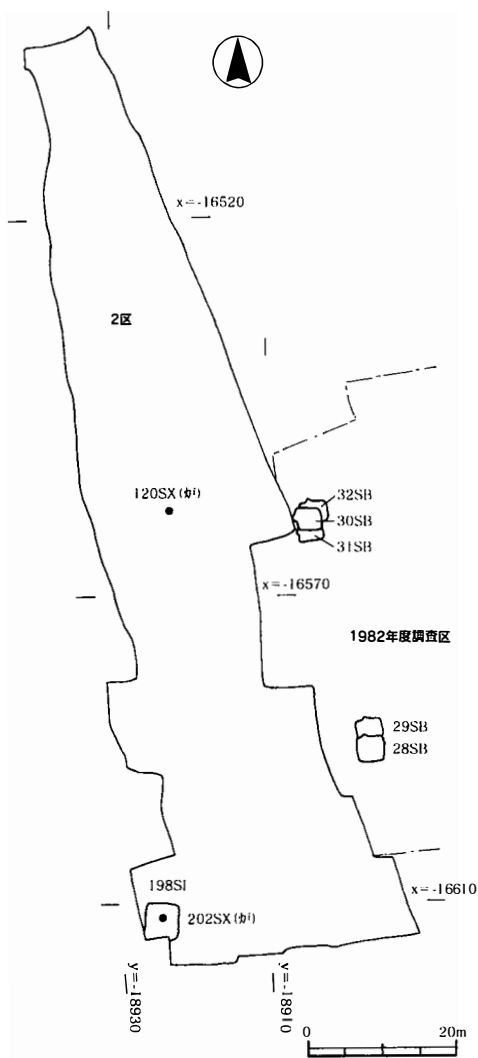
位置 遺跡南西部(2区南部)の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約52.9mで、南側は攪乱と調査区外にかかる。主軸の方位はN-2°-Eである。

住居形態 平面形態は方形を呈し、長軸5.5m・短軸5.0m以上を測る。残存床面積は14.3㎡で、検出面からの深さは40cmである。硬化面は認められない。埋土は3層からなる人為的な堆積が見られる。

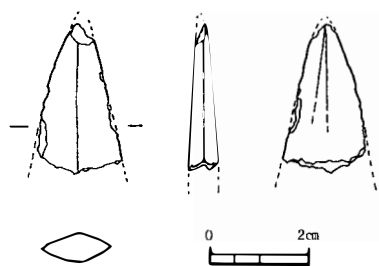
柱穴 西側が攪乱に切られていることや道路橋脚部外のため調査用アゼも除去していないため、未確認である。

焼土 住居内の中央部に、長軸2.3cm、短軸0.9cm、深さ10cmで(焼土ピークとして)検出される。

遺物出土状況 住居の埋土からは、土師器坏、皿、埴の他、弥生土器の甕口縁部片19、底部片4、壺口縁部片12、底部片2、高坏片1が出土している。ただし、全掘していないため、住居の廃棄に伴う遺物の可能性がある。第III-734図は、住居を検出する際に周辺から出土した土器群で住居の廃絶に伴う土器群の可能性はある。坏類(第III-734図1)や皿(第III-734図9)等形式的に差があるものも存在し、第III-733図の遺物とは時期差があるものも存在する。



第III-730図 2区平安・古代遺構配置図
(1/1000)



第III-731図 198 S I 出土石器実測図
(2/3) (2層)

遺物 皿類(第III-733図3・4・11、第III-734図3)は口径16~17cm、器高1.8~2.0cmで口縁部がやや外反して端部を丸く収めている。底部内面に粘土紐の積み上げ痕を残す。須恵器も土師器も同様な器形を持つ。土師器は、回転台土師器である。埴類(第III-733図8・9)も内外面に暗文を持つ回転台土師器である。須恵器の甕は、内面に同心円タタキ、外面に格子目タタキを持つ。

まとめ 住居の時期は平安時代の遺構(9世紀前半)と思われ、未完掘に終わり詳細は不明である。焼土については住居中央部の焼土ピークは、かまどの崩壊に起因するものと考えられる。

(3) 屋外炉

120 SX (第III -735・737 図)

位置 遺跡北西部 (2区中央部) の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。床面の標高は約 53.7 m で、中央部は攪乱により壊されている。

炉形態 平面形態は不整形円形を呈する。長軸 0.78m 以上、短軸 0.75m、深さ 0.08 m である。埋土は 2 層からなる。断面の形態は、皿状である。

遺物出土状況 炉に廃絶した状況で土師器の甕が出土した。

まとめ 土師器を埋土に含み、古代と考えられる。掘り込みが浅く詳細は不明で、炉または竈が壊れた一部の可能性がある。

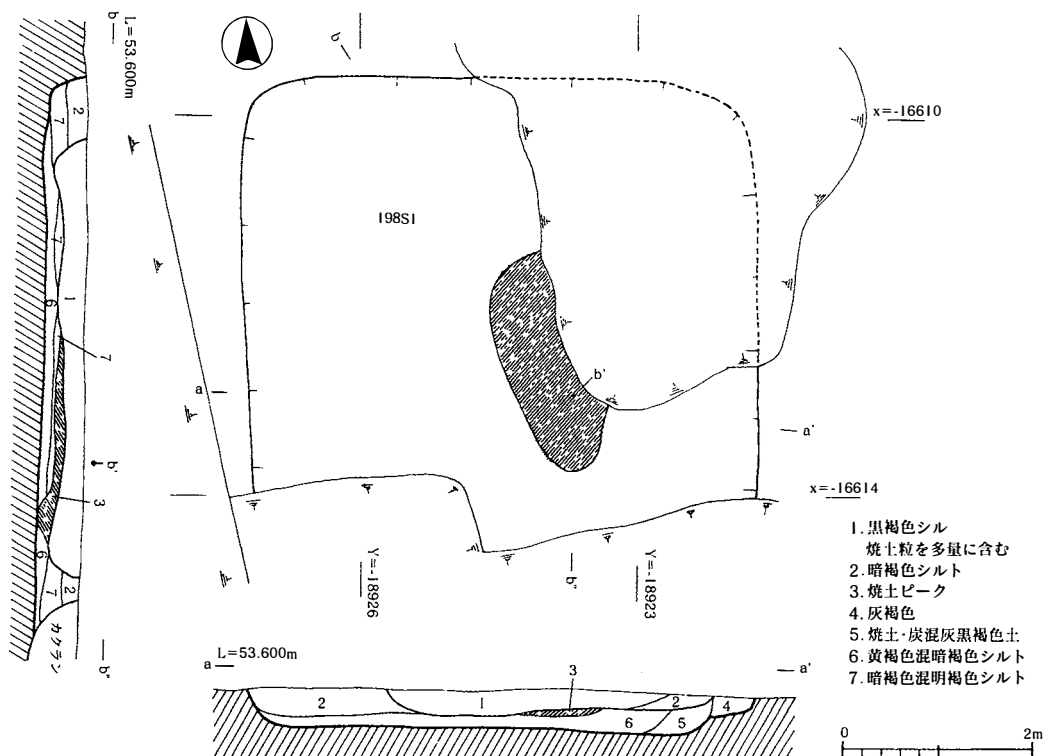
202SX (第III -735・736 図)

位置 遺跡南西部 (2区南部) の氾濫原上に位置する。旧地形をほぼ留めていると考えられる。検出面の標高は約 53.5 m である。

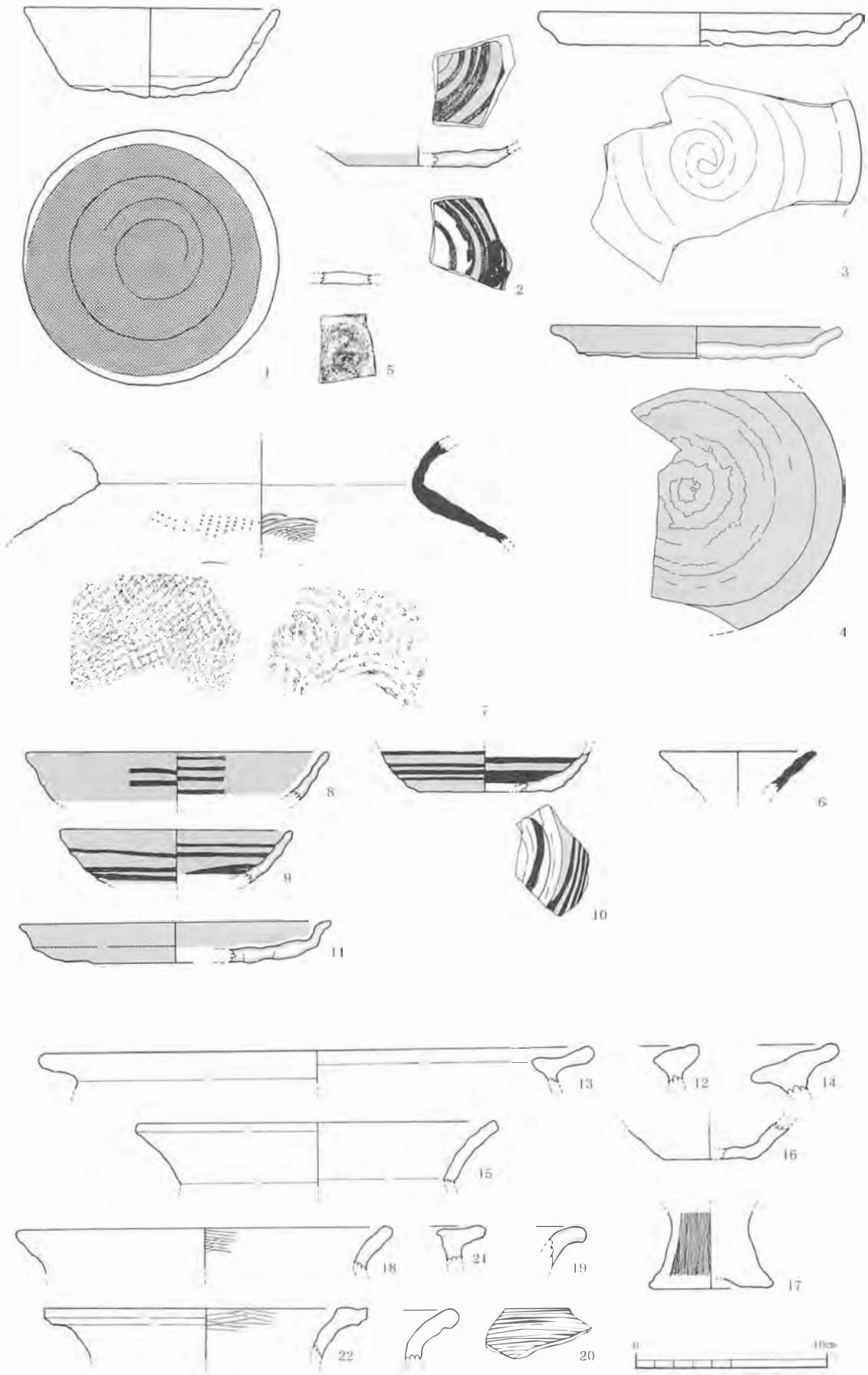
炉形態 平面形態は不整形円形を呈する。長軸 0.75m、短軸 0.7m、深さ 0.18 m である。埋土は 2 層からなる。断面の形態は、すり鉢状である。

遺物出土状況 廃棄した状況で粘土紐の積み上げ痕を残す土師器の坏の底部が出土している。

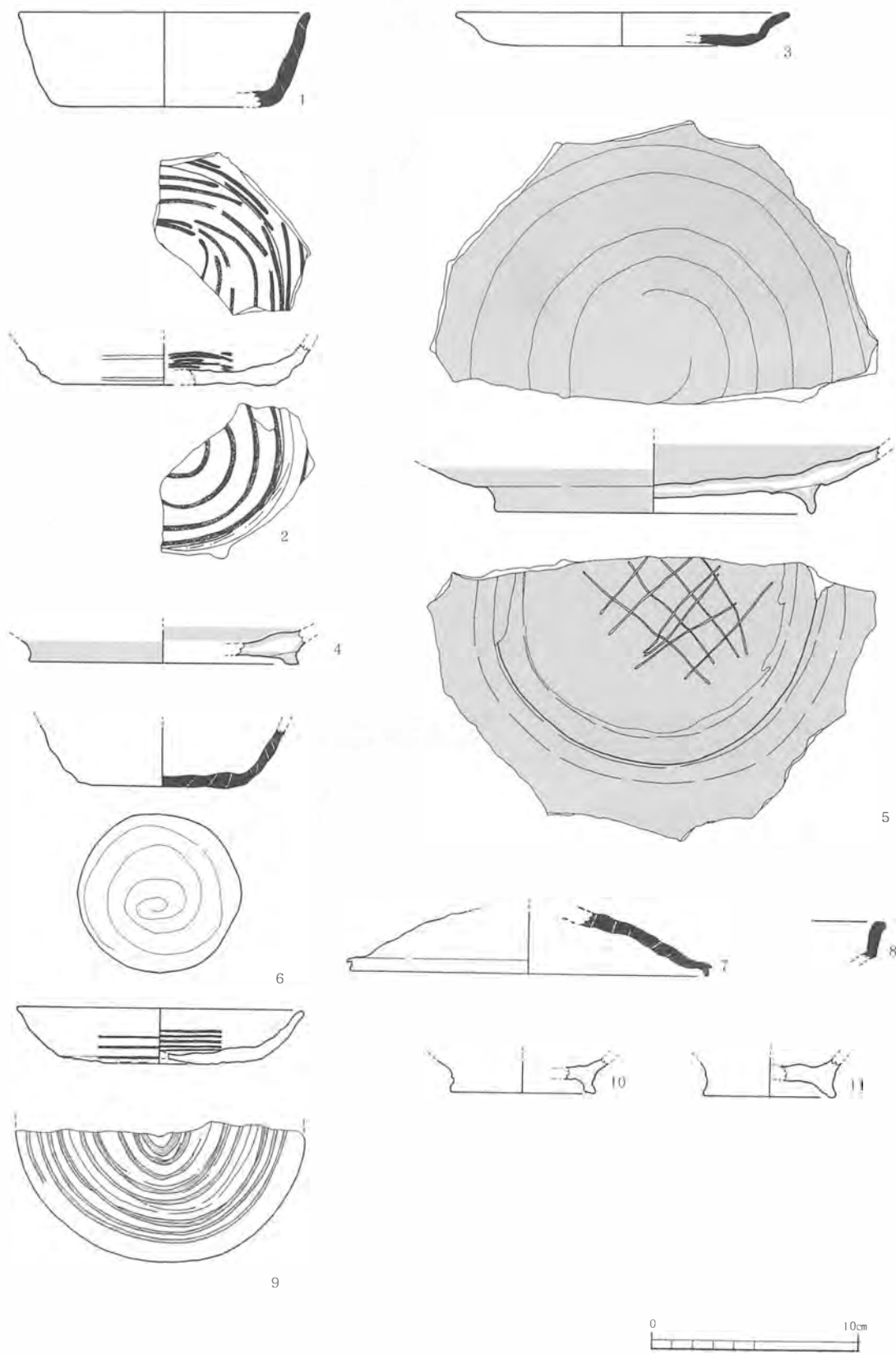
まとめ 198SI が埋没後利用されていることや出土遺物から 9 世紀前半以降と推定される。



第III - 732 図 198SI 平面・断面図 (1/80)



第III - 733 図 198SI 出土土器実測図 (1/3)
 < 2層 (1~5・13~16)、1層 (6~12・17~22) >



第III - 734 図 G6923 遺物包含層出土須恵器・土師師実測図 (1/3)

(4) Pit 群 1 (第III -738・740 図)

No.82 区の南東隅部分の 2 b 層上面で検出した。時期の詳細は、不明であるが、検出面と、出土土器等から考えて、竪穴住居ときほど変わらない時期と推定できる。Pit

c m、深さ 30～80 c m と小型である。Pi

m (約 12 尺) でほぼ等間隔であるが、角度が 90° を超える。

こうしたことから考えて竪穴住居の柱穴の可能性もある。

(5) Pit 群 2 (第III -753 図)

位置 4 区の西側端で Pi

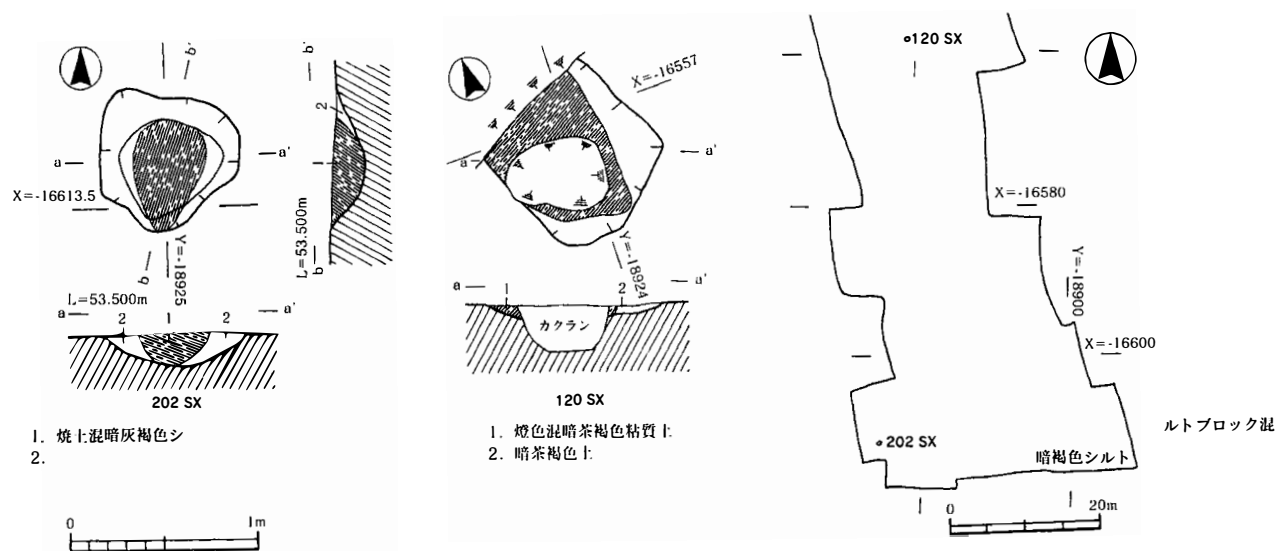
構造 法量は 15～20 c m、30～40 c m のものに分けられる。深さは直線的や直交するなど、並ぶような配置ではない。埋土では、識別できなかった。

遺物出土状況 Pi

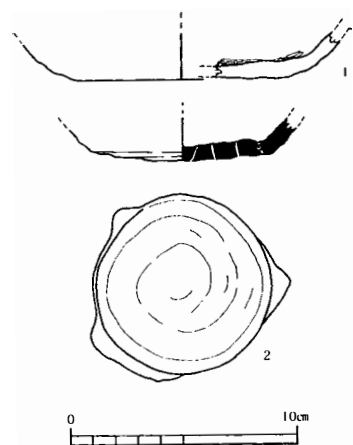
まとめ 遺物包含層中に青白磁片 (白磁皿Ⅹ類・龍泉窯系青磁碗Ⅳ類等) と古代の土器 (9 世紀代) を含む。

これらの Pi

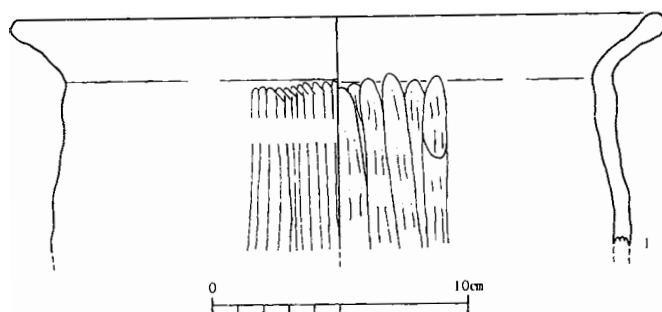
とも考えられる。



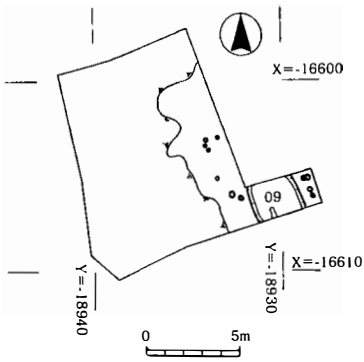
第III - 735 図 202SX・120SX 平面・断面図 (1/40) ・配置図 (1/1000)



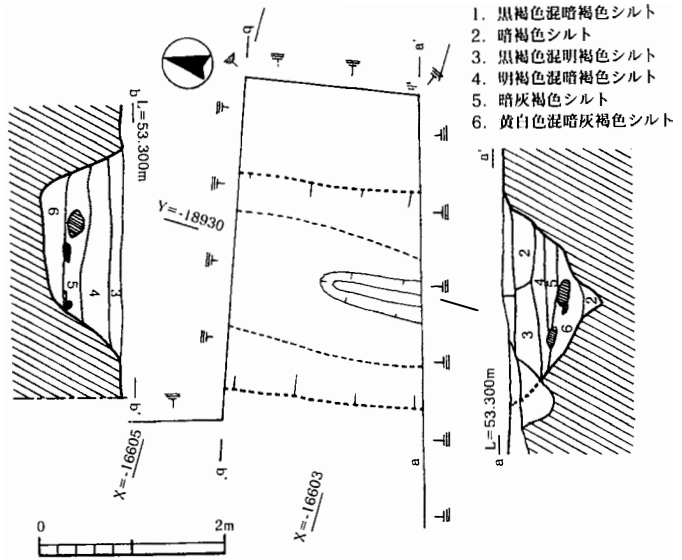
第III -736 図 202 S X 出土土器 実測図 (1/3)



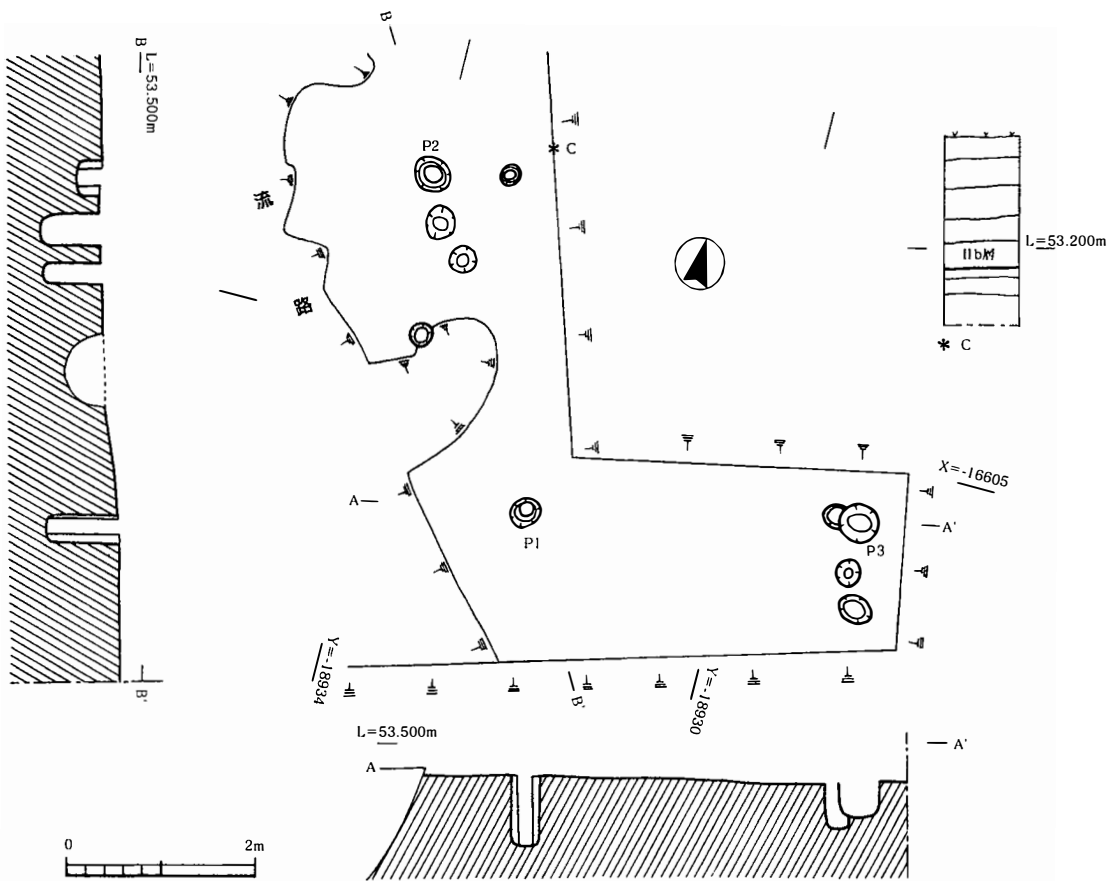
第III -737 図 120 S X 出土土器実測図 (1/3)



第Ⅲ-738図 No.82 調査区
第一次検出遺構配置図 (1/400)



第Ⅲ-739図 09SX平面・断面図 (1/80)



第Ⅲ-740図 2b層検出 Pit 群1 平面・断面図 (1/80)

(6) 溝 (第Ⅲ-739・741図)

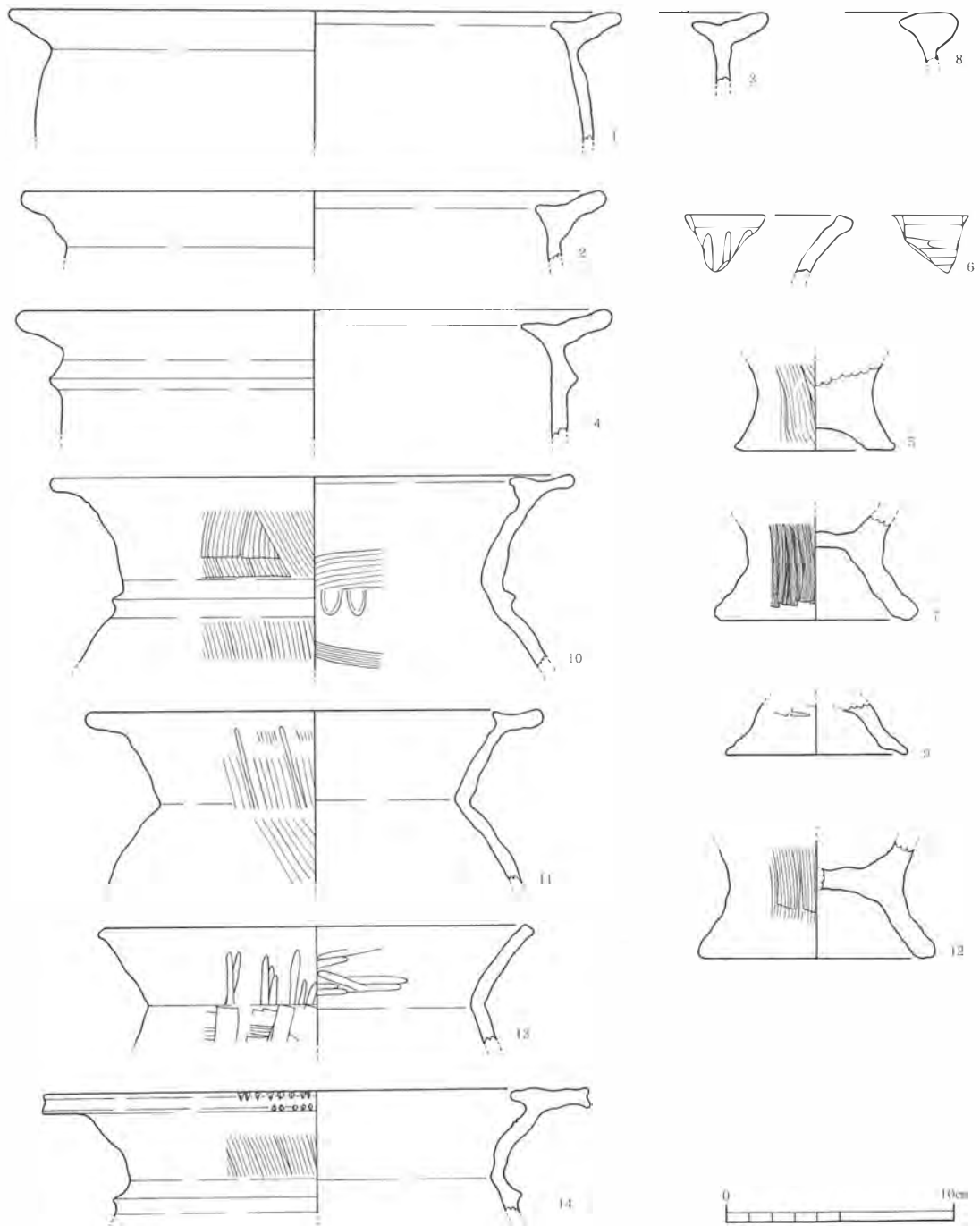
No.82 区の南東隅部で検出した。調査区の幅が狭いため、土坑の可能性もあるが、幅2.3m、V字状を呈する。埋土は7層に分けられ、いずれもシルト層である。断面を観察すると2a層から掘削しているので、9世紀代と推定できる。遺物は、第Ⅲ-741図に示したように弥生時代の遺物のみである。溝を掘削する際や流れ込みの遺物と推定できる。

(7) 遺物包含層・攪乱の遺物

a. 2区遺物包含層 (第Ⅲ -742・744 図)

① 須恵器

器種的には、坏・埴類が顕著である。
742 図 1) がある。他に甑 (第Ⅲ -742 図 7)、壺類 (第Ⅲ -742 図 8・11) が出土している。



第Ⅲ - 741 図 09SX 出土土器実測図 (1/3)
 < 4層下層 (1~4)、4層 (5・6)、3層 (7~11)、1層 (12~14)

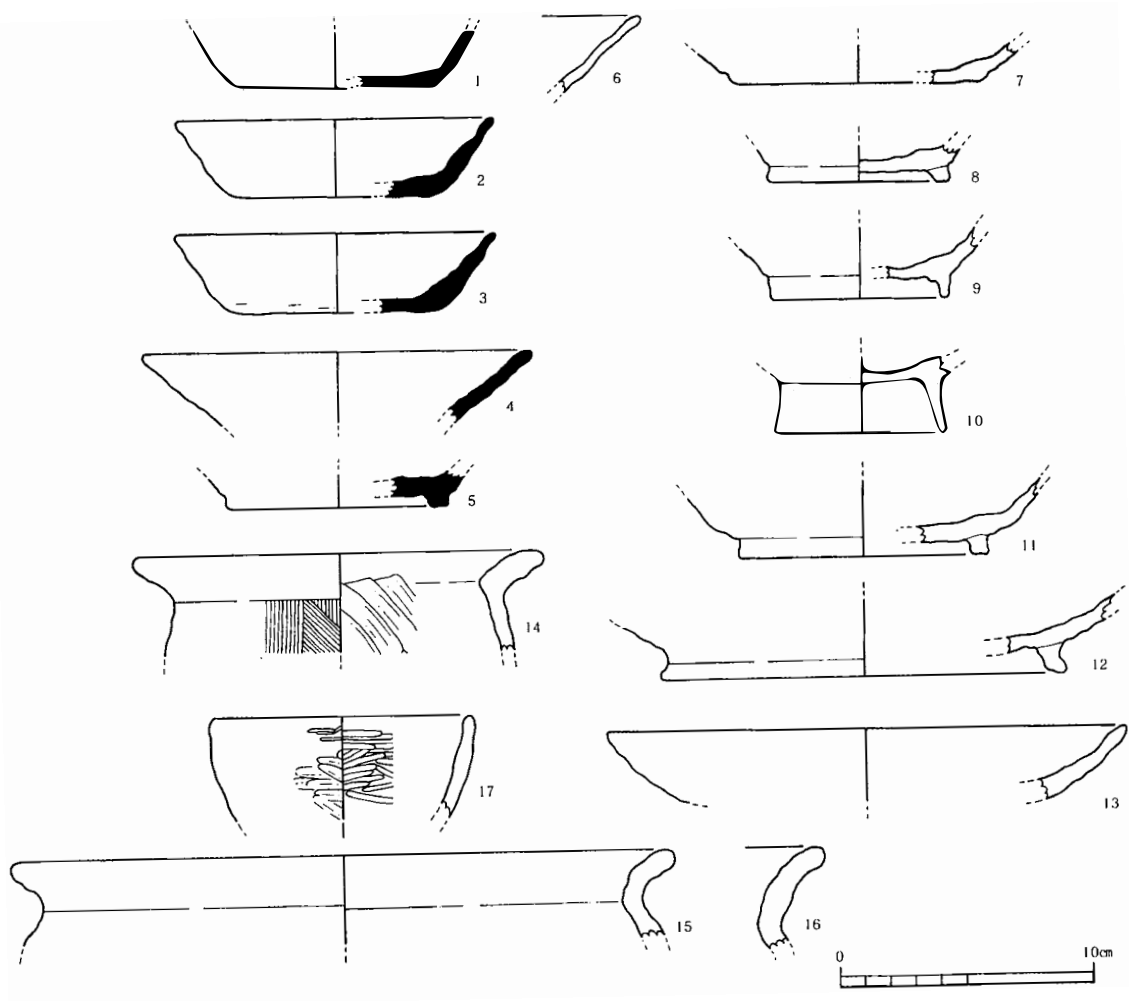
② 土師器

また、第Ⅲ-742区  また、第Ⅲ-742区 出土の土師器の断面図と口縁部を示す図。断面図は、口縁部がやや細くなるもの（第Ⅲ-742区 図10）と口径約26cmで頸部が細い（第Ⅲ-742区 図9）とを検出している。

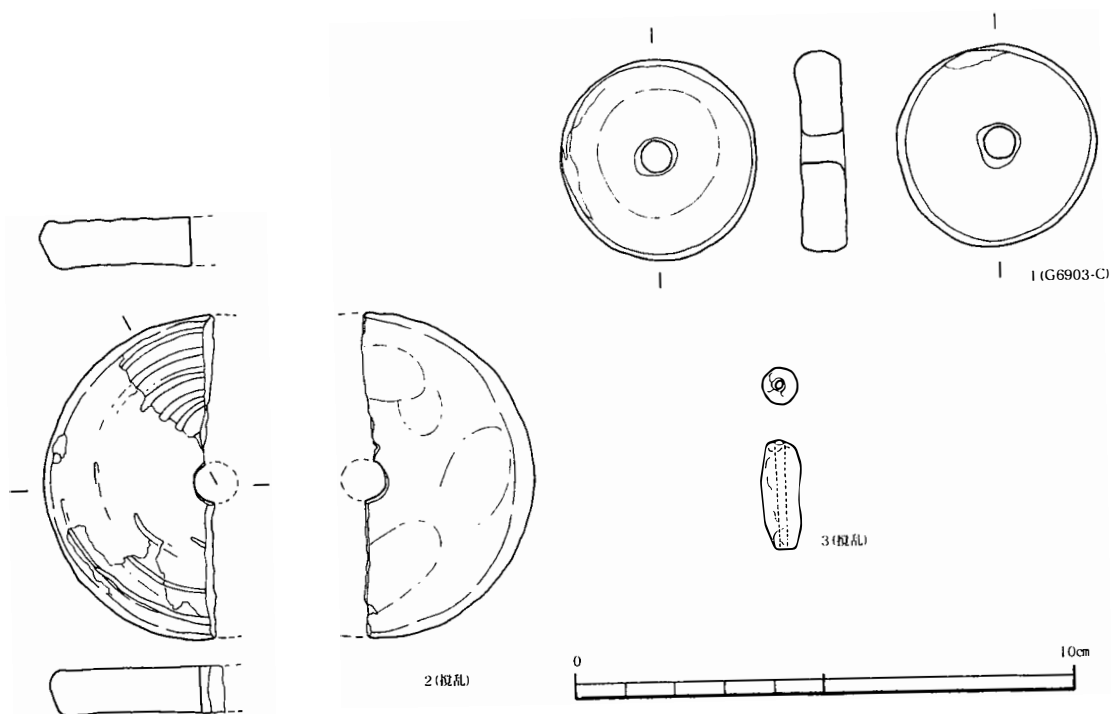
③ 土製品（第Ⅲ-744区、PL.37）

第Ⅲ-744区  出土の土製品の断面図と口縁部を示す図。作技術・調整が類似している。





第Ⅲ - 743 图 2区搅乱出土須恵器・土師器実測图 (1/3)

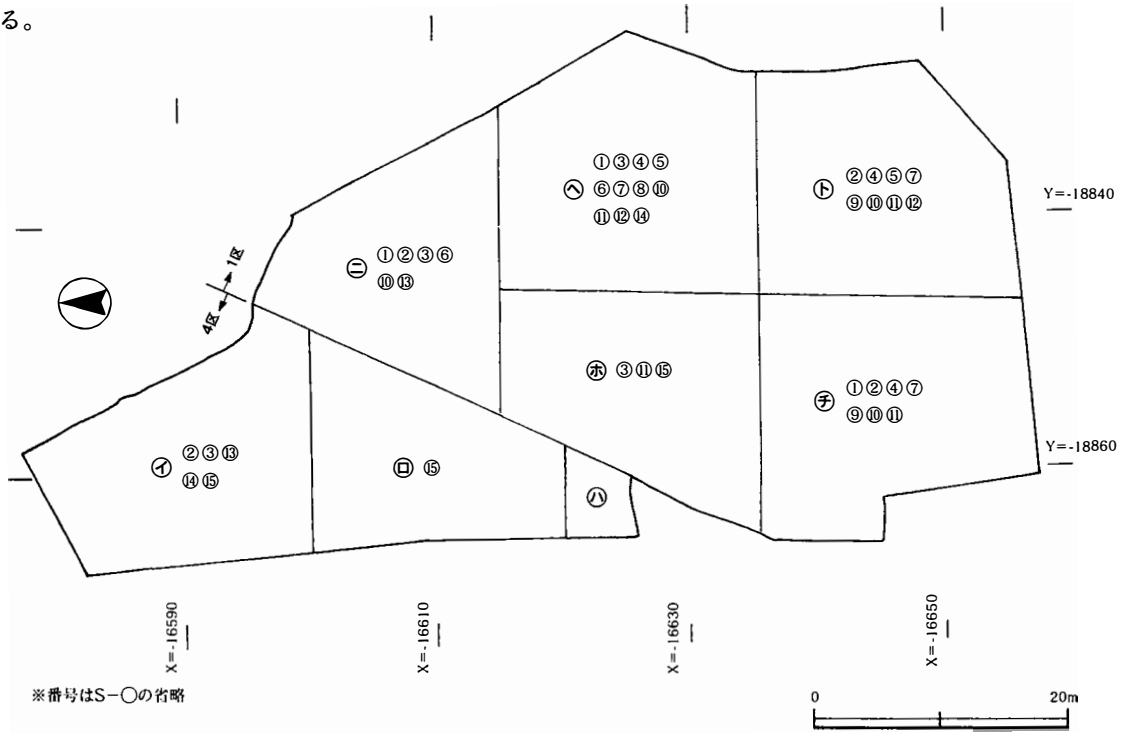


第Ⅲ - 744 图 2区遺物包含層・搅乱出土土製品実測图 (2/3)

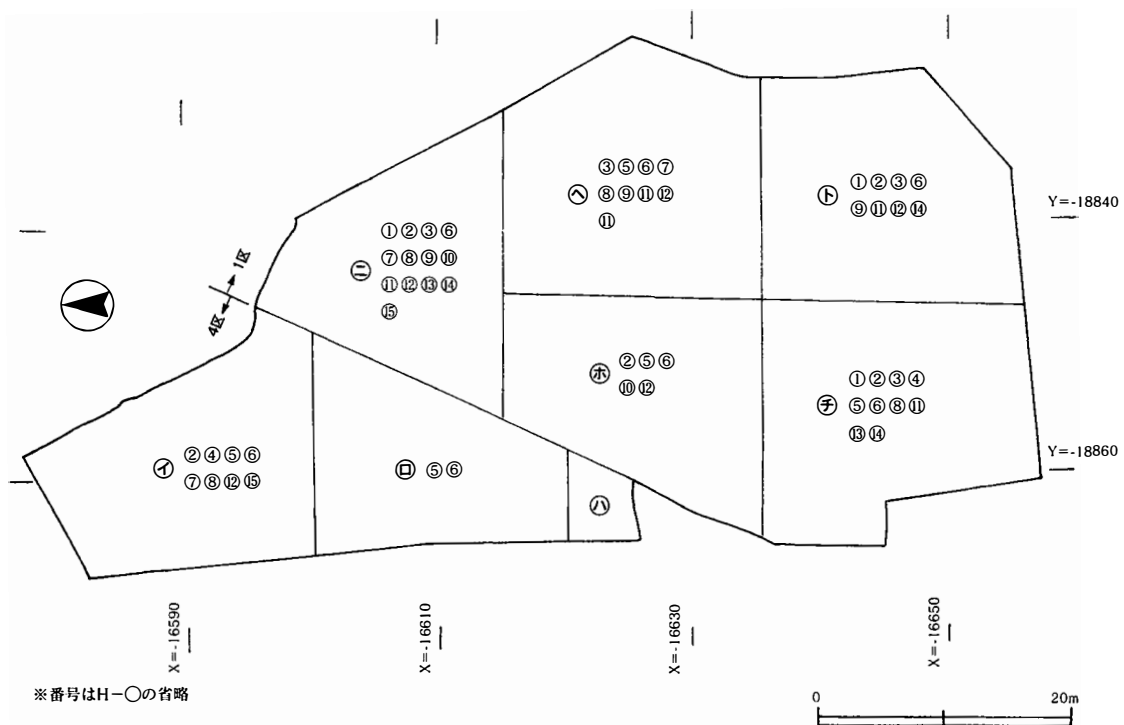
b. 攪乱出土遺物 (第Ⅲ -743・744 図)

① 須恵器

坏は、口径約13cm、深さ約3cm、底径約8cmのもの(第Ⅲ-743図1~3)が出土している。高さ約0.4cmの高台を持つ坏(第Ⅲ-743図5)も出土している。198SI・G6923の型式の他、短い高台を持つ須恵器坏(第Ⅲ-742図1)がある。他に甕(第Ⅲ-742図7の型式)、壺類(第Ⅲ-742図8・11の型式)が出土している。



第Ⅲ - 745 図 1・4区須恵器 (S) 出土分布図 (1/600)



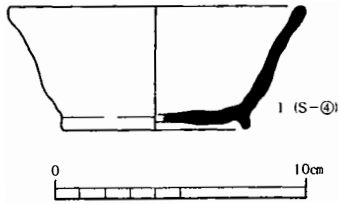
第Ⅲ - 746 図 1・4区土師器 (H) 出土分布図 (1/600)

② 土師器

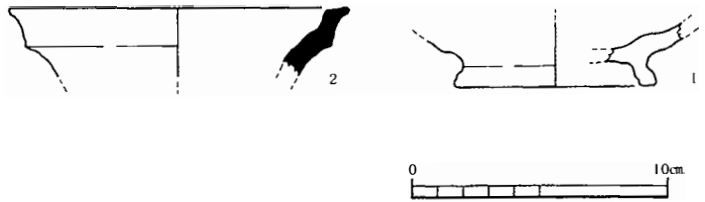
高台を持つ坏ないし、埴類も出土している。底径約7cmの小型の碗類は、高台の高さ0.3～1.0cmと3型式が出土している。また、底径約10・16cmの埴坏類（第Ⅲ-743図12・13）も存在し、法量では、3種類に区別できる。甕は、遺物包含層出土遺物と同様に口径約16cmのもの（第Ⅲ-743図14）と口径約26cmのもの（第Ⅲ-743図15）が出土している。

③ 土製品（第Ⅲ-744図、PL.37）

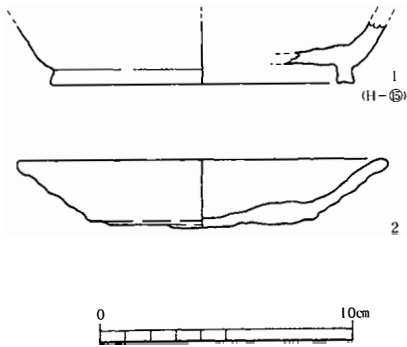
第Ⅲ-744図2は、紡錘車である。片面に暗文を施す。3は、全長約4.3cmの穿孔を持つ土製品である。土錘か縄文の管玉の可能性もある。



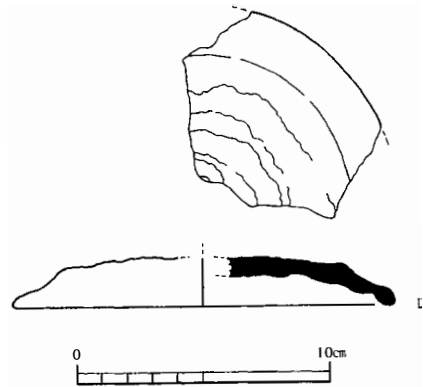
第Ⅲ-747図 4区口地区出土
須恵器実測図 (1/3)



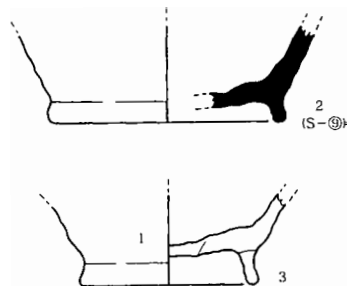
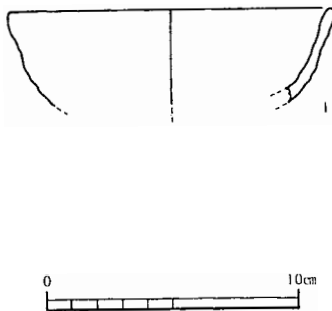
第Ⅲ-749図 1区二地区出土須恵器・土師器実測図
(1/3)



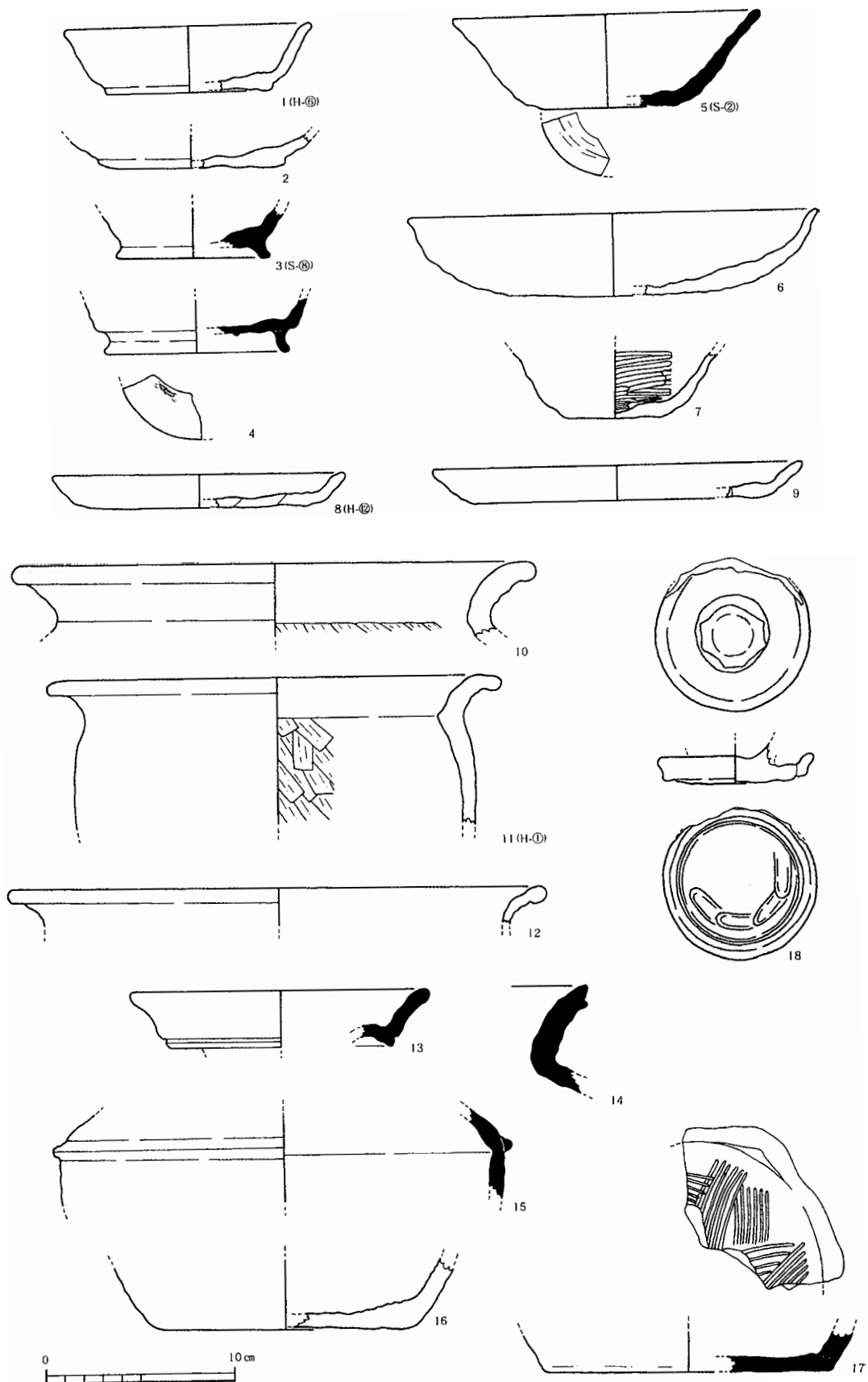
第Ⅲ-748図 4区八地区出土
土師器実測図 (1/3)



第Ⅲ-750図 1区へ地区出土須恵器
実測図 (1/3)

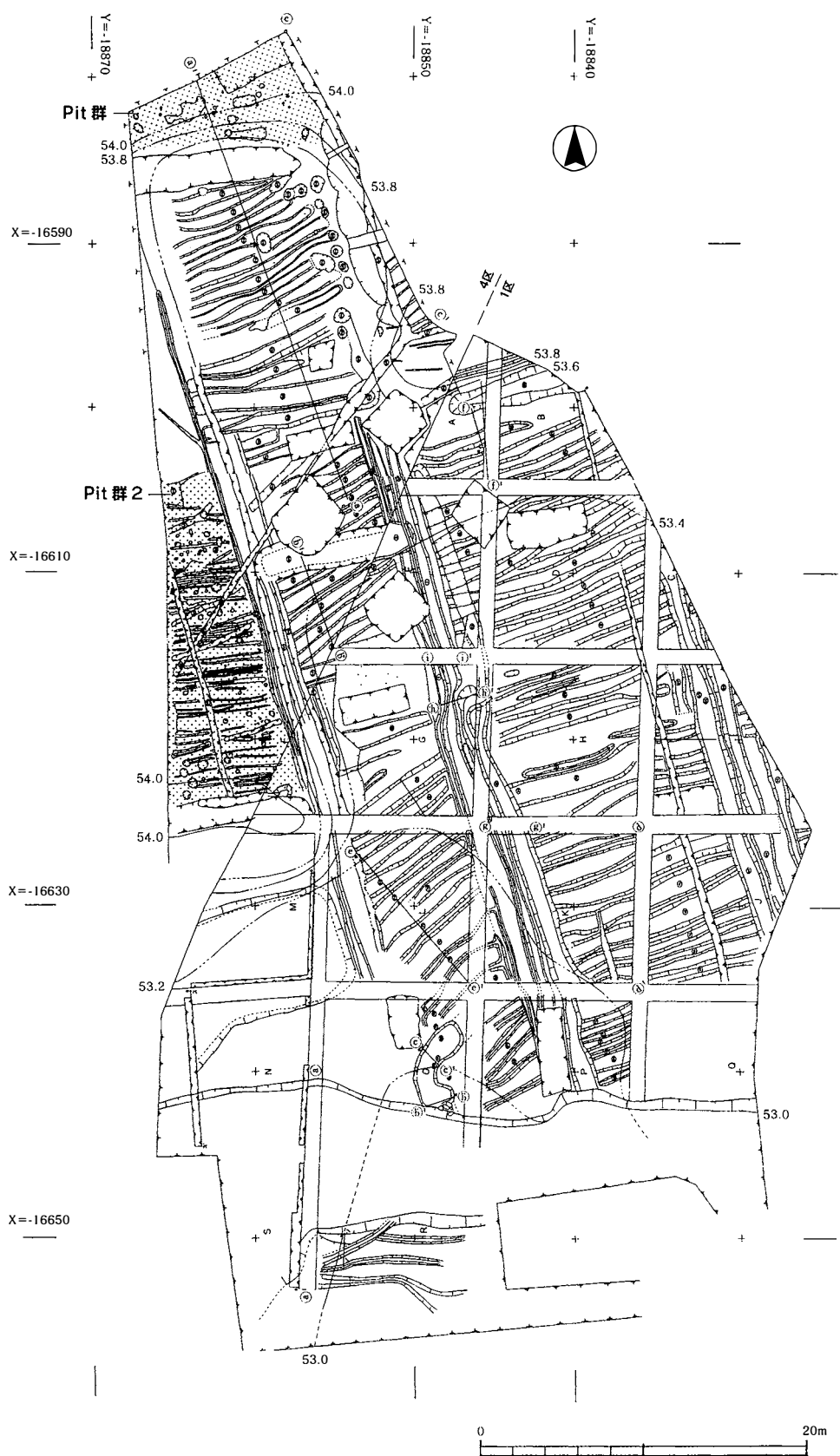


第Ⅲ-751図 1区子地区出土須恵器・土師器実測図 (1/3)

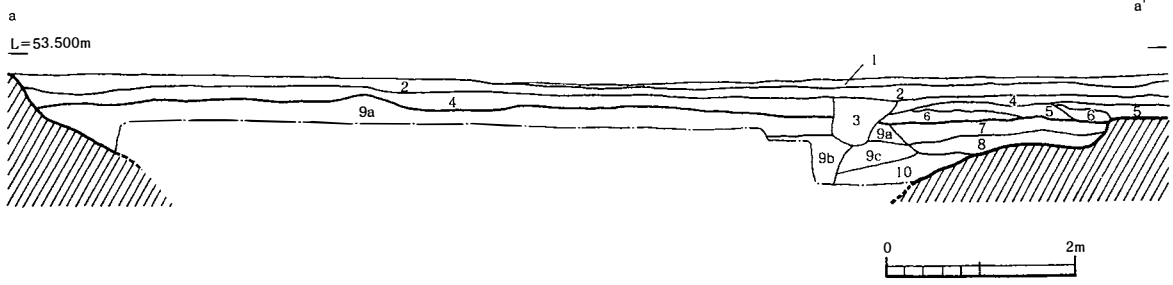


第Ⅲ - 752 图 1 区・4 区 用水路出土須恵器・土師器実測图 (1/3)

第5節 江戸時代以降



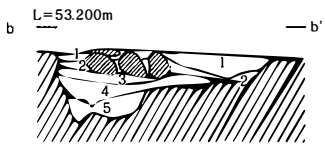
第III-753 図 1区・4区 遺構配置図 (1/400)



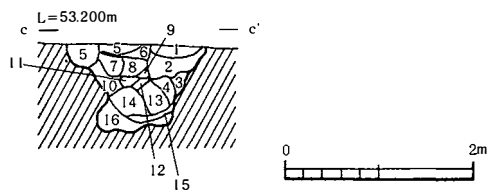
- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 明褐色砂質土 (粒子が細かい) 2. 暗褐色土 (砂質でしまりがある) 3. 攪乱排水路 4. 暗褐色土 (砂質でややしまりがあ。南へ行くにしたがい黄褐色土の) 5. 褐色土 (黄白色の砂質土の塊を多く含み、こぶし大の石、小石、砂を多く含む。) 6. 褐色土 (ややしまりがあ、⑤に比べやや暗い土色) | <ol style="list-style-type: none"> 7. 褐色土 (黄白色の砂質土の塊を含み、粘性のある暗褐色土を少量含む。) 8. 暗褐色土 (下層に黄褐色がブロック状に入り、カーボン焼土がまじる) 9a. 黄褐色 (砂質でキメが細かい。中世期頃の地山) 9b. 暗黄褐色土 (砂質で非常に硬い) 9c. 黄褐色土 (黄褐色土と暗褐色土が混じる) 10. 暗褐色土 (やや粘性があり、下層にいくにつれキメが細かい) |
|--|---|

混入がなくなる

第III - 754 図 1 区 自然流路断面図 (1/80)

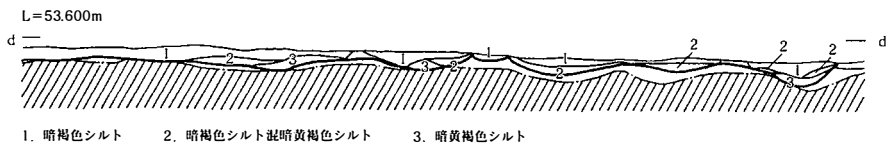


1. 黄褐色砂質土
2. 黒褐色粘質土
3. 黒色土が少量混入した黄褐色砂質土
4. 褐色砂質土が少量混入した灰黒色土
5. 灰褐色砂質土

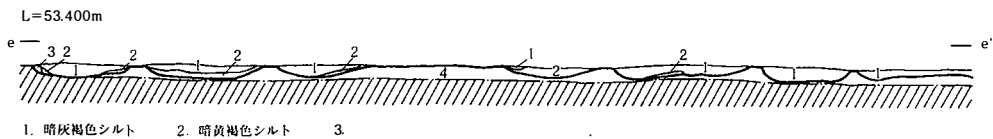


- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 黒褐色軟質土 2. 軟質の砂岩が混入した黒褐色土 3. 砂岩が混入した褐色土 4. 黒褐色砂質土 5. 灰黒色軟質土 6. 褐色土が少量混入した灰黒色土 7. 灰黒色砂質土 8. 灰褐色軟質土 | <ol style="list-style-type: none"> 9. 明褐色軟質土 10. 黄褐色軟質土 11. 灰黒色土 12. 黒褐色土 13. 灰褐色砂質土 14. 黒色粘質土 15. 黒色土がブロック状に混入した褐色砂質土 16. 灰褐色砂質土 |
|--|---|

第III - 755 図 1 区 排水路断面図 (1/80)



1. 暗褐色シルト
2. 暗褐色シルト混暗黄褐色シルト
3. 暗黄褐色シルト

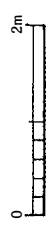
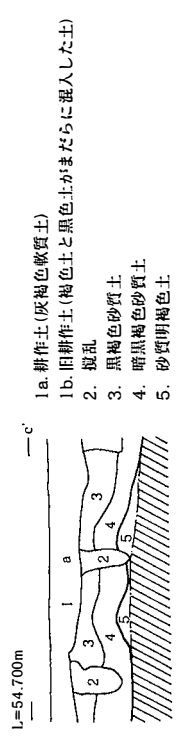
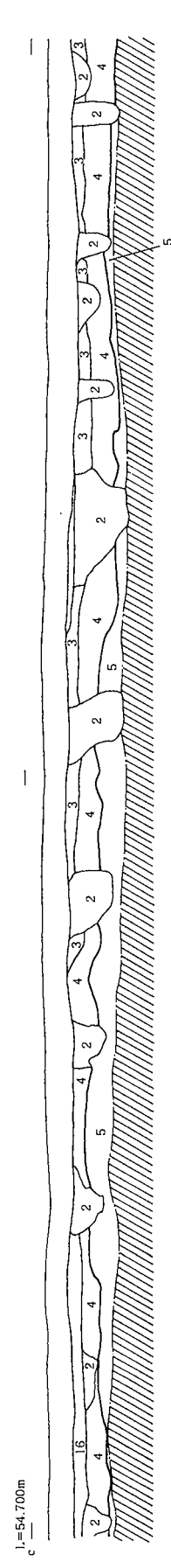
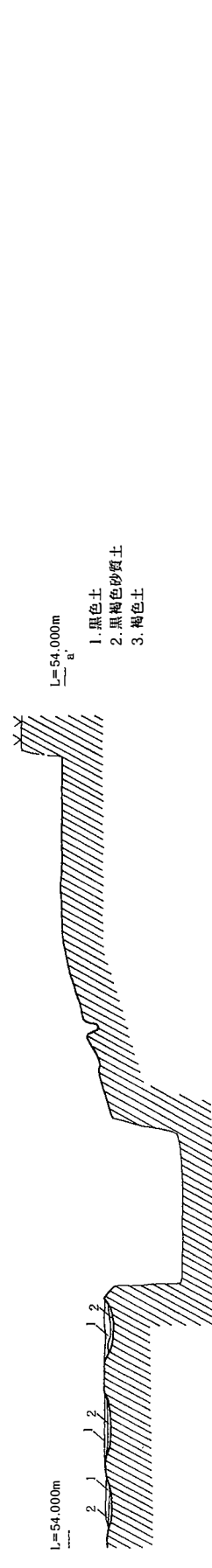
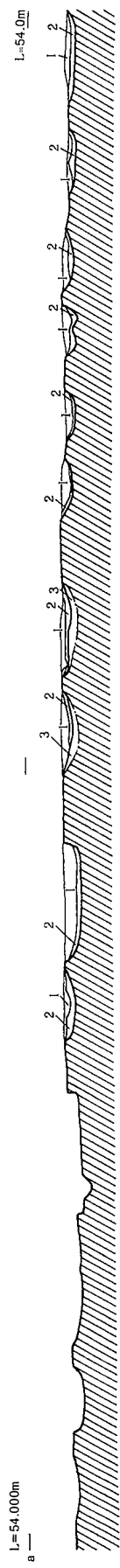


1. 暗灰褐色シルト
2. 暗黄褐色シルト
- 3.

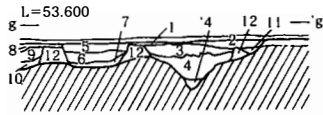


1. 黄褐色シルト混暗灰褐色シルト
2. 暗灰色点混黄褐色シルト
3. 暗灰色シルト・混暗黄褐色シルト

第III - 756 図 1 区 耕作溝断面図 1 (1/80)



第三-757 図 4区 耕作溝断面図・土層断面図 (1/80)



- | | |
|------------------|------------|
| 1. 黒褐色軟質土 | 5. 灰黒色軟質土 |
| 2. 褐色砂質土 | 6. 灰黒色砂質土 |
| 3. 褐色土ブロック混黒色軟質土 | 7. 黄褐色軟質土 |
| 4. 褐色土ブロック混黒色砂質土 | 8. 灰黒褐色砂質土 |
| | 9. 黒色砂質土 |
| | 10. 黄褐色砂質土 |
| | 11. 黒褐色砂質土 |
| | 12. 明褐色砂質土 |

(1) 調査の概要

1・4区では、耕作遺構を検出した。水路とそれにほぼ直交する耕作溝、そして南側には自然流路を検出した。出土遺物は、陶磁器、寛永通宝、キセルの口、青銅金具、青銅小刀等が出土している(PL.38)混
また、西側、イ・ロ地区西側には、耕作溝に重複して、^{褐色土点混}PL.38を
検出した。(第Ⅲ-753図)

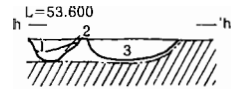
(2) 耕作遺構 (第Ⅲ-753~758図、PL.38)

位置 1・4区全面に耕作遺構を検出した。検出した標高は、53.2~54.0 mである。面的には3段にわたる。

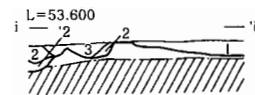
構造 N-15° -Eの振れで水路及び溝が3カ所3条ずつ伸びる。耕作溝は、それに直交もしくはやや振れる形で検出された。一部(ホ地区)耕作面を2面検出した。耕作溝の検出した深さは10~20cm、また、南側に幅8~10mの自然流路を検出した。蛇行はしているものの、ほぼ東西方向である。深さは、1.2m以上確認していない。

遺物出土状況 出土遺物は、弥生土器片の他、青磁碗片、陶磁器片を含む。(PL.38)唐津焼(二彩を含む)・内野山窯系が多く出土している。器種的には、壺・皿の他、土瓶類も出土している。

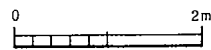
まとめ 17世紀~19世紀の遺物を含む。17世紀代の遺物は少量であるため、18世紀代後半以降を中心とする耕作遺構と推定される。



1. 暗灰色点混黄褐色シルト
2. 暗灰色シルト



1. 黄褐色シルト混暗褐色シルト
2. 暗灰色点混黄褐色シルト
- 2'. 黄褐色シルトブロック混暗灰色シルト
3. 暗灰色シルト



第Ⅲ-758図

1区耕作溝断面図2
(1/80)

第6節 確認調査 (第Ⅲ-759図)

以下に記述するものは、調査の経緯で触れたように1996年に調査中に土器棺が発見されたことを契機に確認調査された部分の報告である。調査区は6つに分かれており、位置関係は、第Ⅲ-759図である。調査区1・2・5・6は、基本的には、集落の範囲や土器棺や他の墓型式の広がりを確認するために設定したものであり、調査区3・4は、南北に建設された水路部分について設定されたものである。土器棺墓5基の他、木棺墓と推定できる形状のものや土坑を多数検出した。

(1) 調査区1 (第Ⅲ-760~763図、PL.17)

遺構面は削平を受けているが、土器棺を4基検出した。

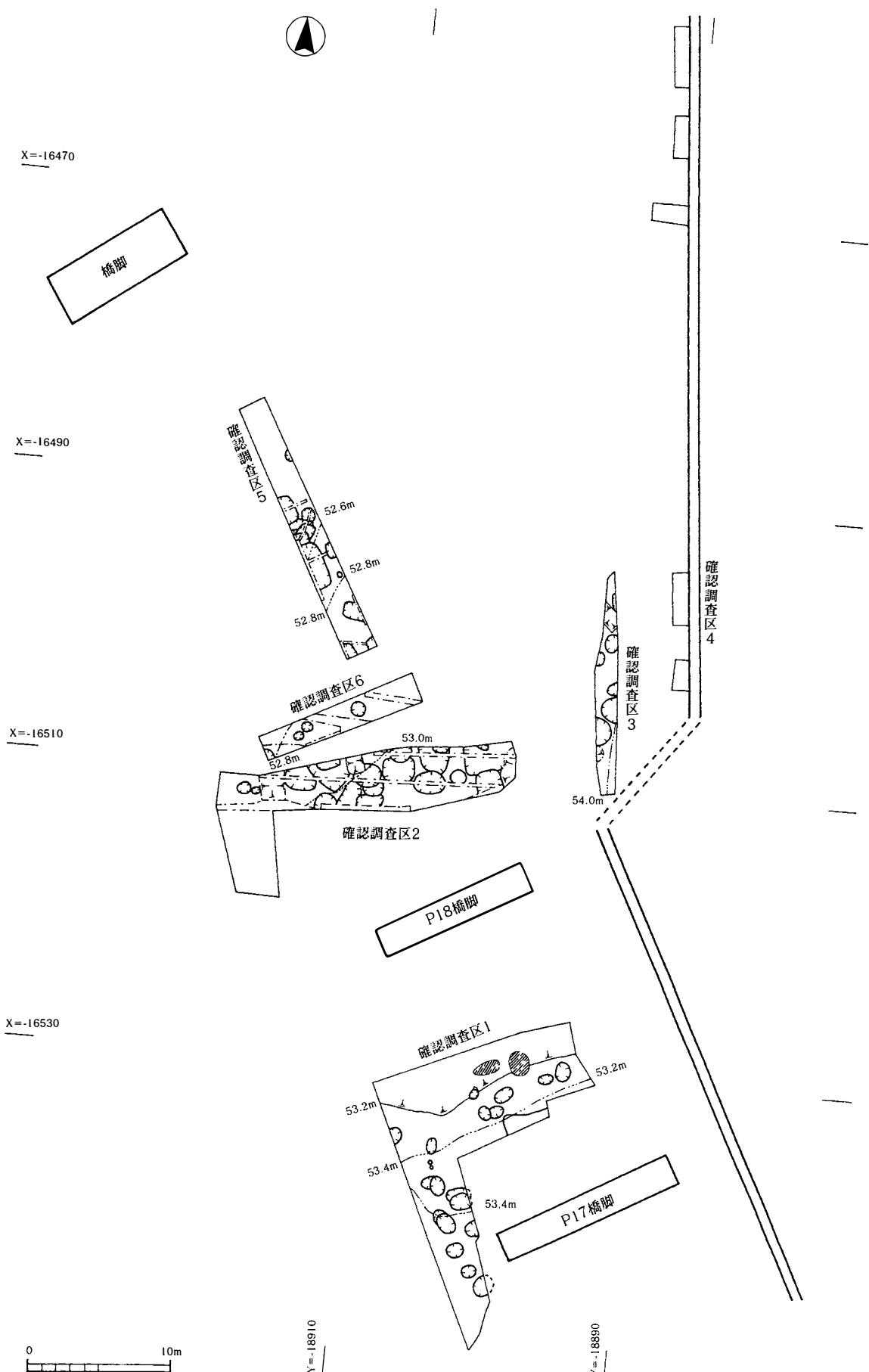
515SXは、中型の胴丸甕棺と称されるもので、口縁部方向は、ほぼ東向きで口径約35cm、器高約80cmある。正位置からの傾斜角度は、約53°である。掘り方は2段掘りと推定できる。一段掘りは、土器棺に直交する軸長は約1.2mで、並行する軸長は約70cmである。2段掘りの掘り方は長軸約1m、短軸0.85mを測る。

508SXは、削平された土坑の底部付近に土器がかろうじて据えられているような状況が検出でき、土器棺と推定できる。これについては、取り上げを行ったが土器型式は不明である。

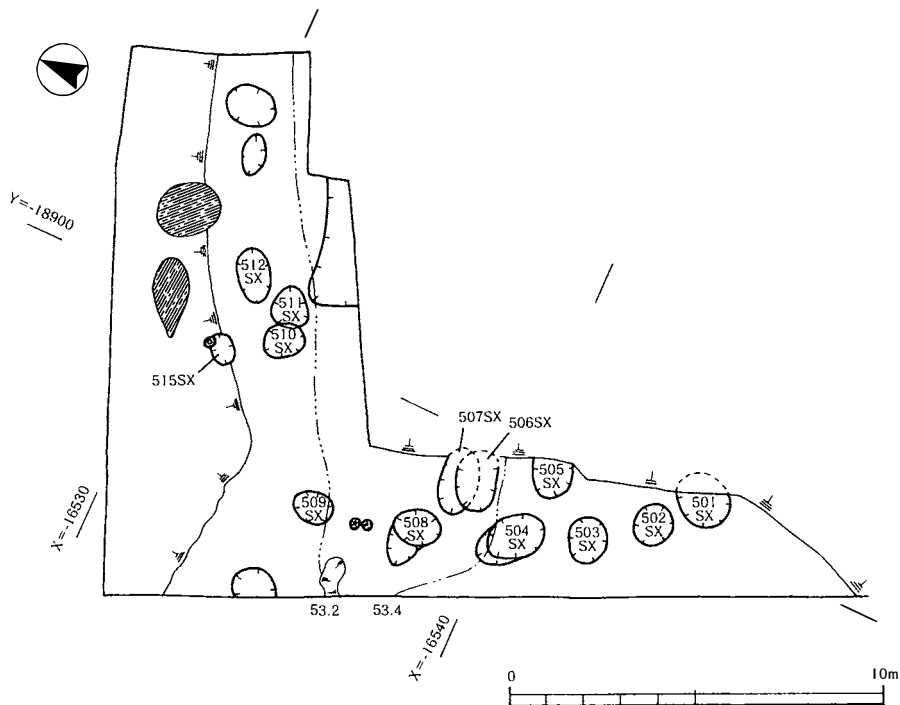
505SXは、土器の合わせ棺で、下が壺棺、蓋が鉢である。口径が約26cmである。

壺棺の最大胴部径は、約40cmである。口縁部方向は、おおよそ西向きと推定できる。

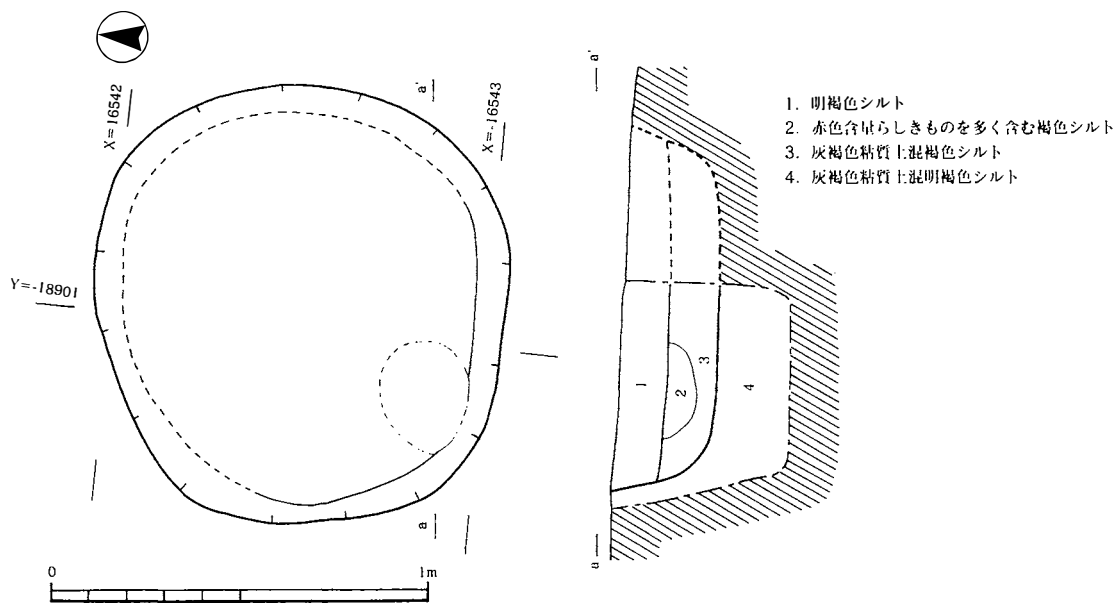
504SXは、掘り方の長軸が約1.65m、短軸が1.1mであり、2段掘りと推定できる。胴丸甕棺と推定できる。



第III-759図 確認調査 調査区 遺構配置図(1/400)



第Ⅲ-760図 確認調査 調査区1 平面図 (1/200)



第Ⅲ-761図 確認調査 調査区1 503SX 平面・断面図 (1/20)

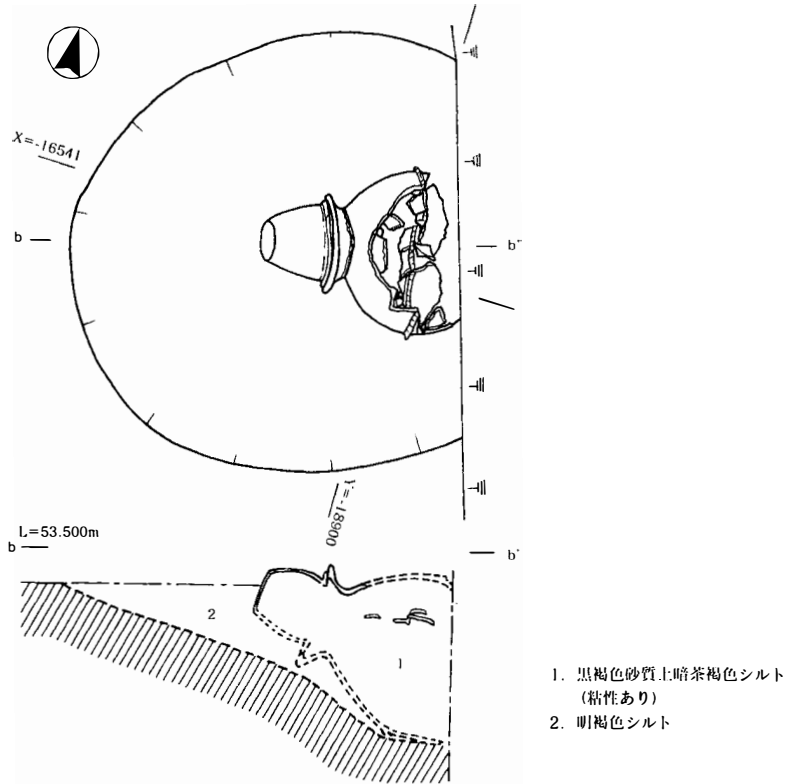
515SX 以外は、埋め戻して、現地保存を行っている。

他に、土坑を 14 基検出している。長軸約 1m ~ 1.5 m のもので、土坑墓の可能性もある。

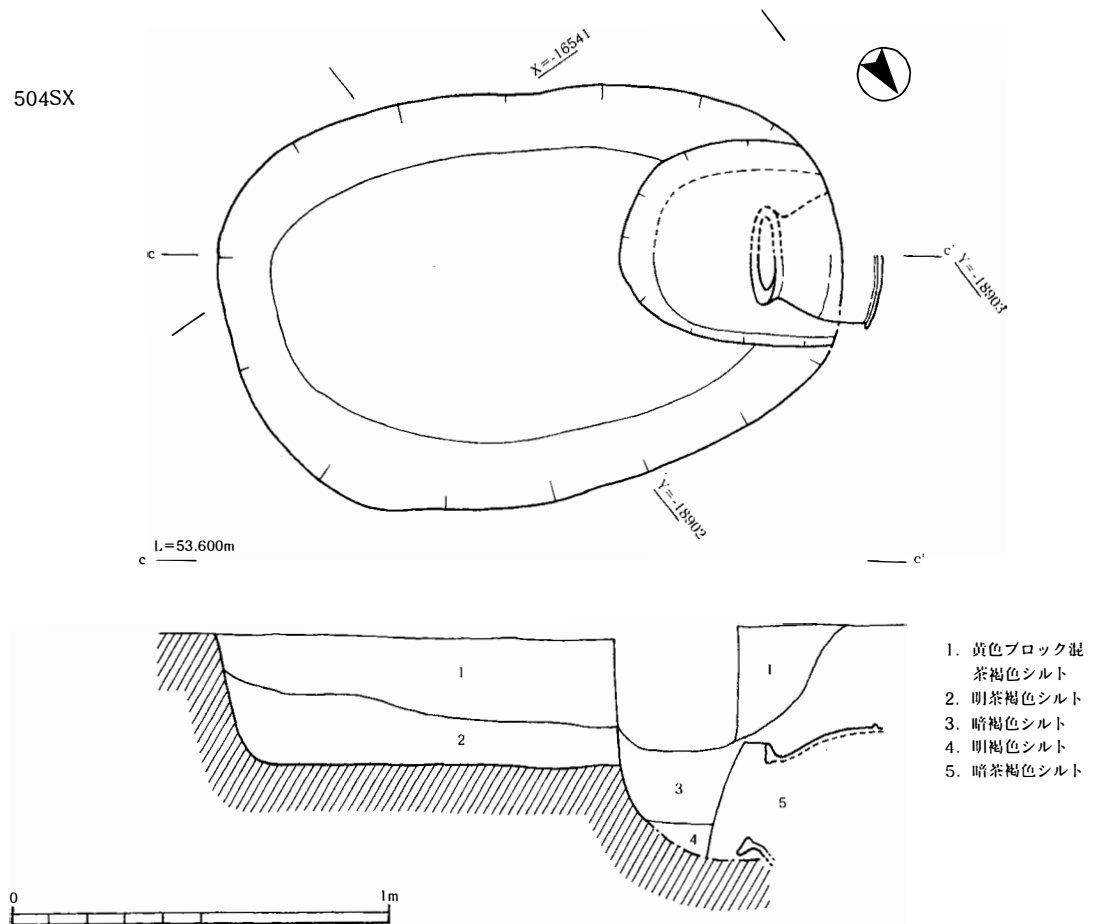
(2) 調査区2 (第Ⅲ-764・765図、PL.17)

遺構面は削平を受けているが、土坑状の遺構を 15 基検出した。調査区外に伸びるものが多く詳細な規模の不明だが、2 m 程のものが多い。527SX・529SX は、埋土断面の堆積状況から木棺墓である可能性が高い。突帯を持つ鑄造鉄斧の再利用鉄片 (第Ⅲ-765 図) が 1 点出土している。

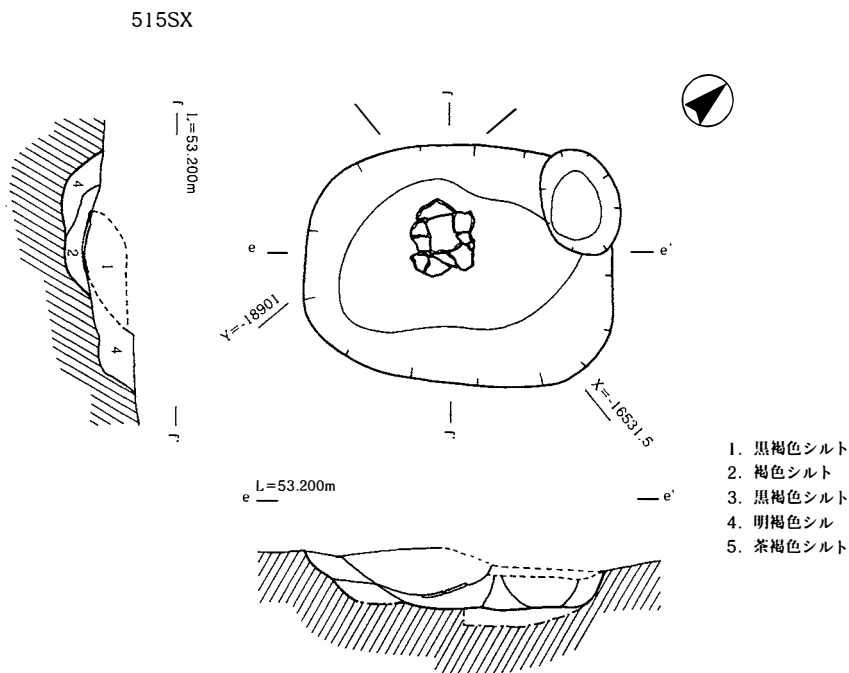
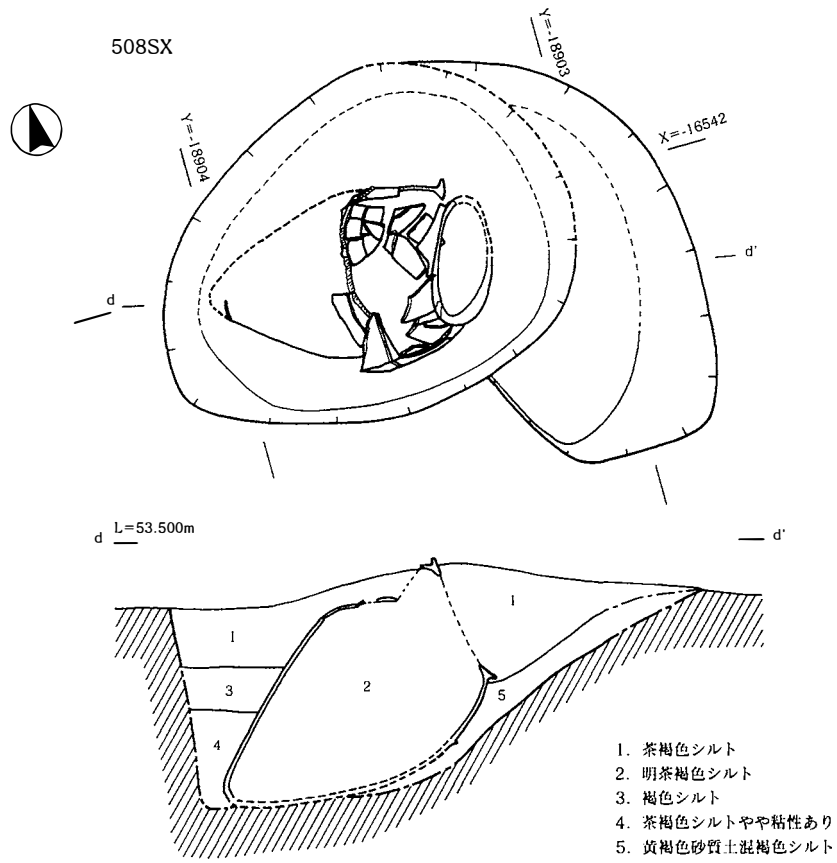
505SX



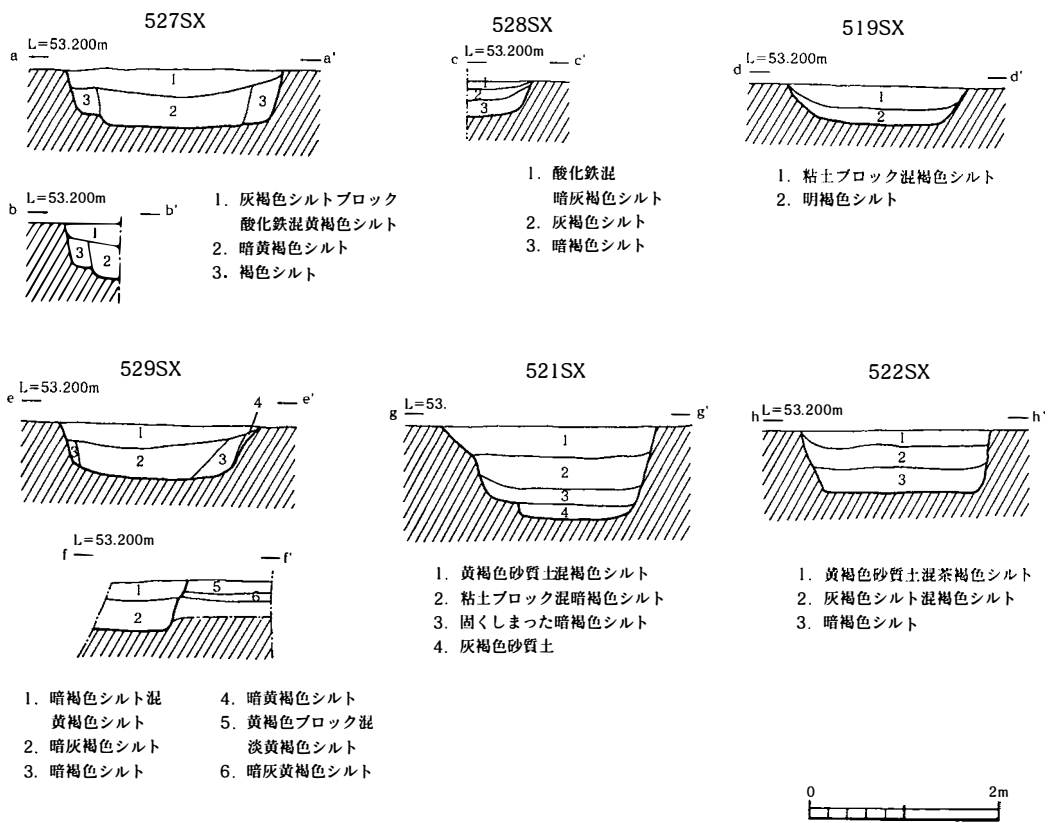
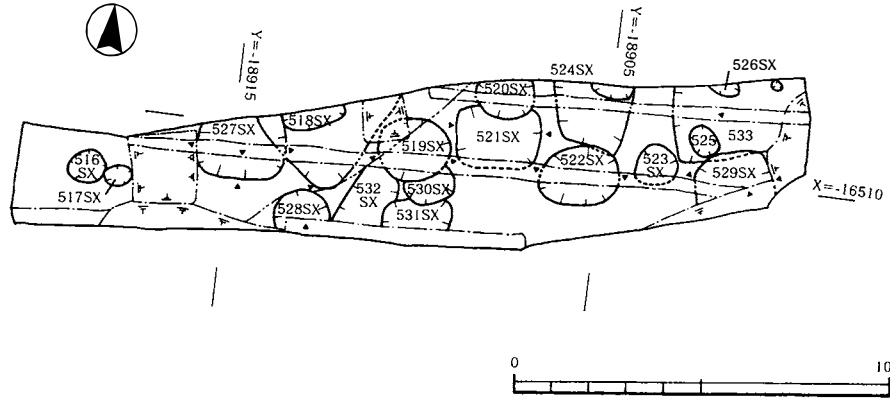
504SX



第III-762図 確認調査 調査区1 505SX. 504SX 平面・断面図 (1/20)

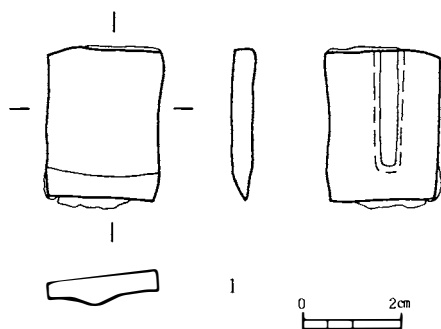


第III-763図 確認調査 調査区1 508SX, 515SX 平面・断面図 (1/20)



第Ⅲ-764 図 確認調査 調査区2 平面図 (1/200)

527SX. 528SX. 519SX. 529SX. 521SX. 522SX 断面図 (1/80)



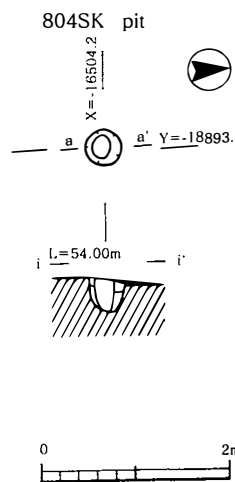
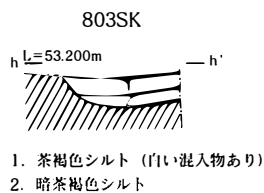
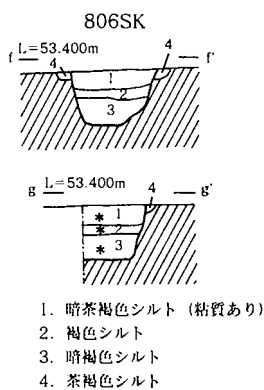
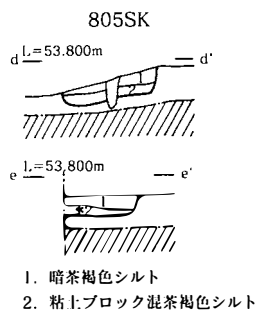
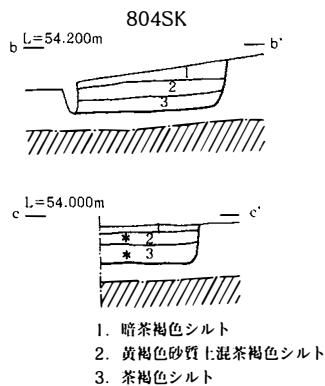
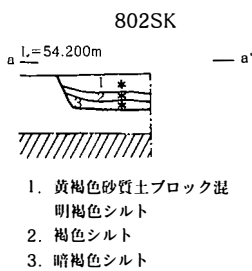
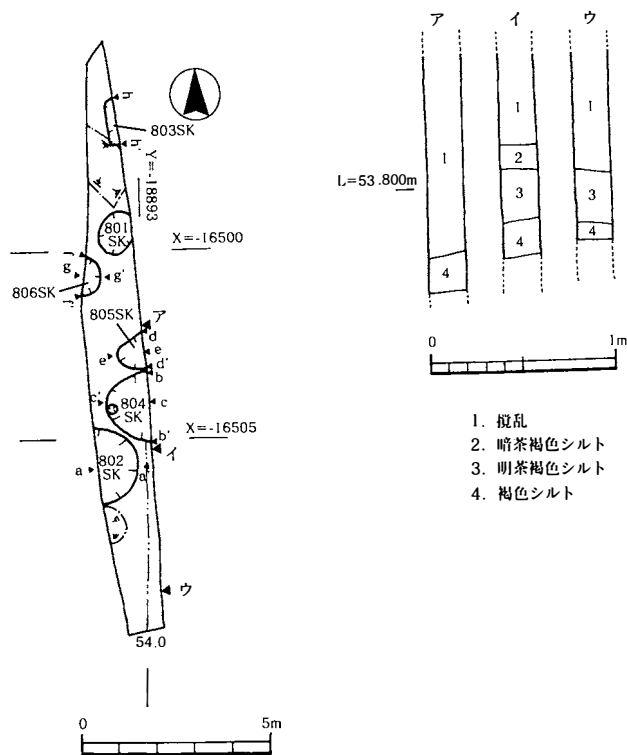
第Ⅲ-765 図 確認調査区2
出土鉄器実測図 (2/3)

(3) 調査区3 (第Ⅲ-766・767図)

遺構面は削平を受けているが、土坑を6基検出した。すべて調査区外に伸び、規模は不明である。検出した深さは、20~40cmのものが多い。806SKは、深さ約60cmでやや深い。

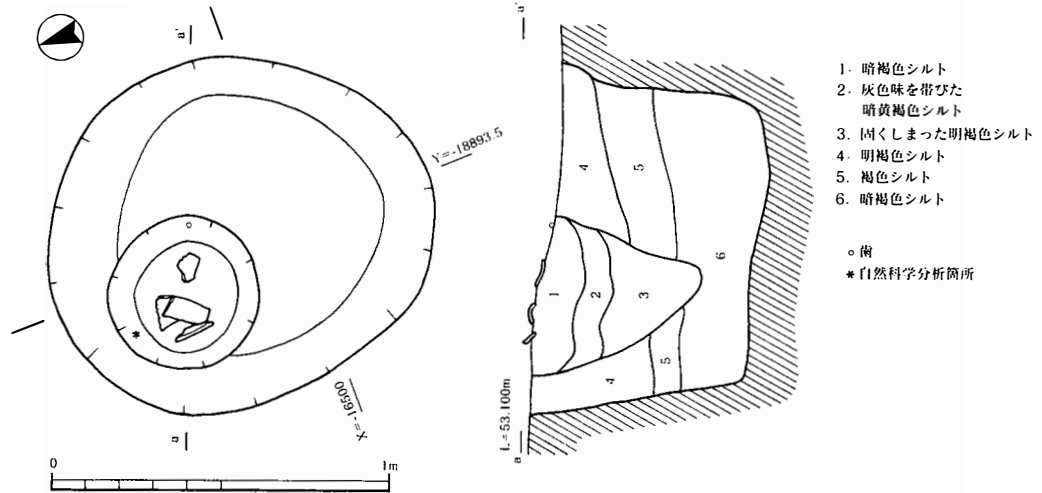
(4) 調査区4 (第Ⅲ-768図)

遺構面は削平を受けているが、土坑を3基検出した。そのうち1基は、埋土断面の堆積状況から木棺墓の可能性が高い。

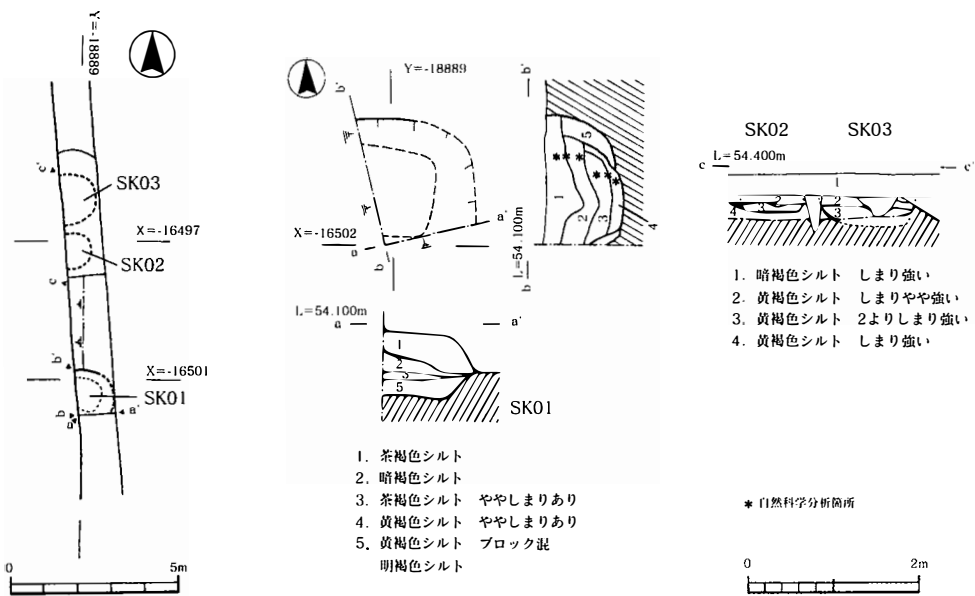


* 自然科学分析研究所

第III-766図 確認調査 調査区3 平面図 (1/200) 柱状土層断面図 (1/40)
802SK, 804SK, 805SK, 806SK, 803SK, 804SK, Pit 断面図 (1/80)



第III-767図 確認調査 調査区3 801SK平面・断面図



第III-768図 確認調査 調査区4 平面図 (1/200) SK01～03平面・断面図 (1/80)

(5) 調査区5 (第III-769図)

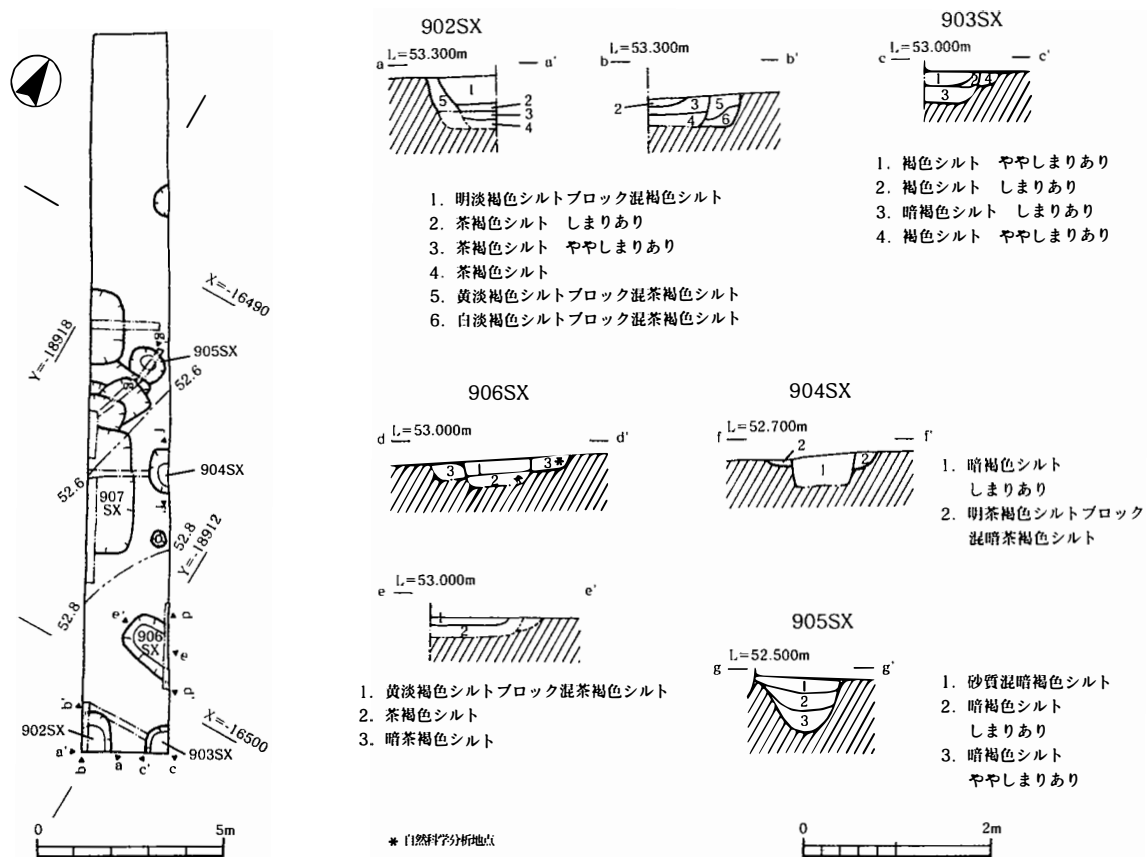
遺構面は削平を受けているが、土坑10基とPit(柱穴)を検出した。調査区外に伸びるものが多く、詳細な規模や形状は不明だが、902・906・904SXは、埋土断面の堆積状況から木棺墓の可能性が高い。

(6) 調査区6 (第III-770図)

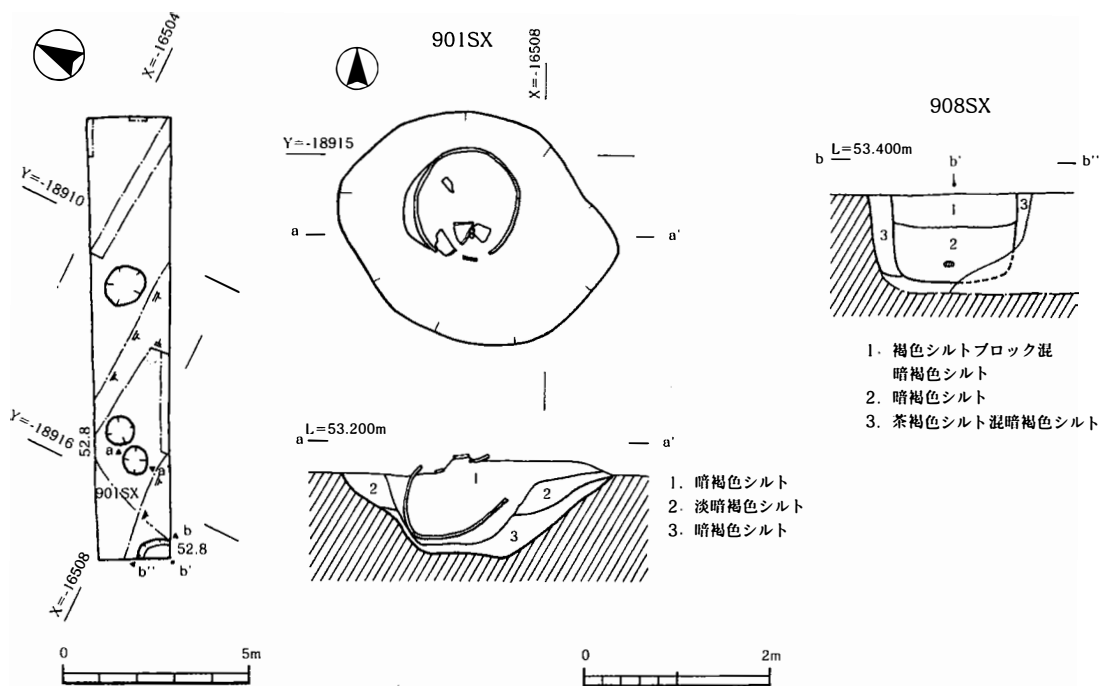
遺構面は削平を受けているが、土坑2基と土器棺(901SX)を1基検出した。壺棺もしくは、いわゆる胴丸甕棺の胴部下半を検出した。上部は削平されており不明である。口縁部方向は、ほぼ東向きである。

掘り方は長軸約1.5m、短軸1.2mを測る。

まとめ 確認調査により新たな墓域の広がりを確認できた。土器棺は、調査区1で3基、調査区6で1基出土している。土器棺墓群2箇所を検出できた。また、2・5・6区と4区の2カ所で木棺墓群らしい遺構を検出した。また、北側は後世の耕作によって遺構面が削平されており、北側の墓域等の広がりは検出不能であることが判明した。



第三 - 769 図 確認調査 調査区 5 平面図 (1/200)・902・903・906・904・905SX 断面図 (1/80)



第三 - 770 図 確認調査 調査区 6 平面図 (1/200) 901SX 平面・断面図 908SX 断面図 (1/80)

第Ⅳ章 自然科学分析

A 年代測定・樹種同定・種実同定・植物珪酸体・蛍光X線・リン、カルシウム分析

株式会社 古環境研究所

(1) 年代測定

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No.1	梅ノ木2区5964-c,122-SI(A)	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β線法
No.2	梅ノ木2区北側5964-a,1114SX	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β線法
No.3	梅ノ木2区6921-a,176-SI,1層	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β線法
No.4	梅ノ木2区6922-a,167-SX,1層	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β線法
No.5	梅ノ木2区5953-a,1075-SX(甕棺墓)	炭(No.19)	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS法
No.6	鹿埴瀬 8681-c,(お)03-SI	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β線法
No.7	鹿埴瀬 8681-c,(お)03-SI,3層	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, ベンゼン合成	β線法
No.8	鹿埴瀬4層	炭化物	酸洗浄, 石墨調整	AMS法

AMS法：加速器質量分析法

2. 測定結果

試料名	¹⁴ C年代 (年BP)	δ ¹³ C (‰)	補正 ¹⁴ C年代 (年BP)	暦年代(西暦)	測定No. (Beta-)
No.1	1980±50	-27.3	1950±50	交点：AD70 1σ：AD15～110	108000
No.2	1920±60	-28.0	1870±60	交点：AD135 1σ：AD85～235	117667
No.3	2010±60	-28.0	1970±60	交点：AD55 1σ：BC20～AD100	117668
No.4	2210±50	-28.7	2150±50	交点：BC180 1σ：BC330～330,BC205～100	117669
No.5	2190±50	-28.2	2140±50	交点：BC180 1σ：BC340～320,BC205～100	128855
No.6	1660±70	-25.9	1640±70	交点：AD420 1σ：AD370～530	117670
No.7	1860±60	-25.6	1850±60	交点：AD160 1σ：AD100～245	117671
No.8	2810±50	-21.9	2860±50	交点：BC1010 1σ：BC1105～BC940	128856

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (1950 年 AD) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

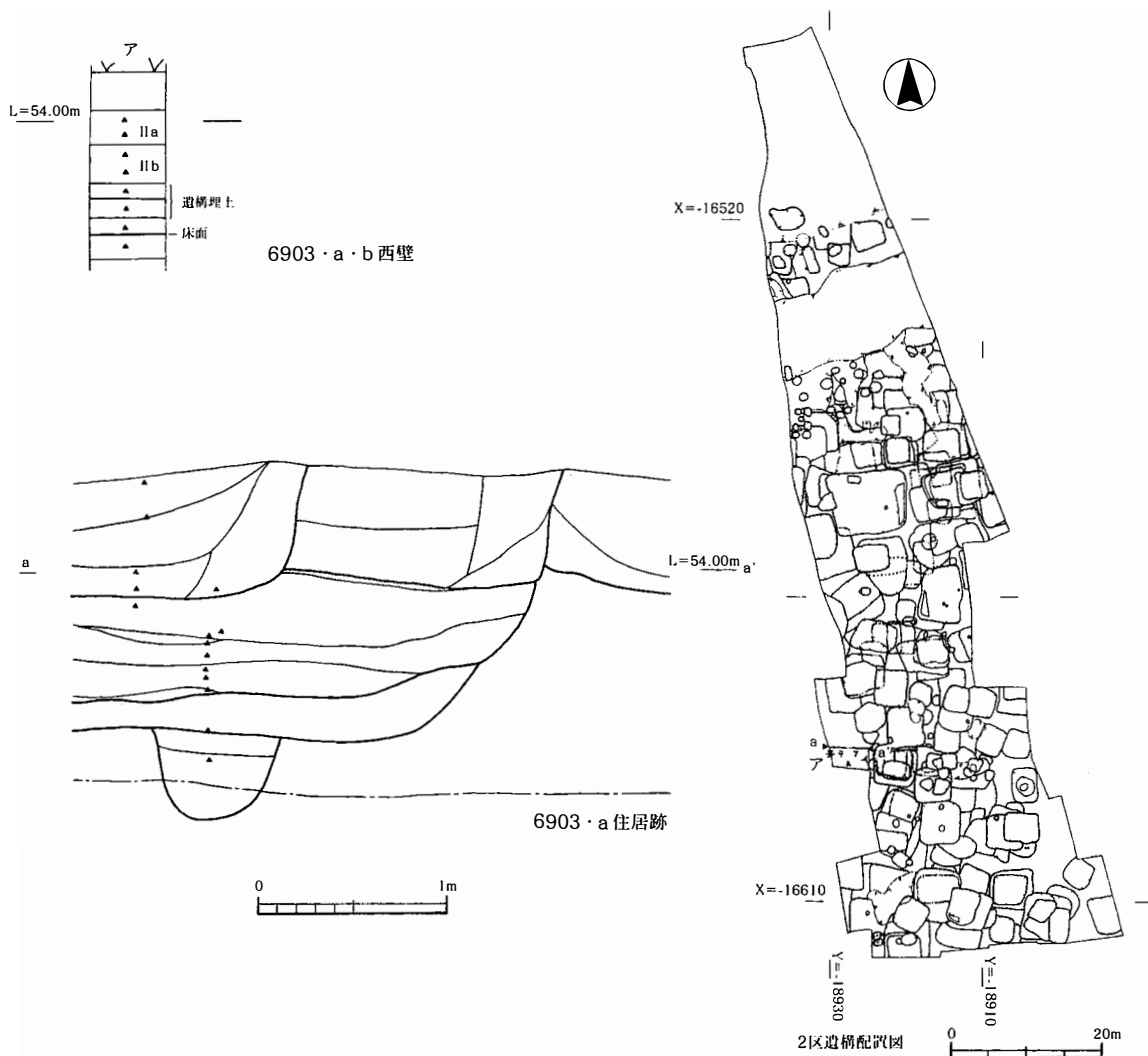
試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を較正することにより算出した年代 (西暦)。較正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。暦年代の交点とは補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1 σ 値が表記される場合もある。



第IV-1図 土壌分析資料

(2) 梅ノ木遺跡から出土した炭化材の樹種同定

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、分類群によって特徴ある組織をもっていることから、解剖学におおむね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、梅ノ木遺跡 2 区から出土した炭化材 26 点、183SI・炉内完形土器内容物①から検出された炭化物 2 点、鹿埴瀬遺跡から出土した炭化材 3 点の計 31 点である。表 1 に試料の詳細を示す。

3. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって 75 ～ 750 倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

結果を表 1 に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

a. クリ *Castanea crenata* Si

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する落葉の高木で、通常高さ 20m、径 40cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 30m、径 2m に達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

b. コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科

横断面：中型から大型の道管が、1 ～ 数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがある。本州、四国、九州に分布する常緑の高木で、通常高さ 15 ～ 20m、径 50 ～ 60 cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 25m、径 2.5m に達する。材は堅硬で強靱、弾力性強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

表 1 樹種同定結果一覧表

試料	地点	遺構・層位	樹種 (和名)	樹種 (学名)
梅ノ木遺跡2区				
①	5964-c	122-SI(A)	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
②	5973-b	122-SI(B)	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
③	5973-c	125-SI(B)	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
④	5974-a	122-SI(D)	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
⑤	5974-a	122-SI(D)	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
⑥	5974-b	122-SI(A)	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
⑦	5974-b	122-SI(D)	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
⑧	6922-a	183SI, 炉	環孔材	ring-porous wood
⑨	6910	186-SI(A)	広葉樹	broad-leaved tree
⑩	183SI・炉内完形土器内㊦炭化物No.1		カエデ属	<i>Acer</i>
⑪	183SI・炉内完形土器内㊦炭化物No.2		カエデ属	<i>Acer</i>
1	5993-c	289-SX, 甕棺内	ブナ科	Fagaceae
2	北側5954-c	1108-SX, 甕棺内	ブナ科	Fagaceae
3	北側5933-a	1146-SI, 炉	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
7	6922-a	167-SX(D), 1層	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
8	6921-a	176-SI(C), 1層	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
9	6911-d	177-SI(A), 1層	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
10	6912-d	1035-SI, 3層	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
15	5973-a	122-SI(B), 3a層	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
21	6902-a	1016-SX, 2層	コナラ属クヌギ節	<i>Quercus sect. Aegilops</i>
23	北側5964-a	1114-SX, No.2	ヤマグワ	<i>Morus australis</i> Poiret
26	北側5964-a	1114-SX, No.5	ヤマグワ	<i>Morus australis</i> Poiret
27	北側5964-a	1114-SX, No.6	ヤマグワ	<i>Morus australis</i> Poiret
28	北側5964-a	1114-SX, No.7	ヤマグワ	<i>Morus australis</i> Poiret
37	北側5963-a	1100SI内	コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>
40	北側5922-a	1170-SK No.1	広葉樹	broad-leaved tree
41	北側5962-c	1172-SI, 内炉	ヤマグワ	<i>Morus australis</i> Poiret
44	北側5962-c	1196-SI内炉, 1層	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i> Makino
鹿埴瀬遺跡				
1	8681-c	(お)03-SI, No.11	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
5	8681-c	(お)03-SI, No.16	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.
6	8681-c	(お)03-SI, No.17	クリ	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.

c. コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegil*

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものとして大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ 15m、径 60cm に達する。材は強靱で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

d. ブナ科 *Fagaceae*

横断面：部分的ではあるが、大型の道管が年輪界にそって存在するのが、確認できる。

放射断面：放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものとして大型の広放射組織が存在する。

以上の形質よりブナ科のコナラ属クヌギ節、コナラ属コナラ節のいずれかである。なお、本試料は小片であり広範囲の観察が困難なため、ブナ科の同定にとどめた。

e. ケヤキ *Zelkova serrata* Maki

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらんでいる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20～25m、径 60～70 cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 50m、径 3m に達する。材は強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

f. ヤマグワ *Morus australis*

横断面：年輪のはじめに中～大型の丸い道管が、単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は複合して円形の小塊をなす。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～3細胞ぐらいは直立細胞である。

接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～6細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する落葉の高木で、通常高さ 10～15m、径 30～40 cm に達する。材は堅硬、韌性に富み、建築などに用いられる。

g. カエデ属 *Acer* カエデ科

横断面：小型で丸い道管が、単独あるいは2～4個放射方向に複合して散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、内壁には螺旋肥厚が存在する。放射組織は、平伏細胞からなる同性である。

接線断面：放射組織は、同性放射組織型で1～5細胞幅である。

以上の形質よりカエデ属に同定される。カエデ属には、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ハウチワカエデ、テツカエデ、ウリカエデ、チドリノキなどがあるが、放射組織の形質からウリカエデ、チドリノキ以外のいずれかである。北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木または小高木で、大きいものは高さ 20m、径

1mに達する。材は耐朽性および保存性は中庸で、建築、家具、器具、楽器、合板、彫刻、薪炭など広く用いられる。

h. 環孔材 ri

横断面：年輪のはじめに道管が配列する。

放射断面：道管が存在する。

接線断面：放射組織が存在する。

以上の形質より環孔材に同定される。なお、本試料は焼け膨れなどによる変形が激しいため、環孔材の同定にとどめた。

i. 広葉

横断面：部分的ではあるが、小型の道管が存在する。

放射断面：道管が存在する。

接線断面：放射組織が存在することがかろうじて確認できた。

以上の形質より広葉樹（散孔材）に同定される。なお、本試料は非常に小片であり広範囲の観察が困難なため、広葉樹の同定にとどめた。

5. 所見

梅ノ木遺跡2区から出土した炭化材は、コナラ属クヌギ節およびヤマグワが多く、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属、ケヤキも見られた。コナラ属クヌギ節は温帯域の乾燥した台地上に多く生育する二次林性の樹種であり、ヤマグワは林縁および集落や農耕地周辺の溝沿いなどに分布している。また、完形土器内④の炭化物はカエデ属であった。鹿埴瀬遺跡から出土した炭化材は、いずれもクリであった。クリは暖温帯照葉樹林と冷温帯落葉広葉樹林の中間域におもに二次林として分布し、乾いた台地上にも生育する。

文献

佐伯浩・原田浩(1985)広葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, P.49-100.

梅ノ木遺跡出土炭化材の顕微鏡写真



横断面 ————— :0.4mm

1. ① コナラ属クスギ節



放射断面 ————— :0.2mm



接線断面 ————— :0.2mm

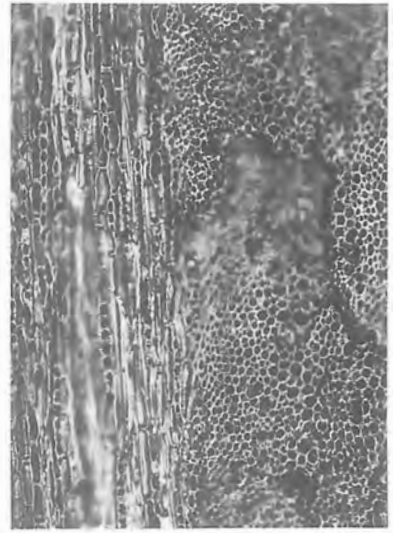


横断面 ————— :0.4mm

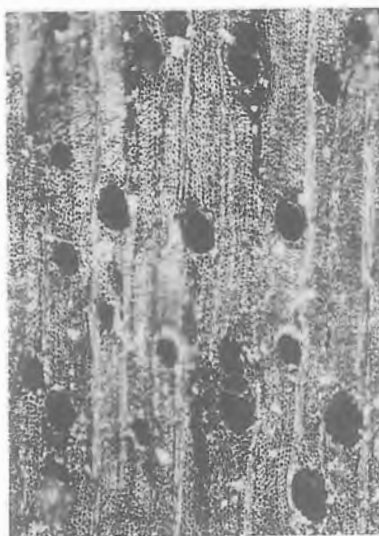
2. ② コナラ属クスギ節



放射断面 ————— :0.2mm

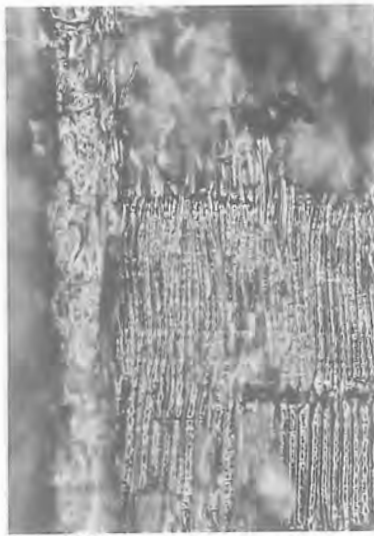


接線断面 ————— :0.2mm

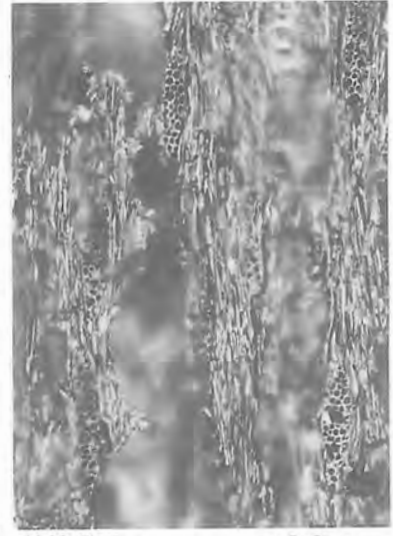


横断面 ————— :0.4mm

3. ⑩ カエテ属

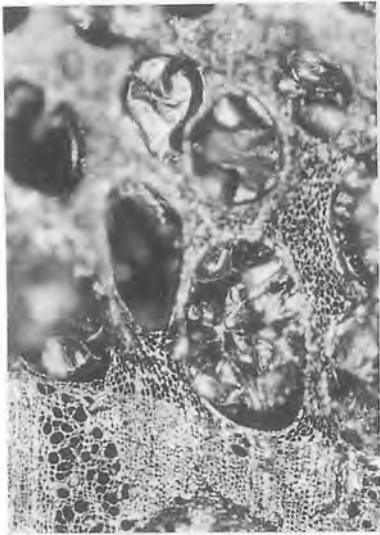


放射断面 ————— :0.2mm



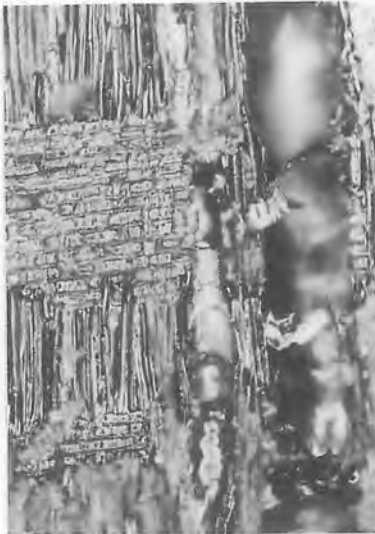
接線断面 ————— :0.2mm

梅ノ木遺跡出土炭化材の顕微鏡写真



横断面 :0.4mm

1. 鹿埴瀬遺跡 5 クリ



放射断面 :0.2mm



接線断面 :0.2mm

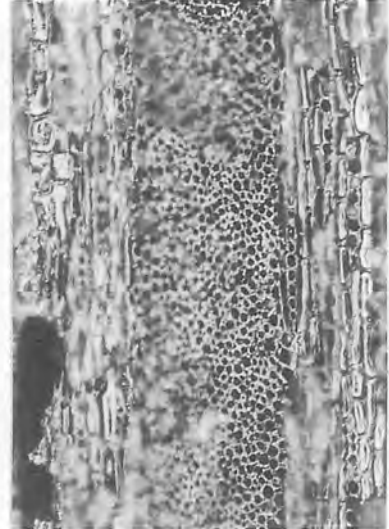


横断面 :0.4mm

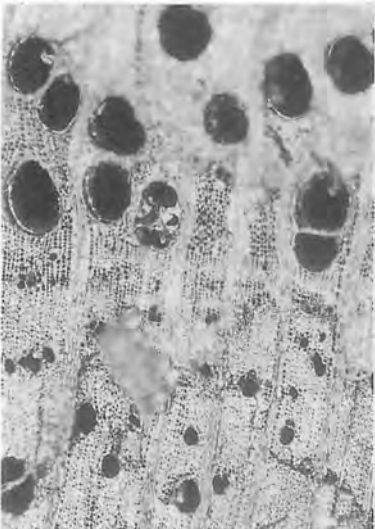
2. 梅ノ木遺跡 15 コナラ属クスギ節



放射断面 :0.2mm

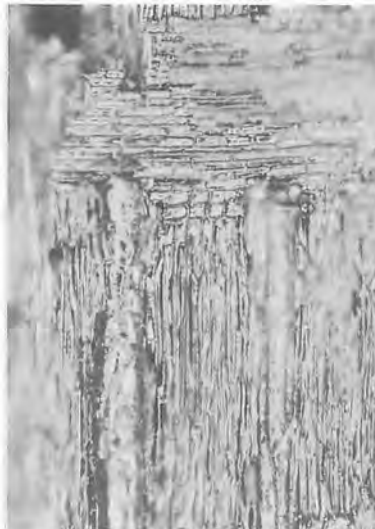


接線断面 :0.2mm

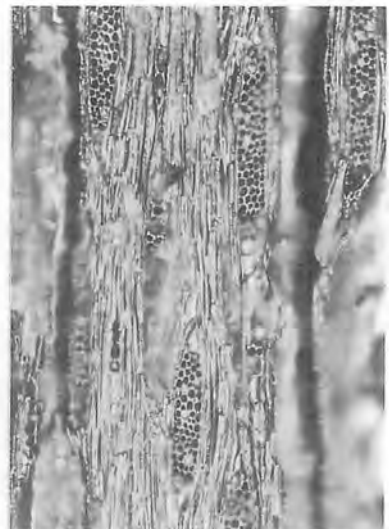


横断面 :0.4mm

3. 梅ノ木遺跡 27 ヤマグワ



放射断面 :0.2mm



接線断面 :0.2mm

(3) 梅ノ木遺跡における種実同定

1. 試料

試料は、2区6910-Cの186-SI(A)の2層(No.4)、183SI・炉内土器の内容物㊸、㊹、㊺の計4点である。

2. 方法

0.25mm目の篩で水洗選別し、肉眼ないし双眼実体顕微鏡下で観察した。同定は形態的特徴および現生標本との対比で行った。

3. 結果

186-SI(A)の2層(No.4)は、種実ではなく、土塊状のものであった。また、183SI・炉内土器の内容物㊸、㊹、㊺からは、種実は検出されなかった。なお、183SI・炉内土器の内容物㊸からは炭片が検出されたため、樹種同定を行った(第(2)参照)。

(4) 梅ノ木遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)とも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山, 1987)。

2. 試料

試料は、2区6903-a・b西壁・6903-a住居跡(第IV-1図)、183-SI、216-SIの遺構覆土や床面などから採取された計23点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10⁻⁵g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94、ヒエ属(ヒエ)は8.40、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。

4. 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および第IV-2～5図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、ヒエ属型、エノコログサ属型、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族、ウシクサ族（大型）

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、はめ絵パズル状（ブナ科ブナ属など）、その他

5. イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネ、ヒエ属型、エノコログサ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

(1) イネ

イネは、6903-a・b西壁の灰色シルト層（試料4、5）、褐色シルト層（試料6）、暗褐色シルト層（平安時代、試料7、8）、褐色シルト層（弥生時代中～後期、試料9）の各層、および183-SI住居跡の覆土（試料6、9）から検出された。このうち、6903-a・b西壁の暗褐色シルト層下部（平安時代、試料8）では、密度が4,400個/gと比較的高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている3,000個/gを上回っている。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の試料では密度が600～2,600個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

(2) ヒエ属型

ヒエ属型は、6903-a・b西壁の褐色シルト層（弥生時代中～後期、試料9）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか、1988）。また、密度も800個/gと低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

(3) エノコログサ属型

エノコログサ属型は、6903-a・b西壁の灰色シルト層（試料4）、暗褐色シルト層（平安時代、試料7、8）、褐色シルト層（弥生時代中～後期、試料9）から検出された。エノコログサ属型には栽培種のアワの他にエノコログサなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか、1988）。また、密度も700～1,500個/gと低い値であることから、ここでアワが栽培されていた可能性は考えられるものの、エノコログサなどの野・雑草である可能性も否定できない。

(4) その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したのも含まれており、ウシクサ族 B (大型) の中にはサトウキビ属に近似したものが含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畠作物は分析の対象外となっている。

6. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

(1) 植物珪酸体の検出状況

1) 6903-a・b 西壁 (第Ⅳ-1・2 図)

下位より褐色シルト層 (弥生時代中～後期、試料 9)、暗褐色シルト層 (平安時代、試料 7、8)、褐色シルト層 (試料 6)、灰色シルト層 (試料 4、5) の各層について分析を行った。その結果、最下位の褐色シルト層 (試料 9) では棒状珪酸体が多量に検出され、ススキ属型やウシクサ族、クマザサ属型も比較的多く検出された。また、イネ、ヒエ属型、エノコログサ属型、キビ族型、メダケ節型なども少量検出された。暗褐色シルト層 (試料 7、8) およびその上層 (試料 4～6) でもおおむね同様の結果であり、クスノキ科やイスノキ属などの樹木も部分的に少量検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉樹では形成されないものも多い。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねススキ属型が優勢であることが分かる。

2) 6903-a 住居跡 (第Ⅳ-1・3 図)

累積した住居跡の覆土について分析を行った。その結果、下位の住居跡 (弥生時代中～後期?) の覆土 (試料 9～15) では棒状珪酸体が多量に検出され、ウシクサ族やクマザサ属型も比較的多く検出された。また、キビ族型やススキ属型、メダケ節型、ミヤコザサ節型なども少量検出され、クスノキ科やイスノキ属、シイ属などの樹木も部分的に少量検出された。上位の住居跡 (平安時代?) の覆土 (試料 1～4) でもおおむね同様の結果であり、ススキ属型や棒状珪酸体が増加している。住居跡の床面とその他の試料では、植物珪酸体の組成や量とくに大きな差異は認められなかった。おもな分類群の推定生産量によると、下位の住居の覆土ではクマザサ属型、上位の住居の覆土ではススキ属型が優勢であることが分かる。

3) 183-SI (第Ⅳ-4 図)

住居跡の覆土 (試料 6～10) について分析を行った。その結果、ススキ属型や棒状珪酸体が多量に検出され、イネやウシクサ族、クマザサ属型なども少量検出された。おもな分類群の推定生産量によると、ススキ属型が優勢であることが分かる。

4) 216-SI (第Ⅳ-5 図)

住居跡床面の焼土 (試料 1～3) および比較試料 (試料 4) について分析を行った。その結果、各試料とも棒状珪酸体が多量に検出され、ススキ属型やウシクサ族、クマザサ属型なども検出された。焼土と比較試料では、植物珪酸体の組成や量とくに大きな差異は認められなかった。

(2) 植生と環境の推定

弥生時代中～後期から平安時代にかけては、ススキ属やチガヤ属、およびクマザサ属 (ササ類) などが生育する草原的な環境であったと考えられ、遺跡周辺にはクスノキ科やイスノキ属などの樹木が分布していたと推定される。

7. まとめ

植物珪酸体分析の結果、弥生時代中～後期から平安時代の土層や住居跡の覆土からイネが検出され、調査地点もしくはその周辺で稲作が行われていた可能性が認められた。また、部分的にヒエ属（ヒエが含まれる）やエノコログサ属（アワが含まれる）が栽培されていた可能性も認められた。

当時の調査区周辺は、ススキ属やチガヤ属、およびクマザサ属（ササ類）などが生育する草原的な環境であったと考えられ、遺跡周辺にはクスノキ科やイスノキ属などの樹木が分布していたと推定される。

文献

杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号, p.27-37.

杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—. 考古学と自然科学, 20, p.81-92.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

表2 熊本県、梅ノ木遺跡における植物珪酸体分析結果

分類群 \ 試料	183-S1			216-S1				2区6903-a-b西壁					2区6903-a住居跡											
	6	9	11	焼1	焼2	焼3	外1	4	5	6	7	8	9	1	2	4	5	7	9	10	13	14	15	
イネ科																								
イネ	18	6						26	14	14	7	44	23											
ヒエ属型													8											
エノコログサ属型								13			7	7	15											
キビ族型	12		15	7			7	26	14	7	45	22	23			14	8	15	7		7	7		
ヨシ属			8	7		6		7						7						8		7		
ススキ属型	109	268	120	29	70	31	37	25	80	87	96	111	60	73	150	78	83	110	44	30	21	22	15	
ウシクサ族	55	37	30	44	14	38	75	72	94	123	104	118	150	161	172	134	114	110	109	76	62	102	88	
ウシクサ族(大型)														7	7			7					7	
タケ亜科																								
メダケ節型						25	7		7				30	7	7	8	7			8	7	7		
ネザサ節型		6		7		15		7	7					7		15			7					
クマザサ属型	18	12	45	22	77	44	82	59	65	43	45	89	90	95	97	78	68	132	73	151	76	102	103	
ミヤコザサ節型				7	14									7	15	21	8	22			30	48	15	7
未分類等	6	12		7	7	19	75	26	123	130	148	126	203	256	411	64	15	95	73	121	48	59	44	
その他のイネ科																								
表皮毛起源	24	6			14	6	30	13	22	36	15	37	8	29	7	21	15	15	22	15	7	15	7	
棒状珪酸体	152	116	75	155	161	194	343	398	528	686	757	762	691	854	942	628	492	666	509	484	373	337	309	
茎部起源									7	22			8					7						
未分類等	303	177	173	309	335	388	492	450	543	578	616	562	503	613	568	445	477	534	480	568	435	446	376	
樹木起源																								
ブナ科(シイ属)																								
クスノキ科								7		7	7	7												
マンサク科(イスノキ属)										7	22													
はめ絵バスル状(ブナ属など)			8																		8		7	
その他													8											
植物珪酸体総数	697	640	474	596	692	752	1171	1129	1506	1719	1907	1885	1817	2103	2393	1489	1310	1727	1338	1498	1092	1141	950	
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² -cm)																								
イネ	0.53	0.18						0.77	0.43	0.42	0.22	1.30	0.66											
ヒエ属型													0.63											
ヨシ属			0.47	0.46		0.40		0.41			0.47			0.46							0.48		0.46	
ススキ属型	1.35	3.32	1.49	0.37	0.87	0.39	0.46	0.32	0.99	1.07	1.20	1.38	0.74	0.91	1.85	0.96	1.03	1.36	0.54	0.38	0.26	0.27	0.18	
メダケ節型						0.29	0.09			0.08			0.35		0.09	0.08	0.09	0.08			0.09	0.08	0.08	
ネザサ節型		0.03		0.04		0.07		0.03	0.03		0.04				0.04		0.07				0.03		0.04	
クマザサ属型	0.14	0.09	0.34	0.17	0.58	0.33	0.62	0.44	0.49	0.33	0.33	0.67	0.68	0.71	0.73	0.58	0.51	0.99	0.55	1.14	0.57	0.77	0.77	
ミヤコザサ節型				0.02	0.04									0.02	0.04	0.06	0.02	0.07			0.09	0.15	0.04	0.02
タケ亜科の比率 (%)																								
メダケ節型						47	11		14				34											
ネザサ節型		24		16			9	7	6		10				4		10			6		4		
ミヤコザサ節型				10	7									3	5	9	3	6			7	18	5	3
クマザサ属型	100	76	100	74	93	53	80	93	80	100	90	100	66	97	81	80	74	87	94	86	72	82	97	



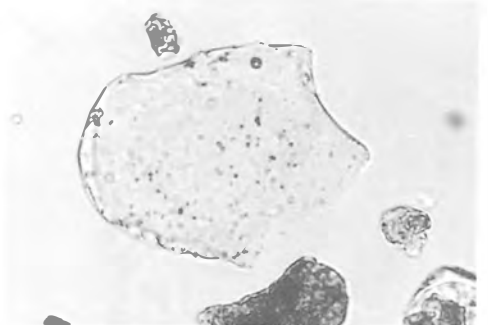
1 イネ 6903a・b 9



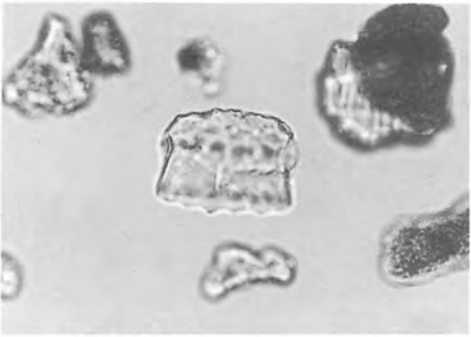
6 キビ属型 6903a・b 7



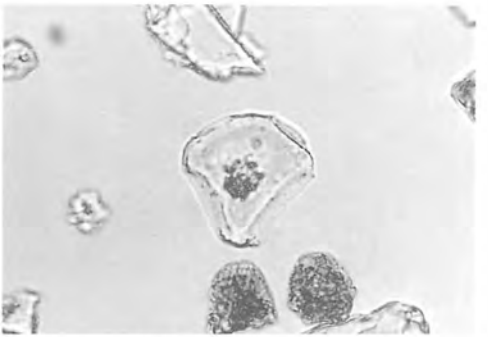
2 イネ 183SI 6



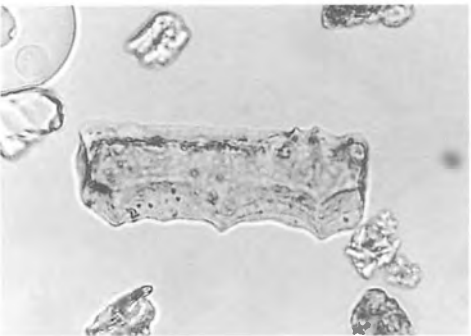
7 ヨシ属 183SI 11



3 イネ (側面) 6903a・b 8



8 ススキ属型 183SI 11



4 ヒエ属型 6903a・b 9

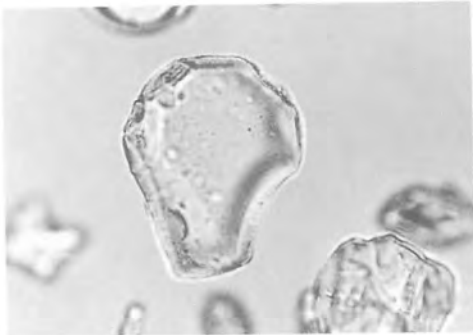


9 ススキ属型 6903a・b 6

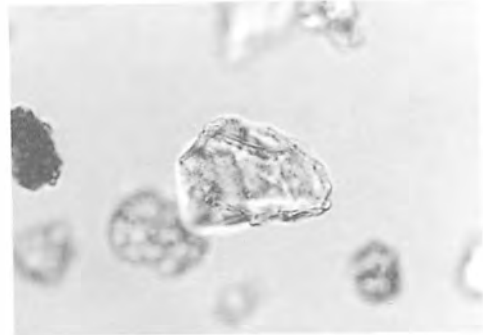


5 エノコログサ属型 6903a・b 9

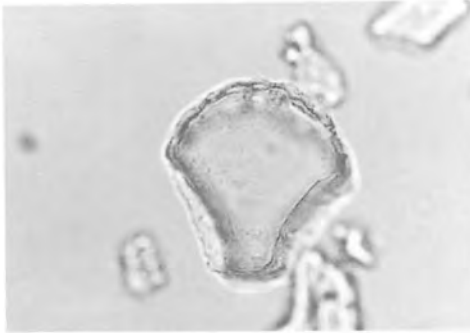




10 ウシキサ属 (大型) 6903a 1



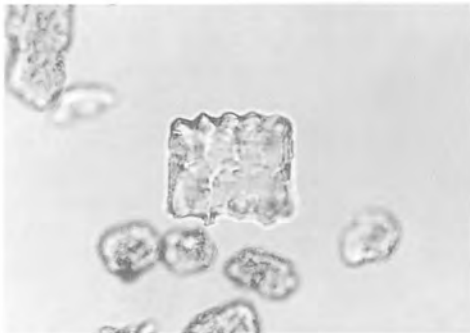
15 ブナ科 (シイ属) 6903a 9



11 メダケ節型 6903a・b 9



16 クスノキ科 6903a・b 6



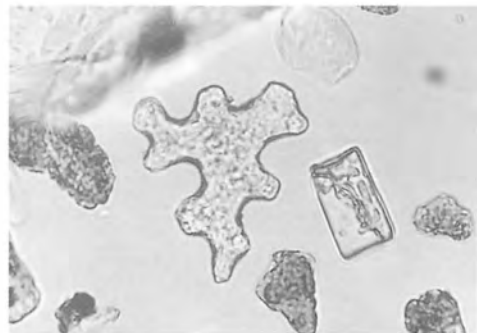
12 ネザサ節型 216SI 外1



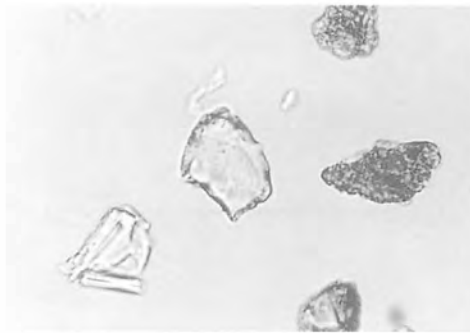
17 マンサク科(イスノキ属)6903a・b 6



13 クマザサ属型 216SI 焼1

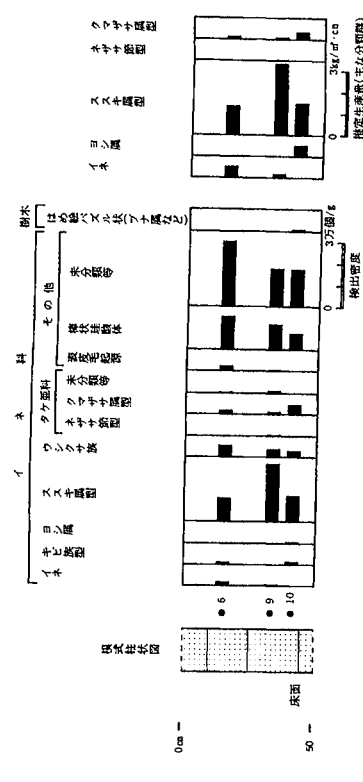


18 はめ絵パズル状(ブナ属など) 6903a 13

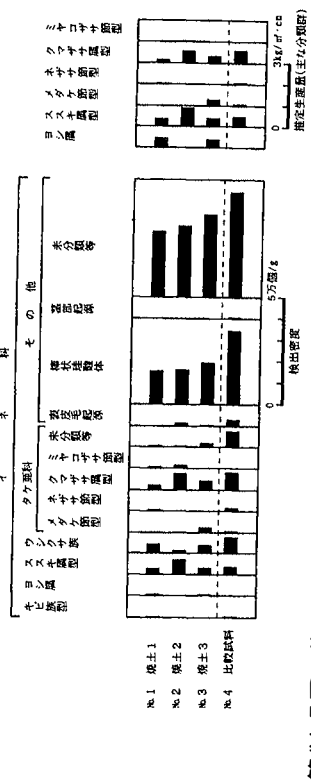


14 ミヤコザサ節型 6903a 10

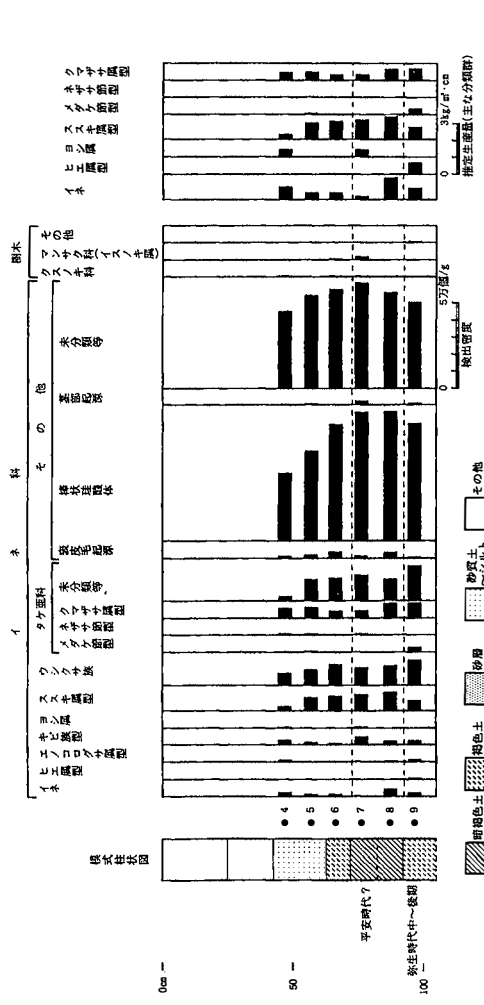
0 50 100 μ m



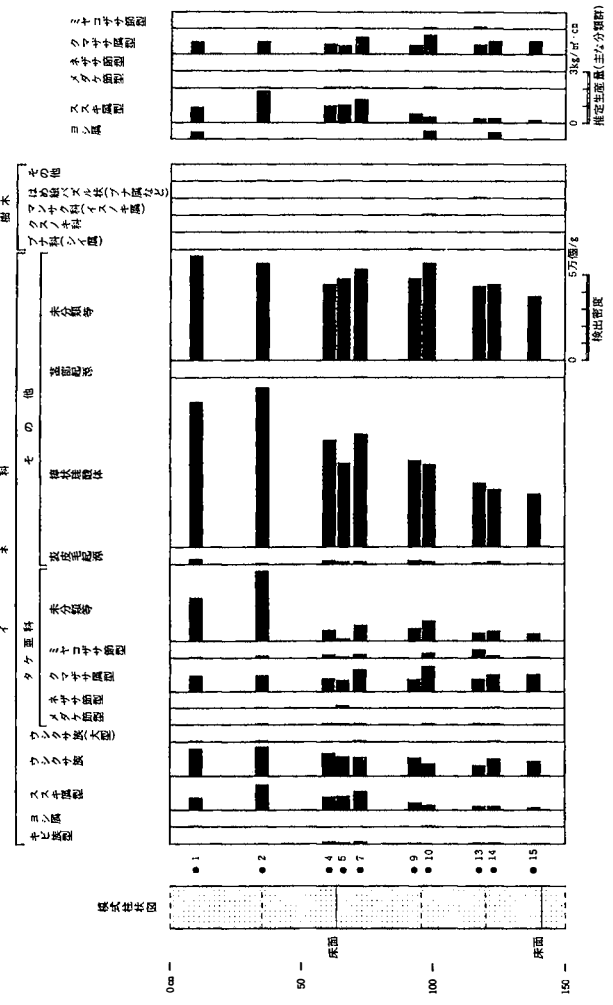
第IV-4図 梅ノ木遺跡、183-S Iにおける植物珪酸体分析結果



第IV-5図 梅ノ木遺跡、216-S I床面における植物珪酸体分析結果



第IV-2図 梅ノ木遺跡、2区6903-a・b西壁における植物珪酸体分析結果



第IV-3図 梅ノ木遺跡、2区6903-a・b住居跡における植物珪酸体分析結果

(5) 梅ノ木遺跡における蛍光X線分析

1. はじめに

赤色顔料としては、一般的に水銀朱（硫化水銀：HgS）、ベンガラ（酸化鉄：Fe₂O₃ など）、鉛丹（酸化鉛：Pb₃O₄）が知られている（市毛,1998, 本田, 1995）。ここでは、赤色顔料の構成元素から顔料の種類を同定する目的で蛍光X線分析を行った。

2. 試料

試料は、赤色土 6 点および赤色顔料付着土器 8 点の計 14 点である。

3. 分析方法

エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。次に土壌試料の処理法を示す。

1) 試料を絶乾（105℃・24時間）

2) メノウ製乳鉢を用いて試料を 100 メッシュ以下に粉砕

3) 試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、20t/cm²の圧力でプレスして錠剤試料を作成

4) 測定時間 300 秒、照射径 20mm、電圧 30keV、試料室内真空の条件で測定

X線発生部の管球はロジウム（Rh）ターゲット、ベリリウム（Be）窓、X線検出器は Si 検出器である。なお、土器片については、絶乾後に分析装置の固定試料ステージに固定して測定した。

4. 結果

検出された元素の種類と定量分析結果（wt%）を表 4、5 および第 IV -8、9 図に示す。なお、2 区の 5972c（1086SX）については予察的な分析であり、定性分析のみを行った。

5. 考察

(1) 赤色土（2区）

1086SX（5972c）の赤色土について分析を行った。その結果、Fe（鉄）の明瞭なピークが認められ、水銀（Hg）や鉛（Pb）は検出されなかった。したがって、この赤色土に含まれる顔料はベンガラと考えられる。

(2) 赤色土（2区北側）

試料 16（5963-b 地区 129-SI 内）、試料 17（5963-b 地区 129-SI）、試料 18（5933-a 地区 1146SI 内）、試料 19（5962-c 地区 1172-SI 内）、試料 20（5962b-c 地区 1173-SI 内）の 5 点の赤色土について分析を行った。その結果、各試料で Fe（鉄）の明瞭なピークが認められ、水銀（Hg）や鉛（Pb）は検出されなかった。各試料における Fe₂O₃ の含量は、13.3～15.6%と比較的高い値である。したがって、これらの赤色土に含まれる顔料はベンガラと考えられる。

(3) 赤色顔料付着土器

土器①6355（高坏-脚部）、土器②9021（壺）、土器③5056（壺）、土器④7092（壺）、土器⑤7032（高坏-口縁部）、土器⑥4494（壺）、土器⑦8147（壜棺）、土器⑧10495（壜棺-口縁部）の 8 点について分析を行った。その結果、各試料で Fe（鉄）の明瞭なピークが認められ、水銀（Hg）や鉛（Pb）は検出されなかった。Fe₂O₃ の含量は、土器①、②、③、⑤、⑥の赤色顔料付着部分では 14.9～22.6%、土器⑦でも 10.6%を示しており、比較部分（含量が付着していない部分）の 3.9～5.3%と比較して明らかに高い値を示している。したがって、これらの土器に付着した赤色顔料はベンガラと考えられる。

土器④および土器⑧の赤色顔料についてもベンガラと考えられるが、Fe₂O₃ の含量は 4.5～4.8%であり、比較部分との間に差異が認められなかった。これらの土器では顔料の付着量が少なく、分析結果に反映されな

かった可能性が考えられる。

6. まとめ

蛍光X線分析の結果、梅ノ木遺跡から出土した赤色土および赤色顔料付着土器の顔料は、いずれもベンガラと判断された。

文献

市毛 勲 (1984) 増補朱の考古学. 第2版. 考古学選書12. 雄山閣出版, 324p.

本田光子 (1995) 古墳時代の赤色顔料. 考古学と自然科学. 31・32, p.63-79

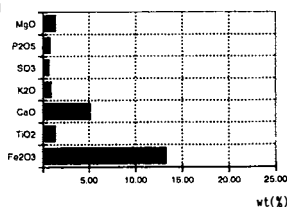
表3 顔料土器観察表

押図番号	枝番号	グリット	層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	胎土	色脚	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	
第IV-7図	1	5982 b	2 b層	高坏	口縁	(21.4)	3.1~	長・石・角	赤	横ナデ、上	節文 (縦)	磨減	赤色顔料 (分析) ②
〃	2	6912 a	2 b層	高坏	口縁	(25.6)	1.3~	長・石・角・霞・赤	赤	節文 (縦)、横ナデ		磨減	赤色顔料 (分析) ⑤
〃	3	6901 d	1層	高坏	脚部		7.5~	長・石・角・霞	浅黄橙、赤	ミガキ (縦)、ナデ		しぼり痕、ナデ	赤色顔料 (分析) ①
〃	4	6903 b	包含層	浅鉢	口縁	16.0~18.0	4.7~	長・石・角・赤		ミガキ (横)、沈線		ミガキ (横)、沈線	黒色磨研土器 (分析)

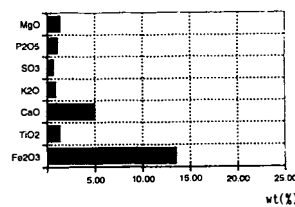
表4 蛍光X線分析結果 (2区北側赤色土)

単位: wt(%)

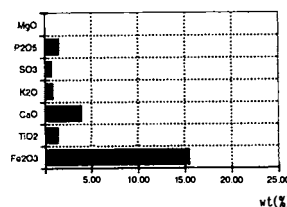
地点・試料名		2区北側				
原子記号、化学式		16	17	18	19	20
12	MgO	1.45	1.40		1.27	1.31
13	Al ₂ O ₃	24.66	25.02	25.39	25.93	26.31
14	SiO ₂	50.93	50.23	49.86	49.93	49.45
15	P ₂ O ₅	0.86	1.15	1.59	1.07	1.80
16	SO ₃	0.74	0.71	0.77	0.50	0.52
19	K ₂ O	0.95	0.95	0.93	0.86	0.86
20	CaO	5.22	5.05	3.98	4.34	3.98
22	TiO ₂	1.41	1.41	1.46	1.48	1.49
23	V ₂ O ₅	0.04	0.07	0.06	0.06	0.06
25	MnO	0.32	0.33	0.34	0.34	0.37
26	Fe ₂ O ₃	13.34	13.59	15.55	14.16	13.79
38	SrO	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07



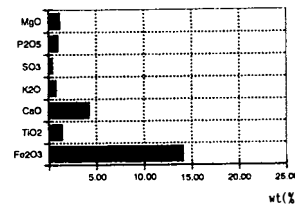
試料16



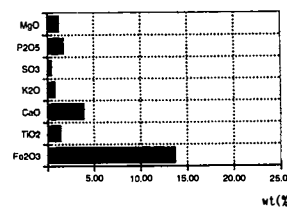
試料17



試料18

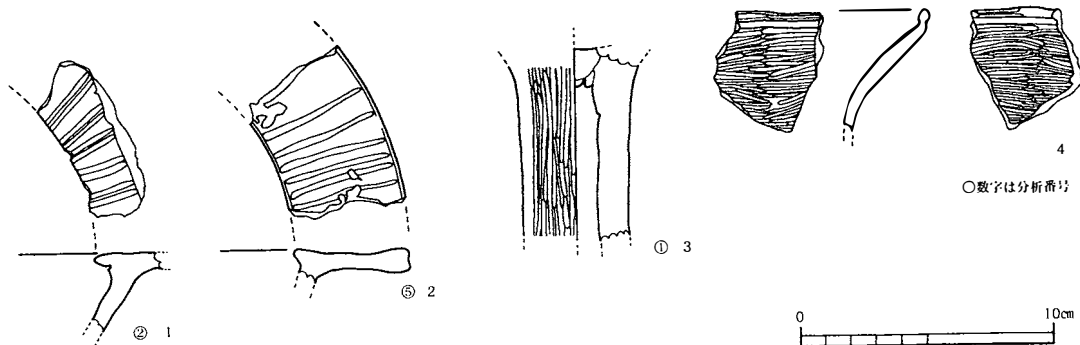


試料19



試料20

第IV-6図 梅ノ木遺跡2区北側出土資料の蛍光X線分析結果 (おもな元素について表示)

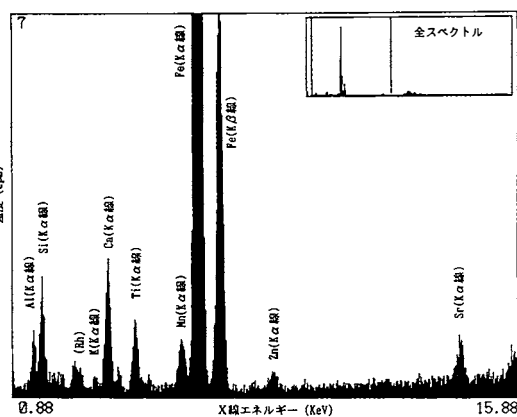


第IV-7図 2区出土顔料分析土器実測図

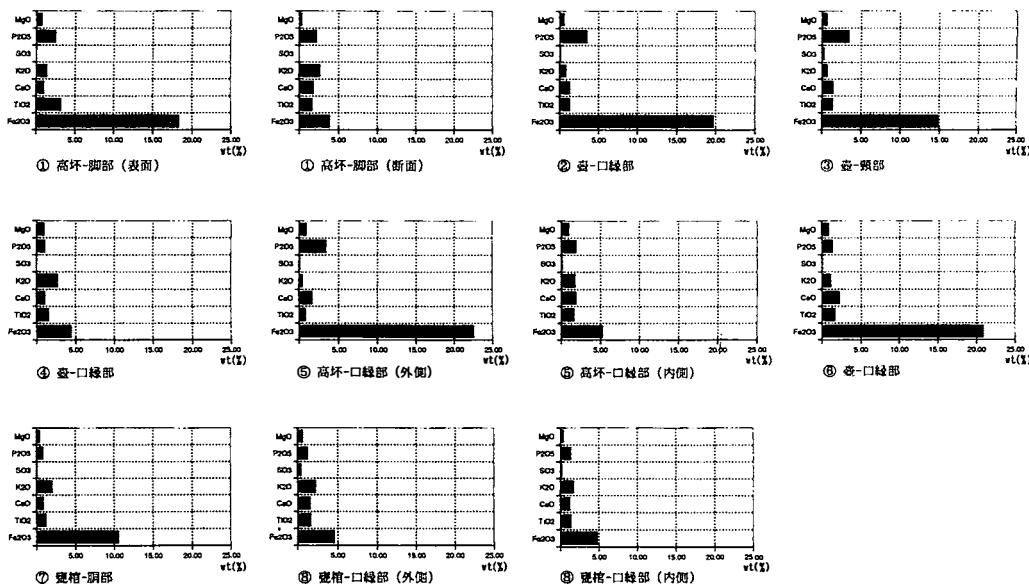
表5 梅ノ木遺跡出土顔料付着土器の蛍光X線分析結果

単位: wt(%)

原子価	化学式	①6355		②9021		③5056		④7092		⑤7032		⑥4494		⑦8147		⑧10495	
		高坏-脚部		口縁部		口縁部		口縁部		高坏-口縁部		口縁部		口縁部		口縁部	
11	Na ₂ O										1.20						0.70
12	MgO	0.78	0.37	0.65	0.69	1.04	0.89	1.01	0.93	0.43	0.69	0.69	0.46				0.46
13	Al ₂ O ₃	30.90	22.92	31.50	31.13	25.52	27.51	23.05	23.12	24.34	28.88	25.87					25.87
14	SiO ₂	41.47	64.07	40.55	45.55	62.21	42.03	61.74	47.87	59.06	58.49	61.74					61.74
15	P ₂ O ₅	2.49	2.23	3.60	3.51	1.09	3.43	1.91	1.45	0.80	1.26	1.41					1.41
16	SO ₃	0.01	0.10	0.19	0.37	0.03	0.19	0.17	0.14	0.17	0.46	0.29					0.29
19	K ₂ O	1.43	2.73	0.84	0.74	2.77	0.48	1.82	1.22	2.09	2.25	1.80					1.80
20	CaO	1.05	1.84	1.31	1.47	1.17	1.70	1.92	2.28	0.92	1.57	1.31					1.31
22	TiO ₂	3.25	1.65	1.30	1.42	1.58	0.85	1.65	1.73	1.28	1.65	1.44					1.44
23	V ₂ O ₅	0.04	0.04	0.04	0.07	0.01	0.04	0.04	0.12	0.05	0.03	0.02					0.02
24	Cr ₂ O ₃						0.09										
25	MnO	0.09	0.03	0.10	0.06	0.04	0.09	0.09	0.17			0.03					0.03
26	Fe ₂ O ₃	18.38	3.89	19.77	14.88	4.48	22.61	5.29	20.89	10.62	4.61	4.83					4.83
29	CuO			0.05													
30	ZnO																
37	Rb ₂ O		0.02			0.02		0.02	0.02	0.02	0.02	0.01					0.01
38	SrO	0.04	0.05	0.02	0.05	0.03	0.04	0.04	0.03	0.02	0.02	0.02					0.02
40	ZrO	0.09	0.06	0.06	0.08	0.04	0.05	0.05	0.05	0.07	0.07	0.06					0.06



第IV-8図 赤色土の蛍光X線スペクトル図



第IV-9図 梅ノ木遺跡から出土した顔料付着土器の蛍光X線分析結果 (おもな元素について表示)

(6) 梅ノ木遺跡におけるリン・カルシウム分析

1. はじめに

梅ノ木遺跡から出土した甕棺墓、木棺墓、土坑墓における遺体の確認を目的としてリン・カルシウム分析を行った。

2. 試料

分析試料は、九電鉄塔新 No.61 調査区；04-SX (甕棺墓)、05-SX (木棺墓)、41-SX (木棺墓)、確認調査調査区3；804-SK (土坑墓)、806-SK (木棺墓)、確認調査調査区4；SK-01 (木棺墓)、確認調査調査区5；906-SX (木棺墓) から採取された計 38 点である。試料の詳細を分析結果図に示す。

3. 分析方法

蛍光 X 線分析 (第 V 章) と同様にして、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法 (FP 法) による定量分析を行った。

4. 分析結果

各元素の定量分析結果 (wt%) を表 6 に示し、リン酸 (P_2O_5) とカルシウム (CaO) の含量を第 IV -10 図に示す。

5. 考察

土壌中に含まれるリン酸やカルシウムの起源としては、土壌の母材、動物遺体、植物遺体などがあり、未耕地の土壌中におけるリン酸含量は通常 0.1 ~ 0.5% 程度、耕地土壌でリン酸肥料が投入された場合は 1.0% 程度である。農耕地では施肥による影響が大きく、目的とする試料の分析結果のみから遺構・遺物内における生物遺体の存在を確認するのは困難である。このため、比較試料 (遺物・遺構外の試料) との対比を行う必要がある。

(1) 九電鉄塔新 No.61 調査区；04-SX (甕棺墓)

甕棺内 (試料 1、2、4) および甕棺直下 (試料 5) について分析を行った。その結果、甕棺内の底部 (3 層、試料 4) ではリン酸の含量が 0.99% と高い値である。また、上位の 1 層 (試料 1)、2 層 (試料 2) よりも含量が高いことから、後代の耕作 (施肥) による影響は考えにくい。したがって、この甕棺内にはリン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が高いと考えられる。

カルシウムについては、甕棺内よりも甕棺直下の方が含量が高くなっており、甕棺内の底部でも上層と比較してとくに明瞭な差異は認められなかった。リンは土壌中の鉄やアルミニウムと強く結合して水に難溶性の化合物となるため、水的作用により流出することは考えにくい (竹追、1993)。これに対して、カルシウムは一般に溶解性が大きいことから、土壌中でカルシウムが拡散・移動した可能性が考えられる。カルシウムについては、以下の各遺構についても同様の結果である。

(2) 九電鉄塔新 No.61 調査区；05-SX (木棺墓)

木棺墓の木棺部 (試料 7、10) および掘り方 (試料 8、9、11 ~ 15) について分析を行った。その結果、掘り方 4 層西側 (試料 15) と掘り方 2 層西側 (試料 12) ではリン酸の含量が 1.25% および 0.93% と高い値であり、木棺部下部 (2 層、試料 10) でも 0.80% と比較的高い値である。また、それぞれの上位層よりも含量が高いことから、後代の耕作 (施肥) による影響は考えにくい。したがって、木棺部および木棺部西側にはリン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が高いと考えられる。

(3) 九電鉄塔新 No.61 調査区；41-SX (木棺墓)

木棺墓の木棺部 (試料 23、25、29、31) および掘り方 (試料 20、22、32) について分析を行った。その結果、木棺部 (試料 23、25、29) ではリン酸の含量が 0.72 ~ 0.81% と比較的高い値である。また、掘り方の試料よりも含量が高いことから、後代の耕作 (施肥) による影響は考えにくい。したがって、木棺部には

リン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が高いと考えられる。

(4) 確認調査調査区3；804-SK（土坑墓）

土坑墓の埋土（試料38、39）について分析を行った。その結果、土坑底部（2層、試料39）ではリン酸の含量が0.52%と比較的高い値である。また、上位の1層（試料38）よりも含量が高いことから、後代の耕作（施肥）による影響は考えにくい。したがって、土坑墓底部にリン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が考えられる。

(5) 確認調査調査区3；806-SK（木棺墓）

木棺墓の木棺部（試料41、42、43）および掘り方（試料40、44）について分析を行った。その結果、木棺部（試料41、42、43）ではリン酸の含量が0.61～0.64%と比較的高い値である。また、掘り方の試料よりも含量がやや高いことから、後代の耕作（施肥）による影響は考えにくい。したがって、木棺部にリン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が考えられる。

(6) 確認調査調査区4；SK-01（木棺墓）

木棺墓の木棺部（試料54～59）、掘り方（試料60）、地山（試料61）について分析を行った。その結果、木棺部の2層（試料55、56）と3層（試料57）ではリン酸の含量が0.79～0.81%と比較的高い値である。また、上位層や掘り方の試料よりも含量が高いことから、後代の耕作（施肥）による影響は考えにくい。したがって、木棺部にはリン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が高いと考えられる。

(7) 確認調査調査区5；906-SX（木棺墓）

木棺墓の木棺部（試料63）、掘り方（試料62）、地山（試料64）について分析を行った。その結果、木棺部底部（2層、試料63）ではリン酸の含量が0.49%と比較的高い値である。ただし、木棺墓横の地山（試料64）よりも含量が低いことから、後代の耕作（施肥）による影響も否定できない。

6. まとめ

分析の結果、04-SX（甕棺墓）、05-SX（木棺墓）、41-SX（木棺墓）、SK-01（木棺墓）では、遺構内部の試料からリン酸が多量に検出され、リン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が高いと判断された。また、804-SK（土坑墓）と806-SK（木棺墓）でも、リン酸を多く含む生物遺体が存在していた可能性が認められた。

文献

竹追紘（1993）リン分析法．日本第四紀学会編，四紀試料分析法．2，研究対象別分析法．東京大学出版会，p.38-45．

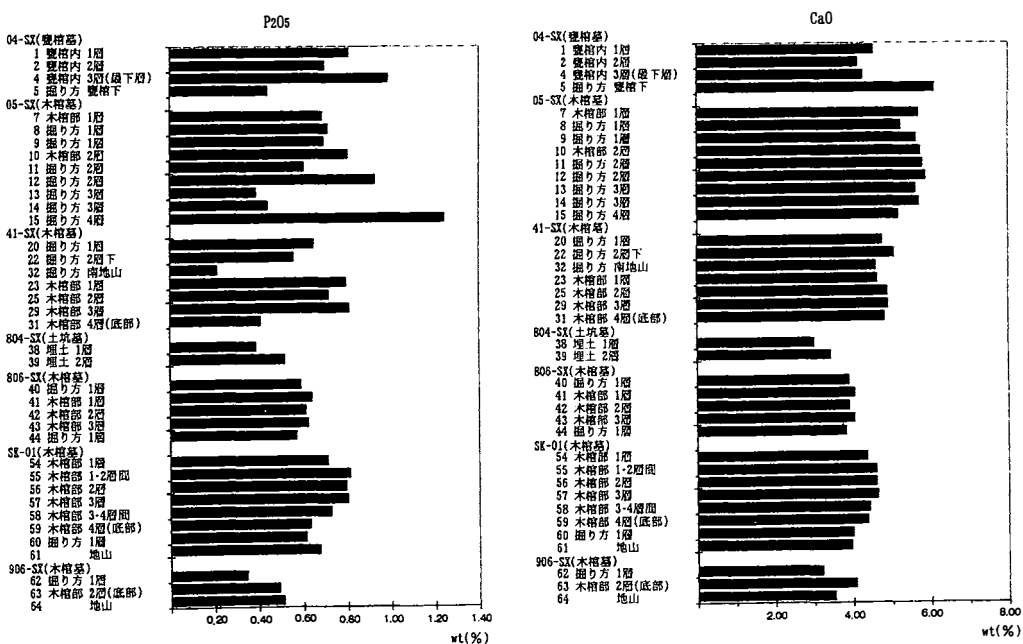
表6 梅ノ木遺跡出土甕棺墓、木棺墓、土墳墓における蛍光X線分析結果

単位: wt(%)

地点・試料	04-SX (甕棺墓)				05-SX (木棺墓)										41-SX (木棺墓)					
	甕棺内			甕棺下	木棺部		廻り方		木棺部		廻り方		木棺部		廻り方		木棺部			
	1層	2層	3層(底部)		1層	1層	1層	2層	2層	2層	3層	3層	3層	1層	2層下	南地山	1層	2層	3層	層(底部)
原子価 化学式	1.32	1.47	1.33	1.82	1.79	1.53	1.49	1.25	1.68	1.37	1.75	1.70	1.51	1.17	1.56	1.38	1.62	1.42	1.46	1.71
11 Na ₂ O	1.28	1.10	1.09	1.97	1.65	1.46	1.61	1.60	1.51	1.42	1.55	1.48	1.46	1.00	1.41	1.24	1.48	1.31	1.44	1.34
12 MgO	26.52	26.92	26.49	23.79	26.04	28.71	27.72	27.32	27.21	27.02	26.78	26.77	27.81	28.87	25.82	28.12	27.62	27.28	27.23	26.76
13 Al ₂ O ₃	49.88	50.27	51.01	52.61	50.33	48.52	48.79	48.90	49.70	49.55	50.62	50.32	47.86	49.42	52.64	50.76	49.57	49.82	50.17	51.87
14 SiO ₂	0.81	0.70	0.99	0.44	0.69	0.71	0.69	0.80	0.61	0.93	0.39	0.44	1.25	0.65	0.56	0.21	0.80	0.72	0.81	0.41
15 P ₂ O ₅	0.28	0.25	0.23	0.06	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.07	0.03	0.03	0.03	0.02	0.10	0.12	0.02
16 SO ₃	0.75	0.73	0.82	1.08	0.78	0.73	0.84	0.70	0.86	0.85	0.84	0.87	0.85	0.81	1.08	0.87	0.72	0.75	0.82	0.99
19 K ₂ O	4.53	4.13	4.26	6.10	5.69	5.24	5.64	5.75	5.81	5.89	5.62	5.71	5.18	4.76	5.08	4.61	4.65	4.90	4.92	4.82
20 CaO	1.47	1.46	1.49	1.28	1.39	1.35	1.42	1.45	1.38	1.43	1.37	1.37	1.49	1.47	1.33	1.44	1.42	1.38	1.42	1.37
22 TiO ₂	0.07	0.06	0.06	0.06	0.04	0.06	0.07	0.06	0.07	0.07	0.04	0.05	0.05	0.08	0.02	0.06	0.06	0.07	0.07	0.06
23 V ₂ O ₅	0.27	0.24	0.25	0.20	0.24	0.24	0.22	0.23	0.22	0.24	0.25	0.22	0.25	0.22	0.22	0.23	0.25	0.26	0.24	0.21
25 MnO	12.67	12.55	11.89	10.53	11.25	11.34	11.40	11.82	10.84	11.12	10.69	10.97	12.13	11.45	10.15	10.97	11.70	11.91	11.20	10.34
26 Fe ₂ O ₃	0.01	0.01	0.01						0.01											
29 CuO	0.02	0.01	0.02						0.01											
30 ZnO	0.07	0.06	0.07	0.06	0.08	0.07	0.07	0.08	0.07	0.08	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	0.08	0.07	0.06	0.08	0.07
38 SrO	0.03	0.02			0.03	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03
40 ZrO ₂																				

単位: wt(%)

地点・試料	804-SX (土墳墓)			806-SX (木棺墓)			SX-01 (木棺墓)				906-SX (木棺墓)							
	埋土		廻り方	木棺部		廻り方	木棺部			廻り方	埋土		木棺部					
	1層	2層	1層	1層	2層	3層	1層	1-2層間	2層	3層3-4層間	4層(底部)	1層	1層	2層(底部)	地山			
原子価 化学式	1.14	1.30	1.56	1.38	1.30	1.54	1.58	1.25	1.07	1.41	1.27	1.24	1.35	1.11	1.36	1.49	1.24	1.04
11 Na ₂ O	0.74	0.98	1.21	1.18	0.89	0.88	1.13	1.06	1.21	0.97	1.15	1.02	0.96	1.07	0.93	0.97	1.01	0.86
12 MgO	28.68	27.93	26.61	26.86	26.71	26.53	25.71	26.98	26.51	26.55	26.12	26.85	26.96	27.93	27.78	27.82	27.22	27.17
13 Al ₂ O ₃	47.92	46.65	50.37	50.55	50.90	51.10	52.21	49.64	49.88	49.77	49.94	49.61	49.99	49.30	48.65	50.30	49.72	50.50
14 SiO ₂	0.39	0.52	0.59	0.64	0.61	0.62	0.57	0.71	0.81	0.79	0.80	0.73	0.63	0.61	0.68	0.35	0.49	0.51
15 P ₂ O ₅	0.28	0.39	0.35	0.31	0.34	0.28	0.34	0.18	0.18	0.24	0.25	0.15	0.15	0.20	0.30	0.65	0.56	0.58
16 SO ₃	0.70	0.71	0.79	0.80	0.71	0.76	0.80	0.72	0.72	0.77	0.71	0.74	0.76	0.79	0.78	0.79	0.75	0.80
19 K ₂ O	3.01	3.44	3.91	4.05	3.91	4.06	3.84	4.38	4.60	4.60	4.64	4.43	4.39	4.01	3.97	3.21	4.08	3.54
20 CaO	1.72	1.61	1.46	1.46	1.53	1.46	1.43	1.53	1.54	1.50	1.58	1.56	1.53	1.58	1.58	1.46	1.54	1.54
22 TiO ₂	0.06	0.07	0.08	0.06	0.04	0.05	0.06	0.06	0.06	0.08	0.04	0.05	0.05	0.05	0.06	0.07	0.07	0.07
23 V ₂ O ₅	0.29	0.26	0.27	0.27	0.27	0.28	0.28	0.29	0.27	0.28	0.28	0.25	0.25	0.25	0.26	0.25	0.28	0.26
25 MnO	14.94	14.04	12.68	12.34	12.67	12.35	11.97	13.09	13.06	12.93	13.12	13.25	12.87	12.99	13.52	12.54	12.91	13.02
26 Fe ₂ O ₃																	0.02	
29 CuO																	0.01	
30 ZnO																	0.01	
38 SrO	0.07	0.06	0.07	0.07	0.07	0.08	0.06	0.07	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.07	0.08	0.07	0.07	0.07
40 ZrO ₂	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.04	0.03	0.03	0.04	0.03	0.04	0.03



第IV-10図 梅ノ木遺跡から出土した甕棺墓、木棺墓、土墳墓におけるリン・カルシウムの検出状況

B 弥生時代人骨の分析

松下孝幸*

キーワード:熊本県、弥生時代人骨、甕棺、壺棺、木棺、土壙墓、木棺集、保存不良

はじめに

熊本県菊池郡菊場町津久札に所在する梅ノ木遺跡の発掘調査が、国体道路建設に伴って1996年(平成8年)と1997年(平成9年)におこなわれ、多数の住居址と埋葬施設が発見された。墓は甕棺、壺棺、土壙墓、木棺墓が存在した。人骨は甕棺、壺棺、土壙墓、木棺から検出されたが、保存状態はいずれもよくない。

熊本県でも弥生時代には甕棺が作製されているが、佐賀県や福岡県のように群集することがなく、散在する傾向が強い。従って、人骨の量も少なく、熊本県での弥生人の顔・かたちの様子がまだよくわからない。筆者が報告した例も少なく、熊本市の葉山遺跡(松下、1991)、同じく熊本市の庵ノ前遺跡(松下、1997)と熊本市の万楽寺出口遺跡があるにすぎない。1997年から98年にかけて、熊本市の南部に位置する白藤遺跡の発掘調査がおこなわれた。この調査によって佐賀県や福岡県で見られるものと同じ様な大形の甕棺が多数出土した。人骨の保存状態はよくなかったが、現場で観察したところ、高顔・高身長で四肢骨が屈強な形質の特徴が認められ、彼らが佐賀県や福岡県の甕棺から出土する弥生人と同じ特徴を持っていたことがわかった。しかし、白藤遺跡の弥生人にみられた特徴が熊本県全域に、少なくとも平野部において普遍的に認められるのかどうかは資料数が少ない現状ではなんとも言いがたいのである。

本例は保存状態が悪く、顔・かたちの特徴を知ることができなかったが、大腿骨は計測ができたものや観察が可能なものもあり、また歯が比較的よく残っていたので、幼児については年齢を推定できた。人骨の残存状況やその特徴および推定できた性別・年齢などを記載しておきたい。

資料

表7 資料数 (Table 7. Number of materials)

成人			幼児	合計
男性	女性	不明		
1	1	2	8	12

本遺跡から出土した人骨は合計12体である。表7に示すとおり、12体のうち成人骨は4体で、男性1体、女性も1体で、残りの2体は性別がわからない。幼児骨は8体で、このうち1歳未満の乳児が2体ある。未成人の占める割合は高く、67%(8/12)にも達するが、すべての遺構に人骨が残っていたわけではないので、この数字がそのまま未成人の割合を示しているわけではない。

なお、各人骨の性別・年齢は表8のとおりである。

* Takayuki

12体の人骨のうち、甕棺から出土したものは7体、壺棺からは2体、木棺からは1体、土壙から出土したものは2体である。

この12体の人骨は、考古学的所見より、弥生時代中期後半頃に属する人骨群と推定されている。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によった。なお、性別判別については所見の項でそれぞれの個体ごとにその推定根拠を挙げた。年齢区分に関しては表9の基準のとおりである。

表8 出土人骨一覧(Table 8. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考(頭型、推定身長値など)
228	—	幼児	甕棺墓、乳歯歯冠のみ
289	—	幼児(1歳前後)	甕棺墓、乳歯歯冠のみ
1075	—	幼児(1.5歳)	甕棺墓
1077	—	幼児(2~3歳)	壺棺墓
1082	—	幼児(3~4歳)	甕棺墓
1131	—	乳児(3ヶ月~6ヶ月)	甕棺墓
1135	男性	不明	木棺墓
1137	不明	不明(成人)	土壙墓
1150	—	乳児(9ヶ月)	壺棺墓
1153	女性	不明	土壙墓
1154	—	幼児(3~4歳)	甕棺墓
1238	不明	不明(成人)	甕棺墓

表9 年齢区分(Table 9. Division of age)

	年齢区分	年齢	
未成人	乳児	1歳未満	
	幼児	1歳 ~ 5歳	(第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳 ~ 15歳	(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成人	16歳 ~ 20歳	(蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳 ~ 39歳	(40歳未満)
	熟年	40歳 ~ 59歳	(60歳未満)
	老年	60歳以上	

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

所見

228号墓人骨(幼児)

乳歯歯冠の破片のみである。歯冠には咬耗がほとんど見られないので、おそらく幼児であろう。

289号墓人骨(幼児・1歳前後)

乳歯の歯冠が2個残存していた。下顎の両側第1乳臼歯であるが、咬耗が認められないことから未萌出だったようである。このことから年齢は1歳前後と考えられる。

1075号墓人骨(幼児・1.5歳前後)

頭蓋と乳歯の歯冠8個と永久歯冠1個が残存していた。頭蓋は前頭骨の一部および右側頭頂骨が残存しているが、骨壁は著しく薄い。乳歯の一部は歯根も残っており、この形成程度と第一大臼歯の歯冠の形成程度から、本例を1.5歳前後の幼児と推定した。残存歯は次のとおりである。

M ₁	/	/	c	/	/	/	/	m ₁	m ₂
/	m ₂	m ₁	c	/	/	/	/	m ₁	/

[/:不明(破損) ○:歯槽開存 ●:歯槽閉鎖、以下同じ]

1077号墓人骨(幼児・2~3歳)

乳歯の歯冠などが残存していたにすぎない。残存歯冠は次のとおりである。

/	/	/	c	/	/	/	/	c	m ₁	m ₂
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	M ₁

年齢は、2~3歳と思われる。

1082号墓人骨(幼児・3~4歳)

永久歯の遊離歯冠が4個残存していたにすぎない。残存歯冠は上下両顎の第一大臼歯4個である。咬耗がみられないことと歯根がまだ形成されていなかったと考えられることから、年齢は3~4歳とみられる。

1131号墓人骨(乳児・3~6ヶ月)

両側の側頭骨錐体部と下顎の左側乳犬歯の歯冠が残存していたにすぎない。錐体は著しく小さく、乳犬歯歯冠の形成状態から、本例の年齢を生後3ヶ月から6ヶ月ぐらいと推定した。

1135号墓人骨(男性、年齢不明)

残存していたのは右側の大腿骨と左側の脛骨である。両骨ともかなり脆弱化しており、保存状態はよくない。

①大腿骨

右側の骨体が残存していた。粗線はよく発達しているが、骨体両側面の後方への発達は見られない。また、骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央矢状径が25mm(右)、横径は32mm(右)で、骨体中央断面示数は78.13(右)となり、弥生時代人としては珍しく骨体両側面の後方への発達がきわめて悪い。骨体中央周は89mm(右)で、骨体は太い。また、土骨体断面示数は72.73(右)となり、骨体上部は扁平である。

②脛骨

左側骨体が残存していたが、保存状態は大腿骨よりもさらに悪く、計測はできない。観察したところでは骨体の径はあまり大きいものではない。その他の様態は不明である。

③性別・年齢

性別は、大腿骨体の周径が大きいことから、男性と推定した。年齢は不明である。

1137号墓人骨(性別・年齢不明)

遊離歯冠が残存していた。残存していた歯冠は次のとおりである。

／	／	／	P ₂	P ₁	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
／	M ₂	／	P ₂	／	／	I ₂	／	／	／	C	／	／	／	／	／

咬耗度は Broca の 1 度である。性別、年齢は不明である。

1150号墓人骨(乳児・9ヶ月)

頭蓋の細片と遊離乳歯歯冠が残存していた。乳歯歯冠などは次のとおりである。

m ₂	m ₁	／	／	／	／	／	／	m ₁	／	M ₁
m ₂	m ₁	／	／	／	／	／	／	m ₁	／	

年齢は歯冠の形成状態から 9 ヶ月ぐらいと推定した。

1153号墓人骨(女性・年齢不明)

両側の大腿骨体と遊離歯冠が残存していた。大腿骨体は保存状態が悪く、計測できないが、観察したところでは、骨体両側面が後方へ著しく発達しており、骨体中央断面示教は 115.00 を超えるものと思われ、大腿骨体の形状は 1135 号墓人骨とまったく対照的である。骨体周はそれほど大きくはなく、骨体そのものはあまり大きいものではない。遊離歯冠は次のとおりである

／	M ₂	／	P ₂	P ₁	C	／	I ₁	／	／	C	P ₁	P ₂	／	M ₂	／
／	M ₂	M ₁	／	P ₁	／	／	／	／	／	／	P ₁	／	／	M ₂	／

咬耗度は Broca の 1 度である。

性別は、大腿骨体の径が細いことから、女性と推定した。年齢は不明である。

1154号墓人骨(幼児・3~4歳)

頭蓋と遊離歯冠が残存していた。頭蓋壁はかなり薄く、保存状態は悪い。計測も観察もできない状態である。遊離歯冠は 1 本の乳歯を除いてあとはすべて永久歯の歯冠であった。乳歯は、上顎左側の乳犬歯で、歯根は 8 割完成していたようである。永久歯冠は次のとおりである。歯根はすべてまだ形成されていなかったようで、歯冠形成程度から、年齢を 3 ~ 4 歳と推定した。

／	／	M ₁	／	／	C	／	／	／	／	C	／	／	M ₁	／	／
／	／	M ₁	／	／	C	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	C	／	／	M ₁	／	／

1238号墓人骨(性別・年齢不明)

四肢骨と遊離歯冠が残存していた。四肢骨は下肢骨と思われるが、保存状態が著しく悪く、同定ができない。遊離歯冠は次のとおりである。

M ₃	／	／	P ₂	／	C	／	I ₁	／	／	／	／	／	／	／	／
／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	P ₁	／	／	／	／	／

咬耗度は Broca の 1 度である。性別、年齢は不明である。

考察

計測ができた男性大腿骨について若干の考察をおこなっておきたい。表 10 は熊本県内での弥生人の大腿骨計測値の比数表である。熊本県内で筆者が報告した男性大腿骨は 4 例しかないが、この 4 例を比較してみると、梅ノ木は、骨体中央周は庵ノ前と大差なく、骨体の径は大きい方であるが、骨体中央断面示数は著しく小さく、表 10 では最小値である。また、上骨体断面示数も表 10 では最小値となり、骨体上部はかなり扁平であることがわかる。骨体中央断面示数の小ささは特筆に値するが、所見の項でも述べているように、この例の他に、かなり強い柱状性を示す大腿骨もあり、この遺跡は大腿骨形態の変異幅がかなり大きい遺跡であることも注目しておきたい。

表 10 大腿骨計測値 (男性、右、mm)(Table 10. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	万楽寺出口		庵ノ前		葉山		梅ノ木	
	弥生人		弥生人		弥生人		弥生人	
	熊本県 (松下)		熊本県 (松下・他)		熊本県 (松下)		熊本県 (松下)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
6. 骨体中央矢状径	1	34	1	30	1	26	1	25
7. 骨体中央横径	1	28	1	26	1	29	1	32
8. 骨体中央周	1	97	1	88	1	85	1	89
9. 骨体上横径	1	31	1	30	1	30	1	33
10. 骨体上矢状径	1	32	1	27	1	25	1	24
6/7 骨体中央断面示数	1	121.43	1	115.38	1	89.66	1	78.13
10/9 上骨体断面示数	1	103.23	1	90	1	83.33	1	72.73

要約

熊本県菊池郡菊陽町津久礼にある梅ノ木遺跡の発掘調査で、甕棺、壺棺、土壙墓、木棺墓などから人骨が検出された。保存状態はいずれもよくないが、一部計測できた骨もあり、また幼児骨については年齢が推定できた。出土人骨の人類学的観察や計測をおこない、次の所見を得た。

1. 本遺跡から出土した人骨は合計 12 体である。12 体のうち成人骨は 4 体で、男性 1 体、女性 1 体、性別不明が 2 体である。幼児骨は 8 体で、このうち 2 体は 1 歳未満の乳児であった。
2. 本遺跡から出土した人骨は、未成人の占める割合が高く、67%(8/12)にも達した。
3. 頭蓋の保存状態が悪いので、頭型や顔面の特徴は不明である。
4. 大腿骨の計測ができたものが 1 体と、計測はできないが、観察が可能なものが 1 体あった。前者は男性大腿骨で、後者は女性大腿骨であるが、両大腿骨の形態は対照的であった。男性大腿骨は、骨体は大きい、柱状性はまったく認められず、骨体の形態は横径が矢状径よりもかなり大きく、その断面形は横広ろの楕円形を呈しているのに反し、女性大腿骨は、横径が小さく矢状径が著しく大きく、かなり強い柱状性を示す大腿骨であった。柱状大腿骨は骨体周が小さいので、「女性の大腿骨」としたが、骨盤(寛骨)がないので、正確な性別はわからない。ひょっとしたら柱状大腿骨も男性の大腿骨かもしれない。

性別はともかく、全くないわけではないが、形態的に対照的な大腿骨が同じ遺跡で出土することはかなり珍しいことである。このように出土した人骨の特徴が対照的で、人骨の特徴をひとことで言い表せない遺跡がこれまでもあった。それは同じ熊本県の例で、熊本市の庵ノ前遺跡から出土した 2 体の女性骨がそれ

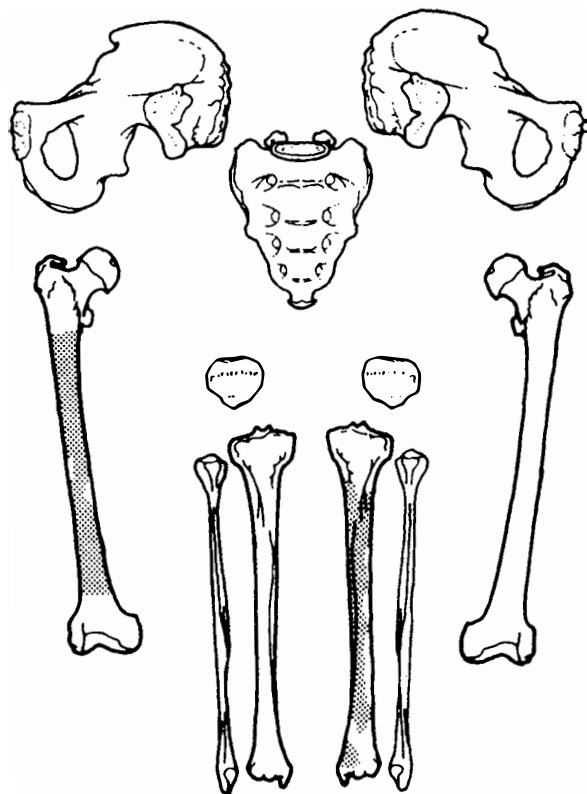
である。北部九州や西北九州の弥生人の場合は、出土例数が多いこともあって、差があまり目立たないのかもしれないが、大腿骨にみられた大きな差異(個体変異)はない気がする。この大腿骨の形態の違いは、縄文人と近世人との差にも匹敵する。

四肢骨は支持・運動器なので、その形態は栄養状態や運動量などに大きく関係している。今回の場合はその差異を引き起こした要因として性差は考えにくい。遺伝的要因、すなわち集団としての違いも可能性としては考えておく必要があるかもしれない。

形態変異が大きいという特徴が熊本県の弥生人の特徴なのかもしれないが、このような課題に決着をつけるためにも例数の増加が期待される。

表 11 大腿骨計測値 (mm) (Femur)

	梅ノ木 1135号墓人骨 男性 右
1. 最大長	—
2. 自然位全長	—
3. 最大転子長	—
4. 自然位転子長	—
6. 骨体中央矢状径	25
7. 骨体中央横径	32
8. 骨体中央周	89
9. 骨体上横径	33
10. 骨体上矢状径	24
15. 頸垂直径	—
16. 頸矢状径	—
17. 頸 周	—
18. 頭垂直径	—
19. 頭横径	—
20. 頭 周	—
21. 上 顆 幅	—
8/2 長厚示数	—
6/7 骨体中央断面示数	78.13
10/9 上骨体断面示数	72.73



梅ノ木 1135 号墓人骨 (男性)

第IV-12 図 人骨の残存部、アミかけ部分
(Fig. 12. Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)

謝辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた熊本県教育庁文化課の諸先生方に感謝致します。

《参考文献》

1. 金関丈夫、他、1960:山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の弥生式時代人頭骨について。人類学研究、7(附録):1-36.
2. 九州大学医学部解剖学第二講座、1988:日本民族・文化の生成、2、九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料集成。六興出版、東京。
3. MARTIN-SALLER,1957:Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1 Gustav Fischer Verlag, Stuttgart:429-597.
4. 松下孝幸、1979:二塚山遺跡出土の弥生時代人骨。二塚山(佐賀県文化財調査報告書 46):242-255.
5. 松下孝幸、1981:宮の本遺跡出土の人骨。宮の本遺跡(佐世保市埋蔵文化財調査報告書):93-109,114・118,145-146.
6. 松下孝幸、1981:大友遺跡出土の弥生時代人骨。大友遺跡(佐賀県呼子町文化財調査報告書 1):223-253.
7. 松下孝幸、他、1983:山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告 2):19-30.
8. 松下孝幸、他、1983:長崎県宇久松原遺跡出土の弥生時代人骨。長崎県埋蔵文化財調査集報 VI(長崎県文化財調査報告書第 66 集):97-134.
9. 松下孝幸、1983:佐賀県鳥栖市安永田遺跡出土の弥生時代人骨。安永田遺跡(鳥栖市文化財調査報告書 16):92-111.
10. 松下孝幸、他、1984:長崎県小値賀町神ノ崎遺跡出土の弥生・古墳時代人骨。小値賀町文化財調査報告第 4 集:95-100,178.
11. 松下孝幸、1984:鳥栖市安永田遺跡出土の弥生時代人骨(II)。鳥栖市文化財調査報告書、20:57-60.
12. 松下孝幸、他、1985:佐賀県鳥栖市域の弥生時代人骨。安永田遺跡一佐賀県鳥栖市に所在する安永田遺跡銅鐸鑄型出土地点の調査一(鳥栖市文化財調査報告書第 25 集):550-570.
13. 松下孝幸、1985:福岡県小郡市横隈狐塚遺跡出土の弥生時代人骨。横隈狐塚遺跡II下巻、(小郡市文化財調査報告書第 27 集):1-46.
14. 松下孝幸・他・1986:大村市富の原遺跡出土の弥生時代人骨。富の原遺跡群確認調査概報V(大村市文化財調査報告第 11 集):30-45.
15. 松下孝幸、他、1988:長崎県壱岐・石田町大久保遺跡出土の弥生時代人骨。長崎県埋蔵文化財調査集報 XI(長崎県文化財調査報告書第 91 集):77-99.
16. 松下孝幸、1991:熊本市葉山遺跡出土の弥生時代人骨。交流の考古学(肥後考古学第 8 号 三島格会長古希記念):287-312.
17. 松下孝幸、他、1991:佐賀県神埼町志波屋六本松乙遺跡出土の弥生時代人骨。志波屋六本松乙遺跡(佐賀県文化財調査報告書第 103 集、九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 13):第 4 章:1-62.'
18. 松下孝幸、他、1992:佐賀県神埼町朝日北遺跡出土の人骨。朝日北遺跡(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(15)):418-504.
19. 松下孝幸、1996:根獅子遺跡出土の弥生時代人骨。平戸市史 自然・考古編:405-441.
20. 松下孝幸、1997:熊本市庵ノ前遺跡出土の弥生時代人骨。庵ノ前遺跡III(熊本県文化財調査報告第 160 集):142-172.
21. 松下孝幸、2000:熊本市万楽寺出口遺跡出土の弥生時代人骨。
22. 内藤芳驚、1971:西北九州出土の弥生時代人骨。人類学雑誌、79:236-248.

23. 中橋孝博、他、1985:金隈遺跡出土の弥生時代人骨。史跡金隈遺跡(福岡市埋蔵文化財調査報告書第123集):43-145.
24. 牛島陽一、1954:佐賀県東脊振村三津遺跡出土弥生式時代人骨の人類学的研究。人類学研究、1:273-303.
25. 財津博之、1956:山口県土井ヶ浜遺跡発掘弥生前期人骨の四肢長骨に就いて。人類学研究、3:320-349.

C 鉄製品の金属学的分析

(株)九州テクノリサーチ・TAC センター

大澤正己・鈴木瑞穂

概要

梅ノ木遺跡の弥生時代中期前葉から後期後葉に属する17点の鉄製品を調査して、次の点が明らかになった。鉄製品の大半は、中国戦国時代から漢代にかけて技術開発された可鍛鑄鉄製品（BC5C頃の開発技術：白鑄鉄の硬くて脆い欠点を900℃～950℃×3～5日間の焼なまし脱炭で軟質化した製品）、炒鋼製品（BC1C頃の開発技術：銑鉄を1200℃以上の温度から加熱溶融し、空気中で攪拌脱炭して鍛打した製品）、塊煉鉄製品（BC9C頃の技術開発：低温還元直接製鉄法にもとづく、ただし、今回調査品（鉄剣の柄？）は合せ鍛えの貼鋼品であるのでBC1C以降の製品）などに分類された。

なお、注目すべきは、可鍛鑄鉄製品は鉄中の非金属介在物（鉄鋼中に介在する固形体の非金属性不純物、つまり鉄やマンガン、珪素および燐などの酸化物、硫化物、珪酸塩などの総称）に砂鉄特有元素のチタン（Ti）を含有するところから中国大陸側（東北部）に砂鉄製錬の存在が指摘できる事である。

1. いきさつ

梅ノ木遺跡は、熊本県菊池郡菊陽町津久礼1505番地他に所在する弥生時代中期から後期前半にかけての集落遺跡である。県道益城菊陽線の改良工事に伴う発掘調査で、鉄製品が約70点以上が出土した。この中から金属鉄の遺存度が良好な17点を選び出して、当時の国内鉄事情を把握する目的から金属学的調査を行った。

2. 調査方法

2-1. 供試材

Table.1に供試材の履歴と調査項目を示す。調査は、2回に分けて実施しており、UMK-1～10が平成11年度、UMK-11～17が平成12年度分である。

2-2. 調査項目

(1) 肉眼観察

発掘担当者側で作成した遺物実測図をもとに、筆者側の観察結果を加味して文章化してある。

(2) マクロ組織

顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の5倍、10倍、もしくは20倍で撮影した。低倍率の観察は、組織の分布状態、形状、大きさなど顕微鏡検査によるよりも広範囲にわたっての情報が得られる利点がある。

(3) 顕微鏡組織

供試材は、実測図に指示された位置から切り出したものをベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンド粒子の3μと1μで仕上げて光学顕微鏡観察を行った。なお、金属鉄パーライトはピクラル（ピクリン酸飽和アルコール液）とフェライト結晶粒は、ナイトル（5%硝酸アルコール液）で、腐食（Etching）している。

(4) ビッカース断面硬度

金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に

生じた窪みの面積をもって、その荷重を除いた商を硬度値としている試料は顕微鏡用を併用した。

(5) CMA (Computer Aided X-Ray Micro Analyzer) 調査

EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) にコンピューターを内蔵させた新鋭分析機器である。旧式装置は、別名 X 線マイクロアナライザーとも呼ばれる。

分析の原理は、真空中で試料面 (顕微鏡試料併用) に電子線を照射し、発生する特性 X 線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料と X 線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理して、データ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

3. 調査結果

(1) UMK - 1 : 鑄造鉄斧片

① 肉眼観察 : 平面は長方形で基部側では袋をもち、木身を嵌込む部分の縦断面はクサビ形になり、刃部は両刃となる。なお、奇異な点は、この袋の横断面片側は閉ざされて二等辺三角形をなしている。長さ 3.8 cm、刃幅 5.8 cm + α (僅かに破損か)、基部から刃部まではほぼ直線をなし、基部側の厚みは 1 cm を測る。中国産の鋏の一部であろうか。コーナーの稜線は鑄造品を表わす。

② マクロ組織 : Photo.34 に示す。供試材は閉ざされた側面の縦方向を切断している。断面からみて基部側の厚みは、銹化部を入れて 8.0 mm、残存金属鉄は 5.1 mm を測る。この金属鉄は、銹化鉄 (15 mm 前後) に囲まれて、内部は層状組織のパーライトバンドで形成された脱炭層があって、更に内部に鑄込み時の過共晶組成 (4.23% 以上) の白鑄鉄が存在する。黒斑点は塊状黒鉛で焼なまし (退火) 中途の痕跡を留める。なお、このマクロ組織で注目しておきたい点は、上側においてパーライトバンドが窄まりを有し、旧形母体に沿って脱炭反応が進行したと読みとれる。基部側上面は生きた面と判断される。また、鑄造品でも中央部片側において銹膨れが生じているのが確認された。

③ 顕微鏡組織 : Photo.1~3 に示す。Photo.1 ①は、鉄中の非金属介在物である。鑄鉄なので非常に清浄であって、極く微量で小さい介在物が僅かに存在する。写真に示した微小黒点は 2 μ 前後の硫化マンガン (MnS) と硫化鉄 (FeS) の混合組成である。CMA の項で詳述する。Photo.1 の②~⑦は金属鉄をナイトル (5% 硝酸アルコール液) で腐食 (Etching) して現われた組織である。②③は、マクロ組織でみた上部基部側で肉薄の横断面である。中核部は鑄込み時の白鑄鉄組織を残す。白色板状結晶は初晶のセメントタイト (Fe₃C) で、地はオーステナイト (常温ではパーライトになる) とセメントタイトとの共晶のレデブライト (Ledebulite) である。中核部の左右は表層であって、ここにはパーライトバンドと称した焼なまし (退火処理) で生じた脱炭層である。パーライト (Pearlite) は、フェライト (Ferrite : α 鉄または純鉄の金相学上の呼称) とセメントタイト (Cementite : Fe₃C) が交互に重なり合って構成された層状組織で共析鋼 (0.77% C) である。このパーライトが板厚表層側に存在するのは、白鑄鉄の結晶組織の一部が熱 (900℃ ~ 950℃) で分解されて脱炭反応が進行している結果を示す。ただし、中核部に鑄込み時のレデブライト組織を残留させるのは熱処理が、まだ、不十分であったことを表わす。可鍛鑄鉄製品にはなりきっておらず、「脱炭鑄鉄」止りである。④⑤は脱炭層パーライト部の拡大組織である。

次に Photo.2 の①はマクロ組織でみられる縦方向中央部近傍で銹膨れを起した個所の横断面の組織である。中核部は白鑄鉄組織で、こちらでは塊状黒鉛の点在が目止まる。この塊状黒鉛部は②③に拡大組織を示したが銹化が激しく黒鉛の残存はなく錆となる。①の脱炭パーライト層は、組織写真の下側で僅かに認められるが、上側の脱炭層は銹膨れの空間からの酸化があって銹化鉄となり組織の確認はできなかった。Photo.3 は、Photo.2 ①の組織の変化のあるところの拡大である。①~④は銹化鉄で読みとれる組

織の痕跡である。パーライト、白鑄鉄レデプライトを示す。⑤は脱炭パーライト、⑥～⑨は白鑄鉄金属鉄部分で、塊状黒鉛痕跡など提示した。

④ ビッカース断面硬度：Photo.1の⑥は金属鉄部分で脱炭層パーライト個所、⑦は鑄込みまま非脱炭部レデプライト個所の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は、前者で軟化して261Hv、後者は硬くて脆い材質で633HVであった。組織の違いを如実に表わしている。

⑤ CMA 調査：Photo.50のSE（2次電子像）にみられる鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値を示す。分析元素の存在は白色輝点の集中度によって読みとれる。SEに13の番号をつけた介在物は、白色輝点が鉄（Fe）、チタン（Ti）、マンガン（Mn）、硫黄（S）に集中する。定量分析値は、47.1%MnO - 23.4%S - 24.4%FeO - 24.8%TiO₂ - 1.3%V₂O₃組成から、硫化マンガン（MnS）、硫化鉄（FeS）混合組成に砂鉄もしくはチタン磁鉄鉱由来のチタン（Ti）やバナジウム（V）の固溶が想定された。該品が鑄造品なので大陸側に産地を求めるとすると、戦国時代から漢代にかけて砂鉄製錬の可能性を窺わせることとなる。

一方、Photo.49は塊状黒鉛の特性X線像を示す。黒鉛析出個所には脱炭孔の存在と黒鉛の確認を追及したが、錆化が激しくて孔と黒鉛の存在は不鮮明になっていた。地鉄と黒鉛の境界は錆の起因となって侵されやすい弱点個所である。

該品は破損した鋤先を素材として再利用しようとした可能性をもつ。しかし、「脱炭鑄鉄」で表層のみの脱炭で研磨加工は硬くて手に負えなくて放置されたのかも知れない。

(2) UMK - 2：鉄剣の柄

① 肉眼観察：鉄剣の関以下の茎に柄木を当てた剣の柄という名称で提供を受けた供試材である。全長8.3 cm以上、幅1.7 cm、厚み0.6 cmを測る。全体が赤錆に覆われて詳細は不明である。供試材は関側折れ口近くから輪切状に採取した。

② マクロ組織：Photo.35に示す。外周は厚く酸化土砂に囲まれて、木質外装の平行状柄木が存在し、その中に金属鉄が遺存する。この金属鉄は繰返し折り曲げ鍛接線を有し、外層側皮金に極低炭素鋼、内側心金に軟鋼（0.2%C程度）の合せ鍛えの痕跡を残す。なお、外周酸化土砂の一部はスラグ化して、ガラス質溶融物の個所を有する。

③ 顕微鏡組織：Photo.4、5に示す。Photo.4の①②は鉄中の非金属介在物である。前述UMK - 1鑄鉄鉄器の介在物の少ない材質に比べて該品は、大小の介在物が多量に点在する。大きな塊状介在物は、白色粒状酸化第1鉄（FeO）や淡灰色不定形の鉄かんらん石の共晶夾雑物（2FeO・SiO₂）を内蔵した暗黒色ガラス質溶融物から暗黒色非晶質の珪酸塩までが混在する。このように大型介在物を有し、共晶夾雑物を内蔵する鉄素材は、低温還元直接製鉄法にもとづく煉錬鉄が原料となる。

次にPhoto.4の③～⑥、5の①～③は金属鉄を5%ナイトルで腐食して現われた組織である。Photo.4③④の左側の虫喰い状の組織は表層側の皮金極低炭素鋼（0.01%以下）でフェライト結晶粒も大きいものに対して、その右側の細粒フェライトで黒色斑点のパーライトを析出する領域は、心金に相当し炭素含有量が0.1%前後の軟鋼で、2種の異種鋼材の合わせ鍛えの造りが想定される。該品は関より上部がどのような器種か不明であり、もし剣身をもつとしたら関側は断面が紡錘形もしくは菱形を呈してよさそうであるが、それがなかった。しかし皮金に極軟鋼、心金に軟鋼の貼り合せ技術のもとに製作された痕跡を留めるのは、剣か刀の茎（柄）としての可能性をもつものと考えた。Photo.5の①～③もマクロ組織の中央部近傍の組織写真で、こちらは、左側が軟鋼で、右側は反対側表層に近づいた極軟鋼皮金側の組織を示す。また、④の左側で数点の淡茶褐色粒子のある個所は、最表層の酸化土砂、その右側の干割れ状は鉄酸化膜

(Photo.54 の CMA 調査参照)、更に右側の淡灰色部分は木質、その右内側は空洞化して金属鉄に辿り着く。⑤⑥は木質部近傍の拡大である。なお、これらの組織のパーライト析出状況からみて 900℃前後の温度から放冷された可能性をもつ。

一方、⑦⑧は酸化土砂の局部に介在するガラス質溶融物である。珪酸塩系のガラスの中に幾つかの微小鉱物を析出する。これについては CMA の項で触れる。

④ ビッカース断面硬度:Photo.4の⑥~⑧に金属鉄のフェライト結晶粒とパーライト析出量の異なる組織での硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は、皮金側極低炭素鋼でフェライト結晶粒がやや大きい個所で 89.0Hv、心金側で微細結晶 0.10%炭素含有個所で 126Hv である。皮金と心金の材質の違いが硬度値でよく表われた。なお、中粒フェライト個所は 127Hv を呈した。

⑤ CMA 調査:組織の異なる個所の 4 視野を分析している。第 1 番目は Photo.51 に示した白色粒状結晶と淡灰色不定形結晶の介在物である。SE (2 次電子像) に 11 の番号をつけた淡灰色不定形結晶は、白色輝点が鉄 (Fe)、珪素 (Si) に強く、燐 (P) に弱く集中し、定量分析値は 64.1%FeO - 21.4%SiO₂ 組成でファイヤライト (2FeO·SiO₂) が同定される。これには 8.9%P₂O₅ の固溶がある。SE の 12 の番号のつく白色粒状結晶は、白色輝点が鉄 (Fe) と酸素 (O) に強く集中し、定量分析値は 95.0%FeO となりヴスタイト (Wüstite: FeO) が同定される。11 と 12 を合せた大型共晶夾雑物の存在が確認された。塊煉鉄としての履歴提示が可能であろう。Photo.52 も非金属介在物である。ただし、こちらは小型で暗黒色小型不定形介在物である。SE に 10 の番号をつけた介在物は、63.8%FeO - 15.0%SiO₂ - 15.4%P₂O₅ 組成が得られた。ファイヤライト (2FeO·SiO₂) とアイアンフォスフェイト (Iron Ohosphate: Fe₂O₃·P₂O₅) あたりとの混合組成が同定される。

3 番目は Photo.53 に示すガラス質溶融物とその中の微小析出物である。SE に 7 の番号をつけた白色不定形微小析出物は 76.7%FeO - 11.3%TiO₂ - 1.1%Al₂O₃ 組成が得られた。一種の酸化鉄 (FeO) であるが、これに砂鉄特有元素のチタン (Ti) と、アルミナを固溶する。普通あまりみかけぬ低チタン濃度の鉱物相である。また、8 の番号の暗黒色ガラス質基地は、57.2%SiO₂ - 26.8%Al₂O₃ - 9.4%CaO - 2.8%Na₂O 組成で珪酸塩である。また、9 の番号は淡灰色微小短柱状結晶で、定量分析値は 14.9%Mg - 16.2%FeO - 53.5%SiO₂ 組成となり、かんらん石 (Fayalite·Magnesian: (Fe·Mg) 2SiO₄) あたりが同定される。最後は Photo.54 の干割れ状組織である。SE に 5 の番号をつけた淡灰色の基地は、白色輝点は鉄 (Fe)、珪素 (Si)、酸素 (O) に集中し、定量分析値は 49.6%FeO - 37.5%SiO₂ 組成でファイヤライト (2FeO·SiO₂) が同定された。更に SE に 6 の番号をつけた淡褐色微小析出物は、11.7%CaO - 29.0%Al₂O₃ - 53.7%SiO₂ 組成が得られてアノルサイト (Anorthite: CaO·Al₂O₃·2SiO₂) が同定された。以上の介在物以外の鉱物相は、酸化土砂中のものであって、かなりの高温からの析出物である。人工鉱物であって、何でこの様な鉱物が存在するのか理解に苦しむ。

(3) UMK - 3: 鑿状鉄器

① 肉眼観察:柱状片刃石斧の材質転換型の鑿状鉄器である。基部側は折損し、現存長さ 7.2 cm、刃幅 1.2 cm、身幅 1.8 cm、厚み 0.8 cm を測る。片刃直刃を呈し遺存度は良好である。基部側から試料を採取している。切断面からの観察のよると断面は長方形で折り返し曲げ鍛接線を残し、金属鉄の最大厚みは 7 mm を測った。

② マクロ組織:Photo.36 に示す。断面は折り返し鍛接線をもつ高炭素鋼の充当である。断面の上半分は、金属鉄を遺存して白色低炭素域は殆んど無くして過共析鋼 (0.77%C 以上) の様相を帯びる。なお、一部に濃淡色調ムラが認められるのは炭素含有量の偏析を表わす。更に厚み方向の中央には幾筋かの亀裂

が走り、これを起点に腐食が開始している。断面下半分が金属鉄が消滅鬆化しているのは、より亀裂発生が激しくて錆化が進んだ結果と考えられる。この亀裂原因は、長年月の地下埋蔵による時効劣化か、材質起因か定かでない。

③ 顕微鏡組織：Photo.6、7に示す。まず、Photo.6の①②は鉄中の非金属介在物である。当介在物は前述したUMK-1より大きく、量が多い。しかし、UMK-2に対して小さく分散する。また、組成は暗黒色ガラス質の珪酸塩系である。この種の介在物で占められ、ほぼ単相である。変形が大きく、小さく分散されている。反復鍛打の痕跡は明瞭である。銑鉄を加熱して炭素を酸化させ、炭素を徐々に低くして鋼造りを経てきた炒鋼品の可能性をもつ^(注1)。非金属介在物の組成についてはCMAの項で詳述する。

次に金属鉄をナイトル(5%硝酸アルコール溶液)で腐食して現れた組織について述べる。Photo.7の①はマクロ組織の上部で金属鉄が厚み方向にほぼ残存したところの連続写真である。フェライト基地に球状セメンタイト(Globular Cementite)が分散する。炭素含有量は0.9%前後が推定できよう。この組織は鑿状鉄器に成形後、750℃前後の温度で一定時間保定された後、放冷された高温焼もどしの熱処理履歴が想定される。鋼中のセメンタイト(Fe_3C)が球状化すれば層状の場合よりも軟かく、また伸びが大きく、常温作業を施すのに最も適していると同時に、弾性限や強さは小となる。従って工具鋼に対しては、セメンタイトを球状化することは必要である。このような意味から該品の材質は理のかなった組織といえる。②～⑤は拡大組織であって、③は炭素含有量の偏析、④は錆化による鬆(す)の発生具合を示す。同じく腐食(Etching)組織をPhoto.6の③～⑤に転じてみる。③は、マクロ組織中央部で厚み方向の表層部に存在する残り少ない金属鉄である。亀裂割れ口の近傍は、焼もどし中、もしくは廃鉄器となった後の再加熱によるものか脱炭現象を起してフェライトのみが存在し、球状セメンタイトは消去されている。

④ ビッカース断面硬度：Photo.6の⑥～⑨に金属鉄の炭素含有量の異なるところの硬度測定の前痕を示す。⑥は炭素含有量の最も多いところの硬質部で219Hv、⑦は平均的組織で184Hv、⑧は脱炭低炭素域で138Hv、⑨も平均的組織の再チェックで196Hvが得られた。それぞれは組織に対応した値であった。

⑤ CMA調査：Photo.55、56に示す。鉄中の非金属介在物の2種類を調査した。まず1番目は顕微鏡観察の400倍(Photo.6②)で提示した同一介在物の調査結果がPhoto.55である。当介在物は暗黒色ガラス質であり、白色輝点が集中する元素はガラス質($Si + Al + Ca + Mg + K$)と酸素(O)である。定量分析値は、73.7% $SiO_2 - 14.0\%Al_2O_3 - 4.9\%CaO - 2.8\%K_2O$ 組成となる。鉱物相は珪素(Si)を多く含む珪酸塩が同定される。なお、当介在物には1.2% TiO_2 のチタン分を固溶する。製鉄原料は磁鉄鉱の可能性をもつ。更にもう1点同系の介在物であるが2相が観察されるものの調査を行った。Photo.56に示す。SE(2次電子像)に3の番号をつけた暗黒色部ガラス質の定量分析値は、73.7% $SiO_2 - 14.8\%Al_2O_3 - 4.0\%CaO - 2.9\%K_2O$ の組成が得られた。前述したPhoto.55の2の定量分析値に類似した値である。また、SEに4の番号をつけた淡灰色で色調の淡い個所と共存するので、これの定量分析を行った。こちらは、64.9% $FeO - 28.2\%SiO_2 - 6.1\%Al_2O_2$ 組成であった。鉄かんらん石($2FeO \cdot SiO_2$)系が同定されるが、ここの部分は少量である。

以上のように2種類の介在物から珪酸塩系の組成が検出された。当鉄器は磁鉄鉱系の高温還元間接製鋼法にもとづく炒鋼製品の可能性が考えられた。

(4) UMK-4：鑄造鉄斧片

① 肉眼観察：平面が不整形長方形を呈する鑄造鉄斧の破片である。現存最大長さ3.9cm、基部幅2.4cm、厚み0.5cmを測る。長軸片側に片刃の再加工痕跡を止める。脱炭鑄鉄で中核部に非脱炭部を残すが研磨加工を大きく阻害するものではなかろう。なお、該品は鑄造鉄斧の袋部正面の破片らしくもあるが部位の特

定は難しい。

② マクロ組織：Photo.37 に示す。断面から厚みを検討すると酸化土砂を含めて 0.5 cm、銹化鉄からの厚みは 0.35 cm で、金属鉄の残存は 0.2 cm である。また、このマクロ組織から中核部は鑄込時の非脱炭層 (0.5 mm 程度) と、その両側に脱炭層をもつ可鍛鑄鉄製品である。鑄造鉄片でありながら表層は脱炭されているので銹膨れ現象が認められる。

③ 顕微鏡組織：Photo.8、9 に示す。Photo.8 の①は、清浄な鉄で苦心して探し出した鉄中非金属介在物の硫化マンガン (MnS) である。銹鉄特有介在物が提示できた。②③は焼なまし脱炭で生じた黒鉛を起点に形成された脱炭孔である。酸化された銹跡でその痕跡を止める。次に④～⑧、Photo.9 ①～⑥は金属鉄をナイトル (5%硝酸アルコール溶液) で腐食して現れた組織を示す。両方の組織は、マクロ組織でみたように板厚方向の中核部約 0.5mm は過共晶組成の白鑄鉄で、その両端は脱炭組織で層状組織のパーライトが認められる。

④ ビッカース断面硬度：Photo.9 の⑦～⑨に金属鉄の硬度測定の前痕を示す。中核部の非脱炭白鑄鉄の⑧は 588Hv と硬質で、両側の脱炭組織のパーライト部は⑦で 191Hv、⑨は 223Hv と軟質化した値が捉えられた。

⑤ CMA 調査：2 視野の調査である。まず、Photo.57 に片状黒鉛の存在を示す。可鍛鑄鉄製品は、白鑄鉄を 950℃前後の温度で焼なましを加えて製造される。白鑄鉄の中のセメントイトは 950℃の加熱によって遊離セメントイトとオーステナイトとなり、この温度で長く加熱すればセメントイト (Fe_3C) 中の炭素は黒鉛化し、微細な黒鉛として分離する。この様に脱炭の完了した地鉄の素地に混じった黒鉛は焼鈍炭素とも呼ばれて粒状或いは結節状を呈するが、今回提示のものは非脱炭層の片状黒鉛で、まだ粒状化していないものである。Photo.57 の SE (2 次電子像) にみられる黒鉛片状物質は、白色輝点が炭素 (C) で集中し、鉄 (Fe) で黒く抜けるので黒鉛と同定される。この結果は、地鉄が白鑄鉄の証明となる。次に鉄中の非金属介在物の分析結果を Photo.58 に示す。SE (2 次電子像) にみられる介在物は 2 μ 程度の淡褐色微小結晶である。白色輝点は、硫黄 (S)、マンガン (Mn)、チタン (Ti)、鉄 (Fe) などに集中する。定量分析値は、28.1%MnO - 17.6%S - より硫化マンガン (MnS) と、81.7% - FeO からヴスタイトの混合組成が同定される。これには 2.9%TiO₂ の固溶があつて、やはり製鉄原料には砂鉄が候補に挙げられる。

(5) UMK - 5 : 板状鉄斧

① 肉眼観察：平面が縦長梯形で基部幅に比べて刃幅が広がる板状鉄斧である。長さ 6.5 cm、基部幅 2.1 cm、刃部幅 3.2 cm、器厚 0.4 ~ 5 cm を測る。片刃の直刃で一部に刃毀れを起す。基部はやや丸味を帯びて打撃による歪みを生じて鑄造品ではなく鍛造品に想定された。供試材は基部側の片側面を僅かを残して三角形に採取した。

② マクロ組織：Photo.38 に示す。断面は繰返し折り曲げ鍛接線と、濃淡 2 種の炭素含有量の異なる鋼種の合せ鍛えの痕跡を顕著に残す。板厚方向中央部には X 字状の亀裂が走る。

③ 顕微鏡組織：Photo.10、11 に示す。Photo.10 の①②、Photo.11 ①は鉄中の非金属介在物である。介在物の組成は、暗黒色ガラス質スラグの分散した珪酸塩系と、折返し曲げ鍛接時の鉄肌に生じた酸化鉄 (Wustite: FeO) の淡灰色紡錘状結晶が存在する。当鉄器も高温還元間接製鉄法にもとづく炒鋼製品に分類できる。次に Photo.10 ③～⑤は、金属鉄をナイトルで腐食して現れた組織を示す。③をみると、微細粒でやや炭素含有量の多い左側半分と、右半分のフェライト単独で結晶粒が大きい領域とに 2 分割される。前者の拡大が④⑤であり、不完全球状パーライトが析出して炭素含有量が 0.12%前後が想定される。

片や後者は炭素量が0.007%程度の極低炭素鋼である。当鉄器は、軟鋼 (0.12%C) と極軟鋼 (0.007% C) の貼鋼技術にもとづく合せ鍛え製品である。熱処理は700℃前後の温度で長時間保定して放冷したものと推定される。この貼鋼技術は高度の技術を要し、熟練した技術と豊富な経験を必要とする。炭素含有量の異なる鉄素材の鍛接は、最適温度の設定を知らねばならぬ。さもないと亀裂を生ずる。該品のX字状亀裂の走りや、不完全球状セメンタイトの析出は、中国産炒鋼製品としては、少々不具合品の要素を抱えていたと言わざるをえない。Photo.11の②～⑧も前述してきた組織の視野の異なる個所での再確認である。

④ ビッカース断面硬度:Photo.10の⑥～⑨に金属鉄の炭素含有量とフェライト結晶粒度の異なる個所での硬度測定の圧痕を示す。⑥はフェライト結晶細粒個所で142Hv、⑧は粗大フェライトで113Hv、次に不完全球状セメンタイト析出個所の⑦で131Hv、セメンタイトが増加して基地のフェライトが細粒側で168Hvが得られた。相対的な比較において組織に対応した硬度値であった。

⑤ CMA調査:介在物が2種類検出されたので2視野の分析である。まず、最初に淡灰色紡錘状介在物の特性X線像と定量分析値をPhoto.59に示す。SE(2次電子像)に19の番号をつけた異物は、鉄(Fe)と酸素(O)に白色輝点が集中し、定量分析値は103%FeOが得られた。100%FeOのヴスタイトが同定される。次にSEに20の番号をつけた前述介在物の周辺部で暗黒色個所は、73.2%FeOで100%になりきれない。風化のために形成物質は剥落して異常値になっている。

一方、該品の製造履歴を語る暗黒色ガラス質介在物の分析結果をPhoto.60に示す。SE(2次電子像)に5 μ 平方のエリアで定量分析をしたところ、39.3%SiO₂ - 12.4%Al₂O₃ - 12.1%CaO - 6.5%MgO - 1.2%K₂O組成が得られた。珪酸塩系の介在物に同定されよう。ただ、ここで問題となるのは28.3%FeOの存在である。特性X線像で鉄(Fe)の白色輝点をみると、全体に分散して介在物中には結晶での析出ではなくて固溶物の形態である。そうすると、例えばヘーシナイト(Hercynite:FeO·Al₂O₃)とケイ灰石(CaO·SiO₂)の混合組成あたりの可能性を考えるべきであろうか。

(6) UMK-6: 鑄造鉄斧片

① 肉眼観察:鑄造鉄器破片の再生加工品である。基部側から刃部側へかけて約1/3と欠損する。全長3cm、基部現存幅1.3cm(復元推定幅3.0cm前後)、刃幅1.5cm、厚み0.5cmを測る。片刃の直刃であつて、基部幅が刃部幅より大きい造りであるが扁平片刃石斧タイプである。供試材は基部と刃部中間位置から採取した。研磨面は刃部に平行している。

② マクロ組織:Photo.39に示す。板厚方向中央部に過共晶組成(4.23%C以上)の白鑄鉄組織があつて、その両側表層部は錆化鉄となる。錆化部は脱炭組織であつて、そちら側より先に酸化を受けたと考えられる。また、中核部の白鑄鉄には塊状黒鉛が点在するのは、焼なまし脱炭処理を受けた痕跡である。ただし、熱処理は十分でなく可鍛鑄鉄製品にはなりきらずに、表層のみ脱炭された中途の「脱炭鑄鉄」であつた。

③ 顕微鏡組織:Photo.12に示す。①は鉄中の非金属介在物で、微小(2 μ 程度)黄褐色異物は硫化鉄(FeS)系で、その周囲に半透明粒状のFe-Fe₃C-Fe₃Pの三元系共晶であるステダイト(Steadite)が存在する。これは鑄鉄特有の介在物であつて、CMAの項で詳述する。②～⑧は金属鉄をナイトルで腐食して現れた組織である。②をみると中核部の組織は、白色板状結晶は初晶のセメンタイトで、地はオーステナイト(常温ではパーライトになる)とセメンタイトの共晶のレデプライト(Ledebulite)がある。これに塊状黒鉛が析出する。両側の最表層は錆化されてゲーサイト(Goethite: α -FeO·OH)となるが、その内側(③が拡大組織)は小片黒鉛が多い個所で基地は脱炭組織のフェライト(Ferrite)が認め

られる。マクロ組織で述べたように表層部のみの脱炭を受けた「脱炭鑄鉄」である。

④ ビッカース断面硬度：Photo.12の⑥～⑧に脱炭・非脱炭組織の確認を目的とした硬度測定の影響を示す。⑥⑧は脱炭されたフェライト基地で硬度値は軟質の119Hvと123Hvであった。これに対して鑄込みままの非脱炭組織のレデライト部は硬質で754Hvを呈した。硬度値は明瞭に脱炭・非脱炭の結果を証明している。

⑤ CMA調査：Photo.61に微小黄褐色介在物とステダイトの特性X線像と定量分析値を示す。SE（2次電子像）に16の番号をつけた介在物は、白色輝点が鉄（Fe）、硫黄（S）、チタン（Ti）に集中する。定量分析値は、64.7%FeO - 35.6%S - 64.7%FeO - 14.9%MnO - 2.4%TiO₂組成が得られた。鉱物相は、硫化鉄（FeS）と硫化マンガン（MnS）の混合組成に、砂鉄特有元素のチタン（Ti）の固溶が同定された。更にSEの17の個所の5μ平方エリアでは、白色輝点が燐（P）に集中し、定量分析値は130%FeO - 16.8%P₂O₅が得られた。鉄は酸化物定量のため100%を越えているが、ここはFe - Fe₃C - Fe₃Pの三元系共晶ステダイト領域であり、セメンタイト（Fe₃C）は白色輝点には現れない。因にステダイトの組成はFe：91.5%、C：1.96%、P：6.89%である。16.8%P₂O₅ ≒ 7.3%Pからみて、12の番号の個所はステダイトに同定される。

次にPhoto.62は、片状黒鉛（顕微鏡組織では塊状黒鉛と表わしている）の特性X線像を示す。セメンタイト（Fe₃C）の炭素は白色輝点で捉えられないが、黒鉛はしっかりと検出できる。この黒鉛の近傍においても燐（P）が存在するのでステダイトの共伴とみてよかろう。なお、ここで黒鉛の存在を証明したのは、可鍛鑄鉄製造の焼なまし処理のあったセメンタイトの炭素の黒鉛化を実証するためである。

(7) UMK - 7：鑄造鉄斧片

① 肉眼観察：平面が不整形形状の鑄造鉄刃^(註2)の破片である。鑄造鉄斧の一面が開いた窓あき部分をもつ鋤先の可能性がある。しかし、刃先と袋側基部を欠損し、側面も片側のみの遺存である。供試材は側面の長軸方向から採取した。

② マクロ組織：Photo.40に示す。断面は銹化鉄を含めての厚み0.9cm、長さ4.0cmを測る。金属鉄は0.65×3.8cmを残す。基地の白色は脱炭組織のフェライトで、これに塊状黒鉛と下部に共晶黒鉛を析出し、それらを起点に点蝕が発生している。該品は「脱炭鑄鉄」から進展した黒心可鍛鑄鉄製品に分類される。

③ 顕微鏡組織：Photo.13～15に示す。Photo.13の①は、片状黒鉛に囲まれて淡黄褐色で微小異物の硫化物系介在物が検出できた。介在物組成はCMAの項で詳述するが、当製品は鑄造品と判別がつく。なお、①では片状黒鉛と書いたが、②③にある黒鉛は、小片状黒鉛が放射状に析出するのでばら状黒鉛と分類すべきであろう。Photo.14、15はナイトル腐食（Etching）後の組織である。焼なまし脱炭を受けて基地はフェライト化し、局部的にパーライトを残す。しかし、強烈に目につくのは全面に焼鈍炭素（Temper Carbon）とも称される細かい粒状、結節状黒鉛、あるいは共晶黒鉛などである。ただし、この各種黒鉛個所は脱炭に際してCOガスの抜けた孔があり、これより銹化が進んで銹点となったものも多い。例えば拡大組織で点蝕部をみると、Photo.14の②④、Photo.15の②④などである。ここで注目して頂きたいのは鋤先刃先側に黒く分布する共晶黒鉛（Eutectic Graphite）である。この組織の鑄鉄は耐摩耗性が優れた性状を有するものである。更に共晶黒鉛組織は、TiO₂に接触されて生ずる特質をもつ。（近代製法ではCaO、MgO、Al₂O₃接触法などあるがここでは触れない）^(註3)。このTiO₂の存在は、非金属介在物に含有されるTi分の析出から傍証される。Photo.14の①の下端で⑤に拡大組織で示した写真をもとに共晶黒鉛を具体的に述べておく。白い部分はフェライト、マリモ状の黒色部が共晶黒鉛であ

る。この共晶状黒鉛は急冷された場合に析出しやすいともいわれる。鋤先刃先側に検出された共晶黒鉛が偶発的な産物でなくて、人為的な発案(経験)であるならば、これもまた驚嘆すべき高度の技術といえる。

④ ビッカース断面硬度：Photo.13の⑧はパーライト部、⑨はフェライト部の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は前者が190Hv、後者が113Hvである。鋳鉄でありながら完全に軟化した値となる。焼なまし脱炭が証明される。

⑤ CMA 調査：Photo.63に微小介在物の特性X線像と定量分析値を示す。SE(2次電子像)に23の番号をつけた介在物は、白色輝点が鉄(Fe)、硫黄(S)、マンガン(Mn)、チタン(Ti)などに集中する。定量分析値は、64.7%FeO - 20.2%S - 38.3%MnO - 3.7%TiO₂組成が得られた。鋳物相は、硫化マンガン(MnS)と硫化鉄(FeS)の混合組成が同定される。これには砂鉄由来(チタン磁鉄鉱も無視できないが)のTiの固溶があつて共晶状黒鉛の析出にも繋がると考えている。次に焼なまし脱炭で生じた塊状黒鉛と脱炭孔が錆化されて錆点となったところの確認調査である。Photo.64に特性X線像を示す。SE(2次電子像)にみられる塊状黒鉛跡は、炭素(C)に白色輝点が強く集中し、酸素(O)は極く微弱に反応するので、黒鉛の存在を認めてよからう。黒心可鍛鋳鉄の黒鉛と想定できる。

(8) UMK-8：板状鉄斧

① 肉眼観察：刃部側を折損した大型板状鉄斧である。刃幅側(5.5cm)よりも基部幅(4.1cm)が狭く、縦長梯形(現存長さ12.2cm)となろう。器厚は0.8~0.9cmを測る。全ての稜線は明瞭でなく、側面からの敲打痕がみられ、基部頭は丸く盛上る。また、平面は各コーナー側が厚く、中央に向つて僅かに薄くなる傾向をもつ。遺存度は良好で、一見鋳造品に見間違える程であるが詳細に観察すると上記の如く、鍛造品の痕跡が濃厚となる。調査試料は刃先寄りから横断面方向に全幅から採取した。

② マクロ組織：Photo.41に示す。外周部皮金が錆化してゲーサイト(Goethite： α -FeO·OH)となるが内部は、炭素量に偏析をもち、水平方向に繊維状組織のメタルフロー(Metal Flow)を走らせ、鍛造品であることは明瞭に表示する。折り返し鍛接線は目立たず丁寧な仕上げである。

③ 顕微鏡組織：Photo.16~18に示す。Photo.16の①は鉄中の非金属介在物である。暗黒色ガラス質溶融物が細かく分散している。前述したUMK-3、5と同類の珪酸塩系である。組成についての詳細はCMAの項で述べるが、該品も炒鋼製品に分類できる。Photo.18、19は金属鉄を5%ナイトルで腐食した組織を示す。フェライト基地で白地は炭素含有量が0.007%程度、黒色を帯びた個所の炭素量は0.15%前後が想定される。次に当板状鉄斧の特質は、黒色部が高炭だけでなく、この場所は表層部近傍であり焼入れ組織の針状マルテンサイト(Martensite)を留め、内部では球状セメンタイトを析出する。熱処理は焼入れ後に700℃前後の高温焼もどしが実施されたと推定される。

④ ビッカース断面硬度：Photo.16の④~⑨に金属鉄の組織の異なる個所の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は最も軟質のフェライト部分で129Hvからマルテンサイトを残留した硬質部の220Hvまでにバラツキをもつ。しかし、当板状鉄斧は伐採具としての機能をもち、過去の脱炭鋳造鉄斧(可鍛鋳鉄製品)より数倍優れた材質であったことは疑いのない事実である。

⑤ CMA 調査：Photo.65に鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値を示す。介在物は、暗黒色ガラス質溶融物で、SE(2次電子像)に21の番号をつけたところの定量分析値は、58.6%SiO₂ - 14.8%Al₂O₃ - 17.4%CaO - 3.2%MgO - 2.7%K₂O組成が得られた。鋳物相は珪酸塩が同定される。次に同一介在物内に淡灰色の微小析出物が少量共存する。SEに22の番号をつけたところの定量分析値は、42.4%FeO - 33.5%SiO₂ - 4.3%Al₂O₃ - 5.4%CaO - 1.3%MgO組成である。主要鋳物相は鉄かんらん石のファイヤライト(Fayalite：2FeO·SiO₂)とガラス分の固溶である。

(9) UMK-9: 鑄造鉄斧

① 肉眼観察: 平面は不整三角形を呈した鑄造鉄斧の破片である。底辺側に両刃をつけており、石包丁形鉄器もしくは鎌などへの転用の可能性も考えられる。残存高さ 3.2 cm、現存刃部長さ 3.5 cm + α 、厚み 0.45 cm を測る。試料は頂点より垂線を下した三角形形状のものを採用した。

② マクロ組織: Photo.42 に示す。断面は中核部に過共晶組成 (4.23% C 以上) の白鑄鉄組織を約 0.7 程度残して両端は焼なまし脱炭を受け、全面パーライトの共析組織を呈する白心可鍛鑄鉄製品であった。ただし、脱炭鑄鉄気味である。なお、焼なまし脱炭層の最表層には、完全脱炭されたフェライト層もあった可能性をもつが、ここは錆化消滅している。一方、刃部断面は肉眼観察で両刃と表現したが、これをマクロ組織から完全に否定する形状でもなく、緩い片刃にとれぬこともない程度の造りである。また、白鑄鉄バンドの中には数点塊状黒鉛から錆状斑点に変化したものが点在する。

③ 顕微鏡組織: Photo.19、20 に示す。Photo.19 の①は鉄中の非金属介在物である。2 μ にも満たぬ微小淡褐色異物の硫化マンガン (MnS) 系で銑鉄特有介在物である。また、Photo.20 の②は腐食 (Etching) なしで研磨ままの組織を示す。白色部が金属鉄で、中央よりやや右側にずれて淡く横刻みのレデプライトの痕跡が認められる。更に、その右寄りに 2 点の楕円状の錆跡があるのは塊状黒鉛の酸化物である。①にレデプライトと塊状黒鉛酸化物の拡大組織を添えている。次は金属鉄のナイタル腐食 (Etching) 後の組織に触れる。Photo.19 の②は、中核部に非脱炭過共晶組成白鑄鉄を挟んで、全面パーライトに変化した脱炭組織が認められる。③④は両サイド脱炭層の拡大組織で、⑤⑥は非脱炭・脱炭境界を含めた拡大組織である。脱炭層は全面パーライトに微量の初析セメンタイトを析出する。

④ ビッカース断面硬度: Photo.20 の④~⑥に金属鉄の硬度測定の前痕を示す。硬度値は、非脱炭白鑄鉄の⑤は 532Hv と硬質で、焼なまし脱炭パーライト域の④⑥両サイドは 254Hv と 290Hv と変化する。焼なまし脱炭効果は確実に現われていた。なお、290Hv を呈したパーライト組織の個所は微量の初析セメンタイトを含む領域であった。

⑤ CMA 調査: Photo.66 に微小淡褐色介在物の特性 X 線像と定量分析値を示す。SE に 24 の番号をつけた介在物は、白色輝点が硫黄 (S)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe) に集中し、定量分析値は、57.8%FeO - 40.8%MnO - 22.5%S の組成が得られた。鉱物相は硫化マンガン (MnS) と硫化鉄 (FeS) の混合組成が想定される。こちらは砂鉄特有元素のチタン (Ti) の検出はなくて、製鉄原料は鉱石となろう。次に Photo.67 は、塊状黒鉛の酸化物として提示したものの特性 X 線像である。白色輝点は炭素 (C) に強く、酸素 (O) に弱く集中する。当楕円状異物は黒鉛とみてよからう。

(10) UMK-10: 鑄造鉄斧片

① 肉眼観察: 平面が不整形形状の鑄造鉄斧の破片である。木質が 2 条長軸方向に平行して付着する。発掘調査担当者側では鉄製穂摘具の手鎌あたりを想定していたが定かでない。付着した木質は、やや新鮮さを感じるので、時代の下った 2 次的な付着も懸念される。全幅 (刃部側) 4.7 cm + α 、基部幅 3.0 cm + α 、全長 2.0 cm、厚み 0.3 cm を測る。試料は全長の断面を観察できるように切出した。刃部側下端は錆化が激しくて片刃・両刃の鑑別はできなかった。残欠断面では下端は閉じる傾向が読みとれた。

② マクロ組織: Photo.43 に示す。断面は全体に錆化が著しく、中核部は白鑄鉄のレデプライト痕跡を僅かに残して大きく空洞化し、それを錆化鉄のゲーサイト (Goethite: α -FeO \cdot OH) が「 Γ 」状に取り囲む。残留金属鉄は全くなかったが、該品も焼なまし脱炭処理を経た鑄造鉄斧破片と判明した。

③ 顕微鏡組織: Photo.21、22 に示す。マクロ組織で観察された中核部白鑄鉄組織は人工的な腐食

(Etching)ではなくて酸化による自然腐食で現われた組織である。研磨面に金属鉄は一切残存せず、微小非金属介在物は検出できなかった。一方、組織は錆化鉄でありながら焼なまし脱炭の痕跡を残留させる。⑤は左側に中核部非脱炭白鑄鉄のレデプライトが析出し、右側の表層側へ移動すると脱炭された層状組織のパーライトが認められる。該品は鑄造鉄器の焼なまし脱炭処理を経た破片である。錆化鉄なので硬度測定は実施していない。

④ CMA 調査：Photo.68 に示す。錆化鉄 (Goethite： α -FeO·OH) となり鉄中の非金属介在物を隈無く捜したが未検出におわった。そのため、レデプライトの基地を分析している。SEに14の番号をつけたところは、77.3%FeO - 0.6%S - 0.4%P₂O₅ - 0.4%SiO₂ 組成が得られた。鉄以外は2次汚染物質の可能性が強い。SEの15は133%FeOであり、100%鉄で純度の高い銑鉄程度の情報しか得られなかった。

(11) UMK - 11：袋状鉄斧

① 肉眼観察：平面は中央部が僅かに括れ基部幅より刃部幅が少々大きくなるが長方形に近い形状である。袋部は楕円形で、折り返しの両端は大きく離れて柄袋は刃部の2/3を有する深い造りである。刃先は弧刃をなす。なお、袋部内面には木質が残存する。調査試料は刃先中央部からノッチ状に切り出した。金属鉄の遺存度は頗る良好である。

② マクロ組織：Photo.44 に示す。断面刃先は両刃状を呈し、刃先の大半は暗黒色の高炭素含有で左表層側に淡灰黒色の繊維状組織のメタルフロー (Metal Flow) がみられる。鍛造品と判定できる。該品は本来は心金を中心に両側に皮金を鍛接したサンドイッチ状の合せ鍛えと推定されるが、右側皮金は錆化消滅している。両刃外周を形づくる灰色状帯は錆化鉄のゲーサイト (Goethite： α -FeO·OH) であるが内部の金属鉄はよく残る。

③ 顕微鏡組織：Photo.23、24 に示す。Photo.23の①に鉄素材の繰返し折り曲げ時に酸化防止に粘土汁を塗布したものがスラグ化した鍛接線の介在物である。また、Photo.24の①に鉄中の非金属介在物を示す。暗黒色ガラス質溶融物である。この組成については、CMAの項で詳述する。Photo.23の①は基部寄りの横断面でナイタル腐食 (Etching) 後の金属組織である。該品は炭素含有量の高低 (0.7%と0.4%+0.5%程度) 3種類の合せ鍛え製品である。皮金は①の上部に相当し、組織は白黒斑模様のフェライト・パーライトを析出する。フェライト・パーライトの拡大組織はPhoto.24の④～⑦に示す。また、①組織の下方は、板厚方向中央の心金部分に相当する。金属鉄の組織は、一面に細かい針状もしくは麻の葉状のマルテンサイト (Martensite) である。ただし、この組織は通常のマルテンサイトよりも酸 (ナイタル) に腐食され易いので焼もどし (200℃前後) マルテンサイトと見做される。該品は外観では袋部の折り返し両端が大きく開いて国産品とみる要素を抱くが^{3(注4)(注5)}、金属鉄の材質をみると、大陸側の炒鋼製品で鍛造技術も高度である。更に熱処理は、焼入れ・低温焼もどしを施して靱性を重じた優品となっていて、国内の原始鍛冶では追いつかない製作技術が読みとれた。

④ ビッカース断面硬度：Photo.23の③～⑤に基部寄りの金属鉄の硬度測定の前痕を示す。③⑤は微小針状組織のマルテンサイト部の前痕で、硬度値は555Hv、548Hvである。また、④はフェライト・パーライト部で192Hvを示した。更に、Photo.24の⑨は刃先先端のマルテンサイト部の硬度前痕で、こちらは608Hvであった。それぞれ組織に対応した値となる。心金は硬質で鋭利性、皮金で耐衝撃性を具備させた複合材質で日本刀の遡源ともいえよう。

⑤ CMA 調査：Photo.69は、折り返し鍛接線に生じた介在物の特性X線像と、定量分析値を示す。SEに12の番号をつけた淡灰色展伸状介在物は、61.7%FeO - 30.2%SiO₂ 組成が得られて、鉄かんらん

石 (Fayalite : $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) が同定される。これには微量のガラス分 ($\text{Al} + \text{Ca} + \text{Mg} + \text{K}$) を固溶する。次に SE に 13 の番号をつけたガラス質と白色粒状結晶の共存する介在物は、 $55.9\% \text{FeO} - 32.5\% \text{SiO}_2 - 7.8\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 2.9\% \text{CaO} - 1.3\% \text{MgO} - 2.7\% \text{K}_2\text{O}$ 組成である。こちらは、ガラス中に微細フェライト ($2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) が析出するので、これと珪酸塩系の混合組成と考えられる。また、SE に 14 の番号をつけた白色粒状結晶は、 $96.7\% \text{FeO} - 5.1\% \text{SiO}_2 - 2.0\% \text{Al}_2\text{O}_3$ 組成でヴスタイト (Wüstite : FeO) である。

一方、鉄中の非金属介在物の特性 X 線像と定量分析値が Photo.70 である。当介在物は、ガラス質系の紡錘状に伸びたもので、白色輝点がガラス質成分 ($\text{Si} + \text{Al} + \text{Ca} + \text{Mg} + \text{K}$) と酸素 (O) に集中する。定量分析値は、 $46.1\% \text{SiO}_2 - 9.2\% \text{Al}_2\text{O}_3 - 1.3\% \text{CaO} - 1.7\% \text{MgO} - 2.0\% \text{K}_2\text{O}$ 組成で珪酸塩系が同定される。ただし、該品には $41.3\% \text{FeO}$ が検出されたが介在物そのものは非晶質である。鉄分はたんなる固溶であろうか。何れにしろ、当介在物は炒鋼製品に関連した派生物と推定される。

(12) UMK - 12 : 棒状鉄片

① 肉眼観察 : 穿孔具の一種であろう。基部から身部の断面は方形で、刃先側は漸次潰されて長方形断面に変化してゆく。ただし、刃部は折損して形状は不明である。現存長さ $7.4 \text{ cm} + \alpha$ 、基部 0.6 cm 平方、中央身部は 0.45 cm 平方に括れて刃部側へは $0.5 \times 0.25 \text{ cm}$ と潰される。丸鍛えが想定される。試料は中央身部からの採取で断面方向 (C 方向) を研磨面とした。

② マクロ組織 : Photo.44 に示す。断面の中核部は炭素量の少ない極軟鋼で、これに材質硬化の浸炭処理が施されていて左表層側は黒く高炭素含有組織を呈している。なお、中核部は加工率の低い心金を準備して、これに加工度の高い微細フェライト結晶粒素材を鍛接してある。一方、左上の浸炭高炭部が一部捲れているのは何故であろうか。鉄器製作後の早い時期に破損して、その時の様相を止めているのであろうか。

③ 顕微鏡組織 : Photo.26 の①~③に鉄中の非金属介在物を示す。組成は暗黒色ガラス質スラグの珪酸塩系である。詳細は CMA の項で述べる。Photo.25 の①は金属鉄のナイタル腐食で現れた組織である。錆化鉄の内側は黒い高炭素域の浸炭層を形成し、内部の地の組織は白いフェライトに変わる。浸炭とは、低炭素鋼を木炭粉で塗して変態点 (730°C) 以上で加熱すると、高温で発生した CO ガスが鋼材表面に侵入して炭素が拡散によって内部に浸透し、表層は炭素量の高い鋼に変化する。この操作がなされた鉄器である。②③は、浸炭の拡大組織である。浸炭部の最表層は錆化して一部消滅するが、微かに初析セメンタイトの析出があって、その内側になると共析層となる。更に内部へ入るとフェライトが網状に現われる拡散層へと変化する。なお、この拡散層からまた内部へ進むと微細フェライト粒の領域となり、更に中核部へ到着すると異材と考えられるフェライト粗大域が現われる。異材粗大フェライト結晶粒域は、円弧状の鍛接線を持ち、これを起点に錆が発生して低加工率を現わしている。当穿孔具は、中核部に極低炭素鋼のあまり鍛打を加えていない素材を準備し、これに僅かに炭素を含む微細フェライト結晶をもつ素材を巻き付け、成形後に浸炭処理を施したと推定される。

Photo.26 の④~⑨のフェライト結晶粒は、冷間加工を受けて歪をもった組織である。マクロ組織でみた捲れ部分近傍であり、局部的にみられる所である。他の組織の結晶は斉粒となっているので、破損時に受けた歪で、一種の繊維組織であろう。

④ ビッカース断面硬度 : Photo.25 の③~⑤に金属鉄の硬度測定 of 圧痕を示す。まず③は、全面パーライトの共析鋼となった浸炭域の硬度値で 286Hv であった。組織に対して若干高め傾向にある。浸炭作業後は「肌焼き」という熱処理を行なって、浸炭部を硬化させる手法がある。これの採用であろうか。④は

浸炭母材の極軟鋼微細フェライト結晶粒の硬度であって、値は215Hvである。最後に⑤は芯金の粗大フェライト域で189Hvであった。相対的には納得できる値である。ただし、各値は組織に対して幾分高め傾向にある。時効劣化が現われているのだろうか。

⑤ CMA 調査：Photo.71 に鉄中の非金属介在物の特性X線像と定量分析値を示す。対象介在物は、顕微鏡観察においては暗黒色ガラスの非晶質にみえたが該品は黒地に淡灰色の縞模様の結晶である。SEに8と10の番号をつけた淡灰色鉱物相の定量分析値は、8が20.1%CaO - 10.8%MgO - 54.0%SiO₂ - 12.5%FeO、10は20.0%CaO - 10.9%MgO - 54.6%SiO₂ - 11.7%FeO組成となる。両者は近似した組成で、モンテセライト (Monticellite: CaO·MgO·SiO₂) とファイヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO₂) あたりの混合組成の可能性を提示しておく。SEの9の番号の個所で暗黒色側は、64.3%SiO₂ - 11.0%Al₂O₃ - 3.2%CaO - 1.3%MgO - 3.7%K₂O組成で珪酸塩系が同定される。しかし、これにも11.5%FeOの固溶がある。いずれにしても珪素(Si)を多く含み、アルミニウム(Al)、カルシウム(Ca)、マグネシウム(Mg)などの元素の含まれた介在物の検出は炒鋼製品の可能性を十分に持つものである。

なお、この介在物には3点共に1.2～1.9%TiO₂を固溶してバナジウム(V)は殆んど含まれないが、0.1～0.3%ZrO₂の含有があり、製鉄原料は、砂鉄の可能性も無視できないと考えられる。

Photo.72は芯金部の粗大フェライト結晶粒を呈した鉄素材に点在する白色粒状介在物の特性X線像と定量分析値である。SEに7の番号をつけたところは、99.2%FeO組成が得られた。ヴスタイト(Wüstite: FeO)に同定される。

(13) UMK - 13: 板状鉄斧

① 肉眼観察：平面は、基部幅(3.7cm)と刃幅(3.9cm)があまり変らない短冊形で厚み0.7cmを測る。基部頭は僅かに波うち、刃部は両刃(マクロ組織からみて)で弧状となる。調査試料は側面寄りの刃先をノッチ状に切出した。

② マクロ組織：Photo.45に示す。断面は錆化がかなり進行するが辛じて心金は0.2mm幅で極低炭素鋼を白く帯状に残し、また、皮金部分も両端に0.6mm幅で黒から白黒斑模様の高炭素鋼の充当が確認された。ただし、刃先には高炭素鋼がくるような造りである。(マクロ組織の10倍を参照)軟・硬異材の合せ鍛えの鍛造品である。

③ 顕微鏡組織：Photo.27、28に示す。Photo.27の①②は鉄中の非金属介在物である。暗黒色ガラス質溶融物の点列である。珪酸塩系であり、CMA調査の項で詳述する。これも炒鋼製品に分類される。Photo.27の③～⑤、Photo.28の①～⑤は残存金属鉄をナイトル腐食した組織である。Photo.27の⑤は刃先寄りマクロ組織のみた右側横断面のミクロ組織を示す。表層側の皮金は、黒から白黒斑模様のフェライト・パーライトを析出する高炭素鋼である。それに対して内側中央部に位置する心金は、白色を呈して炭素含有量が殆んどないフェライト結晶粒で構成される。これに対して、前述した皮金の延長線上の刃先は③に示すように、一面に細かい針状もしくは麻の葉状にみえる焼入れ組織のマルテンサイトである。急冷によって得られた組織で非常に高い硬さを特色とする。

同じくPhoto.28の①は、マクロ組織の左側で基部寄りでの皮金と心金の組合せを示す。皮金は、右側皮金と同じように白黒斑組織のフェライト・パーライトである。また、内部心金は腐食を受けながらフェライト結晶粒の脊粒組織を留める。当板状鉄斧は心金に極低炭素鋼を中心に、両サイドに高炭素鋼を当てたサンドイッチ状の構造で、鋭利性と耐衝撃性を兼備えた刃物に造りあげている。前述したUMK - 11袋状鉄斧に近似した材質ともいえる。

④ ビッカース断面硬度：Photo.27の④に刃先マルテンサイト析出部の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値

は756Hvと頗る硬い。Photo.28の②は白いマルテンサイト地に一部淡灰色パーライトの析出したところの硬度圧痕である。値は、686Hvとこも前者に準じて硬い。次に③は針状組織のマルテンサイトで509Hv、④は心金で白色地のフェライトは140Hv、⑤はフェライト・パーライト部で283Hvを呈する。以上の硬度値からも判るように硬・軟組合せで靱性の発揮できる材質に仕上げている。

⑤ CMA調査：Photo.73に鉄中の非金属介在物の特性X線像と定量分析値を示す。暗黒色ガラス質の展伸介在物である。白色輝点は、ガラス質成分（Si + Al + Ca + Mg + K）と酸素に集中し、SE（2次電子像）に6の番号をつけた個所の定量分析値は、65.9%SiO₂ - 13.4%Al₂O₃ - 6.9%CaO - 2.4%MgO - 4.8%K₂O - 1.2%Na₂O組成の珪酸塩が同定される。なお、これには5.4%FeO - 2.4%MnOの固溶があつて、製鉄原料は鉱石系が想定される。

(14) UMK - 14：鉄鋏

① 肉眼観察：柳葉形タイプで大型の鉄鋏である。刃部長さ4.0cm、基部長さ3.9cmで全長7.9cmに達し、全幅2.2cm、厚みは0.35cmを測る。調査試料は身の茎寄りからノッチ状の切り込みを行った。研磨面は横断面になる。

② マクロ組織：Photo.45に示す。半硬鋼（0.3%C）レベル鉄素材の繰返し折り曲げ鍛接がなされた鍛造品である。炭素含有量は、僅かばかりの偏析をもつ。しかし、鍛接線はよく締まり、優れた材質に仕上げている

③ 顕微鏡組織：Photo.29に示す。①②は鉄中の非金属介在物である。これもガラス質の珪酸塩であり、組成の詳細はCMAの項で述べる。③～⑤は金属鉄をナイトル腐食したところで現われた組織である。白いフェライトは針状気味で、少量のパーライトと共存する。③の左側はやや白味を帯びて炭素量が少なく、右側は黒味を増して高炭素含有となる。それでも炭素含有量はマクロ組織で述べたように半硬鋼（0.3%C）レベルである。熱履歴は1,000℃前後からの放冷をえている。

④ ビッカース断面硬度：Photo.29の⑥～⑧に示す。⑥は最も炭素含有量の少ない個所で硬度値は160Hv、炭素量の多いところで⑦が220Hv、⑧は221Hvであった。組織に見合った値である。

⑤ CMA調査：Photo.74に鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値を示す。介在物は紡錘状のガラス質溶融物である。SE（2次電子像）に5の番号をつけた個所では、白色輝点がガラス質成分（Si + Al + Ca + Mg + K）と酸素（O）に集中し、定量分析値は、47.3%SiO₂ - 11.9%Al₂O₃ - 26.5%CaO - 5.9%MgO - 5.1%K₂O組成が得られて珪酸塩が同定された。始発原料を鉱石とする炒鋼製品と想定された。

(15) UMK - 15：鑄造鉄器破片

① 肉眼観察：平面は大型葉形の鋏身で茎側を折失した破損品らしくも見える。現存長さ5.7cm、全幅3.0cm、器厚0.4cmを測る。調査試料は、刃部側からノッチ状に切出した。研磨面は長軸方向である。

② マクロ組織：Photo.46に示す。断面は中核部に鑄込み時のレデプライト白鑄鉄を残し、これを挟んで両側は焼なまし脱炭組織のフェライトパーライト組織、更にその外側にフェライト単独組織をもつ三重構造であった。鑄造鉄器の破片を素材として転用再生鉄器としたものの、更に破損した鉄器であろうか。可鍛鑄鉄製品に分類される。

③ 顕微鏡組織：Photo.30、31に示す。鉄中の非金属介在物は、金属鉄全体を隈なく捜したが清浄な組織であつて1点も検出することができなかった。Photo.30の①②は研磨ままで腐食（Etching）なしの組織である。黒地の左側半分は銹化鉄で、白色網目状は脱炭組織のパーライトの痕跡である。右半分の白

地に黒色棒状組織は非脱炭白鑄鉄のレデプライト組織を示す。③は①②個所を含めて板厚方向の金属鉄全体を入れてのナイタル腐食組織を提示した。中核部は鑄込み時の過共晶組成の白鑄鉄組織で、左側は前述した銹化鉄の脱炭組織でパーライト痕跡、これに対応する金属鉄の焼なまし脱炭組織が右側になる。フェライト基地に層状パーライト部分が島状に分布する。④は非脱炭白鑄鉄組織の拡大、⑤は脱炭パーライト層の拡大を示す。また、⑥⑦は脱炭・非脱炭部の境界にある遊離セメントタイトが黒鉛化し、それがCOガスとなって抜けて出来た脱炭孔（不定形黒点）を参考までに紹介しておく。

次にPhoto.31の①は、当鑄造鉄器の標準的組織を示す。中核部に鑄込み時の過共晶組成の白鑄鉄組織を残留させて、その両側に焼なまし脱炭で派生したフェライト・パーライト組織があり、もう一層外側にフェライト単相を擁して3重構造となる。ここで注目すべきは、この外層フェライト結晶粒が長柱状を呈している点である。①組織の下端のフェライト結晶は放射状の細長い柱状晶は、金型いわゆる鉄範使用の急速冷却で発生した組織の可能性をもつものである。すなわち、結晶粒の形及び大きさは冷却の際、熱が運び去られる方向に支配されるもので、速に冷却するときは殊にそうである。例えば溶融した金属を鑄型に注ぎ込んで冷却させれば、速く冷える鑄物の表面に多くの核が出来、緩く冷える中心部に殆んど出来ない。故に結晶は表面に平行な方向には、隣りの結晶のために阻げられて発達できないが、中心の方向には阻げるものがないから長く発達する。^(注6) 以上のような観点から該品は鉄範使用の白心可鍛鑄鉄製品を想定した。列島内での鉄範使用可鍛鑄鉄の事例は福岡市所在、比恵遺跡第51次調査の二条凸帯鑄造鉄斧で述べていて^(注7)、今回は報告2例目となる。因に中国古代での鉄器の鉄範使用技術は戦国時代晩期にまず燕と趙で発明応用されたと考えられているので^(注8)、今回調査品も産地は中国東北部が想定されよう。

④ ビッカース断面硬度：Photo.31の②～⑤に金属鉄の硬度測定 of 圧痕を示す。②は脱炭組織最外層のフェライト柱状晶の硬度であり、値は156Hvである。③は同じく脱炭部であるがフェライト・パーライト部で214Hv、④は鑄込みままの過共晶組成白鑄鉄のレデプライトで硬質の501Hv、⑤はやはり反対側の最表層で141Hvであった。硬度値は、脱炭と非脱炭で明瞭に差異を表わしている。

⑤ CMA 調査：Photo.75に示す。母金属が過共晶組成の白鑄鉄なので、非金属介在物は微細な硫化マンガン(MnS)か硫化鉄(FeS)あたりと予想して、金属鉄面を隈なくチェックしたが発見することができなかった。Photo.75に微細異物でそれらしい形態をSE(2次電子像)に示して2視野の分析を行った。しかし、2視野共に138%FeOと137%FeOの値しか得られなかった。酸化鉄定量のために100%を超えた数字になっているが100%金属鉄であって、3と4の番号のついた個所はシミであった。とにかく清浄な鉄で、非金属介在物は採取試料内では存在しなかった。

(16) UMK-16：鑿状鉄器

① 肉眼観察：鑿状鉄器と呼称しているが板状鉄斧で扁平片刃石斧を鉄器に転換した扁平片刃鉄斧とすべきではなかろうか。刃部は実測図では両刃になっているがマクロ組織から観察すると片刃である。また、刃先は直刃とも、僅かに弧刃ともとれる形状をもつ。刃幅と基部幅は2.1cmと同じで、問題は残存長さは3.7cmを測り、基部側を欠損するので、この長さにより鑿状とみるか、板状鉄斧となるかであろう。厚みは0.35cmであった。調査試料は、刃先側面寄りにノッチ状で切り出し、研磨面は長軸に沿っている。

② マクロ組織：Photo.47に示す。厚み方向全体が完全脱炭を受けてフェライト組織となった可鍛鑄鉄である。フェライト内に点在する脱炭孔から点蝕が始まり、局部的に銹化点が認められる。なお、肉眼観察にて発言したように刃先はレ字状断面をもち片刃に分類される。

③ 顕微鏡組織：Photo.32に示す。①は基部側で板厚の最も大きい個所から横断面に撮影した。金属

組織は、全面白くて焼なまし脱炭が完全に完了したところのフェライト結晶粒である。結晶粒は、さまざまな粒形を呈して規則性はなく、炭化物の残留も全く認められなかった。なお、焼なましでCOがガスの抜けた脱炭孔が点在し、これを起点に発生した錆跡が点在するのが可鍛鉄製品としての証拠となろう。③④は脱炭孔の拡大組織である。

④ ビッカース断面硬度：Photo.32 に脱炭フェライト組織の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は132Hvであった。脱炭フェライトとしての硬度値で問題のない値といえる。

⑤ CMA調査：Photo.76 に示す。顕微鏡の項で鉄中非金属介在物について触れなかったが、微小淡褐色介在物が検出できたので、特性X線像と定量分析値を調査した。SE（二次電子像）に1の番号をつけた介在物は、白色輝点が鉄（Fe）と硫黄（S）に強く集中し、定量分析値は、93.8%FeO - 24.3%S組成が得られて硫化鉄（FeS）が同定される。なおこの介在物には、2.7%TiO₂ - 8.5%V₂O₅の固溶があつて鉄素材の製鉄原料は砂鉄が想定できる。なお、参考までにPhoto.76の下段に焼なまし脱炭で生じた脱炭孔を示し、孔は5μφ程度のものである。

(17) UMK - 17：鉄鏃

① 肉眼観察：無茎三角鏃の凹基式である。長さ2.8cm、基部幅2.45cm、厚み0.2cmを測る。調査試料は基部側からノッチ状の切り込みを入れた。該品は金属鉄を残留せず全体が錆化鉄となる。

② マクロ組織：Photo.48 に示す。錆化が激しくて金属鉄はまったく残らず、板厚の中核部は鬆（す）化して外郭にのみ辛じて黒錆のマグネタイト（Magnetite：Fe₃O₄）を残留させる。鍛打による展伸性の痕跡らしきものがみられるので鍛造品の可能性は高い。

③ 顕微鏡組織：Photo.33 に示す。①は厚み方向断面の組織である。全面が錆化鉄のゲーサイト（Goethite：α-FeO·OH）となり、金属鉄は全く残存しない。②に暗黒色ガラス質介在物らしき点列状異物が認められる。もし、これが珪酸塩であれば炒鋼製品に分類できるが錆化が激しくて定かでない。また、③は、フェライト基地に層状組織のパーライト痕跡らしき析出物が少量観察される。これがパーライトであれば0.1%炭素量程度の極軟鋼となる。そうすると、当鉄鏃は軟質で鑿切りで簡単に成形加工できて砥石研磨で仕上げも容易であろう。2mm前後の薄物で錆化が著しく、正確な情報は得がたい遺物であった。

4. まとめ

Table.2に梅ノ木遺跡から出土した弥生時代の中期前葉から後期後葉に属する鉄製品の金相学的な見地から調査した結果を示す。17点のうち、半数に近い8点が（i）可鍛鉄製品、同数の（ii）炒鋼製品、残る1点が（iii）塊錬鉄製品であった。ここに提示した（i）（ii）（iii）の3種の鋼種は、中国大陸の戦国時代から漢代へかけて開発された最先端技術の産物であった。

（i）可鍛鉄製品

該品は紀元前5世紀頃より中国の農工具の生産を担った鋼種である。製法は、鉄斧や鋤先などの鋳型に溶鉄を流し込み、マスプロ的に製品を造り出す。固化した鉄器は、そのまま使用した場合、硬くて脆く、破損しやすい鋳物の欠点をさらけ出す。この対策として鉄器に柔軟性を付与することが考えられて焼なまし脱炭（退火処理）という方法が考案された。熱サイクルは、900～950℃×3～5日の加熱保定で白鋳鉄に析出しているセメンタイト中の炭素は黒鉛化し、微細な黒鉛として分離する。更に加熱後の冷却過程でオーステナイト中の炭素はパーライトに変化し、パーライト中の炭素もまた黒鉛化し、地鉄フェライトと黒鉛が残る結果となる。この種の可鍛鉄は破面が黒色であるから黒心可鍛鉄という。一方、破面に黒鉛をあまり含まなくて白

色の白心可鍛鉄も存在する。前者の代表は UMK - 7 の鑄造鉄斧片があり、後者は UMK - 15 鑄造鉄斧破片から鑢状転用鉄器がある。

代表例に挙げた鋤先の刃先近傍組織では、耐磨耗性に優れた細かい共晶黒鉛を析出し、これが意識的に製作されたものとするれば古代中国での驚嘆すべき技術力となる。同じく UMK - 15 鑄造鉄斧破片の方は、フェライト結晶粒が柱状晶で、鉄範使用の可能性が出ている。鉄の鑄型の創出と応用は、鑄造技術の革命とも称されて、これも効率のよい大量生産にむすびつく人間の英知の結果ともいえる。

列島内での初期鉄器を挙げるとすると、鑄造鉄器の破片や研磨再生鉄器であり、今回の供試材の 8 点でみられる通りである。また、鑄造鉄器の再利用の問題は、野島^(註 9)・村上^(註 10)・川越^(註 11)・下條^(註 12)の各先生方からの指摘があった。そして出土数も現在では 300 例を超えるに至った。ここで看過できないのは、これら鑄造鉄斧を含めて、その破片や再生鉄器が鑄込みままの硬くて脆い白鑄鉄ではなくて、焼なまし脱炭（退火処理）が施されている点である。今回の調査例でもみた如く扁平片刃石斧の転換型ともいえる扁平片刃鉄斧 (UMK - 4、6、9、16) の材質が脱炭による軟質材であるが故にヤスリやグラインダーの類の工具がなくても、砥石でもって恰も磨製石器を加工するように、板状鉄斧や鑿、切り出しナイフの刃物などを造り出している。これが鑄込みままの硬質の白鑄鉄のままであったなら、このような転用再生鉄器の誕生はなかったものと考えられる。鑄造鉄斧の焼なまし脱炭については、古くは川越哲志先生の指摘があり^(註 13)、斉藤山遺跡出土鉄斧^(註 14)でも多くの議論を呼んだ。表層は脱炭されて鍛造品レベルの炭素含有量を示せば一部で混乱が起きるのは当然であったと考えられる^(註 15)。鑄造品の焼なまし脱炭を最初に発見できたのは東大阪市所在、鬼虎川遺跡出土品の鑿状鉄器と鉄鑢であり、1982 年の調査である^(註 16)。その当時は可鍛鑄鉄製品とは呼ばずに鑄鉄脱炭鋼と呼称した苦い経験がある。その後、北九州市所在の中伏遺跡出土の二条凸帯鑄造鉄斧の調査例^(註 17)、筑紫野市所在の貝元遺跡出土鉄斧破片の調査例^(註 18)などがある。未発表資料もあるがここでは触れない。

最後に製鉄原料の問題である。梅ノ木遺跡出土可鍛鑄鉄の 5 点の鉄中非金属介在物から砂鉄特有成分の (Ti)、バナジウム (V) などの検出があった。この弥生時代に属する他遺跡でも同様の傾向をもつものがみつかっている。Table.3 にそれらの類例を示す。鑄造鉄斧破片が中国大陸東北部あたりに産地同定ができると、戦国時代末期以降に砂鉄製錬のあった可能性が指摘できる。ただし、朝鮮半島には含チタン磁鉄鉱が賦存する。これの製錬があったか否か、また、中国東北部での使用の問題も残っている。問題提起は別途言及しているのでここでは言及しない^(註 19)。

(ii) 炒鋼製品

炒鋼法は、銑鉄を原料として鉄鋼を得る新技術である。前述した可鍛鑄鉄が、固化した鑄込み製品から焼なまし脱炭するのに対し、こちらは現代の製鉄法と同じく製錬・製鋼の段階を踏む。可鍛鑄鉄の焼なまし脱炭は過剰、設定温度の制御が難しく、一寸油断をすると温度不足の中途脱炭で中核部に大きく白鑄鉄部分を残したり、温度上昇を来すと融着廃品もしくは脱炭過度による軟質化といった失敗も多かった。これらの救済対策が炒鋼技術へと展開したとも考えられる。紀元前 1 世紀頃の開発といわれて、梅ノ木遺跡の鉄器の上限と大きく時間の隔てのない時期である。

炒鋼法の手順は、固形銑鉄を製鋼原料として溶融し、攪拌して空気を送る。銑鉄中の炭素は酸化されて炭素量が低減される。そのため鉄の溶融点が増し、材料は半溶融状態となる。これを炉から取り出して鍛打を加え、夾雑物を取り除く作業が必要となる。この鍛打作業が貼鋼技術（合せ鍛え）を発展させ、素材の材質を高める結果となった。今回調査の炒鋼製品は合せ鍛えが採用されている。更に合せ鍛えの複合材に対して適切なる熱処理（焼入れ・焼もどし、浸炭）が施され、高性能の工具類（板状鉄斧、袋状鉄斧、鑿状鉄器、穿孔具）の応用に繋がっている。また、注目すべきは、UMK - 3 は柱状片刃石斧の転換型を想定される鑿状鉄器の存

在である。可鍛鑄鉄製品に広く受継がれた形状が炒鋼製品にまで世襲されているのは興味深い現象である。次に今回調査の工具類で注目したのは、鋼中のセメンタイト (Fe_3C) を球状化指向の熱処理を採用している点である。セメンタイトの球状化は、層状の場合よりも軟質で、また伸びも大きくなり、常温作業を施すのにもっとも適していると同時に、弾性限や強さは小となる。従って工具鋼に対してはセメンタイトの球状化は必要なことである。

ところで、この様に材質的に優れた材質を具備していそうな鉄器類が幾つも折損しているのは何故であろうか。例えば UMK - 3 鑿状鉄器、UMK - 8 大型板状鉄斧、UMK - 12 穿孔具などである。廃鉄器であるが列島内に搬入された理由であろうか^(註 20)。先端技術のもとに生産された炒鋼製品であっても、製造過程において、半溶融状態で夾雑物の取り除く際に支障が生じたこともありえよう。大型介在物の残留が折損の原因となったことも十分に考えうることである。今回 1 点のみ塊煉鉄に分類した鉄剣の柄 UMK - 2 は、介在物の組成が、大型の FeO と $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ 組成であった。炒鋼製鋼時にも派生する夾雑物である^(註 21)。今後の検討課題として残された問題となる。

注

- (1) 韓 汝玢「中国における早期鉄器の冶金学的特徴」『東アジアの古代鉄文化』～その起源と伝播～ (1993 年たたら研究会国際シンポジウム予稿集) たたら研究会 1993
- (2) 川越哲志『弥生時代の鉄器文化』雄山閣 1993
- (3) 山本科学工具研究社『標準顕微鏡組織 第 1 類炭素鋼・鑄鉄編 改訂 6 版』 1987
- (4) 川越哲志「鉄および鉄器生産の起源をめぐって」『たたら研究』14 1966
- (5) 橋口達也「初期鉄製品をめぐる二、三の問題」『考古学雑誌』60-1 1974
- (6) 河合 匡『金属材料』 共立全書 4 1954
- (7) 大澤正己「弥生時代の初期鉄器」<可鍛鑄鉄製品>『製鉄史論文集』～たたら研究会創立 40 周年記念論文集～たたら研究会編 2000
- (8) 李 京華「秦漢時代の冶金技術と周辺地域との関係」『東アジアの古代鉄文化』～その起源と伝播～ (1993 年たたら研究会国際シンポジウム予稿集) たたら研究会 1993
- (9) 野島 永「破碎した鑄造鉄斧」『たたら研究』 第 32・33 号 たたら研究会 1992
- (10) 村上恭通「弥生時代中期の鑄造鉄斧」『先史学・考古学論究 熊本大学文学部考古学研究室論文集』龍田考古学会 1994
- (11) 川越哲志 前掲書 (2)
- (12) 下條信行・村上恭通・田崎博之『日本における石器から鉄器への転換形態の研究』(07451088) 平成 7 年～平成 9 年度 科学研究費補助金 (基盤研究 B) 研究成果報告書 1998
- (13) 川越哲志「弥生時代の鑄造鉄斧をめぐって」『考古学雑誌』 65-4 1980
- (14) 乙松重隆「熊本県斉藤山遺跡」『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- (15) 明治大学工学部教授、川口寅之助氏の化学分析値、C: 0.3% で鍛造品と発表。前掲書 (14)。これは検鏡ではフェライト・パーライト組織である。弥生鉄器は分析値で鍛造・鑄造の分類は危険。
- (16) 大澤正己「鉄鏃と鑿状鉄器の冶金学的調査」『鬼虎川遺跡出土の金属関係遺物』～第 7 次調査報告～ 東大阪市文化財協会 1982
- (17) 大澤正己「中伏遺跡出土二条凸帯斧の金属学的調査」『中伏遺跡』1 (北九州市埋蔵文化財調査報告書 第 120 集) (財) 北九州市教育文化事業団・埋蔵文化財調査室 1992
- (18) 大澤正己・鈴木瑞穂「貝元遺跡出土鉄製品の金属学的調査」『貝元遺跡』II 下巻 福岡県教育委員会 1999

- (19) 大澤正己「環日本海地域の鉄の金相学的調査」～弥生の鉄の一樣相～『環日本海地域の鉄文化の展開』(人間・社会・環境との新しい調和を求めて-X) 1999年度秋季シンポジウム論文集 日本鉄鋼協会 1999
- (20) 前漢の武帝(BC114年)の「馬弩関」の設置との関係があつて完形品の多くは舶載され難かつたのであろうか。
- (21) 韓 汝玢 前掲書(1)

表15の注

- 1～5 大澤正己・鈴木瑞穂「梅ノ木遺跡出土弥生鉄製品の金属学的調査」『梅ノ木遺跡』II(熊本県文化財調査報告第199集)熊本県教育委員会2001本稿
- 6～8 大澤正己・鈴木瑞穂「貝元遺跡出土鉄製品の金属学的調査」『貝元遺跡』II 下巻)福岡県教育委員会1999
- 9～11 拙稿「小糸山出土鉄製品の金属学的調査」熊本市教育委員会報告書準備中
- 12,13 大澤正己・塚本敏夫「向山遺跡出土鉄製品の金属学的調査」～二条凸帯鑄造鉄斧・鍛造袋状鉄斧～『埼玉県朝霞市教育委員会記者発表資料』朝霞市教育委員会(1997.4.26新聞記事)
- 14 大澤正己「奈具岡遺跡出土鉄製品・鉄片(切片)の金属学的調査」『京都府遺跡調査概報第76冊』～奈具岡遺跡～(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター1997
- 15 郷堀英司・大澤正己「一本桜南遺跡出土の砂鉄について」『研究連絡誌第25号』(財)千葉県文化財センター1989
- 16 拙稿「列島における鉄生産の始源をめぐって」～鉄滓の分析を中心に～特定研究『日本人の技術と生活に関する歴史的研究』(在来技術の伝統と継承)研究会資料 歴史民俗博物館1990
- 17 拙稿「古墳時代初頭・沖塚遺跡鍛冶工房出土の遺物の金属学的調査」『八千代市 沖塚・上の台遺跡他』(財)千葉県文化財センター1994
- 18 拙稿「湯谷悪谷遺跡出土鉄滓の金属学的調査」島根県石見町教育委員会への提出原稿報告書準備中 1994.3.24
- 19 増田孝彦「丹後の鉄生産」『京都府埋蔵文化財論集第2集』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター1991 鉄滓分析結果は未発表 後日報告予定
- 20 拙稿「古代鉄生産」～金属学的見地からのアプローチ『日本古代の鉄生産』1987年度たたら研究会1987
- 21 拙稿「交野市森遺跡とその周辺遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『森遺跡Ⅲ』(交野市埋蔵文化財調査報告1990-I)交野市教育委員会1991 この鉄製品は奈良・平安時代のものの可能性あり。
- 22 拙稿「御蔵山中遺跡出土鉄滓と鉄器の金属学的調査」『御蔵山中遺跡』(大宮市遺跡調査会報告第26集)1989
- 23 拙稿「潤崎遺跡祭祀土壙出土鉄滓の金属学的調査」『潤崎遺跡』(北九州市埋蔵文化財調査報告書第49集)財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1986
- 24 拙稿「夏崎古墳出土鉄製品の金属学的調査」『夏崎遺跡』伊万里市教育委員会報告書準備中
- 25 拙稿「河辺上原古墳群より出土した鉄滓と鉄器の金属学的調査」『河辺上原遺跡』(津山市埋蔵文化財発掘調査報告第54集)津山市教育委員会1994
- 26 大澤正己・鈴木瑞穂「大坂城跡出土鍛冶・鑄造関連遺物の金属学的調査」『大坂城跡発掘調査報告書I』財団法人大阪府文化財調査研究センター 報告書準備中

表 12 弥生時代以降チタン系鉱物含有遺物一覧表

No	遺 跡	遺 構	府 県	遺 物	推定年代	TiO ₂ 介在物組成
1	梅ノ木	包舎層	熊本	鑄造鉄斧片	弥生中期後半～ ～後期中葉	非金属介在物 24.8%TiO ₂ -24.4%FeO-47%MnO-24.3%S-1.3%V ₂ O ₃
2	〃	216-SI	〃	鑄造鉄斧片	弥生中期中葉～後葉	非金属介在物 2.9%TiO ₂ -81.7%FeO-28.1%MnO-17.6%S
3	〃	撥乱排水路	〃	鑄造鉄斧片 転用ノ状鉄器	不明	非金属介在物 2.4%TiO ₂ -64.7%FeO-14.9%MnO-35.6%S
4	〃	169-SI	〃	鑄造鉄斧片	弥生中期後葉 ～後期前葉	非金属介在物 3.7%TiO ₂ -64.7%FeO-38.3%MnO-20.2%S
5	〃	101-SI	熊本	壘状鉄器	弥生中期後葉 ～後期後葉	非金属介在物 2.7%TiO ₂ -8.5%V ₂ O ₃ -93.8%FeO-24.3%S
6	貝元(KAI-2)	土89底面	福岡	鑄造鉄斧片	弥生中期初葉	非金属介在物 1.7%TiO ₂ -51.1%FeO-43.4%MnO-26.9%S
7	貝元(KAI-6)	住62	〃	〃	弥生後期前葉	非金属介在物 29.5%TiO ₂ -78.4%FeO-11.1%MnO-6.3%S
8	貝元(KAI-8)	土4No.5	〃	〃	弥生時代	非金属介在物 1.6%TiO ₂ -93.5%FeO-28.7%MnO-11.8%S
9	小系山	59.60住居跡	熊本	鉄片 (鑄鉄脱炭鋼)	弥生後期	非金属介在物 1.5%TiO ₂ -54.6%FeO-44.8%MnO-23.8%S
10	〃	〃	〃	〃	〃	非金属介在物 2.9%TiO ₂ -64.0%FeO-39.1%MnO-23.1%S
11	〃	〃	〃	〃	〃	非金属介在物 4.2%TiO ₂ -71.5%FeO-35.6%MnO-17.3%S
12	向山	住居跡 (6号)	埼玉	二条凸帯 鑄造鉄斧	〃	非金属介在物 22.4%TiO ₂ -1.3%V ₂ O ₃ -0.1%ZrO ₂
13	〃	住居跡 (13号)	〃	鍛造袋状鉄斧	〃	非金属介在物 22.7%TiO ₂ -1.4%V ₂ O ₃ -0.08%ZrO ₂
14	奈良岡	住居跡 (SH01)	京都	鉄片(切片)	弥生中期末	硫化マンガンの周縁部Ti, V 特性X線像検出
15	一本桜南	住居跡	千葉	朱塗リ壺入り 砂鉄(520g)	4C後半	4.83%TiO ₂
16	伊佐山墳墓	古墳	兵庫	被葬者枕元供献 砂鉄(500g)	4C末	9.7%TiO ₂
17	沖塚	鍛冶工房跡	千葉	棒状鉄片	4C初	非金属介在物 6.5%,62.0%TiO ₂
18	湯谷悪谷	住居跡	島根	鉄滓(製錬滓 ・精錬鍛冶滓)	4C初	製錬滓9.4%TiO ₂ 精錬鍛冶滓2.4%TiO ₂
19	左坂C-15号墳	古墳	京都	鉄滓 (精錬鍛冶滓)	5C後半	3.9%TiO ₂
20	押入西1号墳	古墳	岡山	鉄滓 (精錬鍛冶滓)	5C中頃	1.3%TiO ₂
21	郡津洪り	ヒ ^o 外	大阪	枚鉄 (板状鉄製品)	5C後半～6C前半 (奈良・平安時代の可能性)	非金属介在物 8.1%TiO ₂
22	御蔵山中	住居跡	埼玉	鉄鏝	5C中頃	非金属介在物 27.2%,6.3%TiO ₂
23	潤崎	祭祀土坑	福岡	鉄滓(製錬滓 ・精錬鍛冶滓)	5C後半	製錬滓20.4%TiO ₂ 精錬鍛冶滓5.7%TiO ₂
24	夏崎	古墳	佐賀	ねずみ鑄鉄	5C末～6C前半	非金属介在物 3.0%TiO ₂ -0.22V ₂ O ₃ -0.06%ZrO ₂
25	河边上原	古墳	岡山	梯形鑄造鉄斧	6C後半	非金属介在物 1.0%Ti-67%Fe-31%S
26	大坂城跡	ヒ ^o 外66	大阪	円盤状鉄製品	6C後半～7C初頭	非金属介在物 7.0%TiO ₂ -1.9%V ₂ O ₃ -66.2%FeO-39.8%S-12.7%MnO

表 13 供試材の履歴と調査項目 (鉄分析)

符号	履歴名	履歴名	迎物名称	計測値		メタル度	調査項目					備考
				大きさ(mm)	重量(g)		マクロ組織	顕微鏡組織	X線回折	CMA 化学分析	耐火度	
UMK-1	梅ノ木潤跡	2区 9582 包舎履	鑄造鉄片	58×38×10	72.2	L(●)	○	○	○	○	○	刃部破片
UMK-2	梅ノ木潤跡	162-SI	鑄鋼の柄?	83×17×6	39.2	L(●)	○	○	○	○	○	先端部破片か?
UMK-3	梅ノ木潤跡	122-SI	鑄鉄器	72×18×8	52.3	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-4	梅ノ木潤跡	216-SI	鑄造鉄片	39×24×5	15.2	L(●)	○	○	○	○	○	鑄造鉄片再加工品か
UMK-5	梅ノ木潤跡	06-SD	瓶状鉄片	65×32×4.5	40.6	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-6	梅ノ木潤跡	攪乱 排水路	鑄造鉄片	30×19×3	5.9	L(●)	○	○	○	○	○	鑄造鉄片再加工品か
UMK-7	梅ノ木潤跡	169-SI	鑄造鉄片	45×27×5	29.0	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-8	梅ノ木潤跡	102-SX	瓶状鉄片	122×56×9	256.7	L(●)	○	○	○	○	○	鑄造品か鑄造品か?
UMK-9	梅ノ木潤跡	1183-SI	鑄造鉄片	35×31×4	15.5	L(●)	○	○	○	○	○	鑄造鉄片再加工品か?、鑄造品か鑄造品か?
UMK-10	梅ノ木潤跡	218-SX	鑄造鉄片	45×20×2	12.1	L(●)	○	○	○	○	○	鑄造品?
UMK-11	梅ノ木潤跡	2区 6913b 包舎履	瓶状鉄片	115×41×25	154.4	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-12	梅ノ木潤跡	101-SI (B) 内落ち込み	瓶状鉄片	74×6×6	9.6	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-13	梅ノ木潤跡	東西水路A 11-SI	瓶状鉄片	83×37×39	117.2	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-14	梅ノ木潤跡	東西水路D 05-SI	鉄盤	79×22×4	9	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-15	梅ノ木潤跡	190-SI P-01 坂方	鑄造鉄片	57×30×4	23.7	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-16	梅ノ木潤跡	101-SI (C) 3 (a) 層	瓶状鉄器	42×21×4	13.9	L(●)	○	○	○	○	○	
UMK-17	梅ノ木潤跡	129-SI (B)	鉄盤	28×25×2	4.1	鉄化 (△)	○	○	○	○	○	

表 14 出土遺物の調査結果まとめ (鉄分析)

符号	遺跡名	遺構名	遺物名称	非金属介在物	金属組織	鋼種	製造原料	所見 熱処理	特記事項
UMK-1	梅ノ木遺跡	2区 5982 包倉跡	鑄造鉄片	MnS (含Ti)	表面脱炭(F+P)、中核部(L)、黒鉛粒	黒心可鍛鉄	砂鉄か	焼なまし脱炭	表面脱炭
UMK-2	梅ノ木遺跡	162-SI	鉄製の柄?	Wustite+Favallite(含P)	塊状脱炭と軟鋼組織(F+P)	塊状鉄	鉄鉱石	900℃前後脱炭	塊状合金鍛え
UMK-3	梅ノ木遺跡	122-SI	鉄片(塊状鉄)		F+S	炒鋼	塊状鉄か	高温焼もどし	工具鋼適切な熱処理
UMK-4	梅ノ木遺跡	216-SI	鑄造鉄片	MnS (含Ti)	表面脱炭(F+P)、中核部(L)	(白心)可鍛鉄	砂鉄か	焼なまし脱炭	
UMK-5	梅ノ木遺跡	06-SD	塊状鉄片	珪酸塩系	塊状脱炭と軟鋼組織(F+S)	炒鋼	鉄鉱石	高温焼もどし	工具鋼適切な熱処理
UMK-6	梅ノ木遺跡	攪乱 排水跡	鑄造鉄片	FeS(含Ti)	表面(F+P)、中核部(L)、塊状黒鉛	(黒心)可鍛鉄	砂鉄か	焼なまし脱炭	
UMK-7	梅ノ木遺跡	169-SI	鑄造鉄片	FeS(含Ti)	表面(F+P)、中核部(L)、塊状+共晶黒鉛	(黒心)可鍛鉄	砂鉄か	焼なまし脱炭	共晶黒鉛、耐摩耗性付録
UMK-8	梅ノ木遺跡	102-SX	塊状鉄片	珪酸塩系	F+S	炒鋼	鉄鉱石	高温焼もどし	工具鋼適切な熱処理
UMK-9	梅ノ木遺跡	1183-SI	鑄造鉄片	MnS	表面(F+P)、中核部(L)	(白心)可鍛鉄	鉄鉱石	焼なまし脱炭	
UMK-10	梅ノ木遺跡	218-SX	鑄造鉄片	酸化鉄不明瞭	表面(F+P)、中核部(L)	(白心)可鍛鉄	鉄鉱石	焼なまし脱炭	
UMK-11	梅ノ木遺跡	2区 6913b 包倉跡	塊状鉄片	珪酸塩系	F・P+M 外周0.7%C、内周0.4~0.5%C	炒鋼	鉄鉱石	焼入れ底温焼もどし	鉄部折り返し脱炭
UMK-12	梅ノ木遺跡	101-SI (B) 内落ち込み	塊状鉄片	珪酸塩系	表面脱炭(P)、中核部F、0.3%C	炒鋼	鉄鉱石	脱炭処理	
UMK-13	梅ノ木遺跡	東酒水跡A 11-SI	塊状鉄片	珪酸塩系	刃先M、皮金F-P、心金F、0.7%C	炒鋼	鉄鉱石	焼入れ	工具鋼適切な熱処理
UMK-14	梅ノ木遺跡	東酒水跡D 05-SI	鉄片	珪酸塩系	F・P 0.3%C	炒鋼	鉄鉱石	1,000℃前後脱炭	
UMK-15	梅ノ木遺跡	190-SI P-01 堀方	鑄造鉄器片	洗浄で未検出	表面(F+P)、中核部(L)、F:柱状黒鉛	(白心)可鍛鉄	鉄鉱石	焼なまし脱炭	鉄器使用産地中国大陸
UMK-16	梅ノ木遺跡	101-SI (C) 3 (a) 扉	塊状鉄器	FeS(含Ti)	全面F(完全脱炭)	(白心)可鍛鉄	砂鉄か	焼なまし脱炭	
UMK-17	梅ノ木遺跡	129-SI (B)	鉄片	酸化鉄不明瞭	塊状P脱炭	炒鋼か?	鉄鉱石?	不明	

黒心可鍛鉄：コアト基地に黒鉛粒が点在、白心可鍛鉄：表面部がコアト少量の黒鉛の存在がある。
 各鉄器の最表面部は酸化消滅して黒心・白心可鍛鉄を正確に区別・分類するのは難しい。黒鉛の有無で上記表の分類を行った。

可鍛鉄：BC5C頃中国開発技術；焼込み白鉄製品を900~980℃の温度で焼なまし脱炭
 炒鋼：BC1C頃中国開発技術；鉄を加熱溶融し、空中で攪拌脱炭、撾打取
 塊状鉄：BC9C頃中国開発技術；低温還元直接製鋼法、但し該品(UMK-2)は合金鍛えのためBC1C以降の製品
 脱炭鉄：表面部が強く脱炭されてフェライト・パーライトの鉄組織となるが、中核部はレアタイトを析出したままの白鉄組織である。脱炭不足の状態。
 F: Ferrite(α鉄) フェライト
 L: Ledeburite レアタイト パーライトとセメンタイトの共晶
 SC: Spheroidal Cementite (塊状セメンタイト)
 M: Maetensite マルテンサイト
 F・P: フェライト・パーライト

(1) UMK-1
 鋳造鉄斧片
 ①×400 介住物 (InSi)
 ②×50 ③×100 ④⑤×400
 ナイタルetch 脱炭組織
 両端ハート、中央レダグライト
 ⑥⑦×200 硬度圧痕
 ⑧ハート ⑨:261Hv
 ⑩レダグライト:6331N

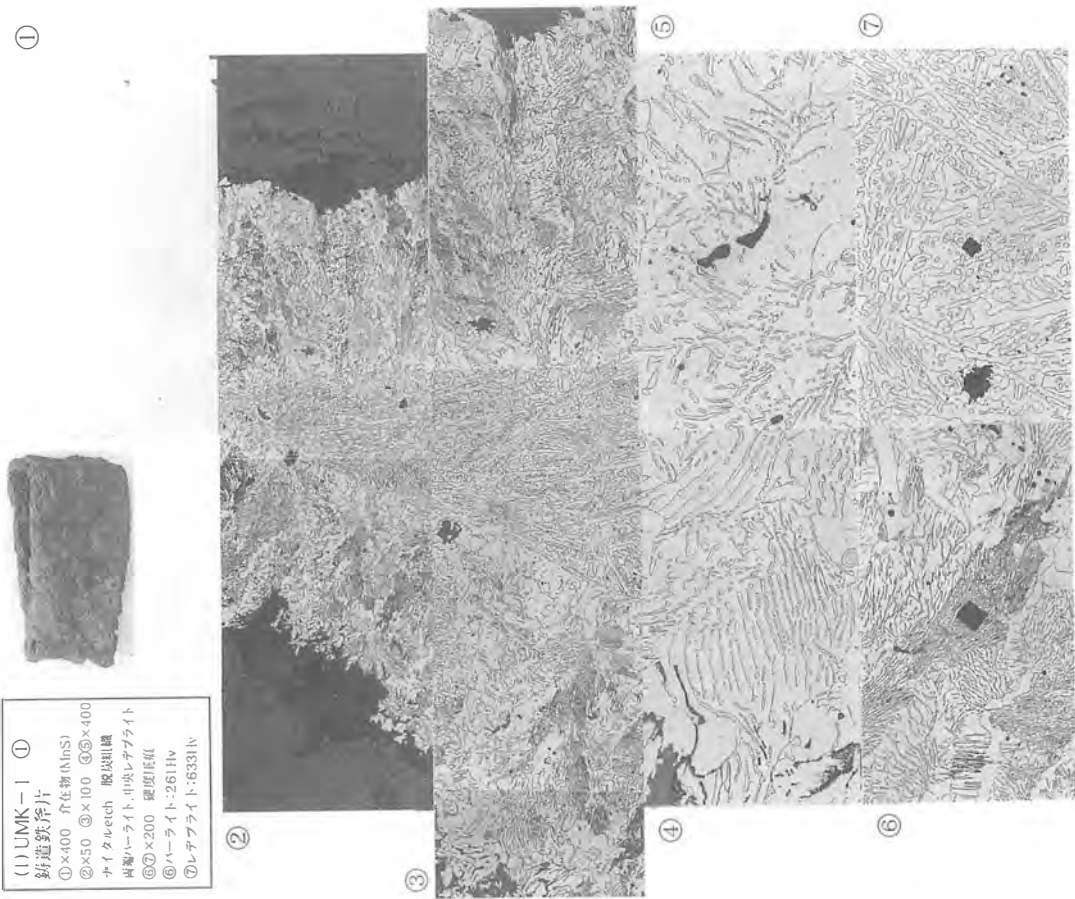


Photo. 1 鋳造鉄斧片の顕微鏡組織

(2) UMK-1
 鋳造鉄斧片
 ①×50 ナイタルetch
 下部表層部:脱炭
 (中央:出錆状/有錆)
 ②×100, ③×400:中央部
 過共晶組織/白鉄鉄
 ④×100 ⑤×400
 両部ハート、脱炭組織

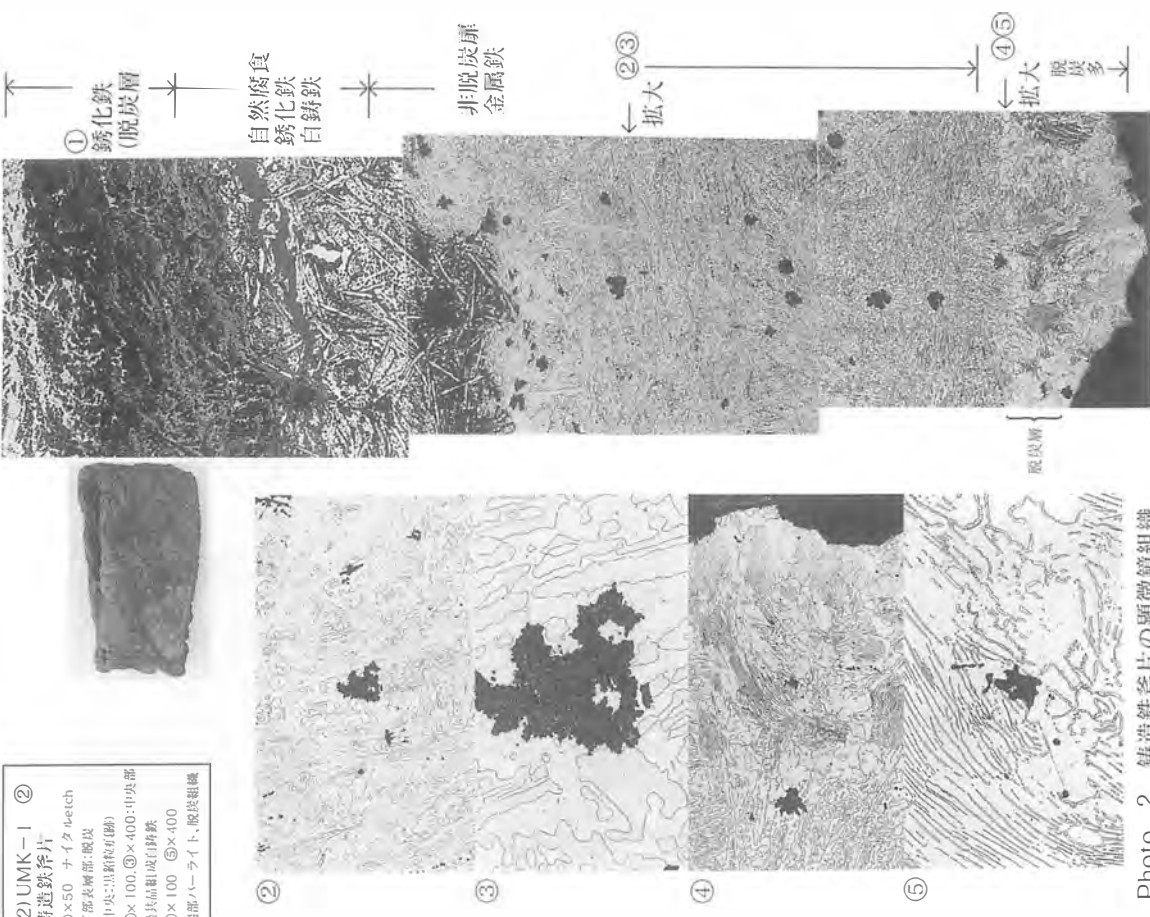


Photo. 2 鋳造鉄斧片の顕微鏡組織

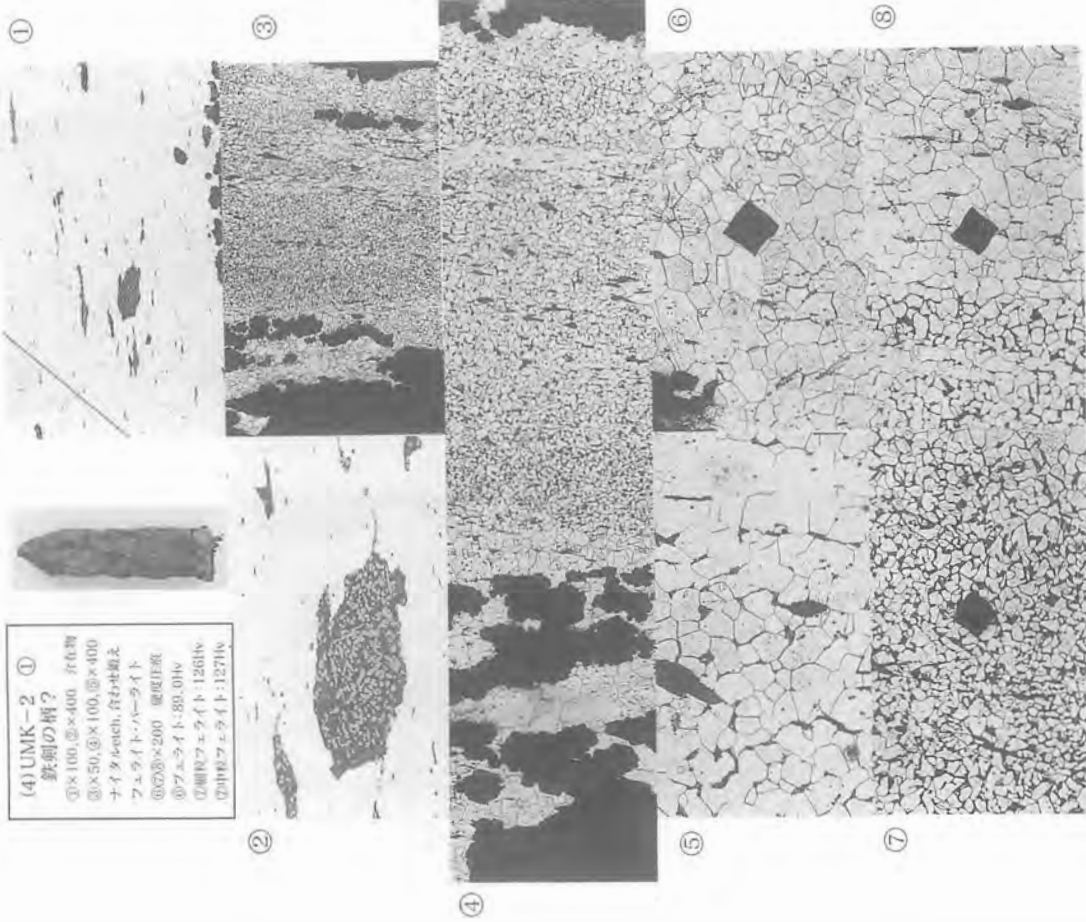


Photo. 4 鉄剣の柄？の顕微鏡組織

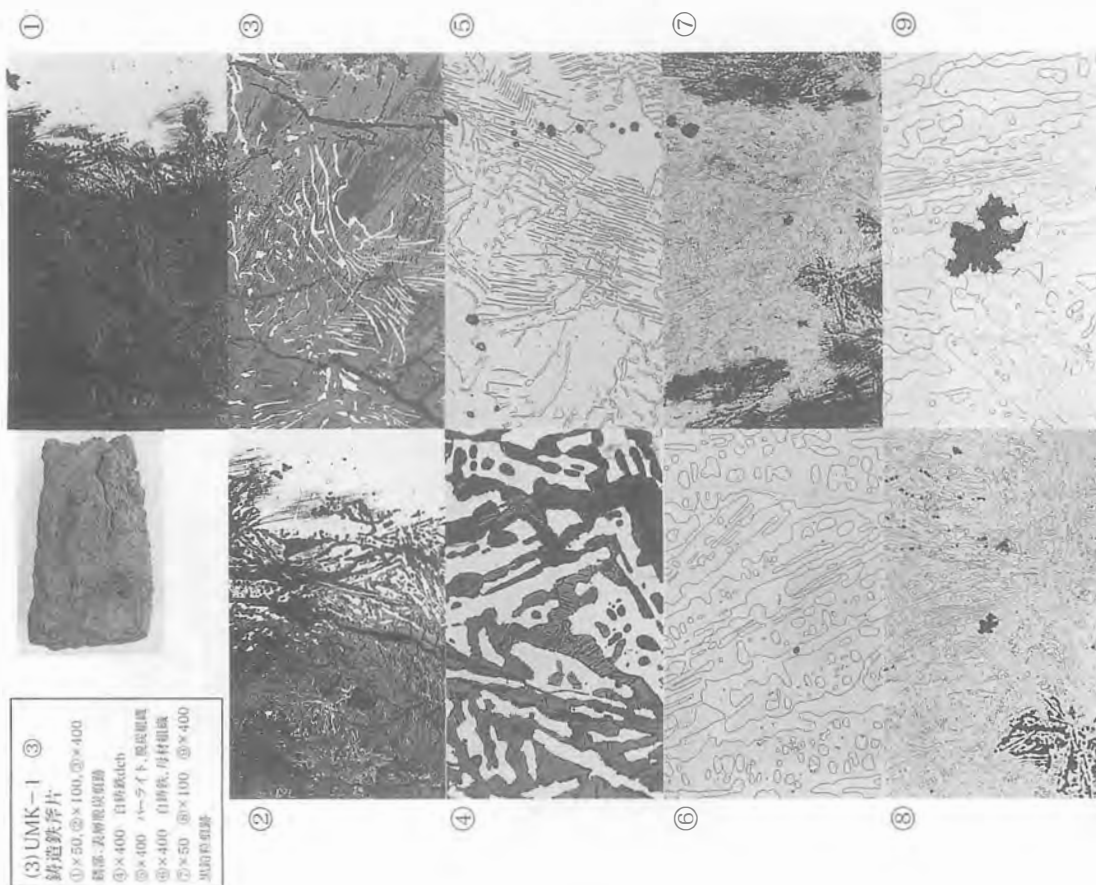


Photo. 3 鋳造鉄片の顕微鏡組織

(5)UMK-2 ②
 鉄剣の柄？
 ①×50 ②×100 ③×400
 ナイタルetch 炭酸銅甲冑
 ④×50 ⑤×100 ⑥×400
 木質外装
 ⑦の左側酸化し砂
 ⑧×100 ⑨×400
 酸化し砂外層付着銀物
 白色点状銀物(含Pt)

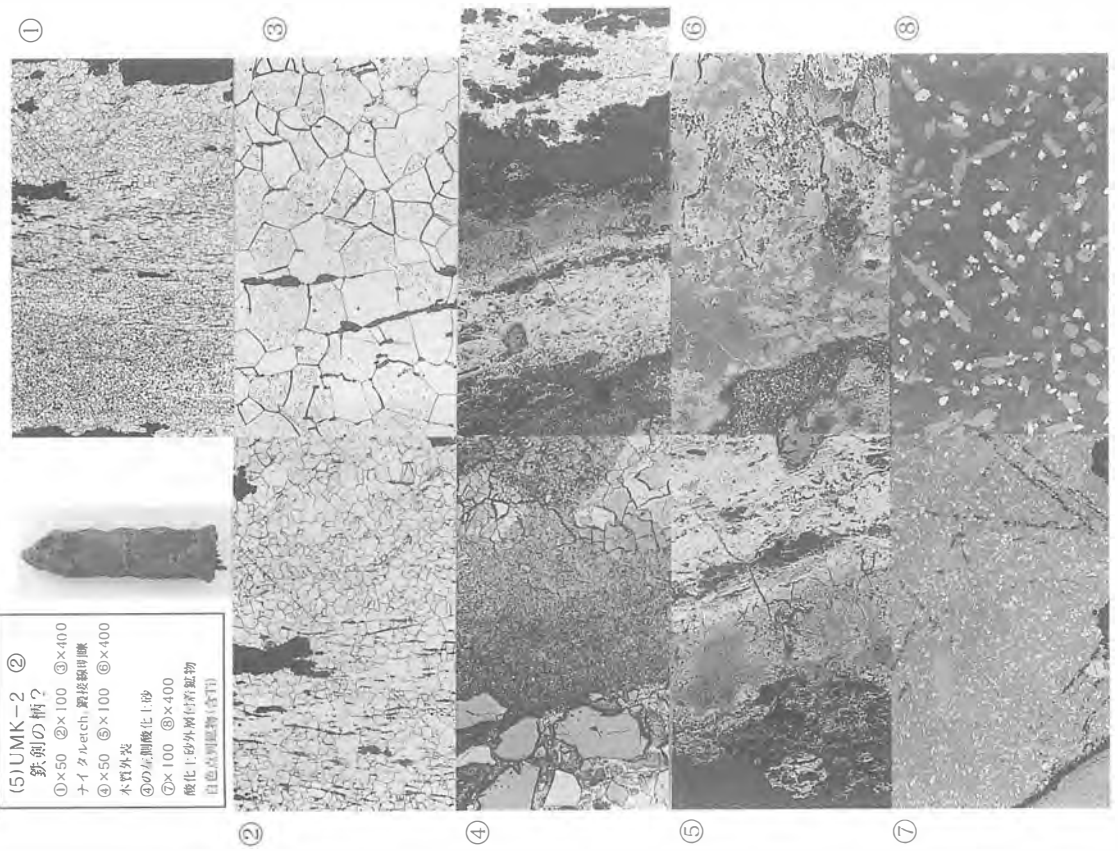


Photo. 5 鉄剣の柄？の顕微鏡組織

(6)UMK-3 ①
 ノミ状鉄器
 ①×100 ②×400
 介子物 珪酸塩
 ③×50 ④×100 ⑤×400
 ナイタルetch 球状セメンタイト
 ⑥~⑨×200 硬質珪酸
 ⑩219HV ⑪184HV
 ⑫138HV ⑬196HV

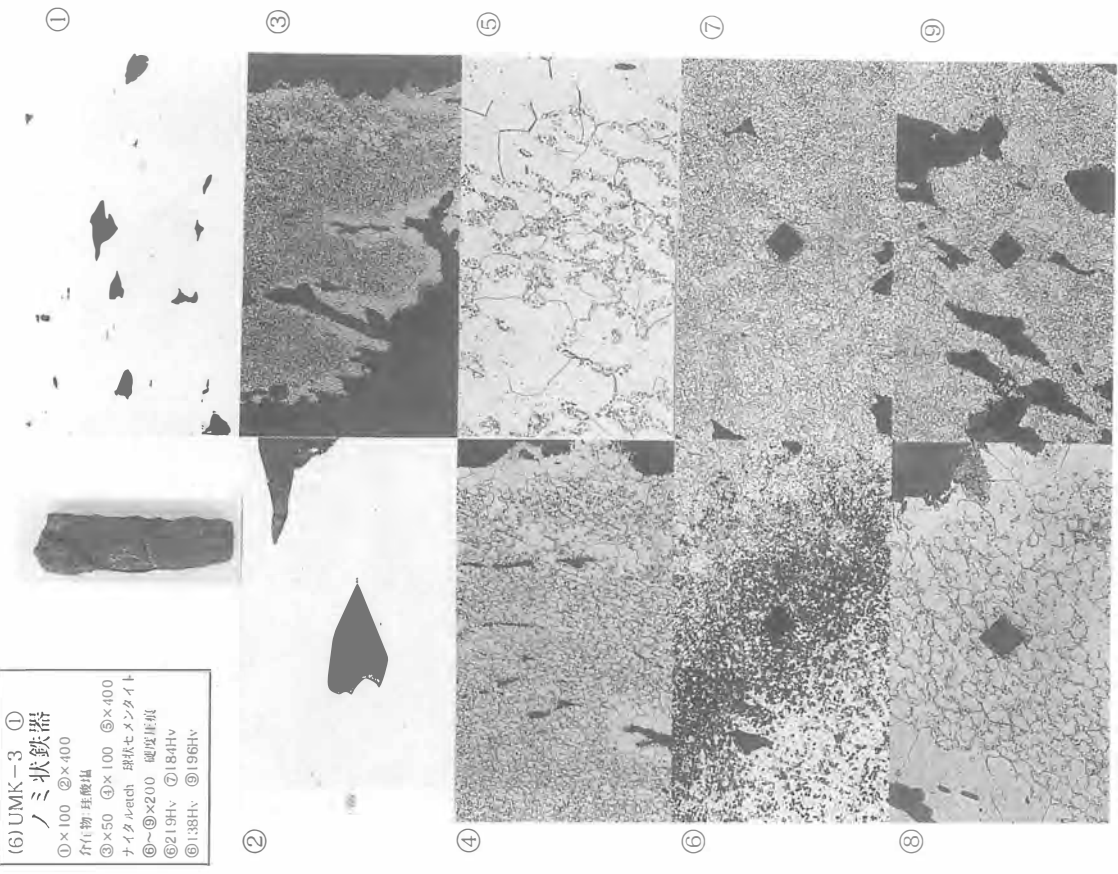


Photo. 6 鑿状鉄器の顕微鏡組織

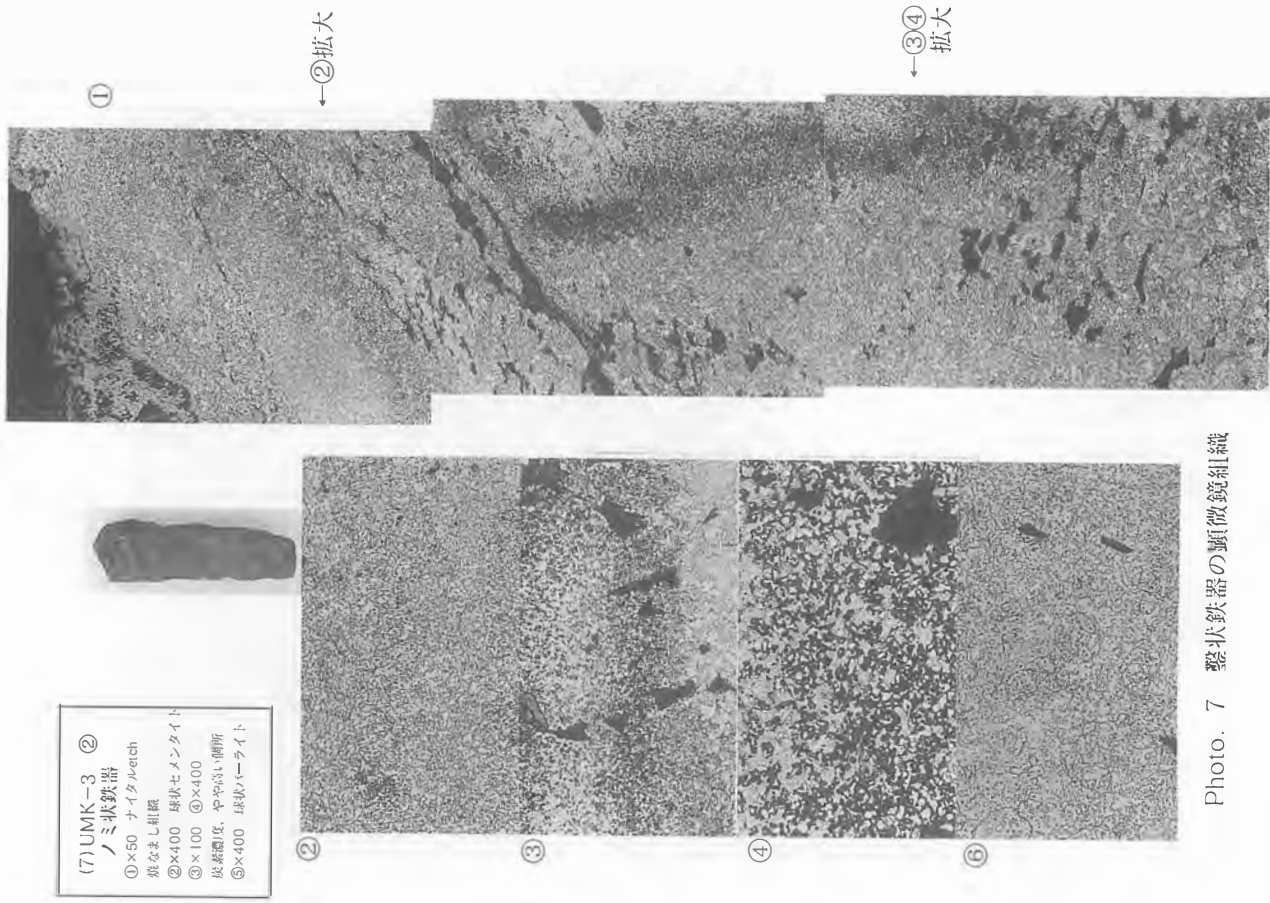


Photo. 7 鑿状鉄器の顕微鏡組織

(8)UMK-4 ①
 鑄造鉄碎片
 ②×400 ③×100存在物
 硫化マンガ ン (MnS)
 ④×50 ナイタルetch
 腐蝕ハーライ ト、中央レヂヤブライ ト
 ⑤⑥×100 脱炭組織
 ⑦×100 ⑧×400
 中央レヂヤブライ ト組織

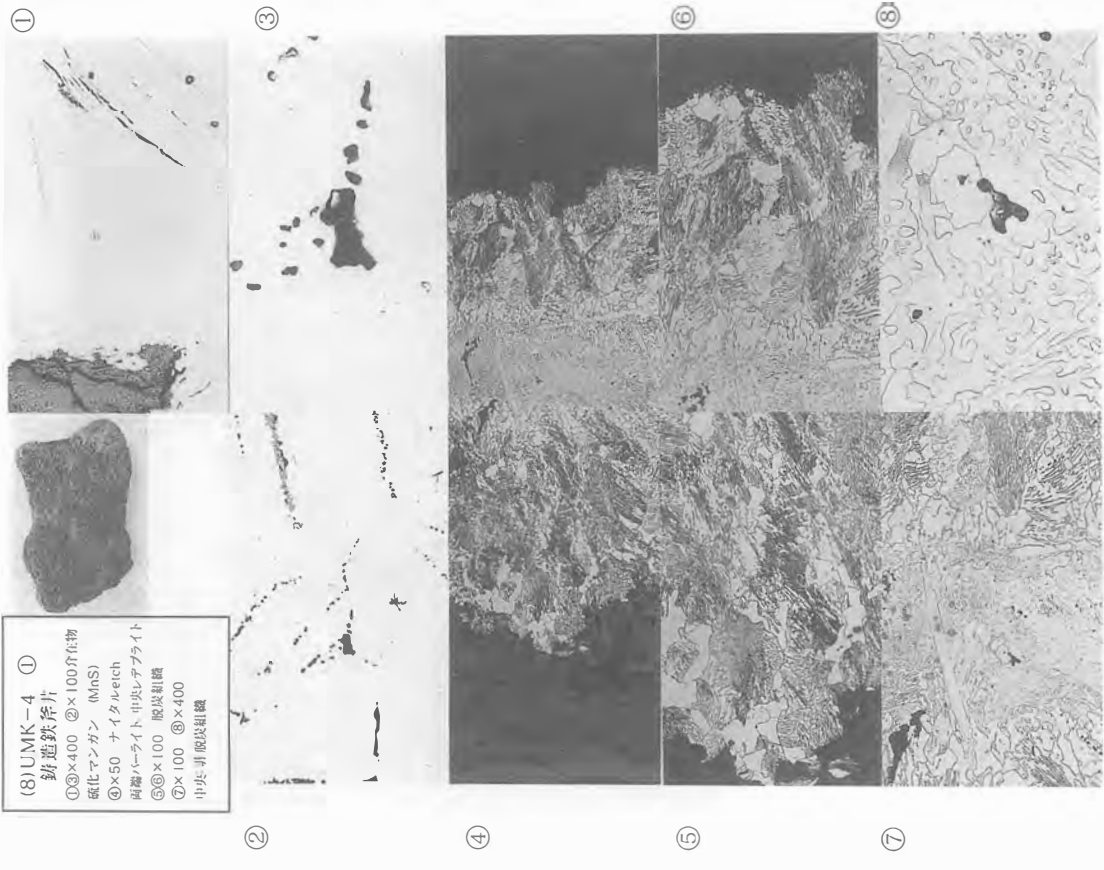


Photo. 8 鑄造鉄碎片の顕微鏡組織

(9)UMK-4 ②
 鋳造鉄片
 ①×100 ②×50 ③×100
 ナイタルetch, 脱炭組織
 ②の端部パーライト組織
 ④×100, ⑤×400
 ②の中央部脱炭組織, アフライト
 ⑦~⑨×200 硬度計
 ⑦: 脱炭 191HV, 223HV
 ⑧: 脱炭 191HV, 223HV
 ⑨: 非脱炭 588HV

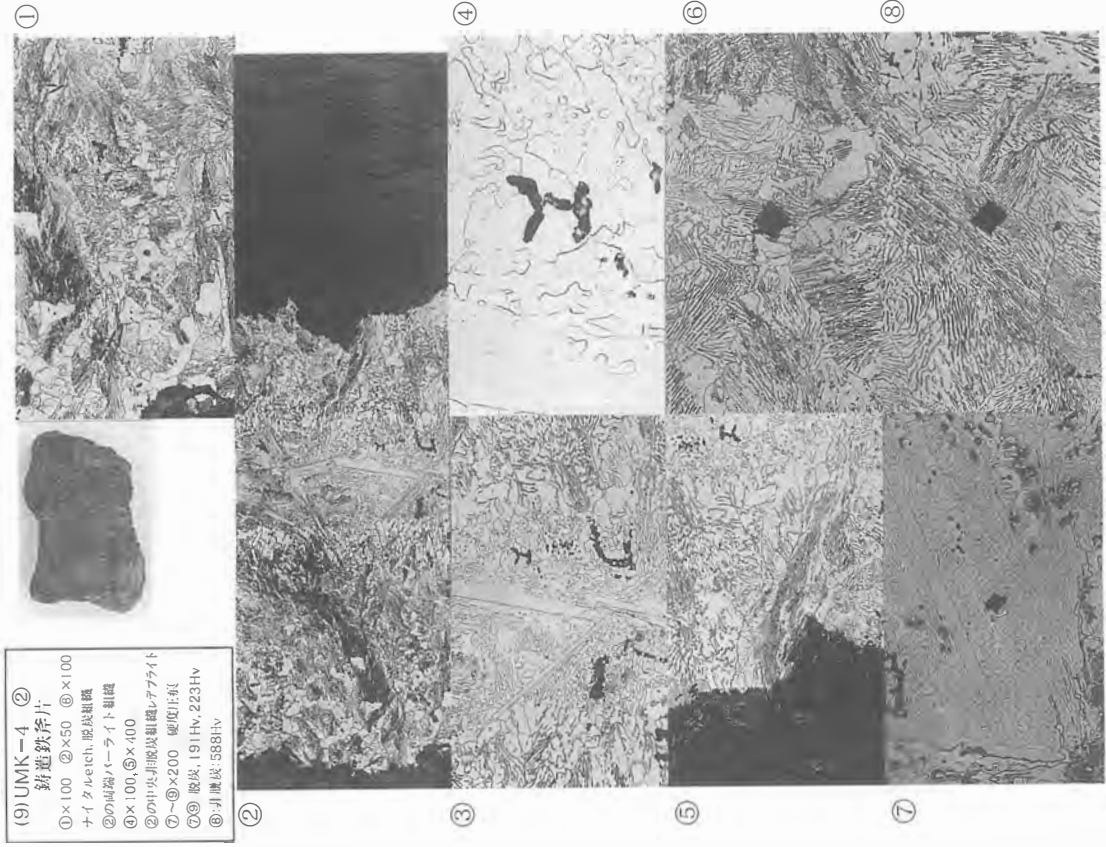


Photo. 9 鋳造鉄片の顕微鏡組織

(10)UMK-5 ①
 板状鉄片
 ①×400 球状塊状物
 ②×400 ガタイト, 脱炭化物
 ③×50 ④×100 ⑤×400
 ナイタルetch, 炭材脱炭
 球状セメンタイト, 焼なまし
 ⑥~⑨×200 硬度計
 ⑥: 142HV ⑦: 131HV
 ⑧: 113HV ⑨: 168HV

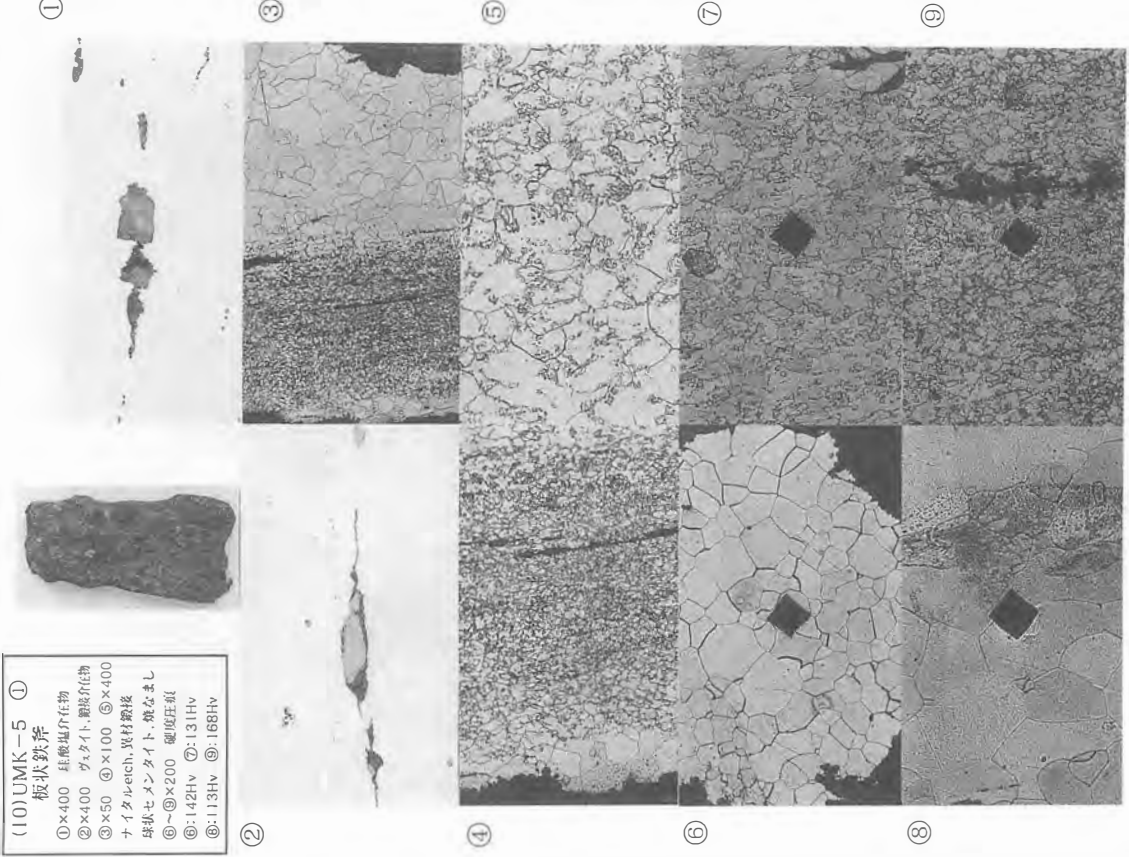


Photo. 10 板状鉄片の顕微鏡組織

(11)UMK-5
板状鉄片
①×100、非金屈介化物
②×50 ナイタルetch
材料鑄造
③×100 ④×400 ⑤左部大
⑥×100 ⑦×400 ⑧中央部大
⑨×100 ⑩×400 ⑪右部大
中央部：微小球状セメンタイト

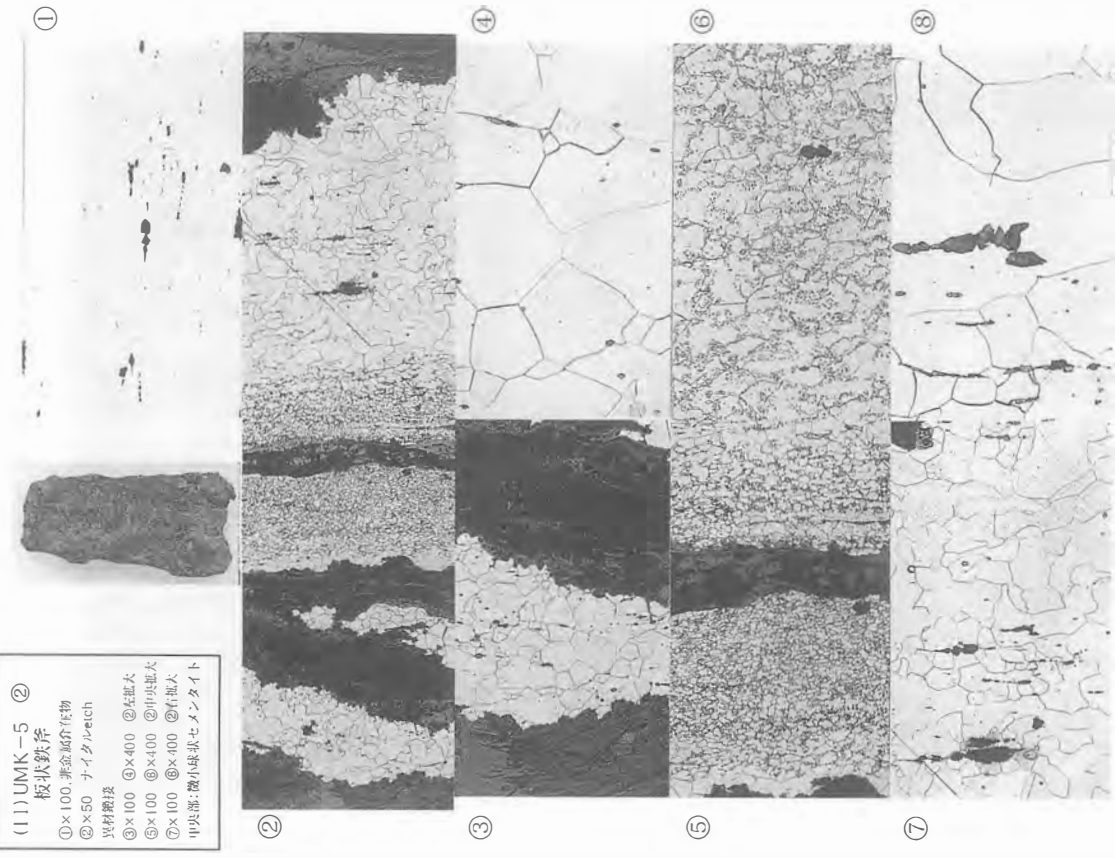


Photo. 11 板状鉄片の顕微鏡組織

(12)UMK-6
鋳造鉄片
①×400 介化物(FeS)
②×50 ③④×100 ⑤×400
ナイタルetch 酸浸組織
材料フェライト、中炭レダブライト
⑥~⑧ 硬質性鉄200g
⑨フェライト基地 119Hv
⑩レダブライト 754Hv
⑪フェライト基地 123Hv

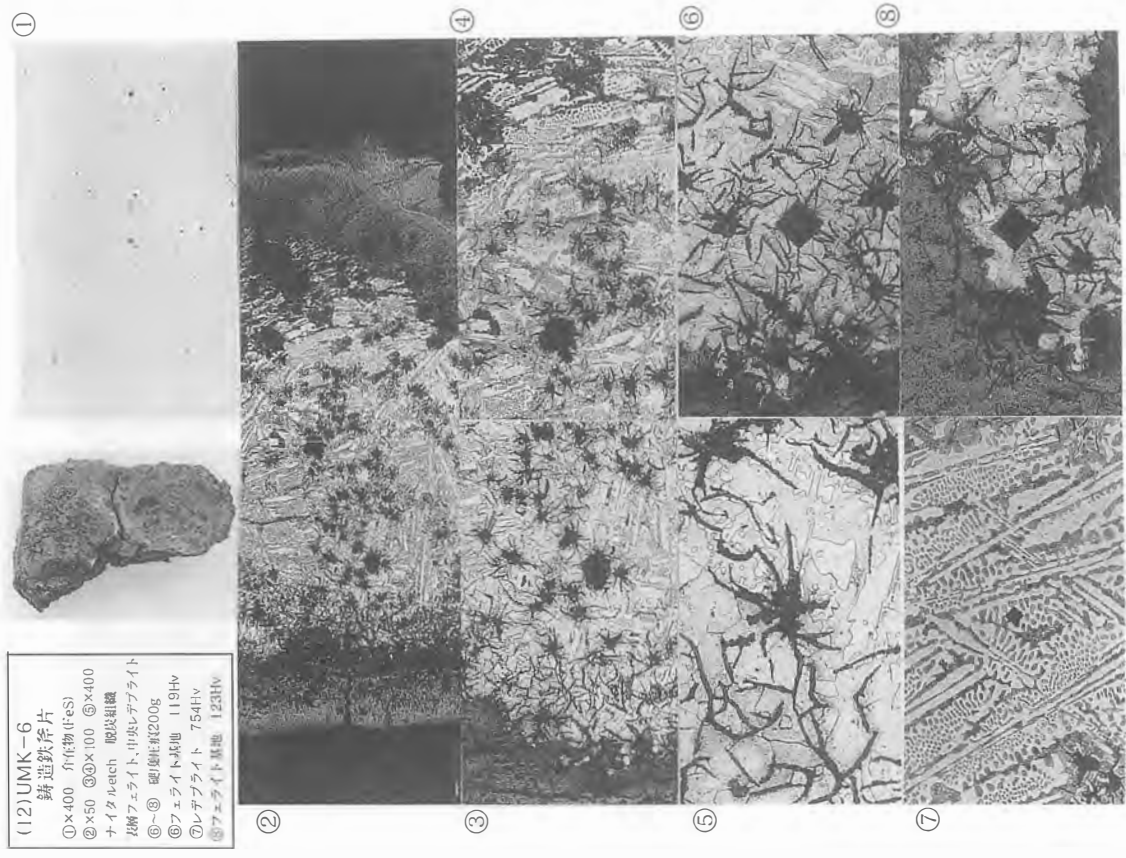


Photo. 12 鋳造鉄片の顕微鏡組織

(13)UMK-7
 鑄造鉄碎片
 ①×400 介(付物)0.6S
 ②×100 ③×400 片状出鉄
 ④~⑥×400 ナイタルベッチ
 ⑦×7フェライト @パーライト
 ⑧×200 鋼印付板
 ⑨パーライト:190HV
 ⑩フェライト:113HV

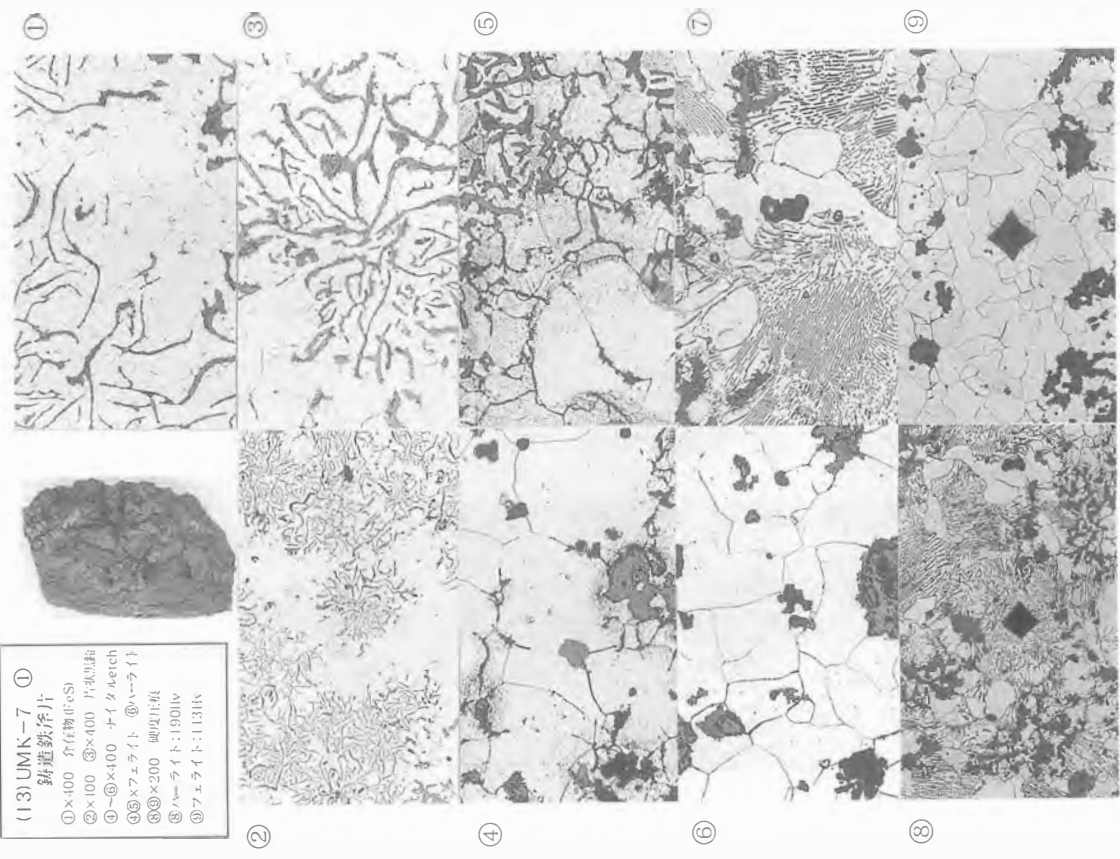


Photo. 13 鑄造鉄碎片の顕微鏡組織

(14)UMK-7
 鑄造鉄碎片
 ①×100 ナイタルベッチ
 フェライト基地に黒鉛粒
 ②×100 ①の上部分大
 ③×100 ④×100
 ⑤の中部分大 ⑥×100
 ⑦の下部分大
 ナリモ状黒色炭体は共晶黒鉛

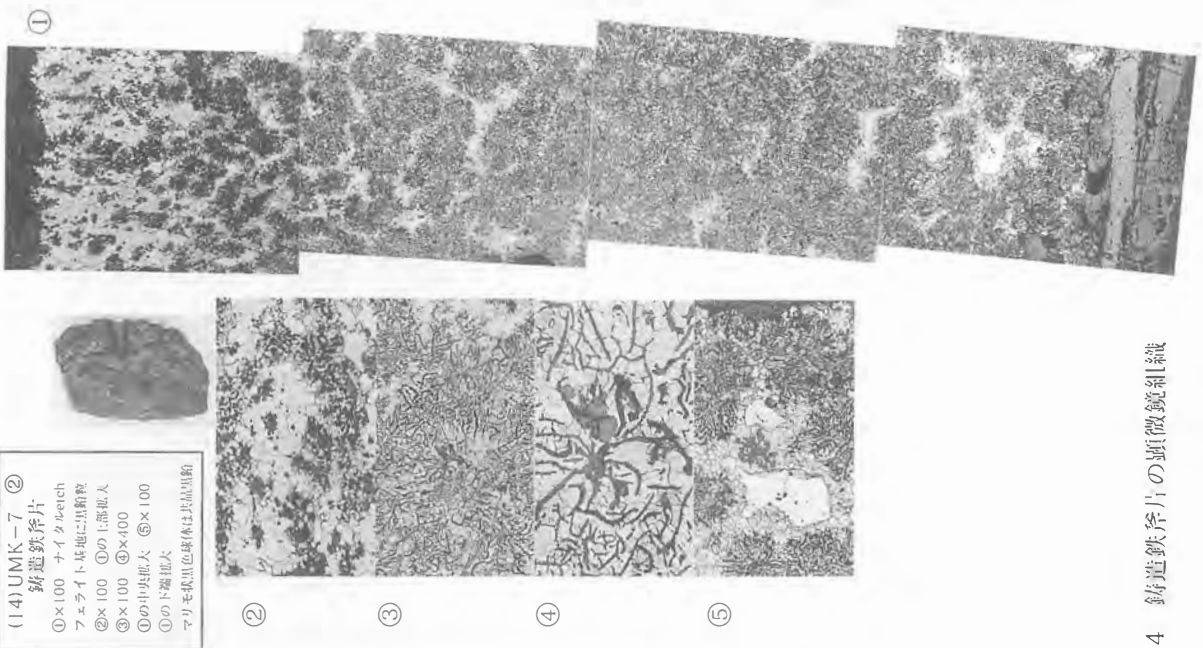
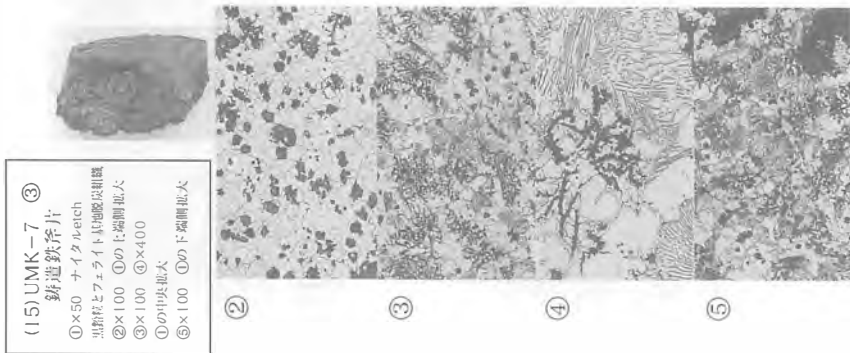


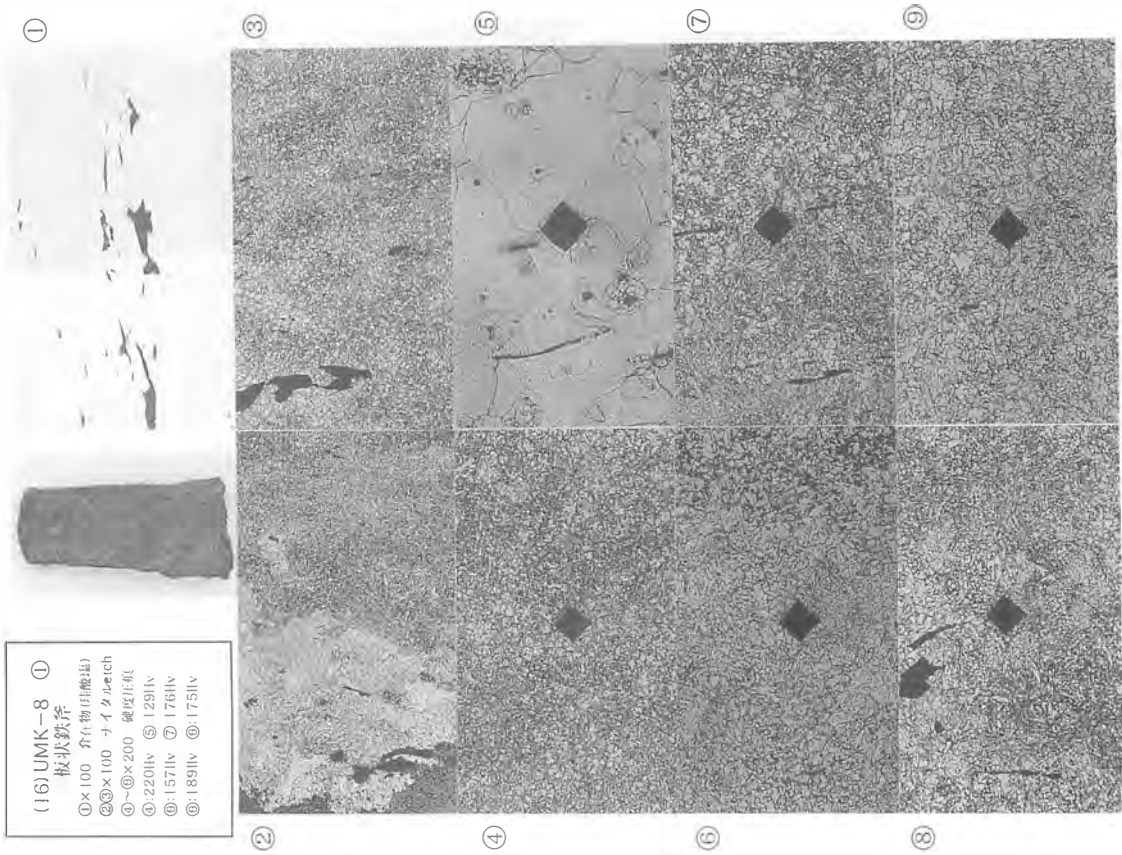
Photo. 14 鑄造鉄碎片の顕微鏡組織



(15)UMK-7 ③
 鑄造鉄屑片
 ①×50 ナイタルetch
 黒粉粒とフェライト相の微鏡組織
 ②×100 ③の上部拡大
 ④×100 ③×400
 ⑤の中央拡大
 ⑥×100 ③の下部拡大

←②拡大
 ③④拡大

Photo. 15 鑄造鉄屑片の顕微鏡組織



(16)UMK-8 ①
 板状鉄屑
 ①×100 介在物(硫酸)
 ②③×100 ナイタルetch
 ④-⑥×200 硬質片状
 ⑦-⑨×220倍
 ⑩:129倍
 ⑪:157倍 ⑫:176倍
 ⑬:189倍 ⑭:175倍

Photo. 16 板状鉄屑の顕微鏡組織

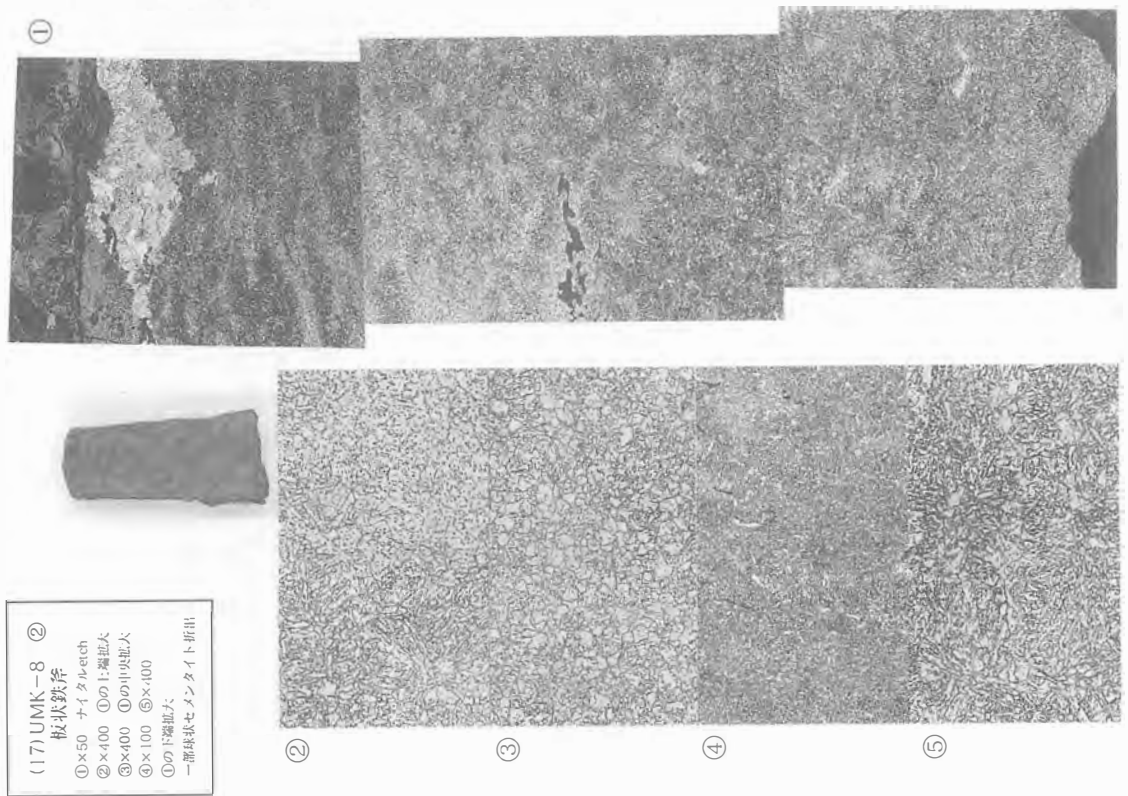


Photo. 17 板状鉄滓の顕微鏡組織

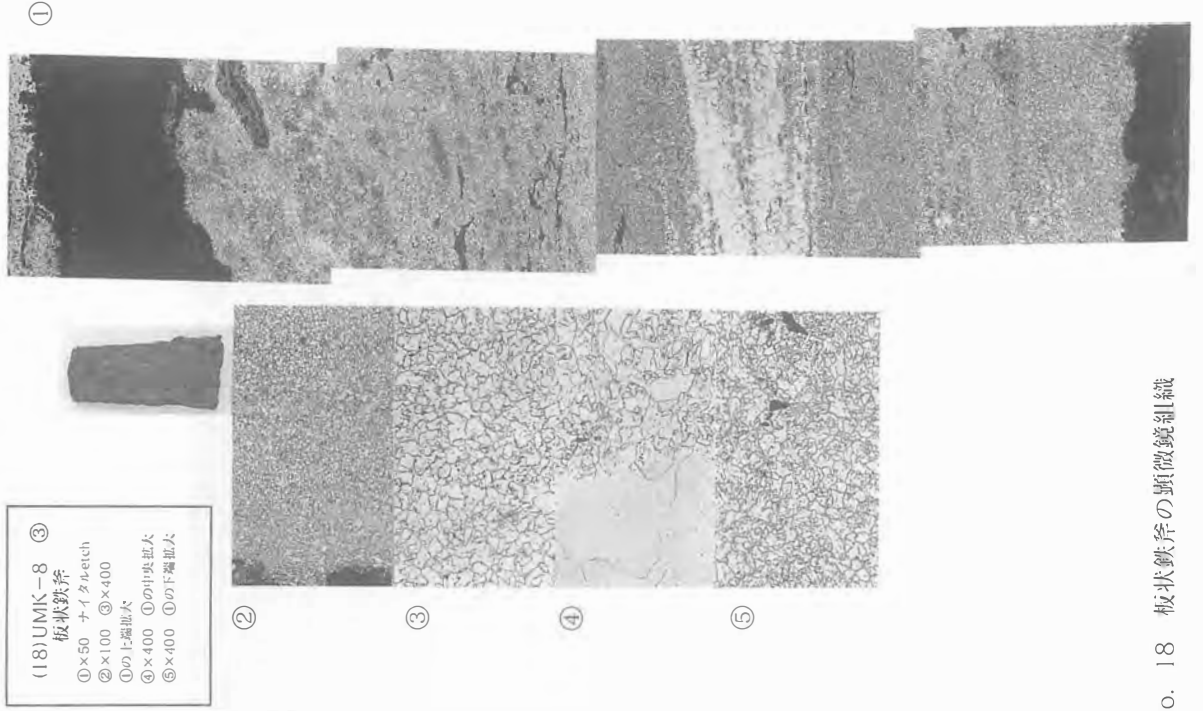
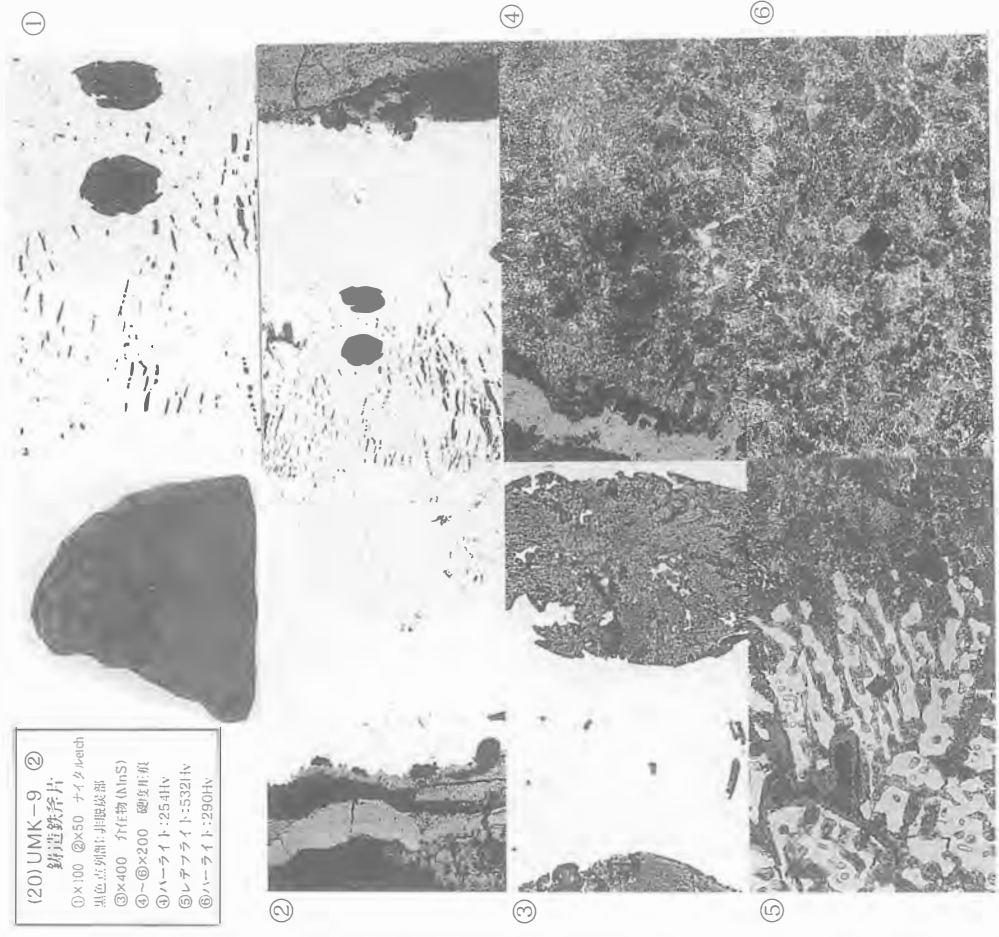


Photo. 18 板状鉄滓の顕微鏡組織



(19)UMK-9 ①
鋳造鉄屑片
 ①×400 介在物(MnS)
 ②×50,ナイタルetch,中炭共脱炭
 ③×100 ④×100 ⑤の脱炭
 →非脱炭の⑥,側鏡昇の⑦止入
 ⑦×400,⑧×100,⑧の付炭大



(20)UMK-9 ②
鋳造鉄屑片
 ①×100 ②×50 ナイタルetch
 黒色点列鏡昇,非脱炭部
 ③×400 介在物(MnS)
 ④~⑥×200 側鏡昇取
 ⑤ハーライト:25-4HV
 ⑥ハーライト:290HV

Photo. 19 鋳造鉄屑片の顕微鏡組織

Photo. 20 鋳造鉄屑片の顕微鏡組織

(21) UMK-10 ①
 鑄造鉄斧片
 ①×50 ②×100 ③×400
 以み方角中央、非脱炭組織
 脱炭層: ハーライト
 ④×400 ⑤×400
 非脱炭: レデアライト
 ⑥は脱炭・非脱炭境界

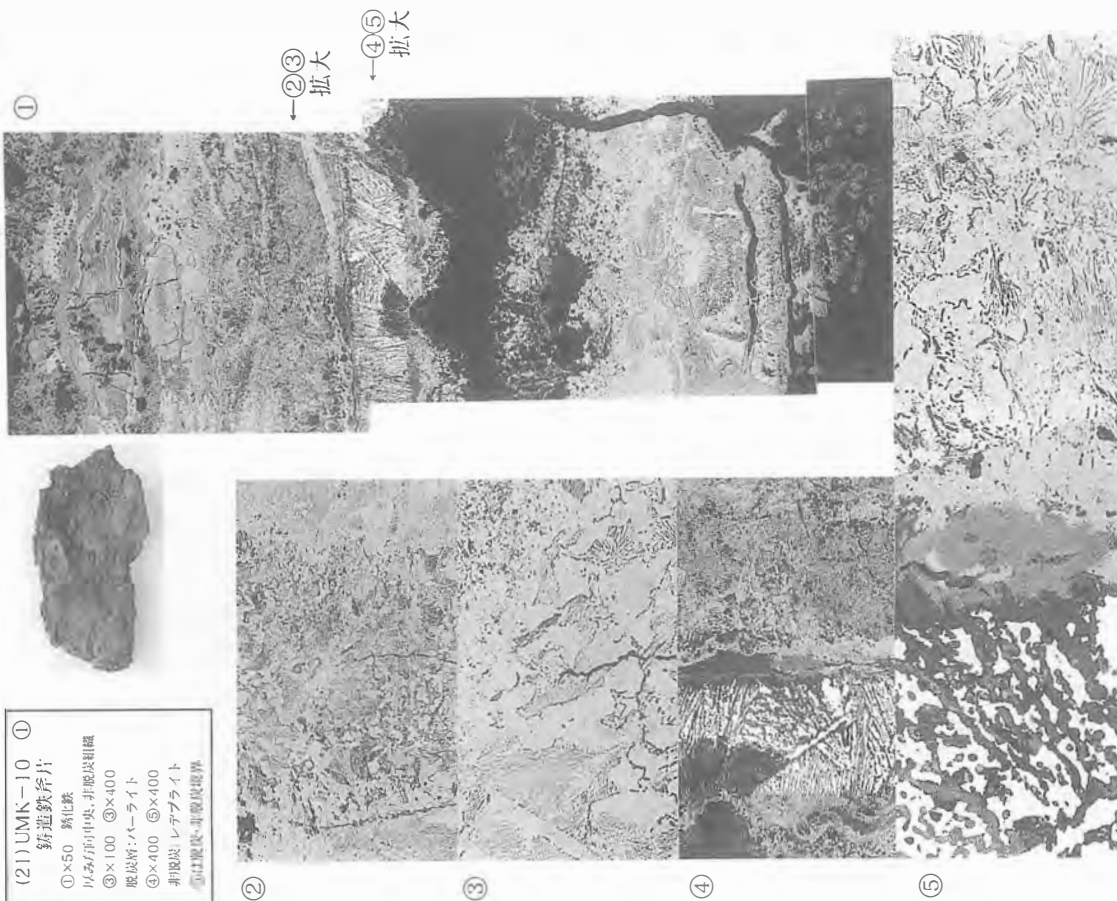


Photo. 21 鑄造鉄斧片の顕微鏡組織

(22) UMK-10 ②
 鑄造鉄斧片
 ①×50 ②×100 ③×400
 中央、非脱炭部(脱炭)
 レデアライト組織(脱炭)
 ④×100 ⑤×400
 ハーライト組織(脱炭)
 ⑥×100 ⑦×400
 脱炭部中央に本質を写す

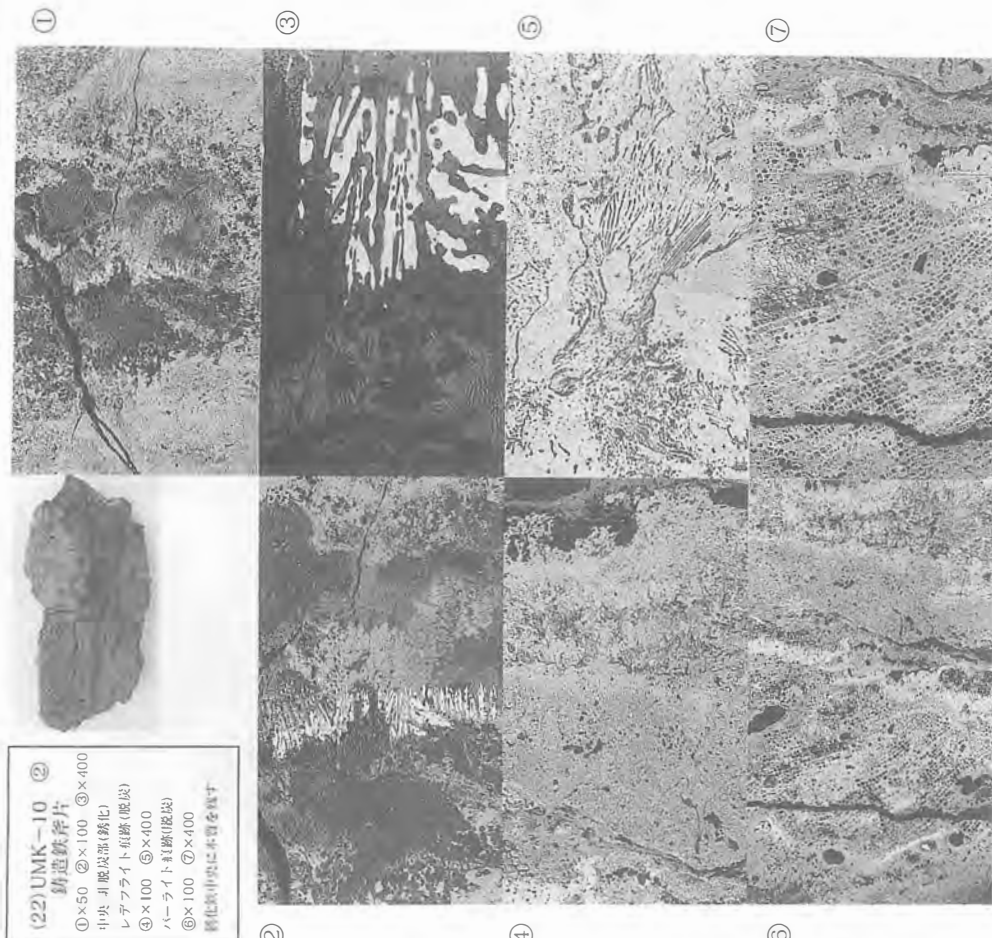


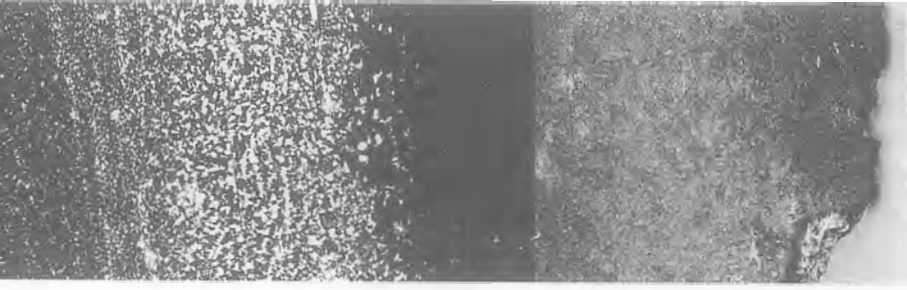
Photo. 22 鑄造鉄斧片の顕微鏡組織

(23) UMK-11 ①
 袋状鉄斧
 ①×50 試料断面
 ②×400 非金属夹杂物
 組織、フェライト
 ③~⑤×200 試料断面
 ③中央部:555HV
 ④側部:192HV
 ⑤皮部:548HV



Photo. 23 袋状鉄斧の顕微鏡組織

①
 表面酸化鉄



皮金部

フェライト・
 パーライト

厚み方向
 中央部

マルテンサイト
 心金部

(24) UMK-11 ②
 袋状鉄斧
 ①×400 非金属夹杂物
 ②~⑦ Photo23の拡大
 ⑧×100 ⑨×400 マルテンサイト
 ⑩×100 ⑪×400 フェライト・パーライト
 ⑫×100 ⑬×400 フェライト・パーライト
 ⑭×100 側部:マルテンサイト
 ⑮×200 側部:硬度計600SHV

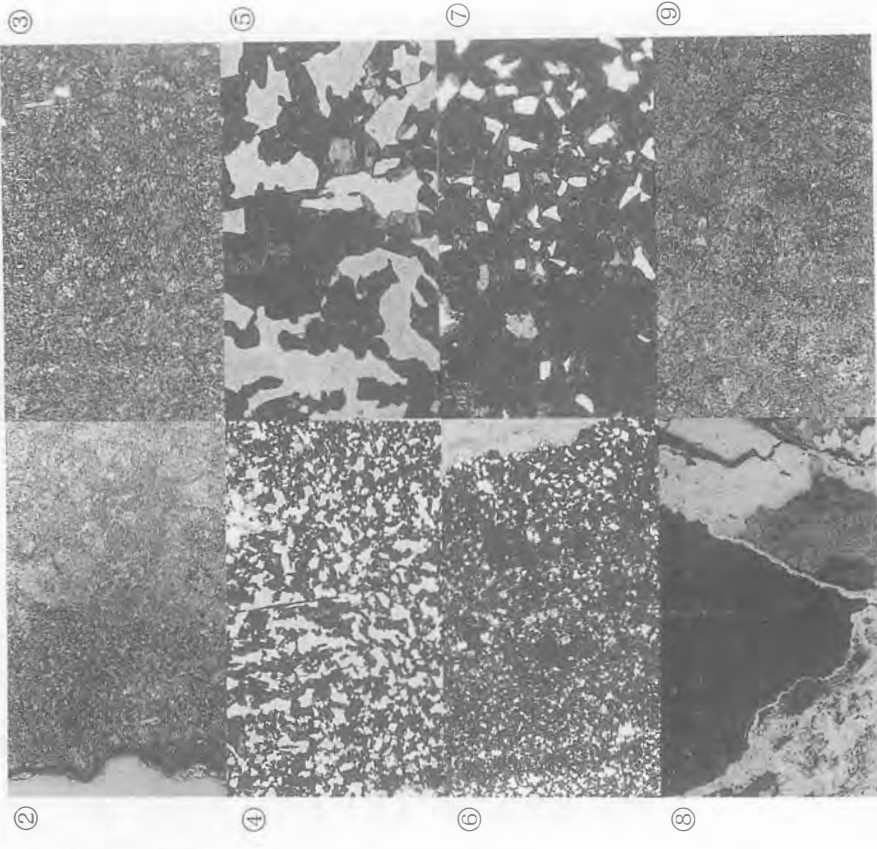


Photo. 24 袋状鉄斧の顕微鏡組織

(25) UMK-12 ①
棒状鉄片
①×50 樹断面
②×100 ①の縦長拡大
③~⑤×200 樹皮厚直
③2861W:フェライト
④2151W:フェライト・パーライト
⑤1891W:フェライト

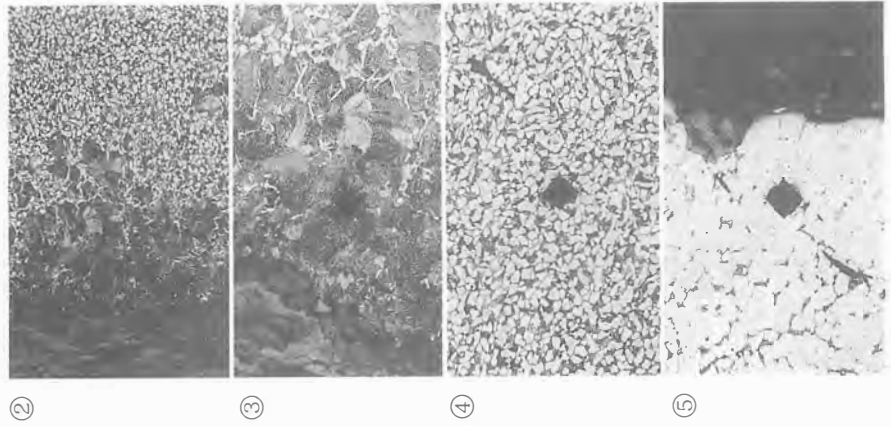
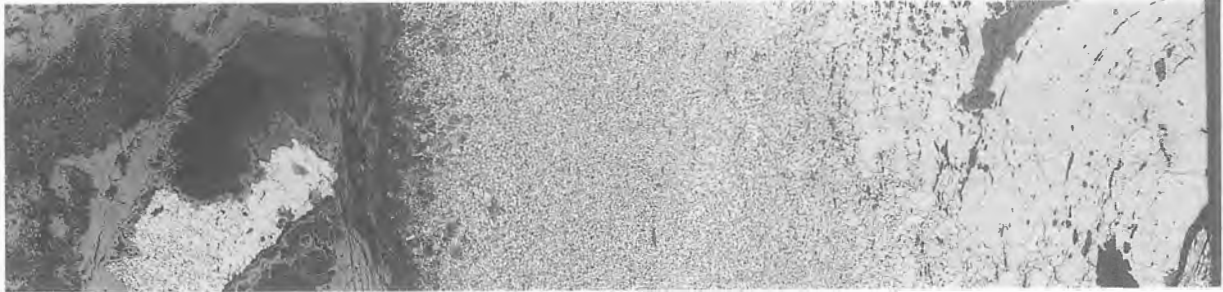


Photo. 25 棒状鉄片の顕微鏡組織

①
2
次付着物
か
錆化鉄
長層
浸炭組織



(26) UMK-12 ②
棒状鉄片
①×50 ②×100 ③×400
角部非晶質介在物:パーライト
④×100 ⑤×400 中央部:パーライト
周縁部:フェライト・パーライト
⑥×100 ⑦×400
角部フェライト・パーライト
⑧×100 ⑨×400 フェライト

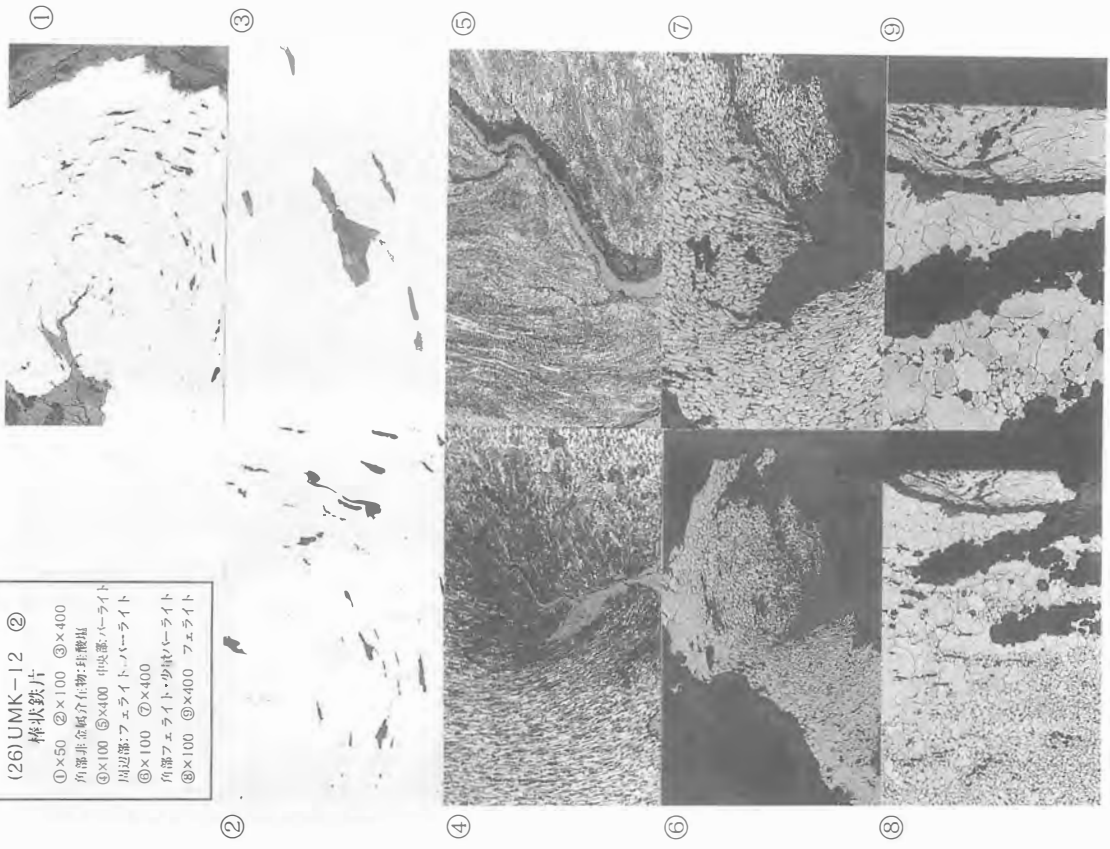


Photo. 26 棒状鉄片の顕微鏡組織

(29) UMK-14
鉄鋳
①×100 ②×400 非金属含有物
③×50 ④×100 フェライト-パーライト
⑤~⑦×200 硬質相
⑧硬質相 160HV ⑨炭素含量: 220HV
⑦硬質相 221HV
⑧×50 相野フェライト-パーライト

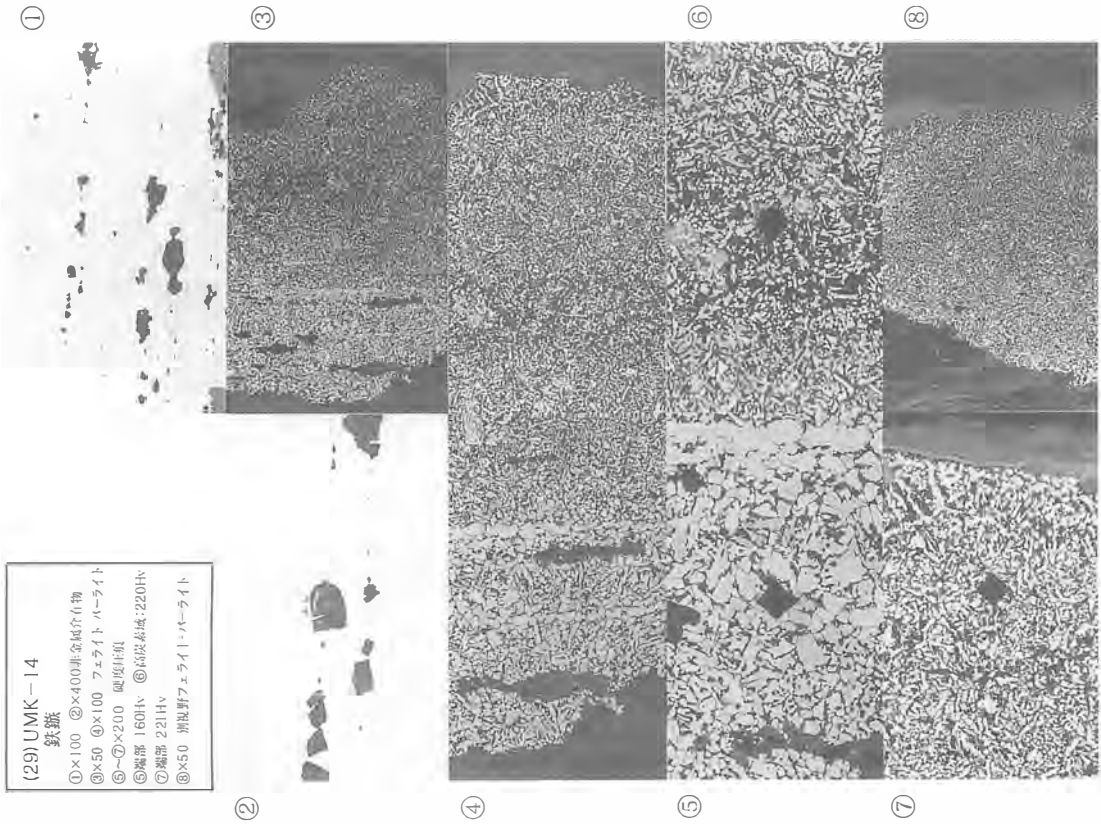


Photo. 29 鉄鋳の顕微鏡組織

(30) UMK-15
鋳造鋳器片
①
①×100 ②×400 炭素鋼
鉄北鉄 パーライト-白鉄鉄組織
③~⑦ ナイタルetch
⑧×100 中央:白鉄鉄
硬質相:硬炭相 ⑨×400
⑩中央硬質相 ⑪×400 ⑫硬質相大
⑬×100 ⑭×400 硬炭孔

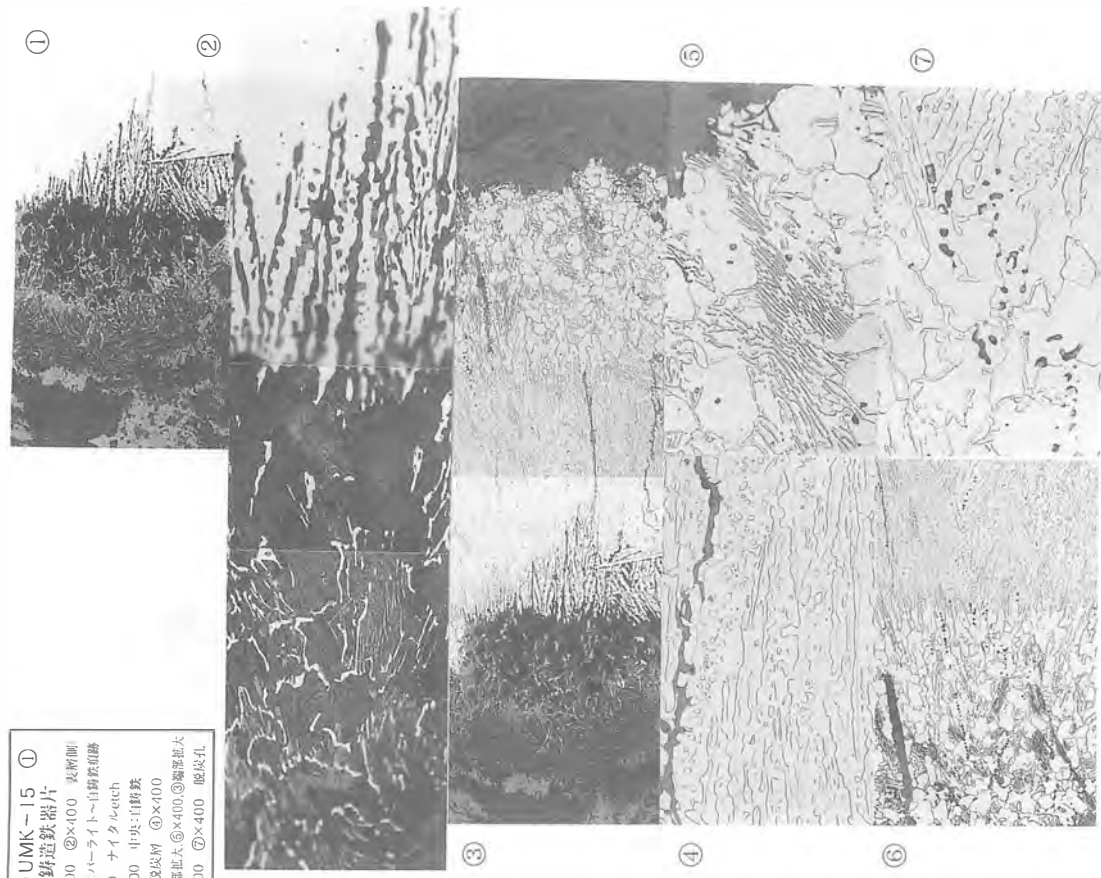
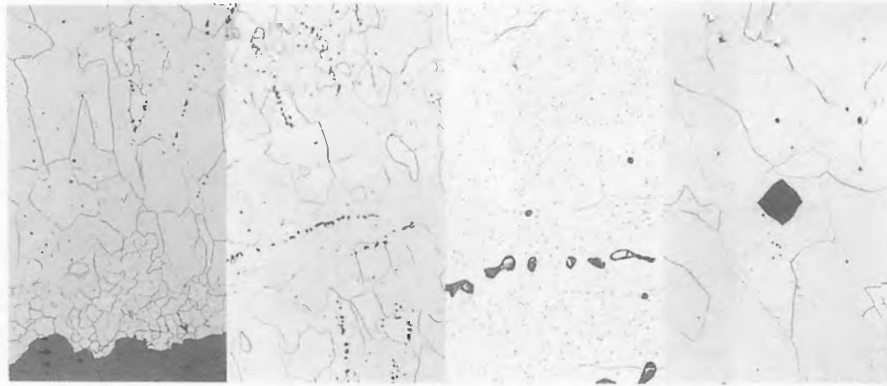


Photo. 30 鋳造鋳器片の顕微鏡組織

①



(32)JMK-16
鑿状鉄器
①×50 断面全面脱炭フェライト
②×100 表層部①の拡大
③×100 ④×400
点列状脱炭孔
⑤×200 硬度経線
フェライト132HV



②

③

④

⑤

①
フェライト単相

脱炭層

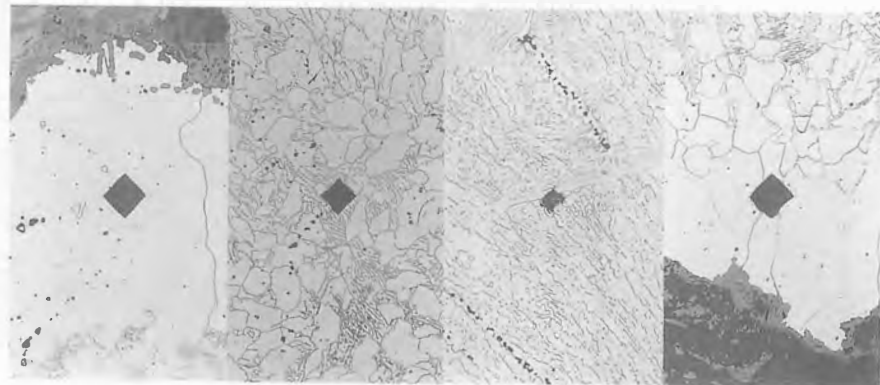
非脱炭層

脱炭層

フェライト単相



(31)JMK-15 ②
鑄造鉄片
①×100 断面
②-⑤×200 硬度経線
②脱炭部脱炭156HV フェライト
③脱炭部214HV 球状セメントライト
④中央部脱炭組織残存501HV
⑤脱炭部脱炭141HV フェライト



②

③

④

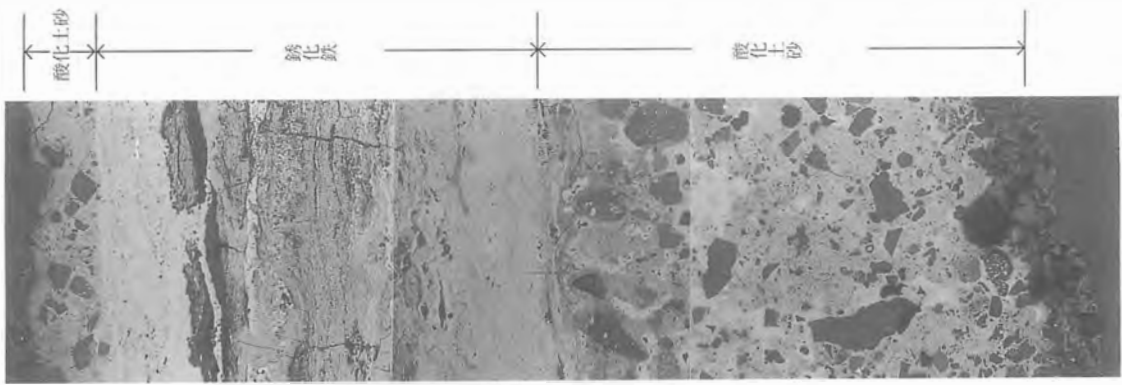
⑤

Photo. 32 ノミ状鉄器の顕微鏡組織

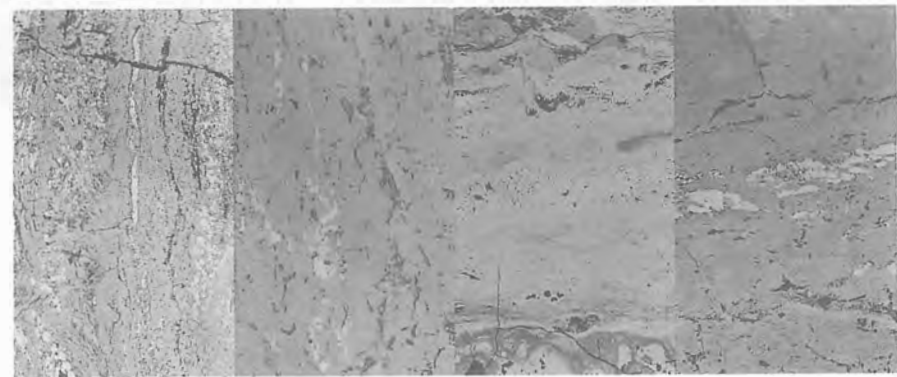
Photo. 31 鑄造鉄片の顕微鏡組織

(33)UMK-17
鉄板

- ①×50断面は酸化土に付着
- 鉄部別化 ②×100
- 非金屬介在物:非酸化物③の拡大
- ④×400パーライト組織:極微細か
- ⑤の拡大 ③×100 ④×400
- パーライト組織 ⑤の拡大



①



②

③

④

⑤

Photo.33 鉄板の顕微鏡組織

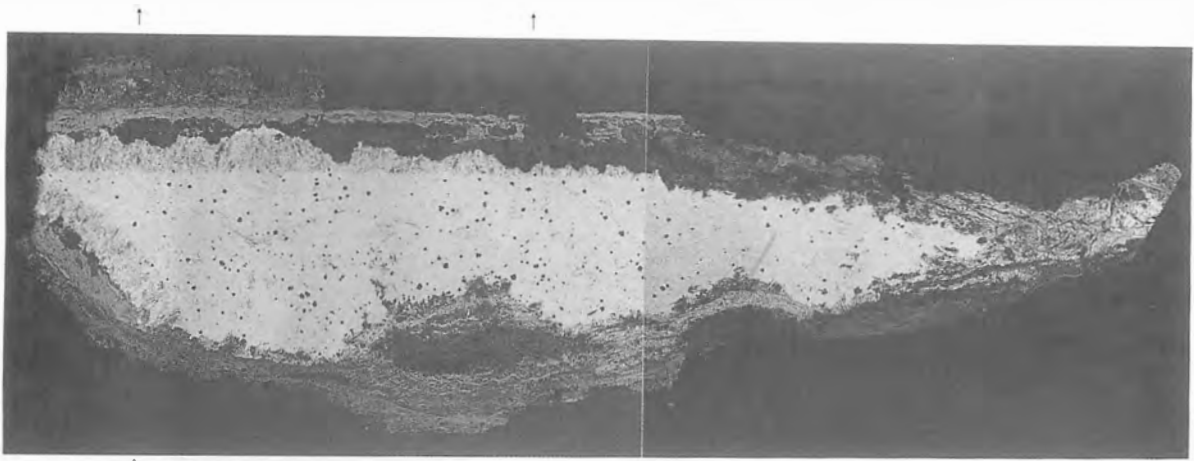


Photo. 1
②
撮影箇所

Photo. 2
①
撮影箇所

Photo.34 鑄造鉄斧片(UMK-1)のマクロ組織(×10)

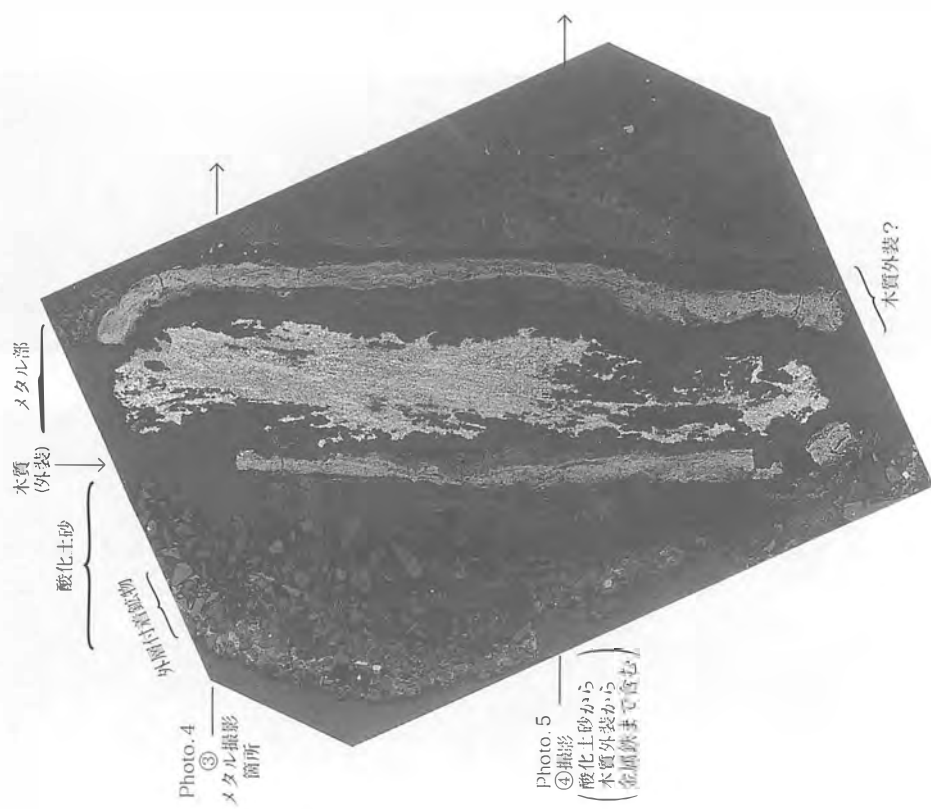


Photo. 35 鉄剣の柄? (UMK-2)のマクロ組織(×10)

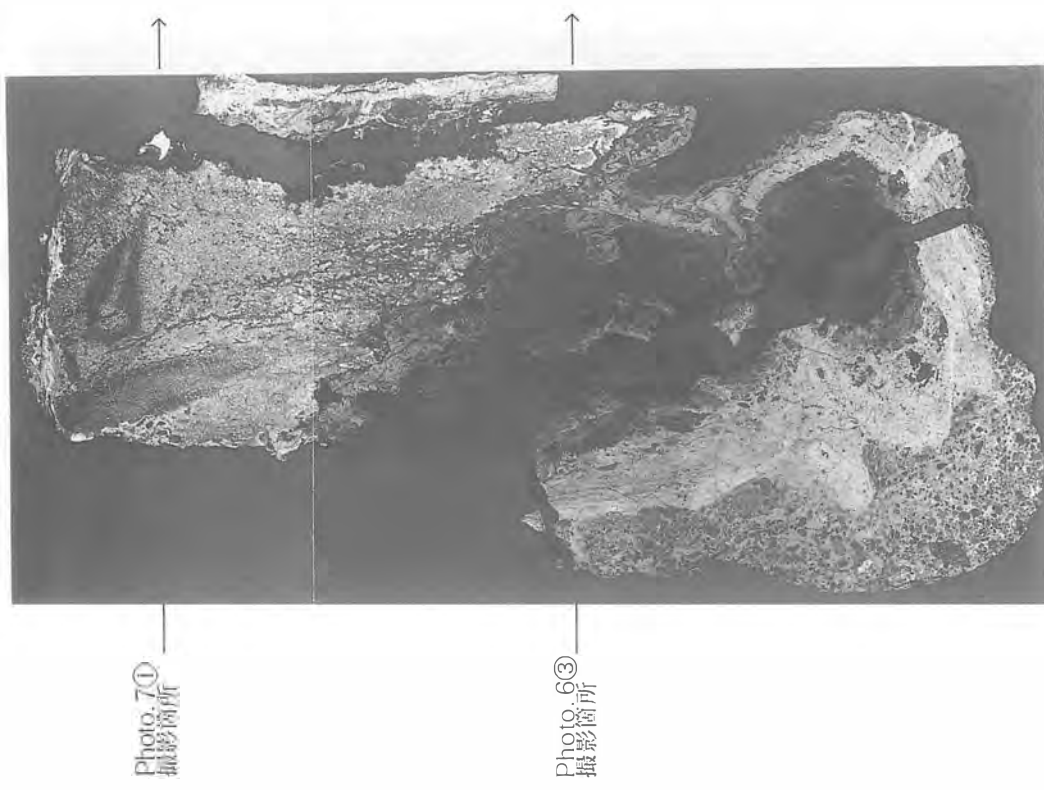


Photo. 36 ノミ状鉄器(UMK-3)のマクロ組織(×10)

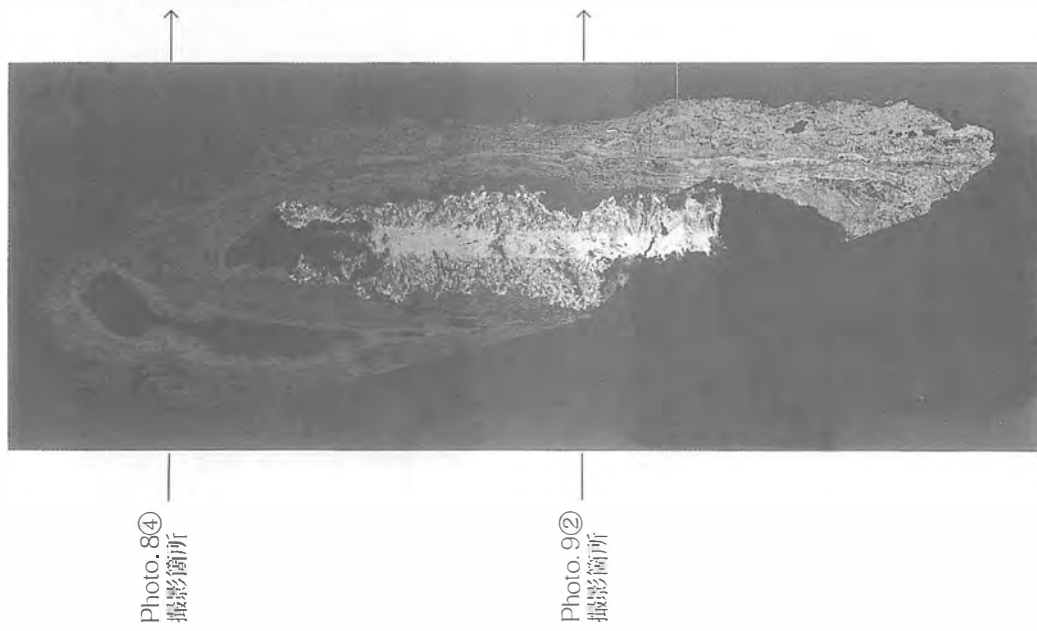


Photo. 37 鋳造鉄管片(UMK-4)のマクロ組織(×10)

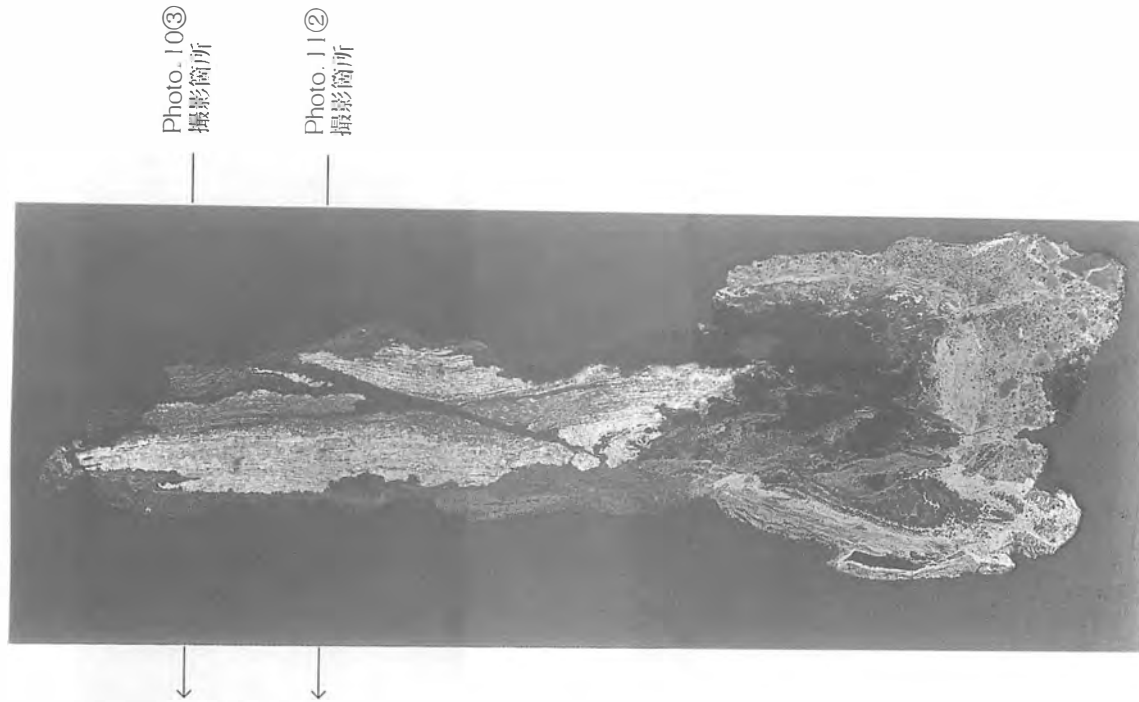


Photo. 38 板状鉄管(UMK-5)のマクロ組織(×10)

Photo. 12
②
撮影箇所



Photo. 14
①
撮影箇所

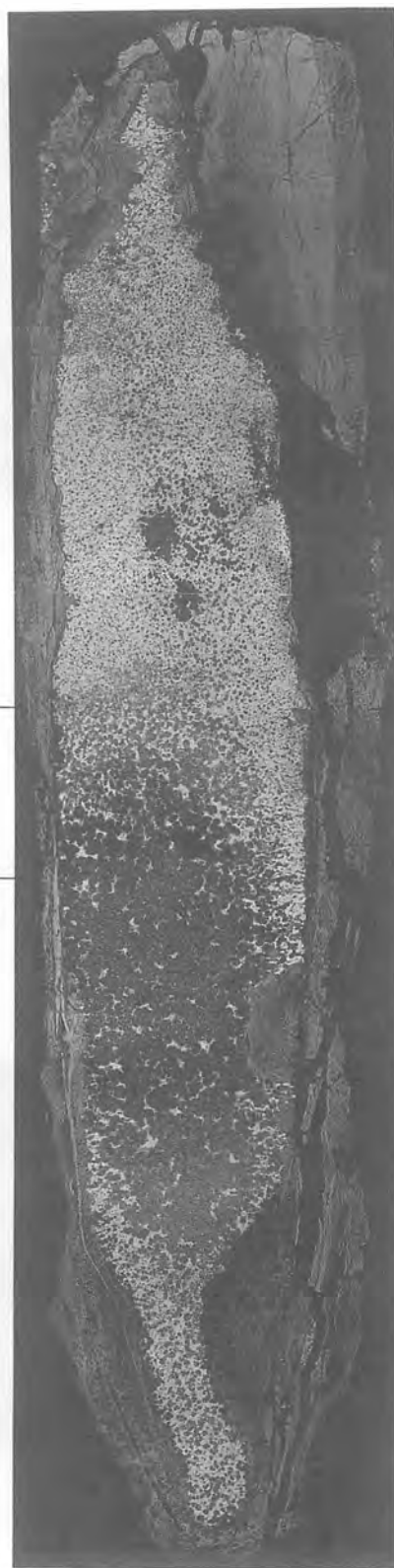


Photo. 15
①
撮影箇所

下部黒点の顕著なところが共晶黒鉛の折出箇所である

Photo. 39 鑄造鉄斧片(UMK-6)のマクロ組織(×20)

Photo. 40 鑄造鉄斧片(UMK-7)のマクロ組織(×10)

Photo. 17
①
撮影箇所



Photo. 19
②
撮影箇所

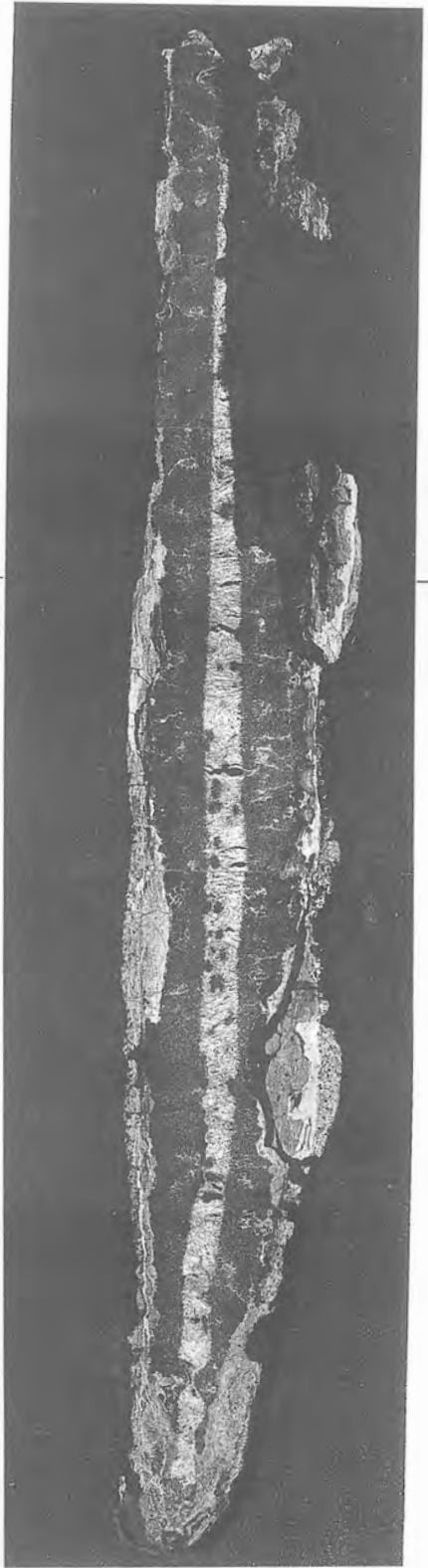


Photo. 18
①
撮影箇所

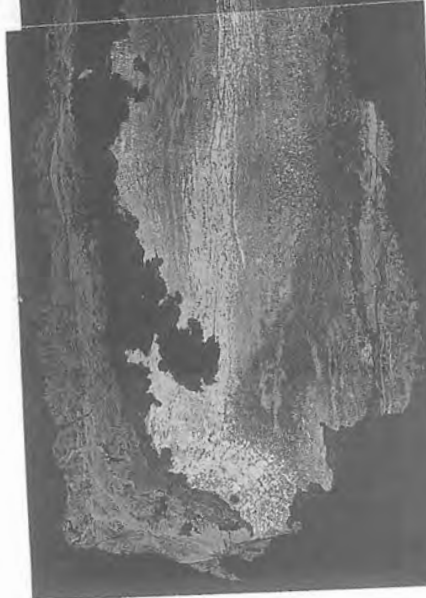
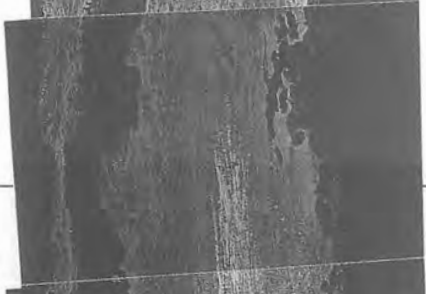
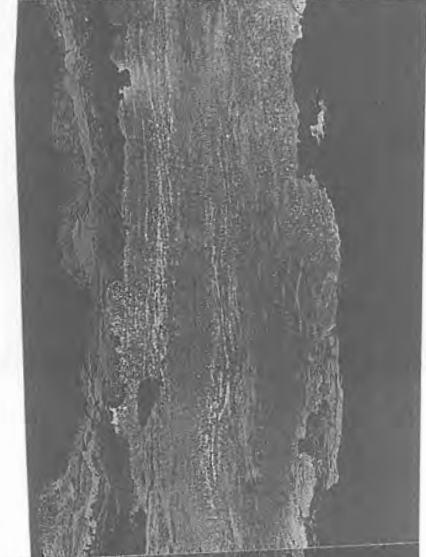


Photo. 42 鑄造鉄斧片(UMK-9)の
マクロ組織(×10)

Photo. 41 板状鉄斧(UMK-8)の
マクロ組織(×10)

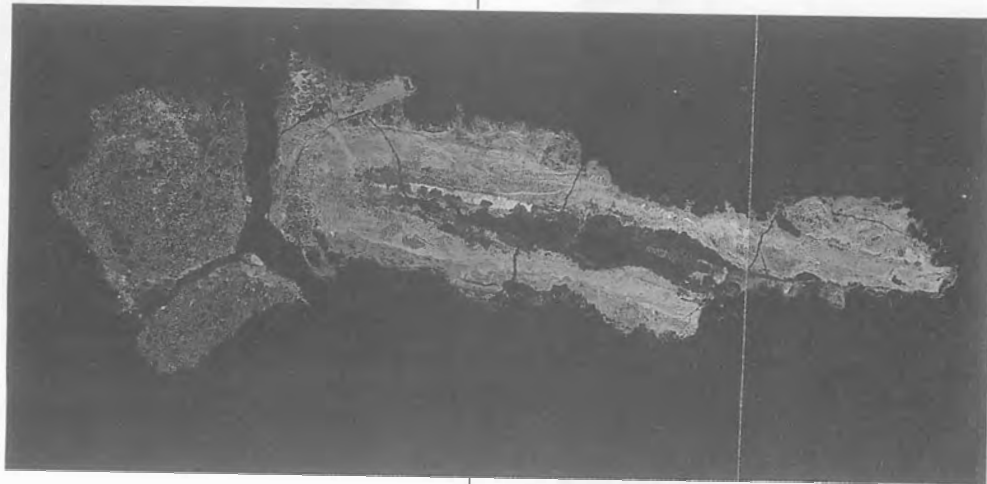


Photo. 21
①
撮影箇所

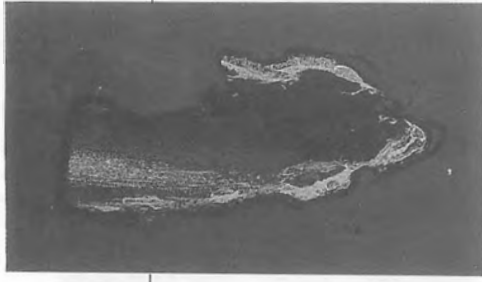


Photo. 23
①
撮影箇所



Photo. 25
①
撮影箇所

Photo. 44 上段:袋状鉄滓 (UMK-11)のマクロ組織 (×10)
下段:棒状鉄滓 (UMK-12)のマクロ組織 (×20)

Photo. 43 鋳造鉄滓片 (UMK-10)のマクロ組織 (×10)

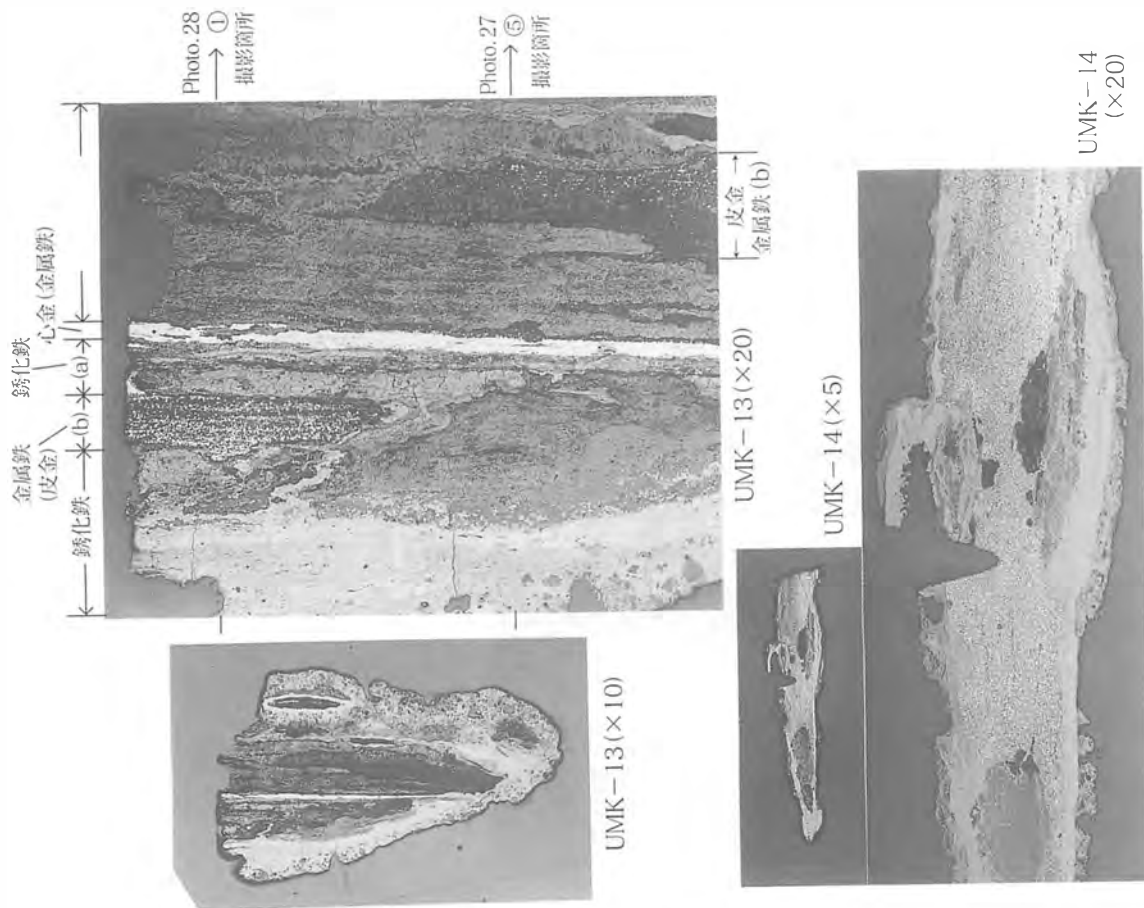


Photo. 45 板状鉄片 (UMK-13)・鉄錠 (UMK-14) のマクロ組織

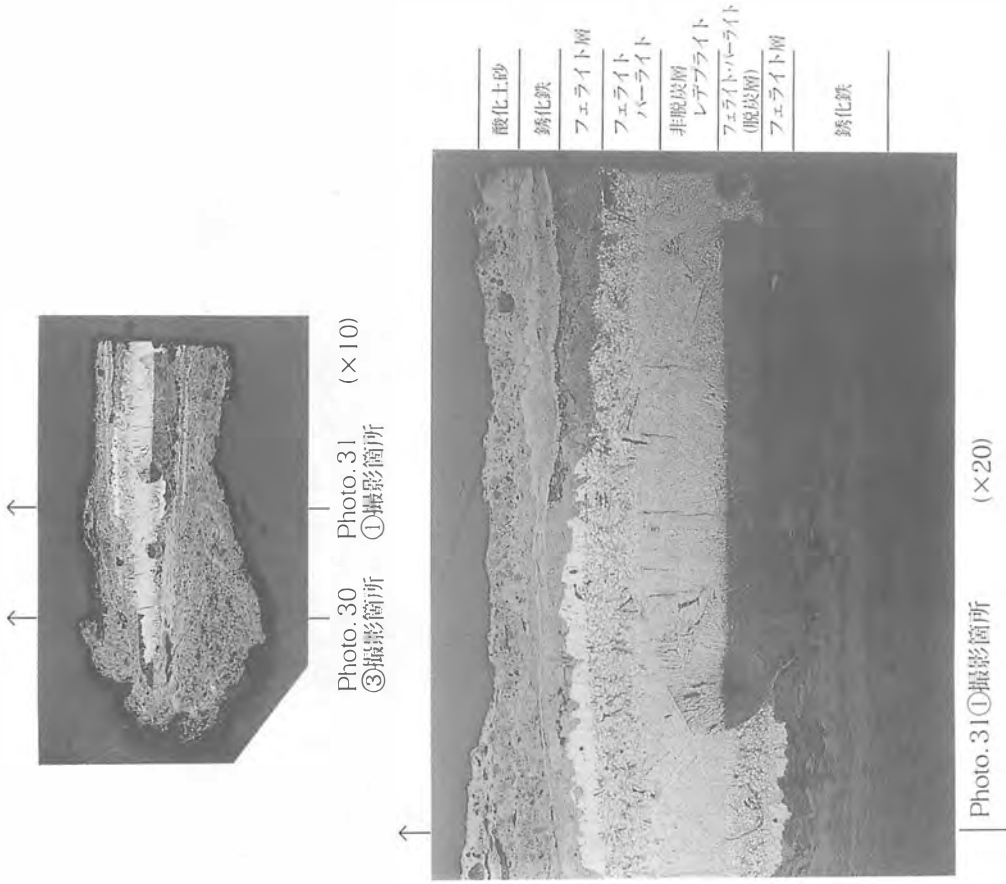


Photo. 46 鋳造鉄器片 (UMK-15) のマクロ組織

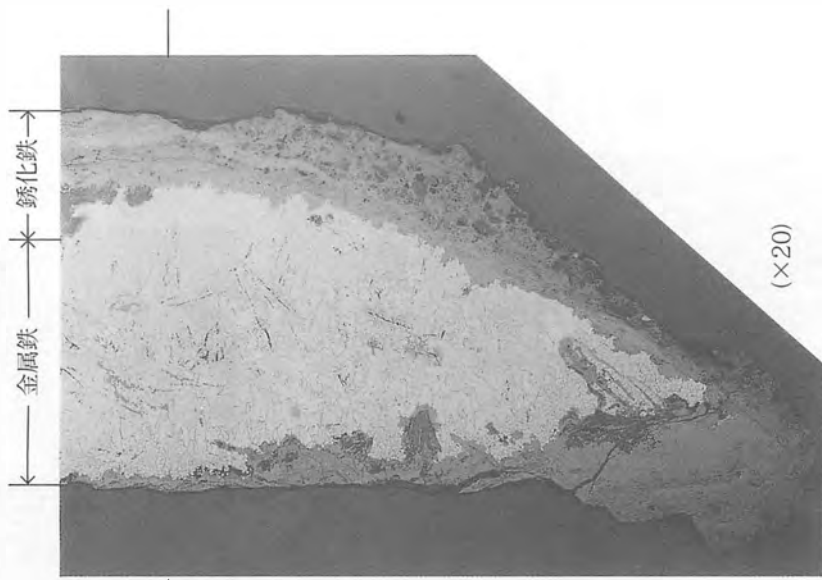


Photo. 32
① ← 撮影箇所

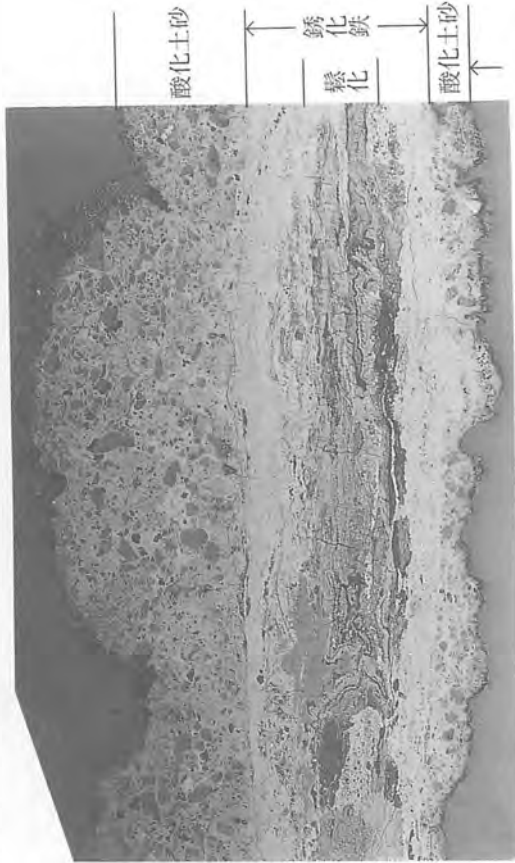
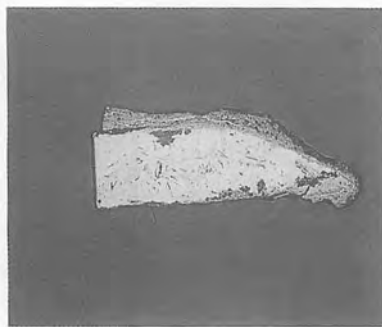


Photo. 48 鉄鍍 (UMK-17) のマクロ組織

Photo. 47 ノミ状鉄器 (UMK-16) のマクロ組織

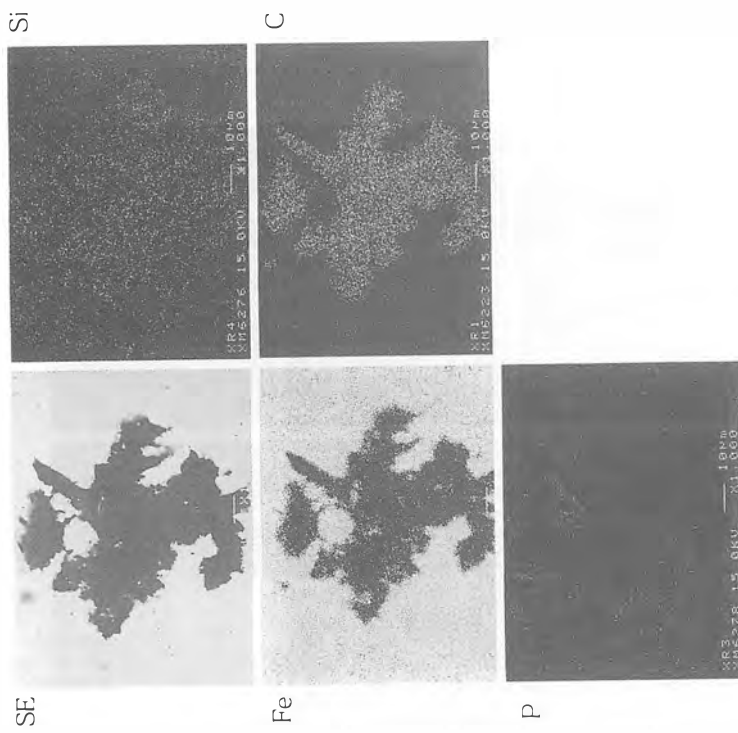


Photo. 49 鋳造鉄碎片 (UMK-1-1) 塊状黒鉛の特性X線像

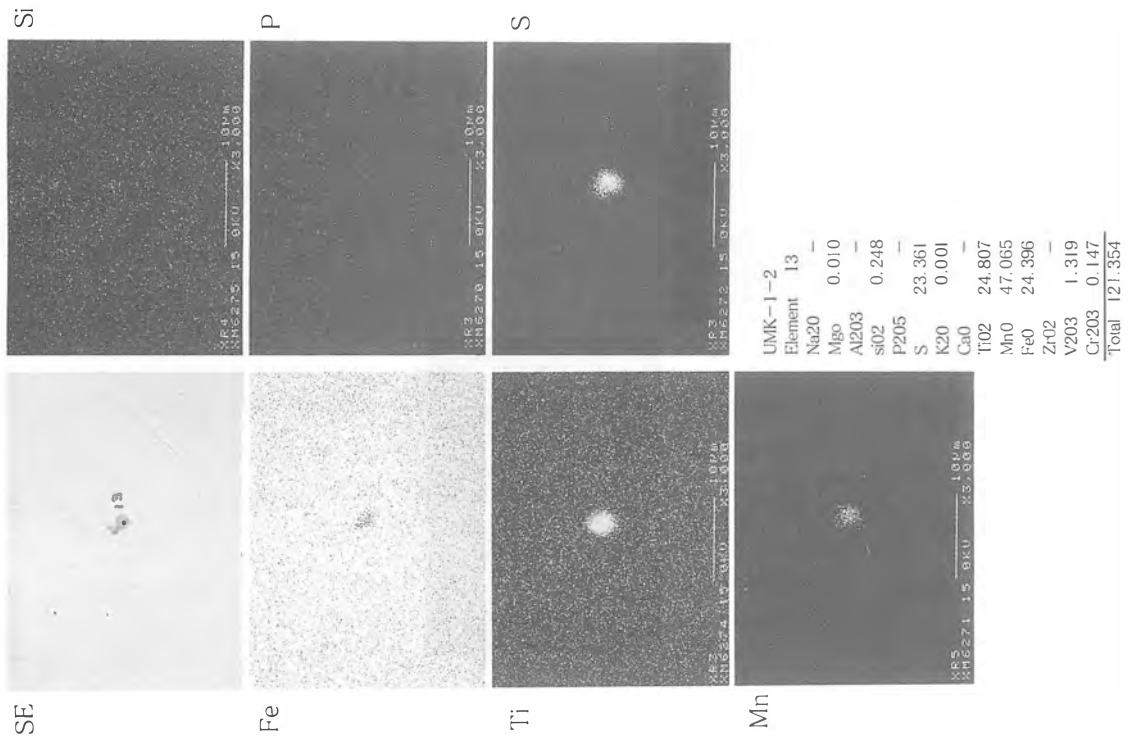


Photo. 50 鋳造鉄碎片 (UMK-1-2) 鉄中非金属 inclusion の特性X線像と定量分析値

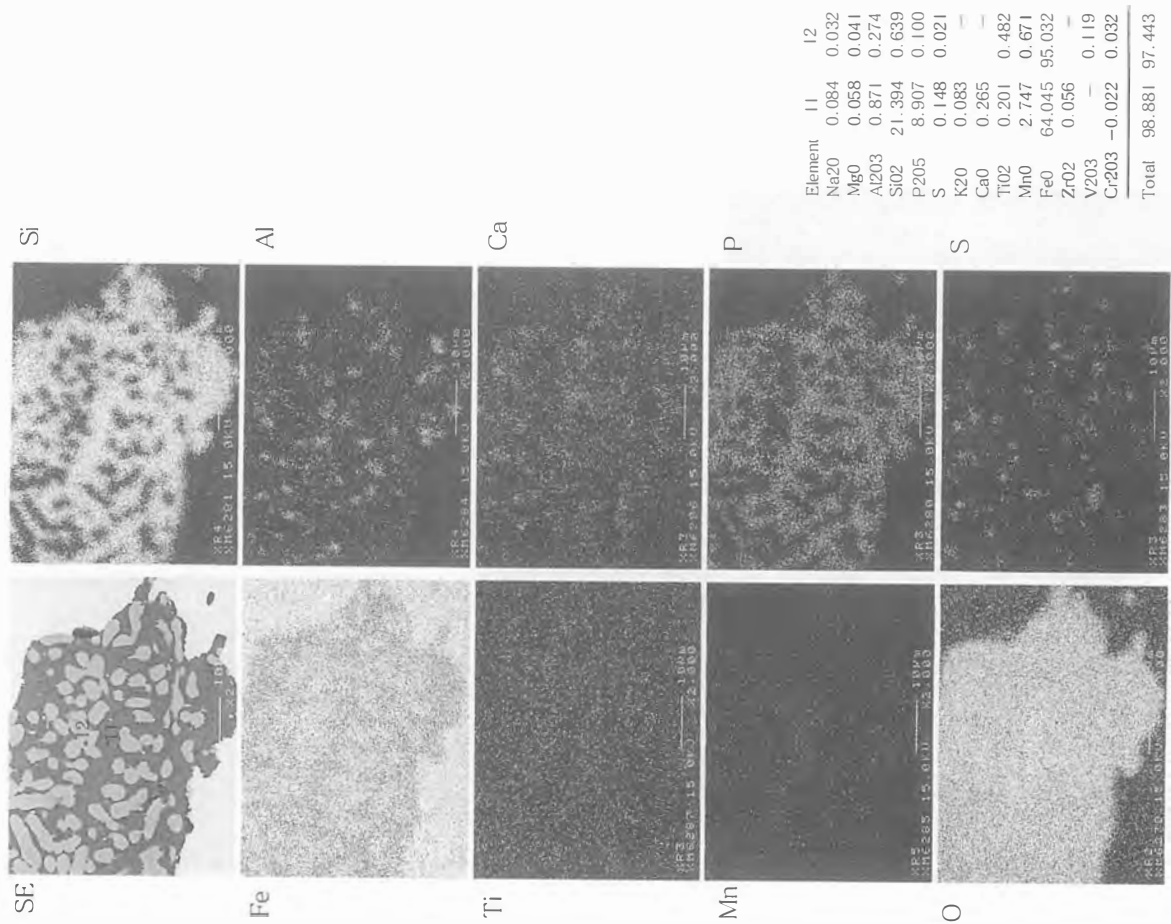


Photo. 51 鉄剣の柄？ (UMIK-2-1) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

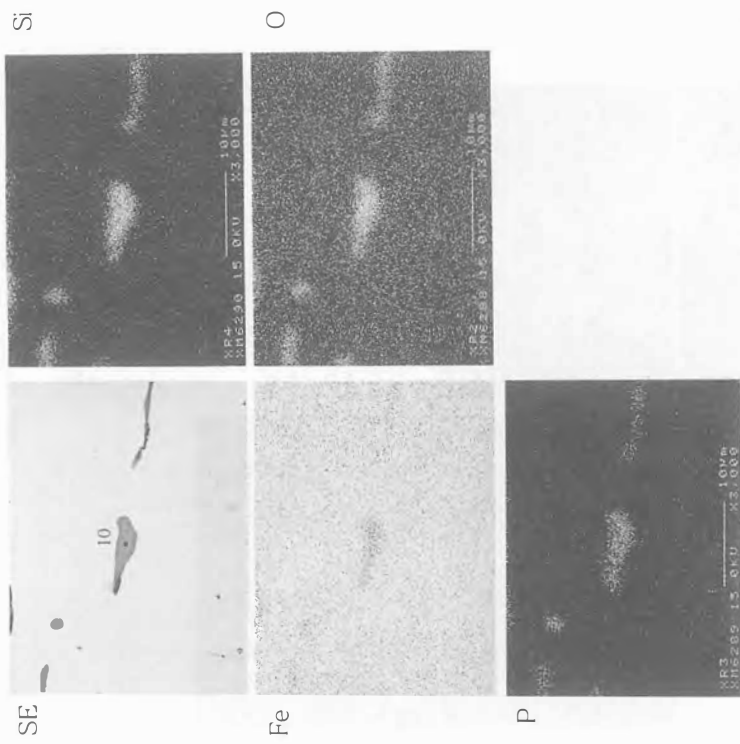


Photo. 52 鉄剣の柄？ (UMIK-2-2) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

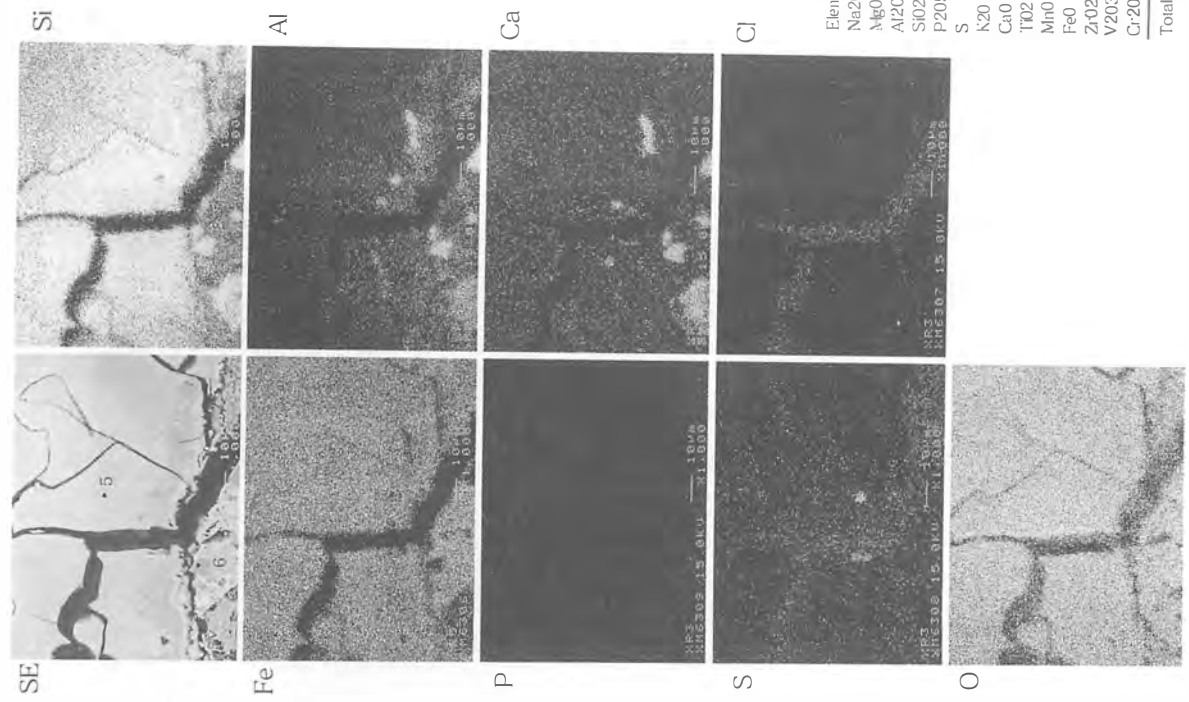


Photo. 54 鉄剣の柄？ (UMK-2-4)付着物の特性X線像と定量分析値

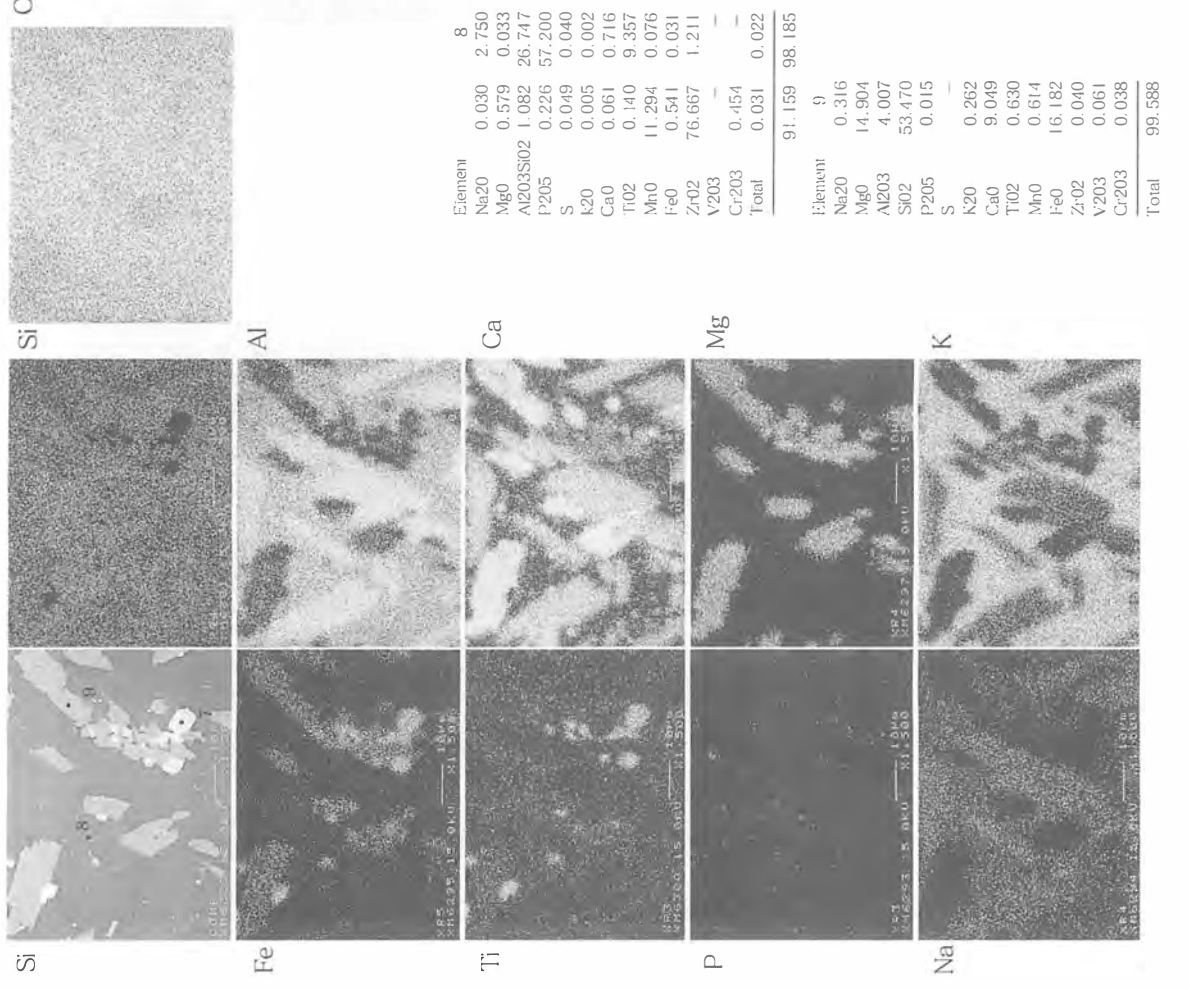


Photo. 53 鉄剣の柄？ (UMK-2-3)酸化上砂外層付着鉱物の特性X線像と定量分析値

Element	8
Na2O	0.030
MgO	0.579
Al2O3SiO2	1.082
P2O5	0.226
S	0.049
K2O	0.005
CaO	0.051
TiO2	0.140
MnO	11.294
FeO	0.541
ZrO2	76.667
V2O3	-
Cr2O3	0.454
Total	0.031
Total	91.159

Element	9
Na2O	0.316
MgO	14.904
Al2O3	4.007
SiO2	53.470
P2O5	0.015
S	-
K2O	0.262
CaO	9.049
TiO2	0.630
MnO	0.614
FeO	16.182
ZrO2	0.040
V2O3	0.061
Cr2O3	0.038
Total	99.588

Element	5	6
Na2O	0.103	2.035
MgO	0.046	0.047
Al2O3	0.019	28.967
SiO2	37.493	53.734
P2O5	0.257	0.012
S	0.912	0.003
K2O	0.121	0.420
CaO	0.197	11.664
TiO2	0.040	0.0780
MnO	0.107	-
FeO	49.579	2.14
ZrO2	-	0.010
V2O3	-	-
Cr2O3	0.023	-
Total	88.897	99.074

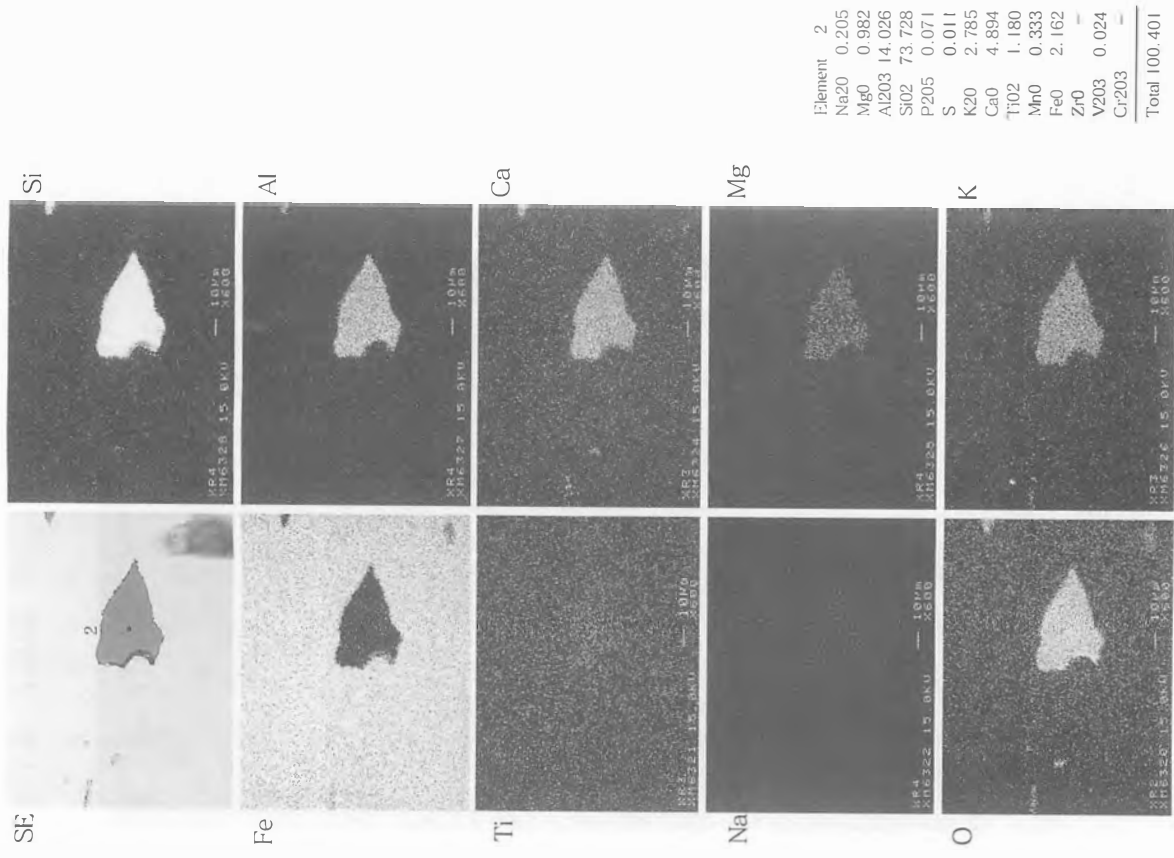


Photo. 55 盤状鉄器(UMK-3-1)鉄中非金属存在物の特性X線像と特定分析値

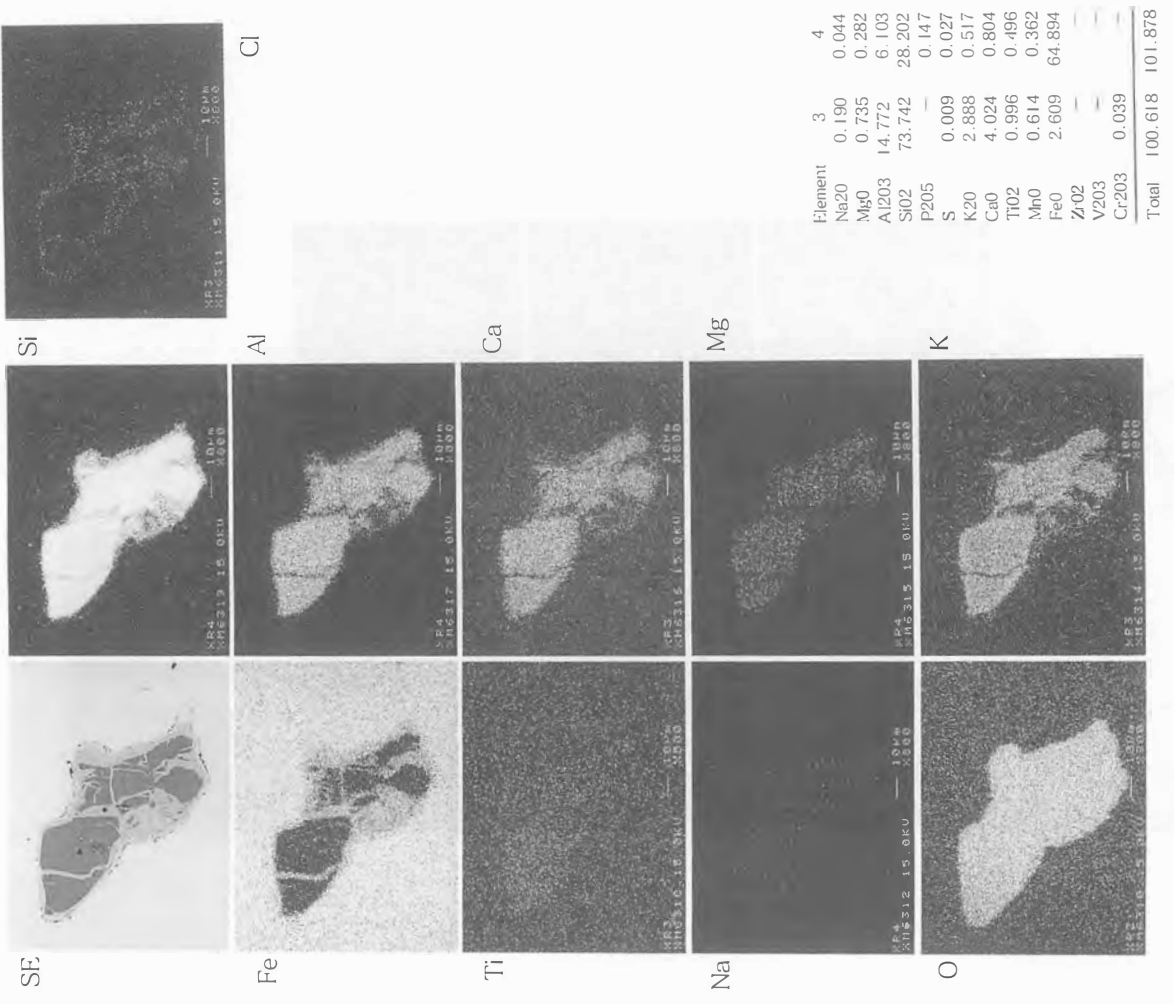


Photo. 56 盤状鉄器(UMK-3-2)鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

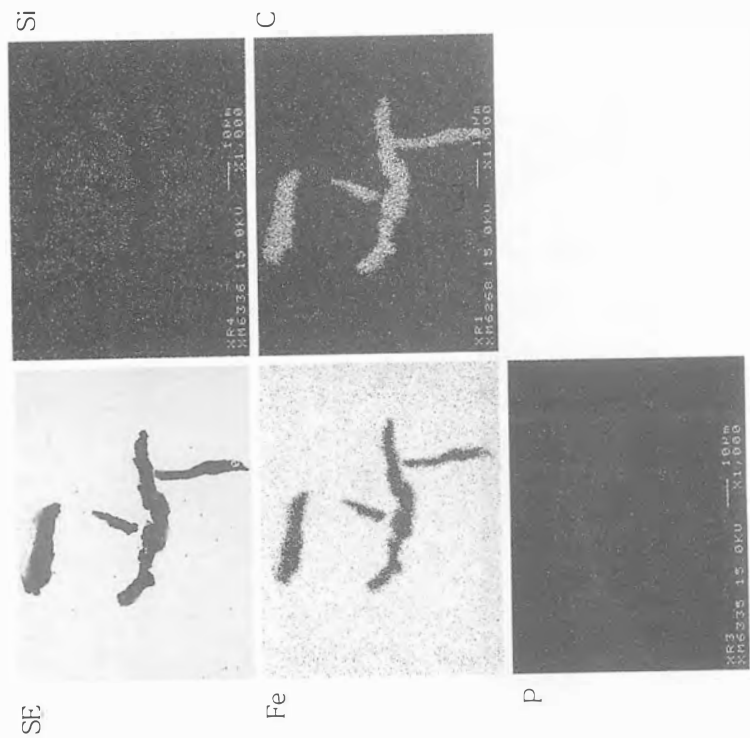


Photo. 57 鋳造鉄碎片(UMK-4-1)片状黒鉛の特性X線像

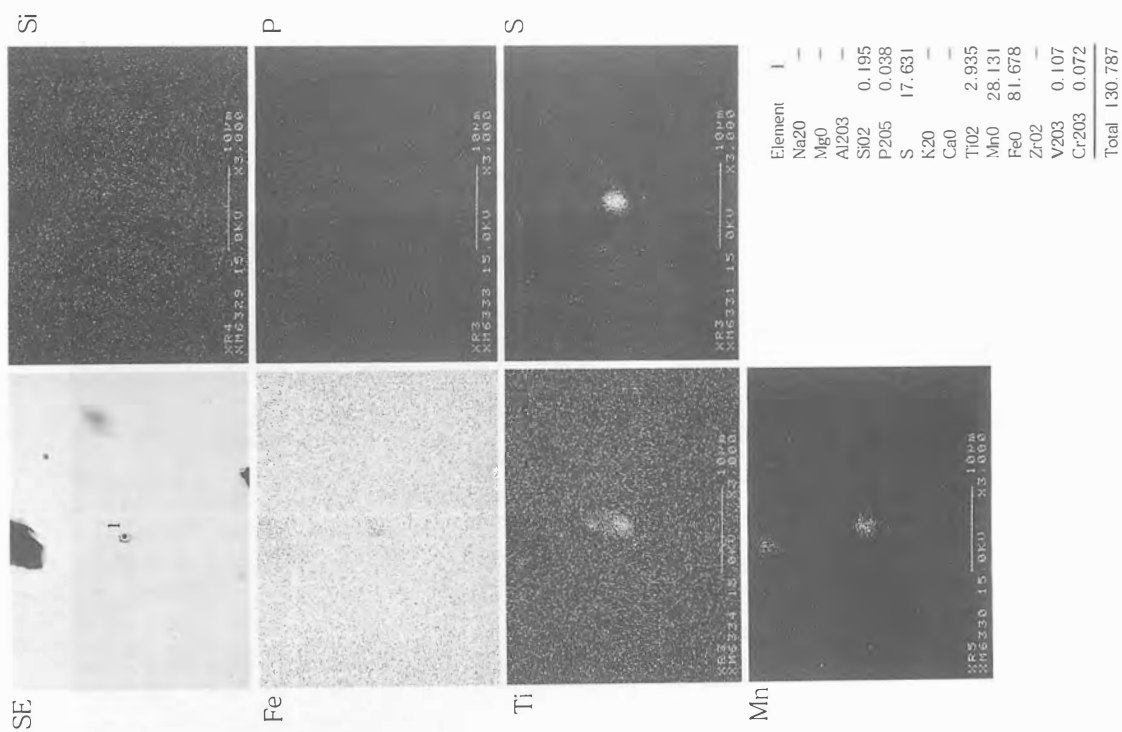
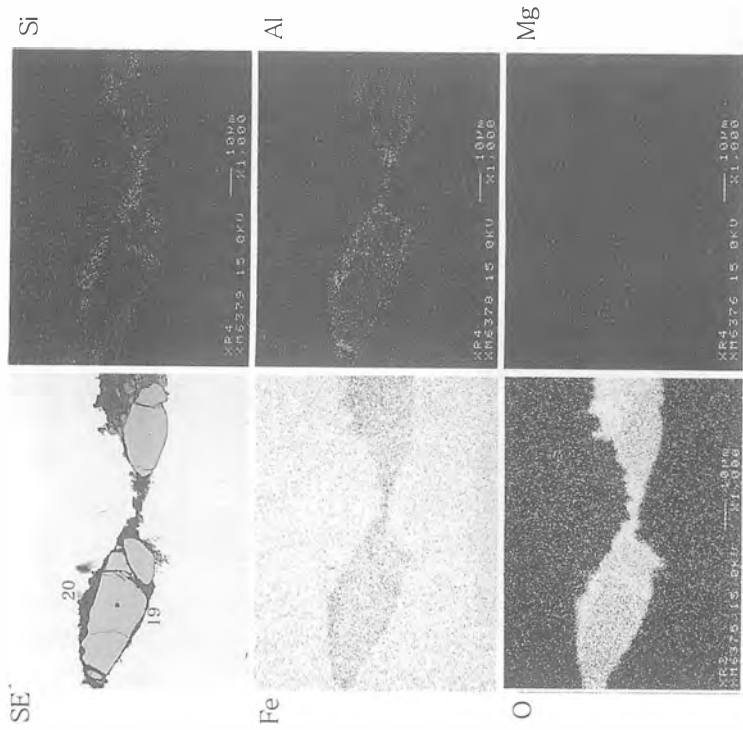
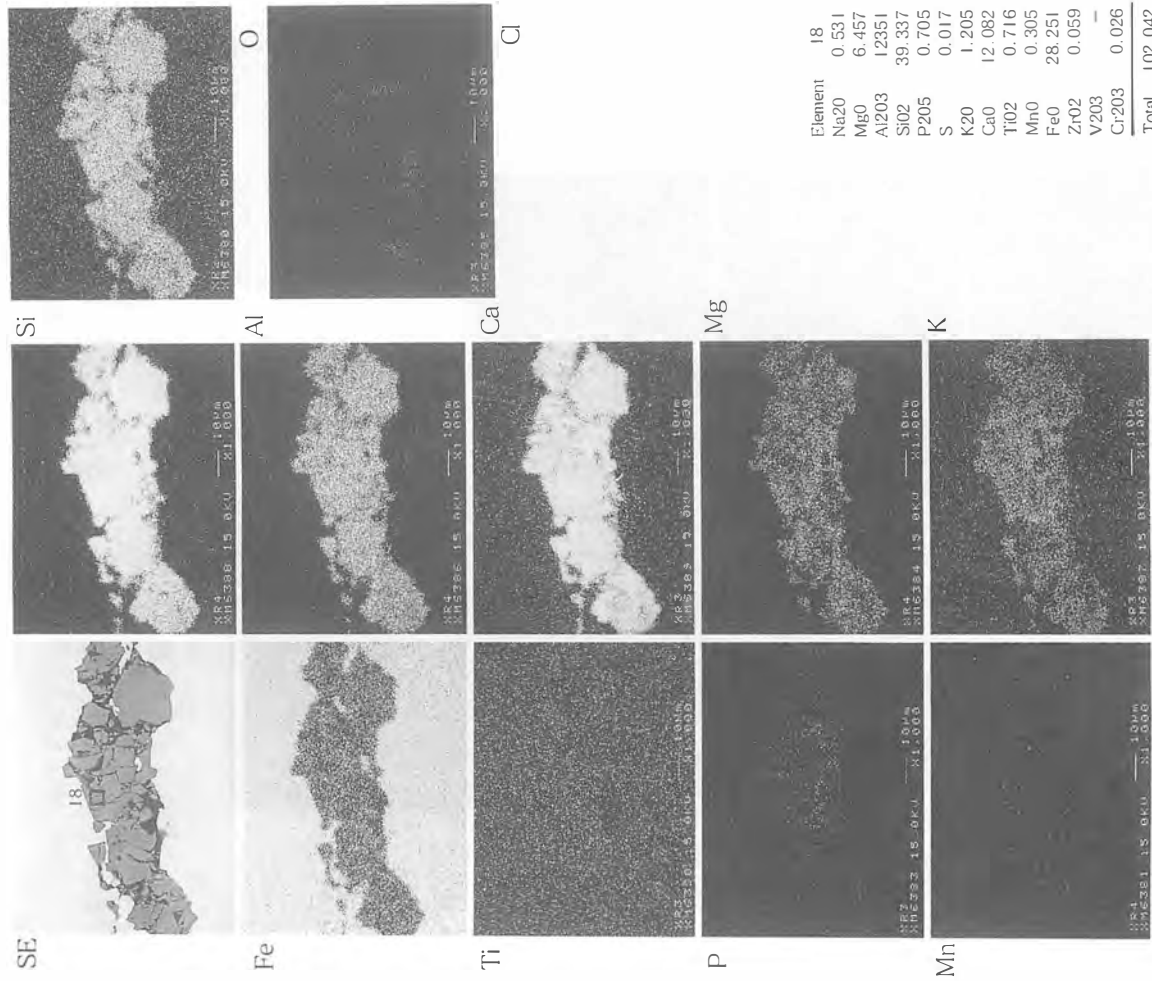


Photo. 58 鋳造鉄碎片(UMK-4-2)鉄中非金属介入物の特性線像と定量分析値



Element	19	20
Na2O	—	0.024
MgO	0.133	—
Al2O3	0.166	1.202
SiO2	0.129	1.414
P2O5	0.025	1.480
S	—	0.165
K2O	—	—
CaO	—	—
TiO2	0.119	0.067
MnO	0.144	—
FeO	103.173	73.187
ZrO2	—	—
V2O3	0.002	0.031
Cr2O3	0.008	—
Total	103.899	77.570

Photo. 59 板状鉄滓 (UMK-5-1) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値



Element	18
Na2O	0.531
MgO	6.457
Al2O3	12351
SiO2	39.337
P2O5	0.705
S	0.017
K2O	1.205
CaO	12.082
TiO2	0.716
MnO	0.305
FeO	28.251
ZrO2	0.059
V2O3	—
Cr2O3	0.026
Total	102.042

Photo. 60 板状鉄滓 (UMK-5-2) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

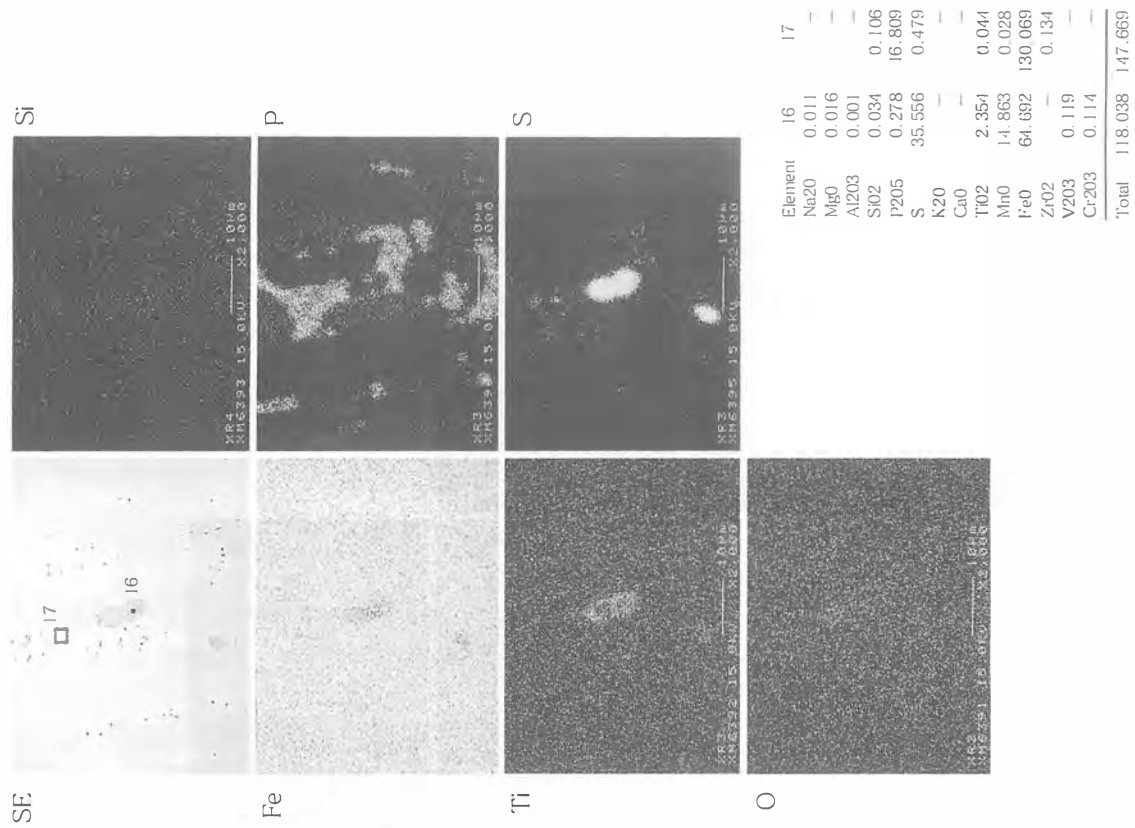


Photo. 61 鑄造鉄碎片 (UMK-6-1) 鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値

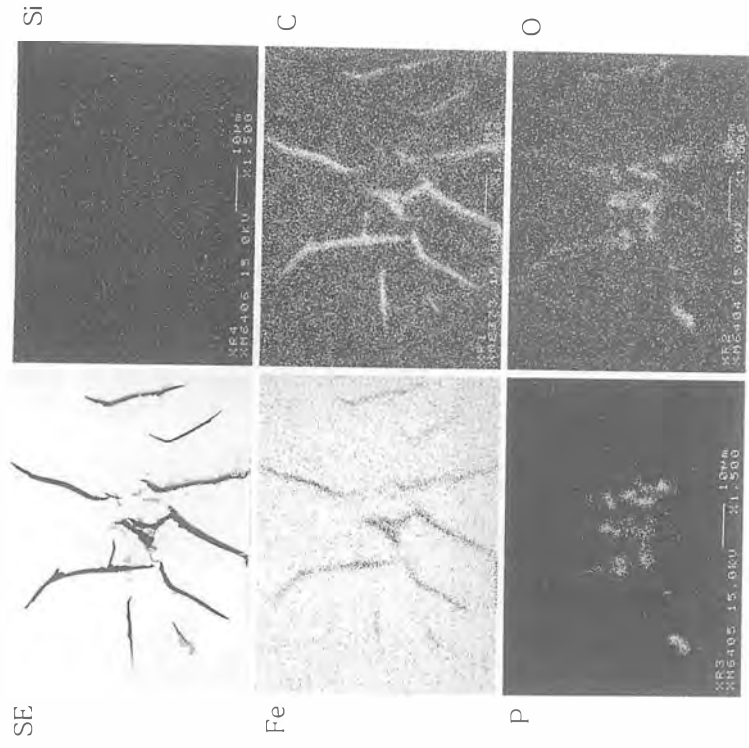
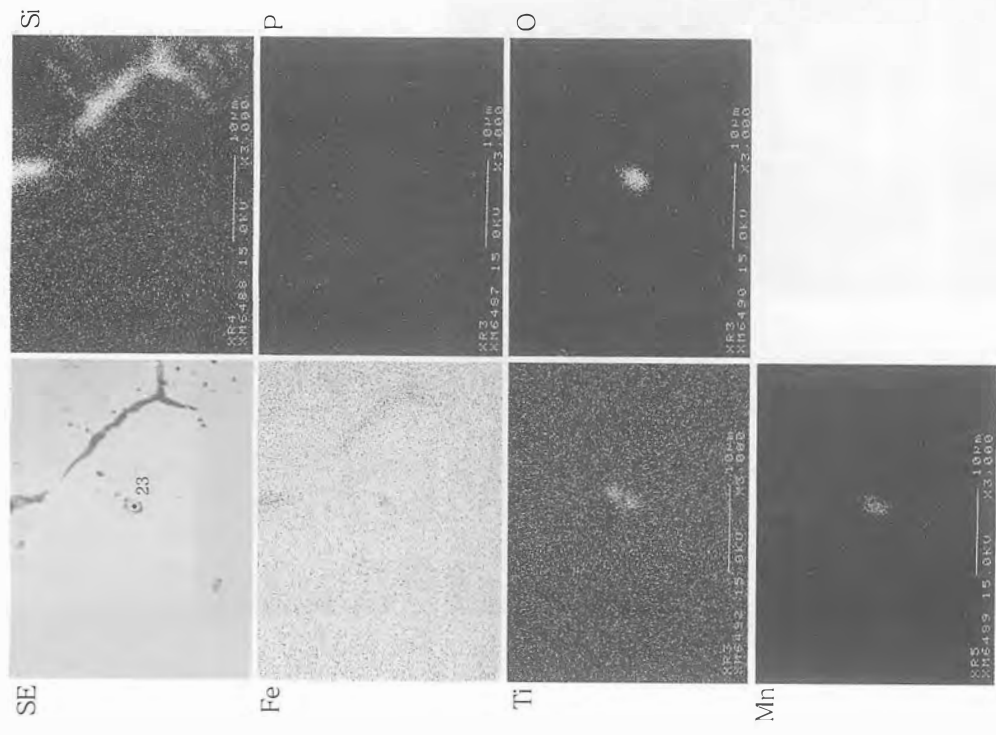


Photo. 62 鑄造鉄碎片 (UMK-6-2) 片状黒鉛の特性X線像



Element	23
Na2O	-
MgO	-
Al2O3	-
SiO2	0.448
P2O5	-
S	20.236
K2O	0.002
CaO	-
TiO2	3.701
MnO	38.315
FeO	64.696
ZnO	-
V2O3	0.163
Cr2O3	0.028
Total	127.589

Photo. 63 鋳造鉄滓片(UMK-7-1)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値

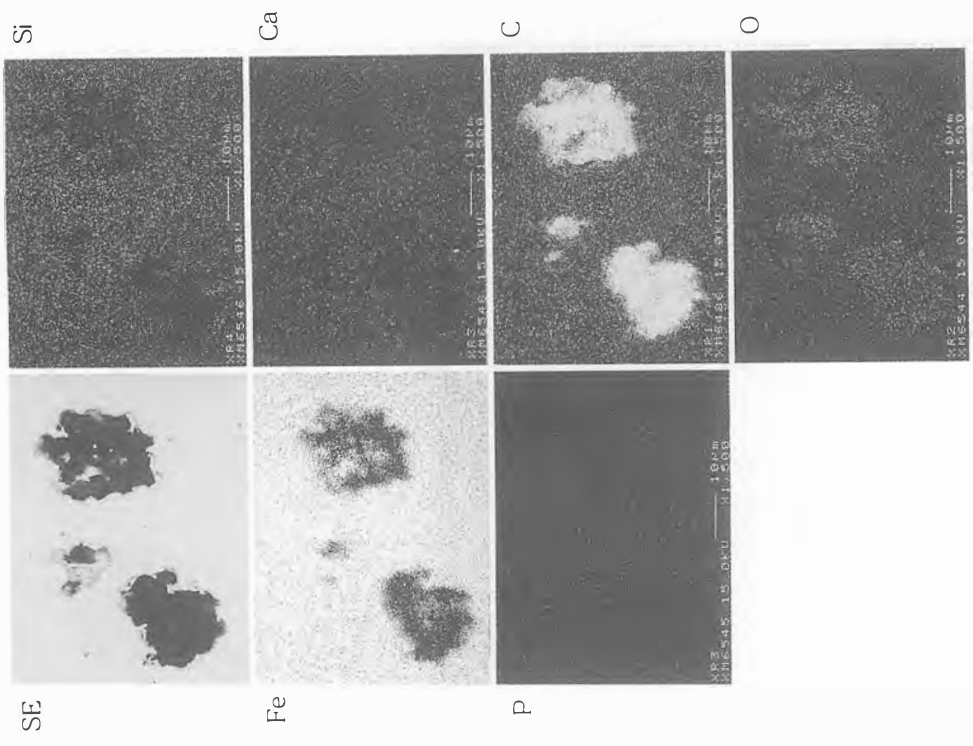


Photo. 64 鋳造鉄滓片(UMK-7-2)片状黒鉛の特性X線像

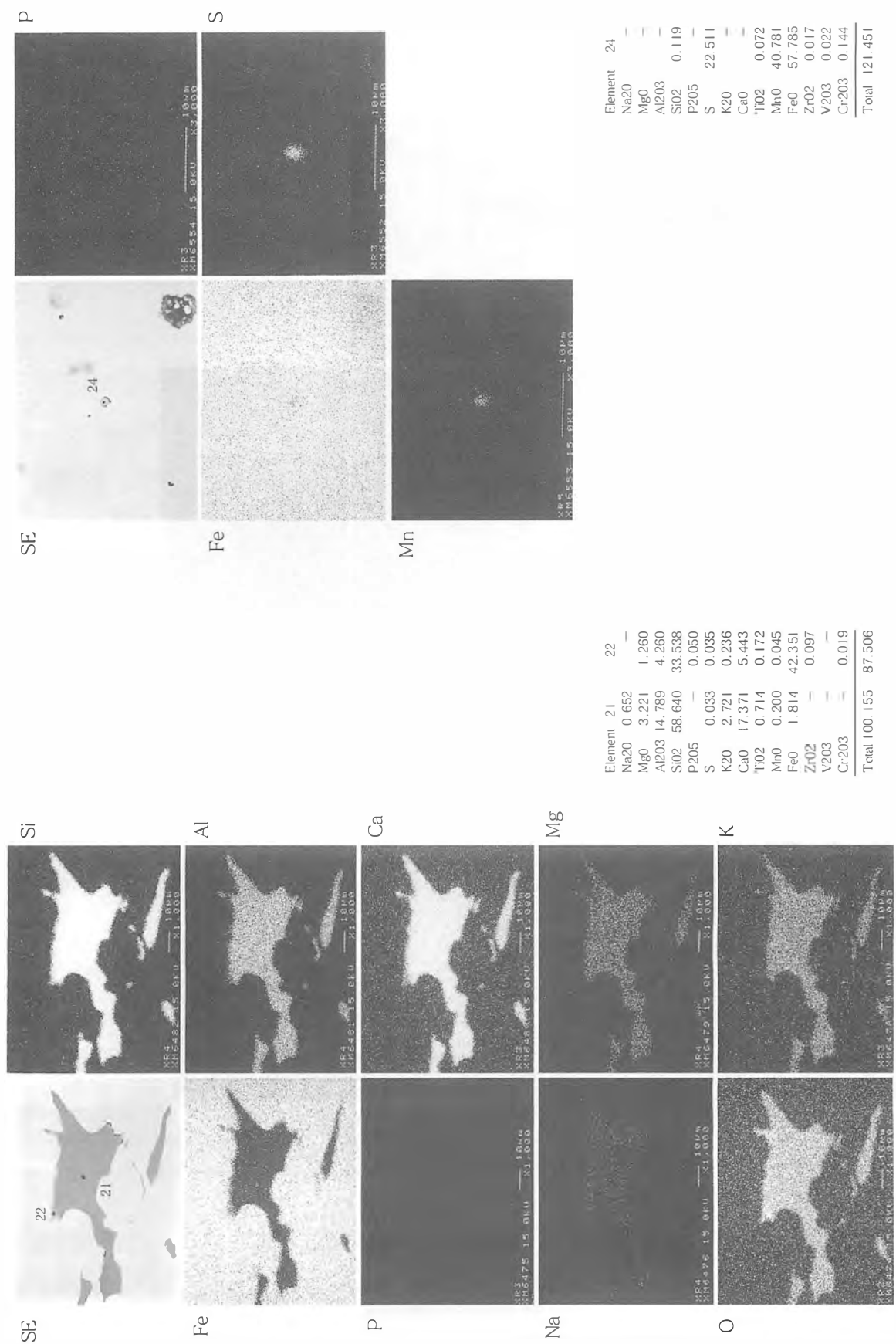


Photo. 65 板状鉄骨 (UMK-8) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

Photo. 66 鋳造鉄骨片 (UMK-9-1) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

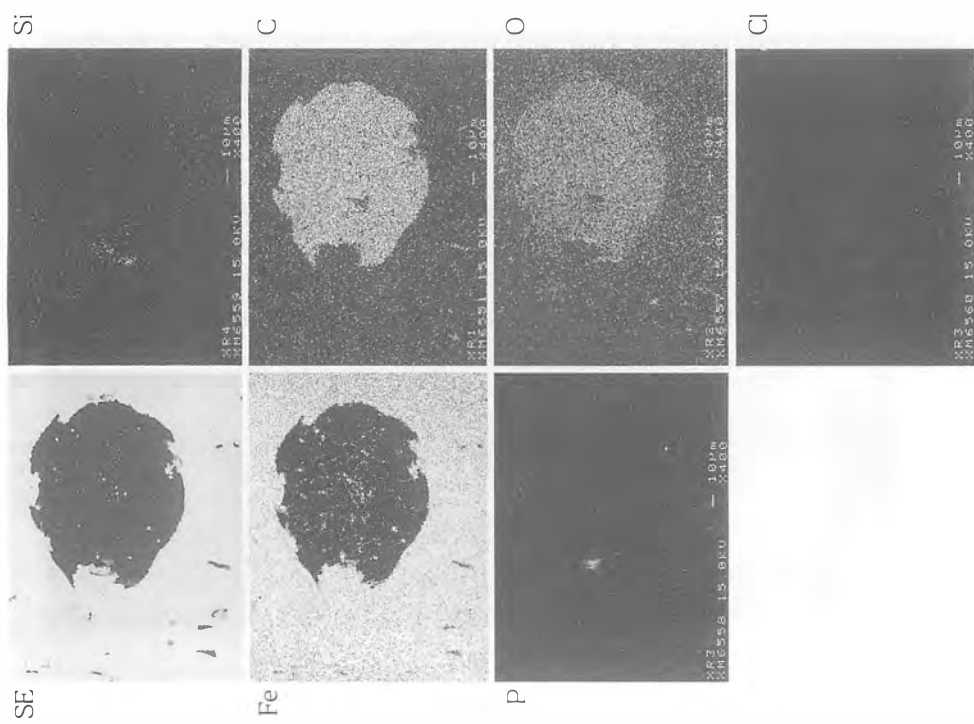
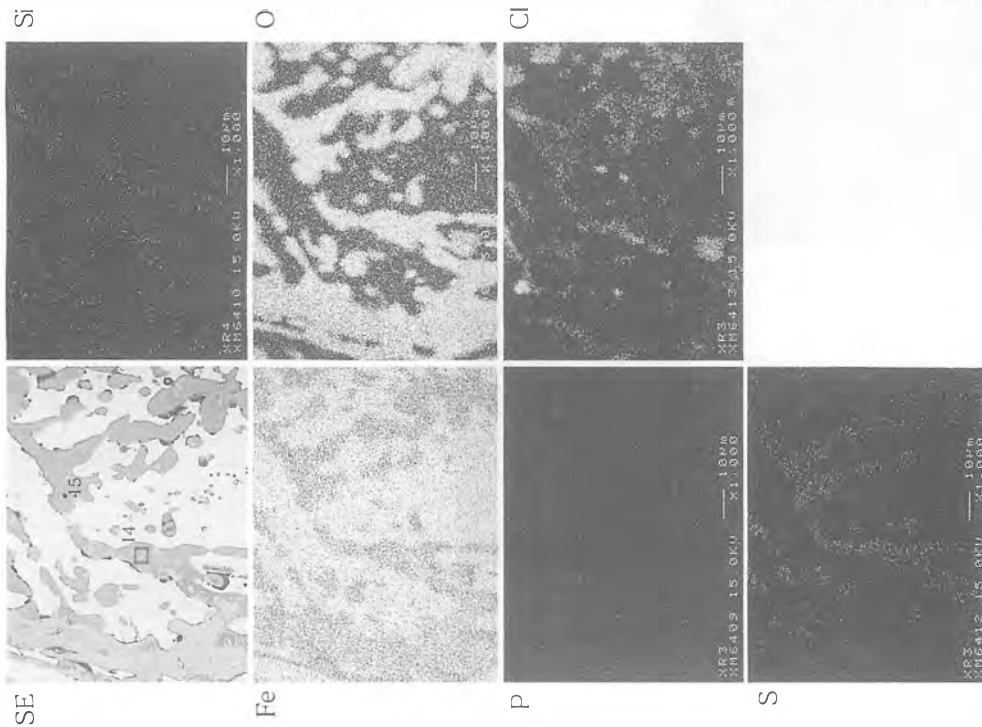


Photo. 67 鋳造鉄滓片(UMK-9-2)塊状黒鉛の特性X線像



Element	14	15
Na2O	—	—
MgO	—	0.004
Al2O3	0.006	—
SiO2	0.355	0.037
P2O5	0.345	0.025
S	0.457	—
K2O	—	—
CaO	—	—
TiO2	0.027	0.041
MnO	0.021	0.018
FeO	77.27	133.963
ZnO	—	0.009
V2O3	0.027	0.037
Cr2O3	0.044	—
Total	78.529	134.134

Photo. 68 鋳造鉄滓片(UMK-10)鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値

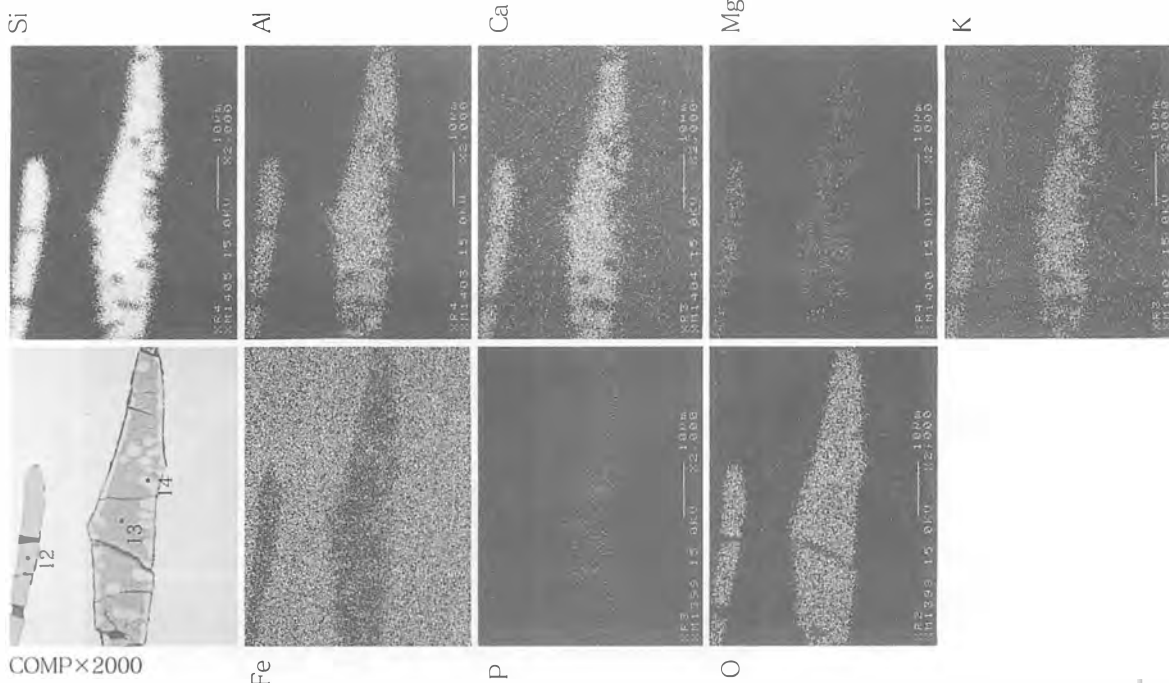


Photo. 69 袋状鉄矽 (UMK-11-1) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量値

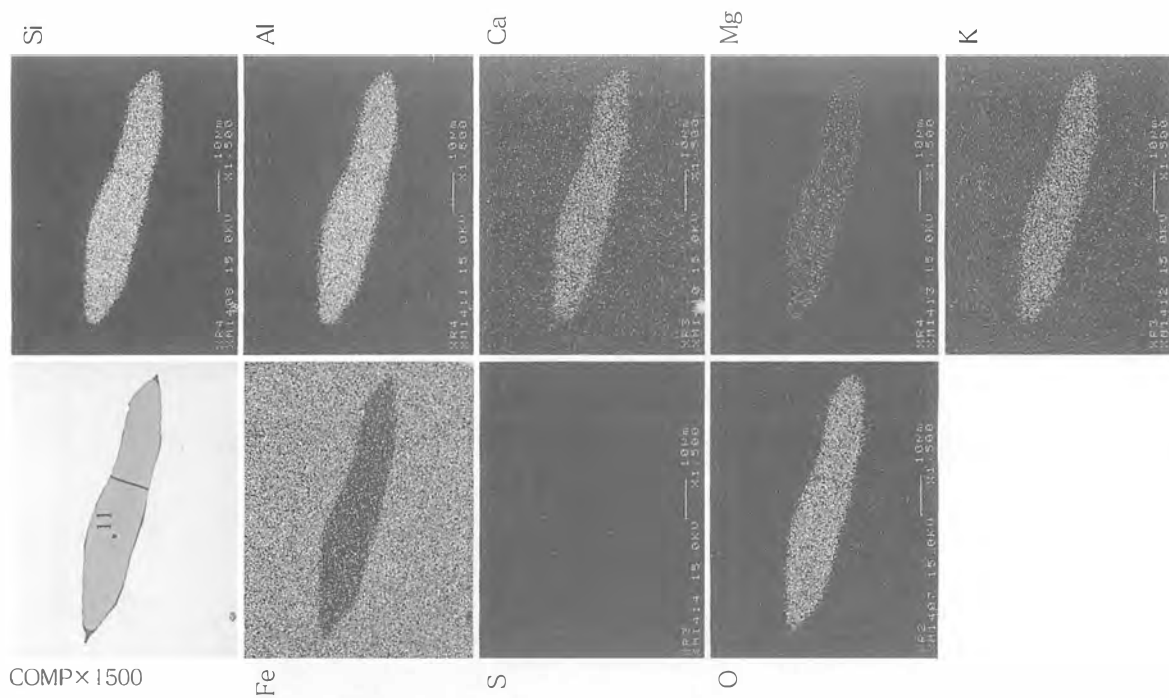


Photo. 70 袋状鉄矽 (UMK-11-2) 鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

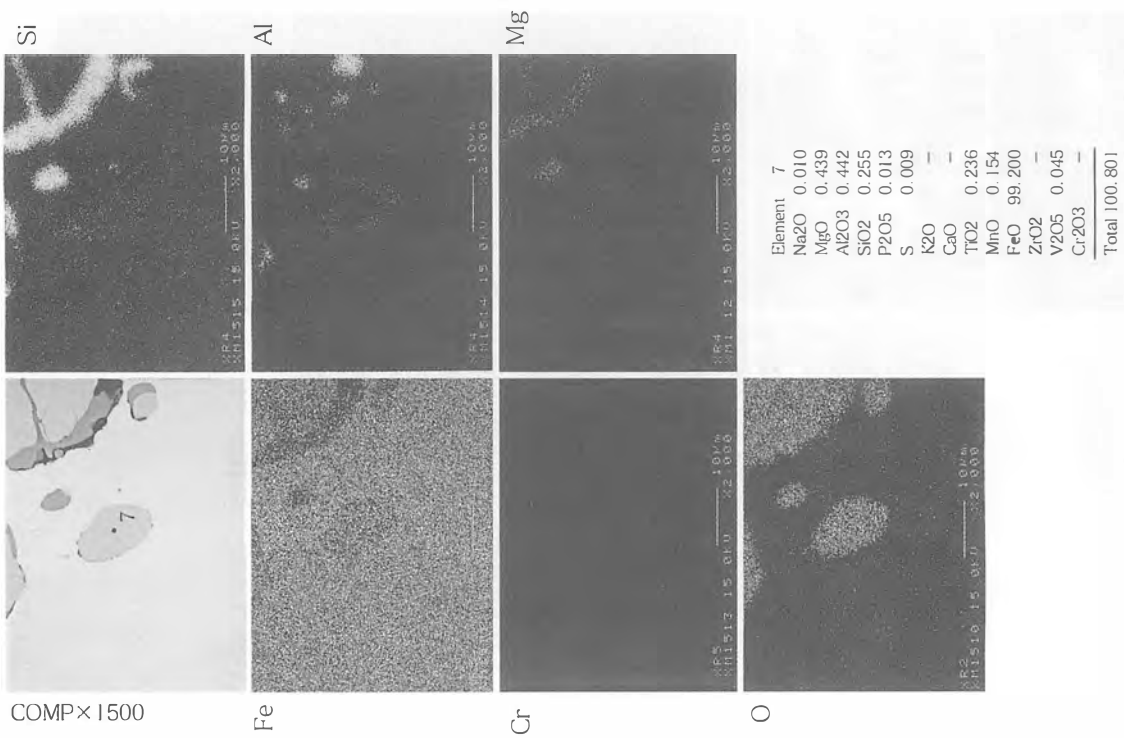


Photo. 71 棒状鉄片(UMK-12-1)鉄中非金属介入物の特性X線像と定量分析値

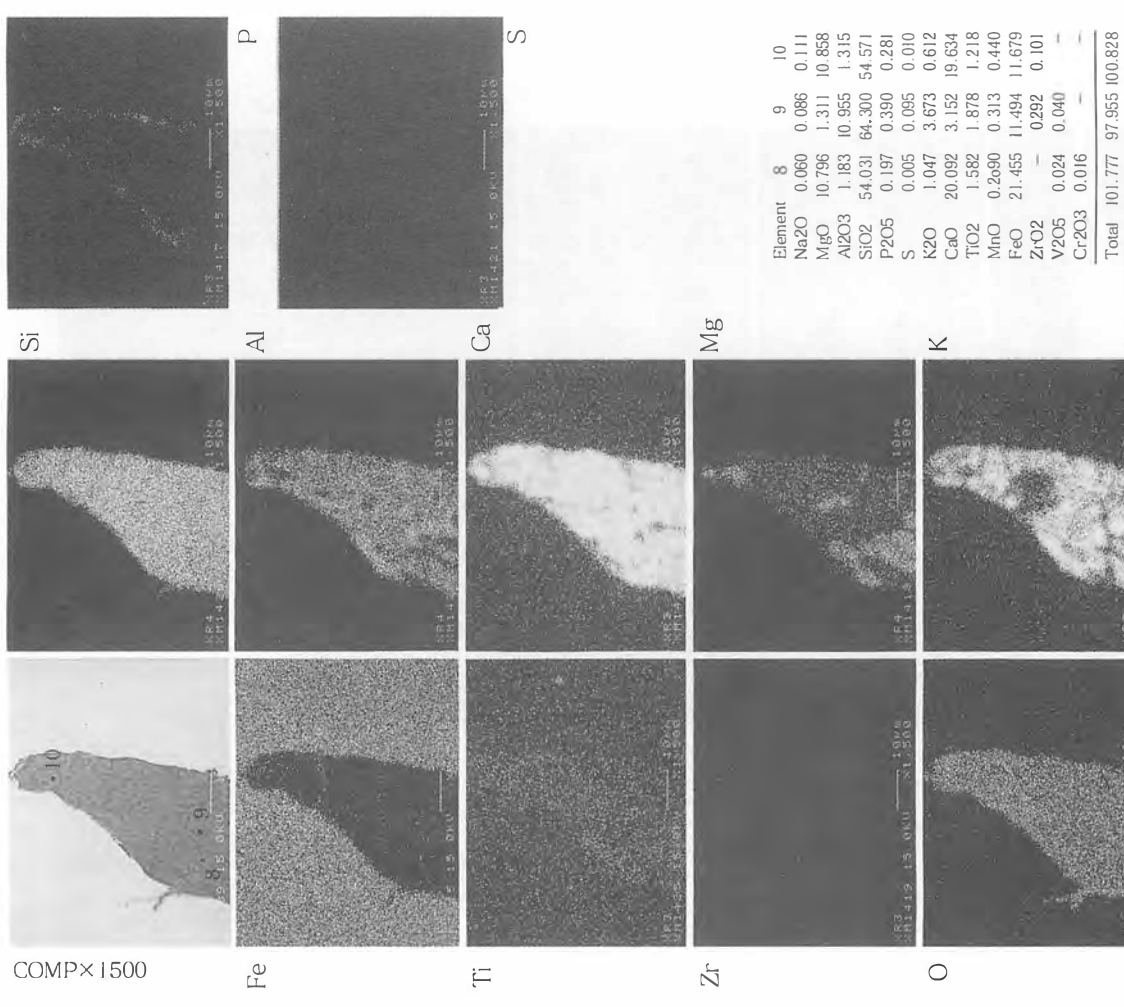


Photo. 72 棒状鉄片(UMK-12-2)鉄中非金属介入物の特性X線像と定量分析値

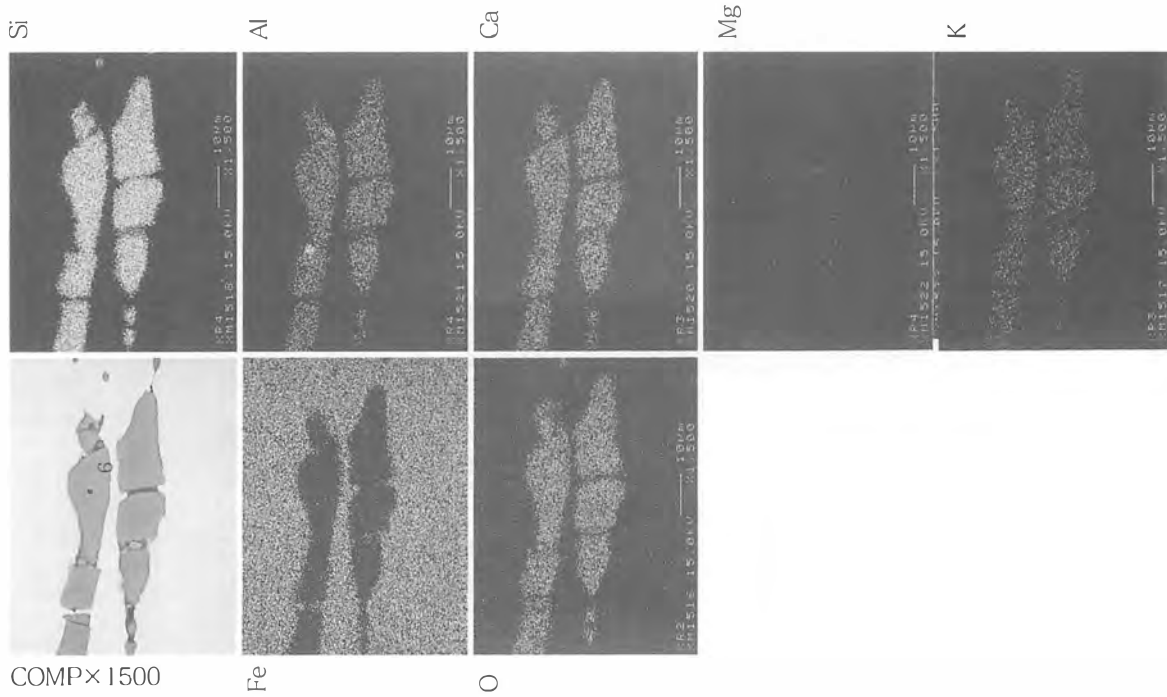


Photo. 73 板状鉄脊 (UMK-13)鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

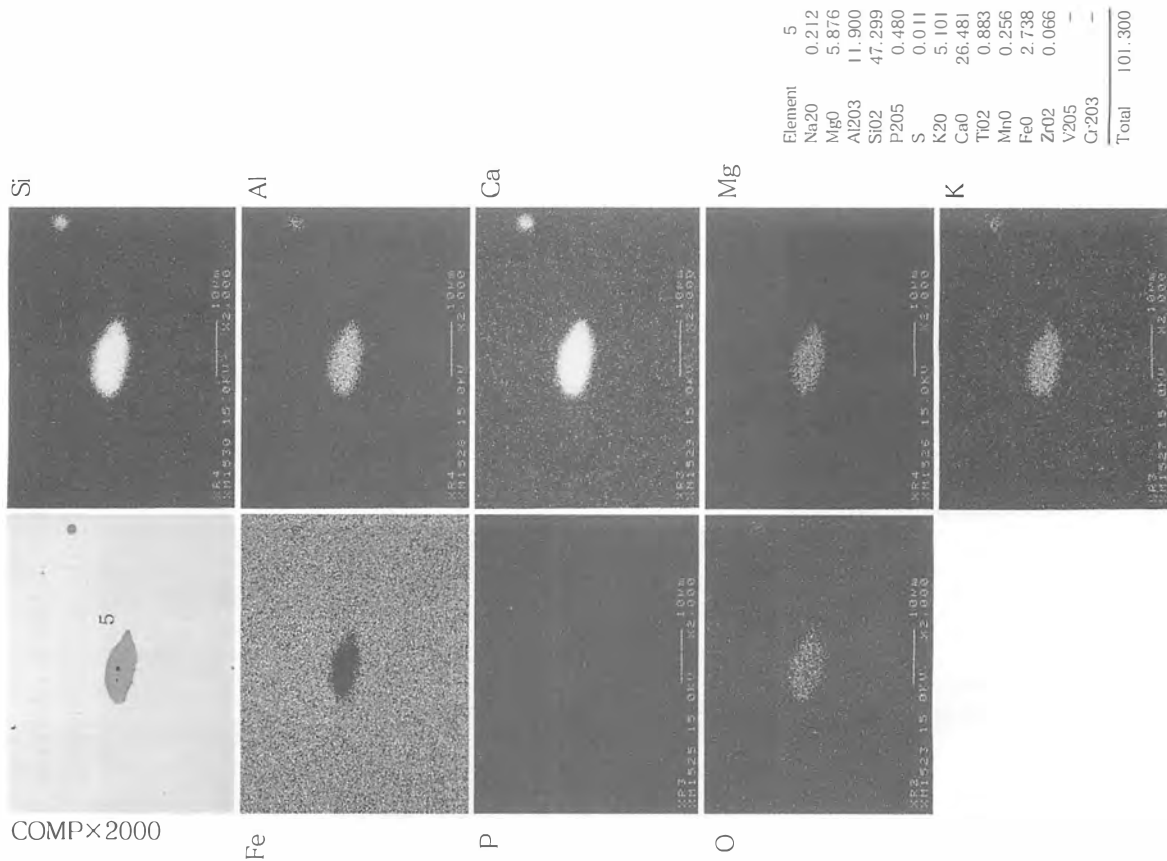


Photo. 74 鉄脊 (UMK-14)鉄中非金属存在物の特性X線像と定量分析値

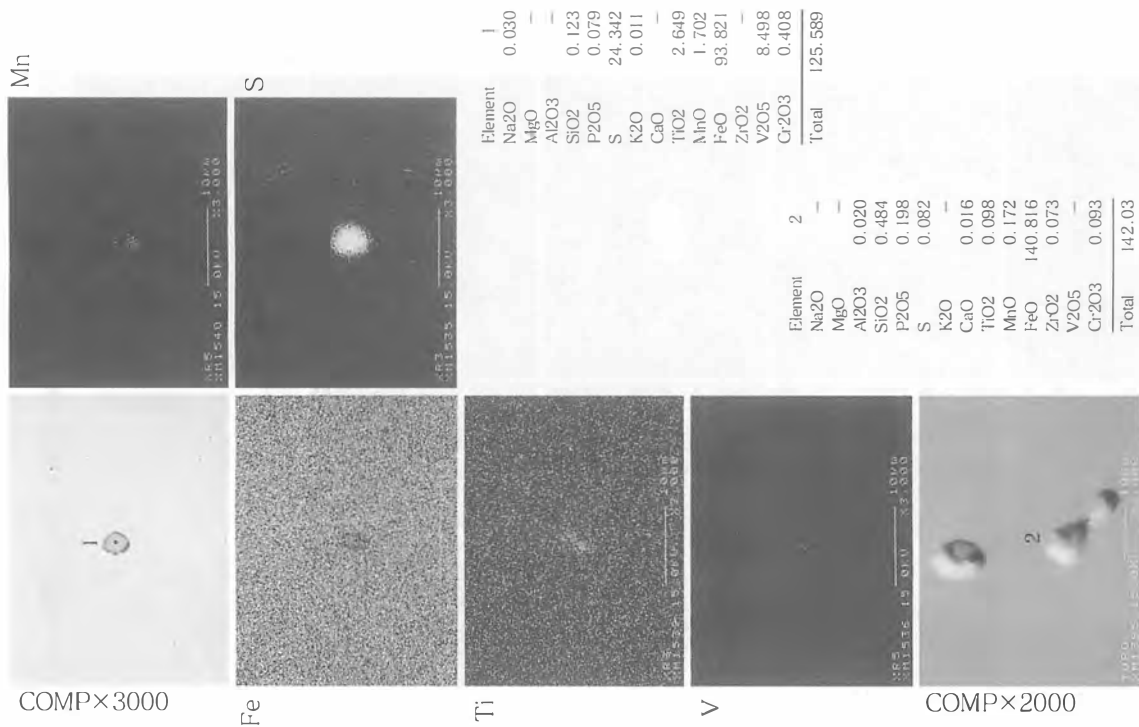


Photo. 76 上段:鑄造鐵器(UMK-16-1) 鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値
下段:鑄造鐵片(UMK-16-2) 脫炭孔の特性X線像と定量分析値

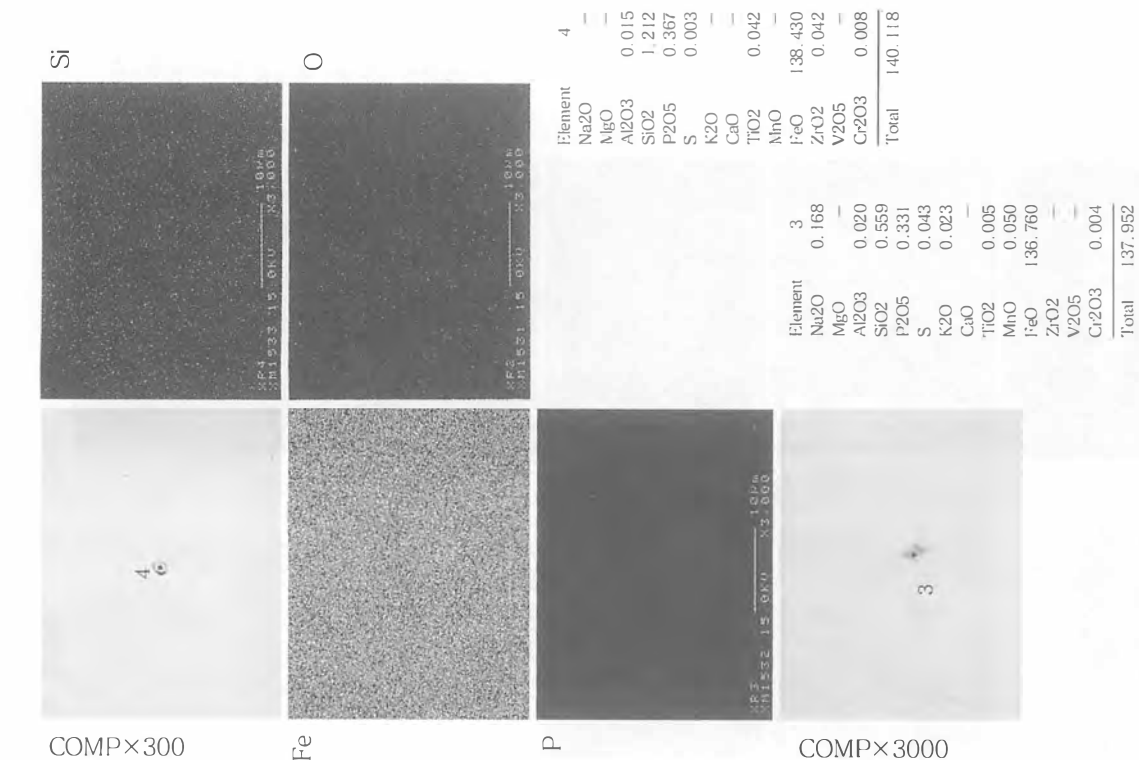


Photo. 75 上段:鑄造鐵器片(UMK-15-1) 脫炭孔の特性X線像と定量分析値
下段:鑄造鐵片(UMK-15-2) 脫炭孔の特性X線像と定量分析値

第V章 考古学的分析

第1節 熊本平野周辺の弥生土器の編年案（第図V-1～12図）

(1) 問題提起・課題 梅ノ木遺跡では、弥生時代の竪穴住居が多数重複して（切り合って）検出されている。そのそれぞれの所属時期を決定し、各時期の住居構造や集落構造を分析することにより、遺跡の性格を明確にし、弥生時代における当該地域の位置づけを行う事が必要である。

ただ、竪穴住居等の遺構の時期決定をするにも遺構の重複が激しく、竪穴部埋土への流れ込みの遺物がほとんどである。すなわち、床面に伴う遺物は、極めて少量である。ここでは、住居覆土の遺物を分析することにより、住居の時期を推定する方法を探りたい。

基本的には、竪穴住居の重複（切り合い）関係と最下層の一番新しい様相を持つ土器もしくは土器群を竪穴住居の所属時期を推定する資料に用いたい。

それでは、熊本における当該時期（弥生時代中期～後期）における土器編年はどうであろう。土器棺は、完全な形で出土するが、セット関係や器種のバリエーションが不明確である。棺専用にはか用いられない器種（いわゆるカメ棺）もあり、住居出土遺物の時期を決定するには資料が不十分であるのが実状である。

そこで、先学の研究成果を参考にして、甕形土器（本報告では、単に甕と称する）を中心に型式学的方法により器種分類を行った後、比較的他の器種も型式学的に良好なセット関係と考えられる資料を梅ノ木遺跡だけに限らずに提示し、編者が考える土器編年案を示したい。それを住居の変遷の一助とするものである。本来はここで、竪穴住居等の所属時期を提示すべきであったが、第Ⅲ章の調査成果の個々の記述に先走った形で示した。御容赦頂きたい。なお、個々の資料の検討が不十分であるため、ここにご批判を浴びたい。

(2) 編年の実際

ア. 住居出土資料（第V-1-8図）

①器種分類

A. 甕形土器（以下、甕と省略して記述する。）（第V-1～4図）

主に煮炊きに使われたと推定される土器で、外面に煤が付着して検出されることが多い。器形的には、胴部から屈曲して外反する短い口縁部を持つ。当該地域の当該時期の甕形土器は底部が上げ底から脚台がつく形態を持つことを特徴とする。

(a) 甕A

短い口縁部（長さ3cm以下）を持つもので、胴部上半から頸部にかけて突帯を持つことを特徴とする。底部は、平底から上げ底（2・3期）脚台付（4期～）に変遷する。縄文時代晩期～弥生時代にかけての突帯文土器の系統と推定でき、胴部から頸部上端に貼り付けられた突帯が発展し、口縁部として独立した部位を形成して行く変遷（2期～）が推定できる。口径が20cm程度のもの、口径が28cm程度のもの、口径が38cm程度のもの、大まかに法量が3つに分かれる。

(b) 甕B

短い口縁部（長さ3cm以下）を持つもので、甕Aと異なる点は、胴部上半から頸部にかけて突帯を持たないことを特徴とする。ただし、甕Aの突帯の部分に沈線を持つものがある。底部は上げ底から脚台付に変遷する。肥厚する口縁（2・3期）を祖型とするもので、鋤先状口縁部（4・5期）に展開する。在地系と推定できる。口径が20cm程度のもの、口径が25cm程度のもの、口径が34cm程度のもの、大まかに法量が3つに分かれる。胴部外面上位に沈線を持つものと、持たないものに分けられる。

(c) 甕C

短い口縁部（長さ3cm以下）を持つもので、口縁部がやや外反する。須玖式土器の影響が見られる。

口径が13 cm程度の小型のもの、22 cm程度のもの、26 cm程度のもの、大まかに法量が3つに分かれる。4A期以降、梅ノ木遺跡等でも資料数が少なく、器種・法量による分化が追えていない。

(d) 甕D

口縁部がくの字状を呈する。6A期以降の甕Bとの相違は、端部にやや面を持つようになることと、口縁部の外反度がゆるやかになることである。6B期以降に位置づけられる。突帯を持つA 6～8に併存すると推定される。対照的なのは、胴部外面上位の沈線文はほとんど見られなくなる。

B. 鉢形土器 (以下、鉢と省略して記述する。) (第V -1～4 図)

口縁部径が胴部最大径より大きい器形である。外面に磨きを施すもの等、丁寧な調整を行うものが多い。基本的に古い時期は、上げ底で平底へと推移する。

(a) 鉢A

口径より器高が高いもの。口径は、20～25 cm程度であるが、30 cmを超えるものも少数ながら存在する。

(b) 鉢B

口径が器高より大きいもの。口径は、20～25 cm程度で、鉢Aと同様である。

(c) 鉢B

頸部を持たず、上方に広がる。口径が16 cmのものが存在するが、法量のバリエーションは不明である。

C. 壺形土器 (以下、壺と省略して記述する。) (第V -5～8 図)

比較的長い口縁部を持ち、頸部が顕著である。器面の調整は丁寧なナデ調整、もしくはヘラ磨き調整のものが多い。

(a) 短頸壺

平底を基本とする。3 cm以内の短い口縁部を持つ。外面は、ヘラ磨きを施したりして丁寧である。口縁部は、甕形土器の形態に類似する。胴部が口縁部から緩やかに丸みを帯びるもの(短頸壺A)とやや外方に伸びるもの(短頸壺B)がある。口径は14～20 cmの小型品がほとんどである。

(b) 直口壺

平底を基本とする。口縁部は直口して端部に近づく外反するものである。4 cmくらい長い口縁を持つものとやや短いものがある。胴部の形態は、最大胴部径が、口縁部径より大きいもの(直口壺A)と小さいもの(直口壺B)がある。口径は、10～11 cm程度である。顕著にヘラ磨きをしているものも存在する。

(c) 広口壺

口縁部径が器高の $1/4 \sim 1/5$ を占め、外方に開く口縁部を持つもので、最大口径と最大胴部径にそれほど差がないものが多い。口縁端部が面を持つもので丸く収まるもの(広口壺B)と端部が内面に肥厚し、鋤先状口縁を持つもの(広口壺A)がある。また、口縁端部に刻み目を持ち、面を持つもの(広口壺C)もある。(広口壺D)は甕の形態に類似するが、口縁部が外反する。(広口壺E)は、頸部に厚みを持ち、外反する短い口縁を持つ。作成段階でのハケ目調整を施すのみである。口径が16 cm程度のもの、口径が20 cm程度のもの、口径が25 cm程度のもの、大まかに法量が3つに分かれる。

(d) 袋状口縁壺

口縁部が丸みを持って、内傾していることを特徴とする。袋部が緩やかに内傾して丸みを帯びるものから段を持つものへと変遷する。

(e) 複合口縁壺

袋状口縁壺以外は、ほとんど見られない。口縁部が2段になっているのが特徴である。

(f) 無頸壺

鉢と形態が類似する。口縁部が顕著に内傾していることを特徴とする。

D 高坏形土器 (以下、高坏と省略して記述する。) (第V-4～8図)

口縁部に特徴がある。端部が肥厚するもの(A)と口縁端部が水平近くに伸びているもの(B)がある。(C)は、口縁部がやや外反している。(D)は、口縁部やや下段に突帯を持ち、外方にも外反している。

6A、6B期以降、口縁部内面に暗文や赤色顔料を施すものも見受けられる。

②編年表の方針

器種ごとに、なるべく、形態変遷をたどれるものは、細かい器種の消長よりも継続性を重視した。器種の横並びの関係は、出土状況の比較的良好と考えられるものを参考に配列した。時期的な記号を示すのは、器種ごとのアルファベット記号の右下隅の数字で明示した。0が起点で数字が大きくなるほど後出すると推定される。

器種ごとの法量の差は(一)等として明示した。原則的に法量の小さいものに小さい番号を付記した。

③代表的他遺跡の資料

1期は、城南町上の原遺跡57号住居、2期は、66号住居、24号住居、30号住居、32号住居、102号住居等である。

3期は、熊本市教育委員会調査の神水遺跡II 3号住居、梅ノ木遺跡II次253・286号住居古相土器群、4A期は、熊本市教育委員会調査の神水遺跡II 23号住居古相、4B期は熊本市教育委員会調査の神水遺跡II 23号住居新相・21号住居出土資料等である。5期は、谷頭遺跡2号住居等を参考にした。6A期は、西谷遺跡(新南部遺跡群)1・7号住居、6B期は、下南部遺跡4号・12号住居、7期は、位置的に遠いが良好な資料として、蘇陽町高畑赤立遺跡の資料を援用した。

編年案の図では、省略したが、8期は、狩尾遺跡群で提示された編年案をほぼ適用できると考えている。すなわち、8期は池田・古園遺跡7号住居、狩尾湯の口遺跡14号住居を基準とし、狩尾湯の口遺跡39号住居資料を補足資料にできると推定できる。次の段階(9期)は狩尾方無田遺跡4号住居を基準とできると考えている。

土器棺 (第V-9～12図)

①器種分類

A. 甕形土器棺 (専用大型棺)

埋葬のために作られたと推定されるもので、いわゆる北部九州系のカメ棺に相当する。城ノ越式土器～立岩式土器のものである。口径は、65～76cm程度で高さは、初期(3期)のものを除いて、105～115cm、高いもので130cmを測るものも存在するようである。

第V-9～12図には、梅ノ木遺跡出土土器棺を中心に橋口達也氏の編年の併行関係も参考に付記した。

B. 甕形土器棺 (専用中型棺)

口縁部が、日常甕形土器の形態に類似する。5期までは胴部外面を全面に縦方向に磨いている。精製土器である。北部九州特に筑後では、器形的には、類似するものがあるが、当該地域のものは、胴部下半が著しく長い。在地的な器種と考えて良いと考えられる。口径は35～40cm程で高さは、60～70cm程度が一般的である。

C. 甕形土器棺 (転用棺)

住居内出土土器と形態が類似し、煤の付着が見られる場合が多く、転用棺である。そのため、口径も3種に分けられる。住居出土甕形土器の型式分類の参考になる。

D. 鉢形土器 (転用棺)

住居内出土土器と形態が類似する。そのため、口径も2種に分けられる。住居出土鉢形土器の型式分類

の参考になる。

E. 壺形土器棺

住居内出土土器に類似する。(広口壺A、B)の2種に大きく分かれる。(広口壺B)は梅ノ木遺跡出土土器棺では、小型棺のみである。(広口壺A)では、鈎形の浮文を施すものもあり、専用棺として特別に作ったものもあると推定される。

ウ. 時期区分について

黒髪式土器の併行関係については、中園聡氏の指摘により福岡県瀬高町大道端遺跡B区3号住居、同大江南遺跡の2例から、黒髪式中段階(4B期)と須玖II式が併行関係であると推定できる。また3～4期の型式変化と城ノ越式土器との形式を比較して3期を中期初頭に位置づけられる可能性がある。

また、田崎博之氏の指摘する様に福岡県筑後市田佛遺跡8号住居と下南部4・12号住居併行期(後期前半古段階:6A～6B期)西中沢遺跡7号住居と高畑赤立遺跡段階の土器(後期前半新段階:7期)が併行することからほぼ高三瀨式土器と、ここで言う後期前半段階とが併行関係にあると考えて良いと思われる。

また、八代市下掘切遺跡では下南部4・12号住居併行期より型式学的に1段階後出すると考えられる溝から瀬戸内西部(備後西部)のV様式前半の資料に形態が類似する搬入土器と推定される土器が出土していることから、下南部・4・12号住居併行期の土器は、後期前半と位置づけられる。

また、土器棺を型式学的に並べ、住居出土遺物を並べると、土器棺は、6A期を立岩式併行期、赤色顔料を塗彩した土器が6A期に多く見られることから、日常土器の須玖II式併行として中期を6A期までと考えて良いと思われる。

(参考文献)

- 木崎康弘『六地藏遺跡I』熊本県報告第105集 1989
木崎康弘『狩尾遺跡群』熊本県報告第131集 1993
木崎康弘『蒲生上の原遺跡』熊本県報告第158集 1996
高谷和生『下山西遺跡』熊本県報告第88集 1987
中村幸史郎『方保田東原遺跡(1)』山鹿市教育委員会 1982
中村幸史郎『方保田東原遺跡(2)』山鹿市教育委員会 1984
中村幸史郎『方保田東原遺跡(3)』山鹿市教育委員会 1987
清田純一『陣内遺跡』熊本県報告第2集 1982
乙益重隆「黒髪式土器について」『藤尾支石墓群調査報告』 1959
乙益重隆「中九州」『弥生土器集成』 1964
森貞次郎「九州」『日本の考古学Ⅲ』 1966
鏡山猛・乙益重隆「九州」『新版考古学講座4』 1969
緒方 勉「中九州に於ける弥生後期土器について」熊本史学 1970
緒方 勉「黒髪式土器雑考」『谷頭遺跡』谷頭遺跡調査団 1978
玉永光洋「豊後における肥後形土器について」 1982
西健一郎「熊本県における弥生中期甕棺編年の予察」『陣内遺跡』 1982
西健一郎「黒髪式土器の基礎的研究」『古文化談叢12』 1983
武末純一「北九州における弥生時代の複合口縁壺」『古文化論集』 1982
中園 聡「弥生時代中期土器様式の併行関係と須玖II式期の九州・瀬戸内」『史淵133』九州大学 1996

- 河森一浩「免田式土器の再検討－様式構造をめぐって」『肥後考古 11 号』肥後考古学会 1998
- 原田範昭「中九州における弥生時代後期土器の編年・熊本平野部の土器に見る社会背景」
『先史学・考古学論集Ⅲ』龍田考古学会 1999
- 小田富士雄「入門講座・弥生土器・九州」『考古学ジャーナル76・77・79』ニューサイエンス社(1972～1973)
- 武末純一「須玖式土器」『弥生文化の研究 4』雄山閣
- 松本健郎・野田拓治『上の原遺跡Ⅰ』熊本県報告第 58 集 1983
- 緒方 勉ほか『神水遺跡Ⅱ』熊本県報告第 82 集 1986
- 竹田宏司『神水遺跡Ⅱ』熊本市教育委員会 1993
- 佐藤伸二ほか『矢護川日向遺跡』日向遺跡調査団 1980
- 松村道博・瀬丸敬二ほか『谷頭遺跡』谷頭遺跡調査団 1978
- 大城康雄『下南部遺跡発掘調査報告書』熊本市教育委員会ほか 1979
- 浦田信智『西谷遺跡』熊本県報告第 76 集 1985
- 山田康弘ほか『高畑赤立遺跡』熊本大学文学部考古学研究室活動報告 29 1994
- 田崎博之「九州系の土器からみた凹線文系土器の時間位置」『日本における石器から鉄器への転換形態の研究』 1998
- 益永浩仁『前原長溝甕棺群』前原長溝遺跡発掘調査団 1994
- 吉永 明『下堀切遺跡Ⅱ』八代市教育委員会 1989
- 橋口達也『甕棺の編年の研究』『九州縦貫自動車関係埋蔵文化財調査 X X X I』福岡教育委員会 1979

第 2 節 竪穴住居群について

①構造

平面形 平面形態はほとんど方形である。166SI が平面形態が確実に判明しているもので、唯一楕円形を呈する。正方形に近いもの(292・160SI)と、長方形のもの(132・129・259SI 等)に分けられる。後者は、比較的一辺 5 m 以上の中型から大型のものに多い。弥生時代の遺構面が砂質で安定しない部分が多く、必ずしも竪穴部の形状が原形を留めていないが、方形でも隅丸方形に近いものが多い。主軸方位は、ほぼ南北方向のものが多い。東に振れるものや西側に振れるもの等も存在する。若干の方位のずれから、同時存在や小単位のグループ分けができる可能性もある。

法量 長軸 2.4～3 m が小型の住居で、4～6 m が標準的な大きさと考えられる。6 m 以上を超えるものも存在する。

竪穴部の大きさは、時期別に検討の必要があろうが、4 m 以下(小型)、4～6 m(中型)、6 m 以上(大型)の 3 つの形式に分類できよう。それぞれの時期に小型・中型の住居は存在する。時期差を示すものではなく、機能差や家族構成員の員数の差・階層差等が考えられよう。7 m 以上の大型の住居は、6B 期以降見られる。竪穴部の深さは、削平された部分もあるので、統計では標準化が困難であるが、2 区 179SI、1035SI、東西水路 36SI 等 90 cm を超えるものが存在する。比較的安定した地盤のところは、1 m 地面を掘削して、竪穴部の空間を確保したと見られる。検出状況では、竪穴部の深さは、30～60 cm が標準である。

柱穴 掘り方の大きさは 20～50 cm 程で、柱痕跡は 10～30 cm 程である。深さは、20～60 cm 程である。大きく抜き取った柱穴は検出できなかった。柱穴の再利用は顕著に見られない。

主柱穴の配置は、大きく、2 本柱、4 本柱、4 + 2 本柱構造の住居が考えられる。住居の重複がかなりあるため、柱構造の分析が困難であるが、竪穴部の形状と位置関係から推定した。事実報告の項で著述したと

おりである。その推定が正しければ、4 + 2 本柱構造の住居が多数存在する。上屋構造の復元は困難であるが、入母屋構造の竪穴住居の可能性が考えられる。また、柱構造の差は時期差ではなく、構造差と言える。竪穴部の大きさでもかならずしも言えないが、2 本柱構造と推定できる住居に、長辺が 4.3 m 以下のものが多いと言うことも指摘できよう。

時期 切り合い関係でつかめるのは、6 時期である。189SI を最古とし、163SI を最新とする住居群（第Ⅲ -56 図）がその例である。土器型式が、8 つに細分できそうなので（第Ⅴ章第 1 節）、切り合い関係や土器の様相を手がかりに分類したのが第Ⅴ -13・14 図である。

貯蔵穴 屋外土坑も多数存在する。貯蔵穴は 55 軒以上の住居跡に検出された。法量は、小型のもので長軸 55cm 程度である。大型のものは、100 cm を超える。中型は、70 ~ 90 cm 程度であろう。深さは、30 cm 程度、深いものは、60 cm 以上である。平面形の大きさと深さの相関関係は見いだせないので、用途の差であろう。位置的には、中央土坑はほとんどなく、偏在している。位置的に整然と検出されている状況ではないようである。

炉 屋外炉も 20 基以上検出された。当時の生活面（遺構面）が削平されていたことから、それ以上存在したことは、確実である。構造的には、地床炉が多く、灰穴炉は少ないようである。

検出された竪穴住居のうち 2 区では、炉は 40 基以上検出された。20% 程度であるが、重複（切り合い）が多く、統計的に傾向を把握するのは難しい。しかしながら、炉を持たないものと持つもので機能差を考えねばなるまい。

その他の付帯施設 ベット状遺構を持つものは、1236SI と 129SI 等数基に限られる。6 B 期以降に限られる。ステップ状遺構といった方が適当であるような 40 ~ 50cm 程の高さを持つものが存在する。

②**変遷と集落構造** 竪穴住居出土遺物の出土状況により所属時期を決定する。当該地域の弥生時代中期～後期の前半では、良好な出土状況を示す資料がほとんどないため、住居の切り合い関係や編年案により流れ込みの一番新しい傾向の土器により住居の時期を決定する事が多くなる。住居の時期は、前章で検討した土器編年を用いて決定する。住居跡が、検出できて輪郭が明確につかめるのは、2 区であるので、限定して考察する。その作業を経たものが第Ⅴ -13 ~ 15 図である。

それぞれの時期別に、主軸の方向で見ると 2 グループに分かれる様相を持つ。場所的に密集しているグループが同一方向を向く傾向にあり、混入遺物の可能性や、地形的な側面はあるもののグループ分けができる可能性がある。

ただし、8 期に分けたが、切り合い関係を見るとそれぞれ 2 時期に細別される可能性がある。

また、それぞれの時期に大型の住居と小型の住居が存在する。性格を検討する必要がある。

第3節 墓について

①**土器棺墓** 九州地域では、一般的に「カメ棺」と称されるが、熊本平野地域では、必ずしも大型棺が出土する地域ばかりではなく、当該地域も、一部の大型棺（1239SX 等）の他は、60cm に満たない棺、60 ~ 80cm の棺がほとんどである。

日常のいわゆる黒髪式の甕形土器のほか、壺形土器を持つもののほか、口縁部は甕に類似するが、底部は平底で、胴部を研磨する、いわゆる「胴丸甕棺」が出土している。筑後地域のものより、胴部が長いのを特徴とする。刻み目の突帯を持つものも存在する。編年の基準は日常土器の甕形土器の口縁部形態の変遷に連動すると推定される。

また、特出すべきことは自然科学的分析の項での分析により、60 ~ 80cm の土器棺から出土した人骨が

すべて乳幼児から小児のものと判明したことである。解釈は様々できようが、他の棺型式を持つ墓が同時に存在したことは事実であり、小児を特別に扱った集団が存在した可能性もある。

- ②**木棺墓** 掘り方の長さは、1.4～2.8mと格差が存在する。木棺部と推定できる部分の長さは、1.0～1.2mの小型のものと、1.5～1.6mが見られる。後者の方が多い。主軸の方向により分類すると、長幅比が判明するものは、グループにより密集した分布を表す。集団ごとの特性を表す可能性がある。(第V-16図)
- ③**土坑墓** 甕棺墓群や木棺墓群に土坑墓が存在する。他に2区では、土坑群が存在し、一部墓である可能性がある。
- ④**棺構造と墓域** 土器棺墓群は6群はある。グループにより大型棺が多い地域と中型・小型棺を中心とする地域がある。また、木棺墓群や支石墓が検出された地域もあり、墓の型式によりエリアを持つ。それがグループによる差か、階層差によるものであるのか検討を要する。住居群の密集地域で検出された甕棺は、小型のものが多く、子供等で特別に埋葬された人が存在した可能性がある。

第4節 鉄器について

- ①**出土状況** 梅ノ木遺跡では、遺構埋土、遺物包含層、攪乱から、弥生時代の鉄器が100点以上(107点)出土している。遺構埋土44点(そのうち、住居床面付近8点、柱穴出土1点)である。遺物包含層19点、2区の攪乱11点、82区攪乱1点、1区攪乱17点、4区攪乱5点である。住居床面の出土8点についても、原位置に近い出土状況と考えられるものは皆無である。

②鉄器の種類(第V-17～19図)

鑄造鉄斧片 鍛造品と推定されるもの83点、鑄造品と思われるもの23点である。鑄造品は、鑄造鉄斧の再利用と推定できる。(第V-16図等) そのうち、刃部を持つものは、7点である。これらは、後述する板状鉄斧に含まれる。大部分は、利器として使用される前に、廃棄されたか、埋納されたと推定できる。

利用された鑄造鉄斧の部位を考えると第V-16図の様に刃部(A)、基部長側刃部(B)、基部短側刃部(C)に分類される。

明らかに2条突帯斧と推定できるものもある。[269SI出土(第Ⅲ-210図1)、1区出土(第Ⅲ-728図2)] 時期的なことを考えるには、住居埋土出土土器の時期幅を参考にすることができる。出土土器幅が比較的少ないものは、269・1096SI(4A～5期)、1190・1058SI、(3～4A期)出土資料である。中期初頭から中期後半と考えられる。その他の資料は、6B期までの土器を含む。後期前葉まで時期が下る可能性もあるが、中期の初頭から前葉を中心とした時期に鑄造鉄斧片を考えてはどうであろうか。

やりがんな 幅の平均は約1.5cm、0.9～2.1cmまで存在する。全部残存しているものが少ないので、部位による差であろう。形状は刃部の特に先端部のそり具合と左右両側刃の刃部の断面の形状によって分かれる。

前者は、反りのあまりないものは、1区R耕作溝出土例等(第Ⅲ-728図6)で、反りのあるものは、162SI出土例等(第Ⅲ-63図1)である。後者は刃部の横断面で分類される。ほぼ、緩やかなU字形になるが、東西水路包含層出土例(第Ⅲ-712図1)の様に片方が急激に90°近く曲がるものがある。阿蘇地域の弥生時代後期の遺跡にも見られる。

形式的には、反りが少なく幅広のものが、古式と推定できるが、出土遺構からは、(中期初頭～末)から(後期初頭)の幅広い時期しか推定できない。

また、断定はできないが、用途により、凹面を削る面に向けて使用するものと、凸面を削る面に向けて使用するもの、2型式に分けられる。区別の方法は、片刃と推定できるので、刃部の付く面が上向きであるが、やりがんなと呼ばれる鉄器の性質上、錆膨れをおこしており、区別が困難であることが推定される。また、

木などを削るという道具としての機能は同様であるが、加工する工程の差等が考えられ、将来は器種分類の必要があると思われる。

鉄鏃 無茎三角形式鉄鏃（凹基腸袂式）[I A・I B・I C 型式（179 号住・126 号住出土例等）]、圭頭斧箭形式鉄鏃（II A）、柳葉形式（III）、方頭斧箭形式鉄鏃（IV）等様々なバリエーションに富む。

鉄器出土遺構での出土土器の時期幅は、3 期～7 期までの広い時期幅で形式ごとの時期差は証明できない。ただし、阿蘇郡阿蘇町の狩尾遺跡などでも同様の形式の鉄鏃を持つことから、それ以前に同様の形式が成立することを証明するものである。

鉄製穂積具（手鎌） 刃部が使用により、研ぎ直しを顕著にされるであろう器種のため、形式分類は困難であるが、基部が直線的なもの（I A・I B）と内湾するもの（II）がある。1172SI 出土例は刃部が内湾しており、かなり使い込まれているものと推定できる。

剣 刃部が残存しないため、形式を断定するのは困難である。剣の基部の可能性はある。茎部分も明瞭ではないが、穿孔が見られるものもある。

刀子 完全に残存するものがないため、形式の推定が困難である。（第Ⅲ-396 図 1・第Ⅲ-728 図等）関部分が明瞭でない形式のものと推定できる。

鎌 曲刃鎌 2 点が出土している。幅 3 cm 弱と 3.8 cm のもので、中型から大型のものと推定できる。（『弥生時代の鉄器文化』 川越 1993）

板状鉄斧 鋳造品と鍛造品に分けられる。後者は、3 点出土している。1 点は 12.2 cm 以上の大型品である。（第Ⅲ 217 図 1）、3 辺の周辺部に敲打痕が残存する。形態から見て韓半島製のものと推定できる。（愛媛大学村上恭通氏教示）他の 2 点は、全長 6.5 cm と 8.3 cm の中型品で、いずれも片刃である。前者は、基部が細くっており、後者は、基部幅が刃部幅とさほど変わらない形態である。

袋状鉄斧 袋部の横断面が楕円形のものである。いずれも、基部幅より刃部幅の大きいものである。そのうち 1 つは基部より刃部幅が大きいもので、肩部と推定される部分でほぼ長方形を呈する。もうひとつは、中央部でくびれているのものである。後者は、刃部幅と長さが 1:3 と長さが長い。

棒状鉄片 棒状の不明鉄器である。断面形態により 2 つに分類される。1 つは、断面形態が正方形に近いものである。もう 1 つは、扁平な形態のものである。前者は、特に先端部が錐状になるなら穿孔具の可能性もある。

③鉄器の保有形態について

鋳造鉄斧を再利用したもののうち、16 点は刃部を持たないものが多く、素材として外部から搬入したものと推定される。

出土状況から考えられることは、住居内の上層から出土したもの等が多い。住居の重複が多いので、住居内の土器等の遺物の出土状況の詳細が不明であるが、当時の鉄器が中国・朝鮮半島から輸入された鉄素材だったことから、埋納の有無や廃棄に伴う祭祀等を今後考える必要を感じた。

④鉄器の製作について

明確な鍛冶遺構が出土していない。鉄滓や三角鉄片等の出土がない。不明鉄片等鉄器製作時に残存するものも存在するが、簡単な小鍛冶や鉄器の刃部の研磨等に留まっていると考えられる。210SI 出土の砥石で使用痕に深く鋭利な溝が残存する。鉄器などを研磨した可能性が高い。210SI から刀子片も出土している。

第 5 節 石器について

①出土状況

梅ノ木遺跡では、竪穴住居等の遺構埋土、遺物包含層、攪乱から、弥生時代の石器が多数出土している。

磨石や敲石と石皿が合わせて出土しているのは、129・269・1190・235・169・123SI、磨製石鏃が5点出土している1133SI、3点出土している101・124SI、2点出土している1103・1172SIである。

大陸系磨製石斧も出土している。柱状片刃石斧は1121・132SIから、扁平片刃石斧は127・272SIから、抉入片刃石斧は153SIから、太形蛤刃石斧は103SIから出土している。

石包丁は、162・180・101・132・1096SIから出土している。

玉類が出土しているのは、1101SI（勾玉）、1167SI（管玉）である。

打製石斧は、住居内や遺物包含層・攪乱を含めて数十点出土した。形態的には縄文時代後・晩期に多く出土しているもので、弥生時代のいつ頃まで残存するか不明である。本遺跡でも弥生時代の竪穴住居から縄文時代後・晩期の土器が多数出土しており、単一時期の遺構に伴う出土例の蓄積を待ちたい。

住居の床面の出土遺物にも、土器の出土状況から考えて、原位置に近い出土状況と考えられるものは皆無である。

②石器の種類（第V-20～22図）

磨製石器

磨製石鏃 住居埋土出土土器から、磨製石鏃の年代幅の推定が可能である。形式的には、無茎鏃に含まれるものに限られる。刃部は、三角形を呈するものと緩やかにカーブを描くものとに分けられる。長さは1.5～2.4cm長幅比が1：1のものと、1：2、1：3以上のものがある。基部は、凹面を持つものと直線的なものに分けられる。

形態的には、長幅比が1：1で刃部が緩やかなカーブを描き基部に凹面を持つもの（A1）、第V-20図の様に分類も可能であるが、長幅比が1：2で同様なもの（A2）、長幅比が1：3で同様なもの、長幅比が1：1で刃部が緩やかなカーブを描き基部が直線的なものは（B1）、長幅比が1：3以上で同様なもの（B2）、長幅比が1：1で刃部が直線的なもの（C1）、長幅比が1：2で同様なもの（C2）等に分類可能であるが、（A2）が4A期から、（A3）が4A期から（C2）が4B期から出現することが確認できるだけで、刃部先端部の角度や長幅比を必ずしも表さないようである。用途（獲物の差）等が考えられよう。

柱状片刃石斧・扁平片刃石斧 柱状片刃石斧は長さ7.5cmと小型のものが出土している。基部も丁寧に研磨しており、丸みを帯びている。1121SIの埋土から出土しており、出土土器は4A～4B期と推定できる。

典型的な扁平片刃石斧は、長さ3.6cm程度のものが2点出土している。基部より刃部がやや広い。272SI出土のものは、刃部断面の角度も約35°で9mmとやや厚みがある。127SI出土のものは、刃部の角度が30°で2～6mmである。形態的には類似し、厚み等は使用頻度の問題の可能性もある。時期的には、住居埋土出土土器から、前者は3～7期に位置づけられ、後者は、4A～5期に位置づけられよう。

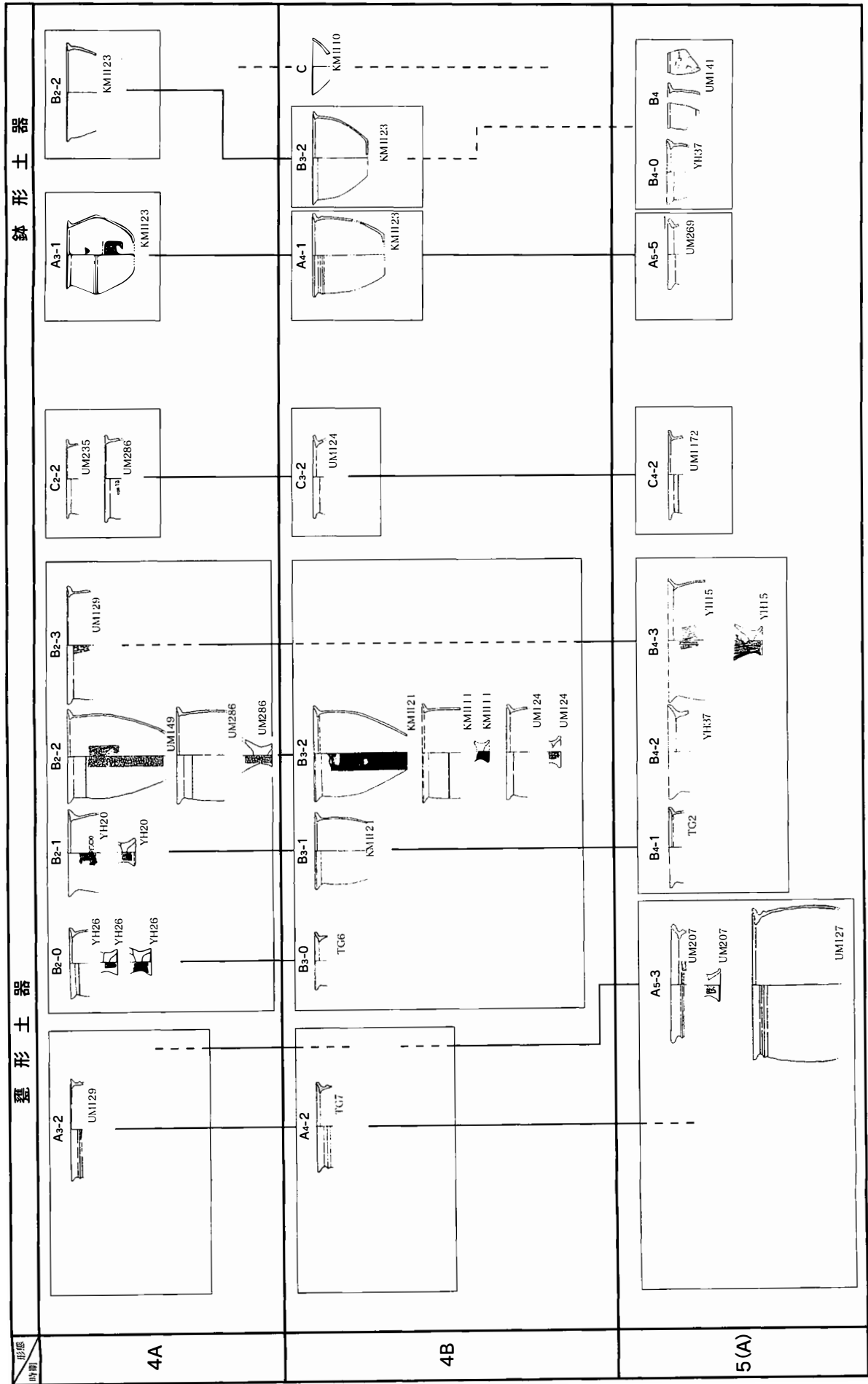
磨製石斧 太形蛤刃石斧が2点出土している。103SI出土のものは基部より刃部が広く、断面も蛤状を呈する。包含層出土遺物は刃部幅と基部幅がほぼ同じで、断面も楕円形を呈する。製作技法的には両者とも敲打痕を基部から側縁部にかけて残している。後者の方が頭著に敲打痕を残す。研磨痕跡も、側縁は縦方向から斜め方向に残る。

石包丁 背部直線形で刃部が外湾するものを（A型式）、背部がやや外湾しているもので刃部も外湾するものを（B型式）、背部直線形で刃部も直線部が多いと推定できるものを（C型式）、側縁部を明瞭に作り出しているもので、側縁部を丁寧に研磨していることを特徴とするものを（D型式）とする。D型式は、使用頻度の高いものと考えられ、孔背間距離などや孔間距離や刃部形態により他の型式に分類される可能性が高い。

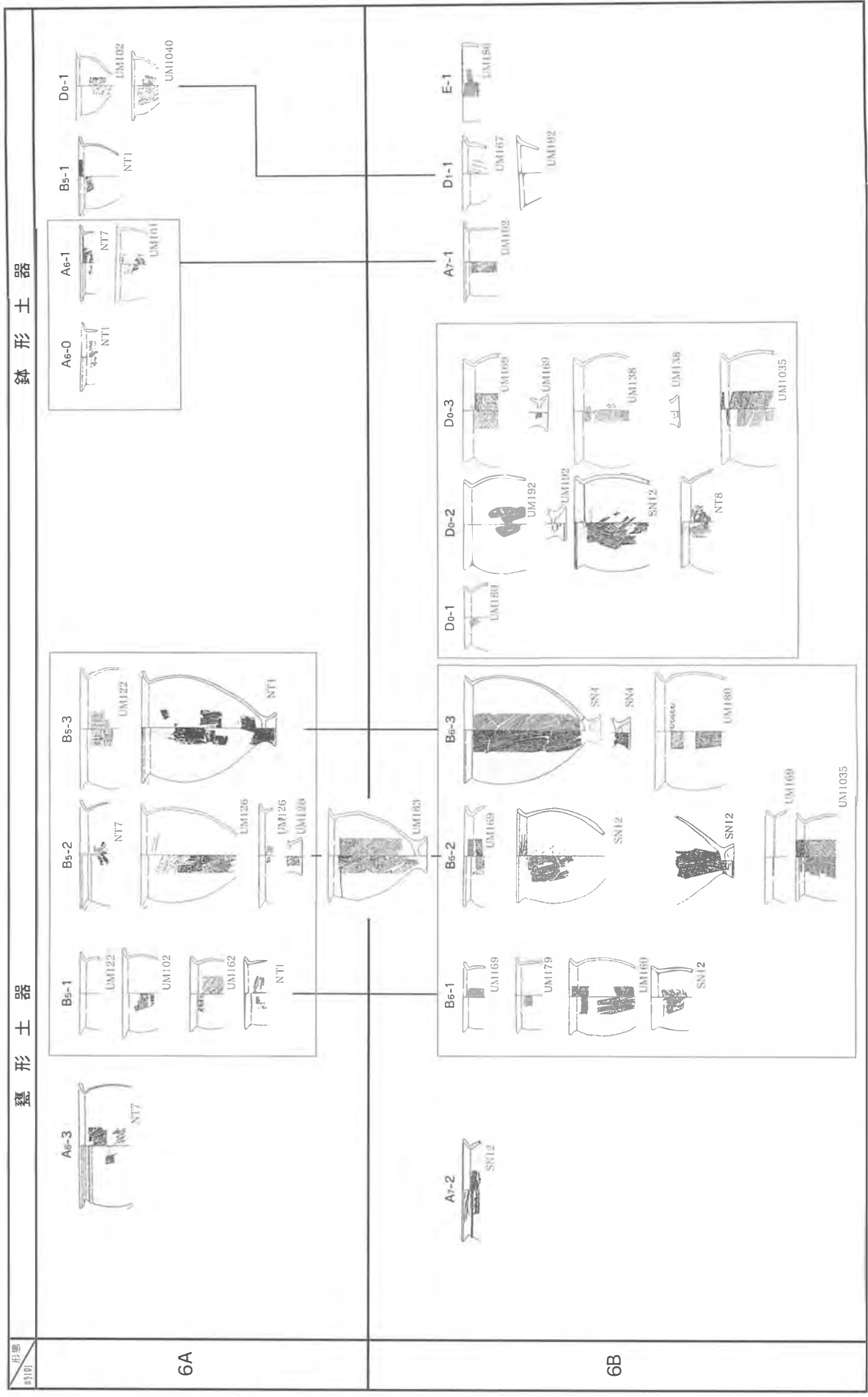
162SIは、孔径が6mmと大きく、孔背間距離も1.8cmと長いため、古く位置づけられる可能性がある。孔間距離が長いのは、攪乱出土例であるが、若干古く位置づけられよう。

形態 時期	甕形土器	鉢形土器
1	<p>A0-1 UH57 A0-2 UH57 A0-3 UH57 UH57</p>	<p>R J 六地蔵遺跡 (菊陽町) MN 前原長湯郷船形群 (菊水町)</p> <p>A0-2 UH57</p>
2	<p>A1-1 UH24 A1-2 UH24 UH24 A1-3 UH66 UH24</p>	<p>UM 梅ノ木遺跡 (菊陽町) UH 上の原遺跡 (熊陽町) YH 大瀬川日向遺跡 (大津町) TG 谷頭遺跡 (西原村) KM 神水遺跡 (KM II 市調査報告II) (熊本市) NT 西谷遺跡 (新井部遺跡) (熊本市) SN 下瀬部遺跡 (熊本市) TA 高畑赤立遺跡 (蘇陽町) 番号は住所番号</p> <p>B0-1 UH66 UH66 UH24 B0-2 UH24 UH60 B0-3 UH60 UH60</p> <p>Co-1 UH24 UH60 Co-2 UH32 UH60 Co-3 UH102 UH24 UH66</p> <p>A1-1 UH24 UH60</p>
3	<p>A2-1 UH212 A2-2 UH31 A2-3 KM1123 KM1123</p>	<p>B1-1 KM113 KM113 B1-2 UH272 UH272</p> <p>C1-1 UH286 UH286 C1-2 UH286 UH286 UH286 C1-3 UH286 UH286</p> <p>A2-1 UH1095 A2-2 UH125</p> <p>B1-2 UH268</p>

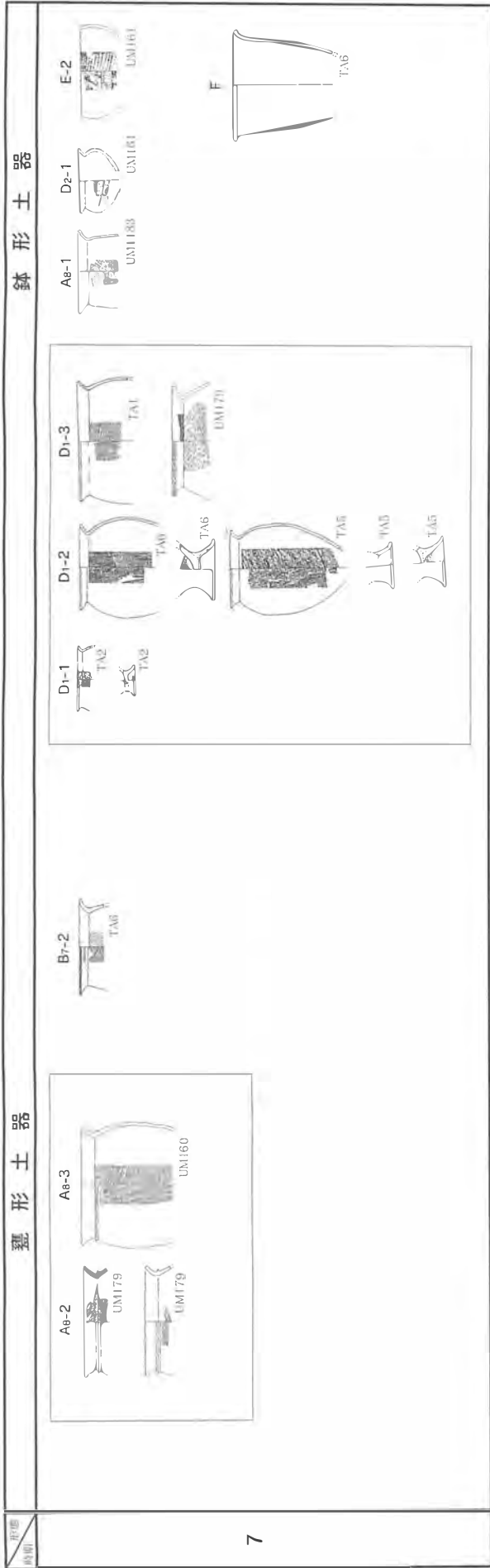
第V-1 熊本平野周辺の弥生土器編年案 (甕・鉢) 1 (1/16)




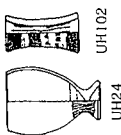

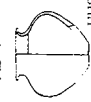
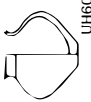


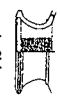
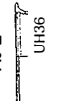






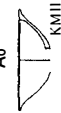

第V-2図 熊本平野周辺の弥生土器編年案(壺・鉢) 2 (1/16)



第V-3 図 熊本平野周辺の弥生土器編年案 (甕・鉢) 3 (1/16)

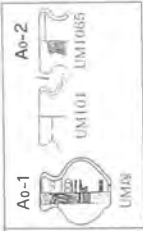
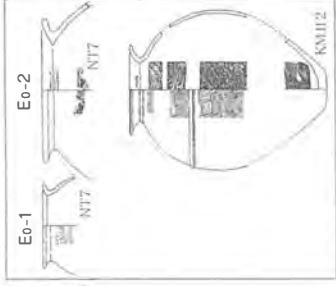
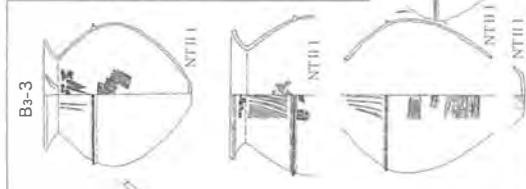
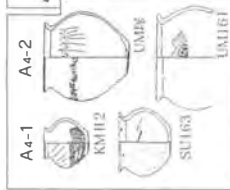


第V-4 図 熊本平野周辺の弥生土器編年案（甕・鉢）4（1/16）

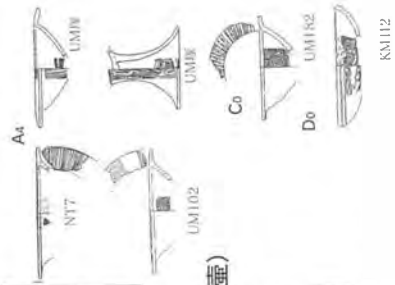
時期 形態	壺形土器	高坏形土器 其他土器
1	(短頸壺) (直口壺) 	(広口壺) 
2	Aa-1  Ab-1    	Aa-1  Aa-2   
3	Aa    Bb 	Aa  

第V-5図 熊本平野周辺の弥生土器編年案(壺・高坏・器台他) 1 (1/16)

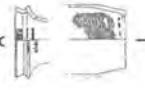
(短頸壺)



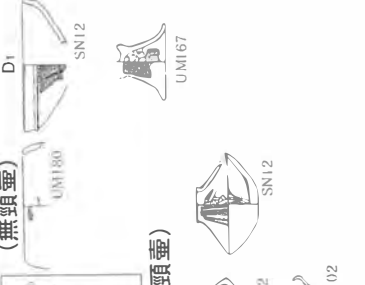
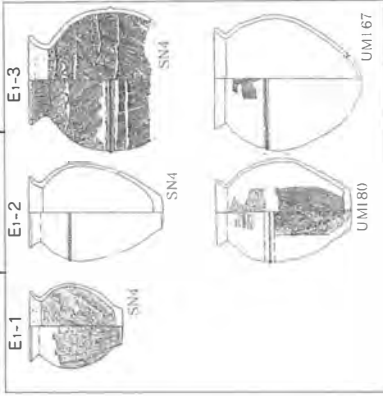
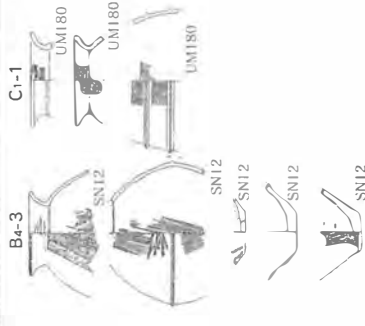
(袋状口縁壺)



(複合口縁壺)



6A



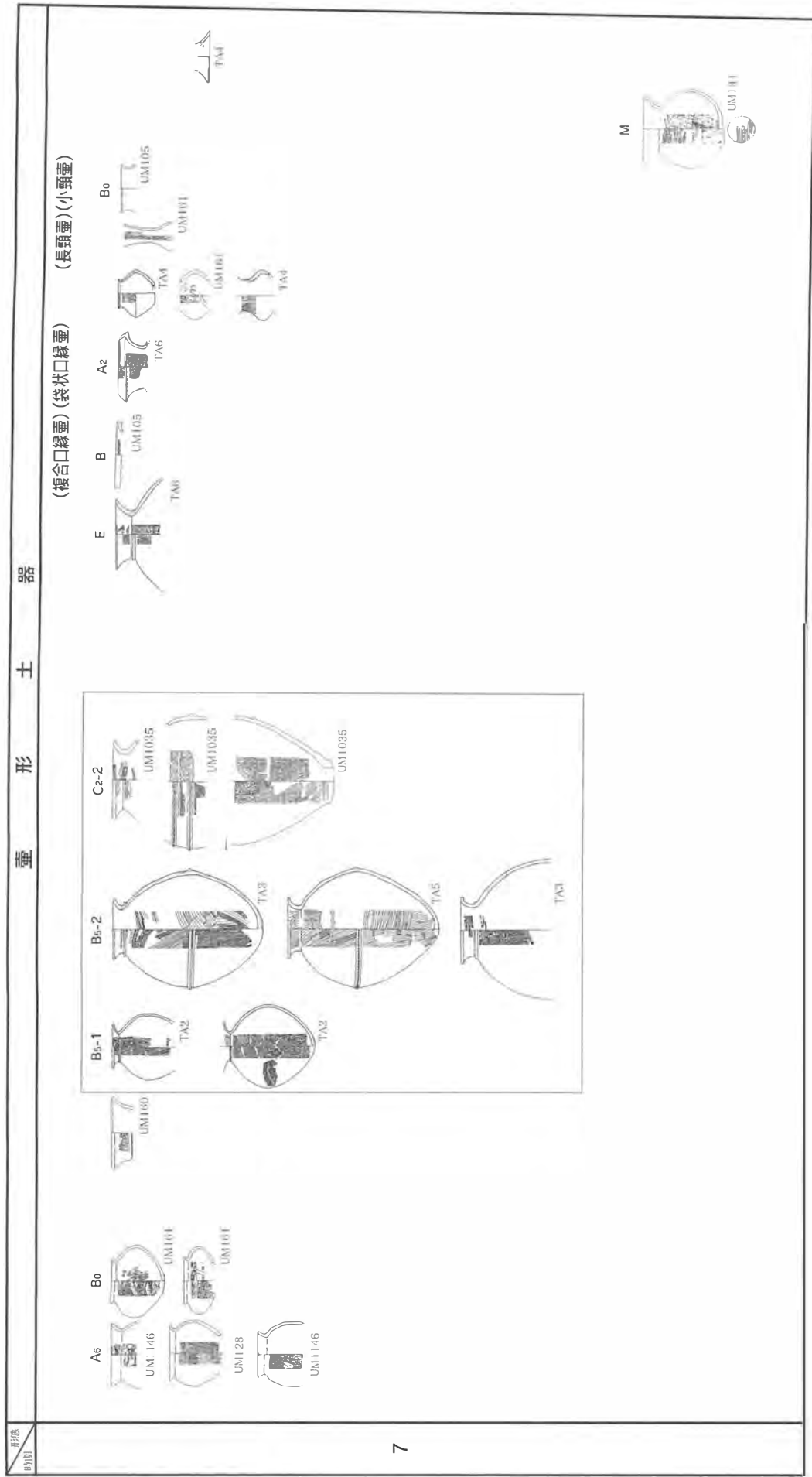
(無頸壺)

(小頸壺)

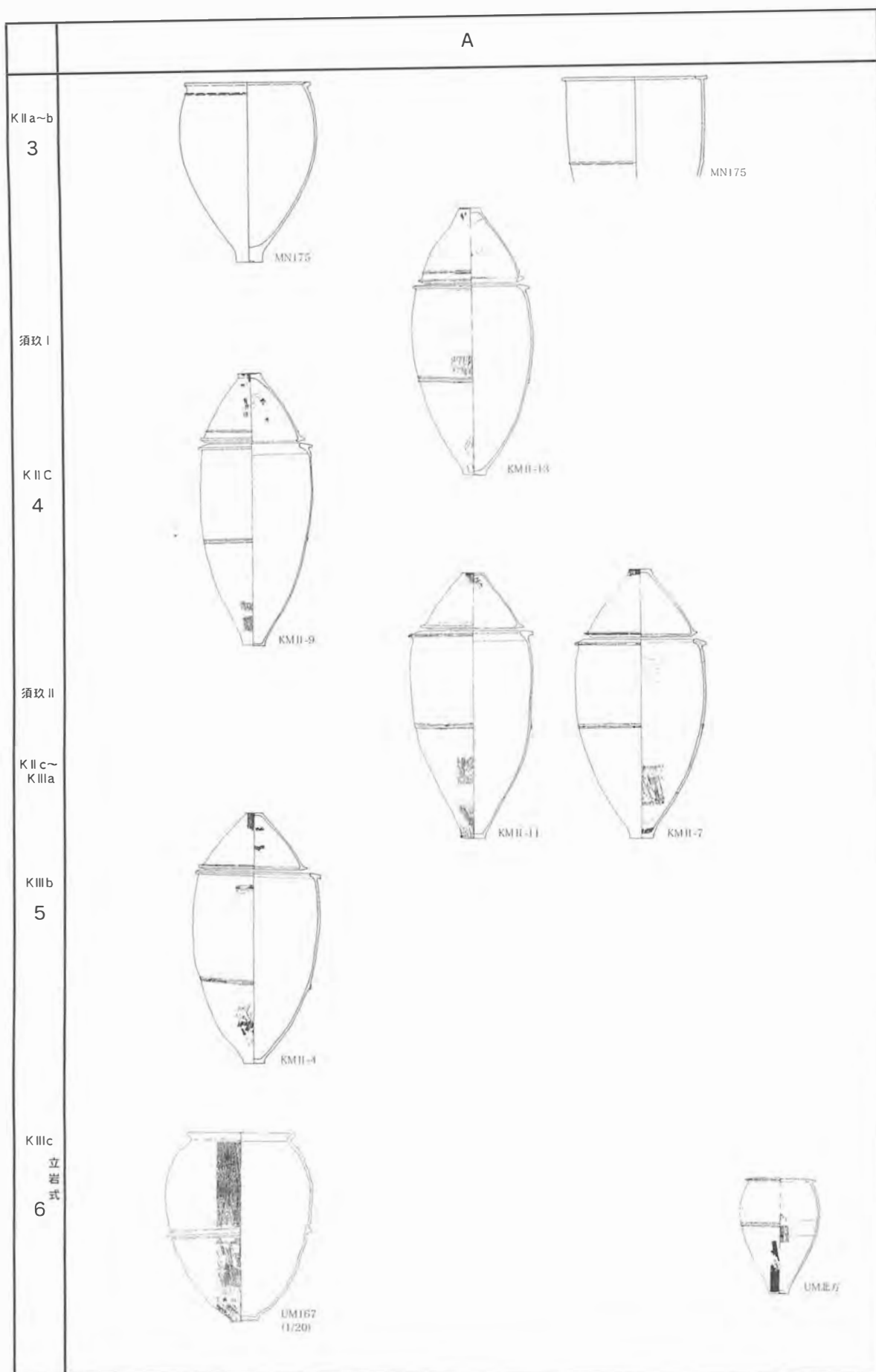


6B

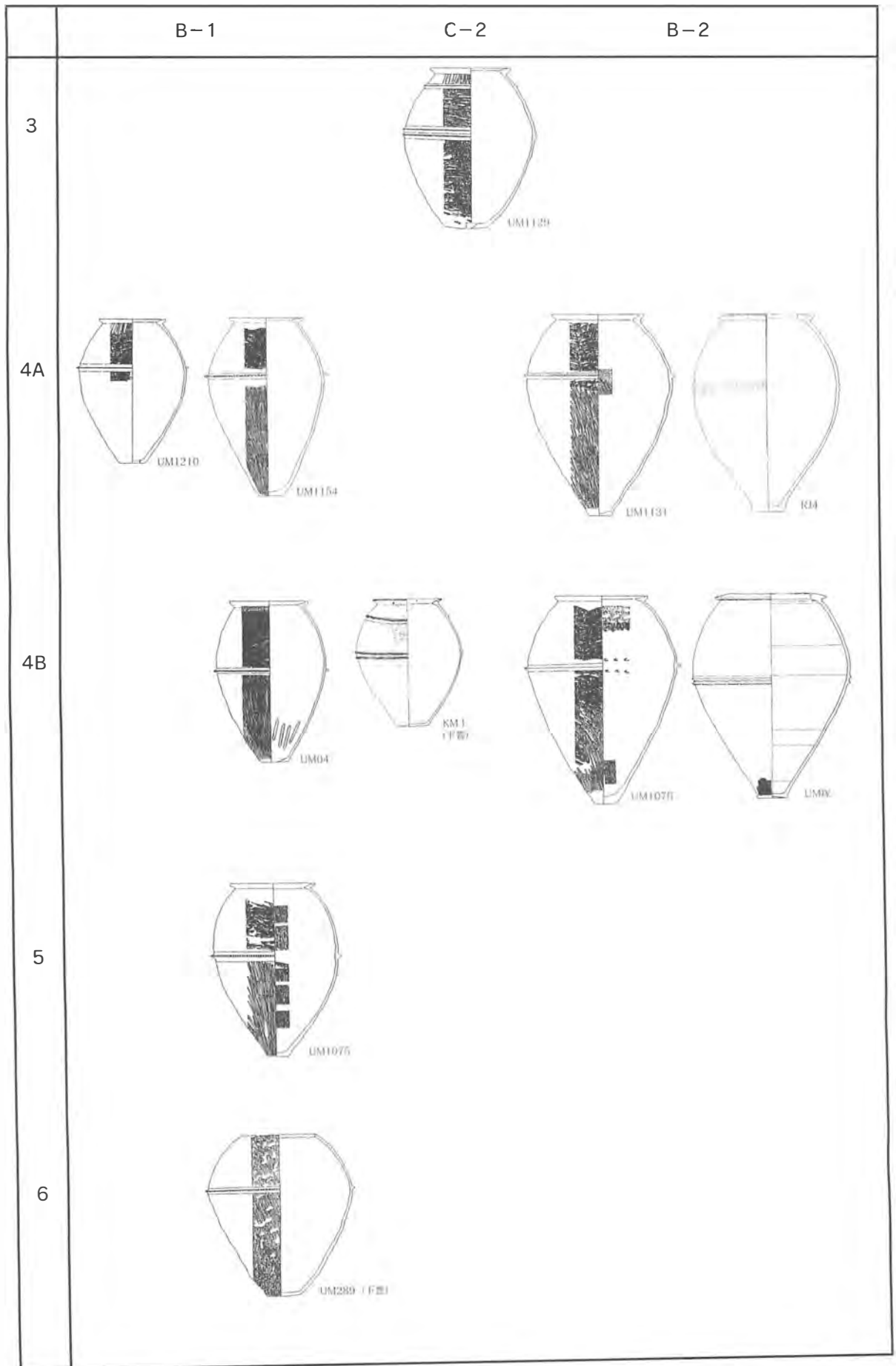
第V-7 図 熊本平野周辺の弥生土器編年案 (壺・高坏・器台他) 3 (1/16)










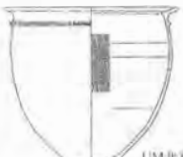

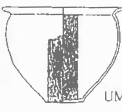
第V-8 熊本平野周辺の弥生土器編年案 (壺・高坏・器台他) 4 (1/16)





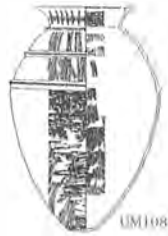




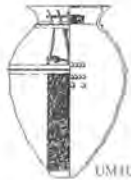





第V-9図 甕形土器棺(専用)1(大型棺)編年案(1/32)



第V-10図 甕形土器棺(専用)2(中型棺)編年案(1/20)

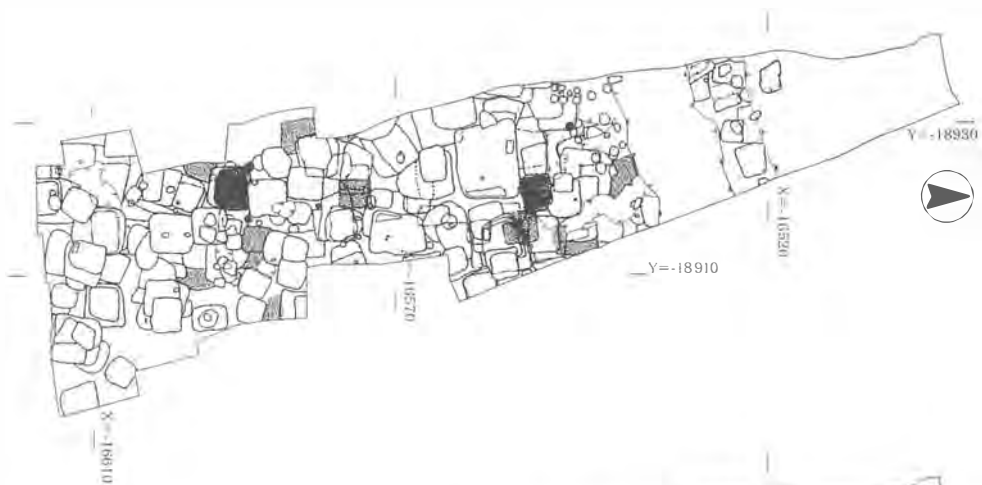
	D-1 甕形土器棺	D-2	鉢形土器棺
B0-3 3		 UM1079	
4A	 YH20 (下部)	 KT8 (下部)	
4B	 RJ3	 UM1078	
5	 UM208	 UM北7	 UM北7
6	 UM289 (上部)		 UM228 (上部)

第V-11図 甕形土器棺・鉢形土器棺(転用)編年案(1/20)

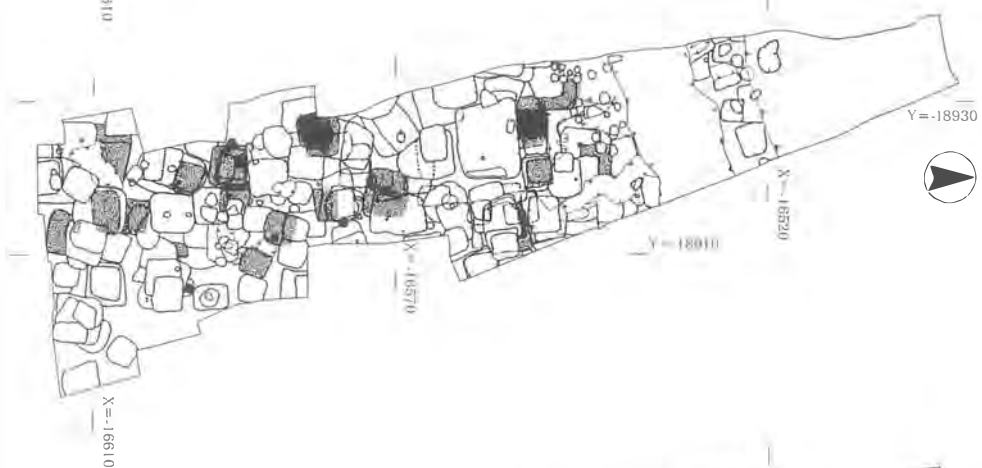
	A-1	A-2	B	C
3	 UM1150			
4A	 RJ2	 UM1084		
4B	 UM1239	 YH20 (上部)	 UM1077	 UM1081
5	 UM1082	 UM1077 (張り方塚上)	 UM1108	
6	 UM229	 UM228 (下部)		 UM230

第V-12図 壺形土器棺編年案(1/20)

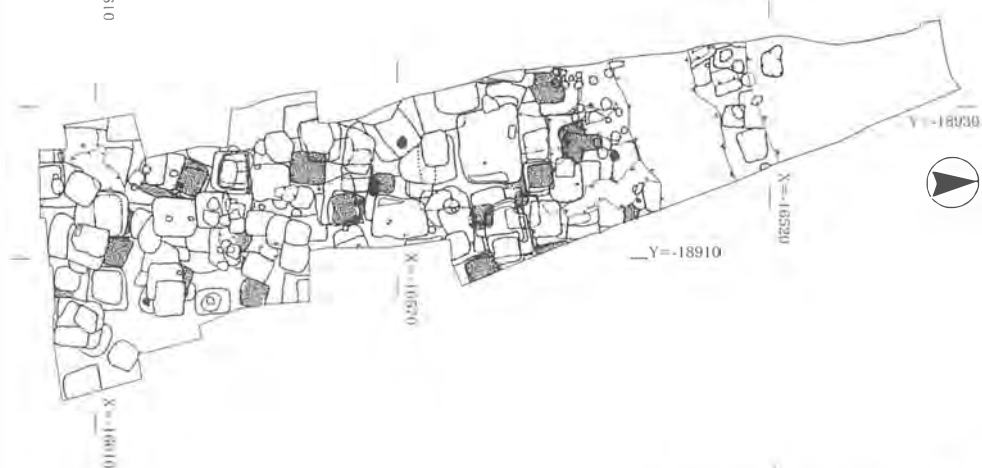
3 期



4A期



4B期



5 期



第V-13図 弥生時代遺構変遷図案1 (1/1000)

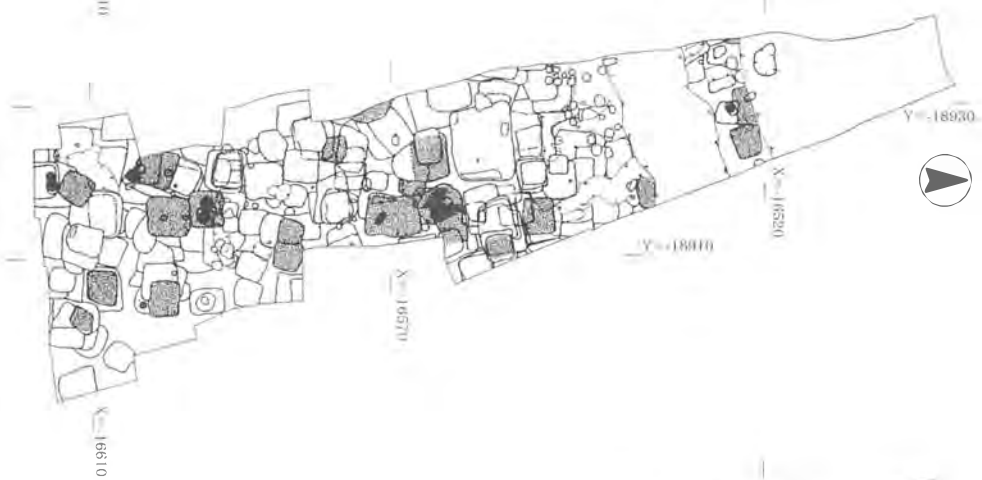
6A期



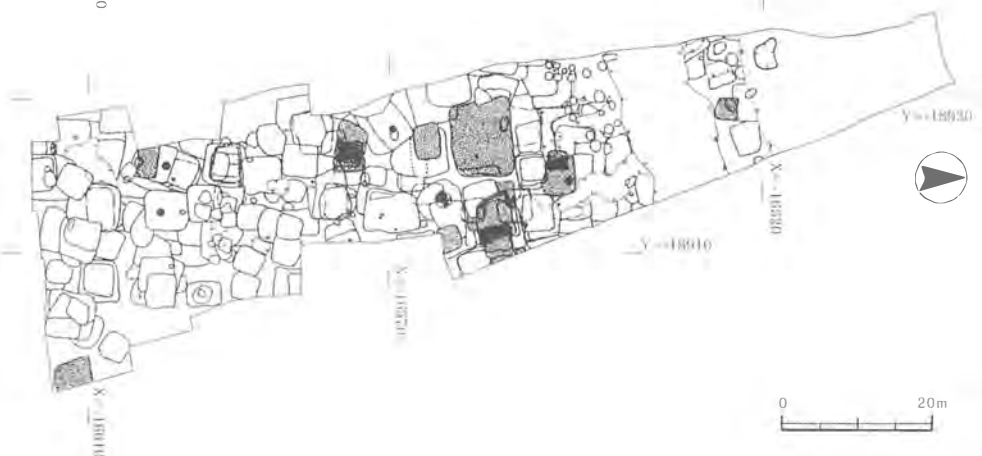
6B期



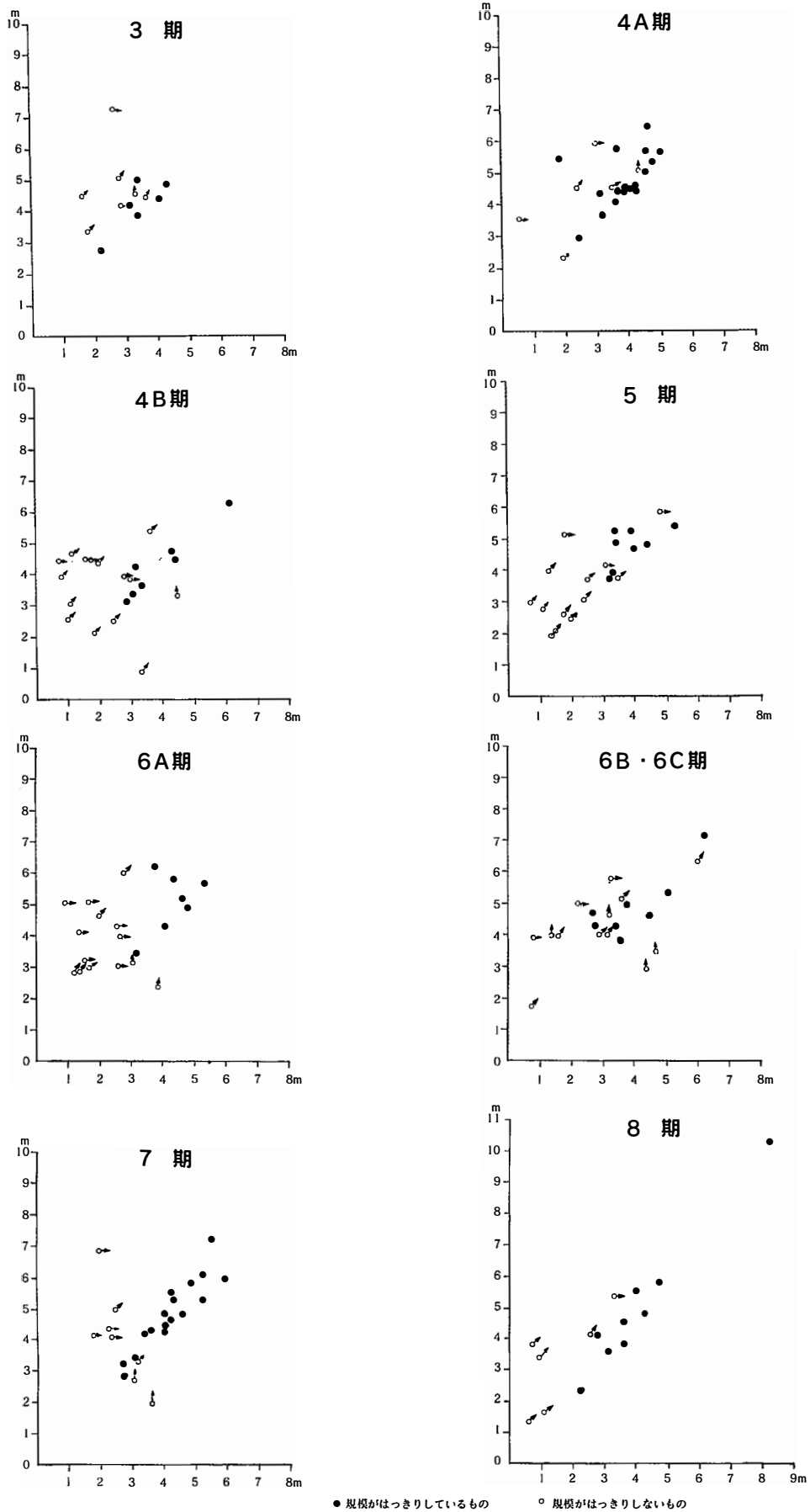
7期



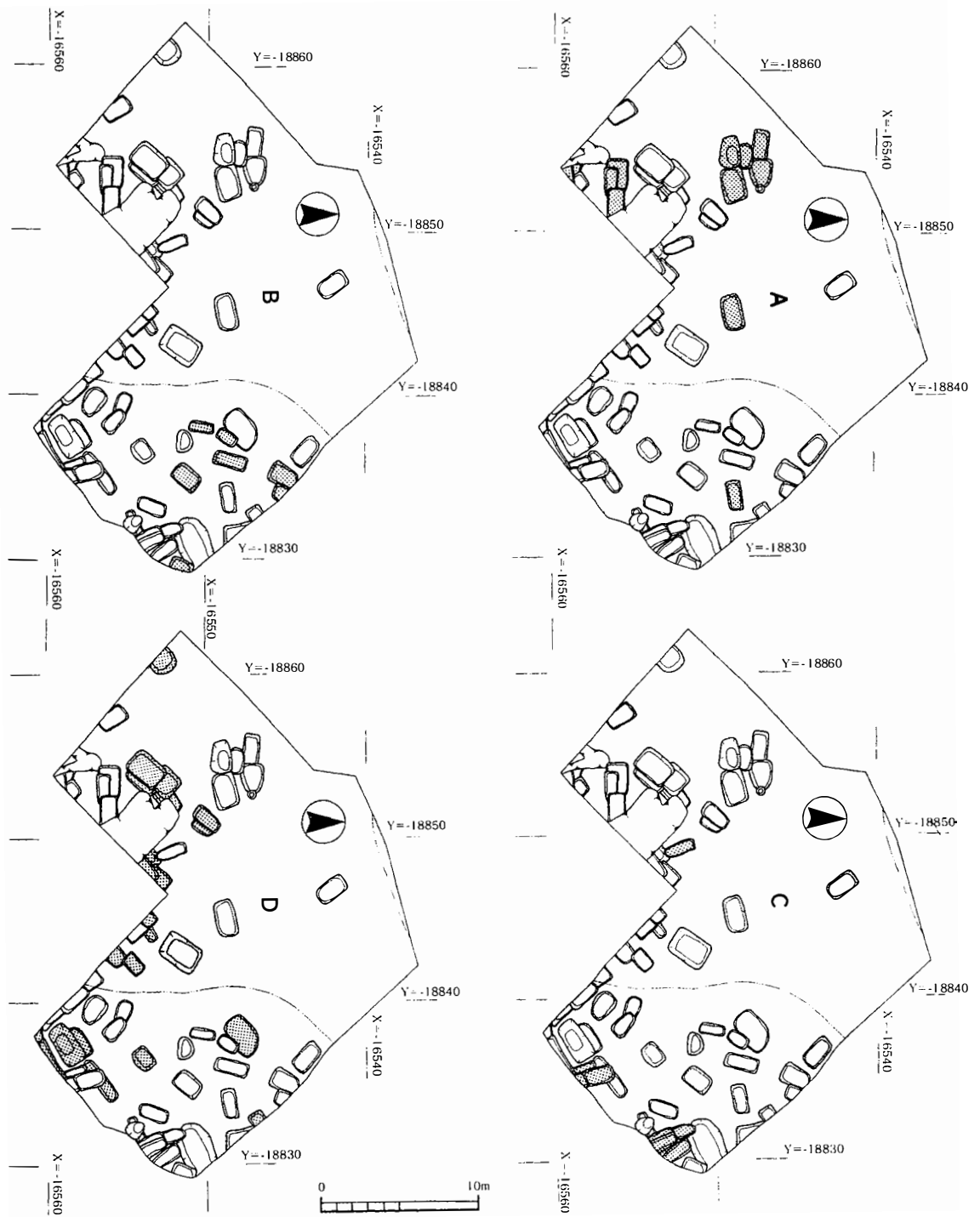
8期



第V-14図 弥生時代遺構変遷図案2 (1/1000)



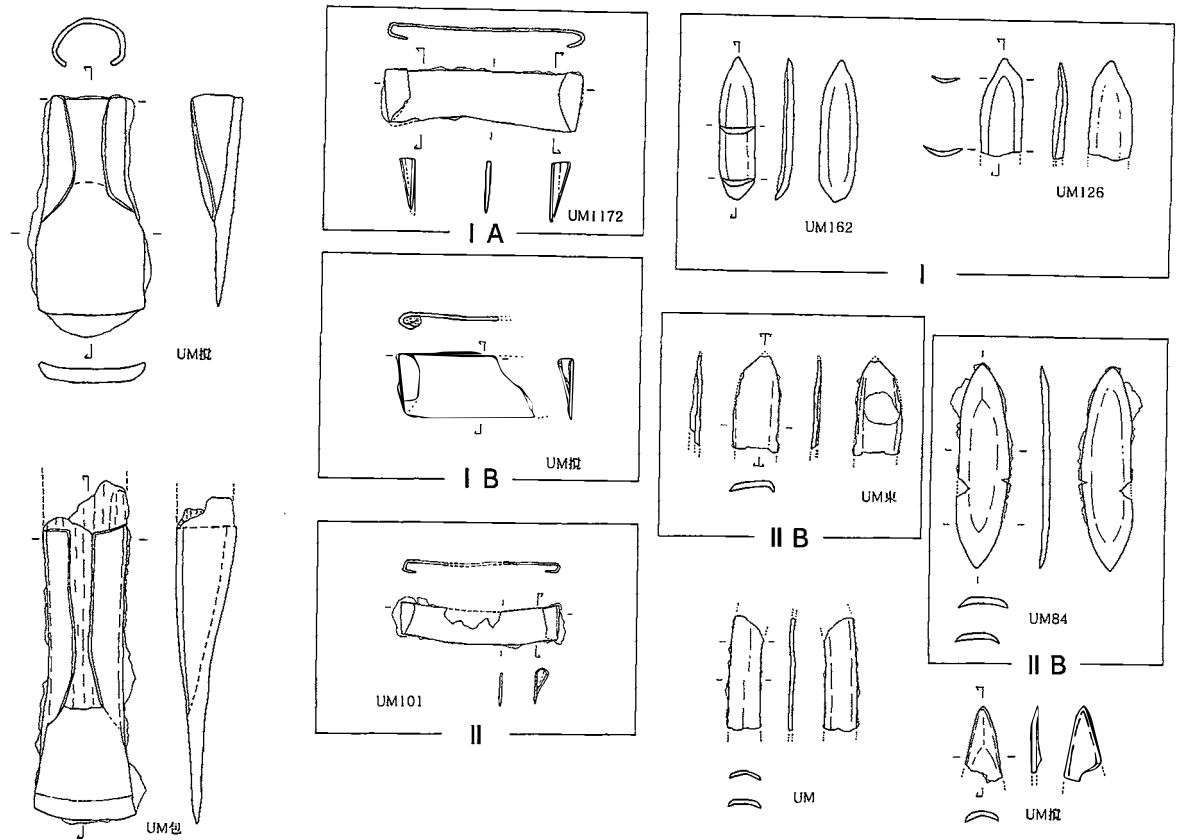
第V-15図 梅ノ木遺跡2区 時期別長幅比分布グラフ



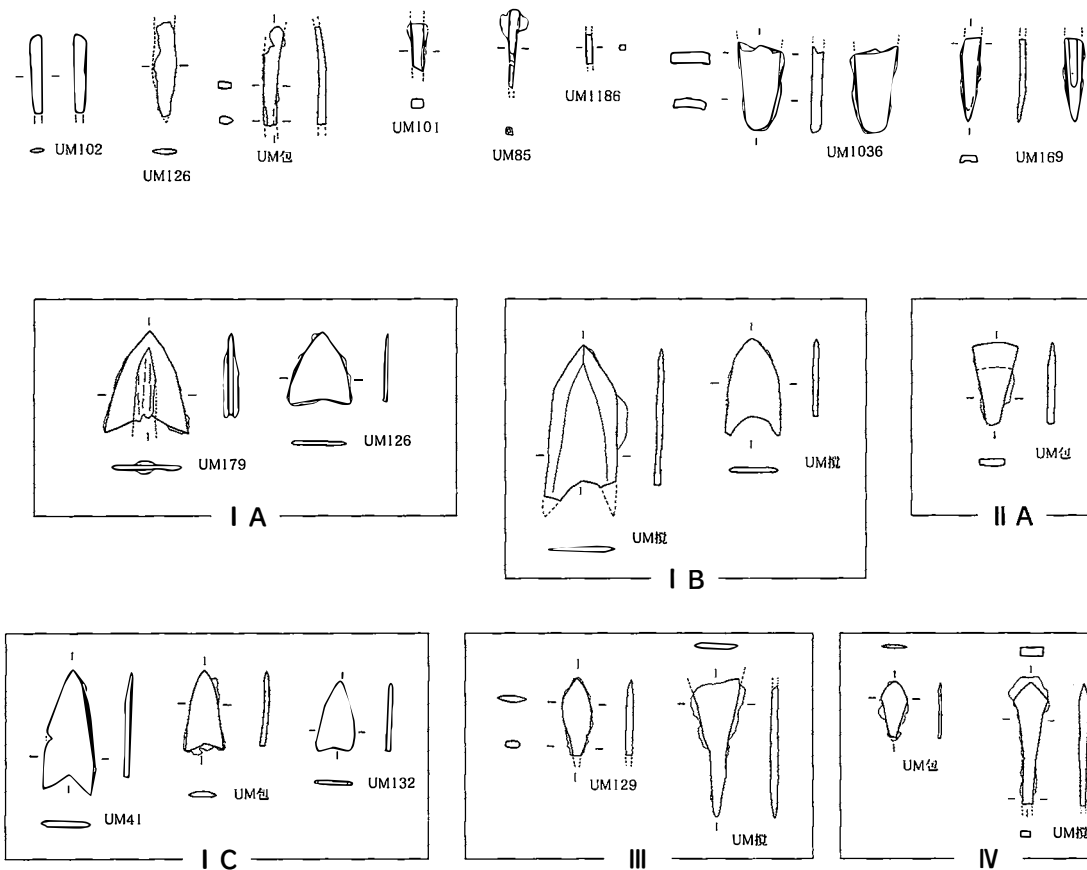
※ A～Dは、主軸方位による分類



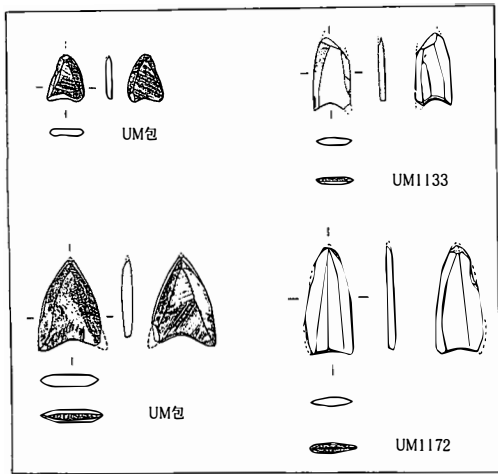
第V-17図 鉄器分類図案1



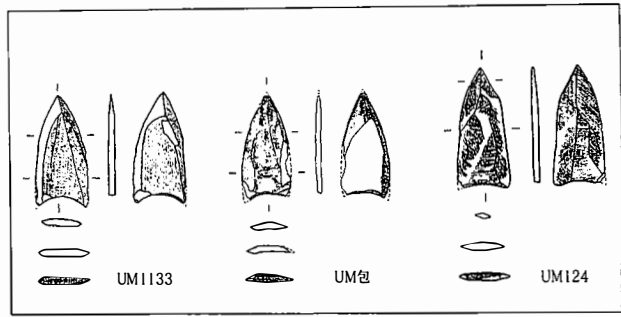
第V-18图 铁器分类图案2



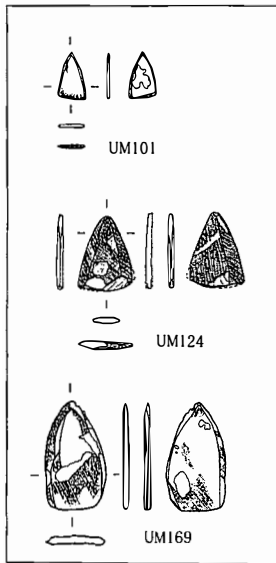
第V-19图 铁器分类图案3



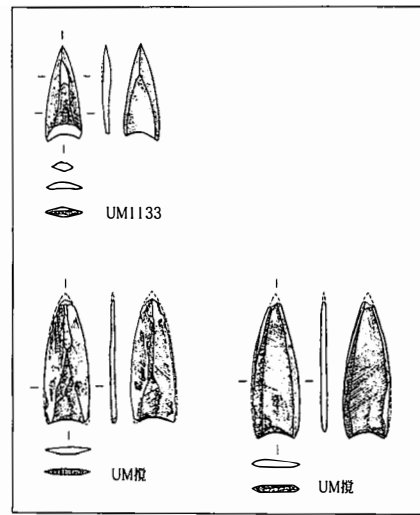
A1



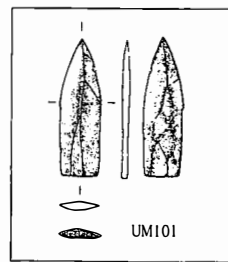
A2



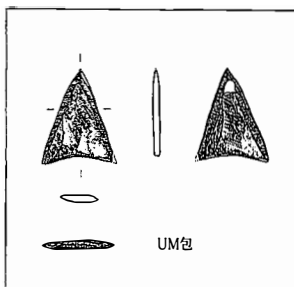
B1



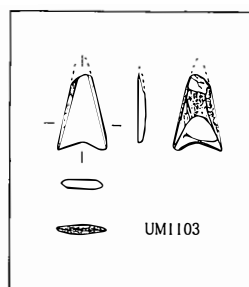
A3



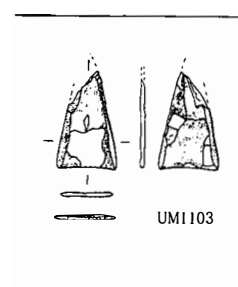
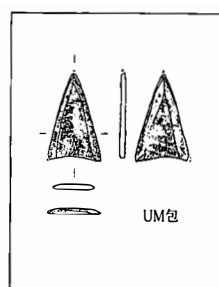
B2

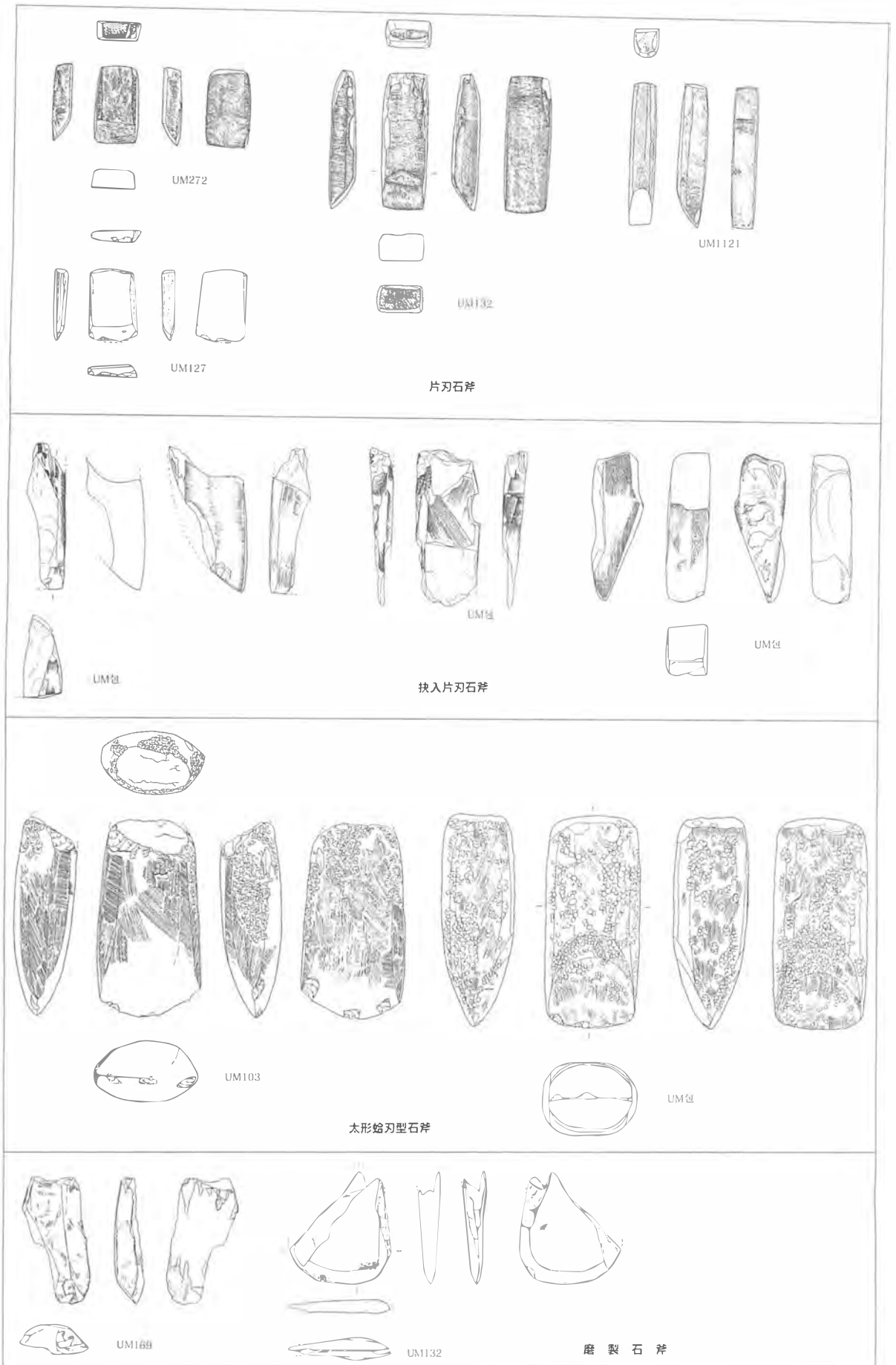


C1

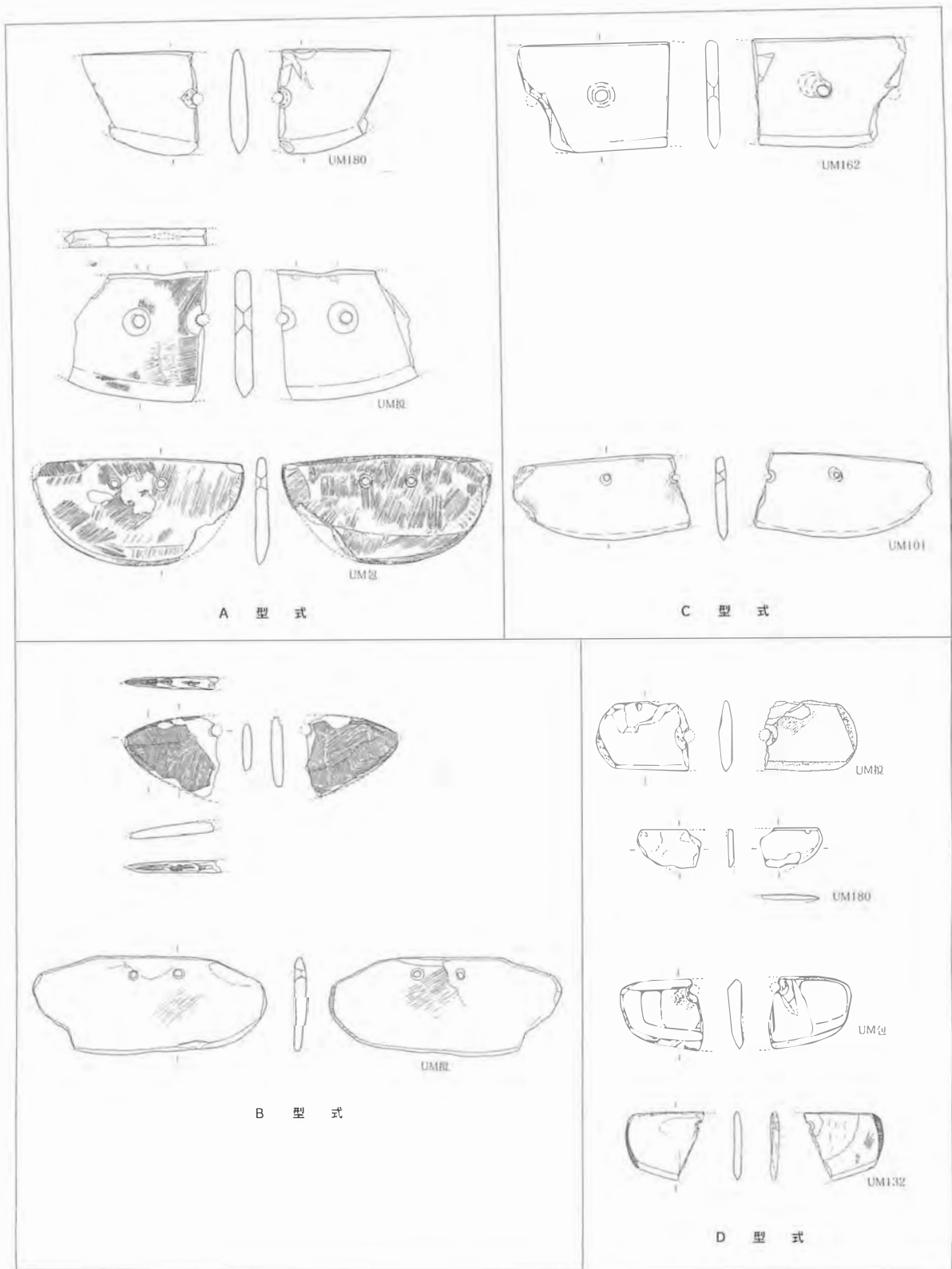


C2





第V-21图 石器分类图案2



第V-22图 石器分类图案3

第Ⅵ章 まとめと課題

今回、弥生時代中期から後期にかけての集落の住居域の密集地域及び墓地群を検出できた。前回の調査と合わせて、梅ノ木遺跡の概要が明らかになった。

前章で述べたように、竪穴住居の構造やその変遷の一端が明らかになった。しかしながら、同時性をつかむことと、集落構造の分析が困難であった。竪穴住居の柱構造や入り口の問題、竪穴住居の主軸の問題、大型住居と小型住居の差異の問題等細かい問題さえも今後の検討課題としても残る。

住居跡の重複が激しく、残存する資料に限界があった。しかしながら、この時期の熊本の集落は、隣接する六地蔵遺跡をはじめ、山尻遺跡群（石原亀甲遺跡）、大津町矢護川日向遺跡、熊本市神水遺跡、大江白川遺跡、白藤遺跡等、住居跡が重複して検出されることが多く、良好な資料はほとんどない。この梅ノ木遺跡の今回の発掘調査がそれら弥生集落の分析の一助になればと願うばかりである。

竪穴住居間の関係の分析はもちろん、本来の居住空間としての住居、貯蔵施設、工房等の機能をどこが果たしているのかが問題である。土坑の機能、屋外炉等の機能など、検討材料は多い。

ただ、集落域の問題では、今回北側が削平されており、範囲が明確ではないが広がりを確認できた。南側・西側にも集落域の拡大が見られ、東西南北 150m 以上の集落と確認できた。

また、墓については、大型土器棺墓、中型土器棺墓、小型土器棺墓等多様な土器棺が検出された。

他に木棺墓と推定される墓群が重複して検出され、多様な墓形式の存在が明らかになった。これで、土器棺墓、支石墓、木棺墓、土坑墓、大きく分けて4つの形式に分かれる。また、それぞれの大きさや形態により形式の細別が可能であり、グループの差及び階層差なのか検討する材料の一端は提供できた。

遺物に関しては、朝鮮半島から伝来したと思われる板状鉄斧の他、鋳造鉄斧の破片を20数例検出できた。最近福岡県小郡市の貝元遺跡で多数検出されているが、それに劣らない出土例であり、鉄器の普及の時期と利用の仕方等を示唆できる資料になった。

また、大陸系の石斧類もそろって出土していることや磨製石鏃が大量に検出された事実など中期的な石器が後期に入って存在する様相が見られ、鉄器の普及とどうかかわるかも課題である。今回ほとんど凶化できなかったが、打製石斧の問題なども前段階からの伐採具や工具の進展を考える重要な遺跡であろう。

今回自然科学分析で得られた結果も著しい成果があった。

石器については、松本幡郎氏に石材の鑑定等をお願いしたことにより、石材が西原～阿蘇周辺にかけて等、近くから供給されたことが判明した。

鉄器については、金属学的分析結果により可鍛鋳鉄製品中にチタンを含むことなどから、弥生時代の鉄器の普及ルートなどの推定に示唆が得られた。

また、花粉分析では、イネ等が検出された他、ススキ属やチガヤ属およびクマザサ属（ササ類）などが生息する草原的環境で、遺跡周辺には、クスノキ科やイスノキ属などの樹木が分布するといった、当時の古環境の推定の一助となった。放射性炭素年代でも幅は存在するもの、絶対年代の推定の蓄積になった。

リン・カルシウム分析では、構造や出土状況で墓と推定される土坑が、自然科学的分析により墓の可能性が高いという結果を得られた。今後蓄積された課題に加えて、資料の増加とともに梅ノ木遺跡の弥生集落が解明されることを望むものである。

その他、縄文時代の遺構として、尾田式土器型式期の集石と晩期の竪穴住居らしきものを検出した。玦状耳飾や麻式土器など、縄文時代早期の遺物から晩期の突帯文土器まで縄文時代の各時期にわたる遺物が出土している。弥生時代の住居等によって、縄文時代の遺構群はほとんど壊されているものの、縄文時代にも長期にわたって生活の場として利用されていたことは、新たな発見であったことを付け加えておきたい。

	遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
1	404-019	梅ノ木	津久礼 梅の木	弥生	包蔵地	
2	404-016	津久礼六地蔵	津久礼 梅木	縄文・弥生	石造物	
3	201-112	鹿嶋瀬	鹿嶋瀬町西原	縄文・弥生	包蔵地	県調査あり
4	201-114	山尻遺跡群	龍田町弓削山尻	弥生	包蔵地	弥生時代を中心とした大集落
5	404-030	川久保	久保田 川久保	弥生	包蔵地	
6	201-121	平山石ノ本	平山町	旧石器～縄文	集落	国体会場、県調査報告書あり
7	201-092	迫ノ上遺跡群	龍田町陣内など	縄文～平安	包蔵地	堂の前窯跡は平安期か？
8	201-091	庵ノ前	清水町兎谷・上龍田	旧石器・弥生	包蔵地	早期住居跡3基・甕棺群、県報告書あり
9	405-010	陣の内	幾久富 陣の内	弥生・他	包蔵地	須玖式・野辺田式土器・石包丁
10	405-011	宮の前	上庄 宮前	弥生	包蔵地	弥生、須玖式・黒髷式・土師器
11	405-018	桑鶴	竹迫 福原	縄文・弥生	包蔵地	昭50年圃場整備、盛土で残す
12	405-024	轟	豊岡・福原	弥生	包蔵地	黒髷式
13	403-016	杉水上ノ原矢鉾	杉水 上ノ原・矢鉾	縄文・弥生	埋葬	甕棺墓、支石墓、縄文、弥生土器・土師・須恵
14	403-035	西弥護免	大津 西弥護免	弥生～古墳	包蔵地	
15	443-022	平田	平田 境	弥生	包蔵地	弥生甕棺
16	443-021	木山城跡	寺迫 城ノ本	弥生	城	下部に弥生後期、住居址群
17	201-293	江津湖遺跡群	神水町、函岡町ほか	縄文～中世	包蔵地	
18	201-332	新南部遺跡群	新南部町	旧石器～平安	包蔵地	県北ハイパス調査、市マンション調査、田辺昭三調査などあり
19	201-281	大江白川	大江1丁目	縄文～平安	包蔵地	甕棺
20	201-298	陣内上の園遺跡群	熊本市龍田町上立田	縄文～古墳	包蔵地	
21	201-294	天拝山	清水町楡木	旧石器～弥生	包蔵地	石棺、須玖式甕棺群
22	201-236	打越遺跡群	清水町打越	弥生・中世	包蔵地	
23	201-067	清水町遺跡群	清水町山室など	縄文～古墳	包蔵地	橋山甕棺群、山室甕棺・土師器、八景水谷縄文前後晩・甕棺
24	201-028	五丁中原遺跡群	貴町字馬場・三ツ塚	旧石器～弥生	包蔵地	弥生後期環壕集落調査、縄文晩期住居跡調査、巴形銅器
25	407-055	中原支石墓	野々島 中原	弥生	埋葬	
26	407-043	八反畑	野々島 八反畑	縄文～弥生	包蔵地	縄文～弥生土器、中央小校庭
27	407-015	永田支石墓	野々島 永田	弥生	埋葬	支石墓
28	405-007	千経塚	上庄 千経塚	弥生・他	包蔵地	弥生、土師器・須恵器 他
29	405-003	中林西原	栄 西原	弥生	包蔵地	須玖式土器
30	407-029	八反田	西合志町合生 八反田	弥生	埋葬	甕棺・壺・埴・石斧
31	407-041	八反原	合生 弘生	弥生・古墳	集落	
32	402-009	藤尾支石墓群	井利 藤尾	弥生	埋葬	十数基
33	402-016	伊坂上の原	伊坂 上の原	縄文・弥生	包蔵地	御領式・野辺田式土器
34	403-011	立石	矢護川 立石	縄文・弥生	埋葬	支石墓、甕棺墓・積石塚・環溝あり、積石塚6、石器
35	403-006	無田原	矢護川 片又	縄文・弥生	包蔵地・埋葬	甕棺墓、配石遺構、縄文早期、押型・条痕文、黒曜石片
36	403-028	日向	矢護川 日向	弥生	包蔵地	弥生中期後期土器片
37	403-080	錦野	錦野 上掲	縄文～古墳	集落	
38	403-085	外牧	外牧	縄文・弥生	集落	
39	443-043	八反田	益城町砥川 八反田	弥生	埋葬	弥生中期甕棺
40	443-041	秋永	小池 秋永ほか	弥生	集落	弥生中・後期、土師器
41	442-019	西光寺甕棺群	嘉島町下六廻西光寺	弥生	埋葬	
42	443-040	東無田	島田 東無田居敷	弥生	包蔵地	弥生中期土器・甕棺
43	201-381	白藤遺跡群	島町、白藤ほか	弥生～中世	包蔵地	白藤遺跡群銅器鋳型、ミニチュア青銅矛
44	201-250	船場町	新町2丁目、鍛冶屋町	弥生	包蔵地	甕棺群
45	201-403	万葉寺出口遺跡	熊本市太郎迫	縄文～弥生	包蔵地	
46	385-165	笹尾B	木留 笹尾	弥生・縄文	包蔵地	集落、縄文早期土器・石斧・石棒、甕棺
47	385-137	ラスギ	滴水 ヌギほか	縄文・弥生・他	包蔵地	縄文晩期・弥生・須恵器
48	385-136	河原立	円台寺 河原立	縄文・弥生	包蔵地	縄文・弥生、扶人石斧
49	385-126	滴水	滴水(通称大道端) 西原	弥生	埋葬	甕棺
50	385-125	轟	轟 今古閑	弥生	包蔵地	銅鉾4本・鉄斧1
51	385-124	今古閑・久保	轟 今古閑・久保	弥生後期	包蔵地	
52	385-111	塔の本	轟 栗尾・塔の本	弥生	埋葬	甕棺
53	385-174	久保	富応 久保	弥生～古代	包蔵地	
54	364-037	西安寺	西安寺 上の原ほか	弥生末	包蔵地	土師器・須恵器片、住居跡
55	206-335	伊倉宮の後甕棺群	玉名市伊倉北方宮の後	弥生	埋葬	合口甕棺多数
56	206-298	城が崎	玉名市伊倉北方五社	弥生～中世	包蔵地	町北端舌状台地上、広範囲に弥生中期遺物を含む
57	206-297	城が崎貝塚	玉名市伊倉北方五社	弥生	貝塚	町北端舌状台地上、南裾一帯弥生貝層出土多量
58	206-482	柳町	玉名市河崎柳町	縄文～平安	集落	県調査、文字資料
59	206-138	両迫間日渡	両迫間 日渡	弥生・古墳	包蔵地	弥生土器・土師器・須恵器包含、水田中
60	206-050	上小田宮の前	上小田 宮の前など	弥生	包蔵地	弥生土器・石斧・土師器・須恵器
61	401-029	小野崎	小野崎 町畑	弥生	包蔵地	弥生・土師器多量、野辺田式

熊本県(43) 菊陽町(404)、熊本市(201)、合志町(405)、西合志町(407)、益城町(443)、大津町(403)、植木町(385)、玉東町(364)、玉名市(206)、嘉島町(442)、七城町(401)、旭志村(402)

表15 梅ノ木周辺遺跡名



第VI - 1 図 弥生時代



圖跡分布図 (1/100000)

1・4区縄文土器型式記号対照表

えた	⇒	J-①
えて	⇒	J-②
えひ	⇒	J-③
かせ	⇒	J-④
かつ	⇒	J-⑤
かて	⇒	J-⑥

1・4区弥生土器型式記号対照表

い	⇒	Y-①
う	⇒	Y-②
え	⇒	Y-③
お	⇒	Y-④
か	⇒	Y-⑤
き	⇒	Y-⑥
し	⇒	Y-⑦
す	⇒	Y-⑧
せ	⇒	Y-⑨
そ	⇒	Y-⑩
た	⇒	Y-⑪
ち	⇒	Y-⑫
つ	⇒	Y-⑬
ぬ	⇒	Y-⑭
ね	⇒	Y-⑮
は	⇒	Y-⑯
ひ	⇒	Y-⑰
ま	⇒	Y-⑱
み	⇒	Y-⑲
め	⇒	Y-⑳
も	⇒	Y-㉑
ゆ	⇒	Y-㉒
よ	⇒	Y-㉓
わ	⇒	Y-㉔
ああ	⇒	Y-㉕
あい	⇒	Y-㉖
あた	⇒	Y-㉗
あち	⇒	Y-㉘
あほ	⇒	Y-㉙
あよ	⇒	Y-㉚
いひ	⇒	Y-㉛
うぬ	⇒	Y-㉜

1・4区須恵器型式記号対照表

けあ	⇒	S-①
けい	⇒	S-②
けう	⇒	S-③
けえ	⇒	S-④
けけ	⇒	S-⑤
けさ	⇒	S-⑥
けし	⇒	S-⑦
けち	⇒	S-⑧
けて	⇒	S-⑨
けと	⇒	S-⑩
けや	⇒	S-⑪
けら	⇒	S-⑫
こく	⇒	S-⑬
こし	⇒	S-⑭
こす	⇒	S-⑮

1・4区土師器型式記号対照表

きあ	⇒	H-①
きい	⇒	H-②
きう	⇒	H-③
きこ	⇒	H-④
きぬ	⇒	H-⑤
きほ	⇒	H-⑥
きる	⇒	H-⑦
きれ	⇒	H-⑧
きろ	⇒	H-⑨
くく	⇒	H-⑩
くす	⇒	H-⑪
くの	⇒	H-⑫
くふ	⇒	H-⑬
くむ	⇒	H-⑭
くら	⇒	H-⑮

(土師器・須恵器の一部については未実測。
実物参照要)

表 16 1区・4区土器形式記号対照表

1・4区出土縄文土器観察表 1

押出番号	枝番号	分割名	出土地区 グリッド	遺物名 発掘記名	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第III-6図	1	チ	R	V層	深鉢	口縁-胴部	25.8	29.3~	-	長・角	淡褐色~暗褐色	押引文	ナテ	尾田式	PL-18	6074
第III-7図	1	チ	R	V層-3層(86)	深鉢	口縁-胴部	28.2	20.7~	-	石・登・赤	黒・にぶい黄褐色	条痕(左上) 後具眼による沈線文	条痕(横)	藤C・D式	PL-18	6073
第III-13図	1	イ	6805d	包2層	深鉢	底部	-	1.4~	11.8	長・登・石・滑石	にぶい赤褐色	ナテ、指頭圧痕、横ナテ、クシラ背つい痕?	ナテ	阿高式		6053
第III-13図	2	イ	5896d	S K	深鉢	口縁	(27.4)	4.9~	-	登・角・赤	黄褐色	沈線(横位)、横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、ミガキ(横)	黒色磨研	PL-19	6002
第III-13図	3	イ	5896d	S K	深鉢	口縁	(25.0)	3.9~	-	長・登・角・石・赤	黄褐色	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		6015
第III-13図	4	イ	5696d	耕作溝	深鉢	口縁	(17.2)	6.0~	-	長・登・角・石	黒褐色	条痕(横)、沈線(横位)	条痕(横)	籾式		6022
第III-13図	5	イ	6807b	耕作溝	深鉢	口縁	(13.2)	5.1~	-	長・登・角・石	浅黄	ナテ、指条貼付け突帯	ナテ、条痕(横)	突帯文	PL-19	6068
第III-14図	1	口	6817b	耕作溝	深鉢	口縁	(30.0~40.0)	5.8~	-	長・登・角・石・赤	橙	ナテ後ミガキ	ナテ後ミガキ	黒色磨研、(型式記号J-②)		6025
第III-14図	2	口	6817b	耕作溝	浅鉢	口縁	-	4.0~	-	長・登・角	にぶい黄褐色	ナテ	条痕後ナテ、ナテ	黒色磨研		6028
第III-14図	3	口	6816	耕作溝	深鉢	口縁	-	6.7~	-	長・角・石・赤	にぶい黄褐色、橙	条痕(横)、刺突文	条痕(横)	突帯文	PL-19	6051
第III-15図	1	ニ・ホ	L-4・D-4	耕作溝	深鉢	口縁	不明	3.7~	-	長・登・角・石・赤	袍灰・橙	縄文(R.L.L.)、沈線(横位・縦位)	縄文(R.L.L.)、ナテ(横)	船元式(型式記号J-⑥)	PL-19	6071
第III-15図	2	ニ	D	包3層	深鉢	口縁	-	2.2~	-	長・登・角・石	黒褐色・にぶい赤褐色	縄文(R.L.L.)、刻み	縄文(R.L.L.)	船元式		6052
第III-15図	3	ニ	C-4	耕作溝	浅鉢	口縁	(27.2)	1.5~	-	長・角・石	黒褐色・黄褐色	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		6065
第III-16図	1	ホ	L-4	耕作溝	深鉢	胴部	-	8.6~	-	長・登・赤	にぶい黄褐色	凹線文、縄文、ミガキ(横)	ミガキ(横)	凹線縄文(鐘時式) 最大胴径47.0cm	PL-19	6069
第III-16図	2	ホ	G-3	耕作溝	深鉢	口縁	不能	3.2~	-	長・角・赤	にぶい黄褐色・にぶい橙	沈線(横位)、ナテ	ナテ(横)、ナテ	黒色磨研		6039
第III-16図	3	ホ	G-2	耕作溝	深鉢	底部	-	2.5~	9.0	登・角・石・赤	にぶい黄褐色	ミガキ(横・多方向)	ミガキ(横)、ナテ	黒色磨研		6045
第III-17図	1	ヘ	K-3	包3層	深鉢	胴部	-	4.9~	-	長・角・石	明赤褐色・明黄褐色	条痕後ナテ、刺突烈点文	ナテ、条痕(横)	筒式		6057
第III-17図	2	ヘ	J-1.4・H-4 P-2・K-2	耕作溝	深鉢	口縁	18.3	3.7~	-	長・登・角・石・赤	明黄褐色	節縄文後帯帯	縄文(R.L.L.)	船元式、黒斑 (型式記号J-③)	PL-19	6047
第III-17図	3	ヘ	K-3	36SD	深鉢	口縁	(29.2)	2.6~	-	長・登・角	橙	縄文、沈線	ナテ、条痕後ナテ	船元式(キャリバー)		6060
第III-17図	4	ヘ・ト	H-4・J-3	耕作溝	深鉢	胴部	-	3.8~	-	長・登・角・赤	黒褐色・にぶい橙	縄文(R.L.L.)	条痕後ナテ	船元式		6011
第III-17図	5	ヘ	K-4	38SD	深鉢	口縁	(15.6)	4.2~	-	長・角・石	明赤褐色	ナテ、沈線(波状)、刻み目	ナテ	船元式	PL-20	6055
第III-17図	6	ヘ	H-2	耕作溝	深鉢	口縁	不明	2.2~	-	長・登・角・赤	にぶい橙	沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		6001
第III-17図	7	ヘ	J	包3層	浅鉢	口縁	(27.6)	1.75~	-	長・登・角・石	にぶい黄褐色	沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研(扇井原)		6059
第III-17図	8	ヘ	H-2	包3層	浅鉢	口縁	不明	2.0~	-	長・登・赤	黒褐色	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		6008
第III-18図	1	ト	P-2	包3層・撥水	深鉢	口縁	不明	3.0~	-	長・角・石	黒褐色・にぶい黄褐色	横ナテ、沈線(波状)	横ナテ	船元里木式あたり		6054
第III-18図	2	ト	P-2	耕作溝	深鉢	胴部	-	8.0~	-	長・登・角・石・赤	黒褐色・にぶい黄褐色	縄文(L.R.L.)、貝殻産頂任痕文	横ナテ	船元里木式(岡田)	PL-20	6014
第III-18図	3	ト	J-12	耕作溝	深鉢	口縁	-	4.3~	-	長・登・角・赤	にぶい橙	ナテ、隆帯刻み目文	条痕(横)後ナテ	船元里木式	PL-20	6017
第III-18図	4	ト	Q-1	トレンチ	深鉢	口縁	(38.6)	6.85~	-	長・登・角・赤	灰黄褐色・にぶい黄褐色	凹線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		6061
第III-18図	5	ト	Q-2	包3層	浅鉢	口縁	不明	3.4~	-	長・登・赤	にぶい黄褐色	沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		6062
第III-18図	6	ト	P-2	耕作溝	浅鉢	口縁	(24.0)	2.7~	-	長・角・石	にぶい黄褐色	ミガキ(横)後ナテ、沈線(横位)	ミガキ(横)後ナテ	黒色磨研		6066
第III-19図	1	チ	O-3.8	耕作溝	深鉢	胴部	-	3.6~	-	長・登・角・石	黒褐色	刻み目(刺突烈点文)、条痕(横)	条痕(横)	籾式	PL-20	6037
第III-19図	2	チ	R-2.3	耕作溝	深鉢	口縁	-	4.3~	-	長・角・石	褐色・にぶい黄褐色	ナテ、烈点文	ナテ	陶高式	PL-20	6005
第III-19図	3	チ	R-1.2.3.4	耕作溝	深鉢	口縁・胴部	22.2	13.1~	-	長・登・角・石・赤	明黄褐色・黒	横ナテ、縄文(R.L.L.)	横ナテ、ナテ、指頭圧痕	船元式	PL-20	6049
第III-19図	4	チ	S-3	耕作溝	深鉢	底部	-	3.2~	10.0	長・登・角・石	橙	縄文(R.L.L.)、ナテ	条痕	船元里木式、第III-21図と同一	PL-20	6070
第III-19図	5	チ	R-4	包3層凹下	深鉢	口縁	(39.8)	2.2~	-	長・角・石	黒褐色・にぶい黄褐色	ミガキ(横)、沈線(横位)、細線羽状文	ミガキ(横)	黒色磨研		6021
第III-20図	1	用水路	D	扱水	深鉢	口縁	(30.8)	7.4~	-	長・登・角・赤	にぶい黄褐色・にぶい橙	凹線(羽状)、条痕(横)、ナテ	凹線、ナテ	陶高(南福寺式)	PL-20	6018
第III-20図	2	用水路	O-3.4	扱水	深鉢	胴部	-	8.4~	-	長・角・石	赤褐色	ナテ、沈線、沈線(斜行)	条痕(横)	船元里木式、穿孔	PL-20	6050
第III-20図	3	用水路	J-4	包3層	深鉢	胴部	-	3.4~	-	長・登・角	黒褐色	沈線(横位)、縄文	条痕(横)	船元里木式		6010
第III-20図	4	用水路	E	扱水	浅鉢	口縁	(20.0)	4.4~	-	長・登・角	赤褐色	把手、刻み目(隆帯・波状)、沈線 烈点文、縄文(R.L.L.)	把手、烈点文、条痕(横)後ナテ	唐滑縄文(北久根山)	PL-20	6035
第III-20図	5	用水路	O-3.4	扱水	深鉢	口縁	-	4.7~	-	長・登・角・石・赤	明赤褐色	ナテ、沈線(斜行)、刺突烈点文	ナテ	唐滑(北久根山)	PL-20	6056
第III-20図	6	用水路	P-1	用水路	深鉢	口縁	不明	2.7~	-	長・角・石	黒褐色・にぶい橙	刺突烈点文、押引文	刺突烈点文、押引文	尾田式		6063
第III-20図	7	用水路	6806c	用水路	深鉢	胴部	-	3.2~	-	長・角・石	明赤褐色	ナテ、沈線(横位)	条痕(横)	船元里木式	PL-19	6064
第III-21図	1	用水路	D	扱水	深鉢	胴部	-	6.2~	-	長・登・角・石・赤	黒褐色・橙	沈線(斜行・横位)、ナテ、撥縄文 ミガキ(横)後ミガキ(縦)	ナテ	唐滑縄文		6009
第III-21図	2	用水路	B	扱水	深鉢	口縁	(24.4)	3.8~	-	長・登・角	にぶい黄褐色、灰黄褐色	沈線(斜行・横位)、凹線(横位)、細線羽状文	ミガキ(横)	黒色磨研(扇井原?)		6016
第III-21図	3	用水路	D	扱水	深鉢	頭	-	4.3~	-	長・角・石	にぶい黄褐色	細線羽状文、ナテ、凹点・沈線	ナテ	黒色磨研(三万田~扇井原式)		6032
第III-21図	4	用水路	O-3	用水路	深鉢	口縁	-	2.4~	-	長・登・角・赤	橙	ミガキ(横)、細線羽状文、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		6038
第III-21図	5	用水路	D	扱水	浅鉢	口縁	21.0	5.0	-	長・登・角・赤	にぶい黄褐色	ミガキ(横)、沈線(羽状)	ミガキ(横)	黒色磨研(御領式)	PL-20	6026
第III-21図	6	用水路	6817b.c	用水路	鉢	口縁	(23.0)	2.1~	-	長・登・角	橙・袍灰	ミガキ(横)、沈線(波状)	ミガキ(横)	黒色磨研		6012
第III-21図	7	用水路	5896d	用水路	深鉢	口縁	22.2	3.2~	-	長・登・角・石・赤	袍灰・にぶい橙	ミガキ(横)後ナテ、凹線(横位)	ミガキ(横)、ナテ	黒色磨研		6020
第III-21図	8	用水路	5869a	用水路	深鉢	口縁	(21.6)	6.4~	-	長・登・角	明赤褐色	沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)、ナテ	黒色磨研	PL-19	6024
第III-21図	9	用水路	F-3	扱水	深鉢	口縁	-	3.9~	-	長・登・角・赤	にぶい黄褐色	沈線(横位)、条痕(横)後ナテ	条痕(横)後ナテ	黒色磨研、黒斑		6036

1・4区出土縄文土器観察表 2

図版番号	核 番号	分割名	出土地区 グリッド	遺構名 包含層名	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	外面	内面	備考	写真 実測 番号
第III-21回	10	用水路	5897	扱水	深鉢	口縁	(34.8)	4.7~	-	長・角・石	胡黄褐	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研	6004
第III-21回	11	用水路	0-3.4	扱水	深鉢	口縁	-	5.0~	-	長・髷・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研	6044
第III-21回	12	用水路	6806b	用水路	深鉢	口縁	(29.4)	7.5~	-	長・髷・角・石	浅黄	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研	PL-19 6048
第III-21回	13	用水路	5896a	用水路	浅鉢	口縁	(30.0)	1.9~	-	長・石	黒褐	ミガキ(横)、凹縁(横)	ミガキ(縦)	黒色磨研	6003
第III-21回	14	用水路	D	扱水	浅鉢	口縁	(26.0)	2.4~	-	長・髷・角	黒	ミガキ(横)、沈線(横位)、凹縁・点	ミガキ(横)	黒色磨研(天坂式)	6027
第III-21回	15	用水路	6817b	用水路	浅鉢	口縁	(32.2)	1.8~	-	長・髷・角	灰褐	ミガキ	ミガキ、ナテ(横)	黒色磨研	6029
第III-21回	16	用水路	0-2.3	用水路	浅鉢	口縁	不明	2.2~	-	長・髷・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研	6042
第III-21回	17	用水路	6817b.c	用水路	深鉢	口縁	不明	3.6~	-	髷・角・石	橙	糸痕	縄文、糸痕後ナテ	粗製	6007
第III-21回	18	用水路	0-3.4	扱水	深鉢	口縁・底部	(48.6)	10.5~	6.8	長・髷・角・赤	赤褐	糸痕(横・左上)、縄文(R.L.L.)、ナテ	糸痕(横)(R.L.L.)	磨治縄文	6058
第III-22回	1	用水路	6817b.c	用水路	深鉢	口縁	(27.8)	4.4~	-	長・髷・角	黒褐・にぶい橙	糸痕(横)	ナテ	粗製	6013
第III-22回	2	用水路	0-3.4	扱水	深鉢	口縁	(30.2)	7.5~	-	長・髷・角・石	にぶい黄橙	ナテ(横)、ナテ	ナテ(横)、未調整	粗製	6040
第III-22回	3	用水路	0-3.4	扱水	深鉢	口縁	-	4.3~	-	長・髷・角・赤	橙	糸痕(横)	横ナテ	粗製	6043
第III-22回	4	用水路	6817b	用水路	深鉢	口縁	(30.2)	3.3~	-	長・髷・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、糸痕	ナテ	黒色磨研	PL-19 6006
第III-22回	5	用水路	6817c	用水路	深鉢	口縁	-	2.0~	-	長・髷・角・石・赤	橙・黒褐	ナテ、糸痕	糸痕	黒色磨研(黒川式)	6030
第III-22回	6	用水路	6806c	用水路	深鉢	胴部	-	8.1~	-	長・髷・角・赤	随灰黄	糸痕(横)、ナテ、指条貼付け突帯	ナテ	突帯文	PL-19 6067
第III-22回	7	用水路	D・1	扱水	深鉢	底部	-	4.8~	5.0	角・石・赤	橙・黒褐	ミガキ(多方向)、ヘラナテ、磨減	ミガキ(多方向)	黒色磨研、黒斑	6072
第III-22回	8	用水路	5896d	用水路	深鉢	底部	-	2.1~	6.3	長・髷・角・赤	胡黄褐	ナテ	ナテ	黒色磨研	6034
第III-22回	9	用水路	6827b	用水路	深鉢	底部	-	2.2~	6.3	長・髷・角・赤	胡黄褐・浅黄	ナテ	ナテ	黒色磨研	6033
第III-22回	10	用水路	0-3.4	扱水	浅鉢	底部	-	2.0~	6.0	長・髷・角・赤	灰黄褐	ミガキ(横、円周方向)	ミガキ(多方向)	黒色磨研	6041
第III-22回	11	用水路	5896d	用水路	深鉢	底部	-	3.15~	7.5	長・髷・角・赤	橙	ミガキ(縦)後横ナテ、指ナテ、ナテ	ナテ	黒色磨研、黒斑	6046
第III-22回	12	用水路	5896d	用水路	深鉢	底部	-	3.0~	-	長・角・赤	胡赤褐・橙	ミガキ(横)後ナテ、ナテ	ナテ	黒色磨研、黒斑	6019

2区出土縄文土器観察表 1

図版番号	核 番号	地区 記号	グリッド	遺構名・包含層	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第III-24回	1	リ	5923	扱乱	深鉢	胴部	-	3.9~	-	長・髷・角・石	赤褐	沈線(横位)	ナテ	密燻式		2830
第III-24回	2	リ	5924	急倉形	深鉢	胴部	-	3.8~	-	長・髷・角・石	黒褐・胡黄褐	糸痕(横)後ナテ	糸痕(横)後ナテ	密燻式	PL-20	2810
第III-24回	3	リ	5923d	扱乱	深鉢	胴部	-	3.5~	-	長・髷・角・赤	随赤褐	縄文、凹縁	ナテ	阿高式	PL-20	2833
第III-24回	4	リ	5924	扱乱	深鉢	口縁	(31.6)	3.2~	-	長・髷・角・石	胡赤褐	ナテ、隆帯文	ナテ	船元式	PL-20	2812
第III-24回	5	リ	5924	扱乱	深鉢	胴部	-	3.3~	-	長・髷・角・赤	胡赤褐・黒褐	隆帯文、刺突点	糸痕(横)	船元式	PL-20	2820
第III-24回	6	リ	5924c	扱乱	深鉢	口縁	不明	5.6~	-	長・髷・角・石・赤	胡黄褐	横ナテ、ミガキ(左上)	横ナテ、ミガキ(横)	黒色磨研、黒斑		2677
第III-24回	7	リ	5924d	扱乱	浅鉢	口縁	(46.0)	2.2~	-	長・髷・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線	黒色磨研		2687
第III-24回	8	リ	5924	扱乱	浅鉢	胴部	-	2.6~	-	長・角・石・赤	黒褐	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研、最大胴径(16.2cm)		2707
第III-25回	1	ヌ	5944a.b.c	扱水	深鉢	口縁	(23.6)	6.3~	-	長・髷・角・赤	にぶい橙	ミガキ(多方向)	ミガキ(多方向)			2705
第III-25回	2	ヌ	5934	扱乱	浅鉢	口縁	(27.4)	6.1~	-	長・髷・角・石	橙	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研	PL-21	2821
第III-26回	1	ル	5933a	1145SI	深鉢	胴部	-	4.1~	-	長・髷・角・石	赤褐	縄文、沈線(横位・斜行)	ナテ	密燻式		2807
第III-26回	2	ル	5933c	扱乱	深鉢	胴部	-	3.4~	-	長・髷・角・赤	灰褐・胡赤褐	ナテ、沈線(横位・斜行)	糸痕(横)	密燻式		2816
第III-26回	3	ル	5933a.b	1147SI	深鉢	口縁	不明	4.9~	-	長・髷・角	胡赤褐	沈線(横位)、隆帯(キザミ目)、糸痕(横)	糸痕(横)	船元式	PL-21	2825
第III-26回	4	ル	5933a	扱乱	深鉢	胴部	-	3.7~	-	長・髷・角・赤	灰黄褐・にぶい黄橙	縄文	糸痕(横)後ナテ	船元式		2834
第III-26回	5	ル	5933	扱乱	深鉢	口縁	(22.8)	3.0~	-	長・角・石	黒褐・赤褐	縄文、沈線(横位)、ナテ	糸痕(横)後ナテ、ミガキ(横)	船元式		2800
第III-26回	6	ル	5943d	急2b層	浅鉢	胴部	-	5.6~	-	長・髷・角・石	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)、縄文(L.R)	ミガキ(横)	磨治縄文(北久根山式)	PL-21	2836
第III-26回	7	ル	5943	扱乱	深鉢	口縁	(30~40)	3.5~	-	長・髷・角・赤	黒褐	ミガキ(横)、凹縁(横)	ミガキ(横)	黒色磨研(御願式)		2680
第III-26回	8	ル	5993a・5934a	1170SK	深鉢	口縁	(50.0)	3.4~	-	長・髷・角・石・赤	胡褐	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研、黒斑		2676
第III-26回	9	ル	5933	1145SI	深鉢	口縁	(17.6)	4.2~	-	長・髷・角・赤	にぶい橙	沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		2684
第III-26回	10	ル	5943c	扱水	深鉢	口縁	不明	4.5~	-	長・髷・角	にぶい橙	ナテ、糸痕(横)	ナテ、糸痕(横)後ミガキ(横)	粗製		2688
第III-26回	11	ル	5943c	扱乱	深鉢	口縁	(25.0)	3.4~	-	長・髷・角・石・赤	にぶい黄・黒	ナテ	糸痕(横)	粗製		2686
第III-27回	1	ヲ	5963b	急2b層	深鉢	口縁	(34.0)	2.2~	-	長・髷・角	随灰	ナテ、刺突点	ナテ、刺突点文、沈線(横位)	密燻式		2727
第III-27回	2	ヲ	5953a	急倉形	深鉢	胴部	-	7.4~	-	長・髷・角・石	橙・にぶい黄橙	沈線(横位・斜行・縦位)	ナテ	密燻式 *注意	PL-21	2759
第III-27回	3	ヲ	5962b	173SI	深鉢	底部	-	2.9~	10.6	長・髷・角	胡赤褐	指ナテ庄痕	ナテ(横)	阿高式		2698
第III-27回	4	ヲ	5963b	急2b層	深鉢	口縁	(29.6)	4.3~	-	長・髷・角・石	橙	糸痕(横)後ナテ、ナテ、沈線	ナテ	船元式、波状口縁		2739
第III-27回	5	ヲ	5963c	129SI	深鉢	口縁	(22.0)	3.9~	-	長・髷・角・石・赤	黒褐・にぶい黄橙	隆帯、沈線(縦)、糸痕(横)後ナテ	隆帯、糸痕(横)後ナテ	北久根山式	PL-21	2754
第III-27回	6	ヲ	5962b	1178SI	深鉢	口縁	(18.8)	3.3~	-	長・髷・角・石・赤	胡赤褐・にぶい黄橙	B)隆帯、縄文(L.R.R.)、刺突点 A) 磨目、縄文(L.R.R.)、刺突点	糸痕(横)	北久根山式	PL-21	2736 2736
第III-27回	7	ヲ	5962	1172・1173SI	深鉢	口縁	-	3.5~	-	長・角・石・赤	胡褐・黒褐	ナテ、沈線(斜行)、隆帯、縄文(L.R.R)	ナテ	北久根山式	PL-21	2721
第III-27回	8	ヲ	5952a	扱乱	深鉢	胴部	-	4.7~	-	長・髷・角・石・赤	胡黄褐	沈線(縦位)付隆帯、横ナテ	横ナテ	北久根山式	PL-21	2805

2 区出土縄文土器観察表 2

押出番号	枝番号	地区配号	グリッド	遺構名・包含層	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号	
第III-27回	9	ヲ	5952a	1179SI	深鉢	口縁	(21.6)	4.8~	-	長・壺・角・石・赤	にぶい黄橙	沈線 (縦位) 付隆帯、ミガキ (縦)	条痕 (横) 後ナテ	北久根山	PL-21	2728	
第III-27回	10	ヲ	5962b.c	1208SI	浅鉢	口縁	(17.2)	2.8~	-	長・壺・角	黄橙	縄文 (R.L.L.)、ミガキ (横)	帯消縄文、一部縄文			2762	
第III-27回	11	ヲ	5962b	1105SI	深鉢	胴部	-	6.2~	-	長・壺・角・赤	橙	沈線 (横位・縦位)、ミガキ (横) 帯消縄文 (L,R,R)	ミガキ (横・多方向)	PL-21	2840		
第III-27回	12	ヲ	5952a	扱乱	深鉢	胴部	-	2.7~	-	長・壺・角・石	にぶい黄橙	縄文 (R.L.L.)、烈点文、沈線 (横位)	ナテ、ミガキ (横)			2750	
第III-27回	13	ヲ	5962b	1205SI	深鉢	胴部	-	3.1~	-	長・壺・角・赤	灰黄橙・明黄橙	沈線 (横位)、凹点、(R.L.L)	ナテ			2730	
第III-27回	14	ヲ	5962c.d・5972a	153SI	深鉢	口縁	(46.0)	7.7~	-	長・壺・角・石・赤	にぶい黄橙	ナテ、条痕 (横)	条痕 (横) 後ナテ	PL-21	2713		
第III-28回	1	ヲ	5961d	1176SI	深鉢	口縁	(40.0)	3.7~	-	長・壺・赤	黒	ミガキ (横)	ミガキ (横)			2760	
第III-28回	2	ヲ	5952d	1096SI	深鉢	口縁	(25.6)	4.6~	-	長・壺・角・赤	橙	ミガキ (横)、凹線 (横位)	ミガキ (横)			2760	
第III-28回	3	ヲ	5962b	1205SI	深鉢	口縁	(31.2)	5.2~	-	長・壺・角	褐灰	条痕 (横) 後ナテ、沈線 (横位) ミガキ (横) 後ナテ	ミガキ (横)、条痕 (横) 後ナテ			2740	
第III-28回	4	ヲ	5962c	123SI	深鉢	口縁	(23.2)	3.7~	-	長・壺・角・赤	灰黄橙	ミガキ (横)	ミガキ (横)			2685	
第III-28回	5	ヲ	5952b.c	1105SI・包	深鉢	口縁	(20.6)	7.2~	-	長・角・赤	黒	ミガキ (横)	ミガキ (横)			2658	
第III-28回	6	ヲ	5962b・5953c・5963b	123SI・1190SI	深鉢	口縁	(37.6)	4.6~	-	長・壺・角	黒・にぶい黄橙	ミガキ (横)	ミガキ (横)			2722	
第III-28回	7	ヲ	5953b	1119SI	深鉢	口縁	不明	4.3~	-	長・壺・角・石	橙	横ナテ、ミガキ (横・縦)	ミガキ (横)			2792	
第III-28回	8	ヲ	5952c	1186SI	深鉢	口縁	(26.8)	4.4~	-	長・角・赤	明黄橙	条痕 (横) 後ナテ (横)・ミガキ (横)	条痕 (横) 後ナテ (横)・ミガキ (横)			2608	
第III-28回	9	ヲ	5963b	1094SI	深鉢	口縁	(26.0)	3.8~	-	長・壺・角・赤	黒褐、灰黄橙	条痕 (横)	ナテ後ミガキ (横)			2712	
第III-28回	10	ヲ	5962d	123SI	深鉢	口縁	(26.0)	5.4~	-	長・壺・角・石・赤	明赤橙	条痕後ナテ	条痕 (横) 後ナテ			2724	
第III-28回	11	ヲ	5962b	1204SI	深鉢	胴部	-	14.7~	-	長・壺・角・赤	橙	ミガキ (多方向)	ミガキ (多方向)			2758	
第III-28回	12	ヲ	5952c	1206SI・包含層	深鉢	口縁	不明	6.4~	-	長・壺・角・赤	黒褐、にぶい赤褐	ミガキ (横)、沈線 (横位)、ナテ	ナテ			2660	
第III-28回	13	ヲ	5952c.d	1206SI・扱乱	深鉢	口縁	(18.2)	8.3~	-	長・壺・角・石	黒・明赤橙	横ナテ、沈線 (横位)、ナテ	横ナテ、ナテ		PL-21	2654	
第III-29回	1	ヲ	5961	1176SI	深鉢	底部	-	1.8~	(6.0)	長・壺・角・赤	橙・黒褐	ナテ、ナテ	ナテ			2664	
第III-29回	2	ヲ	5953b	扱乱	深鉢	底部	-	1.6~	5.6	長・壺・角	橙・にぶい黄橙	ナテ、剥離痕	ナテ			2813	
第III-29回	3	ヲ	5962c	1211SI	深鉢	底部	-	3.1~	8.8	長・壺・角	明黄橙	条痕 (横)・横ナテ、ナテ (一定方向)	条痕 (横) 後ナテ			2689	
第III-29回	4	ヲ	5962b	1105SI	深鉢	底部	-	1.1~	5.8	長・壺・角・石	橙	横ナテ、沈線、ナテ (一定方向)	ナテ			2690	
第III-29回	5	ヲ	5953b	扱乱	浅鉢	口縁	(26.4)	5.0~	-	長・壺・角・赤	暗褐	凹線 (横位)、磨滅	磨滅			2601	
第III-29回	6	ヲ	5962b	1178SI	浅鉢	口縁	(19.4)	4.6~	-	長・壺・角・赤	黒・褐灰	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)			2682	
第III-29回	7	ヲ	5952d	包2b層	浅鉢	口縁	(40.0)	3.3~	-	角・石・赤	明黄橙	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)			2620	
第III-29回	8	ヲ	5952d	包2b層	浅鉢	口縁	(25.2)	3.0~	-	長・壺・角・赤	黒褐	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)			2607	
第III-29回	9	ヲ	5962d	123SI	浅鉢	口縁	(38.0)	3.8~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)			2695	
第III-29回	10	ヲ	5953c	1096SI	浅鉢	胴部	-	2.7~	-	長・壺・角・石・赤	褐灰	ミガキ (横)、ミガキ (横)	ナテ、ミガキ (横)			2791	
第III-29回	11	ヲ	5953a	包含層	浅鉢	胴部	-	5.1~	-	壺・角・赤	灰黄橙・明黄橙	条痕 (横) 後ナテ	ミガキ (縦・横)			2775	
第III-29回	12	ヲ	5962a	129SI	浅鉢	口縁	13.6	5.4~	-	長・壺・角	黒褐	ミガキ (横・縦)	ミガキ (横)、ナテ	黒色磨研 (黒川式) 最大胴径13.9cm [6ヶ所突起で2ヶ所穿孔]	PL-21	2829 2829	
第III-29回	13	ヲ	5962b	1172SI	浅鉢	口縁	(29.6)	3.4~	-	長・壺・角	黒	ミガキ (横)	ミガキ (横)、沈線 (横位)			2731	
第III-29回	14	ヲ	5962b	1195SI	浅鉢	口縁	13.0	0.7~	-	長・壺・角	明黄橙	横ナテ、沈線 (横位)	横ナテ、沈線 (横位)			2746	
第III-29回	15	ヲ	5952a	1179SI	浅鉢	口縁	(25.0)	2.75~	-	長・壺・角・石	にぶい黄橙	ナテ、沈線	ナテ			2603	
第III-29回	16	ヲ	5952d	扱乱	浅鉢	口縁	(22.8)	4.8~	-	長・壺・角・石	褐灰	ミガキ (横)	ミガキ (横)			2757	
第III-29回	17	ヲ	5953b	包含層	浅鉢	底部	-	3.1~	5.0	長・壺・角・赤	黒	ミガキ (横)	ミガキ (横)			2717	
第III-30回	1	ヲ	5962a	1105SI	深鉢	口縁	(30.0~40.0)	5.6~	-	長・壺・角・石・赤	にぶい黄橙	縄文後ナテ、ナテ	ナテ、条痕 (横) 後ナテ			2732	
第III-30回	2	ヲ	5961d	1194SI	深鉢	口縁	(39.8)	5.0~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙・オリーフ黒	条痕 (縦)	粗製			2706	
第III-30回	3	ヲ	5961	1175SI	深鉢	口縁	(29.0)	6.9~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	条痕 (左上) 後ヘラナテ	条痕 (横) 後ナテ			2704	
第III-30回	4	ヲ	5952a	扱乱	深鉢	口縁	(30.0)	4.1~	-	長・壺・角	にぶい黄橙・にぶい黄橙	条痕 (横)、条痕 (横) 後ナテ	条痕 (横) 後ナテ			2618	
第III-30回	5	ヲ	5962b	1195SI	深鉢	口縁	40.0	5.2~	-	長・壺・角・石・赤	にぶい黄橙	ナテ (横)、ヘラケズリ (横)	ナテ、条痕 (横)、条痕 (横) 後ナテ			2729	
第III-30回	6	ヲ	5963d	129SI	深鉢	口縁	不明	4.0~	-	長・壺・角・石	暗灰黄・黒褐	条痕 (横)	条痕 (横)			2693	
第III-30回	7	ヲ	5952d・5962c	1105SI	深鉢	底部	-	2.7~	5.6	長・壺・角・石・赤	橙・にぶい黄橙	ナテ、横ナテ	ナテ			2615	
第III-30回	8	ヲ	5963b・5964b 5953b.c・5962a	129・1190・包含層 1099・1095・1186SI	浅鉢	口縁・胴部	24.8	9.0~	-	長・壺・角・赤	橙	ナテ、網目組織痕	ミガキ (横)、ナテ	粗製痕、黒斑 S=1/3で掲載			2848
第III-31回	1	ワ	5954	扱乱	深鉢	口縁	-	4.9~	-	長・角・石・滑石	明赤橙・黒褐	凹線文 (右上)、棒状工具による圧痕	指ナテ (右上)		PL-21	2738	
第III-31回	2	ワ	5954b	扱乱	深鉢	胴部	-	3.6~	-	長・壺・石・滑石	黒	凹線 (縦)	ナテ		PL-21	2756	
第III-31回	3	ワ	5954c.b・5964b	1103SI	浅鉢	口縁	(34.0)	4.3~	-	長・壺・角・赤	黄	沈線 (横位)、ミガキ (横)	沈線 (横位)、ミガキ (横)			2683	
第III-31回	4	ワ	5954d	扱乱	浅鉢	口縁	(20.0)	2.1~	-	長・壺・角・赤・滑石	明赤橙	横ナテ、隆帯	条痕 (横)		PL-21	2744	
第III-31回	5	ワ	5954c	扱乱	深鉢	口縁	(28.0)	3.4~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横位)			2651	
第III-31回	6	ワ	5954	扱乱	深鉢	口縁	(16.0)	2.6~	-	長・壺・角・赤	黒	ナテ (横)、条痕 (横)	ナテ (横)			2665	
第III-31回	7	ワ	5954b	扱乱・扱水・包含層	深鉢	底部	-	3.5~	15.4	長・壺・角・石・赤	にぶい黄橙	条痕 (左上) 後ミガキ (横)、	ナテ			2823	

2区出土縄文土器観察表3

挿図番号	枚 番号	地区 記号	グリッド	遺構名・包含層	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第III-32回	1	カ	5972a	トレンチ	深鉢	胴部	-	2.6~	-	長・雲・角・赤	黒褐・明褐	ナテ、沈線(金屑付文)	糸痕(多方向)後ナテ	罎畑式	PL-22	2819
第III-32回	2	カ	5972a	包2a層	深鉢	胴部	-	3.4~	-	長・雲・角・赤	明赤褐	縄文(R.L.L.)	ナテ	船元式	PL-22	2818
第III-32回	3	カ	5972c	包3a層	深鉢	口縁	(23.6)	2.4~	-	長・雲・角・赤	相灰・にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線、縄文(L.R)	ミガキ(横)	北久横山式		2835
第III-32回	4	カ	5982d	包3a層	深鉢	口縁	(32.0)	2.8~	-	長・雲・角・赤	黒・オリーブ黒	ミガキ(横)、沈線(波状)	ミガキ(横)	黒色磨研(御領式)、剥離痕	PL-22	2714
第III-32回	5	カ	5972a	113SI	深鉢	口縁	(21.6)	2.9~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、凹線(横)	ミガキ(横)	黒色磨研(御領式)		2653
第III-32回	6	カ	5982b	132SI	深鉢	口縁	-	2.5~	-	長・雲・角・石	にぶい黄橙	細線羽状文、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		2726
第III-32回	7	カ	5983a	包2b層	深鉢	口縁	(37.0)	2.5~	-	長・雲・角・赤	黒褐	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2679
第III-32回	8	カ	5982a	132SI	深鉢	口縁	(24.0)	3.2~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、ナテ	黒色磨研		2702
第III-32回	9	カ	5982d	包急層	深鉢	口縁	(30.0)	3.3~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ後ミガキ(横)、沈線(横位)	ナテ後ミガキ(横)	黒色磨研(天塚式)、剥離痕		2701
第III-32回	10	カ	5972d	132SI	深鉢	口縁	(20.0)	4.9~	-	長・雲・角・石	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研	PL-22	2641
第III-32回	11	カ	5982	扱水	深鉢	口縁	(40.0)	7.6~	-	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙・にぶい褐	ナテ(横)後沈線(横位)、ナテ	糸痕(横)後ナテ・ミガキ(横)	黒色磨研(古間式)	PL-22	2700
第III-32回	12	カ	5972a	113SI	深鉢	口縁	(14.8)	5.6~	-	長・角・石・赤	明褐・暗灰黄	ナテ、ミガキ(多方向)	ナテ、ミガキ(横)	黒色磨研		2627
第III-32回	13	カ	5982d	234SI	深鉢	胴部	-	7.6~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(縦後横)	ミガキ(横)	黒色磨研、剥離痕		2711
第III-32回	14	カ	5972	132SI	深鉢	底部	-	2.8~	5.0	長・雲・角・赤	橙	ナテ後ミガキ(縦)	指ナテ	黒色磨研、黒斑		2661
第III-32回	15	カ	5983c	275SI	深鉢	底部	-	1.9~	6.0	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、ナテ(横)	ナテ	黒色磨研		2613
第III-32回	16	カ	5982d	包2b層	深鉢	底部	-	2.3~	10.0	長・雲・角・石	にぶい黄橙	糸調整、ナテ	ナテ	黒色磨研		2699
第III-32回	17	カ	5972a.c・5973b	159・105SI	浅鉢	胴部	(35.6)	2.2~	-	長・雲・角・石	にぶい黄橙	ミガキ(横)、凹線(横)	ミガキ(横)	黒色磨研(御領式)		2645
第III-32回	18	カ	5972a・6902	113・190SI	浅鉢	口縁~胴部	(20.4)	5.6~	-	長・雲・角・赤	黒褐	沈線(横位)、細線羽状文、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研	PL-22	2671
第III-33回	1	カ	5982d	224SI	浅鉢	口縁	(14.0)	3.5~	-	長・雲・角	黒褐	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2769
第III-33回	2	カ	5982b	包2b層	浅鉢	口縁	(28.0)	2.5~	-	長・角・石・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2720
第III-33回	3	カ	5972b	124SI	浅鉢	口縁	(19.8)	3.2~	-	長・雲	黒	ミガキ(横)、沈線	ミガキ(横)	黒色磨研		2634
第III-33回	4	カ	5972b・5962c	1175・1176SI	浅鉢	口縁	(17.4)	2.7~	-	長・雲・角	黒褐	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2648
第III-33回	5	カ	5972d	包3a層	浅鉢	口縁	(23.4)	3.2~	-	長・雲・角・石	灰灰・にぶい黄	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2669
第III-33回	6	カ	5982d	224SI	浅鉢	口縁	(29.6)	2.6~	-	長・雲・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研		2696
第III-33回	7	カ	5972d	扱水	浅鉢	口縁	(14.8)	1.5~	-	長・雲	にぶい黄橙	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		2633
第III-33回	8	カ	5972d	132SI	浅鉢	口縁	(14.0)	2.3~	-	長・雲・角・石	黒	ミガキ(横)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研		2718
第III-33回	9	カ	5972b	113SI	浅鉢	口縁	(45.0)	3.8~	-	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研		2709
第III-33回	10	カ	5972a	124SI	浅鉢	口縁	(19.0)	3.4~	-	長・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研(古間式)		2640
第III-33回	11	カ	5982b	包2b層	浅鉢	口縁	(40.0)	3.2~	-	長・雲・角	灰黄褐・黒	糸痕(横)後ミガキ(横)、ミガキ(横) 沈線(横位)	糸痕(横)後ミガキ(横)	黒色磨研(黒川式)	PL-22	2703
第III-33回	12	カ	5972a	113SI	浅鉢	口縁	(21.0)	2.0~	-	長・雲・石・赤	黒褐	ミガキ(横)	ミガキ(横)、沈線(横位)、磨減	黒色磨研		2667
第III-33回	13	カ	5972d・a	134SX・113SI	浅鉢	口縁	(16.0)	2.2~	-	長・雲・角	黒	ミガキ(横)後ナテ、凹点、横ナテ、沈線(横位)	横ナテ、ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研	PL-22	2694
第III-33回	14	カ	5971a	1191SI	浅鉢	口縁	不明	5.4~	-	長・雲・角・赤	相灰	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研		2691
第III-33回	15	カ	5972a	124SI	浅鉢	口縁	(17.8)	3.1~	-	長・雲・角・赤	黒・橙	ミガキ(横)	沈線(横位)、ミガキ(横)	黒色磨研		2710
第III-33回	16	カ	5983	268SI	浅鉢	口縁	(10.0)	5.2~	-	長・雲・角・石	にぶい黄橙・明赤褐	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研	PL-22	2678
第III-33回	17	カ	5982b	234SI	浅鉢	口縁	-	5.1~	-	長・雲・角・赤	黒褐	凹線(横)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研(御領式)		2725
第III-33回	18	カ	5983	126SI	浅鉢	底部	-	1.5~	4.4	長・雲・角・赤	にぶい黄橙・相灰	ミガキ(横、右上、縦)	ミガキ(横)	黒色磨研		2675
第III-33回	19	カ	5972a・5982b 5962b・6902	132・113・123SI 212SI・138SX	深鉢	口縁~胴部	26.0	9.4~	-	雲・角・石・赤	にぶい黄橙	端部 縄文(L,R,R)、糸痕(横)	糸痕(横)	黒色磨研、S=1/3で掲載 母大胴径38.5cm		2837
第III-34回	1	カ	5973d・5963・5983 5972・5962	127・122・129・132SI 113・123・162SI・包含層	深鉢	口縁	(40.0)	7.8~	-	長・雲・角・石・赤	橙	糸痕(横)	ナテ(横)	相製		2723 2723
第III-34回	2	カ	5972d	132SI	深鉢	口縁	(35.0)	5.5~	-	長・雲・角	黒	糸痕(横)、ナテ	ナテ	相製		2681
第III-34回	3	カ	5972	126SI	深鉢	口縁	(42.0)	5.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙・黄灰	糸痕(横)	糸痕(横)	相製、焼成後穿孔		2663
第III-34回	4	カ	5982	1211SI	深鉢	口縁	(34.0)	4.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	糸痕(横)	糸痕(横)後ナテ	相製		2719
第III-34回	5	カ	5972b	124SI	深鉢	口縁	測定不能	2.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	糸痕(横)、ナテ(横)	糸痕(横)	相製		2628
第III-34回	6	カ	5972a	124SI	深鉢	口縁	不明	4.0~	-	長・角・赤	黒褐	糸痕(横)	糸痕(横)	相製		2654
第III-34回	7	カ	5972b	132SI	深鉢	口縁	(22.0)	2.5~	-	長・雲・角・石	にぶい黄橙	糸痕(横)、横ナテ	糸痕(横)	相製		2616
第III-34回	8	カ	5982a	扱水	深鉢	口縁	(30.0~40.0)	9.1~	-	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙・黒褐	糸痕(横)	糸痕(横)	相製		2822
第III-34回	9	カ	5982d	224SI	深鉢	口縁	(30.0)	3.5~	-	長・雲・角・石	黒褐・にぶい黄橙	ナテ、糸痕(横)後ナテ	ナテ、糸痕(横)	相製		2733
第III-34回	10	カ	5972d・5973a・5982b	134SX	深鉢	胴部	-	6.8~	-	長・雲・石	橙・黒褐	ナテ、へらによる圧痕	ミガキ(横)	相製		2761
第III-34回	11	カ	5983c	275SI	深鉢	底部	-	2.6~	9.8	長・雲・角・石・赤	橙	ナテ(横)、ナテ	ナテ	相製		2655
第III-34回	12	カ	5972a	113SI	深鉢	底部	-	1.1~	10.4	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、ナテ	ミガキ(横)	相製		2670
第III-34回	13	カ	5972	132SI	深鉢	底部	-	3.8~	8.4	長・角・赤	橙	ナテ、糸痕(縦)	ナテ、指頭圧痕	相製		2662
第III-35回	1	ヨ	6901a・6902b・5983c	218SX・205SI	深鉢	胴部	-	17.0~	-	長・雲・角・石・赤	黒・明黄褐	沈線(平行)、剥点文、糸痕(縦)後ナテ	沈線(横)後ナテ	罎畑式	PL-22	2796
第III-35回	2	ヨ	6902d	包2層	深鉢	胴部	-	3.3~	-	長・雲・角・赤	にぶい赤褐	沈線(横位)	糸痕(横)後ナテ	罎畑式		2802

2区出土縄文土器観察表 4

検出番号	枝 番号	地区 記号	グリッド	遺構名・包含層	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第III-35図	3	ヨ	5992	包トレンチ	深鉢	胴部	-	2.2~	-	長・角・石	橙	ナテ、沈線	ナテ	窑焼式		2811
第III-35図	4	ヨ	5992c	220SI	深鉢	胴部	-	2.5~	-	長・角	黒・にぶい黄橙	ナテ、沈線	糸痕(横)			2817
第III-35図	5	ヨ	5992b	216SI	深鉢	胴部	-	3.5~	-	長・雲・角・石	橙	ナテ、沈線(縦位)、沈線(横位)	ナテ	窑焼式		2646
第III-35図	6	ヨ	6902d	包2b層	深鉢	口縁	-	4.5~	-	長・雲・角・石	にぶい黄橙・橙	ナテ、縄文(R.L.L)	ナテ、縄文(R.L.L)	船元式	PL-23	2784
第III-35図	7	ヨ	5992a・d	221SI	深鉢	口縁	-	4.2~	-	長・角・石・赤	橙	糸痕(左上)、ミガキ(横)、沈線	ミガキ(横)	北久根山式	PL-23	2774
第III-35図	8	ヨ	6902b	218SX	深鉢	胴部	-	3.4~	-	長・雲・角・赤	暗赤褐	貝殻粉連続波状圧痕文(縦)	横ナテ、ナテ	船元式		2803
第III-35図	9	ヨ	5992b	包2b層	深鉢	胴部	-	4.4~	-	長・雲・角	灰褐・黒褐	縄文(R.L.L)	糸痕(横)後ナテ	船元式		2776
第III-35図	10	ヨ	5992b	221SI	深鉢	胴部	-	4.3~	-	長・雲・角・石・赤	黒	ミガキ(横)、沈線(横)、列点文、瓜形刺突文、縄文(R.L.L)	ミガキ(横)	唐滑縄文(両平式)	PL-22	2650
第III-35図	11	ヨ	6902d	包1層	深鉢	口縁	(23.6)	3.0~	-	長・雲・角	にぶい黄橙 灰黄橙	ナテ(横)、沈線、ミガキ後沈線(波状・横)	ミガキ(横)	黒色磨研、黒斑		2605
第III-35図	12	ヨ	6902c	1040SI	深鉢	口縁	(25.2)	2.35~	-	長・雲・角・石	にぶい橙	ミガキ(横)、沈線	ミガキ(横)	黒色磨研		2600
第III-35図	13	ヨ	6902a・6912・6901a	1028SK・207SI	深鉢	口縁	(31.4)	11.7~	-	長・雲・角・石	灰褐・黒	ミガキ(縦・横)、沈線(横位)、細線羽状文	ミガキ(縦・横)、ナテ	黒色磨研	PL-23	2548
第III-35図	14	ヨ	6902d	190SI	深鉢	口縁	(42.0)	2.7~	-	長・雲・角・赤	黒	ミガキ(横)、沈線(横位)、細線羽状文	ミガキ(横)	黒色磨研		2559
第III-35図	15	ヨ	6902	213SI	深鉢	口縁	(21.0)	4.1~	-	長・雲・角・赤	黒	沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		2624
第III-35図	16	ヨ	5992c	235SI	深鉢	口縁	(28.2)	4.4~	-	長・角・赤	黒・にぶい黄橙	ナテ、沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)、ナテ	黒色磨研、黒斑		2626
第III-35図	17	ヨ	5922c	235SI	深鉢	口縁	(46.0)	5.9~	-	長・雲・角・石	黒	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2644
第III-35図	18	ヨ	6903	1019SI	深鉢	口縁	(21.8)	5.6~	-	長・雲・角・赤	黒褐・暗灰黄	糸痕(横)後ミガキ(横)	糸痕(横)後ナテ	黒色磨研		2629
第III-35図	19	ヨ	6902	212SI	深鉢	口縁	(34.1)	5.5~	-	長・雲・角・赤	橙	ミガキ(横)、糸痕(横)後ミガキ	ミガキ(横)、糸痕(横)後ミガキ、沈線	黒色磨研		2659
第III-36図	1	ヨ	5992c	221SI	深鉢	口縁	(34.4)	5.1~	-	長・雲・角・石・赤	明黄褐・黄灰	糸痕(横)、糸痕(横)後ナテ	ミガキ(横)	黒色磨研		2647
第III-36図	2	ヨ	6902d	213SI	深鉢	口縁	(28.6)	3.7~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙	糸痕(横)、ミガキ(横)	横ナテ	黒色磨研		2593
第III-36図	3	ヨ	6902	担丸	深鉢	口縁	(18.2)	7.3~	-	長・角・石	明赤褐・黒	ミガキ(横)、明赤褐・黒	ミガキ(横)	黒色磨研、S=1/3で指乾	PL-22	2610
第III-36図	4	ヨ	6902	190SI	深鉢	口縁	(28.0)	7.4~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(多方向)	ナテ、ミガキ(多方向)、沈線(横位)	黒色磨研、S=1/3で指乾		2828
第III-36図	5	ヨ	6902d	190SI	深鉢	口縁	(21.6)	5.9~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)、沈線	黒色磨研、S=1/3で指乾		2547
第III-36図	6	ヨ	6902d.c	190SI	深鉢	口縁	(24.2)	5.0~	-	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、沈線(横位)、ミガキ(横)	黒色磨研、S=1/3で指乾		2528
第III-36図	7	ヨ	6902a	212SI・1027SK	深鉢	口縁	(25.2)	9.3~	-	長・角・石・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、横ナテ	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研、S=1/3で指乾		2588
第III-36図	8	ヨ	5992	232SI	深鉢	口縁	(30.0)	6.3~	-	長・雲・角・赤	黒褐	ミガキ(多方向)	ミガキ(多方向)	黒色磨研、S=1/3で指乾		2638
第III-36図	9	ヨ	6902c・5952c・6901d	213・1206SI	深鉢	口縁、同	27.2	15.8	-	長・雲・角・石・赤	黒・にぶい黄橙	ミガキ(横)、ミガキ(横)後ミガキ(縦)	ミガキ(横)風、ナテ	黒色磨研、S=1/3で指乾		2844
第III-37図	1	ヨ	5992b	232SI	深鉢	胴部	-	10.5~	-	長・雲・角・石・赤	灰褐	ミガキ(多方向)	ミガキ(横)	黒色磨研		2666
第III-37図	2	ヨ	5992b・5982d	221SI	深鉢	口縁	(51.4)	5.5~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	糸痕(横)後ミガキ	糸痕(横)後ナテ、ナテ	黒色磨研		2632
第III-38図	1	ヨ	6902a	213SI	深鉢	底部	-	3.9~	6.4	長・雲・角・石	にぶい黄橙	ミガキ(縦)、ナテ	ナテ	黒色磨研、スス付		2590
第III-38図	2	ヨ	6902d	212SI	深鉢	底部	-	3.3~	4.8	長・角・石・赤	明黄褐	ミガキ(縦)	ミガキ(縦・横)、指頭圧痕	黒色磨研		2589
第III-38図	3	ヨ	6902a	212SI	深鉢	底部	-	2.8~	8.6	長・雲・角・石	橙・浅黄	ミガキ(横・右上・多方向)、未調整	横ナテ、指頭圧痕	黒色磨研		2542
第III-38図	4	ヨ	5992c	210SI	深鉢	底部	-	3.1~	7.6	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙・暗灰	ミガキ(横)、ナテ	ナテ	粗製		2621
第III-38図	5	ヨ	6902d	190SI	深鉢	底部	-	2.1~	7.6	長・雲・角・赤	黒褐・にぶい橙	ミガキ(縦・横)、ナテ	ミガキ(右上)	黒色磨研		2552
第III-38図	6	ヨ	5992b・5991a	221SI	深鉢	底部	-	1.5~	8.0	長・雲・角・石・赤	橙・黄灰	ミガキ(縦・一定方向)、ナテ	ナテ	黒色磨研		2642
第III-38図	7	ヨ	6902d.a	212SI	深鉢	底部	-	4.3~	12.8	長・雲・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	ミガキ風(多方向)	粗製		2581
第III-38図	8	ヨ	6902c・6912b	190SI	浅鉢	口縁	(24.2)	4.9~	-	長・雲・角	黒褐	ミガキ(横)、沈線(横位)、細線羽状文	ミガキ(横)、沈線(横位)、暗文	黒色磨研	PL-22	2574
第III-39図	1	ヨ	5992b	221SI	浅鉢	口縁	(29.8)	2.9~	-	長・雲・角・赤	黒褐	沈線(横位)、ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研(部錆式)		2688
第III-39図	2	ヨ	6902b	212SI	浅鉢	口縁	(30.2)	3.9~	-	長・雲・角	浅黄	横ナテ、沈線(横位)、ミガキ(横)	横ナテ、ミガキ(横)	黒色磨研、黒斑		2532
第III-39図	3	ヨ	6903b	286SI	浅鉢	口縁	(17.8)	1.6~	-	長・雲・角・赤	黒	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2606
第III-39図	4	ヨ	5993b	包2b層	浅鉢	口縁	(27.4)	3.2~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)、沈線(横位)、凹点	ミガキ(横)	黒色磨研		2611
第III-39図	5	ヨ	5992d・6902a	包2b層	浅鉢	口縁	(42.0)	6.2~	-	長・雲・角	黒褐	ミガキ(横)、横ナテ、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2619
第III-39図	6	ヨ	5992c	210SI	浅鉢	口縁	(21.6)	3.3~	-	長・雲・角・石・赤	橙	横ナテ後ミガキ(横)、沈線(横位)	横ナテ、沈線(横位)	黒色磨研		2630
第III-39図	7	ヨ	5992d・5982d	1022・224SI	浅鉢	口縁	(36.0)	8.1~	-	長・角・石	橙・にぶい黄橙	ナテ、ミガキ(横)	ミガキ(横)、沈線(横位)	黒色磨研	PL-23	2708
第III-39図	8	ヨ	6902a	226S K・212SI	浅鉢	口縁	(26.0)	3.5~	-	長・雲・角・赤	黒	ミガキ(横)、剥離痕	ミガキ(横)	黒色磨研、凹点あり		2561
第III-39図	9	ヨ	6902c.d	161SI・190SI	浅鉢	口縁	(17.6)	3.5~	-	長・角・石・赤	橙	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		2591
第III-39図	10	ヨ	5993c	包2b層	浅鉢	口縁	(25.2)	3.6~	-	長・角・赤	黒	沈線(横位)、ミガキ(横)	沈線(横位)、ミガキ(横)	黒色磨研、黒斑、波状口縁		2636
第III-39図	11	ヨ	6903c	包2b層	浅鉢	口縁	(22.0)	2.1~	-	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙	ナテ、ミガキ(横)	沈線、ミガキ(横)	黒色磨研		2579
第III-39図	12	ヨ	5993b	包2b層	浅鉢?	口縁	(18.0)	5.4~	-	長・雲・角	黒褐・にぶい赤褐	ミガキ(横)、沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研、滋賀型系椀形、顔料	PL-22	2768
第III-39図	13	ヨ	6902c	213SI	浅鉢	底部	-	1.0~	3.0	長・雲・角・石・赤	黒褐	ミガキ(横)、ナテ	ナテ	黒色磨研、一部凹元		2578
第III-40図	1	ヨ	6902・5973d・5483 5993・5982b	1021SX・155SI・担丸 126SI・125SI・3a層トレ	深鉢	口縁	19.0	9.0	-	長・雲・角	にぶい黄橙・黒	ミガキ(横・縦)、沈線(横位)	ミガキ(横)、糸痕(横)後ミガキ(横)	黒色磨研(黒川式)、最大口径23.6cm		2674 2674
第III-40図	2	ヨ	5992a	担丸	深鉢	口縁	50.0	6.2~	-	長・雲・角・石・赤	褐灰・にぶい黄橙	ナテ、糸痕(多方向)	糸痕(横)後ナテ、ナテ	粗製		2614
第III-40図	3	ヨ	6902a	212SI	深鉢	胴部	-	6.6~	-	長・雲・角・石・赤	にぶい黄橙	糸痕(横)後ナテ、ナテ(横)、ナテ	糸痕後ナテ(横)、剥落	粗製		2587

2区出土縄文土器観察表 5

検出番号	枚数	地区記号	グリッド	遺構名・包含層	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-40図	4	ヨ	5992a	包含層	深鉢	口縁	(21.4)	3.3~	-	長・竪・角・石・赤	にぶい黄橙	糸痕 (横) 後ナテ	糸痕 (横) 後ナテ	粗製		2631
第III-40図	5	ヨ	6902a・5992d	包2b層	深鉢	胴部	-	3.7~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙・黒褐	糸痕 (横) 後ナテ、沈線	ナテ	粗製		2617
第III-40図	6	ヨ	6903b	扱乱	深鉢	口縁	(26.6)	3.1~	-	長・竪・角・石	にぶい黄橙・黒	糸痕 (横) 後ナテ	糸痕 (横)	粗製		2599
第III-40図	7	ヨ	6902b・5992c	219SI	深鉢	口縁	-	3.7~	-	長・角・石	黒褐・橙	糸痕 (横)	糸痕 (横) 後ナテ	粗製		2625
第III-41図	1	タ	5991a	221SI	深鉢	口縁~胴部	19.4	13.1	-	長・竪・角・石・赤	明黄褐	ナテ、糸痕 (左上) 後ナテ、刺突	ナテ、糸痕 (横) 後ナテ	甕式、最大口径19.4cm	PL-23	2715
第III-41図	2	タ	5991	210SI	深鉢	口縁	(29.4)	7.8~	-	長・角・石	黒褐・明褐	烈点文、沈線 (横位)	烈点文、沈線 (横位)、糸痕 (横) 後ナテ	甕式 (実2543.2623同一個体かも)		2773
第III-41図	3	タ	5991d・6911a	包含層・161SI	深鉢	口縁	(28.8)	7.9~	-	長・竪・角	黒	烈点文 (刺突)、沈線 (横位)、ナテ	烈点文 (刺突)、沈線 (横位)	甕式	PL-23	2785
第III-41図	4	タ	5991	221SI	深鉢	口縁	(26.0)	10.6~	-	長・角・石・赤	明赤褐・明黄褐	沈線 (刺突)、烈点文 (刺突)、折帯文	糸痕 (横) 後ナテ	甕式	PL-23	2772
第III-41図	5	タ	6901c	161SI	深鉢	胴部	-	5.6~	-	長・竪・角・赤	黒褐	沈線 (横位)、沈線後ナテ	ナテ (横)	甕式		2612
第III-41図	6	タ	6901a	包2b層	深鉢	胴部	-	3.3~	-	長・竪・角・石・赤	灰褐・にぶい黄橙	ナテ、沈線 (横位)	ナテ	甕式		2551
第III-41図	7	タ	5991・5992	221SI	深鉢	口縁	-	2.5~	-	長・角・石	明赤褐	ナテ、沈線 (斜行)	ナテ	甕式?		2771
第III-41図	8	タ	5991a	217SI	深鉢	胴部	-	3.2~	-	長・竪・角・赤	黒・褐	ナテ、沈線	糸痕後ナテ	甕式		2847
第III-41図	9	タ	5991a	217SI	深鉢	胴部	-	2.6~	-	長・竪・角・石	黒褐・明黄褐	沈線	ナテ	甕式		2780
第III-41図	10	タ	6901d	165SI	深鉢	胴部	-	2.8~	-	長・竪・角・石	黒褐・明褐	沈線	ナテ	甕式		2797
第III-41図	11	タ	6901d	165SI	深鉢	胴部	-	4.5~	-	長・竪・角・石・赤	にぶい褐	糸痕 (横) 後ナテ、沈線 (横位、斜位)	糸痕 (横) 後ナテ	甕式		2766
第III-42図	1	タ	6901d	包1層	深鉢	口縁	(35.0)	3.7~	-	長・竪・角・赤	灰黄褐・にぶい赤褐	ナテ、刺突文 (凹点)、凹線 (横位)、ナテ (横)	ナテ (横)	阿島式	PL-23	2786
第III-42図	2	タ	5991b	209SI	深鉢	口縁	-	3.9~	-	長・竪・角・石	黒褐	縄文 (R.L.L)	縄文、横ナテ	胎元・里木式 (実2778.2841同一個体)	PL-23	2787
第III-42図	3	タ	5991・5983b・6901a 5901c・6922b	209・217・210・189SI 218SX	深鉢	胴部	-	6.1~	-	長・竪・角・石・赤	黄褐	縄文 (R.L.L)	縄文 (横) 後ナテ	胎元式 (実2787.2841同一個体かも)		2778
第III-42図	4	タ	5991d	209SI	深鉢	胴部	-	6.4~	-	長・竪・角・石	黒褐・明黄褐	縄文 (横系、R.L.L)	糸痕 (横) 後ナテ	胎元式 (実2787・2778同一個体?)		2841
第III-42図	5	タ	5991	包1層	深鉢	胴部	-	5.1~	-	長・角・石	橙	縄文 (横系)	糸痕 (横) 後ナテ	胎元式		2842
第III-42図	6	タ	5991a,b,d	210SI	深鉢	口縁	30.0	5.5~	-	長・竪・角・石	黒褐・明赤褐	糸痕後ナテ、ナテ、縄文 (R.L.L)	糸痕 (横)	胎元式、穿孔	PL-23	2799
第III-42図	7	タ	6901a	207SI	深鉢	口縁	(20.0)	2.3~	-	長・竪・角・石	黒褐・明黄褐	ナテ、沈線 (横位)、縄文	ナテ	胎元式		2815
第III-42図	8	タ	6901d	207SI	深鉢	口縁	-	2.2~	-	長・竪・角・石	黒褐	縄文、烈点文 (刺突)、沈線	糸痕 (横) 後ナテ	胎元式		2788
第III-42図	9	タ	6901d	161SI	深鉢	口縁	-	3.0~	-	長・竪・角・石・赤	明赤褐・灰褐	ナテ (横)、沈線 (横位)、縄文	烈点文 (刺突)、ナテ (横)	胎元式		2814
第III-42図	10	タ	6901	218SX	深鉢	口縁	-	1.9~	-	長・竪・石	明黄褐	糸痕 (横)、沈線 (多方向)	糸痕 (横)	胎元式、黒斑?		2770
第III-42図	11	タ	6901・6991	207SI	深鉢	口縁	不明	3.3~	-	長・竪・角・石	黒褐	ナテ、糸痕 (縦)、沈線 (横位)	ナテ、糸痕 (横) 後ナテ	胎元式		2824
第III-42図	12	タ	6901a	207SI	深鉢	胴部	-	4.6~	-	長・竪・角・石・赤	明赤褐	糸痕 (縦)	糸痕 (横)	胎元式		2831
第III-42図	13	タ	6901c・6912b	161・166SI	深鉢	口縁	(30.0)	7.7~	-	長・竪・角・石・赤	黒・黒褐	ミガキ (横)、羽状文、沈線 (横位)	沈線 (横位)、ミガキ (横)	黒色磨研	PL-23	2672
第III-42図	14	タ	6901d	197SI	深鉢	口縁	(14.2)	4.0~	-	長・竪・角・石	明赤褐・明黄褐	ミガキ (横)	ミガキ (横)	黒色磨研		2572
第III-42図	15	タ	6901d	173SI	深鉢	口縁	-	3.6~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ (横・多方向)	ナテ	黒色磨研、黒斑		2555
第III-42図	16	タ	6901d	161SI	深鉢	口縁	(16.8)	2.9~	-	長・竪・角	暗灰黄	ミガキ (横)	ミガキ (横)	黒色磨研	PL-23	2529
第III-42図	17	タ	6901d・6902c	161SI	浅鉢	口縁	(23.6)	5.5~	-	竪・角・赤	明黄褐	糸痕 (横) 後ナテ、沈線 (横位)、横ナテ	ミガキ (横) 後ナテ	粗製		2573
第III-42図	18	タ	6901d	197SI	深鉢	口縁	(26.6)	3.5~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙・黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研		2530
第III-42図	19	タ	5991・5992	210・235SI	深鉢	口縁	(61.0)	6.1~	-	長・竪・角・石・赤	橙	ミガキ (横) 後沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研		2656
第III-43図	1	タ	5991a・5972a,d	210・113SI・134SX	浅鉢	口縁	-	4.5~	-	長・竪	黒褐	ミガキ (横)、沈線 (横位)、細線波状文	ミガキ (横)	黒色磨研 (烏井原式)		2779
第III-43図	2	タ	6901	包1層	浅鉢	口縁	(28.4)	3.7~	-	長・竪・赤	灰黄褐・黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研		2546
第III-43図	3	タ	6901d	包1層	浅鉢	口縁	(28.4)	1.3~	-	長・竪・角	にぶい黄橙	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研		2531
第III-43図	4	タ	6901c	161SI	浅鉢	口縁	(28.0)	2.5~	-	長・角・石	黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研		2586
第III-43図	5	タ	6901	包1層	深鉢	口縁	(21.0)	4.4~	-	長・竪・角・赤	黒褐	糸痕 (右上・横)	糸痕 (横)	粗製		2845
第III-43図	6	タ	5991	217SI	深鉢	口縁	(40.0)	5.1~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙・黒褐	ナテ、糸痕 (横) 後ナテ	ナテ (横)、糸痕 (横) 後ナテ	粗製		2639
第III-43図	7	タ	6901	197SI	深鉢	口縁	(31.6)	4.4~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	糸痕 (横)	ナテ (横)、ナテ	粗製		2571
第III-43図	8	タ	6901a	291SX	深鉢	口縁	(30.0)	3.8~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	糸痕 (横)	ナテ	粗製		2540
第III-43図	9	タ	6901	165SI	深鉢	口縁	(22.0)	4.1~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	糸痕 (横)、ナテ	ミガキ (横)	粗製		2569
第III-43図	10	タ	5991a	209SI	深鉢	底部	-	2.1~	(10.0)	長・竪・角	明黄褐	ミガキ (縦) 痕	ナテ	粗製		2622
第III-44図	1	レ	6911d・6902d	169SI・230SX	浅鉢	口縁	(22.0)	3.2~	-	長・竪・角・赤	黒褐・黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)、細線羽状文	ミガキ (横)	黒色磨研 (烏井原式)、黒斑		2556
第III-44図	2	レ	6910a,b	扱乱	浅鉢	口縁	不明	2.2~	-	長・竪・角・赤	橙・黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研 (古岡一)、滋賀里系	PL-24	2755
第III-44図	3	レ	6911	160SI	浅鉢	底	-	3.8~	-	長・角・石・赤	褐灰	ミガキ (横)、ミガキ痕 (縦・右上)	ナテ (横)	黒色磨研		2585
第III-44図	4	レ	6911a	161SI	浅鉢	胴部	-	2.3~	-	長・竪・角・石・赤	黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)、細線羽状文	ミガキ (横)	黒色磨研		2598
第III-44図	5	レ	6911a	173SI	浅鉢	口縁	(18.0)	2.7~	-	長・竪・角	黒	ミガキ (横)	ミガキ (横)	黒色磨研		2557
第III-44図	6	レ	6921a	182SI	浅鉢	口縁	(24.6)	1.9~	-	長・竪・角・石	褐灰	ミガキ (横)	ミガキ (横)、沈線	黒色磨研 (古岡式)		2524
第III-44図	7	レ	6921b	163SI	深鉢	口縁	(40.0)	2.5~	-	長・竪・角・石	黒	糸痕後ナテ (横)	糸痕後ナテ (横)	粗製		2716
第III-44図	8	レ	6911d	160SI	深鉢	口縁	(37.8)	5.4~	-	長・竪・角・石・赤	黒褐	横ナテ、指ナテ、糸痕 (横)	横ナテ、糸痕後ナテ、ナテ	粗製		2565
第III-44図	9	レ	6911c	163SI	深鉢	口縁	(50.0)	4.5~	-	長・竪・角	にぶい黄・黒褐	糸痕 (横) 後ナテ、つぎたし痕、糸痕 (横)	糸痕 (横) 後ナテ、ナテ	粗製		2563
第III-44図	10	レ	6912b	162SI	深鉢	口縁	(33.2)	4.2~	-	長・竪・角・石	にぶい黄橙・褐灰	糸痕 (横) 後ナテ	糸痕 (横)	粗製、黒斑		2537

2 区出土縄文土器観察表 6

検出番号	株番号	地区記号	グリッド	遺構名・包含層	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-44図	11	レ	6911d	162SI	深鉢	口縁	(50.0)	4.1~	-	長・露・角・石・赤	にぶい黄橙	桑痕 (横) 後ナテ、ナテ	ナテ、桑痕 (横)	複製		2562
第III-44図	12	レ	6911	186SI	深鉢	口縁	(20.0)	3.7~	-	長・露・角・石・赤	明赤褐・黒褐	横ナテ、桑痕 (横)	ミガキ (横) 不鮮明	複製		2793
第III-45図	1	レ	6911	163SI	深鉢	口縁	-	3.1~	-	長・角・石	黒褐	桑痕、ナテ、沈線 (斜行)	桑痕	複製		2809
第III-45図	2	レ	6911c	160SI	深鉢	胴部	-	9.2~	-	長・露・石	橙	ナテ (横)、沈線 (多方向)	桑痕	凹線式 (2-1-2-2は同一)	PL-24	2798
第III-45図	3	レ	6911a	P02	深鉢	口縁	(30.0)	3.7~	-	長・露・角・石・赤	赤褐	ナテ、凹線文 (横位短)	ナテ	阿高式	PL-24	2745
第III-45図	4	レ	6911	164SI	深鉢	底部	-	3.7~	17.39	長・露・石	明赤褐・褐	ナテ (縦・横)、指頭圧痕	ナテ (縦・横)	阿高式	PL-24	2794
第III-45図	5	レ	6911a.b・5991b	165SI	深鉢	胴部	-	5.0~ 10.0~	-	長・露・角・石	黒褐 褐灰	沈線 (横位)、刺点文 (刺突) 桑痕 (縦)	桑痕 (横)	船元式 (2-1-5-2は同一)	PL-24	2826
第III-45図	6	レ	6921a	177SI	深鉢	胴部	-	7.9~	-	長・露・角・石	黒褐	縄文 (R.L.L.)、陸帯	桑痕 (横) 後ナテ	船元式	PL-24	2741
第III-45図	7	レ	6911a	165SI	深鉢	口縁	(26.0)	4.3~	-	長・露・角・赤	黒褐	ミガキ (横)、補修孔	ミガキ (横)、補修孔	黒色磨研		2558
第III-45図	8	レ	6911d	160SI	深鉢	口縁	(16.6)	5.1~	-	長・露・角・石・赤	にぶい黄橙・褐灰	ミガキ痕 (横)、沈線 (横位)	ミガキ痕 (横)	黒色磨研		2564
第III-45図	9	レ	6901a.d	扱乱	深鉢	口縁	-	3.2~	-	長・露・角・赤	褐灰	ミガキ (横)	ミガキ (横)	黒色磨研		2592
第III-45図	10	レ	6911c	160SI	深鉢	口縁	(29.0)	4.0~	-	長・露・角・石・赤	浅黄	桑痕 (横) 後ナテ	桑痕 (横) 後ナテ	黒色磨研 (古閑式)、スス		2566
第III-45図	11	レ	6911a・6902	173SI・228SX	深鉢	口縁	(28.0)	4.4~	-	長・露・赤	黒褐・明黄褐	沈線 (横位)、横ナテ	ミガキ (横)	黒色磨研 (古閑式)		2521
第III-45図	12	レ	6910a.b	186SI	深鉢	底部	-	4.2~	7.6	長・露・角・石・赤	にぶい黄橙・黒	ミガキ (縦)、ナテ、未調整	ミガキ (横後右上)	黒色磨研、黒斑		2539
第III-46図	1	ソ	6922	167SI	深鉢	口縁	不明	1.7~	-	長・露・角・石・赤	橙	ナテ、凹点文	ナテ、凹点文	凹線式		2735
第III-46図	2	ソ	6912a	166SI	深鉢	口縁	(11.2)	1.6~	-	長・露・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、刺突列点文	ヘラナテ	凹線式		2604
第III-46図	3	ソ	6922b	167SI	浅鉢	口縁	不明	2.0~	-	長・露・角	赤褐	ナテ、刺突凹点文	ナテ、刺突凹点文	凹線式		2734
第III-46図	4	ソ	6912	167SI	深鉢	口縁	-	4.7~	-	長・露・角	褐灰・明赤褐	刺点文 (刺突)、沈線 (横位)	刺点文 (刺突)、沈線 (横位)	凹線式	PL-24	2789
第III-46図	5	ソ	6912c	169SI	深鉢	胴部	-	2.5~	-	露・角・石・赤	暗赤褐・黒褐	ナテ、沈線 (短位短)	桑痕 (横) 後ナテ	凹線式 (胴部の下)		2781
第III-46図	6	ソ	6922	169SI	浅鉢	口縁	(26.0)	2.5~	-	長・角・石	黒褐	押引文、刺点 (刺突)	押引文	尾田式	PL-24	2752
第III-46図	7	ソ	6912c	167SI	深鉢	胴部	-	3.6~	-	長・露・角・石・赤	橙	ナテ、押引文	桑痕 (縦)	尾田式	PL-24	2777
第III-46図	8	ソ	6922a	169SI	深鉢	胴部	-	2.4~	-	長・露・角・赤	にぶい黄橙・橙	ナテ、押引文、刺点文 (刺突)	ナテ	尾田式		2767
第III-46図	9	ソ	6912a	包2b層	深鉢	口縁	(25.2)	3.1~	-	長・露・石	にぶい褐	ナテ	ナテ	阿高式		2583
第III-46図	10	ソ	6912a	包2b層	深鉢	底部	-	3.0~	18.4	長・露・角・石・赤	明赤褐・黒褐	凹線文 (縦)、ナテ	ナテ、指頭圧痕	阿高式	PL-24	2763
第III-46図	11	ソ	6922c	167SI	深鉢	底部	-	2.4~	12.0	長・露・角・石	にぶい黄・黒褐	指頭圧痕、指ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕	阿高式かも		2849
第III-46図	12	ソ	6923b・6901d	197SI	深鉢	口縁	(12.8)	2.4~	-	長・露・角・赤	明黄褐	刺点文	桑痕 (横) 後ナテ	船元式	PL-24	2753
第III-46図	13	ソ	6912d	169・292SI	深鉢	胴部	-	8.9~	-	長・露・角・石・赤	明黄褐	縄文 (R.L.L.)	桑痕 (横) 後ナテ、ナテ	船元式		2806
第III-46図	14	ソ	6923b	194SI	深鉢	胴部	-	3.2~	-	長・露・角・石	明黄褐	縄文 (R.L.L.)、沈線 (横位)	ナテ	船元式		2743
第III-46図	15	ソ	6922b	169SI	深鉢	口縁	(20.0)	2.5~	-	長・露・角・石・赤	にぶい赤褐	ナテ、沈線 (波状)	ナテ、沈線 (多方向)	船元式	PL-24	2764
第III-46図	16	ソ	6912	包2b層	深鉢	口縁	-	2.7~	-	長・角・石	橙	ナテ、沈線 (波状)	桑痕 (縦)	船元式		2749
第III-46図	17	ソ	6922a	169SI	深鉢	口縁	(22.8)	4.8~	-	長・露・角・石・赤	黒褐	ナテ、縄文 (R.L.L.)、沈線 (横位・波状)	縄文?、横ナテ、桑痕 (縦) 後ナテ	船元式	PL-24	2742
第III-46図	18	ソ	6912	169SI	深鉢	口縁	(22.2)	2.7~	-	長・角・石・赤	明黄褐	縄文 (R.L.L.)、沈線 (横位)	ナテ	船元式		2751
第III-46図	19	ソ	6912d	169SI	浅鉢	口縁	30.0	2.2~	-	長・露・角・石	橙	ナテ、刻み目 (隆帯文)	刻み目、ナテ	船元式		2795
第III-46図	20	ソ	6912	扱乱	深鉢	口縁	(17.8)	5.1~	-	長・露・角・石・赤	灰黄褐	ナテ、桑痕 (右上)、刻み目	横ナテ	船元式		2597
第III-46図	21	ソ	6912b	包2b層	深鉢	胴部	-	2.5~	-	長・露・角・石	明黄褐	縄文 (R.L.L.)	桑痕 (縦)	船元式		2782
第III-47図	1	ソ	6922a	169SI	深鉢	口縁	-	3.0~	-	長・露・角・石	黒	ナテ、沈線 (横位)、縄文 (R.L.L.)	ナテ、縄文 (R.L.L.)	船元式	PL-24	2783
第III-47図	2	ソ	6922a	包倉層	深鉢	胴部	-	3.15~	-	長・露・角・赤	黒褐	縄文 (R.L.L.)	縄文 (R.L.L.)	船元式		2560
第III-47図	3	ソ	6912d	169SI	深鉢	胴部	-	4.1~	-	長・角・石・赤	にぶい褐	縄文 (L.R.R.)	横ナテ	船元式		2838
第III-47図	4	ソ	6922b・6923b	167SI	深鉢	胴部	-	4.5~	-	長・露・角・赤	橙	縄文 (R.L.L.)	縄文後ナテ	船元式		2832
第III-47図	5	ソ	6912d	169SI (炉内)	深鉢	胴部	-	2.9~	-	長・露・角・石・赤	黒褐	縄文	桑痕 (横) 後ナテ	船元式		2839
第III-47図	6	ソ	6912-b	195SI	深鉢	胴部	-	2.9~	-	長・露・角・石	黒褐	縄文、ナテ	横ナテ	船元式		2549
第III-47図	7	ソ	6912	169SI	深鉢	胴部	-	2.0~	-	長・角・石	明赤褐・明黄褐	刺点文 (刺突)、沈線 (横位)	ナテ、刺点文	北久根山式		2790
第III-47図	8	ソ	6912	166SI	深鉢	胴部	-	3.1~	-	長・角・石	オリーブ黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研 (太郎迫式)		2748
第III-47図	9	ソ	6922a	185SI	深鉢	胴部	-	2.5~	-	長・露・角・赤	黒褐	縄文 (R.L.L.)、沈線、ナテ	横ナテ	磨消縄文		2808
第III-47図	10	ソ	6912b	195SI	深鉢	胴部	-	3.5~	-	長・露・角・赤	暗黄	縄文、沈線、ミガキ (横)	ナテ	磨消縄文		2804
第III-47図	11	ソ	6912b	273SK	深鉢	口縁	(19.8)	5.5~	-	長・露・角・石・赤	黒褐	ナテ、凹点、沈線 (横位)	ミガキ (横)	黒色磨研	PL-24	2596
第III-47図	12	ソ	6912d	169SI	深鉢	口縁	(30.4)	5.1~	-	長・露・角・赤	にぶい黄橙・明黄褐	ミガキ (横)	ミガキ (横)	黒色磨研		2577
第III-47図	13	ソ	6912	195SI	深鉢	口縁	(40.6)	12.4~	-	長・露・角・石	黒褐	ミガキ (横)	ミガキ (横)	黒色磨研		2533
第III-47図	14	ソ	6912・5922	167SI	深鉢	口縁	(21.4)	5.4~	-	長・露・角・石・赤	にぶい黄	ミガキ (横)	ナテ、ミガキ (横)	黒色磨研 (外)		2637
第III-47図	15	ソ	6912b	190SI	深鉢	口縁	(21.8)	3.3~	-	長・露・角・石・赤	にぶい黄橙	細線羽状文、沈線 (横位)、ミガキ痕	横ナテ	黒色磨研 (扇弁原式)		2595
第III-47図	16	ソ	6923b	扱乱	浅鉢	口縁	(29.8)	2.3~	-	長・角・赤	黒	ミガキ (横)、沈線 (横位)	ミガキ (横)、磨消	黒色磨研 (天城式)		2526
第III-47図	17	ソ	6913c	包2b層	深鉢	口縁	(39.8)	3.4~	-	長・角・石・赤	黄灰・にぶい黄	ミガキ (横)、沈線 (横位)、横ナテ	ミガキ (横) 後横ナテ	黒色磨研 (古閑式)		2525
第III-47図	18	ソ	6913b.c	165SI	深鉢	口縁	(40.0)	4.5~	-	長・露・角・石・赤	黒褐・橙	桑痕 (横)	ミガキ (横)	黒色磨研		2550
第III-47図	19	ソ	6913b	包2b層	深鉢	口縁	(40.0)	2.6~	-	長・角・石	にぶい黄橙	桑痕 (横)、ナテ、刻み目	桑痕 (横)、ナテ	黒色磨研		2582

2区出土縄文土器観察表7

押図番号	枝 番号	地区 記号	グリッド	通帳名・包含層	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第III-47図	20	ソ	6922a	169SI	深鉢	胴部	-	2.9~	-	長・髑・角・石・赤	黒褐・明赤褐	ナテ(横)・突帯	ナテ(横)	黒色磨研(黒川式)		2765
第III-47図	21	ソ	6922b	185SI	深鉢	口縁	(23.8)	2.75~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙・黒	条痕(横)後ナテ・突帯	条痕(横)後ナテ・沈線	黒色磨研		2643
第III-47図	22	ソ	6922a	169SI	深鉢	口縁	(25.0)	1.8~	-	長・髑・角・石	オリーブ黒	ミガキ(横)・刻み目・突帯・横ナテ	横ナテ	黒色磨研		2649
第III-48図	1	ソ	6912d	169SI	深鉢	底部	-	2.3~	6.2	長・髑・角・石	橙・浅黄	ミガキ(横)・刻み目・突帯・横ナテ	ミガキ(多方向)	黒色磨研		2575
第III-48図	2	ソ	6913c	包一括	深鉢	底部	-	2.0~	7.2	長・髑・角・石・赤	橙・褐灰	ミガキ(横・一定方向)後ナテ・横ナテ	ナテ・指頭圧痕	黒色磨研		2522
第III-48図	3	ソ	6921d	169SI	深鉢	底部	-	2.5~	11.6	長・髑・角・赤	橙	横ナテ	調整なし	黒色磨研		2850
第III-48図	4	ソ	6912	167SI	深鉢	底部	-	3.3~	11.4	長・髑・角・石	橙・褐灰	横ナテ・指押あと	横ナテ・板ナテ(縦)	黒色磨研		2535
第III-48図	5	ソ	6923b	捩乱	深鉢	底部	-	4.0~	7.6	長・髑・角・石・赤	にぶい橙	横ナテ後ミガキ(多方向)	ナテ	黒色磨研		2568
第III-48図	6	ソ	6922c	包1層	深鉢	底部	-	2.2~	8.6	長・髑・角・石・赤	橙	指ナテ・横ナテ(一部)	板ナテ	黒色磨研		2567
第III-48図	7	ソ	6913b	包3a層	浅鉢	口縁	(42.0)	3.0~	-	長・髑・角・赤	黒褐	ミガキ(横)・凹線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研	PL-24	2527
第III-48図	8	ソ	6922a	捩乱	浅鉢	口縁	(28.0)	3.7~	-	長・髑	にぶい黄橙	ナテ・ミガキ(横)・沈線(横位)後ナテ	ナテ・ミガキ(横)・沈線後ナテ	黒色磨研(天城式)		2609
第III-48図	9	ソ	6912	297SI	浅鉢	口縁	(30.0)	3.4~	-	長・髑・角・赤	にぶい橙・黒褐	沈線(横位)後ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研		2544
第III-48図	10	ソ	6912	包2層	浅鉢	口縁	(36.0)	4.1~	-	長・髑・角・赤	黒褐・橙	ミガキ(横)・沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2538
第III-48図	11	ソ	6912a	包3層	浅鉢	口縁	(57.8)	5.1~	-	長・髑・角・石・赤	黒褐・暗灰黄	ミガキ(横)・沈線(横位)	ミガキ(横)	黒色磨研		2536
第III-48図	12	ソ	6912a	包2b層	浅鉢	口縁	(39.2)	2.8~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ・ミガキ(横)・沈線(横位)	ミガキ(横)・横ナテ	黒色磨研・黒斑		2594
第III-48図	13	ソ	6923b	捩乱	浅鉢	口縁	(28.2)	1.1~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ・ミガキ(横)	横ナテ	黒色磨研(古岡式)・黒斑		2523
第III-48図	14	ソ	6912c	包2b層	浅鉢	口縁	(12.6)	2.8~	-	長・髑・角・赤	明赤褐	ミガキ(多方向)・沈線(横位)	ミガキ(多方向)・沈線(横位)	黒色磨研		2570
第III-48図	15	ソ	6922a	169SI	浅鉢	口縁	(16.0)	2.8~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色磨研(黒川式)		2545
第III-48図	16	ソ	6912d	169SI	浅鉢	口縁	不明	2.5~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	沈線・ミガキ(横)	ミガキ痕(横)	黒色磨研		2692
第III-48図	17	ソ	6912b	195SI	浅鉢	底部	-	2.8~	3.8	長・髑・角	明赤褐	ミガキ(多方向)・横・横ナテ	ミガキ(多方向)	黒色磨研・黒斑		2554
第III-48図	18	ソ	6912	167SI	浅鉢	底部	-	1.6~	5.0	長・髑・角・石・赤	褐灰・明褐	ミガキ(横)	横ナテ(横)	黒色磨研		2534
第III-48図	19	ソ	6922b	185SI	浅鉢	底部	-	1.3~	3.4	長・髑・角・赤	にぶい黄	ナテ・ミガキ(多方向)	ナテ	黒色磨研・黒斑		2553
第III-49図	1	ソ	6912b・6902a・6912c	195・297・169SI	深鉢	口縁	31.5	10.8~	-	髑・角・赤	にぶい黄橙・黒褐	ナテ後ミガキ(多方向)	不明・ナテ後ミガキ(横)	黒色磨研・最大胴径32.8cm	PL-24	2673
第III-49図	2	ソ	6912	273SK・297SI	深鉢	胴部	-	17.9~	-	長・髑・角・赤	浅黄・黒・黄灰	ミガキ(縦)後ミガキ(横)	磨痕・条痕(横)・ミガキ(横)	黒色磨研		2843
第III-49図	3	ソ	6912b・6902d	190SI	深鉢	胴部	-	9.2~	-	長・髑・角・石	黒・橙・にぶい黄	ミガキ(縦)	条痕(横)後ナテ(横)・ナテ(横)	黒色磨研・最大胴径(37.4cm)		2576
第III-49図	4	ソ	6912	包2b層	深鉢	口縁	26.0	10.6~	-	長・髑・角・石	明黄褐・明赤褐	ミガキ(縦)	ミガキ(横)	黒色磨研・黒斑		2584
第III-49図	5	ソ	6913a・5992c・5982d	1030・245SI	浅鉢	口縁	36.8	9.0~	-	髑・角・赤	黒褐	ミガキ(横)・沈線(横位)・ミガキ(横後縦)	ミガキ(横)・ミガキ(横後縦)	黒色磨研・最大胴径39.2cm	PL-24	2541

2 区窪穴住居・弥生土器観察表 1

検出 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-53図	1	181	S	1	床面下	甕	口縁	20.0	1.4~	-	石・長・雲	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		522		
第III-53図	2	181	S	1	2	甕	底部	-	3.0~	8.8	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ、横ナテ	磨減		778		
第III-53図	3	181	S	1	1・(2-)	甕	口縁~胸部	41.2	7.7~	-	長・石・雲・赤	橙	横ナテ	横ナテ	S=1/4掲載	657		
第III-53図	4	181	S	1	1	甕	口縁~頸部	40.6	5.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ		515		
第III-53図	5	181	S	1	1	甕	口縁	23.0	2.1~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		496		
第III-53図	6	181	S	1	1	甕	口縁	(22.0)	2.8~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ		499		
第III-53図	7	181	S	1	1	甕	口縁	(25.2)	3.2~	-	長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ		542		
第III-53図	8	181	S	1	1	甕	底部	-	8.9~	13.2	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)、指ナテ後ハケ目(左上)	横ナテ、ハケ目(横)		762		
第III-53図	9	181	S	1	1	甕	底部	-	2.8~	8.4	長・雲・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)、ナテ	磨減		723		
第III-53図	10	181	S	1	1	甕	口縁	25.8	3.0~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄褐	ナテ、ミガキ(横)	ナテ		530		
第III-53図	11	181	S	1	1	短頸甕	口縁~胸部	13.8	9.2~	-	長・雲・角・赤	黄褐	横ナテ、ハケ目(縦・横)後横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ、指ナテ		729	PL-25	
第III-53図	12	181	S	1	1・(攪乱)	複合口縁甕	口縁~頸部	17.4	8.0~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	ハケ目(左上・多方向)、ナテ、指頭圧痕	横ナテ、ハケ目(左上)、ハケ目(縦)後ナテ		1022	PL-25	
第III-53図	13	181	S	1	1	甕	底部	-	6.0~	13.4	石・長・雲	赤褐・橙	ハケ目(右上)後ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕		721		
第III-53図	14	181	S	1	1	高坏	脚部	-	6.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)後ナテ、ハケ目(縦)	指ナテ、指頭圧痕		737		
第III-53図	15	181	S	1	1	高坏	脚部	-	1.6~	(14.0~18.0)	石・長・雲・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ		582		
第III-53図	16	181	S	1	1	坏蓋	口縁	14.0	1.2~	13.9	雲・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ	(土師器) 赤色顔料	581		
第III-53図	17	181	S	1	1	坏	底部	-	1.0~	-	長・石・雲・赤	橙	ナテ	ナテ、ナテ後ハケ目(多方向)、ヘラによる圧痕		583		
第III-53図	18	181	S	1	1	攪乱	鉢	口縁	33.4	4.5~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙	ミガキ、指頭圧痕	ミガキ(多方向)		517	
第III-53図	19	181	S	1	1	攪乱	鉢	口縁	25.6	2.6~	-	石・長・雲・角	灰黄	横ナテ	横ナテ		516	
第III-55図	1	186	S	1	床面	甕	底部	-	5.4~	8.0	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、指ナテ、横ナテ、ナテ	ハケ目(多方向)、指ナテ、指頭圧痕		145		
第III-55図	2	186	S	1	床面・(1)	複合口縁甕	口縁~頸部	13.0	6.3~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、突帯	横ナテ		206		
第III-55図	3	186	S	1	床面	短頸甕	完形	6.8	17.6	5.7	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	ナテ、横ナテ、指頭圧痕	黒斑、一部欠損(最大胴径17.4cm)	22	PL-25	
第III-55図	4	186	S	1	P	甕	口縁~頸部	(22.5)	4.9~	-	長・雲・角	浅黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		148		
第III-55図	5	186	S	1	床面	鉢	口縁	(27.8)	1.95~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		147		
第III-55図	6	186	S	1	1	甕	口縁~頸部	(27.0)	4.0~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ハケ目(右上)		216		
第III-55図	7	186	S	1	1	甕	口縁	(37.0)	3.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		571		
第III-55図	8	186	S	1	1	鉢	口縁~胸部	22.4	5.1~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ後ハケ目(横・縦)、横ナテ	横ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ		173		
第III-55図	9	186	S	1	1	甕	胸部	-	4.2~	-	石・長・角	にぶい黄橙・黒褐	ナテ、二条刻み目突帯、横ナテ、ハケ目(右上)	ハケ目(左上)、ハケ目(右上後左上)		747		
第III-55図	10	186	S	1	1	甕	底部	-	2.6~	7.6	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ後ハケ目(縦)、ナテ	ハケ目後ナテ		161		
第III-55図	11	186	S	1	1	坏	底部(高台)	-	1.6~	9.7	石・長・雲・角	橙	ナテ、横ナテ	ナテ	(土師器)	572		
第III-59図	1	189	S	1	SK	甕	口縁	(16.4)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、指ナテ		594		
第III-59図	2	189	S	1	SK	甕	口縁	(38.8)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	灰白	横ナテ	横ナテ		608		
第III-59図	3	189	S	1	SK	甕	口縁	(27.8)	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		174		
第III-59図	4	189	S	1	SK	甕	口縁	(41.6)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		153		
第III-59図	5	189	S	1	SK	甕	底部	-	4.9~	7.6	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		595		
第III-59図	6	189	S	1	SK・P	P	甕(穿孔)	口縁	20.0	2.0~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、指ナテ		584	
第III-59図	7	189	S	1	SK	甕	口縁	20.0	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ナテ後ハケ目(横)、ナテ		150		
第III-59図	8	189	S	1	1	甕	底部	-	3.4~	(6.6)	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		162		
第III-59図	9	189	S	1	1	鉢	口縁	(18.6)	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ミガキ(横)、横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	ナテ、ミガキ(横)		155		
第III-59図	10	189	S	1	1	台付鉢	脚部	-	1.5~	7.8	長・雲・角	にぶい黄橙				146		
第III-60図	1	174	S	-	2	甕	口縁	25.3	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	ナテ	類似土器2・1層出土	99		
第III-60図	2	174	S	1	2	鉢	口縁	23.0	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	灰白	横ナテ	横ナテ、工具による横ナテ		105		
第III-60図	3	174	S	1	2	甕	口縁	22.4	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		102		
第III-60図	4	174	S	1	2	甕	底部	-	2.4~	8.8	石・長・雲	橙	ハケ目(縦・多方向)、横ナテ	ナテ、指頭圧痕		104		
第III-60図	5	174	S	1	1	甕	口縁	15.8	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	ナテ	ナテ		100		
第III-60図	6	174	S	1	1・(2)	甕	底部	-	3.5~	9.6	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨減		101		
第III-60図	7	174	S	1	1	甕	口縁	18.0	2.7~	-	長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		596		
第III-60図	8	174	S	1	1	甕	口縁	11.4	2.0~	-	石・長・雲・角	赤褐	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	103		
第III-61図	1	162	S	1	SK	甕	口縁	29.6	4.1~	-	長・雲・角	明黄褐	横ナテ、ナテ後ハケ目(左上)	横ナテ、ナテ後板ナテ		563		
第III-61図	2	162	S	1	SK	甕	底部	-	4.2~	9.8	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ハケ目(左上)、ナテ、横ナテ	磨減		72		
第III-61図	3	162	S	1	1上	2	甕	口縁~胸部	21.0	9.5~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)	(最大胴径20cm) 類似土器2・1下層出土	140	
第III-61図	4	162	S	1	1下	1	甕	口縁	33.8	3.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		74	
第III-61図	5	162	S	1	1下	1	甕	口縁	19.0	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		92	
第III-61図	6	162	S	1	1下	1	短頸甕	口縁~胸部	(23.0)	3.6~	-	長・雲・石	にぶい橙	横ナテ、ナテ、工具によるナテ	ナテ		78	
第III-61図	7	162	S	1	1下・1上	1下	甕	底部	-	4.4~	8.4	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	ナテ		75	

2区竪穴住居・弥生土器観察表2

検出 番号	校 番号	遺構 番号	遺構 地層	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部名	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-61図	8	162	S	1	1上	甕	口縁~胴部	(28.6)	5.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ			76	
第III-61図	9	162	S	1上	1上	甕	口縁	30.3	2.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			565	
第III-61図	10	162	S	1上	1上	甕	口縁	27.6	4.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			94	
第III-61図	11	162	S	1上	1上	甕	口縁	26.6	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	黄・にぶい黄	ナテ、横ナテ	ナテ、横ナテ			77	
第III-64図	1	192	S	1	SK	甕	口縁	15.0	2.2~	-	石・長・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			591	
第III-64図	2	192	S	1	SK	鉢	口縁~胴部	20.2	6.3~	-	石・長・雲・角・赤	黄	横ナテ、ナテ	横ナテ			157	
第III-64図	3	192	S	1	SK	甕	口縁	(28.8)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	黄	横ナテ	横ナテ	赤色顔料		160	
第III-64図	4	192	S	1	SK	無頭甕	口縁	(16.4)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	明赤	横ナテ	横ナテ			152	
第III-64図	5	192	S	1	SK	甕	底部	-	1.6~	7.0	長・雲・角・赤	黒・黄	ナテ、指ナテ後ハケ目(多方向)	ナテ			589	
第III-64図	6	192	S	1	P	甕	口縁	(27.0)	2.9~	-	石・長・角	赤	横ナテ	横ナテ			590	
第III-64図	7	192	S	1	P	甕	底部	-	5.2~	9.4	石・長・雲・角	にぶい黄	ナテ、指頭圧痕	ナテ			149	
第III-64図	8	192	S	1	P	甕	底部	-	3.2~	(9.4)	石・長・雲・角・赤	にぶい黄	横ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	底			159	
第III-64図	9	192	S	1	2	2	甕	口縁~胴部	29.0	7.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄	横ナテ、横ナテ後ハケ目(多方向)	横ナテ、ナテ後ハケ目(横・左上)			246
第III-64図	10	192	S	1	1	1	甕	口縁~胴部	25.0	18.4~	-	石・長・雲・角・赤	明赤	横ナテ、板ナテ(縦)、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	(最大胴径28.0cm)		81
第III-65図	1	175	S	1	2	2	甕	口縁	(23.6)	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	黄	横ナテ	横ナテ			106
第III-65図	2	175	S	1	2	2	甕	口縁	(31.8)	3.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ、工具による横ナテ			107
第III-65図	3	175	S	1	2	2	甕	口縁	(25.6)	2.3~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			113
第III-65図	4	175	S	1	2	2	甕	口縁	(20.8)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄	横ナテ	ハケ目(横)後ナテ、横ナテ			142
第III-65図	5	175	S	1	2・(1)	2	甕(鉢)	口縁	33.2	3.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ、ミガキ(横)後横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)後横ナテ	(須玖式土器)赤色顔料		715
第III-65図	6	175	S	1	1	1	甕	口縁	(測定不能)	3.0~	-	石・長・雲・角	浅黄	横ナテ、ナテ、横ナテ後指頭圧痕	横ナテ			110
第III-65図	7	175	S	1	1	1	甕	口縁	22.6	1.8~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			117
第III-65図	8	175	S	1	1	1	甕	口縁	(23.0)	2.6~	-	石・長・雲・角	灰白	横ナテ	横ナテ			109
第III-65図	9	175	S	1	1	1	甕	口縁	(28.0)	4.1~	-	石・長・雲・角	黄	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(縦)	スス付		108
第III-65図	10	175	S	1	1	1	甕	底部	-	2.4~	(測定不能)	石・長・雲・角・赤	にぶい黄	ハケ目(縦)、横ナテ、沈線	横ナテ	砂付		115
第III-65図	11	175	S	1	1	1	甕(穿孔)	口縁	(23.6)	3.5~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄	横ナテ、沈線、ナテ後ハケ目(縦)	横ナテ			156
第III-65図	12	175	S	1	1	1	甕	口縁	22.2	4.3~	-	石・長・雲・角	明赤	ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	ナテ、ハケ目(左上・横)後ナテ			111
第III-66図	1	164	S	1	2	2	甕	口縁	33.0	1.9~	-	長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ、ナテ			62
第III-66図	2	164	S	1	2・(1)	2	甕	胴~底部	-	11.9~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	ハケ目(縦)後ナテ	ハケ目(右上)後ナテ、ナテ、指頭圧痕	スス付		68
第III-66図	3	164	S	1	2	2	甕	底部	-	5.0~	6.2	石・長・雲	にぶい黄	ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ	ナテ	スス付		17
第III-66図	4	164	S	1	1	1	甕	口縁	(測定不能)	3.6~	-	石・長・雲	明黄	横ナテ	横ナテ、ナテ			570
第III-66図	5	164	S	1	1	1	甕	口縁	(19.2)	1.6~	-	石・長・雲・角	黄	横ナテ、ナテ	ナテ			65
第III-66図	6	164	S	1	1	1	甕	口縁~胴部	23.6	4.8~	-	長・雲・角・赤	浅黄	横ナテ、突帯	横ナテ、横ナテ後ハケ目(縦)			60
第III-66図	7	164	S	1	1	1	甕	胴部	-	2.3~	-	石・長・雲・角	黄	横ナテ	横ナテ、ナテ			63
第III-66図	8	164	S	1	1	1	甕	底部	-	5.3~	-	石・長・雲・角	黄	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕			568
第III-66図	9	164	S	1	1	1	甕	底部	-	3.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	ハケ目(縦)、ナテ	指ナテ	スス付		67
第III-66図	10	164	S	1	1	1	甕	口縁	(27.0)	2.25~	-	石・長・雲・角	明黄	横ナテ	横ナテ			605
第III-66図	11	164	S	1	1	1	甕	口縁	(15.8)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄	横ナテ、ナテ	ナテ			70
第III-66図	12	164	S	1	1	1	甕	口縁	(12.6)	2.3~	-	長・雲・角	黄	ミガキ(横)後、ナテ、横ナテ	横ナテ、ナテ			71
第III-66図	13	164	S	1	1	1	甕	底部	-	2.1~	4.0	石・長・雲	灰黄	ミガキ(縦)、ナテ	ハケ目(縦)、工具によるナテ			66
第III-68図	1	163	S	1	2	2	甕	口縁	19.4	1.9~	-	石・長・角	黄	横ナテ	横ナテ			564
第III-68図	2	163	S	1	2	2	甕	口縁	(30.0)	1.8~	-	石・長・角	灰黄	横ナテ	横ナテ			566
第III-68図	3	163	S	1	2	2	甕	口縁	27.0	2.2~	-	長・石・角・雲・赤	にぶい黄	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土		95
第III-68図	4	163	S	1	2	2	甕	口縁	34.6	5.3~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土		82
第III-68図	5	163	S	1	2	2	甕	口縁	24.8	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			91
第III-68図	6	163	S	1	2	2	甕	口縁	(11.8)	2.0~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			116
第III-68図	7	163	S	1	2	2	甕	底部	-	3.6~	10.4	石・長・雲・角・赤	にぶい黄	ハケ目(縦)、ナテ	底			83
第III-68図	8	163	S	1	2	2	甕	底部	-	2.8~	6.2	石・長・雲・角・赤	黄	ナテ、工具によるナテ	ナテ、指頭圧痕			80
第III-68図	9	163	S	1	1	1	甕	口縁	23.4	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	黄	横ナテ	横ナテ			709
第III-68図	10	163	S	1	1	1	甕	口縁	26.2	3.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			89
第III-68図	11	163	S	1	1	1	甕	口縁	(24.0)	2.6~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			96
第III-68図	12	163	S	1	1	1	甕	口縁~胴部	22.0	5.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ、ヘラによる圧痕			579
第III-68図	13	163	S	1	1	1	甕	底部	-	2.9~	5.3	石・長・雲・角	にぶい黄	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	底			567
第III-68図	14	163	S	1	トレ	1	甕	底部	-	5.3~	9.0	石・長・雲・角	にぶい黄	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	ナテ			87
第III-68図	15	163	S	1	1	1	甕	底部	-	3.4~	7.4	石・長・雲・角	にぶい黄	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	底			86
第III-68図	16	163	S	1	1	1	鉢	口縁	(22.0)	1.4~	-	石・長・雲	浅黄	横ナテ	横ナテ			90

2区堅穴住居・弥生土器観察表3

検出 番号	検出 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-68図	17	163	S I	1	1	鉢	口縁	(10.0~15.0)	2.1~	-	長・雲・角	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		562	
第III-68図	18	163	S I	トレ	1	甕	口縁	(19.6)	1.7~	-	雲・角・赤	にぶい黄	横ナテ	横ナテ		85	
第III-68図	19	163	S I	1	1	甕	口縁	(8.4)	1.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		97	
第III-68図	20	163	S I	1	1	甕	口縁	(11.6)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		93	
第III-68図	21	163	S I	1	1	甕	口縁	(15.6)	3.2~	-	長・雲・角・赤	灰黄緑	横ナテ	横ナテ		84	
第III-68図	22	163	S I	1	1	甕	胴部	-	8.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、刻み目突起、ハケ目 (縦) 後ナテ	ナテ	(最大口径28.0cm)	447	
第III-68図	23	163	S I	1	1	甕	底部	-	2.8~	7.8	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (縦)、ナテ	ナテ		79	
第III-70図	1	160	S I	床面	No	甕	口縁~胴部	30.0	23.6~	-	石・長・角	灰白	横ナテ、突起、ハケ目 (多方向)	横ナテ、ハケ目 (左上)	類似土器2層出土 (最大口径32.0cm)	250	PL-25
第III-70図	2	160	S I	床面・1	No	甕	口縁~胴部	21.2	18.7~	-	石・長・雲・角・赤	赤橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ	(最大口径22.6cm)	61	
第III-70図	3	160	S I	床面・1	No	甕	口縁~頸部	18.2	5.7~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (右上) 後横ナテ	横ナテ、ナテ		30	
第III-70図	4	160	S I	床面下	床面	甕	口縁	(25.0)	2.2~	-	石・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		36	
第III-70図	5	160	S I	床面	床面	無頸甕	口縁	(測定不能)	3.4~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	ナテ	黒斑	50	
第III-70図	6	160	S I	床面下	床面	甕	口縁	(14.8)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	工具による横ナテ、横ナテ	黒斑	53	PL-26
第III-70図	7	160	S I	床面・1	床面	甕	口縁~胴部	28.9	9.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ハケ目 (多方向)	黒斑	51	
第III-70図	8	160	S I	床面	床面	甕	底部	-	7.8~	6.6	石・長・雲・角・赤	橙・黒褐	ハケ目 (左上・右上)、ナテ	ナテ、指ナテ	スス付	64	
第III-70図	9	160	S I	床面・2	床面	甕	口縁	24.1	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ		57	
第III-70図	10	160	S I	2	3	甕	口縁~胴部	27.6	8.5~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、ヘラナテ、ナテ	横ナテ、ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	(最大口径26.0cm) 類似土器3層出土	29	
第III-70図	11	160	S I	2	3	甕	口縁	(22.8)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	灰黄	横ナテ	横ナテ	類似土器3層出土	69	
第III-71図	1	160	S I	1	2	甕	口縁	(41.6)	2.3~	-	長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	32	
第III-71図	2	160	S I	2	2	甕	口縁	(19.4)	1.5~	-	長・角・赤	浅黄橙	横ナテ、工具によるナテ	横ナテ		45	
第III-71図	3	160	S I	1	2	甕	口縁	(20.0)	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2層出土	40	
第III-71図	4	160	S I	1	2	甕	口縁	(29.4)	2.2~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2層出土	42	
第III-71図	5	160	S I	2	2	甕 (穿孔)	口縁	(22.2)	3.9~	13.6	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		31	
第III-71図	6	160	S I	1	2	甕	口縁	(17.2)	1.7~	-	長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	44	
第III-71図	7	160	S I	2・1	2	甕	底部	-	1.8~	13.6	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		26	
第III-71図	8	160	S I	1	1	甕	口縁	(36.8)	3.1~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		37	
第III-71図	9	160	S I	1	1	甕	口縁	(25.2)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		43	
第III-71図	10	160	S I	1	1	甕	口縁	(47.0)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙・灰黄緑	横ナテ	横ナテ、ナテ		49	
第III-71図	11	160	S I	1	1	甕	口縁	27.1	3.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		41	
第III-71図	12	160	S I	1	1	甕	底部	-	5.9~	9.2	石・長・雲・角	にぶい黄橙・橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、ナテ	ハケ目 (右上)、ナテ	スス付	54	
第III-71図	13	160	S I	1	1	浅鉢	口縁~胴部	14.9	3.5~	-	石・長・角	にぶい橙	横ナテ、ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、ヘラナテ	(最大口径11.7cm)	34	
第III-71図	14	160	S I	1	1	鉢	口縁	(16.2)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	ナテ		52	
第III-71図	15	160	S I	1	1	鉢	底部	-	1.5~	2.2	長・雲・角	にぶい赤褐・にぶい褐	ナテ、ミガキ痕	ハケ目 (多方向)		56	
第III-71図	16	160	S I	1	1	甕	口縁	(23.2)	2.7~	-	雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		39	
第III-71図	17	160	S I	1	1	甕	口縁	21.6	3.2~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		652	
第III-71図	18	160	S I	1	1	甕	口縁	21.4	3.7~	-	雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		48	
第III-71図	19	160	S I	1	1	甕	口縁	(25.4)	3.5~	-	石・長・角	褐灰	横ナテ	ハケ目 (横)		46	
第III-71図	20	160	S I	1	1	甕	口縁~胴部	(12.8)	5.8~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ、ナテ後ハケ目 (右上)		27	
第III-71図	21	160	S I	1	1	甕	口縁	18.0	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	褐灰	ミガキ (多方向) 後横ナテ、横ナテ	ミガキ後横ナテ		35	
第III-71図	22	160	S I	1	1	複合口縁甕	口縁	(14.8)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙・灰黄褐	横ナテ、ナテ	横ナテ		28	
第III-71図	23	160	S I	1	1	甕	口縁~胴部	-	5.6~	-	石・長・雲・角・赤	褐灰	ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ、二条突起、横ナテ	ハケ目 (横) 後ナテ	端部欠損	38	
第III-71図	24	160	S I	1	1	甕	胴部	-	3.6~	-	石・長・雲・角	黒褐	沈線、ナテ、ハケ目 (縦)	ハケ目 (右上)、ナテ	(最大口径18.1cm)	310	
第III-71図	25	160	S I	1	1	甕	底部	-	3.4~	13.2	長・雲・角・赤	灰褐	ナテ	ナテ		59	
第III-71図	26	160	S I	1	1	甕	底部	-	2.0~	10.0	石・長・雲・角	にぶい黄橙・灰	ミガキ (横)、横ナテ	ミガキ (多方向)		58	
第III-73図	1	172	S I	P	P	鉢	口縁	20.4	1.5~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		353	
第III-73図	2	172	S I	P	P	甕	口縁	19.0	2.9~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	ナテ後暗文 (縦)	赤色顔料	361	
第III-73図	3	172	S I	P	P	甕	口縁	(16.4)	1.5~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ痕	横ナテ		355	
第III-73図	4	172	S I	1	1	甕	口縁	(20.0)	1.8~	-	石・長・角	灰黄	横ナテ	横ナテ	端部欠損	358	
第III-73図	5	172	S I	1	1	甕	口縁	(15.4)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ミガキ痕 (横)、横ナテ	横ナテ		356	
第III-78図	1	187	S I	2	2	甕	底部	-	1.7~	(8.8)	雲・角・赤	にぶい黄褐・褐灰	横ナテ、横ナテ後ハケ目 (縦)	横ナテ		164	
第III-79図	1	182	S I	2	2	甕	口縁	(28.9)	2.8~	-	長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		136	
第III-79図	2	182	S I	2	2	甕	口縁~胴部	19.2	4.6~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突起	横ナテ、ナテ	実449・226と同ー?	129	
第III-79図	3	182	S I	2・(1)	2	甕	胴部	-	17.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、刻み目突起、ミガキ (縦) 後ナテ	ハケ目 (横) 後横ナテ、指ナテ	実129・226と同ー? (最大口径27.4cm)	449	
第III-79図	4	182	S I	2	2	甕	底部	-	6.9~	7.3	長・雲・角・赤	にぶい黄橙・灰黄褐	ナテ	指ナテ、指頭庄痕	実129・449と同ー?	226	
第III-79図	5	182	S I	2	2	甕	口縁	(14.2)	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	褐灰	横ナテ	ナテ		143	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 4

埴田 番号	枝 番号	追柄 番号	追柄 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-79回	6	182	S I 2	2	2	壺	口縁	(28.6)	2.9~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			131
第III-79回	7	182	S I 2	2	2	壺	口縁	17.0	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			611
第III-79回	8	182	S I 1	1	1	壺	口縁	(31.2)	2.9~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			138
第III-79回	9	182	S I 1	1	1	鉢	口縁~頭部	21.0	3.7~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			130
第III-79回	10	182	S I 1・(-)	1	1	高坏	坏部	21.8	6.9~	-	石・長・雲・角	赤	随文(縦)、横ナテ、ナテ	ミガキ(横)		2363	PL-25
第III-81回	1	176	S I 1	1	1	壺	口縁	(15.6)	1.7~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			125
第III-81回	2	176	S I 1	1	1	壺	口縁	23.8	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい赤褐	横ナテ	横ナテ			118
第III-81回	3	176	S I 1	1	1	壺	口縁	(15.0)	2.0~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	ナテ、横ナテ			119
第III-81回	4	176	S I 1	1	1	壺	底部	-	3.4~	(8.4)	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	直滅			163
第III-81回	5	176	S I 1	1	1	壺	口縁	(28.2)	4.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			114
第III-81回	6	176	S I 1	1	1	無頭壺	口縁	(測定不能)	1.6~	-	雲・角	赤	横ナテ	横ナテ	赤色顔料		132
第III-81回	7	176	S I 1	1	1	無頭壺	口縁	(17.0)	3.0~	-	長・雲・角	赤褐・橙	ナテ	ナテ、横ナテ			139
第III-82回	1	185	S I 床面・(攪乱)	No	No	壺	口縁~胴部	27.2	22.7~	-	石・長・雲・角	明黄褐・黒褐	横ナテ、突帯、ナテ	横ナテ、指ナテ後ナテ	(最大胴径26.9cm)		550
第III-82回	2	185	S I 床面	No	No	壺	胴~底部	-	19.0~	6.0	石・長・雲・角	にぶい黄橙・にぶい黄橙	ミガキ(横)、ナテ	指頭圧痕、指ナテ後ハケ目(縦)、ナテ	(最大胴径27.4cm)		662
第III-82回	3	185	S I 2	2	2	壺	口縁	(24.0)	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			151
第III-82回	4	185	S I 1	1	1	壺	口縁	(21.6)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ、ナテ			171
第III-82回	5	185	S I 1	1	1	壺	口縁	31.0	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			141
第III-82回	6	185	S I 1	1	1	壺	底部	-	2.9~	(5.0)	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	直滅			154
第III-82回	7	185	S I 1	1	1	壺	口縁	(23.4)	2.0~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			166
第III-82回	8	185	S I 1	1	1	壺	口縁	(18.4)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、押圧文(横ハケ・斜めハケ)	横ナテ			158
第III-82回	9	185	S I 1	1	1	壺	口縁	22.6	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ、ハケ目(縦)後ナテ 刻み目文(端部)	横ナテ			144
第III-83回	1	177	S I 1	3	3	壺	口縁	(23.6)	2.2~	-	長・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土		133
第III-83回	2	177	S I 3	3	3	壺	口縁	(12.4)	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	灰白	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土		122
第III-83回	3	177	S I 3	3	3	壺	口縁	(10.8)	1.4~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			134
第III-83回	4	177	S I 1	3	3	壺	口縁	(16.0)	2.3~	-	長・角・赤	浅黄橙	ミガキ(横)、横ナテ	ミガキ(横)	類似土器3・1層出土		193
第III-83回	5	177	S I 3	3	3	壺	頸部	-	2.5~	-	長・雲・角	にぶい黄褐・黒褐	ミガキ(横)	ミガキ(横)	黒色土器、焼しあり		612
第III-83回	6	177	S I トレ	3	1	蓋	天井部	-	2.2~	-	石・長・雲・角	橙	ナテ	しほり痕、しほり後ナテ、指頭圧痕、ナテ	赤色顔料		128
第III-83回	7	177	S I 2	2	2	壺	口縁	(16.4)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			124
第III-83回	8	177	S I 2	2	2	壺	口縁~頭部	30.9	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ			126
第III-83回	9	177	S I 2	2	2	壺	底部	-	2.6~	7.6	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ、ナテ後板ナテ(縦)、横ナテ	直滅			135
第III-83回	10	177	S I 1	1	1	壺	口縁	(25.2)	2.2~	-	長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			127
第III-83回	11	177	S I 1	1	1	壺	口縁	(30.4)	2.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			120
第III-83回	12	177	S I 1	1	1	壺	口縁	(25.0)	3.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後随文(縦)	横ナテ			137
第III-83回	13	177	S I 1	1	1	無頭壺	口縁	14.4	1.75~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(右上)	横ナテ			121
第III-83回	14	177	S I 1	3	3	壺	脚部	-	2.3~	(18.0)	石・長・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後横ナテ			123
第III-87回	1	167	S X 床面・4・3 2・1・包	床面	No	壺	壺棺 完形	72	78.3	10.8	長・石・雲・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)、突帯、ナテ ハケ目(縦)、指頭圧痕	横ナテ、ナテ	(最大胴径60.5cm)	2367	PL-26
第III-88回	1	167	S X 床面	No	No	壺	口縁	(31.4)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			198
第III-88回	2	167	S X 胴部	No	No	壺	口縁	21.6	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			189
第III-88回	3	167	S X 床面・胴部	No	No	壺	口縁~胴部	20.4	28.2~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、横ナテ後ハケ目(縦)、刻み目突帯	横ナテ	黒斑、(最大胴径28.2cm)		165
第III-88回	4	167	S X 胴部	No	No	壺	口縁	(20.0)	3.8~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			176
第III-88回	5	167	S X 床面	No	No	壺	口縁	(24.2)	3.3~	-	長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			172
第III-88回	6	167	S X 床面	床面	壺	口縁~頭部	29.8	3.9~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			170	
第III-88回	7	167	S X 床面	床面	壺	口縁	26.4	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器床面・2・1層出土		181	
第III-88回	8	167	S X 床面	床面	壺	口縁	23.0	2.3~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後横ナテ	類似土器床面・3・2・1層出土		178	
第III-88回	9	167	S X 床面	床面	壺	底部	-	1.8~	7.8	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	直滅			179	
第III-88回	10	167	S X 2	床面	壺	底部	-	3.2~	7.9	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)、ナテ	直滅	類似土器床面・2層出土		199	
第III-88回	11	167	S X 床面	床面	壺(穿孔)	口縁	(14.0)	4.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、突帯、横ナテ後随文(縦)	横ナテ、ナテ			168	
第III-88回	12	167	S X 床面・1	床面	壺	口縁	30.0	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器床面・2・1層出土		186	
第III-88回	13	167	S X 床面	床面	壺	底部	-	3.5~	6.0	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ナテ後ハケ目(縦)、ナテ	ナテ、指頭圧痕			169	
第III-88回	14	167	S X 胴部	胴部	壺	口縁	25.5	3.35~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙・橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			266	
第III-88回	15	167	S X 3	3	3	壺	底部	-	4.8~	9.2	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕	スス付痕	185	PL-26
第III-88回	16	167	S X 2	3	3	壺	口縁	(31.8)	3.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3層出土		177
第III-88回	17	167	S X 3	3	3	無頭壺	口縁	19.0	5.2~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			719

2区 堅穴住居・弥生土器観察表 5

挿入 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色釉	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-89回	1	167	S X	1	2	壺	口縁	(23.6)	2.3~	-	長・角	浅黄橙	ナテ、横ナテ	ナテ、横ナテ	類似土器2・1層出土	213	
第III-89回	2	167	S X	2	2	壺	口縁	37.2	3.0~	-	石・長・壺・角	赤褐	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	180	
第III-89回	3	167	S X	1	2	壺	口縁	31.4	2.4~	-	石・長・壺・角	浅黄橙	ナテ	ナテ	類似土器2・1層出土	184	
第III-89回	4	167	S X	1	2	壺	口縁	(16.6)	1.9~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	191	
第III-89回	5	167	S X	2	2	壺	口縁	28.0	3.1~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後横ナテ		722	
第III-89回	6	167	S X	2	2	壺	底部	-	4.2~	9.6	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ナテ後ハケ目(縦)	唐滅	砂付層	197	
第III-89回	7	167	S X	2	2	壺	底部	-	4.1~	8.3	石・長・壺・角・赤	橙	ナテ	唐滅		201	
第III-89回	8	167	S X	2	2	壺	口縁	(20.0)	2.4~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		717	
第III-89回	9	167	S X	2	2	壺	口縁	(18.7)	1.4~	-	石・長・壺・角	浅黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	へらによる圧痕	202	
第III-89回	10	167	S X	2	2	壺	口縁	(34.0)	2.1~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ痕(横)		200	
第III-89回	11	167	S X	2	2	高坏	口縁	(24.4)	1.6~	-	石・長・壺・角	浅黄・黒	横ナテ	横ナテ		228	
第III-89回	12	167	S X	1	1	壺	口縁	29.2	2.8~	-	石・長・壺・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		194	
第III-89回	13	167	S X	-	1	壺	口縁	(23.8)	2.4~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		182	
第III-89回	14	167	S X	1	1	壺	口縁	(29.6)	3.6~	-	長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、	横ナテ		205	
第III-89回	15	167	S X	1	1	壺	口縁	24.0	4.0~	-	石・長・壺・角・赤	赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	赤色顔料	714	
第III-89回	16	167	S X	-	1	壺	底部	-	2.3~	6.1	石・長・壺・角	橙	ナテ、横ナテ	唐滅		195	
第III-89回	17	167	S X	1	1	鉢	口縁	21.0	7.0~	-	長・壺・角	橙	横ナテ、工具による圧痕	横ナテ、ナテ		234	PL-26
第III-89回	18	167	S X	1	1	壺	口縁	(13.8)	2.9~	-	長・石・壺・赤	浅黄橙	横ナテ、ナテ後刻み目文(端部)	横ナテ		187	
第III-89回	19	167	S X	1	1	壺	口縁	(28.0)	3.2~	-	石・長・角	赤褐	横ナテ、工具によるナテ	横ナテ		393	
第III-89回	20	167	S X	1	1	壺	口縁	(10.8)	1.2~	-	石・長・角	赤褐	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	710	
第III-89回	21	167	S X	1	1	壺	口縁	28.6	3.8~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、工具による横ナテ		192	
第III-89回	22	167	S X	1	1	無頸器	口縁	(22.0)	3.5~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(左上)後ナテ、横ナテ	ハケ目(左上)後ナテ		188	
第III-89回	23	167	S X	1	1	壺	胴部	-	6.4~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ、突起、刻み目突起、ハケ目(縦)	ナテ		736	
第III-89回	24	167	S X	1	1	鉢	底部	-	2.1~	9.0	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後横ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕		203	
第III-89回	25	167	S X	-	1	壺	底部	-	2.3~	7.9	石・長・壺・角・赤	瓜褐・灰黄褐	ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	ハケ目(多方向)後ナテ、ナテ		196	
第III-89回	26	167	S X	-	1	高坏	口縁	(22.4)	1.0~	-	石・長・壺・角	赤褐	陶文(縦)、横ナテ	唐滅	赤色顔料	711	
第III-89回	27	167	S X	トレ	1	高坏	脚上部	-	4.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	ナテ		190	
第III-89回	28	167	S X	1	1	高坏	脚部	-	10.2~	15.0	長・壺・角・赤	にぶい橙	ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ		24	
第III-92回	1	297	S I	2	2	壺	底部	-	2.8~	7.4	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(多方向)後ナテ、横ナテ、ナテ	唐滅		409	
第III-92回	2	297	S I	2	2	壺	底部	-	2.5~	(4.0)	長・壺・角	橙	ナテ、ハケ目(縦)	ナテ		600	
第III-92回	3	297	S I	2	2	壺	口縁	(30.0)	1.5~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		397	
第III-92回	4	297	S I	2	2	壺	口縁	(10.0)	1.6~	-	石・長・壺	明黄褐	横ナテ、ナテ	横ナテ		396	
第III-93回	1	169	S I	床面	床面	壺	口縁	22.0	2.1~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		255	
第III-93回	2	169	S I	1下	床面	壺	口縁	25.6	2.8~	-	石・長・壺・角	明赤褐	ナテ、横ナテ、	ナテ、横ナテ	類似土器床面・3下・2・1層出土	227	
第III-93回	3	169	S I	2	床面	壺	口縁~頭部	26.0	5.4~	-	石・長・壺・角	にぶい橙・橙	ナテ、横ナテ	ナテ、横ナテ	類似土器床面・2・1層出土	221	
第III-93回	4	169	S I	床面	床面	壺	口縁	22.0	1.6~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		452	
第III-93回	5	169	S I	1下	床面	壺	口縁	21.4	2.4~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器床面・3上・2・1層出土	238	
第III-93回	6	169	S I	床面・1	床面	壺	口縁~頭部	26.0	6.0~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		230	
第III-93回	7	169	S I	床面	床面	壺	底部	-	2.7~	12.0	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	唐滅		419	
第III-93回	8	169	S I	1上	床面	壺	底部	-	5.3~	10.0	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ、横ナテ	類似土器床面・1層出土	239	
第III-93回	9	169	S I	床面	床面	壺	底部	-	3.3~	10.0	石・長・壺・角	橙	横ナテ	唐滅		446	
第III-93回	10	169	S I	床面	床面	壺	把手	-	5.6~	-	長・石	赤	ハケ目(右上)、ナテ後指頭圧痕	ナテ	(把手付鉢)赤色顔料	433	
第III-93回	11	169	S I	床面	床面	壺	口縁	(11.0)	1.8~	-	壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		598	
第III-93回	12	169	S I	床面	床面	壺	口縁	(測定不能)	1.4~	-	壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		599	
第III-93回	13	169	S I	床面	床面	壺	口縁	26.2	6.0~	-	長・壺・角・赤	にぶい赤褐・橙	横ナテ	横ナテ		252	
第III-93回	14	169	S I	床面	床面	高坏	脚部	-	2.65~	17.6	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ(横)	横ナテ		416	
第III-93回	15	169	S I	厨部	厨部	壺(穿孔)	口縁	19.8	1.9~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		241	
第III-93回	16	169	S I	厨部	厨部	壺	口縁	27.5	3.2~	-	長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		244	
第III-93回	17	169	S I	厨部	厨部	壺	口縁	(15.4)	2.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、2条刻み目文	横ナテ		280	
第III-93回	18	169	S I	厨部	厨部	無頸器	口縁	(10.7)	4.5~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	ハケ目(左上)後ナテ、横ナテ	横ナテ		558	
第III-93回	19	169	S I	1下	3下	壺	口縁~胴部	29.0	10.3~	-	石・長・壺・角・赤	瓜褐・浅黄	横ナテ、ナテ後ハケ目(左上)	横ナテ、ナテ後ハケ目(右上・多方向)	類似土器・3下・2・1層出土	242	
第III-93回	20	169	S I	3上	3下	壺	口縁	24.0	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	灰黄褐	横ナテ	横ナテ		249	
第III-93回	21	169	S I	3上	3下	壺(穿孔)	口縁	19.6	1.9~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		235	
第III-94回	1	169	S I	2	2	壺	口縁~頭部	26.4	5.5~	-	石・長・壺・角	橙	ナテ、突起	ナテ		219	

2区 竪穴住居・弥生土器観察表 6

押出 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 層位	図録 番号
第III-94図	2	169	S I	2	2	甕	口縁	30.4	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	灰白	横ナテ	ナテ	類似土器2・1層出土	243	
第III-94図	3	169	S I	2	2	甕	口縁	33.6	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ナテ、指ナテ後横ナテ	ナテ		225	
第III-94図	4	169	S I	1下	2	甕	口縁~胴部	16.0	4.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ナテ、ナテ後ハケ目(縦)	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	208	
第III-94図	5	169	S I	1下	2	甕	口縁	20.8	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	232	
第III-94図	6	169	S I	2	2	甕	口縁	26.6	3.1~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		204	
第III-94図	7	169	S I	2	2	甕	口縁~胴部	19.4	6.1~	-	石・長・雲・角	明赤褐・黒褐	横ナテ	横ナテ、ナテ後ハケ目(右上)		209	
第III-94図	8	169	S I	1上	2	甕	底部	-	4.2~	6.2	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	肩減	類似土器2・1層出土	253	
第III-94図	9	169	S I	2	2	甕	口縁	29.8	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	赤褐	横ナテ、ナテ、暗文(縦)	ナテ		450	
第III-94図	10	169	S I	2	2	甕	口縁	20.2	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ナテ	赤色顔料	260	
第III-94図	11	169	S I	2	2	甕	頸部~胴部	-	15.7~	-	石・長・雲・角・赤	赤・橙	突帯、ハケ目(縦・多方向)、刻み目突帯	ハケ目(右上)	黒斑(最大胴径32.0cm)類似土器1層出土	716	
第III-94図	12	169	S I	2・1下・(1)	2	甕	底部	-	6.2~	7	石・長・雲・角・赤	浅黄・にぶい黄橙	ナテ	ナテ	スズ付型	256	
第III-94図	13	169	S I	2	2	甕	底部	-	4.5~	6.2	石・長・雲	赤褐・赤	ナテ	指ナテ		210	
第III-94図	14	169	S I	2	2	甕	底部	-	1.5~	4.6	長・雲・赤	にぶい黄橙・灰黄褐	ナテ後ミガキ(横)、ナテ	指ナテ		218	
第III-94図	15	169	S I	2	2	甕	天井部	-	1.0~	-	長・雲・角・赤	明黄褐	ナテ、横ナテ、刻み目文	ナテ		284	
第III-94図	16	169	S I	2	2	坏	底部	-	2.6~	9.0	長・雲・角・赤	橙・にぶい橙	回転ナテ、暗文(横)、回転ヘラケズリ	ナテ後暗文(円周方向)	(土師器) 回転台使用	592	
第III-94図	17	169	S I	2	2	甕	完形	-	7.7~	7.1	石・長・雲・角・赤	灰	回転ナテ、ナテ、横ナテ	ナテ	(須恵器) 回転台使用(最大胴径9.7cm)	19	PL-26
第III-95図	1	169	S I	1下	1下	甕	口縁	30.0	2.7~	-	石・長・雲・角	灰白	横ナテ	横ナテ		233	
第III-95図	2	169	S I	-	1下	甕	口縁	28.0	3.4~	-	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ		222	
第III-95図	3	169	S I	1下	1下	甕	口縁~頸部	20.0	5~	-	長・雲・角・赤	灰黄褐・黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	231	
第III-95図	4	169	S I	1下	1下	甕	口縁~頸部	30.8	4.6~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ		211	
第III-95図	5	169	S I	1下・1上	1下	甕	口縁	18.6	3.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ	ハケ目(横) 後ナテ、ナテ		214	
第III-95図	6	169	S I	1下	1下	甕	口縁	(33.4)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横) 後ナテ		214	
第III-95図	7	169	S I	1上	1下	甕	底部	-	3.5~	5.6	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦) 後ナテ、横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	587	
第III-95図	8	169	S I	1下	1下	甕	底部	-	2.7~	(5.8)	石・長・雲	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	肩減		111	
第III-95図	9	169	S I	-	1下	甕	底部	-	3.2~	9.4	石・長・雲・角・赤	橙・にぶい黄橙	ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	肩減	類似土器1下層出土	262	
第III-95図	10	169	S I	1下	1下	甕	底部	-	3.5~	(9.0)	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	肩減		281	
第III-95図	11	169	S I	1下	1下	鉢	口縁	33.4	3.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ痕(横)、横ナテ	ミガキ痕(横)		245	
第III-95図	12	169	S I	1下	1下	鉢	口縁	(54.0)	2.2~	-	長・石・雲・赤	橙	横ナテ	横ナテ		248	
第III-95図	13	169	S I	1下	1下	坏	口縁	13.6	2.1~	-	長・雲・角	橙	横ナテ、暗文(横)	横ナテ、暗文(横)	(土師器) 赤色顔料	586	
第III-95図	14	169	S I	1上	1上	甕	口縁	(12.4)	1.8~	-	長・雲・角	橙・にぶい黄橙	横ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ		251	
第III-95図	15	169	S I	1上	1上	甕	口縁	(46.0)	3.0~	-	長・雲・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		585	
第III-95図	16	169	S I	1上	1上	甕	口縁	21.4	6.2~	-	長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、工具によるナテ、ナテ後ハケ目(左上)	横ナテ、ナテ後ハケ目(左上)、ナテ		224	
第III-95図	17	169	S I	1上	1上	甕	底部	-	3.7~	7.6	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ	肩減		278	
第III-95図	18	169	S I	1上	1上	甕	底部	-	3.1~	(10.7)	長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	肩減		273	
第III-95図	19	169	S I	1上	1上	甕	口縁~頸部	25.6	4.8~	-	石・長・雲・角	明赤褐・灰	横ナテ	横ナテ		212	
第III-95図	20	169	S I	1上	1上	甕	口縁~胴部	27.8	6.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ナテ後ハケ目(左上)	横ナテ、ナテ後ハケ目(横・多方向)		220	
第III-95図	21	169	S I	1上	1上	甕	口縁	20.8	2.9~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ、ハケ目(縦) 後ナテ	ナテ	黒斑	215	
第III-95図	22	169	S I	1上	1上	甕	口縁	27.6	2.8~	-	石・長・雲・角	褐灰・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		578	
第III-96図	1	169	S I	1上	1上	甕	口縁	23.6	4.0~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		240	
第III-96図	2	169	S I	1上	1上	甕	口縁	21.2	3.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ後ミガキ(横)		262	
第III-96図	3	169	S I	-	1上	甕	口縁	23.6	5.7~	-	長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		217	
第III-96図	4	169	S I	-	1上	甕	口縁	26.6	4.5~	-	雲・角	灰黄・黄灰	横ナテ、ハケ目(縦) 後暗文(縦)	横ナテ		254	
第III-96図	5	169	S I	1上	1上	甕	口縁	(16.0)	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		290	
第III-96図	6	169	S I	1上	1上	甕	口縁	24.0	4.8~	-	石・雲・角・赤	赤褐・にぶい黄橙	横ナテ、ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ナテ後ミガキ(横)		267	
第III-96図	7	169	S I	1上	1上	甕	口縁	4.1	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		237	
第III-96図	8	169	S I	1上	1上	甕	底部	-	2.4~	9.2	石・長・雲・角・赤	暗灰・にぶい橙	ハケ目(縦・多方向) 後ナテ、横ナテ	ハケ目(右上) 後ナテ		229	
第III-96図	9	169	S I	1上	1上	甕	底部	-	1.7~	8.0	長・角・赤	にぶい橙	ナテ、横ナテ、刻み目文	指頭圧痕		257	
第III-96図	10	169	S I	-	1上	甕	底部	-	2.0~	7.0	石・長・雲・角・赤	灰黄褐	ナテ	ナテ		258	
第III-96図	11	169	S I	1上	1上	甕	底部	-	1.4~	7.0	長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ	ナテ		223	
第III-96図	12	169	S I	1上	1上	甕	底部	-	6.0~	5.6	石・長・角・赤	にぶい黄	ナテ後ハケ目(縦)、ナテ	横ナテ、指頭圧痕		259	
第III-96図	13	169	S I	1上・トレ	1上	高坏	口縁	25.9	1.0~	-	石・長・雲・角	赤褐	暗文(縦)、横ナテ、ナテ	肩減	黒斑	279	
第III-101図	1	292	S I	P	P	甕	口縁	(24.8)	2.2~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		478	
第III-101図	2	292	S I	P	P	甕	口縁	(30.0)	3.5~	-	石・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		434	
第III-101図	3	292	S I	床面	床面	甕	口縁	(15.0)	2.0~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		425	
第III-103図	1	179	S I	床面	床面	甕	口縁	28.8	3.2~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、横ナテ後ハケ目(横)		401	

2区竪穴住居・弥生土器観察表7

挿筒 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-103回	2	179	S1	4下	4下	高杯	口縁	29.9	2.1~	-	長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ	回廊台使用、類似土器1層出土	359	
第III-103回	3	179	S1	1	4	甕	口縁	19.6	3.6~	-	石・長・雲・角	浅黄	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器4・1層出土	444	
第III-103回	4	179	S1	3	3	甕	口縁	25.0	3.6~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		405	
第III-103回	5	179	S1	3・(3)	3	甕	口縁	29.6	5.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		320	
第III-103回	6	179	S1	3・トレ・攪乱	3	甕	口縁~頸部	27.0	6.7~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ、突帯、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ		761	
第III-103回	7	179	S1	3	3	甕	底部	-	2.0~	8.8	長・雲・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	磨減		362	
第III-103回	8	179	S1	3・攪乱	3	甕	口縁	29.8	5.1~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後陶文(縦)、指ナテ痕	横ナテ		400	
第III-103回	9	179	S1	3	3	甕	口縁	(測定不能)	2.4~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		392	
第III-103回	10	179	S1	3	3	甕	口縁	(12.4)	1.7~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		390	
第III-103回	11	179	S1	3	3	甕	口縁	(15.0)	1.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		378	
第III-103回	12	179	S1	3	3	甕	胴部	-	13.0~	-	石・長・雲・角	灰黄	刻み目突帯、ミガキ(横)	ハケ目(左上)後ナテ	(最大胴径33.0cm)	495	
第III-103回	13	179	S1	3	3	甕	底部	-	1.8~	(8.4)	石・長・雲・角・赤	褐色	磨減	ナテ		363	
第III-103回	14	179	S1	3	3	甕	底部	-	6.0~	6.2	石・長・雲・角・赤	明赤褐	ハケ目(縦)、ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕		357	
第III-103回	15	179	S1	3	3	甕	底部	-	2.7~	9.0	石・長・雲・角	にぶい黄橙	指ナテ後ミガキ(多方向)、指頭圧痕	磨減	赤彩痕	385	
第III-103回	16	179	S1	トレ	2	甕	口縁~胴部	21.6	8.3~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、突帯、ナテ	横ナテ、ナテ	スス付貯、類似土器2・1層出土	360	
第III-103回	17	179	S1	トレ	2	甕	口縁	28.0	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	406	
第III-103回	18	179	S1	2	2	甕	底部	-	3.8~	7.6	石・長・雲・角	にぶい黄橙	指頭圧痕、ナテ	ナテ		368	
第III-103回	19	179	S1	2	2	甕	底部	-	2.5~	7.0	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	磨減		407	
第III-103回	20	179	S1	2	2	甕	底部	-	4.3~	11.6	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	ハケ目(縦)		386	
第III-103回	21	179	S1	2	2	甕	底部	-	3.2~	8.9	石・長・角・赤	明赤褐	ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ	磨減		379	
第III-104回	1	179	S1	2	2	甕	口縁	24.0	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		366	
第III-104回	2	179	S1	2・(攪乱)	2	甕	口縁	(16.8)	4.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	ハケ目(横)後ナテ		167	
第III-104回	3	179	S1	2	2	甕	口縁	(24.0)	2.0~	-	石・長・雲	黒褐	横ナテ	横ナテ		381	
第III-104回	4	179	S1	2	2	甕	口縁	(20.6)	2.3~	-	石・雲・角	明赤褐	横ナテ、ナテ後ハケ目(縦)	横ナテ		391	
第III-104回	5	179	S1	2	2	甕	口縁	(測定不能)	1.8~	-	石・雲・角	赤褐	横ナテ	陶文(縦)、横ナテ	赤色顔料	387	
第III-104回	6	179	S1	2	2	甕	口縁	(12.0)	1.9~	-	雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ		377	
第III-104回	7	179	S1	2	2	甕	底部	-	2.2~	(6.4)	石・長・雲・角	浅黄橙	ナテ、横ナテ	ナテ	粘土紐の継ぎ目あり	371	
第III-104回	8	179	S1	トレ	1	甕	口縁	26.0	2.1~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		404	
第III-104回	9	179	S1	1	1	甕	口縁~頸部	25.2	4.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		384	
第III-104回	10	179	S1	1	1	甕	口縁~頸部	27.6	6.2~	-	石・角	黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ハケ目(左上・横)		485	
第III-104回	11	179	S1	トレ	1	甕	口縁~胴部	27.6	9.7~	-	石・長・雲・角	灰褐	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ		411	PL-26
第III-104回	12	179	S1	1・(1)	1	甕	口縁~胴部	20.6	6.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ後ハケ目(多方向)	横ナテ、ナテ		236	
第III-104回	13	179	S1	トレ	1	鉢	口縁	(14.4)	1.3~	-	雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		372	
第III-104回	14	179	S1	トレ	1	甕	口縁	(13.0)	2.6~	-	長・雲・角	にぶい赤褐	横ナテ	横ナテ、ナテ		382	
第III-104回	15	179	S1	1	1	甕	口縁	19.0	3.1~	-	石・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		365	
第III-104回	16	179	S1	トレ	1	甕	口縁	(22.6)	2.6~	-	長・雲・赤	明赤褐	横ナテ、ナテ後陶文(縦)	ナテ		308	
第III-104回	17	179	S1	1	1	甕	口縁	(16.0)	2.1~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後ハケ目(多方向)	横ナテ		408	
第III-104回	18	179	S1	トレ	1	甕	口縁	13.2	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		399	
第III-104回	19	179	S1	トレ	1	甕	口縁	17.9	3.7~	-	長・雲・角	明褐	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ		613	
第III-104回	20	179	S1	1	1	甕	口縁	14.4	2.1~	-	雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ、陶文(縦)後横ナテ	横ナテ		412	
第III-104回	21	179	S1	1	1	甕	胴部	-	4.3~	-	石・長・角	浅黄	ハケ目(縦)、刻み目突帯	ナテ		673	
第III-104回	22	179	S1	1	1	甕	底部	-	2.5~	10.2	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ	ナテ、指頭圧痕		380	
第III-104回	23	179	S1	1	1	甕	底部	-	1.8~	7.8	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ	ナテ		373	
第III-106回	1	180	S1	床面	No	甕	口縁	(27.4)	2.2~	-	石・長・雲	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		272	
第III-106回	2	180	S1	床面・1	No	甕	底部	-	10.0~	6.3	石・長・雲・角	にぶい黄橙・浅黄	ハケ目(縦)後ナテ、指頭圧痕後ハケ目(縦)	ナテ、指頭圧痕		299	
第III-106回	3	180	S1	床面	No	甕(穿孔)	完形	15.0	16.7	7.5	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	横ナテ、横ナテ後ハケ目(左上)	黒斑、4ヶの穿孔(最大胴径17.4cm)	16	
第III-106回	4	180	S1	床面	No	甕(穿孔)	口縁~胴部	20.4	4.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ、ナテ		293	
第III-106回	5	180	S1	床面・2・1	2	甕	完形	13.3	28.5	7.9	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、刻み目突帯	横ナテ、ハケ目(横・縦)後ナテ	(最大胴径21.7cm)	559	PL-27
第III-106回	6	180	S1	床面	No	甕	口縁~頸部	18.2	6.4	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(横)		335	
第III-106回	7	180	S1	床面・2・(2)	No	甕	胴~底部	-	19.1~	11.3	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(左上)、ナテ	ハケ目(多方向)、指ナテ	黒斑(最大胴径28.8cm)	575	PL-27
第III-106回	8	180	S1	床面	No	高杯	口縁	19.0	1.3~	-	長・石	赤褐	ミガキ(横)、横ナテ、ミガキ痕	横ナテ	黒斑	307	
第III-106回	9	180	S1	床面	甕	口縁	31.2	3.8~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	ナテ		276		

2区竪穴住居・弥生土器観察表 8

棟号	枝	遺構	遺構	出土	レイアウト	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測	図版
番号	番号	番号	種類	層位	層位			(cm)	(cm)	(cm)						番号	番号
第III-106	10	180	S I	床面	床面	甕	口縁	24.9	3.0~	-	石・長・雲	灰白・浅黄橙	横ナテ	横ナテ		283	
第III-107	1	180	S I	2下	2下	甕	口縁	(16.0)	3.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、ナテ	ナテ		287	
第III-107	2	180	S I	2下	2下	甕	口縁	29.2	2.0~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2上層出土	295	
第III-107	3	180	S I	2下	2下	甕	口縁	(21.0)	2.0~	-	長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		274	
第III-107	4	180	S I	1下	2上	甕	口縁	25.4	2.5~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、工具によるナテ	横ナテ	類似土器2上・1下層出土	291	
第III-107	5	180	S I	1下	2上	甕	口縁	(20.0)	2.1~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2上・1下層出土	297	
第III-107	6	180	S I	2上	2上	甕	口縁	22.4	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	ナテ		269	
第III-107	7	180	S I	2上	2上	甕	底部	-	4.4~	8.0	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ	ハケ目(横)後ナテ		660	
第III-107	8	180	S I	2上	2上	高坏	脚部	-	2.5~	(15.0)	雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)	ナテ		298	
第III-107	9	180	S I	1下	1下	甕	口縁	22.4	2.5~	-	石・長・雲・角	浅黄	横ナテ	磨滅		303	
第III-107	10	180	S I	1下	1下	甕	口縁	23.4	4.0~	-	石・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		286	
第III-107	11	180	S I	1下	1下	甕	口縁~胴部	53.0	19.8~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目(左上・多方向)、ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ナテ	(最大胴径33.4cm)	374	
第III-107	12	180	S I	1下	1下	甕	底部	-	2.5~	9.8	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ	磨滅		306	
第III-107	13	180	S I	1下	1下	甕	底部	-	2.8~	9.4	長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ後ハケ目(多方向)、横ナテ、ナテ	磨滅		292	
第III-107	14	180	S I	1下	1下	甕	口縁~胴部	17.6	6.6~	-	石・長・雲	灰黄褐・にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後横ナテ	横ナテ、ナテ		332	
第III-107	15	180	S I	1下	1下	甕	口縁	(19.6)	1.7~	-	長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		313	
第III-107	16	180	S I	1下	1下	甕	口縁~頭部	19.4	4.7~	-	石・長・雲・角	灰黄褐	横ナテ、突帯	ハケ目(横)後ナテ、ナテ		316	
第III-107	17	180	S I	1下	1下	甕	口縁~頭部	17.8	4.4~	-	石・長・雲・角・赤	灰黄・にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ミガキ(横)痕、ハケ目(左上)後ナテ		309	
第III-107	18	180	S I	1下	1下	甕	口縁	17.0	2.7~	-	長・雲・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	ナテ		301	
第III-107	19	180	S I	1下	1下	甕	口縁	(25.0)	2.3~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		312	
第III-107	20	180	S I	1下	1下	甕	口縁	(18.4)	1.8~	-	雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		311	
第III-107	21	180	S I	1下	1下	甕	口縁	(18.0)	1.5~	-	石・雲・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		300	
第III-107	22	180	S I	1下	1下	甕	口縁	18.0	2.8~	-	石・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		296	
第III-107	23	180	S I	1下	1下	短頸甕	口縁	(10.2)	3.7~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、工具によるナテ	横ナテ		275	
第III-107	24	180	S I	1下	1下	無頸甕	口縁	22.6	4.8~	-	石・長・雲・角・赤	明黄褐・黒褐	横ナテ、ハケ目(左上)	横ナテ、ハケ目(右上)	(最大胴径26.0cm)	304	
第III-107	25	180	S I	1下	1下	甕	頭部	-	3.1~	-	石・長・雲・角	黒褐	横ナテ	ナテ、横ナテ	端部欠損	294	
第III-107	26	180	S I	1下	1下	高坏	脚部	-	2.5~	17.8	雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		288	
第III-108	1	180	S I	トレ	1上	甕	口縁	(16.4)	1.7~	-	石・長・雲・角	黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		302	
第III-108	2	180	S I	1上	1上	甕	口縁	(29.2)	2.2~	-	石・長・雲	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		289	
第III-108	3	180	S I	1上	1上	甕	口縁	(29.6)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		277	
第III-108	4	180	S I	トレ	1上	甕	口縁~頭部	30.9	4.2~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ、ハケ目(横)		285	
第III-108	5	180	S I	1上	1上	甕	口縁	17.9	2.7~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		271	
第III-108	6	180	S I	1上	1上	甕	口縁	19.2	1.7~	-	長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ	ナテ		375	
第III-108	7	180	S I	1上	1上	甕	口縁	20.8	3.0~	-	長・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		323	
第III-108	8	180	S I	1上	1上	甕	胴部	-	10.2~	-	長・角・赤	にぶい黄褐	ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ、ヘラによる圧痕 二条刻み目突帯、ナテ	ハケ目(右上)	黒斑	635	
第III-108	9	180	S I	1上	1上	甕	頭部	-	3.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)		383	
第III-108	10	180	S I	1上	1上	無頸甕	口縁	13.8	4.7~	-	石・長・雲・角	褐灰・オリーブ黒	横ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)		305	
第III-108	11	180	S I	トレ	1上	甕	底部	-	2.7~	6.2	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、ハケ目(多方向)	横ナテ、ハケ目(縦)		314	
第III-108	12	180	S I	1上	1上	甕	底部	-	3.5~	5.6	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙、褐灰	横ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	横ナテ、指頭圧痕		322	
第III-112	1	183	S I	炉	炉	甕	完形	26.3	28.5	10.0	石・長・雲・角・赤	橙・赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)、沈線、横ナテ(横)	横ナテ、ハケ目(多方向)、ナテ	(最大胴径25.5cm)	88	PL-27
第III-113	1	183	S I	2	2	甕	口縁	28.0	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		344	
第III-113	2	183	S I	1下	2	甕	口縁	22.0	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	324	
第III-113	3	183	S I	2	2	甕	口縁	30.6	4.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	268	
第III-113	4	183	S I	1下	2	甕	口縁	(22.8)	2.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ後ハケ目(縦)	横ナテ	類似土器2・1上層出土	321	
第III-113	5	183	S I	2	2	甕	底部	-	3.7~	8.2	石・長・雲・角	灰黄・黒	ナテ後ハケ目(縦)、ナテ	ナテ後ハケ目(縦)、指頭圧痕		317	
第III-113	6	183	S I	2	2	高坏	口縁	26.0	1.1~	-	石・長・角	赤褐	横ナテ	磨滅	赤色顔料	341	
第III-113	7	183	S I	1下	1下	甕	口縁	26.8	1.9~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		345	
第III-113	8	183	S I	1下	1下	甕	口縁	27.0	2.7~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器1上層出土	370	
第III-113	9	183	S I	1下	1下	甕	口縁	24.0	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1上層出土	339	
第III-113	10	183	S I	1上	1下	甕	口縁	30.0	3.2	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器1下層出土	376	
第III-113	11	183	S I	1下	1下	甕	口縁	38.0	2.4~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		343	
第III-113	12	183	S I	1下	1下	甕	口縁	41.1	2.5~	-	長・角	黒褐・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		340	
第III-113	13	183	S I	1下	1下	甕	口縁	21.8	2.4~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ、工具によるナテ	横ナテ、ナテ後ハケ目(横)		318	
第III-113	14	183	S I	1下	1下	甕	底部	-	2.9~	9.5	石・長・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	磨滅		369	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 9

棟号	床号	遺構番号	遺構種類	出土層位	レイアウト層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測番号	図版番号
第III-113	15	183	S I	1下	1下	壺	底部	-	3.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	指ナテ (縦)、ナテ	ナテ		325	
第III-113	16	183	S I	1下	1下	壺	底部	-	3.6~	8.8	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ、ハケ目 (縦)	磨滅		426	
第III-113	17	183	S I	1下	1下	壺	口縁~頸部	16.3	5.3~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ後ハケ目 (縦)	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ、ナテ		420	
第III-113	18	183	S I	1下	1下	壺	口縁	23.4	3.0~	-	石・長・角	にぶい橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		334	
第III-113	19	183	S I	1下	1下	壺	口縁	21.4	4.0~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)		338	
第III-113	20	183	S I	1下	1下	壺	口縁	19.4	4.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目後暗文 (縦)、ナテ	横ナテ、ハケ目 (横)、ナテ		342	
第III-113	21	183	S I	1下	1下	壺	底部	-	3.6~	6.7	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ後ハケ目 (縦)、ナテ	ナテ、指頭圧痕		402	
第III-113	22	183	S I	1下	1下	壺	口縁~胴部	13.6	4.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ後ハケ目 (縦)	横ナテ、ヘラクスリ	(土師器)	364	
第III-113	23	183	S I	1上	1上	壺	口縁	16.0	4.0~	-	石・長・角・赤	明黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ		424	
第III-113	24	183	S I	1上	1上	壺	口縁	(30.8)	2.0~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ後暗文 (縦)	磨滅		319	
第III-115	1	1035	S I	3・(2下)	No	壺	口縁~胴部	27.3	7.2~	-	石・長・雲	明黄褐	横ナテ、ナテ、沈線	横ナテ、横ナテ後ハケ目 (横)、ナテ		395	
第III-115	2	1035	S I	3・(2下)	No	壺	口縁~胴部	30.6	15.4~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ、ヘラによる圧痕 ナテ後ハケ目 (多方向)	横ナテ、ハケ目 (横)、ナテ後ハケ目 (多方向)	(最大胴径33.2cm)	642	
第III-115	3	1035	S I	3・(3)	No	壺	口縁~胴部	24.8	11.2~	-	石・長・角	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ ハケ目 (横) 後ナテ、ハケ目 (右上)	ハケ目 (横・右上)、横ナテ		467	
第III-116	1	1035	S I	3	No	壺	胴部	-	10.6~	-	石・長・角	にぶい黄橙・黒褐	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、二条刻み目突帯	ハケ目 (右上) 後ナテ		653	
第III-116	2	1035	S I	3	No	壺	口縁	34.2	4.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		367	
第III-116	3	1035	S I	3・(1)	No	壺	口縁~頸部	20.1	6.7~	-	石・長・角	にぶい橙	ハケ目 (左上) 後ナテ、指ナテ後、ハケ目 (縦)	ハケ目 (横)		389	
第III-116	4	1035	S I	3・(3・2・1)	No	壺	胴~底部	-	26.4~	(11.6)	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ハケ目 (左上) 後ナテ、横ナテ、ナテ	ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ	スス付筥 (最大胴径34.8cm)	899	
第III-120	1	1058	S I	3	3	壺	口縁	(測定不能)	2.4	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		837	
第III-120	2	1058	S I	3	3	壺	口縁	19.8	2.0~	-	石・長・雲	明黄褐	ミガキ後横ナテ、横ナテ	横ナテ		838	
第III-122	1	1039	S I	床面	P	鉢	口縁~頸部	(28.0)	3.6~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ	類似土器P・1層出土	1049	
第III-122	2	1039	S I	SK	SK	鉢	口縁	(21.6)	2.0~	-	石・長・角	赤	ミガキ (横)、横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1084	
第III-122	3	1039	S I	SK	SK	壺	頸部~胴部	-	6.6~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、刻み目突帯、ハケ目 (縦) 後ナテ	ハケ目 (横) 後ナテ		1048	
第III-122	4	1039	S I	1	1	壺	口縁	21.0	2.4~	-	石・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1056	
第III-125	1	1019	S I	P	P	壺	口縁	(20.0~25.0)	1.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1040	
第III-125	2	1019	S I	P	P	壺 (鉢)	口縁	(35.0)	1.1~	-	石・長・雲・角・赤	赤褐	横ナテ	横ナテ後暗文 (縦)	赤色顔料	1061	
第III-125	3	1019	S I	P	P	壺	底部	-	3.8~	6.7	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ		1054	
第III-125	4	1019	S I	P	P	壺	口縁	19.6	2.3~	-	石・長・雲	明赤褐	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	892	
第III-125	5	1019	S I	床面下	床面	壺	底部	-	2.8~	7.0	石・長・角	橙	ナテ、ハケ目 (左上)、横ナテ	磨滅		588	
第III-125	6	1019	S I	床面下	床面	壺	口縁	(24.0)	2.4~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ、ナテ		509	
第III-125	7	1019	S I	床面下	床面	壺	口縁	23.8	1.7~	-	石・長・雲	赤褐	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ	赤色顔料	507	
第III-125	8	1019	S I	床面	床面	壺	口縁	(28.0)	1.9~	-	石・長・角・赤	黄黄橙	横ナテ、刻み目文 (端部)	横ナテ		508	
第III-125	9	1019	S I	4	4	壺	口縁	18.2	1.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ミガキ後 (横)、横ナテ	ヘラによるナテ		535	
第III-125	10	1019	S I	3	3	壺	底部	-	2.4~	(測定不能)	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	磨滅		603	
第III-125	11	1019	S I	3	3	壺	口縁	(19.6)	1.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		511	
第III-125	12	1019	S I	2	2	壺	口縁	26.8	1.7~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		525	
第III-125	13	1019	S I	2	2	壺	口縁	(20.0)	1.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		510	
第III-125	14	1019	S I	2	2	壺	底部	-	3.2~	7.0	石・長・雲・角・赤	黒褐・にぶい黄橙	ハケ目 (縦)、ナテ	ミガキ (多方向)		602	
第III-125	15	1019	S I	トレ	1	壺	口縁	22.0	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		534	
第III-125	16	1019	S I	1	1	壺	口縁~胴部	26.0	7.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙・暗灰黄	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ ナテ後ハケ目 (縦)、沈線	横ナテ、ナテ		521	
第III-125	17	1019	S I	1	1	壺	口縁	21.8	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		514	
第III-126	1	1040	S I	3	3	壺	口縁~頸部	27.0	4.6~	-	石・長・雲・角・赤	明黄褐	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		531	
第III-126	2	1040	S I	3	3	壺	口縁	(25.0)	1.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		526	
第III-126	3	1040	S I	3	3	鉢	口縁	(12.7)	1.4~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		552	
第III-126	4	1040	S I	3	3	壺	口縁~胴部	20.8	9.3~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐・橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後暗文 (縦)、板ナテ後 横ナテ後ハケ目 (縦)、ミガキ (縦)	横ナテ、横ナテ後ミガキ (横)、ナテ		527	
第III-126	5	1040	S I	3・1 (炉・包)	3	壺	胴~底部	-	25.7~	8.3	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (多方向) 後横ナテ、刻み目突帯 ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ	ハケ目 (左上) 後ナテ、ナテ	(最大胴径31.4cm)	1636	
第III-126	6	1040	S I	2	2	壺	口縁	25.0	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		538	
第III-126	7	1040	S I	2	2	鉢	口縁	23.8	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		518	
第III-126	8	1040	S I	2・1	2	鉢	口縁~胴部	20.0	7.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ後ハケ目 (縦)	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ		549	
第III-126	9	1040	S I	1	1	壺	口縁	(28.0)	2.6~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		546	
第III-126	10	1040	S I	1	1	壺	口縁~頸部	(29.6)	1.8~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ、指ナテ、ナテ後ハケ目 (縦)	横ナテ、ナテ		545	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 10

挿図 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 図位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-126	11	1040	S I	1	1	甕	口縁	(36.8)	2.3~	-	石・長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		536	
第III-126	12	1040	S I	1	1	甕	口縁	(21.2)	2.9~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		4814	
第III-126	13	1040	S I	1	1	甕	底部	-	4.7~	13.0	石・長・竪	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		695	
第III-126	14	1040	S I	1	1	甕	底部	-	2.1~	6.2	石・長・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ		551	
第III-126	15	1040	S I	1	1	甕	底部	-	3.5~	8.0	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		528	
第III-126	16	1040	S I	1	1	甕	口縁	18.2	1.6~	-	石・長・竪・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		537	
第III-126	17	1040	S I	-	1	甕	口縁	17.6	3.6~	-	長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ 工具による横ナテ	横ナテ		529	
第III-126	18	1040	S I	1	1	甕	口縁	19.0	1.6~	-	石・長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)		532	
第III-129	1	1020	S I	1	1	甕	底部	-	3.8~	6.3	石・長・竪	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1104	
第III-130	1	1017	S I	炉	炉	甕	口縁	(測定不能)	2.8~	-	石・長・竪	灰白	横ナテ	横ナテ		836	
第III-130	2	1017	S I	炉	炉	鉢	口縁	(26.0)	1.9~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		842	
第III-130	3	1017	S I	炉	炉	甕	口縁	(測定不能)	2.1~	-	長・竪・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		841	
第III-130	4	1017	S I	炉	炉	甕	口縁	(26.6)	2.4~	-	石・長・竪	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		861	
第III-130	5	1017	S I	炉	炉	甕	口縁	(38.0)	3.7~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		856	
第III-130	6	1017	S I	炉	炉	短頸甕	口縁	11.9	3.8~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		857	
第III-130	7	1017	S I	2	2	甕	口縁	(24.0)	1.8~	-	石・長・竪	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		808	
第III-130	8	1017	S I	2	2	甕	口縁	(15.8)	2.4~	-	石・長・竪・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ、ナテ	赤色顔料、実885と同一個体か?	884	
第III-130	9	1017	S I	2・1	2	甕	頸部~胸部	-	23.1~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯、ハケ目(多方向・縦)後横ナテ 二系刻み目突帯	横ナテ、ナテ、指頭圧痕	(最大胴径29.8cm)	1431	
第III-130	10	1017	S I	2	2	甕	胸部	-	4.8~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	赤色顔料、実884と同一個体か?	885	
第III-130	11	1017	S I	1	1	甕	口縁	21.0	3.7~	-	長・竪・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		850	
第III-130	12	1017	S I	1	1	甕	口縁	19.6	3.5~	-	石・長・竪・角	浅黄	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付処	802	
第III-130	13	1017	S I	-	1	甕	底部	-	5.0~	6.5	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙・黒褐	横ナテ、横ナテ、指ナテ	指ナテ		810	
第III-130	14	1017	S I	1	1	甕	口縁	25.6	3.3~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		809	
第III-130	15	1017	S I	1	1	甕	口縁	(11.2)	2.5~	-	石・長・竪・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		811	
第III-130	16	1017	S I	1	1	甕	底部	-	4.4~	5.6	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		813	
第III-134	1	1008	S I	2	2	甕	口縁	(22.0)	2.3~	-	石・長・角	黄橙	横ナテ	横ナテ		853	
第III-135	1	195	S I	P	P	甕	口縁	(32.0)	1.8~	-	石・長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		326	
第III-135	2	195	S I	3	3	甕	口縁~頸部	(22.0)	3.4~	-	石・長・竪	灰黄	横ナテ	横ナテ、ナテ		348	
第III-135	3	195	S I	2	2	甕	口縁	(23.6)	1.8~	-	石・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		328	
第III-135	4	195	S I	1	1	甕	口縁~頸部	(28.0)	2.0~	-	長・竪・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		327	
第III-135	5	195	S I	1	1	甕	口縁	(29.0)	2.5~	-	石・長・竪・角	灰黄	横ナテ	横ナテ		347	
第III-138	1	166	S I	床面	床面	無頸甕	口縁	13.6	1.9~	-	石・長・角	橙	横ナテ、四条沈線	横ナテ	拓本貼付	907	
第III-138	2	166	S I	P	P	高杯	脚部	-	2.6~	15.4	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(横)、横ナテ	横ナテ、指頭圧痕		881	
第III-138	3	166	S I	3	3	甕	口縁	(17.2)	2.8~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ	類似土器3・1層出土	874	
第III-138	4	166	S I	3	3	甕	口縁	(28.0)	2.7~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		868	
第III-138	5	166	S I	2	2	甕	口縁	25.0	3.0~	-	石・長・竪	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	852	
第III-138	6	166	S I	2	2	甕	口縁	(26.0)	3.6~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ		878	
第III-138	7	166	S I	1	2	甕	口縁	26.6	4.9~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	858	
第III-138	8	166	S I	1	2	甕	口縁	23.5	1.9~	-	長・竪・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	840	
第III-138	9	166	S I	2	2	甕	口縁~胸部	16.9	9.4~	-	石・長・角・赤	明赤褐・橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横・多方向)後ナテ	(最大胴径21.0cm)	934	
第III-138	10	166	S I	2	2	甕	口縁	(22.8)	2.3~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		876	
第III-138	11	166	S I	2	2	甕	口縁	(14.0)	3.2~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ		880	
第III-138	12	166	S I	2	2	甕	底部	-	2.3~	8.0	石・長・角	にぶい黄橙・橙	横ナテ	横ナテ		908	
第III-138	13	166	S I	1	1	甕	口縁	27.6	3.0~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		909	
第III-138	14	166	S I	1	1	甕	口縁	(20.0~30.0)	2.1~	-	長・竪・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		846	
第III-138	15	166	S I	1	1	甕	口縁	(30.0)	2.7~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、指ナテ後横ナテ	横ナテ、ナテ		851	
第III-138	16	166	S I	1	1	甕	口縁	22.0	3.6~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		844	
第III-138	17	166	S I	1	1	甕	口縁	28.0	2.8~	-	石・長・竪・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ		855	
第III-138	18	166	S I	1	1	甕	口縁	(37.0)	3.0~	-	石・長・竪・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		854	
第III-138	19	166	S I	1	1	甕	口縁	(40.0)	2.8~	-	石・竪・角	橙	横ナテ、工具によるナテ	横ナテ、ナテ		847	
第III-138	20	166	S I	-	1	甕	口縁	(26.4)	2.4~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、刻み目文(底部)	横ナテ	スス付処	4816	
第III-138	21	166	S I	1	1	甕	口縁	(27.6)	4.8~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後横ナテ	横ナテ		862	
第III-138	22	166	S I	1	1	甕	底部	-	2.6~	5.8	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		889	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 11

探検 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-138	23	166	S	1	1	甕	底部	-	2.2~	7.0	石・長・角	橙	ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ	磨減		898		
第III-138	24	166	S	1	1	鉢	口縁	(30.0)	2.4~	-	石・長・甕・角・赤	灰白	横ナテ	横ナテ		849		
第III-138	25	166	S	1	1	甕	口縁	(18.0)	2.4~	-	甕・角・赤	にぶい赤橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		886		
第III-138	26	166	S	1	1	甕	口縁	(19.6)	2.8~	-	石・長・甕・角	橙	横ナテ	横ナテ		877		
第III-138	27	166	S	1	1	甕	口縁	17.6	2.9~	-	石・長・甕・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ミガキ(多方向)		845		
第III-138	28	166	S	1	1	無頭甕(穿孔)	口縁	(11.0)	4.6~	-	長・甕・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑	883		
第III-138	29	166	S	1	1	高杯	脚部	-	2.9~	(18.8)	石・長・角・赤	にぶい橙	ハケ目(左上) 後ナテ、横ナテ	横ナテ		882		
第III-138	30	166	S	1	1	甕	口縁~頸部	24.4	5.3~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ、指頭圧痕	横ナテ、ヘラケズリ	(土師器)	839		
第III-139	1	190	S	1	床面	甕	口縁	(18.6)	2.2~	-	長・甕・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		523		
第III-139	2	190	S	1	4	甕	底部	-	3.3~	6.0	石・長・甕・角	橙	横ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨減		498		
第III-139	3	190	S	1	2	甕	口縁	30.0	2.4~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・2層出土	502		
第III-139	4	190	S	1	3	甕	口縁	(24.0)	3.1~	-	石・長・甕・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		519		
第III-139	5	190	S	1	3	甕	口縁	(11.4)	1.6~	-	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	赤色顔料	492		
第III-139	6	190	S	1	3	甕	口縁	(34.0)	2.9~	-	石・長・甕・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		501		
第III-139	7	190	S	1	3	甕	口縁	(27.2)	3.2~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		4813		
第III-139	8	190	S	1	3	甕	底部	-	2.7~	6.6	石・長・甕・角	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		513		
第III-139	9	190	S	1	3	甕	口縁	16.2	1.7~	-	石・長・角・赤	灰黄橙	甕文(縦)、横ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ、ミガキ(横)、甕文(縦)		606		
第III-139	10	190	S	1	2	甕	口縁~頸部	26.2	5.3~	-	石・長・甕・角・赤	灰黄	横ナテ、ナテ、突帯	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	597		
第III-139	11	190	S	1	-	甕	口縁	25.0	3.4~	-	長・石・甕・赤	浅黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	504		
第III-139	12	190	S	1	2	甕	底部	-	5.2~	6.2	石・長・角・赤	橙	ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ	ナテ、指頭圧痕		533		
第III-139	13	190	S	1	-	甕	口縁~頸部	18.0	3.8~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ、甕文(縦)、ヘラナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	486		
第III-139	14	190	S	1	1	甕	口縁	27.2	2.5~	-	長・甕・角・赤	胡黄橙	横ナテ	横ナテ		494		
第III-139	15	190	S	1	1	甕	口縁	27.2	2.5~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		493		
第III-139	16	190	S	1	-	甕	口縁	(28.0)	2.5~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		512		
第III-139	17	190	S	1	1	甕	口縁	(27.0)	2.6~	-	長・甕・角・赤	橙	横ナテ	ハケ目(左上)	スス付	4815		
第III-139	18	190	S	1	1	甕	底部	-	3.8~	6.6	石・長・甕・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)	磨減		497		
第III-139	19	190	S	1	-	甕	底部	-	2.9~	5.0	石・長・甕・角	橙	ハケ目(縦) 後ナテ、ナテ	磨減		500		
第III-139	20	190	S	1	1	甕	底部	-	3.4~	10.3	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ、甕文(横)	磨減		503		
第III-139	21	190	S	1	1	甕	口縁~頸部	14.6	7.2~	-	石・長・甕・角・赤	胡黄橙	横ナテ、ハケ目(横) 後横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(左上)		520		
第III-139	22	190	S	1	1	甕	口縁	(測定不能)	3.3~	-	石・長・角・赤	相灰・にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦) 後ナテ	横ナテ		618		
第III-139	23	190	S	1	1	甕	口縁	12.6	1.45~	-	長・甕・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		593		
第III-139	24	190	S	1	-	甕	胴部	-	8.3~	-	石・長・甕・角・赤	瓜・胡灰黄	ミガキ(横)、刻み目突帯	ハケ目(縦)、横ナテ後指頭圧痕	(最大胴径26.0cm)	954		
第III-139	25	190	S	1	-	無頭甕	口縁	18.0	4.6~	-	長・甕・角	橙	横ナテ、ナテ後ハケ目(左上)	横ナテ、ナテ後ハケ目(左上)		632		
第III-139	26	190	S	1	-	甕	底部	-	4.6~	6.8	長・甕・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(多方向)	ナテ、指頭圧痕		1585		
第III-143	1	212	S	1	4	甕	口縁	25.8	3.5~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後甕文(縦)、ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器4・2層出土	465		
第III-143	2	212	S	1	1・(トレ)	3	甕	口縁	25.1	5.1~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・2・1層出土	440	
第III-143	3	212	S	1	2	3	甕	口縁~頸部	29.0	5.2~	-	石・長・甕・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ、ナテ後ハケ目(縦)	類似土器3・2・1層出土	609	
第III-143	4	212	S	1	3	3	甕	口縁	(37.0)	2.1~	-	長・甕・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付、類似土器3・1層出土	4812	
第III-143	5	212	S	1	1	3	甕	口縁	(30.0)	2.5~	-	石・長・角	胡黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・1層出土	617	
第III-143	6	212	S	1	3・トレ	3	甕	底部	-	3.3~	8.8	長・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦) 後ナテ、ナテ	ハケ目(横) 後ナテ、横ナテ、ナテ	類似土器3・1層出土	455	
第III-143	7	212	S	1	3	3	甕	底部	-	4.2~	8.1	長・甕・角・赤	橙	ハケ目(左上) 後ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕	黒斑	1545	
第III-143	8	212	S	1	2	2	甕	口縁~胴部	27.2	9.8~	-	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	ナテ	類似土器3・2・1層出土	429	
第III-143	9	212	S	1	2	2	甕	口縁	(測定不能)	1.5~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	629	
第III-143	10	212	S	1	2	2	甕	口縁	30.0	2.5~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		443	
第III-143	11	212	S	1	1	2	甕	口縁	29.0	3.5~	-	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	435	
第III-143	12	212	S	1	2	2	甕	口縁~頸部	25.0	4.3~	-	長・石・甕・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦) 後横ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ナテ	類似土器2・1層出土	430	
第III-143	13	212	S	1	2	2	甕	底部	-	4.2~	7.2	石・長・角	胡黄橙	ハケ目(縦)、ナテ	磨減		477	
第III-143	14	212	S	1	2	2	甕	底部	-	4.4~	7.7	石・長・甕・角・赤	橙	ハケ目(縦) 後横ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕		482	
第III-143	15	212	S	1	2	2	甕	底部	-	3.7~	5.5	石・長・甕・角・赤	にぶい橙	横ナテ後ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ	磨減	類似土器2・1層出土	473	
第III-143	16	212	S	1	2・1	2	甕	底部	-	1.9~	8.2	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、横ナテ	磨減		462	
第III-143	17	212	S	1	2	2	甕	底部	-	2.6~	8.7	長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	磨減		468	
第III-143	18	212	S	1	トレ	2	甕	底部	-	3.6~	7.6	石・長・甕・角	橙	ハケ目(縦) 後ナテ、ナテ、横ナテ	ナテ	類似土器2・1層出土	427	
第III-143	19	212	S	1	2	2	甕(穿孔)	口縁	(16.5)	3.3~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		438	
第III-143	20	212	S	1	2	2	甕	口縁	18.6	3.3~	-	長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦) 後横ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ナテ	類似土器2・1層出土	463	
第III-143	21	212	S	1	2	2	甕	口縁	19.8	1.8~	-	長・甕	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		448	

2区窪穴住居・弥生土器観察表 12

挿図 番号	横 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-143回	22	212	S	1	2	壺	口縁	19.4	2.1~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		460		
第III-143回	23	212	S	1	2	踏台	脚部	-	3.5~	19.8	石・長・角	橙	横ナテ	ハケ目(横)後ナテ	類似土器2・1層出土	464		
第III-144回	1	212	S	1	1	壺	口縁	30.6	2.2~	-	石・長・壺・角	黄橙	横ナテ、ナテ	ナテ、横ナテ		436		
第III-144回	2	212	S	1	1	壺	口縁	29.6	2.7~	-	石・長・壺	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		432		
第III-144回	3	212	S	1	1	壺	口縁	20.0	4.3~	-	石・長・壺	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	ナテ、横ナテ		431		
第III-144回	4	212	S	1	1	壺	口縁~胴部	15.8	4.2~	-	長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)	ナテ		557		
第III-144回	5	212	S	1	1	壺	口縁	28.8	3.0~	-	長・石・壺・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		627		
第III-144回	6	212	S	1	トレ	壺	底部	-	2.3~	13.0	長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)、ナテ		459			
第III-144回	7	212	S	1	1	鉢	口縁	20.4	2.9~	-	壺・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	横ナテ		471		
第III-144回	8	212	S	1	1	豆(穿孔)	口縁	(19.0)	1.6~	-	長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		441		
第III-144回	9	212	S	1	1	壺	口縁	(19.2)	1.8~	-	角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		437		
第III-144回	10	212	S	1	トレ	壺	口縁	(16.0)	1.3~	-	長・角	灰黄褐	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		457		
第III-144回	11	212	S	1	1	壺	口縁~頸部	21.4	6.1~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(多方向)	横ナテ、ナテ後指頭圧痕		451		
第III-144回	12	212	S	1	1	壺	口縁	25.0	4.3~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		604		
第III-144回	13	212	S	1	1	壺	口縁	(11.2)	1.7~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ、二条刻み目文(端部)	横ナテ		454		
第III-144回	14	212	S	1	1	壺	口縁	30.8	2.9~	-	長・壺・角・赤	明褐	横ナテ	横ナテ		442		
第III-144回	15	212	S	1	1	壺	口縁	25.8	3.3~	-	石・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		461		
第III-144回	16	212	S	1	1	壺	口縁	17.4	4.1~	-	長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		439		
第III-144回	17	212	S	1	1	壺	口縁	23.4	4.7~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		484		
第III-144回	18	212	S	1	1	壺	口縁	(35.0)	1.6~	-	長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		456		
第III-144回	19	212	S	1	1	複合口縁壺	口縁	6.2	2.5~	-	石・長・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ、指頭圧痕		474		
第III-144回	20	212	S	1	1	複合口縁壺	口縁	11.2	3.9~	-	長・石・壺・赤	橙	横ナテ	横ナテ		458		
第III-144回	21	212	S	1	1	無頸壺	口縁	-	3.3~	-	壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ後ミガキ(多方向)	横ナテ、ナテ		648		
第III-144回	22	212	S	1	1	壺	胴部	-	4.3~	-	長・壺・角	にぶい橙	ナテ、鈎状浮文、突帯	ナテ	4810			
第III-144回	23	212	S	1	トレ	壺	底部	-	5.9~	6.4	石・長・壺・角・赤	明黄褐	ナテ	ナテ、ナテ後ハケ目(縦)		470		
第III-144回	24	212	S	1	1	高坏	口縁	22.0	2.0~	-	長・石・赤	橙	横ナテ	横ナテ		469		
第III-144回	25	212	S	1	1	高坏	脚部	-	1.3~	13.4	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ハケ目(多方向)後ナテ、横ナテ	横ナテ		621		
第III-144回	26	212	S	1	1	蓋	天井部	-	3.9~	-	石・長・壺・角・赤	明褐	ナテ後ミガキ(多方向)	指頭圧痕、ナテ後ミガキ(多方向)		479		
第III-147回	1	173	S	1	床面・1	床面	壺	口縁	25.9	2.3~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	類似土器床面・4・3・2・1層出土	480	
第III-147回	2	173	S	1	床面	床面	壺	口縁~頸部	(21.4)	3.2~	-	長・壺・角・赤	暗灰黄	横ナテ、突帯、ミガキ痕	横ナテ、ミガキ痕(横)		466	
第III-147回	3	173	S	1	床面	床面	鉢	口縁	29.2	1.5~	-	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ(横)、横ナテ、ヘラによる横ナテ	ミガキ、横ナテ	類似土器床面・4層出土	488	
第III-147回	4	173	S	1	3	3	鉢	口縁	23.0	1.7~	-	長・壺・角	にぶい黄	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	573	
第III-147回	5	173	S	1	2	2	壺	口縁	25.0	3.7~	-	長・壺・角・赤	橙	ナテ後ミガキ(横)	ナテ後ミガキ(横)		491	
第III-147回	6	173	S	1	2・(胴部)	2	壺	胴部	-	14.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(横)、突帯	ナテ、指頭圧痕	(最大胴径28.0cm)	913	
第III-147回	7	173	S	1	2	2	壺	底部	-	2.1~	9.6	石・長・壺・角	褐灰・にぶい橙	ナテ	ナテ、指頭圧痕		577	
第III-147回	8	173	S	1	2	2	踏台	脚部	-	5.0~	10.0	石・長・壺・角	明黄褐	ハケ目(縦)、指頭圧痕後横ナテ	横ナテ		475	
第III-147回	9	173	S	1	トレ	1	壺	口縁	23.6	2.8~	-	石・長・壺・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		489	
第III-147回	10	173	S	1	1	1	壺	口縁	27.6	2.4~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		472	
第III-147回	11	173	S	1	1	1	壺	口縁	32.6	3.3~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		490	
第III-147回	12	173	S	1	1	1	壺	口縁	(測定不能)	2.3~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		476	
第III-147回	13	173	S	1	1	1	壺	口縁	(測定不能)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ナテ、ハケ目(横)	ナテ		580	
第III-147回	14	173	S	1	トレ	1	壺	底部	-	5.3~	7.2	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ	スス付苞	55	
第III-150回	1	165	S	1	胴部	胴部	鉢	口縁~胴部	25.6	5.8~	-	長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		623	
第III-150回	2	165	S	1	胴部	胴部	壺	口縁	(14.0)	4.7~	-	石・長・壺・角・赤	明褐	ハケ目(縦)後横ナテ後暗文(縦)、横ナテ	横ナテ、ミガキ(多方向)		676	
第III-150回	3	165	S	1	床面	床面	壺	口縁	(15.2)	2.6~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ		620	
第III-150回	4	165	S	1	3	3	壺	口縁	(24.0)	2.1~	-	石・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		637	
第III-150回	5	165	S	1	2	2	壺	口縁	26.2	2.8~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・1層出土	638	
第III-150回	6	165	S	1	3	3	壺	口縁	29.0	5.2~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・2層出土	270	
第III-150回	7	165	S	1	3	3	壺	口縁	28.0	4.3~	-	石・長・壺	橙	横ナテ、指頭圧痕後横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		641	
第III-150回	8	165	S	1	2	2	壺	口縁	23.8	4.1~	-	石・長・壺・角	にぶい黄褐・浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2層出土	651	
第III-150回	9	165	S	1	3	3	壺	口縁	22.2	3.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・1層出土	640	
第III-150回	10	165	S	1	3	3	壺	口縁	(30.0)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、横ナテ		633	
第III-150回	11	165	S	1	3	3	壺	底部	-	2.7~	11.2	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、横ナテ、指ナテ	指ナテ		707	
第III-150回	12	165	S	1	3	3	壺	口縁	19.2	2.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、工具による横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	625	
第III-150回	13	165	S	1	3	3	壺	口縁	20.4	3.1~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		628	

2 区竪穴住居・弥生土器観察表 13

押洞 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 図位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-150回	14	165	S I	3	3	壺	口縁	(15.6)	1.5~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、横ナテ後陶文(縦)	横ナテ		626	
第III-151回	1	197	S I	P	P	壺	口縁	27.0	2.5~	-	長・石・壺・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	773	
第III-151回	2	197	S I	2	2	壺	口縁~頸部	(30.0)	4.2~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、沈線、ハケ目(縦)	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	772	
第III-151回	3	197	S I	1	2	壺	口縁~頸部	(36.0)	4.6~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2層出土	765	
第III-151回	4	197	S I	2	2	壺	口縁	26.4	5.4~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後ナテ ヘラケズリ(左上)後ナテ	(土師器)	796	
第III-151回	5	197	S I	1	1	壺	口縁~頸部	(22.9)	4.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ		818	
第III-151回	6	197	S I	1	1	壺	口縁	(37.0)	2.0~	-	石・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		942	
第III-151回	7	197	S I	1	1	壺	口縁	(20.0)	3.0~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)		966	
第III-151回	8	197	S I	1	1	壺	胸部	-	5.5~	-	長・壺・角・赤	橙・黄灰	横ナテ、鈎状浮文、陶文(縦)	ナテ、横ナテ		848	
第III-151回	9	197	S I	1	1	器台	底部	-	3.0~	7.6	長・石	橙	ハケ目(縦)	横ナテ		781	
第III-152回	1	165	S I	1	2	壺	口縁	24.8	2.3~	-	長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後横ナテ	類似土器2・1層出土	631	
第III-152回	2	165	S I	2	2	壺	底部	-	3.0~	5.8	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、ナテ	磨滅		619	
第III-152回	3	165	S I	1	2	壺	底部	-	5.1~	8.0	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ、指頭残痕	類似土器2・1層出土	616	
第III-152回	4	165	S I	2	2	壺	口縁	(19.4)	2.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		630	
第III-152回	5	165	S I	2	2	壺	口縁	(22.2)	2.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		183	
第III-152回	6	165	S I	2	2	壺	口縁	15.6	3.4~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		643	
第III-152回	7	165	S I	2	2	壺	胸部	-	21.8~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ後陶文(縦)、二条突帯 ナテ後ミガキ(横)	指ナテ後ハケ目(横)後ナテ、指頭残痕	黒斑(最大胴径22.0cm)	1047	
第III-152回	8	165	S I	1	1	壺	口縁	(25.6)	1.8~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		639	
第III-152回	9	165	S I	1	1	壺	口縁	(32.0)	2.1~	-	石・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		636	
第III-152回	10	165	S I	トレ	1	壺	底部	-	2.8~	8.0	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	ナテ(縦)、横ナテ	磨滅		706	
第III-152回	11	165	S I	1	1	壺	口縁	(31.6)	2.3~	-	長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		645	
第III-152回	12	165	S I	1	1	壺	口縁	(31.0)	1.3~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		644	
第III-152回	13	165	S I	トレ	1	壺	口縁	(27.4)	1.9~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ、工具によるナテ	横ナテ後ヘラナテ		634	
第III-152回	14	165	S I	1	1	壺	口縁	22.0	2.7~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		624	
第III-152回	15	165	S I	1	1	無頸壺	口縁~胸部	14.8	8.0~	-	石・長・角	にぶい黄橙・黒・灰黄橙	ハケ目(右上)後横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後ナテ	(最大胴径18.3cm)	622	
第III-152回	16	165	S I	1	1	壺	頸部	-	2.6~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙・黄灰	ハケ目(縦)後横ナテ、突帯 ハケ目(縦)後ミガキ(横)後陶文(縦)	ミガキ(横)、ハケ目(多方向)後ナテ		656	
第III-152回	17	165	S I	1	1	壺	底部	-	1.7~	8.6	石・長・壺・角	黒・浅黄	ナテ	ナテ、指頭残痕	黒斑	615	
第III-154回	1	161	S I	床面・(1)	No	短頸壺	口縁~胸部	12.8	8.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(多方向)	横ナテ、指ナテ(横)、ハケ目(横)後ナテ 横ナテ、ナテ	黒斑(最大胴径18.1cm)	870	
第III-154回	2	161	S I	床面	No	短頸壺	壳形	12.0	14.4~	5.0	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)、ナテ	横ナテ、ナテ、指頭残痕後ハケ目(縦)	黒斑(最大胴径19.4cm)	1200	
第III-154回	3	161	S I	床面	床面	壺	口縁	19.4	2.4~	-	石・長・壺	橙	横ナテ	横ナテ		753	
第III-154回	4	161	S I	床面	床面	壺	口縁~頸部	23.0	6.0~	-	石・長・壺	黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑	779	
第III-154回	5	161	S I	床面	床面	壺	胴~底部	-	19.6~	8.0	石・角・赤	赤褐	ハケ目(縦・多方向)後ナテ	ハケ目(右上・多方向)後ナテ		860	
第III-154回	6	161	S I	2下	3下	壺	口縁	21.0	3.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3下層出土	751	
第III-154回	7	161	S I	1	3下	壺	口縁	20.4	2.7~	-	長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3下層出土	742	
第III-154回	8	161	S I	3下	3下	壺	口縁	23.2	2.8~	-	石・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		760	
第III-154回	9	161	S I	3下	3下	壺	口縁	(22.2)	2.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(左上)後横ナテ 刻み目文(頸部)	横ナテ		755	
第III-154回	10	161	S I	1・3下・上(2)	3下	長頸壺	頸部	-	12.5~	-	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ(縦)	ヘラナテ、ナテ	黒斑	1794	
第III-154回	11	161	S I	3上	3上	壺	口縁~頸部	33.4	5.9~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		790	
第III-154回	12	161	S I	2上	3上	壺	口縁	(27.6)	2.2~	-	長・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ、ヘラナテ(横)	黒斑	748	
第III-154回	13	161	S I	3上	3上	壺	底部	-	2.6~	9.8	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(左上)、横ナテ、ナテ	磨滅		785	
第III-154回	14	161	S I	3上	3上	壺	口縁	17.4	2.7~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		763	
第III-154回	15	161	S I	3上	3上	壺	口縁	(29.4)	1.8~	-	石・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		783	
第III-154回	16	161	S I	3上	3上	壺	口縁~胸部	17.6	11.8~	-	石・長・壺・角	橙・にぶい黄橙	表面剥離	ハケ目(多方向)後ナテ	黒斑(最大胴径21.6cm)	750	
第III-154回	17	161	S I	3上	3上	壺	底部	-	3.4~	7.8	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ハケ目(多方向)、ナテ	横ナテ		829	
第III-155回	1	161	S I	2下	2下	壺	口縁	(24.8)	1.4~	-	石・長・壺・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		749	
第III-155回	2	161	S I	2下	2下	壺	底部	-	3.2~	6.0	石・長・角	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨滅		799	
第III-155回	3	161	S I	2下	2下	壺	底部	-	3.2~	7.4	石・長・壺・角	橙	横ナテ(縦)、横ナテ	磨滅		788	
第III-155回	4	161	S I	2下・上	2下	台付鉢	口縁~胸部	16.3	10.4~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(横)	横ナテ、ナテ		21	
第III-155回	5	161	S I	2下	2下	壺	口縁	26.6	3.0~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐・浅黄橙	横ナテ	横ナテ		743	
第III-155回	6	161	S I	2上	2上	壺	口縁	(約36.0)	2.5~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		769	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 14

検出 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-155区	7	161	S	I	2上	壺	口縁	(42.0)	2.6~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			766	
第III-155区	8	161	S	I	2上	壺	口縁	18.4	2.5~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	ナテ、ミガキ(横)			726	
第III-155区	9	161	S	I	2上	壺	口縁	(25.3)	2.0~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			756	
第III-155区	10	161	S	I	1	壺	口縁~頸部	28.4	4.3~	-	長・石・壺・赤	橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ			741	
第III-155区	11	161	S	I	1	壺	口縁	28.2	3.3~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ			712	
第III-155区	12	161	S	I	1	壺	口縁	(36.0)	3.1~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			797	
第III-155区	13	161	S	I	1	壺	底部	-	4.4~	8.3	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ、指ナテ	磨減			784	
第III-155区	14	161	S	I	1	壺	底部	-	1.7~	5.6	石・長・壺・角	明黄褐	ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ、指ナテ	磨減			787	
第III-155区	15	161	S	I	1	壺	底部	-	3.2~	11.2	石・長・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	磨減			843	
第III-155区	16	161	S	I	1	鉢	口縁~胸部	23.2	9.8~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙・にぶい橙	横ナテ、ハケ目(多方向)	ハケ目(横)後ナテ	黒斑(最大胴径24.1cm)		792	
第III-155区	17	161	S	I	トレ	鉢	口縁	15.0	1.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ			754	
第III-155区	18	161	S	I	1	壺	口縁~頸部	(24.8)	4.0~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ			943	
第III-155区	19	161	S	I	1	壺	口縁	(29.4)	3.5~	-	長・壺・角	橙・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			739	
第III-155区	20	161	S	I	1	壺	口縁	(33.4)	2.2~	-	長・角	明黄褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			789	
第III-155区	21	161	S	I	1	壺	口縁	(16.2)	2.5~	-	石・長・角	にぶい黄橙・黄灰	横ナテ	横ナテ			867	
第III-155区	22	161	S	I	1	短頸壺	口縁	10.4	2.0~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後横ナテ、横ナテ	横ナテ			752	
第III-155区	23	161	S	I	(1)	壺	腹部	-	7.8~	-	長・壺・角	明褐	横ナテ、柳葉波状文、ハケ目(多方向) 工具による模様、ナテ	しほり痕、指ナテ、指頭圧痕	黒斑(最大胴径13.2cm)		800	
第III-155区	24	161	S	I	1	壺	底部	-	2.1~	6.0	石・長・壺・角・赤	にぶい黄褐	ナテ、横ナテ	ハケ目(縦)			814	
第III-155区	25	161	S	I	1	壺	底部	-	2.1~	7.0	石・長・壺・角・赤	にぶい黄褐	横ナテ、指ナテ	横ナテ、指ナテ、ナテ			812	
第III-155区	26	161	S	I	1	坏	口縁	14.2	2.8~	-	石・長・壺	橙	回転ナテ(横)	回転ナテ(横)	(土師器)回転台使用		720	
第III-155区	27	161	S	I	1	高坏	口縁	28.0	0.75~	-	長・壺・角	赤褐	ナテ後ミガキ(横)、横ナテ	磨減			713	
第III-155区	28	161	S	I	1	踏台	脚部	-	3.4~	-	石・長・角	橙	ナテ	ナテ			782	
第III-160区	1	207	S	I	1	壺	口縁	20.0	4.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、刻み目文(底部)	横ナテ、横ナテ後指ナテ、指ナテ、指頭圧痕			8	
第III-160区	2	207	S	I	1	壺	口縁	24.0	2.3~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、工具による横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付痕		9	
第III-160区	3	207	S	I	1	壺	口縁	18.5	2.2~	-	石・長・壺・角	灰黄	横ナテ	横ナテ			11	
第III-160区	4	207	S	I	1	壺	口縁	25.4	3.0~	-	石・長・壺	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			1	
第III-160区	5	207	S	I	1	壺	口縁	23.8	1.8~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			12	
第III-160区	6	207	S	I	1	壺	口縁~頸部	24.6	4.2~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ、指ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			4	
第III-160区	7	207	S	I	1	壺	口縁~頸部	33.2	4.3~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ後ハケ目(横)			14	
第III-160区	8	207	S	I	1	壺	底部	-	3.0~	6.4	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減			3	
第III-160区	9	207	S	I	1	壺	底部	-	3.9~	9.0	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ、横ナテ	磨減			13	
第III-160区	10	207	S	I	1	壺(穿孔)	口縁	20.0	1.9~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			5	
第III-160区	11	207	S	I	1	壺	口縁	20.4	3.2~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい赤褐	横ナテ、ナテ、暗文(縦)、工具による横ナテ	横ナテ、ナテ			7	
第III-160区	12	207	S	I	1	無頸壺	口縁	15.8	2.7~	-	石・角・赤	浅黄橙・橙	横ナテ	横ナテ			607	
第III-160区	13	207	S	I	1	壺	底部	-	4.3~	5.6	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ナテ	ナテ、指頭圧痕	スス付痕		2	
第III-160区	14	207	S	I	1	高坏	脚部	-	2.7~	15.0	長・壺・角	灰黄	横ナテ	横ナテ			6	
第III-161区	1	253	S	I	床面下	床面	壺	底部	-	5.7~	8.8	石・長・壺・角・赤	にぶい赤褐	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	磨減			354
第III-161区	2	253	S	I	1	2	壺	口縁	25.0	4.3~	-	長・石・壺・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土		346
第III-161区	3	253	S	I	2	2	壺	口縁~頸部	25.2	4.2~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ			352
第III-161区	4	253	S	I	2	2	壺	口縁	(50.0)	2.6~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			351
第III-161区	5	253	S	I	2	2	壺	口縁	(23.0)	2.2~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			350
第III-161区	6	253	S	I	2	2	壺	底部	-	3.1~	6.2	長・壺・角・赤	橙	指ナテ、指頭圧痕、ナテ	磨減			331
第III-161区	7	253	S	I	2	2	壺	口縁	(測定不能)	1.5~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	ナテ	ナテ	スス付痕		333
第III-161区	8	253	S	I	1	1	壺	口縁~頸部	(測定不能)	5.3~	-	長・石・壺・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ハケ目(左上)			349
第III-161区	9	253	S	I	1	1	壺	口縁	(28.0)	2.4~	-	長・石・壺・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			329
第III-161区	10	253	S	I	1	1	壺	口縁	(18.6)	1.5~	-	長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			336
第III-161区	11	253	S	I	1	1	鉢	口縁	(27.0)	1.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			337
第III-161区	12	253	S	I	1	1	壺	口縁~頸部	(測定不能)	1.1~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ、工具によるナテ	横ナテ			330
第III-163区	1	205	S	I	P	P	壺	底部	-	4.4~	6.2	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、ナテ	磨減			793
第III-163区	2	205	S	I	2	2	壺	底部	-	2.2~	8.0	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	表面剥離	ナテ			757
第III-163区	3	205	S	I	1	1	壺	口縁~腹部	27.2	6.2~	-	石・長・壺・角・赤	灰黄	横ナテ、突帯、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(左上)痕			775
第III-163区	4	205	S	I	1	1	壺	口縁	26.8	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、ヘラズリ	横ナテ			872
第III-163区	5	205	S	I	1	1	壺	口縁	22.2	3.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			758
第III-163区	6	205	S	I	1	1	壺	底部	-	2.3~	(測定不能)	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減			820

2 区窪穴住居・弥生土器観察表 15

押出 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-163回	7	205	S I	1	1	甕	口縁	(15.4)	2.6~	-	長・壺・白登・角・赤	赤褐	横ナテ	横ナテ	胎土の中に外来系の白登母を多量に含む	780	
第III-163回	8	205	S I	1	1	甕	底部	-	6.2~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙・橙	横ナテ (縦) 後横ナテ、横ナテ後指ナテ	横ナテ (縦) 後ナテ、指頭圧痕	黒斑	774	
第III-163回	9	205	S I	1	1	甕	口縁	(14.8)	1.9~	-	石・長・壺	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	948	
第III-164回	1	213	S I	床面	床面	甕	口縁	22.8	5.5~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい赤褐	横ナテ、横ナテ後ヘラケズリ (右上) ヘラケズリ (横)	横ナテ	(夜白式土器)	869	
第III-164回	2	213	S I	3	3	甕	口縁	(32.0)	3.0~	-	石・長・壺・角・赤	灰黄褐	横ナテ	横ナテ	黒斑、スス付痕	940	
第III-164回	3	213	S I	2	2	甕	口縁	(測定不能)	3.1~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		821	
第III-164回	4	213	S I	2	2	甕	口縁	(測定不能)	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ		817	
第III-164回	5	213	S I	2	2	甕	口縁	(19.0)	2.5~	-	長・壺・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		947	
第III-164回	6	213	S I	2	2	甕	口縁~胴部	28.0	5.7~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、沈線、ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ハケ目 (左上)		806	
第III-164回	7	213	S I	2	2	甕	口縁	(測定不能)	3.8~	-	長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1244	
第III-164回	8	213	S I	トレ	1	甕	口縁	(37.4)	2.0~	-	長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、刻み目文 (端部)	横ナテ		795	
第III-164回	9	213	S I	1	1	甕	口縁	26.8	1.8~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		803	
第III-164回	10	213	S I	1	1	甕	口縁	(26.0)	2.0~	-	長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		891	
第III-164回	11	213	S I	1	1	甕	口縁	(測定不能)	1.9~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		816	
第III-164回	12	213	S I	1	1	甕	底部	-	2.8~	10.8	石・長・壺・角	灰黄褐	ハケ目 (縦)、横ナテ	黒斑	938		
第III-164回	13	213	S I	1	1	甕	底部	-	3.5~	(6.6)	石・長・壺	にぶい橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	黒斑	902		
第III-164回	14	213	S I	1	1	甕	口縁	(測定不能)	2.6~	-	壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		805	
第III-164回	15	213	S I	1	1	甕	口縁	(27.0)	2.0~	-	長・石・壺・赤	橙・浅黄橙	ミガキ痕 (横)、横ナテ後暗文 (縦)	ミガキ痕 (横)	941		
第III-164回	16	213	S I	1	1	甕	口縁	18.3	2.6~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ、ミガキ痕	794		
第III-166回	1	210	S I	床面下	床面	甕	口縁	(22.0)	1.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1068	
第III-166回	2	210	S I	床面	床面	甕	底部	-	4.9~	11.2	石・長・角・赤	明赤褐・褐灰	ナテ、横ナテ、横ナテ	ハケ目 (右上)、横ナテ		1122	
第III-166回	3	210	S I	-	3	甕	口縁~頸部	(26.6)	4.2~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	類似土器3層出土	1076	
第III-166回	4	210	S I	1	3	甕	口縁~胴部	(28.0)	4.5~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ	類似土器3・2・1層出土	1110	
第III-166回	5	210	S I	2	2	甕	口縁	(26.2)	3.3~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付痕	1083	
第III-166回	6	210	S I	2・1	2	甕	底部	-	10.9~	11.0	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ (縦)、条痕 (左上) 後ヘラケズリ (縦) ヘラナテ (横)	指ナテ (左上)	(夜白式土器)	4027	
第III-166回	7	210	S I	-	2	無頸甕	口縁	(16.4)	2.7~	-	石・角・赤	にぶい黄橙・橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1078	
第III-166回	8	210	S I	1	1	甕	口縁	(23.7)	2.1~	-	長・石・壺・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1069	
第III-166回	9	210	S I	-	1	甕	底部	-	5.2~	5.7	石・長・壺・角	にぶい橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、ナテ	指ナテ		1118	
第III-166回	10	210	S I	-	1	甕	底部	-	4.4~	6.4	石・長・壺・角	赤橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	ナテ		1058	
第III-166回	11	210	S I	-	1	甕	口縁	(25.8)	2.4~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1070	
第III-166回	12	210	S I	-	1	甕	口縁	(28.0~33.0)	3.1~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1108	
第III-166回	13	210	S I	-	1	無頸甕	口縁	(23.8)	4.6~	-	石・長・角・赤	橙	ミガキ (横)	ミガキ (横)		1101	
第III-173回	1	209	S I	2	2	甕	口縁	(25.6)	3.0~	-	石・長・壺・角	灰黄	横ナテ	横ナテ		963	
第III-173回	2	209	S I	2	2	甕 (穿孔)	口縁	(23.0)	2.4~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ		979	
第III-173回	3	209	S I	2	2	甕	口縁	(29.0)	2.6~	-	石・壺・角	明赤褐	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ		990	
第III-173回	4	209	S I	2	2	甕 (穿孔)	口縁	13.0	1.6~	-	石・長・角	黒褐	ミガキ (横)、横ナテ	ミガキ (横)、横ナテ		1014	
第III-173回	5	209	S I	1	1	甕	口縁~胴部	22.8	5.8~	-	石・角・赤	暗灰黄・橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		958	
第III-173回	6	209	S I	1	1	甕	口縁~胴部	19.6	4.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ	横ナテ、ミガキ (横)	黒斑	971	
第III-173回	7	209	S I	1	1	甕	口縁~胴部	12.4	3.5~	-	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ (横)	ミガキ (横)	赤色顔料	999	
第III-173回	8	209	S I	1	1	甕	口縁	(15.4)	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		976	
第III-175回	1	217	S I	床面	床面	甕	口縁	(23.0)	2.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		995	
第III-175回	2	217	S I	床面	床面	甕	口縁	(21.1)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1007	
第III-175回	3	217	S I	床面	床面	甕	口縁	(19.0)	1.8~	-	石・長・角	赤褐	横ナテ	横ナテ		1001	
第III-175回	4	217	S I	床面	床面	甕	口縁	(27.8)	1.8~	-	石・長・壺・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		978	
第III-175回	5	217	S I	床面	床面	甕	底部	-	2.4~	5.2	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ナテ	ナテ		1003	
第III-175回	6	217	S I	床面	床面	甕	口縁~胴部	39.0	7.1~	-	石・長・壺	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ハケ目 (左上)		1021	
第III-175回	7	217	S I	床面	床面	甕	口縁	29.0	4.3~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		993	
第III-175回	8	217	S I	床面	床面	甕	口縁	(33.0)	2.9~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		957	
第III-175回	9	217	S I	床面	床面	甕	口縁	27.4	2.5~	-	石・長・壺	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		959	
第III-175回	10	217	S I	床面	床面	鉢	口縁~頸部	17.6	3.7~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	ミガキ (横)		974	
第III-175回	11	217	S I	床面	床面	甕	口縁	(22.4)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1019	
第III-175回	12	217	S I	床面	床面	甕	口縁	(25.6)	2.0~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1002	
第III-175回	13	217	S I	床面	床面	甕	底部	-	1.4~	9.0	石・長・壺・赤	橙	ナテ	ナテ、指頭圧痕		1000	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 16

挿入 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-175回	14	217	S	1	1	高坏	口縁	29.0	1.2~	-	石・長・髷・角	明赤褐	横ナテ後暗文(縦)、横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1025	
第III-175回	15	217	S	1	1	高坏	脚部	-	3.2~	13.0	石・髷・角・赤	にぶい褐	ハケ目(縦)、ハケ目(縦)後横ナテ、横ナテ	横ナテ		1009	
第III-176回	1	216	S	1	床面	甕	口縁	(19.8)	2.3~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1097	
第III-176回	2	216	S	1	床面	甕	口縁	22.8	3.7~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、指頭圧痕	類似土器床面・1層出土	1095	
第III-176回	3	216	S	1	床面	甕(穿孔)	口縁	(20.6)	1.8~	-	石・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1093	
第III-176回	4	216	S	1	3	甕	口縁~胴部	28.0	6.6~	-	石・長・髷・角	橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ、ナテ		1210	
第III-176回	5	216	S	1	3	甕	口縁	(22.0)	2.1~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1107	
第III-176回	6	216	S	1	2	甕	口縁~頸部	20.7	4.2~	-	石・長・髷・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ、指頭圧痕		1176	
第III-176回	7	216	S	1	2	甕	口縁	(27.4)	4.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1114	
第III-176回	8	216	S	1	2	甕	底部	-	2.5~	8.8	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1116	
第III-176回	9	216	S	1	2	高坏	口縁	22.2	1.6~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑	1127	
第III-176回	10	216	S	1	1	甕	口縁	20.6	2.6~	-	石・長・角	黄橙	横ナテ	横ナテ		1126	
第III-176回	11	216	S	1	1	甕	口縁	(17.8)	1.6~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1092	
第III-176回	12	216	S	1	1	甕	口縁	(23.6)	2.4~	-	石・長・髷・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1094	
第III-176回	13	216	S	1	1	甕	口縁	(17.8)	1.9~	-	石・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1138	
第III-176回	14	216	S	1	1	甕	口縁	(23.8)	1.5~	-	石・長・髷・角	橙	横ナテ	横ナテ		1135	
第III-176回	15	216	S	1	1	甕	口縁	(26.8)	1.8~	-	石・長・髷・角	橙	横ナテ	横ナテ		1096	
第III-180回	1	221	S	1	床面	甕	口縁	(40.0~46.0)	1.7~	-	石・長・髷・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ		1150	
第III-180回	2	221	S	1	2	甕	口縁	(24.2)	2.8~	-	石・長・髷・角	橙	横ナテ	横ナテ、板ナテ後ナテ		1136	
第III-180回	3	221	S	1	2	甕	口縁	29.6	3.1~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1169	
第III-180回	4	221	S	1	2	甕	口縁~胴部	21.9	4.5~	-	石・長・角	浅黄・黄灰	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ、ナテ、沈線	横ナテ		1208	
第III-180回	5	221	S	1	2	甕	口縁	(21.2)	2.5~	-	石・長・髷・角	明褐	横ナテ	横ナテ		1134	
第III-180回	6	221	S	1	2	甕	口縁~頸部	(41.8)	3.8~	-	石・長・髷・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ		1133	
第III-180回	7	221	S	1	2	甕	底部	-	3.1~	6.8	石・長・髷・角	橙	横ナテ	横ナテ		1181	
第III-180回	8	221	S	1	2	甕	底部	-	5.4~	13.3	石・長・髷・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1213	
第III-180回	9	221	S	1	2	甕	口縁	(19.8)	3.1~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1154	
第III-180回	10	221	S	1	2	甕	口縁	(19.0)	1.8~	-	石・長・髷・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1171	
第III-180回	11	221	S	1	2	甕	口縁	(39.0)	4.3~	-	石・長・髷	橙	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1170	
第III-180回	12	221	S	1	2	甕	口縁	(22.4)	1.5~	-	石・角	灰褐・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1173	
第III-180回	13	221	S	1	2	甕	口縁	24.4	4.2~	-	石・長・髷・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1179	
第III-180回	14	221	S	1	2	甕	底部	-	1.8~	-	石・長・角	橙・灰黄褐	横ナテ	横ナテ		1183	
第III-180回	15	221	S	1	2・トレ	甕	胴部~底部	-	6.6~	5.0	石・長・角・赤	橙・黒褐	横ナテ	横ナテ		1193	
第III-180回	16	221	S	1	2	甕	底部	-	3.7~	6.7	石・長・髷・角・赤	黒・褐灰	横ナテ	横ナテ		1180	
第III-180回	17	221	S	1	2	甕	底部	-	2.1~	11.0	石・長・角・赤	黄橙・橙	横ナテ	横ナテ		1196	
第III-180回	18	221	S	1	2	高坏	脚部	-	4.2~	14.0	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1156	
第III-180回	19	221	S	1	1	甕	口縁	(26.8)	1.8~	-	石・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、刻み目文(胴部)	横ナテ、ナテ		1148	
第III-180回	20	221	S	1	トレ	甕	口縁	(17.8)	1.2~	-	石・長・髷・角	暗灰黄	横ナテ、刻み目文(胴部)	横ナテ		1155	
第III-180回	21	221	S	1	1	甕	口縁~頸部	(24.0)	5.5~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		1139	
第III-180回	22	221	S	1	1	甕	口縁~頸部	(31.6)	4.0~	-	石・長・髷・角・赤	赤褐	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		1149	
第III-180回	23	221	S	1	1	甕	口縁	(25.6)	2.0~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		1192	
第III-180回	24	221	S	1	1	甕	底部	-	3.8~	6.2	石・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ		1197	
第III-180回	25	221	S	1	1	甕	口縁	15.2	2.2~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1190	
第III-180回	26	221	S	1	トレ	無部甕	口縁	(14.2)	4.1~	-	石・角・赤	浅黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		1182	
第III-184回	1	259	S	1	3	甕	底部	-	2.1~	7.2	石・髷・角	明褐・黒褐	横ナテ	横ナテ		1077	
第III-184回	2	259	S	1	1	甕	口縁	(40.0)	2.1~	-	石・長・髷・角	浅黄	横ナテ	横ナテ		1073	
第III-185回	1	247	S	1	2	甕	底部	-	4.5~	10.0	石・長・髷	黒・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1046	
第III-185回	2	247	S	1	1	甕	口縁	(27.4)	2.1~	-	石・長・髷・角	橙	横ナテ	横ナテ		1059	
第III-185回	3	247	S	1	1	甕	底部	-	5.0~	6.4	石・長・髷・角・赤	橙・黒褐	横ナテ	横ナテ		1106	
第III-187回	1	245	S	1	SK	甕	口縁	22.6	2.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1124	
第III-187回	2	245	S	1	床面	甕	口縁~胴部	19.0	3.8~	-	石・長・髷・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、指頭圧痕、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、指ナテ	スス付付	1177	
第III-187回	3	245	S	1	床面	甕	口縁	(26.6)	3.7~	-	石・長・髷・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1111	
第III-187回	4	245	S	1	2	甕	口縁	18.2	2.9~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1153	
第III-187回	5	245	S	1	2	甕	口縁	16.4	3.4~	-	石・長・髷・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ		1125	

2区 竪穴住居・弥生土器観察表 17

検出 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-187回	6	245	S I	2	2	甕	口縁	(19.6)	1.6~	-	石・長・角・赤	橙・灰	横ナテ	横ナテ			1174
第III-187回	7	245	S I	2	2	甕	底部	-	6.1~	8.8	石・長・角・赤	明赤褐	ナテ	ナテ			1137
第III-187回	8	245	S I	1	1	甕	口縁	(25.4)	2.3~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			1166
第III-187回	9	245	S I	-	1	甕	口縁	(20.2)	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ナテ	ナテ			1160
第III-187回	10	245	S I	-	1	甕	底部	-	10.2~	6.8	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ、指頭痕	スス付煎		1178
第III-187回	11	245	S I	-	1	甕	底部	-	5.0~	11.0	長・角・赤	明黄褐	ミガキ(多方向)	ミガキ(横)			4031
第III-187回	12	245	S I	-	1	甕	底部	-	4.0~	5.2	石・長・壺・角	明黄褐	ナテ	ナテ			1191
第III-190回	1	235	S I	床面下	床面	甕	口縁	(25.4)	1.6~	-	長・石・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			1141
第III-190回	2	235	S I	床面下	床面	甕	口縁	(33.0)	3.4~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(横)、ハケ目(左上)	スス付煎		1075
第III-190回	3	235	S I	2・包	2	甕	口縁~胴部	26.2	8.8~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙・にぶい橙	横ナテ、沈線	横ナテ	スス付煎		1140
第III-190回	4	235	S I	2	2	甕	口縁~頸部	24.4	4.3~	-	石・長・壺・角	にぶい橙・明赤褐	横ナテ、沈線	横ナテ	スス付煎		1082
第III-190回	5	235	S I	2	2	甕	口縁	21.4	2.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	工具による横ナテ、ナテ			1103
第III-190回	6	235	S I	1下	1下	甕	口縁	14.9	2.5~	-	長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			1130
第III-190回	7	235	S I	1下	1下	甕	底部	-	4.1~	7.0	長・壺・角	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	横ナテ			1131
第III-190回	8	235	S I	1下・(包)	1下	甕	口縁~胴部	22.8	25.8~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)、突帯、ミガキ(横・左上)	横ナテ、ナテ、ハケ目(縦)	黒斑(最大胴径31.3cm)		1633
第III-190回	9	235	S I	-	1上	甕	口縁	20.0	3.2~	-	石・長・壺	橙	横ナテ	横ナテ			1146
第III-190回	10	235	S I	トレ	1上	甕	口縁	21.8	3.3~	-	長・壺	橙	横ナテ	横ナテ			1129
第III-190回	11	235	S I	-	1上	甕	底部	-	3.1~	6.6	石・長・壺	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、ナテ	煎炭			1144
第III-190回	12	235	S I	1上	1上	甕	口縁	(14.2)	1.5~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			1199
第III-190回	13	235	S I	1上	1上	甕	口縁	29.0	2.4~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			1132
第III-190回	14	235	S I	-	1上	甕	底部	-	3.0~	12.4	長・石・壺・赤	褐灰・にぶい橙	表面剥離	ナテ			1145
第III-190回	15	235	S I	1上	1上	垢坏	脚部	-	2.5~	14.8	長・壺・角・赤	浅黄橙	ミガキ(横)、横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後ナテ			1117
第III-193回	1	220	S I	3	3	甕	底部	-	4.8~	6.4	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	煎炭			1172
第III-193回	2	220	S I	3	3	甕	口縁	(18.0)	1.8~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			1064
第III-193回	3	220	S I	2	2	甕	口縁	(20.4)	1.9~	-	石・長・壺・角	褐灰・橙	横ナテ	横ナテ			1089
第III-193回	4	220	S I	2	2	甕	口縁	(26.0)	2.6~	-	石・長・壺・角・赤	赤	横ナテ	横ナテ			1123
第III-193回	5	220	S I	2	2	甕	口縁	(41.6)	2.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			1121
第III-193回	6	220	S I	1	1	甕	口縁	(23.2)	3.8~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			1163
第III-193回	7	220	S I	トレ	1	甕	口縁	(24.2)	5.8~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目後ナテ	横ナテ、ハケ目後ナテ			1161
第III-195回	1	232	S I	床面	床面	甕	底部	-	1.7~	8.4	長・石・壺・赤	橙	横ナテ	煎炭			1060
第III-195回	2	232	S I	床面	床面	甕	口縁	22.2	5.5~	-	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(横・縦)、横ナテ	横ナテ			1105
第III-195回	3	232	S I	床面	床面	垢坏	脚部	-	7.9~	-	長・壺・角	にぶい橙・褐灰	ナテ	ナテ、しほり痕			1143
第III-195回	4	232	S I	2	2	甕	口縁	24.6	4.5~	-	石・長・壺	明褐・明赤褐	簡文(縦)、横ナテ	横ナテ、ミガキ痕			1081
第III-195回	5	232	S I	1	1	甕	口縁	29.6	2.7~	-	長・壺	橙	横ナテ	横ナテ			1102
第III-195回	6	232	S I	1	1	垢坏	口縁	(24.0)	1.5~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ			1128
第III-197回	1	1064	S I	-	胴部	甕	底部	-	5.3~	9.8	石・長・壺・角	にぶい褐・黒褐	ハケ目(縦)、ナテ	ナテ、横ナテ	類似土器局部出土		807
第III-197回	2	1064	S I	-	1	甕	底部	-	2.7~	8.0	石・長・壺・角	橙	ハケ目(縦)、ナテ	煎炭			952
第III-200回	1	1029	S I	床面	床面	甕	口縁	21.2	2.4~	-	石・長・壺・角・赤	明褐色	横ナテ、横ナテ後ハケ目(縦)、刻み目文(端部)	横ナテ、ハケ目(左上)			553
第III-200回	4	1029	S I	床面下	床面	甕	頸部	-	5.3~	-	石・長・壺	にぶい黄橙	簡文(縦)後横ナテ、横ナテ	ミガキ(横)痕			554
第III-200回	2	1029	S I	床面	床面	甕	口縁	(32.6)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			548
第III-200回	3	1029	S I	床面	床面	甕	口縁	(23.0)	1.7~	-	壺・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ			543
第III-200回	5	1029	S I	床面	床面	器台	脚部	-	4.4~	(9.0)	石・長・壺・角	にぶい橙	ハケ目(縦)後横ナテ、横ナテ	横ナテ、ナテ			544
第III-200回	6	1029	S I	2	2	甕	口縁	21.6	3.7~	-	石・長・壺・角・赤	明褐	横ナテ	横ナテ、ナテ			541
第III-200回	7	1029	S I	2・1・(2)	2	甕	胴部	-	8.3~	-	長・石・壺・赤	にぶい橙	ミガキ(横)、横ナテ、突帯	ナテ	(最大胴径28.6cm)		930
第III-204回	1	286	S I	床面	床面	甕	口縁	24.6	3.8~	-	石・長・壺・角	浅黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			888
第III-204回	2	286	S I	床面	床面	甕	口縁~胴部	27.0	13.8~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、沈線、ナテ	横ナテ、ナテ			926 PL-27
第III-204回	3	286	S I	3	3	甕	口縁	(31.0)	2.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	黒斑		920
第III-204回	4	286	S I	2	2	甕	口縁	(21.2)	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄	横ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ			925
第III-204回	5	286	S I	2	2	甕	口縁	(20.5)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			921
第III-204回	6	286	S I	2	2	甕	口縁	24.0	2.7~	-	石・長・壺	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			906
第III-204回	7	286	S I	2	2	甕	口縁	(21.8)	3.7~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			879
第III-204回	8	286	S I	2	2	甕	底部	-	7.7~	6.4	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ	スス付煎		932 PL-27
第III-204回	9	286	S I	2	2	鉢	口縁	(14.8)	3.1~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			918
第III-204回	10	286	S I	2	2	甕	口縁	25.3	2.0~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄褐	横ナテ	横ナテ			917
第III-204回	11	286	S I	2	2	甕	口縁	(25.0)	2.9~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)			927

2区竪穴住居・弥生土器観察表 18

押図 番号	棟 番号	遺構 種類	遺構 層位	出土 層位	レイアウト 図位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-204	12	286	S 1	1		甕	口縁	(38.6)	2.4~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			919
第III-204	13	286	S 1	1	1	甕	口縁	31.0	5.0~	-	長・石	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			924
第III-204	14	286	S 1	1	1	甕	口縁~頸部	24.2	4.5~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ナテ			910
第III-204	15	286	S 1	1	1	甕	口縁	(23.0)	3.1~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			916
第III-204	16	286	S 1	1	1	甕	底部	-	6.0~	6.0	石・長・甕・角	明黄褐	ハケ目 (縦)、ナテ	ナテ			931
第III-204	17	286	S 1	1	1	甕	口縁	(19.8)	3.9~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			912
第III-204	18	286	S 1	1	1	甕	口縁	(14.6)	1.3~	-	石・角・赤	灰黄褐・にぶい黄橙	ミガキ (横)、横ナテ	ミガキ (多方向)			928
第III-207	1	269	S 1	P・包	P	甕	口縁	46.0	6.2~	-	石・長・甕・角・赤	明黄褐	横ナテ、工具による圧痕	横ナテ、ハケ目 (横)	S=1/4掲載		574
第III-207	2	269	S 1	SK	SK	鉢	口縁~腹部	28.1	15.1~	-	長・甕・角・赤	明黄褐	横ナテ、ミガキ (多方向)	横ナテ、ナテ、指頭圧痕	黒斑		764 PL-27
第III-207	3	269	S 1	SK	SK	鉢	口縁	30.0	3.8~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			767
第III-207	4	269	S 1	床面	床面	甕	口縁	20.0	3.2~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ			738
第III-207	5	269	S 1	床面	床面	甕	口縁	18.0	2.5~	-	石・長・甕	明黄褐	横ナテ後ミガキ、横ナテ、ミガキ (縦)	ナテ後ミガキ痕	赤色顔料		744
第III-207	6	269	S 1	3	3	甕	口縁	(18.0)	1.5~	-	長・甕・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ後ミガキ痕	へらによる横ナテ	黒斑		777
第III-207	7	269	S 1	3	3	甕	底部	-	2.1~	9.0	長・甕・赤	黒斑	ミガキ (左上) 痕	ナテ			725
第III-207	8	269	S 1	2	2	甕	口縁	(27.0)	2.1~	-	長・甕	明赤褐	横ナテ	横ナテ			731
第III-207	9	269	S 1	2	2	甕	口縁~頸部	26.2	8.3~	-	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ハケ目 (右上) 後ナテ			561
第III-207	10	269	S 1	2	2	甕	口縁~頸部	21.6	4.1~	-	石・長・甕	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			650
第III-207	11	269	S 1	2	2	甕	口縁	25.4	3.0~	-	石・甕・角	橙	横ナテ、ハケ目 (縦)、刻み目文 (底部)	横ナテ			746
第III-207	12	269	S 1	2	2	甕	口縁	27.0	5.6~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			560
第III-207	13	269	S 1	2	2	甕	腹~底部	-	10.5~	7.3	石・角・赤	橙・にぶい黄橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ、指頭圧痕	スス付処		555
第III-207	14	269	S 1	2	2	甕	口縁	19.2	1.8~	-	長・甕・赤	橙	ミガキ痕、横ナテ、ナテ	黒斑			759
第III-207	15	269	S 1	2	2	甕	底部	-	3.2~	6.0	石・長・甕・角	橙	ミガキ (左上)、指頭圧痕、ナテ	ハケ目 (縦)			728
第III-207	16	269	S 1	2	2	甕	脚部	-	6.9~	-	石・長・甕	橙・黄灰	ミガキ (縦) 後ナテ	しほり痕			791
第III-208	1	269	S 1	1	1	甕	口縁	(32.0)	2.4~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			727
第III-208	2	269	S 1	トレ	1	甕	口縁	(16.4)	2.2~	-	石・長・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			745
第III-208	3	269	S 1	1	1	甕	口縁	(22.0)	2.6~	-	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			556
第III-208	4	269	S 1	1	1	甕	口縁	(27.0)	1.7~	-	長・石・甕・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			734
第III-208	5	269	S 1	トレ	1	甕	口縁	(26.6)	2.0~	-	長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			939
第III-208	6	269	S 1	1	1	甕	口縁	32.6	3.5~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙・灰オリーブ	横ナテ	横ナテ			569
第III-208	7	269	S 1	1	1	鉢	口縁	(20.0)	1.5~	-	甕・角	橙	横ナテ	横ナテ			776
第III-208	8	269	S 1	トレ	1	甕	口縁	(25.2)	3.0~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ			740
第III-213	1	1065	S 1	2	2	甕	底部	-	2.7~	11.2	石・長・甕・角・赤	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	横ナテ			988
第III-213	2	1065	S 1	2	2	甕	口縁	(20.0)	2.7~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			1026
第III-213	3	1065	S 1	2	2	甕	口縁	(23.0)	3.6~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ			981
第III-213	4	1065	S 1	1下	1下	複合口縁甕	口縁~頸部	11.6	6.0~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ (縦) 後横ナテ	横ナテ、ナテ	赤色顔料		699
第III-213	5	1065	S 1	-	1上	甕	口縁	(31.0)	2.3~	-	石・長・甕・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ			977
第III-213	6	1065	S 1	-	1上	甕	口縁	(22.0)	2.1~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ			980
第III-213	7	1065	S 1	-	1上	甕	口縁	30.8	3.0~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			970
第III-213	8	1065	S 1	-	1上	甕	口縁	(26.4)	3.4~	-	石・長・甕・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			986
第III-213	9	1065	S 1	-	1上	甕	口縁	(25.0)	1.8~	-	石・長・甕・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			987
第III-213	10	1065	S 1	-	1上	鉢	口縁	(25.0)	2.3~	-	長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			1008
第III-213	11	1065	S 1	-	1上	鉢	口縁	19.0	3.4~	-	長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ミガキ (横) 痕	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ			991
第III-213	12	1065	S 1	1上	1上	甕	口縁~頸部	20.4	4.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ			1013
第III-213	13	1065	S 1	-	1上	甕	口縁	19.8	1.6~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	横ナテ			989
第III-213	14	1065	S 1	1上	1上	甕	脚部	-	4.4~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、刻み目文付鈎状浮文、ミガキ (縦)、ナテ	指ナテ			1041
第III-215	1	270	S 1	3	3	甕	口縁~頸部	18.2	3.8~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ、指ナテ			1159
第III-215	2	270	S 1	2	2	甕	口縁	(28.8)	5.8~	-	石・長・甕・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付処		1091
第III-215	3	270	S 1	2	2	甕	底部	-	2.6~	5.5	石・長・甕・角	橙	横ナテ、ナテ	黒斑			1063
第III-215	4	270	S 1	2	2	甕	底部	-	3.5~	6.6	石・長・甕・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ後ナテ、横ナテ、ナテ	黒斑			1067
第III-215	5	270	S 1	2	2	甕	口縁	20.0	5.6~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ、ナテ後ミガキ (横)			1087
第III-215	6	270	S 1	2	2	甕	口縁	18.4	3.5~	-	石・長・甕・角	明赤褐	ミガキ (横) 後横ナテ、横ナテ	ミガキ (横)			1119
第III-215	7	270	S 1	2	2	甕	底部	-	2.8~	8.0	長・石・甕・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、暗文 (縦)	ナテ			1066
第III-215	8	270	S 1	トレ	1	甕	口縁~頸部	(30.0)	4.2~	-	石・角・赤	橙	横ナテ、突帯	ナテ			1112

2区竪穴住居・弥生土器観察表 19

押出 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 図位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-215区	9	270	S	1	1	甕	口縁	31.0	1.8~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ、指頭任儀		1100		
第III-215区	10	270	S	1	1	甕	口縁~頸部	27.0	4.7~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ		1109		
第III-215区	11	270	S	1	1	甕	口縁~頸部	30.0	5.2~	-	石・長・竪・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後ナテ	スス付処	1086		
第III-215区	12	270	S	1	1	甕	底部	-	1.4~	5.2	石・長・竪・角	にぶい黄橙	ナテ、横ナテ	磨減		1065		
第III-215区	13	270	S	1	1	甕	底部	-	2.0~	8.3	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	磨減		1071		
第III-215区	14	270	S	1	1	甕	口縁	(21.0)	2.8~	-	石・長・角	褐	横ナテ	横ナテ	スス付処	1099		
第III-215区	15	270	S	1	1	甕	口縁	(18.0)	3.7~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ		1098		
第III-215区	16	270	S	1	1	甕	口縁	(30.6)	4.0~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1085		
第III-219区	1	1071	S	1	1	甕	口縁	(24.2)	3.9~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ		1405		
第III-221区	1	1005	S	1	1	甕	口縁	(20.8)	1.7~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ		1164		
第III-221区	2	1005	S	1	1	甕	口縁	(21.4)	3.6~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ、ナテ		1120		
第III-221区	3	1005	S	1	1	甕	口縁	(24.4)	2.3~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		1115		
第III-221区	4	1005	S	1	1	甕	口縁	(25.0)	2.5~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ		1090		
第III-221区	5	1005	S	1	1	甕	口縁	(34.2)	2.0~	-	石・長・竪・角	にぶい黄・黄褐	横ナテ	ハケ目(横)後横ナテ、横ナテ		1113		
第III-221区	6	1005	S	1	1	甕	口縁	(25.6)	1.7~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ	ミガキ(多方向)		1072		
第III-221区	7	1005	S	1	1	甕	口縁	(19.8)	1.9~	-	長・石・竪・赤	褐灰・にぶい黄橙	横ナテ	ミガキ(多方向)		1074		
第III-221区	8	1005	S	1	1	甕	口縁	(16.5)	3.4~	-	長・竪・角・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	ミガキ(横)、横ナテ		1062		
第III-222区	1	1048	S	1	4部	甕	口縁~胴部	25.8	6.6~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、沈線	横ナテ、ナテ		1042		
第III-222区	2	1048	S	1	3	鉢	口縁	(23.4)	3.4~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ナテ		1018		
第III-222区	3	1048	S	1	3	甕	口縁	(22.8)	2.7~	-	石・長・竪・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ミガキ、横ナテ	横ナテ		1012		
第III-222区	4	1048	S	1	3	甕	口縁	(29.0)	6.0~	-	石・長・角・赤	浅黄橙・橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1031		
第III-222区	5	1048	S	1	2	2	甕	口縁	(22.8)	2.8~	-	石・長・竪・角	褐灰・橙	横ナテ	横ナテ		1032	
第III-222区	6	1048	S	1	2	2	甕	口縁	(13.6)	1.8~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	ミガキ(横)		1027	
第III-222区	7	1048	S	1	1	甕	口縁~胴部	(30.2)	5.2~	-	石・長・角	橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ		1035		
第III-222区	8	1048	S	1	1	甕	口縁~胴部	(23.4)	4.1~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、沈線	横ナテ		1034		
第III-222区	9	1048	S	1	1	甕	口縁	(30.0)	1.9~	-	石・長・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1030		
第III-222区	10	1048	S	1	1	甕	口縁	(29.0)	2.6~	-	石・長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		997		
第III-222区	11	1048	S	1	1	甕	口縁	26.0	2.8~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1033		
第III-222区	12	1048	S	1	1	甕	底部	-	5.1~	5.6	石・長・竪・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ	スス付処	1029		
第III-222区	13	1048	S	1	トレ	1	鉢	口縁	(19.0)	1.1~	-	長・竪・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		998	
第III-222区	14	1048	S	1	1	甕	口縁	(20.0)	1.5~	-	長・竪・角・赤	明赤褐	ミガキ(横)、横ナテ	磨減	類似土器1層出土	1017		
第III-222区	15	1048	S	1	1	甕	口縁	(20.6)	2.52~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ		1020		
第III-222区	16	1048	S	1	1	甕	口縁	20.2	2.4~	-	石・長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1016		
第III-222区	17	1048	S	1	1	甕	底部	-	3.8~	7.6	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	ナテ	ナテ、指頭任儀		1036		
第III-222区	18	1048	S	1	トレ	1	甕	底部	-	4.5~	7.0	石・長・角・赤	ナテ	ナテ	ナテ		1044	
第III-222区	19	1048	S	1	1	甕	底部	-	2.1~	8.5	石・長・竪・角・赤	橙	ミガキ(横)、ナテ	ミガキ(多方向)		1028		
第III-222区	20	1048	S	1	1	器台	脚部	-	4.1~	9.8	石・長・角・赤	橙	ハケ目(縦)、ナテ	ナテ		1168		
第III-226区	1	272	S	1	床面・炉・トレ	N.o	甕	口縁~胴部	21.0	21.6	-	長・竪・角・赤	橙	横ナテ、沈線、ハケ目(縦)	横ナテ、ナテ	(最大胴径23.2cm)	547	PL-28
第III-226区	2	272	S	1	SK	SK	甕	口縁	18.6	2.7~	-	石・長・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ		692	
第III-226区	3	272	S	1	炉	炉	甕	底部	-	7.7~	9.6	石・長・竪	赤褐	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	ナテ、指頭任儀		698	PL-27
第III-226区	4	272	S	1	2	2	甕	口縁	(測定不能)	1.7~	-	竪・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		689	
第III-226区	5	272	S	1	1下	1下	甕	口縁	(18.4)	4.4~	-	長・竪・角	橙	刻み目突帯、ナテ	ナテ	(夜白式土器)	4025	
第III-226区	6	272	S	1	1下	1下	甕	口縁	(44.4)	4.7~	-	石・長・竪・角・赤	黄橙・にぶい黄橙	横ナテ、刻み目文(端部)	ナテ	赤色顔料	702	
第III-226区	7	272	S	1	1下	1下	甕	口縁	24.0	5.4~	-	長・竪・角	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		681	
第III-226区	8	272	S	1	1下	1下	甕	底部	-	4.6~	6.2	石・長・竪・角・赤	橙	ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ	スス付処	694	
第III-226区	9	272	S	1	1下	1下	甕	底部	-	3.7~	8.0	石・長・竪・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨減		696	
第III-226区	10	272	S	1	1下	1下	甕	口縁	(20.4)	2.1~	-	石・長・角	にぶい褐	横ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ	黒斑	768	
第III-226区	11	272	S	1	1上	1上	甕	口縁~頸部	19.4	5.0~	-	石・長・竪	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ、指頭任儀		697	
第III-226区	12	272	S	1	1上	1上	甕	口縁	20.0	1.8~	-	長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ		687	
第III-226区	13	272	S	1	1上	1上	甕	口縁	24.0	2.1~	-	長・竪	黒	横ナテ	横ナテ		685	
第III-226区	14	272	S	1	1上	1上	甕	口縁	20.0	2.9~	-	長・竪	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		680	
第III-226区	15	272	S	1	1上	1上	甕	口縁	27.4	2.7~	-	長・竪	明赤褐	横ナテ	横ナテ、ナテ		688	
第III-226区	16	272	S	1	-	1上	甕	口縁	22.0	1.9~	-	石・長・竪・角	黒橙	横ナテ	横ナテ、ナテ後ハケ目(横)		686	
第III-226区	17	272	S	1	トレ	1上	甕	底部	-	5.1~	6.0	石・長・竪・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ、指頭任儀	黒斑	693	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 20

棟号	棟	遺構	遺構	出土	レイアウト	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測	図版
番号	番号	番号	種類	層位	形状			(cm)	(cm)	(cm)						番号	番号
第III-230	1	275	S I	P	壁	壺	口縁	27.6	5.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		1370	
第III-230	2	275	S I	床面	床面	壺	口縁	(32.4)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	灰黄褐色	横ナテ	横ナテ		1240	
第III-230	3	275	S I	床面	床面	壺	底部	-	2.6~	6.2	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色・黒褐色	ミガキ(縦)後横ナテ、ミガキ	ハケ目後ナテ、指頭庄痕	赤色顔料	1285	
第III-230	4	275	S I	肩部	肩部	壺	口縁	23.0	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1331	
第III-230	5	275	S I	3	3	壺	口縁	(測定不能)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ		1271	
第III-230	6	275	S I	3	3	壺	口縁	(29.6)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1238	
第III-230	7	275	S I	3	3	壺	口縁	(24.2)	2.4~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		1242	
第III-230	8	275	S I	3	3	壺	口縁	30.0	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ		1272	
第III-230	9	275	S I	3	3	壺	口縁	(20.0)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1318	
第III-230	10	275	S I	3	3	壺	口縁	(25.0)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	ハケ目(左上)、横ナテ	横ナテ		1270	
第III-230	11	275	S I	3	3	鉢	口縁	(測定不能)	1.6~	-	石・長・雲・角・赤	灰褐色	横ナテ	横ナテ		1282	
第III-230	12	275	S I	3	3	壺	口縁	(30.0)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ		1289	
第III-230	13	275	S I	3	3	壺	口縁	(35.6)	2.9~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ、工具によるナテ		1332	
第III-230	14	275	S I	2	2	壺	口縁~頸部	25.0	4.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		1286	
第III-230	15	275	S I	2	2	壺	口縁	(38.0)	2.8~	-	石・長・雲	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ		1241	
第III-230	16	275	S I	2・(トレ)	2	壺	口縁~頸部	22.4	4.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)、ナテ		1319	
第III-230	17	275	S I	1	1	壺	口縁~頸部	31.0	5.0~	-	石・長・雲	明黄褐色・明赤褐色	横ナテ、突帯	ナテ		1284	
第III-230	18	275	S I	1	1	壺	口縁	20.4	3.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1243	
第III-230	19	275	S I	1・(トレ)	1	壺	頸部~胸部	-	13.8~	-	石・角・赤	にぶい黄褐色	ハケ目(縦)後横ナテ ナテ、ミガキ(横)、沈線	ハケ目(横・縦)	(最大胴径27.1cm)	1330	
第III-230	20	275	S I	1	1	壺	底部	-	3.4~	10.0	石・長・雲	灰褐色・明黄褐色	磨減	磨減		1283	
第III-233	1	288	S I	2	2	壺	口縁	(24.0)	2.2~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	ナテ		1157	
第III-235	1	101	S I	3下	3下	壺	口縁	27.0	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐色	横ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ		1659	
第III-235	2	101	S I	3下	3下	壺	口縁	27.8	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄褐色	横ナテ	横ナテ		1642	
第III-235	3	101	S I	3下	3下	壺	口縁	(28.8)	4.0~	-	石・長・雲・角・赤	黄褐色	横ナテ	横ナテ		1661	
第III-235	4	101	S I	3下	3下	鉢	口縁~胸部	22.8	8.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後横ナテ ハケ目(多方向)	横ナテ、ハケ目(左上・縦)	スス付筋(最大胴径21.0cm)	1640	
第III-235	5	101	S I	3下・上2	3下	壺	口縁	(20.4)	5.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(左上)		1689	
第III-235	6	101	S I	3下	3下	壺	口縁	(14.4)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ		1654	
第III-235	7	101	S I	3下	3下	壺	口縁	(28.6)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、二条刻み目文(頸部)	横ナテ		1697	
第III-235	8	101	S I	3下	3下	複合口縁壺	口縁	12.4	5.1~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄褐色	横ナテ	横ナテ		1690	
第III-235	9	101	S I	1	3上	壺	口縁	(26.6)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3上・1層出土	1646	
第III-235	10	101	S I	3上	3上	壺	口縁	(35.0)	3.1~	-	石・長・雲・角・赤	明黄褐色	横ナテ	横ナテ		1639	
第III-235	11	101	S I	3上	3上	壺	底部	-	2.1~	6.3	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	磨減		1641	
第III-235	12	101	S I	3上	3上	壺	底部	-	4.4~	8.6	石・長・雲・角・赤	明黄褐色	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	指ナテ		1657	
第III-235	13	101	S I	3上・撥水	3上	壺	底部	-	9.8~	15.0	石・長・雲・角・赤	明赤褐色	ハケ目(縦・多方向)、横ナテ、ナテ	磨減		1700	
第III-235	14	101	S I	3上	3上	鉢	口縁	(22.6)	1.1~	-	石・長・雲・角・赤	黒褐色	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ	スス付筋	1647	
第III-235	15	101	S I	3上	3上	鉢	口縁	(26.8)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ		1669	
第III-235	16	101	S I	3上	3上	壺	口縁	(16.0)	1.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ		1645	
第III-235	17	101	S I	3上・1	3上	壺	口縁	17.4	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、指頭庄痕		1681	
第III-235	18	101	S I	3上	3上	壺	底部	-	2.4~	9.2	石・長・雲・角・赤	黒・灰黄褐色	ミガキ(横)、横ナテ	ナテ	黒斑	1638	
第III-235	19	101	S I	3上	3上	高坏	口縁	(24.2)	1.2~	-	石・長・雲	赤褐色	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1637	
第III-235	20	101	S I	3上	3上	器台	底部	-	2.9~	(12.0)	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	ハケ目(横)後ナテ、横ナテ		1677	
第III-236	1	101	S I	2	2	壺	口縁	(13.0)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ、ナテ		1668	
第III-236	2	101	S I	2	2	壺	口縁	17.4	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ		1684	
第III-236	3	101	S I	2	2	壺	口縁	(19.0)	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ		1660	
第III-236	4	101	S I	2	2	壺	口縁	(34.0)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1650	
第III-236	5	101	S I	2	2	壺	底部	-	3.3~	8.6	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		1643	
第III-236	6	101	S I	2・(1・2・3)	2	鉢	口縁~底部	21.0	17.0	8.4	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、指ナテ後ミガキ(横・縦)、指ナテ	横ナテ、指ナテ、指ナテ後ミガキ痕	口縁と底部を器面上で復元(最大胴径19.8cm)	1683	
第III-236	7	101	S I	2	2	鉢	完形	2.5	3.3	1.9	石・長・雲・角・赤	明黄褐色	横ナテ、指ナテ、指頭庄痕、ナテ	指ナテ	手すくね(ミニチュア土器)(最大胴径2.8cm)	1454	PL-28
第III-236	8	101	S I	1	1	壺	口縁	(29.0)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ、ナテ		1656	
第III-236	9	101	S I	1	1	壺(穿孔)	口縁	(25.2)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐色	横ナテ	横ナテ	穿孔部上下破損	1673	
第III-236	10	101	S I	1	1	壺	口縁	(19.8)	3.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		1658	
第III-236	11	101	S I	1	1	壺	口縁	(24.4)	1.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	ナテ、刻み目文(頸部)		1693	
第III-236	12	101	S I	-	1	壺	口縁	(18.8)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	ミガキ痕、横ナテ、ハケ目(縦)後暗文(縦)	ミガキ痕	黒斑	1682	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 21

挿入 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第II-236図	13	101	S I	1	1	壺	底部	-	2.7~	7.4	長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、指頭圧痕		1655	
第II-236図	14	101	S I	1	1	壺	底部	-	2.9~	7.6	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ痕、横ナテ、ナテ	ナテ		1679	
第II-236図	15	101	S I	トレ	1	高坏	口縁	(25.6)	1.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、陶文(縦)、工具による圧痕、ナテ	横ナテ、ナテ		1678	
第III-243図	1	268	S I	2	2	壺	口縁	(27.2)	3.7~	-	石・長・壺・角	黒褐	横ナテ	横ナテ		996	
第III-243図	2	268	S I	1	1	壺	口縁	(27.6)	1.4~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		1010	
第III-243図	3	268	S I	1	1	壺	口縁	(24.6)	3.8~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	ミガキ(横)		1011	
第III-243図	4	268	S I	1	1	壺	底部	-	1.4~	7.4	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	表面剥離	ナテ	スス付痕	1015	
第III-243図	5	268	S I	1	1	高坏	脚部	-	3.3~	17.0	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ナテ、陶文(縦)	ハケ目(横)、ナテ		661	
第III-244図	1	224	S I	床面	床面	壺	口縁	(24.4)	3.2~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		1400	
第III-244図	2	224	S I	2	床面	壺	口縁	(23.4)	2.5~	-	石・長・壺・角	浅黄	横ナテ	横ナテ	類似土器床面・2・1層出土	1385	
第III-244図	3	224	S I	床面	床面	壺	口縁	(21.4)	2.6~	-	石・長・角	褐灰	横ナテ	横ナテ		1401	
第III-244図	4	224	S I	床面	床面	壺	口縁	12.0	1.8~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ痕、横ナテ	横ナテ、ミガキ痕		1402	
第III-244図	5	224	S I	3	3	器台	胴部	-	11.2~	-	石・長・角・赤	橙	ハケ目(縦)	横ナテ、ナテ		1408	
第III-244図	6	224	S I	1	2	壺	口縁~胴部	(28.4)	4.8~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	1389	
第III-244図	7	224	S I	2	2	壺	口縁	(26.0)	2.0~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		1386	
第III-244図	8	224	S I	2	2	壺	口縁	(24.8)	2.3~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1399	
第III-244図	9	224	S I	2	2	壺	底部	-	2.2~	6.2	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	凹減		1407	
第III-244図	10	224	S I	2	2	壺	胴~底部	-	6.6~	8.0	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ(横)、横ナテ	ハケ目(多方向)、横ナテ	黒斑	1438	
第III-244図	11	224	S I	1	1	壺	口縁	(28.0)	1.8~	-	石・長・壺	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1394	
第III-244図	12	224	S I	1	1	壺	胴部	-	3.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい褐・黄橙	ナテ、三系沈線	ナテ	拓本貼付	2368	
第III-244図	13	224	S I	1	1	壺	口縁	(21.4)	3.0~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1396	
第III-244図	14	224	S I	1	1	壺	口縁	21.0	5.2~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後陶文(縦) 別必目文(端部)痕	横ナテ、ミガキ痕		1398	
第III-244図	15	224	S I	1	1	壺	底部	-	2.9~	6.4	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	ナテ	ナテ		1403	
第III-248図	1	234	S I	2	2	壺	口縁	(30.4)	2.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	ナテ		1404	
第III-248図	2	234	S I	2	2	壺	口縁	(22.6)	1.8~	-	石・長・壺	橙	横ナテ	ナテ		1419	
第III-248図	3	234	S I	2	2	壺	口縁	27.2	6.7~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1410	
第III-248図	4	234	S I	1	1	壺	口縁	(20.0)	1.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		1413	
第III-251図	1	143	S I	1	2	壺	口縁	(22.2)	2.7~	-	石・長・壺・角	赤橙・灰褐	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1504	
第III-251図	2	143	S I	1	2	壺	口縁	25.8	2.4~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1491	
第III-251図	3	143	S I	1	1	壺	口縁	(38.8)	3.0~	-	石・長・壺・角	明赤褐・浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1503	
第III-251図	4	143	S I	トレ	1	壺	口縁	(23.0)	2.4~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1517	
第III-251図	5	143	S I	トレ	1	壺	口縁	(24.0)	2.9~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		1523	
第III-251図	6	143	S I	1	1	鉢	口縁~胴部	18.0	4.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ(横)、指頭圧痕	ミガキ(横)		1532	
第III-251図	7	143	S I	トレ	1	壺(穿孔)	口縁	(16.2)	3.5~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、陶文(縦)	横ナテ、ハケ目(横)後ナテ	穿孔部上下破損	1514	
第III-251図	8	143	S I	トレ	1	壺	口縁	16.0	3.2~	-	壺・角・赤	橙	横ナテ、陶文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1606	
第III-251図	9	143	S I	トレ	1	壺	口縁	(33.2)	2.3~	-	石・長・角・赤	赤橙	横ナテ	横ナテ		1513	
第III-251図	10	143	S I	1	1	壺	口縁~頭部	18.7	7.7~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後陶文(縦)、ミガキ(横)	横ナテ、ナテ		1544	
第III-252図	1	149	S I	床面	床面	壺	口縁~胴部	26.4	27.6~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、沈線、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	スス付痕、黒斑(最大胴径24.2cm)	1452	
第III-252図	2	149	S I	1	1	壺	口縁	(22.0)	2.2~	-	石・長・壺	明黄橙	横ナテ	横ナテ		1428	
第III-252図	3	149	S I	1	1	壺	口縁	(14.0)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ痕		1406	
第III-252図	4	149	S I	1	1	壺	口縁	(17.0)	2.2~	-	石・壺・角・赤	明黄橙	横ナテ、横ナテ後陶文(縦)	横ナテ		1464	
第III-252図	5	149	S I	1	1	壺	底部	-	2.4~	9.0	石・角・赤	明赤褐	ナテ	ナテ		1414	
第III-254図	1	132	S I	床面	No	壺	底部	-	7.0~	6.3	石・長・壺・角	明黄橙	ハケ目(縦)、ハケ目後ナテ、横ナテ、ナテ	指ナテ、指頭圧痕	スス付痕、類似土器床面・2層出土	1415	
第III-254図	2	132	S I	1	床面	壺	口縁	(20.0)	2.0~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器床面・3・2出土	1315	
第III-254図	3	132	S I	2・3	4	壺	口縁	28.4	3.3~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器4・3・2・1出土	1314	
第III-254図	4	132	S I	2	4	壺	口縁	(28.0)	1.8~	-	石・長・壺・角	明赤褐	ミガキ(横)、横ナテ、陶文(縦)	ミガキ(横)	類似土器4・3・2出土	1323	
第III-254図	5	132	S I	1	3	壺	口縁~頭部	(36.2)	4.8~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、指頭圧痕、ハケ目(縦)	横ナテ、指頭圧痕、ハケ目(左上)	類似土器3・1層出土	1379	
第III-254図	6	132	S I	3	3	壺	口縁	(26.4)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	明黄橙	横ナテ	横ナテ		1327	
第III-254図	7	132	S I	2	3	壺	口縁	(26.4)	3.3~	-	石・長・壺	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・2層出土	1351	
第III-254図	8	132	S I	1	3	壺	口縁	29.0	4.7~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ	類似土器3・2・1層出土	1313	
第III-254図	9	132	S I	1	3	壺	口縁	(39.6)	2.7~	-	石・長・壺	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	1374	
第III-254図	10	132	S I	3・1	3	壺	口縁~頭部	9.6	2.7~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ	類似土器3層出土	1369	
第III-254図	11	132	S I	3	3	壺	口縁	(27.2)	3.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2層出土	1349	
第III-254図	12	132	S I	2	3	壺	口縁	19.2	2.9~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	1353	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 22

挿入 番号	杖 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-254回	13	132	S I 3	3	3	壺	口縁	20.6	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	明黄褐色	横ナテ	横ナテ			1339
第III-254回	14	132	S I 2	3	3	壺	底部	-	7.1~	6.0	石・長・雲・角・赤	褐色	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ	スス付窟、類似土器3・2・1層出土		1387
第III-254回	15	132	S I 1	3	3	壺	底部	-	3.7~	6.4	石・長・角	褐色	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減	スス付窟、類似土器3・2・1層出土		1388
第III-254回	16	132	S I 2	3	3	鉢	口縁	(23.0)	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ	スス付窟、類似土器3・2・1層出土		1359
第III-254回	17	132	S I 2	3	3	壺	口縁	(19.8)	3.6~	-	石・長・雲・角	褐色	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	スス付窟、類似土器3・2層出土		1441
第III-254回	18	132	S I 3	3	3	壺	口縁	(21.8)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ			1378
第III-254回	19	132	S I 3	3	3	壺	口縁	(23.8)	1.4~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐色	ミガキ(横)、横ナテ	横ナテ			1362
第III-254回	20	132	S I 2	3	3	壺	口縁	(19.6)	4.5~	-	石・長・角	褐色	横ナテ	横ナテ	スス付窟、類似土器3・2層出土		1362
第III-254回	21	132	S I 1・3・(2)	3	3	壺	底部	-	6.8~	12.0	石・長・雲・角・赤	黒褐色・にぶい黄褐色	ミガキ(多方向) 痕	ナテ	黒斑		1397
第III-255回	1	132	S I 2	2	2	壺	口縁	(32.0)	2.9~	-	石・長・雲・角	褐色	横ナテ	横ナテ			1341
第III-255回	2	132	S I 2	2	2	壺	口縁	24.2	2.1~	-	石・長・雲・角	黒褐色・にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ	スス付窟		1304
第III-255回	3	132	S I 2	2	2	壺	口縁~頸部	26.8	4.2~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ、沈線	横ナテ			1305
第III-255回	4	132	S I 1	2	2	壺	口縁	25.8	3.8~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ	スス付窟、類似土器2・1層出土		1358
第III-255回	5	132	S I 2	2	2	壺	口縁	(42.0)	2.6~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	ナテ			1325
第III-255回	6	132	S I 2	2	2	壺	胴部	-	5.3~	-	石・長・雲・角	褐色	暗文(縦)、突帯、ミガキ(横)	ナテ	赤色顔料		1340
第III-255回	7	132	S I 2	2	2	壺	底部	-	1.4~	7.0	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	磨減	縄文後期~弥生初期!、類似土器2出土		1889
第III-255回	8	132	S I 1	2	2	壺	口縁	(27.4)	2.3~	-	石・長・雲・角	黒褐色	ナテ	ナテ	スス付窟、類似土器2・1層出土		1309
第III-255回	9	132	S I 2	2	2	壺	口縁	(20.0~24.0)	2.6~	-	長・雲・角・赤	褐色	横ナテ、ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ナテ、ミガキ痕			1316
第III-255回	10	132	S I 2(1・2・包)	2	2	壺	口縁	19.6	6.6~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横) 後ナテ、ナテ			1375
第III-255回	11	132	S I 2	2	2	壺	口縁	17.0	3.9~	-	石・長・角・赤	褐色	ハケ目(放射状・左上) 後ナテ後暗文(縦)	横ナテ			1376
第III-255回	12	132	S I 1	2	2	壺	口縁	(18.8)	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、沈線	横ナテ			1376
第III-255回	13	132	S I 2	2	2	壺	口縁	(22.0)	1.4~	-	石・長・雲・角	褐色	横ナテ、ハケ目(縦) 後ナテ	横ナテ	スス付窟、類似土器2・1層出土		1338
第III-255回	14	132	S I 2	2	2	壺	口縁	(28.0)	1.6~	-	石・長・雲・角	褐色	横ナテ	磨減			1324
第III-255回	15	132	S I 2	2	2	壺	口縁	(28.0)	1.6~	-	石・長・雲・角	褐色	ミガキ(多方向) 後暗文、横ナテ	横ナテ、ハケ目(横) 痕			1348
第III-255回	16	132	S I 1・2	2	2	壺	底部	-	1.3~	6.6	雲・角	にぶい黄褐色	ナテ	ナテ			1418
第III-255回	17	132	S I 2	2	2	壺	胴部~底部	-	10.9~	9.3	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	ミガキ(横、多方向)	ナテ、指頭圧痕	黒斑 (最大胴径21.8cm)		1812
第III-255回	18	132	S I 2	2	2	高坏	脚部	(20.0)	2.0~	-	石・角・赤	褐色	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ			1328
第III-256回	1	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(9.7)	2.2~	-	長・雲・角・赤	褐色	ミガキ(横)	横ナテ			1342
第III-256回	2	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(9.7)	2.2~	-	長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ			1337
第III-256回	3	132	S I 1	1	1	壺	口縁	31.0	4.5~	-	石・長・角	褐色	横ナテ	横ナテ後横ナテ			1363
第III-256回	4	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(42.6)	2.3~	-	石・長・雲	明黄褐色	横ナテ	横ナテ、ナテ			1317
第III-256回	5	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(40.0)	4.3~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐色	横ナテ	横ナテ			1357
第III-256回	6	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(22.8)	1.6~	-	石・長・雲・角	褐色	横ナテ	横ナテ			1326
第III-256回	7	132	S I トレ	1	1	壺	口縁	(24.0)	2.6~	-	石・角	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ			1343
第III-256回	8	132	S I トレ	1	1	壺	口縁	(29.0)	2.2~	-	石・長・雲・角	明黄褐色	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横) 後ナテ			1380
第III-256回	9	132	S I 1	1	1	壺	胴部	(50.0)	8.1~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	ナテ、横ナテ、突帯	ナテ			1346
第III-256回	10	132	S I 1	1	1	壺	底部	-	2.7~	7.2	石・長・雲・角	褐色	ナテ、ハケ目(縦) 後ナテ、横ナテ	磨減			1395
第III-256回	11	132	S I 1	1	1	壺	底部	-	4.4~	5.6	石・長・雲・角	褐色	ナテ	ナテ			1390
第III-256回	12	132	S I トレ	1	1	壺	底部	-	3.0~	6.8	石・長・角	にぶい黄褐色	ハケ目(縦) 後ナテ、横ナテ	磨減			1383
第III-256回	13	132	S I トレ	1	1	鉢	口縁	(30.0)	1.4~	-	長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ			1352
第III-256回	14	132	S I 1・トレ	1	1	鉢	口縁~胴部	18.8	7.7~	-	石・長・雲・角・赤	明黄褐色・黒	横ナテ、ハケ目(多方向・縦) 後ナテ	横ナテ、ハケ目(縦) 後ナテ	注口径20.8cm		2140
第III-256回	15	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(25.4)	1.2~	-	石・長・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ			1345
第III-256回	16	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(11.6)	2.3~	-	石・長・角	褐色	ナテ	ナテ			1310
第III-256回	17	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(約30.0)	2.2~	-	長・雲・角・赤	明赤褐色	横ナテ	横ナテ			1301
第III-256回	18	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(約20.0)	3.2~	-	長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ			1347
第III-256回	19	132	S I トレ	1	1	壺	口縁	(約27.0)	1.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、刻み目文(胴部)	横ナテ			1355
第III-256回	20	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(18.8)	3.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、暗文(縦) 後ナテ	横ナテ、ミガキ(横)			1360
第III-256回	21	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(25.6)	2.5~	-	石・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ			1294
第III-256回	22	132	S I 1	1	1	壺	口縁	11.4	4.9~	-	石・長・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ			1364
第III-256回	23	132	S I 1	1	1	壺	口縁	14.4	1.5~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	横ナテ			1334
第III-256回	24	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(23.2)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	褐色	横ナテ	磨減			1368
第III-256回	25	132	S I 1	1	1	壺	口縁	(20.8)	0.8~	-	石・長・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ	横ナテ			1344
第III-256回	26	132	S I トレ	1	1	壺	口縁	(21.0)	1.5~	-	石・雲・角・赤	にぶい黄褐色	横ナテ、ミガキ痕	横ナテ			1335
第III-256回	26	132	S I トレ	1	1	壺	口縁	21.4	7.3~	-	長・石・雲・赤	にぶい黄褐色	ミガキ(横)、横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)			1354

2区竪穴住居・弥生土器観察表 23

検出 番号	検出 層位	遺物 種類	出土 層位	レイアウト 図位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-256図	27	132 S I 1	1	1	甕	口縁	(28.2)	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1350	
第III-256図	28	132 S I 1	1	1	無頭甕 (穿孔)	口縁	(11.4)	2.3~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	ナテ	ナテ		1373	
第III-256図	29	132 S I 1	1	1	無頭甕	口縁	(12.6)	4.5~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、工具による圧痕、ナテ		1300	
第III-256図	30	132 S I 1	1・(3・包)	1	無頭甕	口縁~胴部	12.0	6.3~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙	楕圓波状文 (規則性なし)、横ナテ、ナテ	横ナテ (横)	スス付筋	1382	PL-27
第III-256図	31	132 S I 1	1	1	甕	胴部	-	6.2~	-	石・長・角・赤	にぶい黄	横ナテ、突帯	ナテ		1361	
第III-256図	32	132 S I 1	1	1	甕	胴部	-	10.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙・橙	ナテ、沈線後刻み目文	ナテ、指頭圧痕	(最大胴径8.0cm)	1329	
第III-256図	33	132 S I 1	1	1	甕	底部	-	2.3~	9.6	石・長・雲・角	黒・黄橙	ミガキ (横・一定方向) 後ナテ	ナテ、横ナテ		2139	
第III-256図	34	132 S I 1	1・(3)	1	甕	底部	-	7.8~	8.4	石・雲・角・赤	橙	ハケ目 (縦)、ハケ目後横ナテ、ナテ	ハケ目 (多方向)		1478	
第III-256図	35	132 S I 1	1	1	甕	底部	-	1.9~	(9.4)	石・角・赤	橙	横ナテ	ナテ		1377	
第III-256図	36	132 S I 1	1	1	坏	口縁	(14.1)	1.8~	-	長・角	灰	横ナテ	横ナテ	(須恵器)	1303	
第III-256図	37	132 S I 1	1	1	坏	口縁	(16.0)	2.1~	-	長・雲・角	灰	横ナテ	横ナテ	(須恵器)	1302	
第III-261図	1	126 S I 4	4	4	甕	口縁	24.0	3.1~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		1333	
第III-261図	2	126 S I 4	4	4	甕	底部	-	2.7~	9.2	長・雲	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ	底痕		1299	
第III-261図	3	126 S I 1	1・2・4	4	甕	頸部~胴部	-	14.7~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙、にぶい黄	横ナテ、ハケ目 (縦) ナテ、刻み目突帯痕	横ナテ、指頭圧痕、ナテ	(最大胴径31.1cm)	1381	
第III-261図	4	126 S I 3	3	3	甕	口縁	(28.6)	3.6~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		1260	
第III-261図	5	126 S I 3	3	3	甕	口縁	24.8	4.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付筋、類似土器2・1層出土	1257	
第III-261図	6	126 S I 1	1	3	甕	口縁~頭部	22.4	4.6~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ	類似土器3・1層出土	1288	
第III-261図	7	126 S I 3	3	3	甕	口縁	(23.4)	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1275	
第III-261図	8	126 S I 1	1	3	甕	口縁	(21.8)	4.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	1287	
第III-261図	9	126 S I 2	2	3	甕	口縁	(25.0~30.0)	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2層出土	1290	
第III-261図	10	126 S I 3	3	3	甕	口縁	(27.2)	2.1~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付筋	1278	
第III-261図	11	126 S I 3	3	3	甕	底部	-	2.7~	5.2	石・長・角	明黄橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	底痕		1321	
第III-261図	12	126 S I 3	3	3	甕	底部	-	1.2~	9.6	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	底痕		1322	
第III-261図	13	126 S I 3	3	3	鉢	口縁	(28.0)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	明黄橙	横ナテ	横ナテ		1281	
第III-261図	14	126 S I 3	3	3	甕	口縁	(20.4)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		1298	
第III-261図	15	126 S I 3	3	3	甕	口縁	13.8	3.9~	-	石・長・雲・角	明黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ		1263	
第III-261図	16	126 S I 1	1・3	3	甕	口縁	22.6	4.4~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ、ミガキ (横)		1356	
第III-261図	17	126 S I 3	3	3	甕 (穿孔)	口縁	(18.2)	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	穿孔、粘土継ぎ目痕	1296	
第III-261図	18	126 S I 3	3	3	甕	口縁	(20.0~40.0)	1.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、二条刻み目文 (端部)	横ナテ		1292	
第III-261図	19	126 S I 3	3	3	甕	底部	-	2.1~	6.6	石・長・角・赤	にぶい橙	ナテ	ナテ		1307	
第III-261図	20	126 S I 3	3・トレ	3	凝灰	口縁	32.0	0.8~	-	石・長・雲・角・赤	明赤橙	横ナテ	底痕		1232	
第III-261図	21	126 S I 2	2	2	甕	口縁	(26.0)	8.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、突帯、ハケ目 (左上) 後ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ナテ		1291	
第III-261図	22	126 S I 2	2	2	甕	口縁	24.0	3.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器1層出土	1256	
第III-261図	23	126 S I 2	2	2	甕	口縁	(30.8)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ		1277	
第III-261図	24	126 S I 1	1	2	甕	口縁	(25.6)	3.3~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1306	
第III-261図	25	126 S I 1	1	2	甕	口縁	27.4	3.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1267	
第III-261図	26	126 S I 2	2	2	無頭甕	口縁	(16.4)	4.3~	-	石・長・角・赤	橙	ナテ、ハケ目 (縦)	ナテ、ハケ目 (左上)		1311	
第III-261図	27	126 S I 2	1	2	甕	胴部	-	10.1~	-	石・長・角・赤	赤橙・にぶい橙	横ナテ、二条刻み目突帯 ハケ目 (左上) 後ミガキ (横)	横ナテ、ナテ	赤色顔料 (最大胴径21.6cm)	735	
第III-262図	1	126 S I 1	1	1	甕	口縁~頭部	24.2	5.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、突帯、板ナテ (縦) 後ナテ 浮文、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ナテ		1308	
第III-262図	2	126 S I 1	1	1	甕	口縁	(23.6)	1.7~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1279	
第III-262図	3	126 S I 1	1	1	甕	口縁	(37.0)	3.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1297	
第III-262図	4	126 S I 1	1・(1・2)	1	甕	口縁~胴部	28.3	27.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙、にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (多方向) 後ナテ	横ナテ、板ナテ、ハケ目後ナテ	スス付筋、黒斑 (最大胴径27.0cm)	1664	
第III-262図	5	126 S I 1	1	1	甕	底部	-	2.9~	6.2	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	底痕		1280	
第III-262図	6	126 S I 1	1	1	甕	底部	底部	底部	底部	底部	底部	底部	ナテ		1312	
第III-262図	7	126 S I 1	1	1	甕	底部	-	2.3~	11.0	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	底痕		1269	
第III-262図	8	126 S I 1	1	1	鉢	口縁	(18.0)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	明赤橙	横ナテ	横ナテ		1237	
第III-262図	9	126 S I 1	1	1	甕	口縁~頭部	12.6	4.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		1255	
第III-262図	10	126 S I 1	1	1	甕	口縁~頭部	17.8	4.1~	-	石・雲・角	明赤橙	横ナテ、突帯	横ナテ		1236	
第III-262図	11	126 S I 1	1	1	甕	口縁	29.4	3.4~	-	石・長・雲・角	明赤橙	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	2000	
第III-262図	12	126 S I 1	1	1	甕	口縁	13.6	3.8~	-	石・角・赤	明黄橙	横ナテ、横ナテ後ハケ目 (縦)	横ナテ、ナテ後ミガキ (横)		1248	
第III-262図	13	126 S I 1	1	1	甕	口縁	17.4	2.1~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ後刻文 (縦)、刻み目文 (端部)	横ナテ		1253	
第III-262図	14	126 S I 1	1	1	甕	口縁	(23.0)	1.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、刻み目文 (端部)	横ナテ		1266	
第III-262図	15	126 S I 1	1	1	甕	口縁	(18.4)	0.7~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1258	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 24

棟号	枝	遺構	遺構	出土	レイアウト	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測	図版
番号	番号	番号	種類	層位	層位			(cm)	(cm)	(cm)						番号	番号
第III-262図	16	126	S I	-	1	壺	口縁	27.4	4.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1261	
第III-262図	17	126	S I	-	1	壺	口縁	(26.0)	4.3~	-	石・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1293	
第III-262図	18	126	S I	-	1	壺	口縁	(26.2)	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、二条刻み目文(肩部)	横ナテ		1264	
第III-262図	19	126	S I	1	1	壺	底部	-	3.9~	4.6	石・長・雲・角	赤	ナテ	ナテ		1295	
第III-262図	20	126	S I	-	1	壺	底部	-	3.0~	8.0	石・長・角	赤・橙	ナテ	ナテ		1254	
第III-262図	21	126	S I	1	1	高坏	脚部	-	3.1~	15.8	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ナテ、ミガキ(多方向)	指ナテ		1249	
第III-262図	22	126	S I	1	1	蓋(穿孔)	完形	9.1	3.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、指ナテ、横ナテ	横ナテ、指ナテ		576	PL-28
第III-265図	1	103	S I	3	3	壺	口縁	(28.0)	1.5~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1152	
第III-269図	1	102	S X	床面	No	壺	口縁	24.6	2.2~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1212	
第III-269図	2	102	S X	床面	No	壺	口縁	23.6	2.6~	-	石・長・雲・角・赤	赤褐	横ナテ	横ナテ、ナテ		1203	
第III-269図	3	102	S X	床面・2・3	No	台付鉢	口縁~脚部	20.0	10.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(横・縦)	黒斑	1391	
第III-269図	4	102	S X	床面・3・2	No	高坏	口縁~脚部	26.0	5.0~	-	石・長・角	赤褐	暗文(縦)、横ナテ、ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		1231	
第III-269図	5	102	S X	炉	壺	底部	-	-	3.2~	5.0	石・長・角・赤	橙	ナテ後ミガキ(右上)痕、ナテ	ナテ		1225	
第III-269図	6	102	S X	3	3	壺	口縁	(26.6)	1.7~	-	長・石・雲・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1233	
第III-269図	7	102	S X	3	3	壺	口縁	24.0	2.1~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1226	
第III-269図	8	102	S X	3	3	壺	口縁	(27.6)	2.5~	-	石・長・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ		1206	
第III-269図	9	102	S X	3	3	壺	口縁	(22.0)	2.2~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		1222	
第III-269図	10	102	S X	3	3	壺	口縁	(27.2)	2.9~	-	石・長・雲・角	灰黄褐	横ナテ	横ナテ		1207	
第III-269図	11	102	S X	3	3	壺	口縁	23.4	2.9~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1227	
第III-269図	12	102	S X	2	3	壺	口縁	26.8	3.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2層出土	1218	
第III-269図	13	102	S X	3	3	壺	口縁~脚部	28.2	9.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ、ナテ、ハケ目(横)後ナテ		1230	
第III-269図	14	102	S X	3	3	壺	底部	-	2.5~	6.5	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ	底減		1216	
第III-269図	15	102	S X	3	3	壺	口縁	(34.2)	4.1~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ後暗文(縦)、横ナテ	横ナテ		1217	
第III-269図	16	102	S X	3	3	壺	口縁~脚部	29.5	4.4~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙、にぶい黄褐	横ナテ、ハケ目(縦)後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ痕(横)		1214	
第III-269図	17	102	S X	2	2	壺	口縁	(18.4)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ	横ナテ、ナテ		1220	
第III-269図	18	102	S X	2	2	壺	口縁	(25.0)	1.5~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1223	
第III-269図	19	102	S X	2	2	壺	底部	-	2.7~	7.4	石・長・角・赤	にぶい褐	ナテ	ナテ		1219	
第III-269図	20	102	S X	2	2	高坏	脚部	-	4.5~	-	石・長・角	明褐	ミガキ(縦)	しぼり痕	赤色顔料	1246	
第III-270図	1	102	S X	1	1	壺	口縁~脚部	22.2	9.8~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦・左上)後ナテ	横ナテ、ナテ		1224	
第III-270図	2	102	S X	1	1	鉢	口縁~脚部	25.0	9.9~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ		1262	
第III-270図	3	102	S X	1	1	壺	口縁	(16.8)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1211	
第III-270図	4	102	S X	1	1	壺	口縁	21.2	4.2~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ、指頭圧痕	横ナテ、指頭圧痕		1215	
第III-270図	5	102	S X	-	1	壺	口縁	25.0	5.0~	-	石・角	橙	横ナテ後暗文(縦)、横ナテ	ミガキ(横)		1247	
第III-270図	6	102	S X	1	1	壺	口縁	(21.6)	6.3~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(横)、ミガキ(縦)後ナテ	ハケ目(横)後ナテ、ナテ		1229	
第III-270図	7	102	S X	トレ	1	壺	脚部	-	4.2~	-	石・長・角	赤橙	ハケ目(横・縦)	横ナテ、指ナテ	(最大胴径17.0cm)	1245	
第III-273図	1	105	S I	2・1下	2	壺	口縁~脚部	27.2	9.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、突帯、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑(最大胴径26.5cm)	1512	
第III-273図	2	105	S I	2	2	壺	口縁	(24.0)	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1475	
第III-273図	3	105	S I	2	2	鉢	口縁	(27.2)	3.2~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1462	
第III-273図	4	105	S I	1下	2	鉢	口縁	(19.0)	3.7~	-	長・雲・角・赤	にぶい褐	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、ナテ	類似土器2層出土	1468	
第III-273図	5	105	S I	2	2	壺	口縁	(18.6)	3.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1480	
第III-273図	6	105	S I	2	2	壺	口縁	(14.2)	4.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目痕	ミガキ(横)、ナテ		1469	
第III-273図	7	105	S I	2	2	壺	口縁	16.4	3.8~	-	石・長・雲・角	橙	ミガキ痕(縦)、ナテ、暗文(縦)	ナテ、ミガキ(横)		1488	
第III-273図	8	105	S I	1下	2	複合口縁壺	口縁	(12.2)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	明黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	1477	
第III-273図	9	105	S I	2	2	壺	底部	-	1.4~	10.2	石・長・雲・角	明赤褐	ナテ	指頭圧痕		1529	
第III-273図	10	105	S I	2	2	壺	底部	-	2.0~	9.0	石・長・角	橙	横ナテ	ナテ	類似土器2層出土	1484	
第III-273図	11	105	S I	1下	1下	壺	口縁	(35.4)	1.8~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、刻み目文(肩部)	横ナテ	スス付痕	1519	
第III-273図	12	105	S I	1上	1下	壺	口縁	(23.4)	1.7~	-	石・長・雲	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1下層出土	1481	
第III-273図	13	105	S I	1上	1下	壺	口縁	(31.6)	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1下層出土	1461	
第III-273図	14	105	S I	1上	1下	壺	底部	-	4.9~	6.2	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ	類似土器1下層出土	1486	
第III-273図	15	105	S I	-	1上	壺	口縁	(24.8)	2.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1508	
第III-273図	16	105	S I	1上・(2)	1上	壺	口縁	28.8	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1268	
第III-273図	17	105	S I	1上	1上	壺	口縁	12.4	3.9~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1474	
第III-273図	18	105	S I	1上	1上	壺	底部	-	3.0~	8.4	石・長・雲・角	橙	ハケ目(左上)、横ナテ	底減		1501	
第III-273図	19	105	S I	1上	1上	壺	底部	-	4.9~	9.4	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ、横ナテ	底減		1489	
第III-273図	20	105	S I	1上	1上	壺	口縁	(30.4)	1.8~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		1482	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 25

挿入 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-273回	21	105	S I	1上	1上	壺	口縁	(19.8)	3.0~	-	長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ (横)		1528	
第III-273回	22	105	S I	1上	1上	壺	口縁	(27.2)	2.0~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙・灰黄橙	横ナテ	横ナテ		1490	
第III-273回	23	105	S I	1上	1上	壺	口縁	17.4	1.9~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (横)		1515	
第III-273回	24	105	S I	1上	1上	壺	胴部	-	5.8~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ後刻み目	ミガキ (横)、ナテ	拓本貼付	1518	
第III-274回	1	128	S I	1	胴部・1 (1・2)	壺	口縁~胴部	14.6	14.2~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (多方向) 後横ナテ・ナテ	横ナテ、ハケ目 (多方向) 後ナテ	黒斑 (最大胴径18.0cm)	1687	PL-28
第III-274回	2	128	S I	2	3	壺	口縁~胴部	25.0	6.5~	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ハケ目 (左上)	黒斑、類似土器3・2層出土	1631	
第III-274回	3	128	S I	3	3	壺	底部	-	3.4~	7.2	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	磨滅		1623	
第III-274回	4	128	S I	トレ	2	壺	口縁	(22.0)	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1609	
第III-274回	5	128	S I	1	2	壺	口縁	(29.0)	2.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1649	
第III-274回	6	128	S I	2	2	壺	口縁~胴部	22.8	16.9~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦) ミガキ (横)、突帯	横ナテ、ミガキ (横)、ナテ	黒斑 (最大胴径23.4cm)	1724	
第III-274回	7	128	S I	1	1	壺	口縁	(18.8)	2.5~	-	長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ		1616	
第III-275回	1	125	S I	1	3	壺	口縁	(22.6)	2.2~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		1521	
第III-275回	2	125	S I	3	3	壺	口縁	(28.2)	2.7~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻、類似土器3層出土	1487	
第III-275回	3	125	S I	3	3	壺	口縁	(30.6)	2.4~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻、類似土器2・1層出土	1522	
第III-275回	4	125	S I	3	3	壺	底部	-	4.3~	5.6	石・長・壺・角	にぶい橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	ナテ	スス付廻、類似土器1層出土	1624	
第III-275回	5	125	S I	1	3	壺	底部	-	3.3~	6.8	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ハケ目 (縦) 後横ナテ、横ナテ	磨滅	類似土器3・2層出土	1531	
第III-275回	6	125	S I	トレ	3	鉢	口縁	35.4	9.2~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ後ミガキ (横)、横ナテ ミガキ (横)、突帯	横ナテ、ハケ目 (左上)	類似土器3・2層出土	1665	
第III-275回	7	125	S I	2	2	壺	口縁	27.0	3.4~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	1502	
第III-275回	8	125	S I	2	2	壺	口縁	27.4	3.8~	-	石・長・壺	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器1層出土	1509	
第III-275回	9	125	S I	2	2	壺	口縁	(26.2)	2.3~	-	石・長・壺・角	明赤褐・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻	4817	
第III-275回	10	125	S I	2	2	壺	底部	-	4.8~	5.9	長・石・壺・赤	にぶい橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	指頭圧痕	スス付廻	1530	
第III-275回	11	125	S I	1	2	壺	口縁	(18.2)	3.5~	-	石・角・赤	明赤褐	横ナテ、ミガキ痕	横ナテ	類似土器2層出土	1498	
第III-275回	12	125	S I	2	2	壺	口縁	(22.6)	1.5~	-	石・長・壺・角	黄橙	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ		1526	
第III-275回	13	125	S I	トレ	1	壺	口縁	28.0	4.9~	-	石・長・壺	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1510	
第III-275回	14	125	S I	1	1	壺	口縁	(26.4)	1.9~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1496	
第III-275回	15	125	S I	1	1	壺	口縁	27.0	3.4~	-	石・長・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		1524	
第III-275回	16	125	S I	1	1	壺	口縁	(18.4)	1.5~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ミガキ痕、刻み目文 (底部)	横ナテ		1533	
第III-275回	17	125	S I	1	1	壺	口縁	(19.6)	1.6~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ		1520	
第III-275回	18	125	S I	1	1	壺	口縁	(22.6)	1.7~	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ		1541	
第III-275回	19	125	S I	1	1	壺	口縁	(18.4)	2.8~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙・褐灰	横ナテ	横ナテ		1516	
第III-275回	20	125	S I	トレ	1	壺	底部	-	3.2~	11.2	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙・にぶい黄橙	ナテ、指頭圧痕	ナテ	類似土器1層出土	1497	
第III-275回	21	125	S I	1	1	器台	脚部	-	4.1~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (多方向) 後ナテ・横ナテ	ナテ		1543	
第III-276回	1	141	S I	2	床面	壺	口縁	(32.4)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻、類似土器床面・1層出土	1785	
第III-276回	2	141	S I	1・2・床面	床面	壺	口縁~頭部	36.0	5.0~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		1751	
第III-276回	3	141	S I	床面	床面	壺	口縁	(24.6)	2.4~	-	石・長・角・赤	橙	ナテ	ナテ		1792	
第III-276回	4	141	S I	2・3・床面	床面	壺	頸部~胴部	-	14.1~	-	石・長・壺・角・赤	明褐	ハケ目 (縦) 後ナテ、暗文 (縦)	ミガキ (横) 後横ナテ		1762	
第III-276回	5	141	S I	3・床面	床面	壺	胴部	-	7.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙・褐灰	磨滅	ナテ	(最大胴径19.8cm)	1781	
第III-276回	6	141	S I	3	3	壺	底部	-	2.6~	6.4	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	磨滅		1784	
第III-276回	7	141	S I	3	3	壺	口縁	(19.0)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ (横)	横ナテ、ミガキ (横)		1803	
第III-276回	8	141	S I	3	3	壺	口縁	(14.2)	1.8~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ痕		1789	
第III-276回	9	141	S I	2	2	広口壺	完形	17.3	21.7	7.1	石・長・壺・角・赤	明黄橙	横ナテ、ミガキ (横) 後ナテ	横ナテ、ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	黒斑 (最大胴径21.3cm)	1805	PL-28
第III-276回	10	141	S I	2	2	壺	底部	-	6.9~	4.6	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ	指頭圧痕		1761	
第III-276回	11	141	S I	1下	1下	壺	口縁	(30.2)	1.9~	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻	1773	
第III-276回	12	141	S I	1下	1下	壺	口縁	(29.2)	2.6~	-	石・長・壺・角	黄橙	横ナテ	横ナテ		1783	
第III-276回	13	141	S I	1下	1下	壺	口縁	(30.0)	3.5~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ		1782	
第III-276回	14	141	S I	1下	1下	壺	口縁	26.4	3.9~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ミガキ (横)	磨滅欠損	1788	
第III-276回	15	141	S I	1上	1上	壺	口縁	(23.0)	2.3~	-	石・長・壺・角	浅黄	横ナテ	横ナテ	スス付廻	1774	
第III-276回	16	141	S I	1上	1上	壺	口縁	(29.8)	2.4~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		1765	
第III-276回	17	141	S I	1上	1上	壺	口縁	(15.2)	2.9~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1772	
第III-276回	18	141	S I	-	1上	鉢	口縁~胴部	(25.0)	9.2~	-	石・壺・角・赤	赤橙・橙	ナテ、沈線	ナテ、横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ		1791	
第III-276回	19	141	S I	-	1上	壺	口縁	(24.0)	2.3~	-	石・長・壺・角	明赤褐	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ		1793	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 26

棟号	棟	遺構	遺構	出土	レイアウト	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測	図版
番号	番号	番号	種類	層位	層位			(cm)	(cm)	(cm)						番号	番号
第III-278図	1	155	S I	1下	1下	竪	口縁	(27.0)	3.1~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1619	
第III-278図	2	155	S I	1下	1下	竪	口縁	26.0	4.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ		1611	
第III-278図	3	155	S I	1下・上	1下	竪	口縁~胴部	20.6	7.6~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		1607	
第III-278図	4	155	S I	1下	1下	鉢	口縁	(23.2)	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1628	
第III-278図	5	155	S I	1上	1下	壺	口縁	(25.2)	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1635	
第III-278図	6	155	S I	1上	1上	壺	口縁	(23.4)	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1632	
第III-278図	7	155	S I	1上	1上	壺	口縁	(28.8)	3.1~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1651	
第III-278図	8	155	S I	1上	1上	壺	口縁~胴部	16.9	5.1~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、沈線、ナテ	横ナテ、ナテ		1613	
第III-278図	9	155	S I	トレ	1上	壺	口縁	(30.6)	3.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1653	
第III-278図	10	155	S I	1上	1上	壺	底部	-	4.2~	6.0	石・長・角・赤	明黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	ナテ		1644	
第III-278図	11	155	S I	1上	1上	壺	口縁	(29.2)	4.6~	-	石・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ナテ		1680	
第III-278図	12	155	S I	1上	1上	壺	口縁	(24.4)	2.1~	-	長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	ミガキ頂		1652	
第III-278図	13	155	S I	1上	1上	壺	底部	-	3.9~	6.6	長・石・雲・赤	にぶい黄橙	ナテ	指ナテ、指頭任原		1626	
第III-278図	14	155	S I	1上	1上	高坏	口縁	(29.2)	1.0~	-	石・長・雲・角・赤	明赤橙	横ナテ後暗文(縦)、ナテ	磨減		1627	
第III-281図	1	127	S I	床面	No	壺	口縁~胴部	43.4	23.9~	-	石・長・雲・角・赤	明黄橙	横ナテ、突帯、ナテ	横ナテ、ナテ		1837	
第III-281図	2	127	S I	床面	No	無頸登(穿孔)	口縁	(16.4)	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		175	
第III-281図	3	127	S I	床面	No	無頸登	完形	13.5	10.4~	8.0	長・角	橙	ナテ	ナテ		29	PL-28
第III-281図	4	127	S I	胴部	胴部	壺	口縁	27.2	4.8~	-	石・長・雲・角・赤	明黄橙	横ナテ	横ナテ		1801	
第III-281図	5	127	S I	3・胴部	胴部	壺(穿孔)	口縁~胴部	18.4	5.6~	-	石・長・雲・角・赤	明赤橙	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、ナテ		1799	
第III-281図	6	127	S I	4	4	壺	口縁	(24.0)	4.3~	-	石・長・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ		1806	
第III-281図	7	127	S I	3	3	壺	底部	-	2.6~	6.0	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	磨減		1798	
第III-281図	8	127	S I	1・トレ	2	壺	口縁	26.0	3.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1828	
第III-281図	9	127	S I	2	2	壺	底部	-	4.8~	6.0	石・長・雲・角	橙・灰黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ		1843	
第III-281図	10	127	S I	2	2	鉢	口縁	32.0	2.6~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙・橙	横ナテ	横ナテ		1881	
第III-281図	11	127	S I	2	2	鉢	口縁	15.0	3.9~	-	石・長・雲・角	橙	ミガキ(横)、横ナテ、ミガキ(縦)頂	横ナテ、ミガキ(横)頂		1835	
第III-281図	12	127	S I	2	2	壺	口縁	(27.0)	3.0~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1810	
第III-281図	13	127	S I	2	2	壺	口縁	(29.4)	3.4~	-	石・長・雲・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ		1808	
第III-281図	14	127	S I	1	2	壺	口縁	(16.6)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1809	
第III-281図	15	127	S I	2	2	壺	口縁	(17.6)	4.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)、ハケ目(縦)後ナテ ミガキ(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1820	
第III-281図	16	127	S I	1	1	壺	口縁	(21.6)	1.7~	-	石・長・雲・角	明赤橙	横ナテ	横ナテ		1804	
第III-281図	17	127	S I	トレ	1	壺	口縁	(21.6)	2.2~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1819	
第III-281図	18	127	S I	1	1	壺	胴部	-	8.1~	-	長・雲・角・赤	明赤橙・橙	二条沈線、ハケ目(多方向)後ナテ、ミガキ(横)	指頭任原、ナテ		1850	
第III-285図	1	122	S I	床面	No	壺	口縁	(27.2)	1.5~	-	石・雲・角・赤	赤橙	磨減	ナテ		1409	
第III-285図	2	122	S I	床面	No	壺	口縁	(29.6)	3.2~	-	石・長・雲・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ		1421	
第III-285図	3	122	S I	P・床面	No	壺	底部	-	8.9~	7.4	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ	ハケ目(縦)後ナテ		1505	
第III-285図	4	122	S I	SK	SK	壺	口縁	(22.4)	1.6~	-	石・長・雲・角	明黄橙	横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1433	
第III-285図	5	122	S I	-	1	壺	口縁	(35.4)	1.6~	-	石・長・雲・角・赤	明橙	横ナテ	横ナテ		1450	
第III-285図	6	122	S I	SK	SK	壺	口縁	14.6	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、ミガキ後暗文(縦)	横ナテ後ミガキ(多方向)		1457	
第III-285図	7	122	S I	3	4	壺	口縁	(24.4)	2.2~	-	石・長・雲・角	浅黄	横ナテ	横ナテ		1420	
第III-285図	8	122	S I	4	4	壺	口縁	33.0	4.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	ナテ		1411	
第III-285図	9	122	S I	3・4	4	壺	口縁~胴部	34.2	11.3~	-	石・長・雲・角・赤	明赤橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ・ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ		1769	
第III-285図	10	122	S I	4	4	壺	口縁	23.2	5.7~	-	石・長・雲・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ		1429	
第III-285図	11	122	S I	1	4	壺	底部	-	2.8~	10.4	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)後横ナテ、横ナテ	磨減		1416	
第III-285図	12	122	S I	4	4	壺	口縁	(16.8)	1.7~	-	石・長・雲	明赤橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		1427	
第III-285図	13	122	S I	4	4	壺	口縁	(26.0)	4.2~	-	石・長・雲・角	黒橙・橙	横ナテ、ハケ目(左上)	横ナテ		1437	
第III-285図	14	122	S I	4	4	壺	口縁	(27.2)	4.9~	-	長・石・雲・赤	明赤橙・明黄橙	横ナテ、ハケ目(左上)	横ナテ		1463	
第III-285図	15	122	S I	4	4	壺	口縁	(19.2)	1.8~	-	石・長・雲・角	明赤橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		1444	
第III-285図	16	122	S I	4	4	壺	口縁	19.8	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	赤橙	横ナテ、刻み目(底部)	横ナテ		1434	
第III-285図	17	122	S I	4	4	壺	胴部	-	6.7~	-	石・長・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、刻み目突帯	ハケ目(左上)後ナテ		1417	
第III-285図	18	122	S I	4	4	壺	底部	-	3.8~	9.4	石・長・雲・角・赤	明赤橙・黒橙	ハケ目(多方向)後横ナテ、ナテ	ハケ目(縦)後横ナテ		1813	
第III-285図	19	122	S I	3・4	4	壺	底部	-	8.8~	8.0	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)	ナテ、指頭任原		1826	
第III-285図	20	122	S I	3層下層・4	4	壺	胴~底部	-	10.0~	6.4	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後横ナテ、ナテ	指ナテ後ハケ目(縦)、指ナテ、指頭任原		1766	
第III-285図	21	122	S I	1・4	4	高坏	口縁	24.3	1.6~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ後暗文(縦)、横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ		1422	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 27

検出 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	製種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-286図	1	122	S I	2	3	壺	口縁	(30.4)	1.5~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2層出土	1466	
第III-286図	2	122	S I	3	3	壺	口縁	(27.2)	2.3~	-	石・長・雲・角	胡黄褐	横ナテ	横ナテ		1442	
第III-286図	3	122	S I	3	3	壺	口縁	(27.0)	2.2~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	1455	
第III-286図	4	122	S I	3	3	壺	口縁	(39.3)	2.5~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3層出土	1459	
第III-286図	5	122	S I	3	3	壺	口縁	(42.0)	3.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄褐	横ナテ	横ナテ		1476	
第III-286図	6	122	S I	3	3	壺	口縁	31.8	4.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付器	1465	
第III-286図	7	122	S I	3	3	壺	口縁	(26.4)	6.1~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・1層出土	1779	
第III-286図	8	122	S I	3	3	壺	口縁	(25.4)	5.9~	-	石・長・雲	胡黄褐	横ナテ	横ナテ		1458	
第III-286図	9	122	S I	3	3	壺	頸部	(内径22.6)	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	赤褐	横ナテ、突帯	横ナテ、突帯	赤色顔料	1443	
第III-286図	10	122	S I	1	3	鉢	口縁	(27.0)	2.4~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・1層出土	1448	
第III-286図	11	122	S I	3	3	壺	口縁	24.0	3.7~	-	長・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後頭文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1764	
第III-286図	12	122	S I	3	3	壺	口縁	(11.6)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1479	
第III-286図	13	122	S I	3	3	壺	口縁	(19.0)	1.85~	-	石・長・雲・角・赤	胡赤褐	横ナテ、暗文痕	横ナテ、暗文痕	ミガキ痕	1456	
第III-286図	14	122	S I	3	3	壺	口縁	(19.6)	1.2~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、二条刻み目文(横部)	横ナテ		1446	
第III-286図	15	122	S I	3	3	壺	口縁	11.2	1.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	複合口縁壺	1499	
第III-286図	16	122	S I	3	3	壺	胸部	-	5.5~	-	石・長・雲・角・赤	赤褐	横ナテ、刻み目突帯、ミガキ(縦)後ナテ	ナテ		1500	
第III-286図	17	122	S I	3	3	高杯	脚部	-	4.7~	17.2	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ナテ	ナテ	赤色顔料	1451	
第III-286図	18	122	S I	2	2	壺	胸部	-	3.7~	-	石・長・角・赤	橙	ナテ、張り付け浮文	ナテ、指頭圧痕		1467	
第III-286図	19	122	S I	トレ	1	壺	口縁	(17.0)	1.5~	-	石・長・角・赤	赤褐、橙	横ナテ	横ナテ	赤彩文	1449	
第III-286図	20	122	S I	1	1	無頸壺	口縁	(15.4)	3.7~	-	長・長・角・赤	胡黄褐	ナテ	横ナテ、ナテ		1445	
第III-290図	1	113	S I	床面・3・1(1)	No	壺	口縁~胸部	27.2	17.7~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、沈線	横ナテ、ナテ	(最大胴径26.3cm)		
第III-290図	2	113	S I	床面	No	壺	口縁	15.4	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		1580	
第III-290図	3	113	S I	胸部	胸部	壺	口縁	(19.4)	1.6~	-	石・長・雲・角	胡赤褐	ミガキ(横)後ナテ、横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1550	
第III-290図	4	113	S I	SK	SK	壺	底部	-	3.3~	6.6	石・長・雲・角・赤	黄橙	ナテ、横ナテ	肩凝	類似土器3層出土	1553	
第III-290図	5	113	S I	2	4	壺	口縁	26.2	4.7~	-	石・長・雲・角・赤	黄橙8	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器4層出土	1598	
第III-290図	6	113	S I	トレ	4	壺	口縁	(28.0)	2.9~	-	石・長・雲・角	黒褐、橙	横ナテ	横ナテ、指頭圧痕	類似土器4・3・2・1層出土	1546	
第III-290図	7	113	S I	3	3	壺	口縁	(40.6)	2.3~	-	長・石・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1555	
第III-290図	8	113	S I	1	3	壺	口縁	(28.8)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2層出土	1557	
第III-290図	9	113	S I	1	3	壺	口縁	(24.0)	3.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3層出土	1540	
第III-290図	10	113	S I	3	3	壺	底部	-	3.1~	5.8	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	肩凝		1596	
第III-290図	11	113	S I	3	3	壺	底部	-	5.6~	7.2	石・長・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、指頭圧痕、横ナテ	ナテ	スス付器	1617	
第III-290図	12	113	S I	3	3	壺	口縁	(21.8)	2.0~	-	長・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1556	
第III-290図	13	113	S I	3	3	壺	口縁	(25.6)	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1591	
第III-290図	14	113	S I	3	3	無頸壺	口縁	(14.8)	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	褐灰、にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ痕		1594	
第III-290図	15	113	S I	2	2	壺	口縁~頸部	25.2	5.3~	-	石・長・角	浅黄橙、にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ		1827	
第III-290図	16	113	S I	2	2	壺	口縁	(20.0)	1.8~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		1567	
第III-290図	17	113	S I	1	2	壺	口縁	(19.0)	1.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	肩凝、類似土器2・1層出土	1562	
第III-290図	18	113	S I	2	2	壺	口縁	(22.6)	2.1~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1551	
第III-290図	19	113	S I	トレ	2	壺	口縁	25.0	2.5~	-	石・長・雲・角	灰黄	横ナテ	横ナテ	スス付器、類似土器2・1層出土	1547	
第III-290図	20	113	S I	2	2	壺	口縁	(24.6)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1539	
第III-290図	21	113	S I	2	2	壺	底部	-	3.6~	7.6	石・長・雲・角・赤	橙	指ナテ、指頭圧痕、指ナテ	指ナテ、指頭圧痕	肩凝	1571	
第III-290図	22	113	S I	1	2	壺	底部	-	3.1~	7.0	石・長・雲・角	橙	横ナテ	肩凝	類似土器2・1層出土	1570	
第III-291図	1	113	S I	1	2	壺(穿孔)	口縁	19.0	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	穿孔、類似土器2・1層出土	1564	
第III-291図	2	113	S I	2・(1・2)	2	壺	口縁	19.2	2.9~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		1538	
第III-291図	3	113	S I	2	2	壺	口縁	(17.8)	3.2~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)	肩凝	1566	
第III-291図	4	113	S I	2	2	壺	口縁	(24.2)	4.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ(右)後ミガキ(縦)、横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)、ナテ		1588	
第III-291図	5	113	S I	2	2	壺	口縁	(25.0)	3.2~	-	石・長・角・赤	橙、灰黄褐	横ナテ	横ナテ		1565	
第III-291図	6	113	S I	トレ	2	壺	口縁	(27.6)	1.9~	-	石・長・雲・角	灰褐、にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1563	
第III-291図	7	113	S I	2	2	壺	口縁	(15.0)	1.7~	-	長・雲・角	にぶい黄褐	横ナテ	ナテ		1599	
第III-291図	8	113	S I	2	2	壺	口縁	(21.6)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)後ナテ		1577	
第III-291図	9	113	S I	2	2	無頸壺	口縁	10.8	3.4~	-	長・雲・角	橙	横ナテ、帯描直線文(縦)	横ナテ		1608	
第III-291図	10	113	S I	2	2	壺	胸部	-	3.0~	-	石・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、鈎状浮文	肩凝		1795	
第III-291図	11	113	S I	2	2	壺	胸部	-	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	黒褐、にぶい橙	ミガキ痕、沈線文(縦)	ナテ		1614	
第III-291図	12	113	S I	2	2	壺	底部	-	3.0~	8.0	石・長・雲・角・赤	黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1558	
第III-291図	13	113	S I	2	2	壺	底部	-	3.0~	7.0	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、ナテ	指頭圧痕	スス付器、類似土器2層出土	1666	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 28

挿入 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-291図	14	113	S1	トレ	2	壺	底部	-	3.4~	10.0	石・長・雲・赤	明黄褐	ミガキ(縦・多方向)	磨減	黒斑、類似土器2・1層出土	1667	
第III-291図	15	113	S1	2	2	坏	口縁	(14.0)	1.8~	-	石・長・角	灰Hue	横ナテ、粘土積み上げ痕	横ナテ	(須恵器)回転台使用、類似土器2層出土	1787	
第III-291図	16	113	S1	トレ	1	壺	口縁	(24.0~30.0)	2.7~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		1593	
第III-291図	17	113	S1	トレ	1	甕	口縁	24.3	6.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙・にぶい橙	横ナテ後暗文(縦)、横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)	黒斑	1741	
第III-291図	18	113	S1	1	1	甕	口縁	25.2	5.1~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	ミガキ(横)		1549	
第III-291図	19	113	S1	1	1	壺	口縁	(24.2)	2.0~	-	石・長・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1525	
第III-291図	20	113	S1	トレ	1	壺	口縁	(20.6)	3.7~	-	石・角・赤	橙	横ナテ	ナテ		1601	
第III-291図	21	113	S1	トレ	1	壺	口縁	(25.0)	3.7~	-	石・長・角	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)	類似土器1層出土	1560	
第III-291図	22	113	S1	トレ	1	甕	口縁	(19.0)	2.4~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦)	ミガキ(横)	赤色顔料	1548	
第III-291図	23	113	S1	-	1	甕	口縁	(16.0~18.0)	4.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ痕	横ナテ、ミガキ痕		1542	
第III-291図	24	113	S1	1	1	壺	口縁	(20.2)	1.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ミガキ(多方向)、横ナテ、刻み目文(端部)	ミガキ(横)		1552	
第III-291図	25	113	S1	トレ	1	甕	胴部	-	4.2~	-	石・角・赤	にぶい橙	横ナテ、刻み目突帯、ミガキ(多方向)	ナテ	(最大胴径21.6cm)		
第III-291図	26	113	S1	1	1	甕	胴部	-	3.8~	-	石・長・角	橙	ハケ目(多方向)	指ナテ		1592	
第III-291図	27	113	S1	1・(2)	1	甕	底部	-	2.8~	7.0	石・角・赤	橙・褐灰	ミガキ(横)、横ナテ	ナテ、指頭圧痕	黒斑	1559	
第III-291図	28	113	S1	1	1	高杯	口縁	(32.0)	1.1~	-	石・長・角・赤	橙	ナテ	ナテ		1561	
第III-291図	29	113	S1	1	1	坏蓋	天井部	-	1.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	指ナテ	指ナテ	(土師器)	1572	
第III-293図	1	124	S1	炉	炉	壺	口縁	26.0	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	赤	横ナテ	横ナテ		1473	
第III-293図	2	124	S1	炉	炉	壺	口縁	(28.4)	2.2~	-	石・長・雲・角	褐灰	横ナテ	横ナテ		1460	
第III-293図	3	124	S1	炉	炉	甕	口縁	(27.8)	1.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1471	
第III-293図	4	124	S1	炉	炉	壺	口縁	(23.2)	2.5~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		1447	
第III-293図	5	124	S1	炉	炉	壺	口縁	(25.0)	2.1~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ		1511	
第III-293図	6	124	S1	炉・2	炉	壺	口縁	22.4	2.4~	-	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1470	
第III-293図	7	124	S1	-	床面	壺	口縁	(28.0)	4.3~	-	長・石・雲・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器床面・3層出土	1392	
第III-293図	8	124	S1	3	床面	壺	口縁	24.4	3.8~	-	石・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付処、類似土器床面・3層出土	1425	
第III-293図	9	124	S1	床面下	床面	壺	口縁	(測定不能)	4.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(横)	横ナテ、ハケ目(縦)		1584	
第III-293図	10	124	S1	1・床面下	床面	壺	口縁	(19.0)	1.6~	-	雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1857	
第III-293図	11	124	S1	床面下	床面	器台	脚部	-	4.4~	(17.6)	長・石・赤	橙・黄灰	ナテ、横ナテ	横ナテ		1890	
第III-293図	12	124	S1	1	胴部	壺	口縁	(29.4)	2.2~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1672	
第III-293図	13	124	S1	3	胴部	壺	口縁	(33.4)	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器胴部3・1層出土	1506	
第III-293図	14	124	S1	胴部	胴部	壺	口縁	20.0	2.9~	-	長・雲・角	灰黄褐	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)	スス付処	1663	
第III-293図	15	124	S1	胴部	胴部	壺	底部	-	3.5~	5.4	石・長・雲・角	にぶい黄褐・灰黄褐	ナテ	ナテ		1534	
第III-293図	16	124	S1	3	3	壺	口縁	(34.4)	2.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1535	
第III-293図	17	124	S1	3	3	壺	口縁	26.0	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	1492	
第III-293図	18	124	S1	3	3	壺	口縁	(27.6)	3.4~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1366	
第III-293図	19	124	S1	3	3	壺	口縁	(25.4)	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	1495	
第III-293図	20	124	S1	2	3	壺	口縁	28.0	4.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	1372	
第III-293図	21	124	S1	3	3	壺	口縁	23.2	3.1~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1423	
第III-293図	22	124	S1	2	3	壺	口縁	23.4	4.2~	-	長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目痕(横)	スス付処、類似土器3・2層出土	1426	
第III-293図	23	124	S1	3	3	壺	口縁	26.8	6.2~	-	石・長・雲・角	黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1439	
第III-293図	24	124	S1	3	3	壺	口縁	(41.4)	6.1~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、突帯、ナテ	横ナテ、ハケ目(横)、ナテ		1424	
第III-293図	25	124	S1	3	3	壺	底部	-	3.6~	6.0	石・長・雲	橙	横ナテ後ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		1371	
第III-293図	26	124	S1	3	3	壺	底部	-	3.5~	6.8	石・長・雲	橙	ハケ目(縦)後ナテ、ハケ目後ナテ、ナテ	磨減		1440	
第III-293図	27	124	S1	3	3	壺	底部	-	3.4~	9.2	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨減		1536	
第III-293図	28	124	S1	2	3	鉢	口縁	(30.4)	1.6~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	1888	
第III-293図	29	124	S1	3	3	壺	口縁	16.2	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ハケ目(横)、ミガキ(右上)		1494	
第III-293図	30	124	S1	3・(1・包)	3	甕	口縁~胴部	21.2	10.6~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、突帯、ナテ、暗文(縦)	ミガキ(横)、横ナテ、指頭圧痕		1384	
第III-293図	31	124	S1	2・3	3	壺	口縁	18.4	2.8~	-	雲・角・赤	黄橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1453	
第III-293図	32	124	S1	1・3	3	壺	口縁	16.0	2.9~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1365	
第III-293図	33	124	S1	3	3	壺	底部	-	1.3~	9.0	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ	ナテ、指頭圧痕	スス付処	1367	
第III-294図	1	124	S1	2	2	壺	口縁	(20.0)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1671	
第III-294図	2	124	S1	2	2	壺	口縁	(33.0)	2.0~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1817	
第III-294図	3	124	S1	2	2	壺	口縁	(49.0)	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1582	
第III-294図	4	124	S1	2	2	壺	口縁	(25.0)	1.7~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		1620	
第III-294図	5	124	S1	2	2	甕	口縁	(70.0~80.0)	5.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1887	
第III-294図	6	124	S1	2	2	壺	底部	-	3.6~	9.2	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨減		1537	

2 区竪穴住居・弥生土器観察表 29

挿図 番号	枚 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-294回	7	124	S	2	2	鉢	口縁	27.0	3.7~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器1層出土	1583	
第III-294回	8	124	S	2	2	台付鉢	脚部	-	1.1~	6.0	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	磨減		1891	
第III-294回	9	124	S	2	2	壺	口縁	16.0	1.8~	-	竪・角・赤	にぶい橙	暗文(縦)、ハケ目(横・縦)後暗文(縦)	ミガキ(横)		1815	
第III-294回	10	124	S	2	2	壺	口縁	(33.0)	3.3~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1573	
第III-294回	11	124	S	1	2	壺	口縁	15.6	2.1~	-	長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ	類似土器2・1層出土	1670	
第III-294回	12	124	S	2	2	壺	頸部	-	4.3~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)、突帯	横ナテ		1507	
第III-294回	13	124	S	2	2	高坏	口縁	(26.0)	1.4~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ後暗文(縦)、横ナテ	横ナテ		1999	
第III-294回	14	124	S	1	1	壺	口縁	23.2	2.1~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻	1816	
第III-294回	15	124	S	1	1	壺	口縁~胴部	24.8	6.3~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ、沈線、ナテ	横ナテ		1320	
第III-294回	16	124	S	1	1	壺	口縁	(29.2)	2.2~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1998	
第III-294回	17	124	S	1	1	壺	口縁	(24.0)	2.2~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1997	
第III-294回	18	124	S	1	1	壺	胴部	-	5.5~	-	長・竪・角	明赤褐	二条刻み目突帯、横ナテ、ハケ目(左上)	ナテ		1858	
第III-294回	19	124	S	1	1	壺	胴部	-	5.3~	-	石・長・竪	橙	沈線	横ナテ		1859	
第III-294回	20	124	S	1	1	壺(穿孔)	口縁	15.6	3.5~	-	長・竪・角	にぶい橙	二条突帯、横ナテ	横ナテ		1493	
第III-294回	21	124	S	1	1	壺(穿孔)	口縁	(25.0~30.0)	2.1~	-	長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目痕	磨減		1904	
第III-294回	22	124	S	1	1	壺	口縁	20.0	3.3~	-	長・竪・角	橙・にぶい黄褐3	横ナテ	横ナテ後ミガキ(横)		1662	
第III-294回	23	124	S	1	1	壺	口縁	(16.0~18.0)	5.5~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ		1886	
第III-294回	24	124	S	1	トレ	壺	口縁	14.8	2.9~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1903	
第III-294回	25	124	S	1	1	壺	口縁	15.6	3.0~	-	長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1393	
第III-294回	26	124	S	1	1	壺	口縁	15.4	2.5~	-	長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ		1574	
第III-294回	27	124	S	1	1	壺	底部	-	1.5~	8.4	石・長・竪	明黄褐	ナテ	表面剥離		1621	
第III-294回	28	124	S	1	1	高坏	脚部	-	1.7~	13.2	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1905	
第III-297回	1	1174	S	P	P	壺	口縁	(28.4)	1.8~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器SK・1層出土	1727	
第III-297回	2	1174	S	P	P	壺	底部	-	4.8~	6.4	石・長・竪・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ		1746	
第III-297回	3	1174	S	2	2	壺	口縁~頸部	(20.8)	2.3~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、沈線、ミガキ(横)	横ナテ、ミガキ痕		1736	
第III-297回	4	1174	S	2	2	鉢	口縁	(31.0)	3.5~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1725	
第III-297回	5	1174	S	2	2	無頸罎	口縁	(15.0)	1.7~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1735	
第III-297回	6	1174	S	1	1	壺	口縁	(24.0)	2.1~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付廻	1714	
第III-297回	7	1174	S	1	1	壺	口縁	(19.6)	1.8~	-	石・長・竪・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1739	
第III-299回	1	1175	S	床面	床面	壺	口縁	20.0	2.0~	-	長・石・竪・赤	にぶい橙	ナテ、横ナテ後ミガキ(縦)	横ナテ後ミガキ(横)		1430	
第III-299回	2	1175	S	2	2	壺	口縁	(20.0~30.0)	2.1~	-	石・長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1436	
第III-299回	3	1175	S	1	1	壺	口縁	(約30.0)	1.9~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1432	
第III-301回	1	1194	S	床面・炉・SK	No	鉢	口縁~底部	27.0	14.0	9.0	石・長・角・赤	橙・にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(左上)、ミガキ(横)、ナテ	横ナテ、ハケ目(横・縦)後ナテ、ナテ	黒斑、底部欠損 (最大胴径22.3cm)	1844	
第III-301回	2	1194	S	P	P	壺	口縁	(23.0)	1.9~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1829	
第III-301回	3	1194	S	3	3	壺	口縁	(37.6)	2.6~	-	石・長・竪・角	にぶい褐3	横ナテ	横ナテ	黒斑	1824	
第III-301回	4	1194	S	3	3	壺	口縁	(29.2)	1.7~	-	石・長・竪・角	黒SY2/1	横ナテ	横ナテ	黒斑	1823	
第III-301回	5	1194	S	3	3	壺	底部	-	5.6~	-	石・長・竪・角	橙	ハケ目(縦)、ナテ	横ナテ	スス付廻	1854	
第III-301回	6	1194	S	2	2	壺	口縁	(38.8)	4.2~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1822	
第III-301回	7	1194	S	2	2	壺	口縁	(21.8)	2.5~	-	石・長・竪・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻	1825	
第III-301回	8	1194	S	2	2	壺	口縁	(14.6)	3.5~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		1833	
第III-301回	9	1194	S	2	2	壺	口縁	(22.0)	2.9~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ	黒斑	1821	
第III-301回	10	1194	S	2	2	壺	口縁	31.8	4.4~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		1839	
第III-301回	11	1194	S	2	2	壺	口縁	(17.0)	2.2~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい褐	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ痕(横)		1832	
第III-301回	12	1194	S	2	2	短頸罎	口縁	(20.0)	1.2~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1830	
第III-301回	13	1194	S	2	2	壺	底部	-	3.9~	7.6	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		1834	
第III-301回	14	1194	S	-	1	壺	口縁	(28.0)	2.2~	-	石・長・竪・角・赤	にぶい橙・橙	横ナテ	横ナテ		1831	
第III-306回	1	1192	S	床面	床面	壺	口縁	(22.0)	1.9~	-	石・長・竪	橙	横ナテ	横ナテ		1932	
第III-306回	2	1192	S	床面	床面	壺	口縁	(30.8)	2.8~	-	長・竪・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1926	
第III-306回	3	1192	S	床面	床面	壺	底部	-	2.5~	6.8	石・長・竪	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		1938	
第III-306回	4	1192	S	-	1	壺	口縁~頸部	(27.6)	4.3~	-	石・長・竪・角・赤	橙	横ナテ、ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		1934	
第III-306回	5	1192	S	-	1	壺	口縁	(26.0)	2.6~	-	石・長・竪・角	橙	横ナテ	横ナテ		1936	
第III-306回	6	1192	S	-	1	壺	口縁	(27.6)	2.0~	-	石・長・竪	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1942	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 30

棟号	竪穴	遺物	遺物	出土	レイアウト	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測	図版
番号	番号	番号	種類	層位	層位			(cm)	(cm)	(cm)						番号	番号
第III-306	7	1192	S	I	-	1	壺	口縁	(32.3)	1.7~	-	石・長・壺	横ナテ	横ナテ		1939	
第III-306	8	1192	S	I	-	1	壺	口縁	23.8	5.8~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ	瓜斑	1946	
第III-306	9	1192	S	I	-	1	壺	口縁	15.4	2.7~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ、ナテ		1952	
第III-306	10	1192	S	I	-	1	壺	口縁	(24.0)	2.4~	-	長・石・壺・赤	横ナテ、陶文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)	スス付処	1966	
第III-306	11	1192	S	I	-	1	壺	口縁	(17.2)	1.2~	-	石・長・壺	横ナテ	ミガキ(多方向)		1928	
第III-308	1	1176	S	I	1	P	壺	口縁	(19.6)	2.1~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ	スス付処、類似土器P・1層出土	1988	
第III-308	2	1176	S	I	P	P	壺	口縁	(28.0)	1.6~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1925	
第III-308	3	1176	S	I	床面	床面	壺	口縁	(30.6)	2.8~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1924	
第III-308	4	1176	S	I	トレ	1	壺	口縁	(30.0)	1.8~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ	スス付処	1965	
第III-308	5	1176	S	I	1	1	壺	口縁	(32.6)	3.0~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ		1907	
第III-308	6	1176	S	I	1	1	壺	口縁~頸部	26.0	4.6~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、沈線	横ナテ		1911	
第III-308	7	1176	S	I	1	1	壺	口縁	(27.8)	2.3~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1914	
第III-308	8	1176	S	I	トレ	1	壺	口縁	(27.0)	3.4~	-	石・長・壺	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付処	1937	
第III-308	9	1176	S	I	1	1	壺	口縁	(31.0)	3.1~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ		1915	
第III-308	10	1176	S	I	1	1	壺	口縁	(25.6)	3.2~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、陶文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1927	
第III-308	11	1176	S	I	1	1	壺	口縁	20.4	2.3~	-	石・長・角・赤	横ナテ、ハケ目(横)後陶文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		2005	
第III-308	12	1176	S	I	1	1	壺	口縁~頸部	13.0	6.3~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(横)		1910	
第III-308	13	1176	S	I	1	1	壺	口縁	(22.8)	1.5~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、ミガキ度	横ナテ		1943	
第III-308	14	1176	S	I	1	1	壺	胸部	-	3.8~	-	石・角・赤	ナテ	ナテ	拓本貼付	1629	
第III-308	15	1176	S	I	1	1	壺	底部	-	1.8~	9.2	長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ	瓜斑	1948	
第III-310	1	1191	S	I	床面	床面	壺	口縁	(26.6)	1.2	-	石・角	横ナテ	横ナテ	瓜斑	1472	
第III-312	1	153	S	I	5	5	壺	口縁	(19.2)	2.5~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ		2158	
第III-312	2	153	S	I	4	4	壺	口縁	(23.0)	2.0~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ		2149	
第III-312	3	153	S	I	4	4	壺	口縁	(26.0)	2.1~	-	石・長・壺	横ナテ	横ナテ		2159	
第III-315	1	1209	S	I	P	P	壺	口縁	(24.4)	1.6~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1929	
第III-315	2	1209	S	I	SK	SK	壺	口縁	12.6	2.7~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	ナテ		1951	
第III-315	3	1209	S	I	床面	床面	壺	口縁~頸部	(25.6)	4.3~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ		1947	
第III-317	1	1211	S	I	1	1	壺	口縁	(30.2)	2.4~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1941	
第III-318	1	138	S	I	局部	局部	壺	口縁	22.8	4.8~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ、指頭圧痕	類似土器2・1層出土	1985	
第III-318	2	138	S	I	局部(包)	局部	壺	口縁	19.6	4.9~	-	長・壺・角・赤	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		1786	
第III-318	3	138	S	I	2・3	3	壺	口縁~胸部	25.4	25.5~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ナテ	瓜斑(最大口径25.5cm)	1527	PL-28
第III-318	4	138	S	I	3	3	壺	口縁	25.6	3.8~	-	石・長・角・赤	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)、ナテ	類似土器1層出土	1986	
第III-318	5	138	S	I	3	3	壺	口縁	(17.2)	4.1~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ		2003	
第III-318	6	138	S	I	2	2	壺	口縁	(40.8)	4.6~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器1層出土	1959	
第III-318	7	138	S	I	1上・2	2	壺	口縁~胸部	25.0	5.6~	-	石・長・壺	横ナテ、沈線	横ナテ		1991	
第III-318	8	138	S	I	2	2	壺	口縁	(18.4)	2.8~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ、ナテ		2053	
第III-318	9	138	S	I	2	2	壺	口縁	(18.0)	2.2~	-	長・石・壺・赤	横ナテ、ミガキ(縦・横)	ミガキ(横)		1995	
第III-318	10	138	S	I	1下	1下	壺	口縁	(19.6)	1.5~	-	石・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ		2012	
第III-318	11	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	23.4	2.15~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ	類似土器1下層出土	1971	
第III-318	12	138	S	I	1下	1下	壺	口縁	19.6	5.0~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、ハケ目(縦)、ハケ目後横ナテ	ミガキ(横)		1968	
第III-318	13	138	S	I	1下	1下	壺	口縁	(29.0)	4.0~	-	石・長・壺・角	横ナテ、横ナテ後陶文(縦)	横ナテ、ナテ	瓜斑、スス付処、底部欠損	1978	
第III-318	14	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	(28.6)	2.3~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		2043	
第III-318	15	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	(31.0)	2.2~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1964	
第III-318	16	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	(25.6)	2.0~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1984	
第III-318	17	138	S	I	1上	1上	壺	口縁~頸部	(43.0)	3.5~	-	石・長・壺・角	横ナテ、突帯	横ナテ		1969	
第III-318	18	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	(30.0)	2.8~	-	石・長・角・赤	横ナテ、ハケ目(横)後横ナテ	横ナテ		2006	
第III-319	1	138	S	I	トレ(2・3)	1上	壺	口縁~胸部	30.0	15.8~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ、ハケ目(多方向)	横ナテ、ナテ	(最大口径32.9cm)	1767	
第III-319	2	138	S	I	1上	1上	壺	底部	-	2.7~	11.3	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ	砂付処	1990	
第III-319	3	138	S	I	1上	1上	壺	底部	-	2.8~	9.0	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1983	
第III-319	4	138	S	I	1上	1上	壺	底部	-	2.0~	7.6	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ		1982	
第III-319	5	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	(30.2)	2.2~	-	石・長・壺・角	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	2067	
第III-319	6	138	S	I	トレ	1上	壺	口縁	13.2	4.0~	-	壺・角・赤	横ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)		2013	
第III-319	7	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	(29.0)	4.6~	-	長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)、ナテ		2020	
第III-319	8	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	15.9	5.2~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ	瓜斑	1987	
第III-319	9	138	S	I	1上	1上	壺	口縁	(25.4)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	横ナテ	横ナテ		1980	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 31

挿図 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-319回	10	138	S I	1上	1上	甕	口縁	(22.0)	2.3~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2077	
第III-319回	11	138	S I	1上	1上	甕	口縁	(14.4)	2.2~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、横ナテ後頭文(縦)	横ナテ		2007	
第III-319回	12	138	S I	1上	1上	甕	口縁	(28.4)	4.2~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ、頭文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		2093	
第III-319回	13	138	S I	1上	1上	甕	口縁	11.6	1.9~	-	石・髑・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(多方向)	横ナテ		2045	
第III-319回	14	138	S I	1上	1上	甕	口縁	(17.0)	0.9~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	黒斑	1972	
第III-319回	15	138	S I	1上	1上	甕	口縁	14.9	4.2~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ナテ後頭文(縦)	横ナテ、ナテ		1973	
第III-319回	16	138	S I	-	1上	甕	口縁	(12.6)	2.2~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2085	
第III-319回	17	138	S I	1上	1上	甕	底部	-	3.5~	(7.0)	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	ミガキ痕	ナテ	黒斑	1974	
第III-319回	18	138	S I	1上	1上	甕	底部	-	3.0~	6.8	石・長・髑・角・赤	橙	ミガキ痕、横ナテ	ナテ、横ナテ		2069	
第III-319回	19	138	S I	1上	1上	高坏	口縁	(27.0)	1.4~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2052	
第III-319回	20	138	S I	1上	1上	器台	底部	-	10.3~	10.6	石・長・髑・角・赤	黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、指頭圧痕	横ナテ、指頭圧痕		2216	
第III-322回	1	1201	S I	3	3	甕	口縁	(24.0)	1.7~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器4・1層出土	1840	
第III-322回	2	1201	S I	3	3	甕	底部	-	2.7~	9.0	石・長・髑・角・赤	灰黄褐・橙	横ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕		1838	
第III-322回	3	1201	S I	2	2	甕	底部	-	4.3~	6.8	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、ナテ	指頭圧痕		2057	
第III-322回	4	1201	S I	1	1	甕	口縁	(26.6)	2.5~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1846	
第III-327回	1	123	S I	床面・4・3 2・1	No	甕	完形	-	39.3~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(横)、ナテ	黒斑、一部欠損 (最大胴径26.4cm)	2191	
第III-328回	1	123	S I	床面・4・3 2・1(2)	No	甕	完形	14.8	42.9	5.3	長・髑・角・赤	明褐・橙	ハケ目(縦)、ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	ナテ、ハケ目(左上)後ナテ、指頭圧痕	黒斑 (最大胴径29.7cm)	2300	PL-28
第III-329回	1	123	S I	床面	No	甕	口縁	28.8	3.5~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1860	
第III-329回	2	123	S I	床面・4	No	甕	口縁	22.6	4.5~	-	石・長・髑・角・赤	明褐	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ	横ナテ		1863	
第III-329回	3	123	S I	床面・4・2	No	甕	口縁~胴部	17.0	18.4~	-	石・長・髑・角・赤	橙・黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)、ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ナテ	スス付痕 (最大胴径21.2cm)	2220	
第III-329回	4	123	S I	床面	No	甕	口縁	(28.2)	2.3~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1880	
第III-329回	5	123	S I	床面・3	No	甕	底部	-	7.6~	8.6	石・長・髑・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ		2141	
第III-329回	6	123	S I	床面・2	No	甕	口縁	13.1	4.5~	-	石・長・髑・角・赤	橙	ハケ目(右上)後ナテ	横ナテ		2151	
第III-329回	7	123	S I	床面	No	甕	口縁~胴部	8.8	6.3~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(縦)後横ナテ、ミガキ(縦)横ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑 (最大胴径9.4cm)	1852	PL-29
第III-329回	8	123	S I	床面・トレ (3・2・包)	No	甕	口縁~胴部	-	15.3~	-	石・長・髑・角・赤	浅黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、縞縞口縁文 縞縞腹文、縞縞波状文	ナテ、指頭圧痕	端部欠損	2120	PL-29
第III-329回	9	123	S I	P・床面・3 (4・2・1)	No	高坏	坏部	11.7	6.4~	-	長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	(最大胴径12.1cm)	2073	PL-29
第III-329回	10	123	S I	床面	No	高坏	脚部	-	6.1~	-	長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	ハケ目(横)、横ナテ、ナテ		1912	
第III-329回	11	123	S I	床面・4	No	高坏	脚部	-	4.3~	16.2	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ痕、横ナテ	横ナテ	黒斑	1841	
第III-329回	12	123	S I	床面	P	甕	口縁	(25.8)	2.8~	-	石・長・髑・角・赤	灰灰	ミガキ(横)、横ナテ	ミガキ(横)	類似土器床面・P・2層出土	1908	
第III-329回	13	123	S I	床面下	甕	口縁	口縁	(18.6)	1.7~	-	石・長・髑・角・赤	橙	ナテ	ナテ		1900	
第III-329回	14	123	S I	1	床面	甕	口縁	25.0	2.3~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器床面・4・3・2・1層出土	1896	
第III-329回	15	123	S I	床面	甕	口縁	口縁	(28.6)	2.4~	-	石・長・髑・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1892	
第III-329回	16	123	S I	床面	甕	口縁	口縁	(19.8)	1.4~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1893	
第III-329回	17	123	S I	床面	甕	口縁	口縁	(21.0)	2.2~	-	石・長・髑・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		1901	
第III-329回	18	123	S I	床面・4・3・2 1・トレ(3)	床面	長頸甕	口縁	11.0	11.3~	-	長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ、しほり痕		2205	
第III-330回	1	123	S I	胴部	局部	甕	口縁	(28.2)	3.0~	-	長・髑・角・赤	浅黄橙	横ナテ、刻目目文(胴部)	横ナテ		1856	
第III-330回	2	123	S I	床面・3 (P・2・1)	床面	甕	頸・胴・底部	-	13.6~	3.8	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、沈線、ハケ目(左上)後横ナテ ハケ目(左上)、ナテ	ナテ、指ナテ後横ナテ、ハケ目(右上)後横ナテ	頸部・胴部・底部を復元実測 (最大胴径20.0cm)	2100	
第III-330回	3	123	S I	床面	床面	高坏	坏部	27.6	7.7~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(左上)後横ナテ、横ナテ	指ナテ、ミガキ(縦)	スス付痕	1935	
第III-330回	4	123	S I	-	4	甕	口縁	(23.4)	2.1~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器4・3・2・1層出土	1878	
第III-330回	5	123	S I	4	4	甕	口縁	(31.8)	5.3~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	1954	
第III-330回	6	123	S I	4	4	甕	口縁	(27.0)	2.6~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1870	
第III-330回	7	123	S I	4	4	甕	底部	-	3.4~	7.8	石・長・髑・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	横ナテ		1871	
第III-330回	8	123	S I	4	4	甕	底部	-	4.0~	10.8	石・長・髑・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・1層出土	1862	
第III-330回	9	123	S I	4	4	甕	口縁	(19.8)	1.3~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1869	
第III-330回	10	123	S I	4	4	甕	口縁	26.8	5.6~	-	長・髑・角・赤	明褐・にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後頭文(縦)	横ナテ、ナテ		1906	
第III-330回	11	123	S I	4	4	甕	底部	-	2.7~	8.0	石・長・髑・角・赤	橙	ナテ	ナテ		1897	
第III-330回	12	123	S I	4	4	甕	底部	-	1.4~	5.0	石・長・髑・角・赤	橙	ナテ	ナテ	黒斑	1898	
第III-330回	13	123	S I	4	4	高坏	坏部	(23.4)	5.8~	-	石・長・髑・角・赤	赤褐	横ナテ、頭文痕、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ、ミガキ(横)	赤色顔料、端部欠損	1960	
第III-330回	14	123	S I	4	4	高坏	脚部	-	7.9~	-	石・髑・角・赤	にぶい赤褐・橙	ミガキ(縦)	ミガキ痕、横ナテ		1913	

2区堅穴住居・弥生土器観察表 32

神岡 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-330	15	123	S 1	4	4	高坪	脚部	-	3.1~	16.8	石・長・雲・角	明黄褐	ハケ目(多方向)後ナテ、横ナテ	ハケ目(横)後ナテ	類似土器3・1層出土	1864	
第III-331	1	123	S 1	3	3	甕	口縁	(28.6)	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1874	
第III-331	2	123	S 1	3	3	甕	口縁~胴部	22.4	6.9~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)	スス付	1882	
第III-331	3	123	S 1	3	3	甕	口縁	(25.4)	5.2~	-	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ	黒斑、類似土器2層出土	1872	
第III-331	4	123	S 1	3	3	甕	口縁	18.0	2.3~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1868	
第III-331	5	123	S 1	3	3	甕	底部	-	2.4~	6.9	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目、横ナテ、ナテ	磨滅		1922	
第III-331	6	123	S 1	3	3	甕	底部	-	3.8~	6.6	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨滅		1853	
第III-331	7	123	S 1	3	3	甕	口縁	(28.6)	3.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		1861	
第III-331	8	123	S 1	3	3	甕	口縁	18.0	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(左上)後暗文(縦)	横ナテ		1865	
第III-331	9	123	S 1	3	3	甕	口縁	(22.8)	3.2~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ	スス付	1899	
第III-331	10	123	S 1	3	3	甕	口縁	(16.6)	2.8~	-	長・雲・角・赤	明褐	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		1876	
第III-331	11	123	S 1	3	3	甕	口縁	(22.6)	2.4~	-	長・雲・角	明赤褐	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1875	
第III-331	12	123	S 1	3	3	甕	口縁	12.4	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		1866	
第III-331	13	123	S 1	3	3	甕	口縁	(18.0)	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	ナテ		1919	
第III-331	14	123	S 1	3	3	長頸甕	口縁	12.1	3.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯、ミガキ(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1923	
第III-331	15	123	S 1	3	3	甕	胴部	-	3.3~	-	長・雲・角・赤	明赤褐	磨滅波状文、ミガキ(横)	指ナテ(縦)	黒斑、拓本貼付	1917	
第III-331	16	123	S 1	3	3	甕	底部	-	1.8~	6.4	石・長・雲・角	灰黄褐	ミガキ、横ナテ	横ナテ、指ナテ		1877	
第III-331	17	123	S 1	3・2・トレ	3	甕	胴~底部	-	13.5~	-	石・長・雲・角・赤	赤褐	ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	ナテ、指頭尻		2135	
第III-332	1	123	S 1	1・2	2	甕	口縁	22.8	5.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙・にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器32・1層出土	1921	
第III-332	2	123	S 1	2	2	甕	底部	-	4.5~	7.4	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)、ナテ	ナテ		1851	
第III-332	3	123	S 1	2	2	甕	底部	-	3.4~	(7.0~8.0)	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	磨滅		1920	
第III-332	4	123	S 1	2	2	甕	口縁	(20.0)	1.2~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1845	
第III-332	5	123	S 1	2	2	甕	口縁	(20.5)	2.4~	-	石・長・雲・角	にぶい橙・にぶい黄橙	ミガキ(横)、横ナテ、ナテ、ナテ後暗文(縦)	ミガキ(横)	黒斑	1884	
第III-332	6	123	S 1	2	2	甕	胴部	-	3.9~	-	長・雲・角	にぶい橙	磨滅波状文、ハケ目(縦)後ナテ	ハケ目(縦)後ナテ	拓本貼付	1918	
第III-332	7	123	S 1	2	2	甕	胴部	-	2.6~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	磨滅波状文、ナテ	ナテ	拓本貼付	1916	
第III-332	8	123	S 1	2	2	甕	底部	-	2.3~	7.6	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、ハケ目(縦)後横ナテ、ナテ	ナテ	スス付	1883	
第III-332	9	123	S 1	2	2	高坪	口縁	(23.2)	1.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1855	
第III-332	10	123	S 1	2・トレ	2	高坪	口縁	26.6	3.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ、ミガキ尻		1879	
第III-332	11	123	S 1	-	1	甕	口縁	(23.6)	3.1~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		1842	
第III-332	12	123	S 1	トレ	1	甕	口縁	20.0	7.2~	-	石・長・角・赤	明黄褐	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	ハケ目(左上)後横ナテ		1848	
第III-332	13	123	S 1	トレ	1	甕	底部	-	3.4~	8.2	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	磨滅		1894	
第III-332	14	123	S 1	1	1	甕	底部	-	6.4~	10.4	石・長・雲・角・赤	橙・暗褐	ハケ目(左上)、横ナテ、ヘラナテ(横)	ナテ、指頭尻		1867	
第III-332	15	123	S 1	トレ	1	甕	底部	-	9.0~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	ナテ		1895	
第III-332	16	123	S 1	1・(1)	1	甕	口縁	11.0	6.2~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	ミガキ(横)後ミガキ(多方向)	横ナテ		2035	
第III-332	17	123	S 1	1	1	無頸甕	口縁	(13.8)	3.5~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ		1847	
第III-332	18	123	S 1	-	1	甕	底部	-	4.6~	3.4	石・長・雲・角・赤	橙	ミガキ(縦)	ナテ、指頭尻		1849	
第III-332	19	123	S 1	1	1	甕	底部	-	5.2~	14.0	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)、ナテ	横ナテ		1909	
第III-332	20	123	S 1	トレ	1	高坪	坪部~脚部	-	4.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ	ナテ、しほり尻		1885	
第III-332	21	123	S 1	1・(包・2・3)	1	器台	脚部	-	12.2~	12.0	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ、指頭尻	横ナテ		2157	PL-29
第III-332	22	123	S 1	-	1	器台	脚部	-	4.5~	17.4	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1873	
第III-338	1	1195	S 1	2	3	甕	口縁	21.8	4.2~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・2層出土	1955	
第III-338	2	1195	S 1	3	3	甕	口縁	(24.4)	1.9~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1956	
第III-338	3	1195	S 1	2	2	甕	口縁	(20.0~25.0)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ(横)	ミガキ(横)		2009	
第III-338	4	1195	S 1	2	2	甕	口縁	(30.8)	3.3~	-	雲・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		1992	
第III-338	5	1195	S 1	2	2	甕	口縁	(16.4)	3.7~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2055	
第III-338	6	1195	S 1	2	2	甕	底部	-	2.5~	11.4	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ナテ	ナテ	スス付	1981	
第III-338	7	1195	S 1	1	1	甕	口縁	21.0	1.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		2048	
第III-338	8	1195	S 1	トレ	1	甕	口縁	(20.2)	1.7~	-	長・雲・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1979	
第III-339	1	1094	S 1	2	2	甕	口縁	(22.8)	3.9~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1953	
第III-339	2	1094	S 1	2	2	甕	口縁~胴部	25.0	6.0~	-	石・長・雲	橙	横ナテ、突帯、ナテ	横ナテ、ナテ		1940	
第III-339	3	1094	S 1	2	2	甕	口縁	(23.0)	1.9~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		1962	
第III-339	4	1094	S 1	2	2	甕	底部	-	3.0~	6.8	石・長・雲	にぶい橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	磨滅		1933	
第III-339	5	1094	S 1	2	2	甕	底部	-	2.6~	10.0	石・長・雲・角	黒褐	ミガキ(縦)尻、ナテ	磨滅		1930	
第III-339	6	1094	S 1	2・1	2	甕	底部	-	6.4~	5.5	石・長・雲・角・赤	橙・褐灰	磨滅	スス付	1931		
第III-339	7	1094	S 1	1	1	甕	口縁	(35.0)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1950	

2 区窪穴住居・弥生土器観察表 33

挿入 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-339回	8	1094	S	1	1	器台	脚部	-	4.1~	8.6	石・長・壺・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	横ナテ			1958	
第III-339回	9	1094	S	1	1	器台	脚部	-	3.0~	9.6	石・長・壺・角	浅黄橙	横ナテ (多方向)、横ナテ	横ナテ、ナテ			1993	
第III-341回	1	1208	S	3	3	甕	口縁	(27.4)	3.0~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			1944	
第III-341回	2	1208	S	2	2	甕	口縁	(18.2)	1.8~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			1963	
第III-341回	3	1208	S	1	1	甕	口縁	(15.8)	2.0~	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ			1949	
第III-343回	1	1196	S	1	1	甕	口縁~頸部	17.6	6.7~	-	長・壺・角	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	ハケ目 (横)			2051	
第III-343回	2	1196	S	1	1	甕	底部	-	8.7~	12.0	石・長・壺・角・赤	にぶい赤橙	ナテ、横ナテ	ナテ	砂付貯、黒斑		1961	
第III-343回	3	1196	S	1	1	甕	口縁	(30.6)	2.6~	-	石・長・壺・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ			1945	
第III-346回	1	1172	S	1	1	床面	口縁	24.0	3.8~	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器床面・3・2・1層出土		2074	
第III-346回	2	1172	S	1	1	甕	口縁	(26.0)	3.9~	-	石・長・壺	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器P・1層出土		2083	
第III-346回	3	1172	S	1	1	床面	口縁~頸部	25.6	4.3~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ			2011	
第III-346回	4	1172	S	1	2	甕	口縁	27.6	3.1~	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土		2044	
第III-346回	5	1172	S	1	3	甕	口縁~頸部	(17.0)	2.6~	-	長・石・壺・赤	にぶい橙・明赤橙	横ナテ、板ナテ	横ナテ、ハケ目後横ナテ	類似土器3・1層出土		2155	
第III-346回	6	1172	S	1	3	甕	口縁	(22.6)	2.2~	-	石・長・壺・角	橙	ナテ	ナテ、指頭任痕			2102	
第III-346回	7	1172	S	1	3	3	器坏	口縁	27.2	1.1~	-	石・長・壺・角・赤	橙	暗文 (縦)、横ナテ	横ナテ	黒斑		2109
第III-346回	8	1172	S	1	2	甕	口縁	(測定不能)	3.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、刻み目突帯	横ナテ	(夜臼式土器) 類似土器2層出土		2090	
第III-346回	9	1172	S	1	2	甕	口縁	11.6~	-	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土		2084	
第III-346回	10	1172	S	1	2	甕	口縁	(29.4)	3.2~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2071	
第III-346回	11	1172	S	1	2	甕	口縁	(29.2)	3.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土		2070	
第III-346回	12	1172	S	1	1・2	2	甕	口縁~頸部	21.2	6.3~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (右上・縦) 後横ナテ	横ナテ、ハケ目 (多方向) 後横ナテ	スス付貯		2087
第III-346回	13	1172	S	1	2	2	甕	口縁	(36.2)	2.3~	-	長・壺・角	黄橙	横ナテ	横ナテ			2211
第III-346回	14	1172	S	1	2	2	甕	口縁	(21.4)	3.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2104
第III-346回	15	1172	S	1	2	2	甕	口縁	(20.2)	2.2~	-	石・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2103
第III-346回	16	1172	S	1	2	2	甕	口縁	(22.8)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	明黄橙	横ナテ	横ナテ			2089
第III-346回	17	1172	S	1	2	2	甕	口縁	18.0	3.2~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			2078
第III-346回	18	1172	S	1	2	2	甕	口縁	(14.8)	2.9~	-	石・長・壺・角	赤橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後暗文 (縦)	ミガキ (縦)	赤色顔料、類似土器2・1層出土		2080
第III-346回	19	1172	S	1	2	2	甕	口縁	(17.8)	2.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2107
第III-346回	20	1172	S	1	2	2	無頸甕	口縁	(12.6)	3.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙・明赤橙	ミガキ (多方向)	横ナテ	類似土器2・1層出土		2081
第III-346回	21	1172	S	1	2	2	甕	脚部	-	4.6~	-	長・壺・角・赤	橙	ハケ目 (右上)、横ナテ、 櫛形直線文、櫛形屈曲文	ハケ目 (右上)	拓本貼付		2188
第III-346回	22	1172	S	1	2	2	甕	脚部	-	1.9~	-	長・壺・角	橙・黒橙	櫛形波状文	ナテ	拓本貼付		2189
第III-346回	23	1172	S	1	2	2	器台	脚部	-	3.7~	11.8	長・壺・角・赤	橙	ハケ目 (右上)、横ナテ	横ナテ			2094
第III-346回	24	1172	S	1	2	2	器台	脚部	-	3.1~	10.4	長・壺・角	明黄橙	ハケ目 (右上)、横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土		2095
第III-346回	25	1172	S	1	2	2	器台	脚部	-	3.2~	(12.2)	石・長・壺・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	横ナテ			2106
第III-346回	26	1172	S	1	2	2	器台	脚部	-	3.2~	12.2	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目 (多方向)、ヘラナテ (右上)	ハケ目 (右上) 後ナテ、指頭任痕	類似土器2・1層出土		2079
第III-347回	1	1172	S	1	1	1	甕	口縁	(19.0)	2.9~	-	長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			2097
第III-347回	2	1172	S	1	1	1	甕	口縁	25.2	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	スス付貯		2117
第III-347回	3	1172	S	1	1	1	甕	口縁	30.0	2.5~	-	長・石・壺・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2096
第III-347回	4	1172	S	1	1	1	甕	口縁	(20.0)	2.4~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2091
第III-347回	5	1172	S	1	1	1	甕	底部	-	5.2~	7.0	石・長・壺	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑		2110
第III-347回	6	1172	S	1	1	1	甕	口縁	11.0	1.4~	-	石・長・壺・角	明赤橙	ナテ	ナテ			2092
第III-347回	7	1172	S	1	1	1	長頸甕	口縁	(16.6)	4.1~	-	壺・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ			2136
第III-347回	8	1172	S	1	1	1	甕	口縁~脚部	22.0	7.4~	-	石・壺・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)、 刻み目突帯	横ナテ、ミガキ (横)、ナテ			2076
第III-347回	9	1172	S	1	1	1	甕	口縁	22.4	5.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	暗文 (縦)	横ナテ			2111
第III-347回	10	1172	S	1	1	1	甕	口縁	(20.62)	1.0~	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ			2118
第III-352回	1	1173	S	1	1	1	甕	口縁	(28.0)	5.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器P・2・1層出土		2082
第III-352回	2	1173	S	1	1	1	甕	口縁	(24.0)	3.7~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器P・1層出土		2059
第III-352回	3	1173	S	1	1	1	甕	口縁	(27.0)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付貯、類似土器P・1層出土		2065
第III-352回	4	1173	S	1	1	1	甕	底部	-	3.6~	7.2	石・長・壺・角・赤	明赤橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	厩減			2086
第III-352回	5	1173	S	1	1	1	甕	底部	-	2.9~	9.0	石・長・壺・角	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	厩減			2062
第III-352回	6	1173	S	1	1	1	甕	口縁	(21.0)	1.7~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器P・1層出土		2070
第III-352回	7	1173	S	1	2	2	甕	口縁	(15.0~20.0)	1.4~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、刻み目突帯	横ナテ	(夜臼式土器)		2066
第III-352回	8	1173	S	1	2	2	甕	口縁	(25.6)	1.5~	-	石・長・壺・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土		2061
第III-352回	9	1173	S	1	2	2	甕	口縁	(29.2)	2.8~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2054
第III-352回	10	1173	S	1	2	2	甕	口縁~頸部	(25.0)	3.9~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、指頭任痕	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土		2047

2区竪穴住居・弥生土器観察表 34

棟号	採番	遺構	遺構	出土	レイアウト	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測	図版	
番号	番号	番号	種類	層位	層位			(cm)	(cm)	(cm)						番号	番号	
第III-352	11	1173	S	1	2	甕	底部	-	2.8~	6.4	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ				2062	
第III-352	12	1173	S	1	2	甕	口縁	(26.2)	3.6~	-	石・長・壘	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			2004	
第III-352	13	1173	S	1	2	甕	口縁	(20.0~30.0)	4.6~	-	石・壘・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後頭文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)			2064	
第III-352	14	1173	S	1	2	甕	口縁	(16.2)	3.6~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2056	
第III-352	15	1173	S	1	2	甕	底部	-	2.9~	7.2	石・長・壘・角・赤	明赤褐	ナテ	ナテ	黒斑、類似土器2・1層出土		2033	
第III-352	16	1173	S	1	2	甕	脚部	-	6.2~	15.2	長・壘・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(右上)後ナテ・横ナテ	ナテ、ハケ目(縦・横)後ナテ、横ナテ			2008	
第III-352	17	1173	S	1	1	甕	口縁~頸部	(32.2)	3.5~	-	石・長・壘・角	浅黄	横ナテ、突帯	横ナテ	黒斑		2039	
第III-352	18	1173	S	1	1	甕	口縁	(約67.2)	4.6~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			2027	
第III-352	19	1173	S	1	1	甕	口縁	(12.5)	2.3~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2088	
第III-352	20	1173	S	1	1	甕	口縁	(15.0)	1.7~	-	石・長・壘・角	橙	横ナテ	横ナテ			1994	
第III-352	21	1173	S	1	1	甕	口縁	(16.2)	2.3~	-	石・長・壘・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2014	
第III-352	22	1173	S	1	-	鉢	口縁~胴部	14.2	8.5~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	横ナテ、板ナテ痕	黒斑		1996	
第III-352	23	1173	S	1	1	甕(穿孔)	口縁	23.6	1.9~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	ミガキ痕			2029	
第III-352	24	1173	S	1	1	甕(穿孔)	口縁	(19.8)	3.6~	-	長・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(多方向・横)	横ナテ			2025	
第III-352	25	1173	S	1	-	甕	口縁	(20.0)	2.0~	-	石・長・壘・角・赤	黒褐・黄橙	横ナテ、横ナテ後頭文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)	黒斑		2034	
第III-352	26	1173	S	1	-	甕	口縁	18.6	2.8~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2015	
第III-352	27	1173	S	1	1	甕	口縁	17.0	3.5~	-	石・長・壘・角・赤	橙	磨減	磨減			2075	
第III-352	28	1173	S	1	トレ	甕	口縁	(20.0)	2.3~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、二条刻み目文(端部)	横ナテ			2058	
第III-352	29	1173	S	1	トレ	甕	底部	-	3.1~	9.6	石・長・壘・角・赤	にぶい黄橙	磨減	ナテ			2038	
第III-352	30	1173	S	1	1	高坏	脚部	-	7.9~	20.6	石・長・壘・角・赤	橙	指頭任痕、工具による任痕、横ナテ	横ナテ			2028	
第III-352	31	1173	S	1	-	甕	口縁	(15.6)	3.5~	-	石・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2037	
第III-354	1	1202	S	1	2	鉢	口縁	(19.0)	2.5~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい黄橙・橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土		2142	
第III-354	2	1202	S	1	2	鉢	口縁	(29.8)	2.7~	-	長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土		2138	
第III-355	1	1205	S	1	床面	甕	口縁	(24.4)	2.5~	-	石・長・壘・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			1836	
第III-356	1	1178	S	1	P	甕	口縁~頸部	(24.0)	5.1~	-	石・長・壘・角・赤	浅黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ	スス付痕、類似土器P・2層出土		2161	
第III-356	2	1178	S	1	2	甕	口縁	(30.0)	1.8~	-	石・壘・角	灰白	横ナテ	横ナテ			2163	
第III-356	3	1178	S	1	2	甕	口縁~頸部	19.8	5.0~	-	石・角・赤	浅黄	ミガキ(横)、横ナテ	横ナテ、ナテ			2192	
第III-356	4	1178	S	1	-	甕	口縁	(40.0)	2.5~	-	石・長・壘・角	橙	横ナテ	横ナテ			2164	
第III-356	5	1178	S	1	-	甕	口縁	22.8	3.5~	-	石・壘・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付痕		2165	
第III-356	6	1178	S	1	-	甕	口縁	(21.0)	1.9~	-	石・長・壘・角	浅黄橙	ミガキ(横)、横ナテ、工具による横ナテ	ナテ	黒斑		2162	
第III-356	7	1178	S	1	1	甕	口縁	(20.0)	2.6~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			2169	
第III-356	8	1178	S	1	-	甕	底部	-	3.6~	7.2	石・長・壘・角・赤	にぶい橙	ナテ、指頭任痕	ナテ			2166	
第III-356	9	1178	S	1	1	甕	口縁	21.8	4.6	-	石・長・壘・角・赤	橙	ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	ナテ			2172	
第III-361	1	1105	S	1	P	甕(穿孔)	口縁	(25.0)	2.1~	-	長・角・赤	赤褐	ミガキ痕、横ナテ	横ナテ			2036	
第III-361	2	1105	S	1	P	甕	口縁	(20.0~30.0)	2.9~	-	石・壘・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ(縦)	横ナテ	黒斑		2063	
第III-361	3	1105	S	1	床面	甕	口縁	(30.2)	2.1~	-	石・長・壘・角	橙	ナテ	ナテ			2041	
第III-361	4	1105	S	1	床面	甕	口縁	23.6	3.8~	-	石・長・壘・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			2042	
第III-361	5	1105	S	1	3・2上	3	甕	底部	-	4.7~	6.0	石・長・壘・角	橙・黒褐	ハケ目(縦)、ナテ	ナテ			2032
第III-361	6	1105	S	1	-	2下	甕	口縁	(23.8)	1.8~	-	石・長・壘・角	浅黄橙・明赤褐	横ナテ	横ナテ	類似土器2下・上・1層出土		2050
第III-361	7	1105	S	1	2下	2下	甕	底部	-	3.0~	10.4	石・長・壘・角・赤	橙・黒褐	ナテ	ナテ			2040
第III-361	8	1105	S	1	2上	2上	甕	口縁	(17.6)	3.0~	-	長・壘・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後頭文(縦)	横ナテ、ナテ			2049
第III-361	9	1105	S	1	1下	2上	甕	口縁	(25.0)	4.3~	-	長・石・壘・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)痕	横ナテ、ナテ	スス付痕		2018
第III-361	10	1105	S	1	1下	2上	甕	底部	-	6.7~	7.1	石・長・壘・角	橙・明赤褐	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	ナテ			2030
第III-361	11	1105	S	1	1下	2上	甕	口縁	(24.6)	2.4~	-	石・長・壘・角	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)			2002
第III-361	12	1105	S	1	トレ	1上	甕	口縁	(15.0~20.0)	2.7~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい橙	横ナテ、刻み目突帯	横ナテ、ナテ	(夜白式土器)		2046
第III-361	13	1105	S	1	1上	1上	甕	口縁	(30.0)	2.0~	-	石・長・壘・角	にぶい橙	ミガキ痕、刻み目突帯、沈線	横ナテ	(夜白式土器)		2126
第III-361	14	1105	S	1	1上	1上	甕	口縁	(20.0)	2.0~	-	石・長・壘・角・赤	褐区・赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ			2024
第III-361	15	1105	S	1	1上	1上	甕	口縁	(30.0)	2.5~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			2010
第III-361	16	1105	S	1	1上	1上	甕	口縁	(26.4)	3.4~	-	石・長・壘・角	橙	横ナテ	横ナテ、板ナテ			2001
第III-361	17	1105	S	1	1上	1上	甕	底部	(28.0)	2.9~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			2023
第III-361	18	1105	S	1	1上	1上	甕	底部	-	3.0~	6.2	石・長・壘	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨減			2017
第III-361	19	1105	S	1	1上	1上	甕	底部	-	6.2~	-	石・長・壘・角	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ	スス付痕		4820
第III-361	20	1105	S	1	トレ	1上	鉢	口縁	(20.0~25.0)	1.4~	-	石・長・壘・角・赤	灰黄褐	横ナテ	横ナテ			2022
第III-361	21	1105	S	1	1上	1上	甕	口縁	(21.6)	1.7~	-	石・長・壘	橙	横ナテ	横ナテ	スス付痕		2019

2 区竪穴住居・弥生土器観察表 35

検出 番号	検 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-361図	22	1105	S 1	-	1上	甕	口縁	(15.0)	1.6~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2016	
第III-361図	23	1105	S 1	1上	1上	甕	口縁	(40.0)	1.2~	-	石・長・壘・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ		2031	
第III-361図	24	1105	S 1	1上	1上	甕	口縁	(15.8)	1.0~	-	石・長・壘・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2026	
第III-361図	25	1105	S 1	-	1上	甕	口縁	(16.2)	3.4~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ミガキ (多方向)、横ナテ	横ナテ、ミガキ (横)		2068	
第III-361図	26	1105	S 1	1上	1上	甕	底部	-	2.8~	5.2	長・石・壘・赤	明赤褐	ナテ	横ナテ		2131	
第III-361図	27	1105	S 1	1上	1上	器台	脚部	-	3.6~	16.0	石・長・壘・角	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑	2130	
第III-361図	28	1105	S 1	攪乱	攪乱	甕	口縁~胴部	24.0	8.4~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	ナテ、ハケ目 (右上)		4821	
第III-365図	1	1190	S 1	硬化面内	床面	甕	口縁	(38.4)	2.4~	-	石・長・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ		2180	
第III-365図	2	1190	S 1	硬化面内	床面	甕	口縁	26.2	5.0~	-	石・長・壘	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		2179	
第III-365図	3	1190	S 1	3	3	甕	口縁	(25.2)	1.8~	-	石・長・壘・角	橙	横ナテ	横ナテ		2171	
第III-365図	4	1190	S 1	2	2	甕	口縁	(21.4)	2.4~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2175	
第III-365図	5	1190	S 1	2	2	甕	口縁	(23.2)	2.5~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2174	
第III-365図	6	1190	S 1	2	2	甕	底部	-	4.7~	7	石・長・壘・角	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	磨減		2176	類似土器2・1層出土
第III-365図	7	1190	S 1	2・ (床面下・3)	2	甕	口縁	16.6	4.5~	-	石・長・壘・角・赤	灰褐、灰黄褐	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)		2187	
第III-365図	8	1190	S 1	2	2	甕	口縁	(18.0)	2.2~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		2236	
第III-365図	9	1190	S 1	2	2	甕	底部	-	2.7~	4.2	石・長・壘・角・赤	黒・灰褐	ミガキ (縦) 痕、ナテ	横ナテ		2167	
第III-365図	10	1190	S 1	2	2	甕	底部	-	3.2~	6.7	石・長・壘・角・赤	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、指ナテ	指ナテ、指頭圧痕	黒斑	2168	
第III-371図	1	1185	S 1	床面下	床面	甕	口縁	26.0	1.7~	-	石・長・壘・角	橙	ナテ	ナテ		2121	
第III-371図	2	1185	S 1	床面下	床面	甕	底部	-	1.9~	5.2	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	ナテ		2129	
第III-371図	3	1185	S 1	2下	2下	甕	口縁	(20.4)	2.7~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		2137	
第III-371図	4	1185	S 1	1下	2下	甕	口縁	(21.4)	2.1~	-	石・長・壘・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		2101	類似土器3・2層出土
第III-371図	5	1185	S 1	2下	2下	甕	底部	-	4.9~	5.4	石・長・壘・角	黒褐	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	ナテ		2113	
第III-371図	6	1185	S 1	2下	2下	鉢	口縁	(17.2)	1.6~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2178	
第III-371図	7	1185	S 1	1下	1下	甕	口縁	(22.0)	2.0~	-	石・長・壘・角	黄橙	横ナテ	横ナテ		2114	スス付処
第III-371図	8	1185	S 1	1下	1下	甕	口縁	(18.0)	1.4~	-	石・長・壘・角	橙	横ナテ	横ナテ		2098	
第III-371図	9	1185	S 1	1下	1下	甕	口縁	(24.6)	2.7~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ、ミガキ (横) 痕	横ナテ		2115	
第III-371図	10	1185	S 1	1下	1下	甕	口縁	(19.8)	1.7~	-	石・長・壘・角・赤	黄橙	横ナテ	ハケ目 (縦)		2116	
第III-371図	11	1185	S 1	1下・ (床面 P・屋外炉)	1下	高坏	坏部	21.2	8.8~	-	石・長・壘・角	浅黄橙	横ナテ、ナテ、ハケ目 (縦)、ミガキ (縦)	横ナテ、ナテ	円盤充填、2個体の合成図	2170	PL-29
第III-371図	12	1185	S 1	-	1上	甕	口縁	(18.6)	2.0~	-	石・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2105	
第III-371図	13	1185	S 1	1上	1上	甕	口縁	(25.0)	2.8~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2099	スス付処
第III-371図	14	1185	S 1	1上	1上	甕	底部	-	3.3~	8.2	石・長・壘・角	橙	ナテ、ハケ目 (右上) 後ナテ	磨減		2108	
第III-376図	1	1095	S 1	第一次硬化面下	床面	甕	口縁~胴部	21.3	5.9~	-	石・長・壘・角・赤	黄橙	横ナテ、沈線、ハケ目 (縦)	横ナテ、ナテ、ハケ目 (縦)		2153	(第二面)
第III-376図	2	1095	S 1	第二次硬化面	床面	甕	口縁	(22.8)	1.5~	-	長・石・壘・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2232	(第二面)、スス付処、類似土器床面
第III-376図	3	1095	S 1	第二次硬化面	床面	甕	口縁	(22.4)	1.6~	-	石・長・壘・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2146	(第二面)、スス付処
第III-376図	4	1095	S 1	硬化面下	床面	台付鉢	脚部	-	1.6~	8.5	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2173	(第二面)
第III-376図	5	1095	S 1	第二次硬化面	床面	甕	口縁	24.6	4.0~	-	長・壘・角・赤	橙	横ナテ、二条刻み目文 (端部)	横ナテ		2230	(第二面)、類似土器床面・1層出土
第III-376図	6	1095	S 1	第二次硬化面	床面	甕	底部	-	2.9~	6.0	石・長・壘・角・赤	浅黄橙	横ナテ	ナテ		2148	(第二面)
第III-376図	7	1095	S 1	第二次硬化面	床面	甕	底部	-	5.3~	8.7	長・石・壘・赤	暗赤褐、橙	ミガキ (縦)、ナテ	ナテ		2269	(第二面)、ヘラミガキ3本一単位
第III-376図	8	1095	S 1	第一次硬化面	床面	甕	口縁~胴部	20.9	12.8~	-	石・長・壘・角・赤	橙	ミガキ (横)、横ナテ、刻み目突帯	横ナテ、ナテ		2231	(第一面)
第III-376図	9	1095	S 1	第一次硬化面	床面	甕	口縁	(24.8)	3.3~	-	石・長・壘・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ、ナテ		2154	(第一面)
第III-376図	10	1095	S 1	床面	床面	甕	胴部	-	14.6~	-	長・壘・角・赤	灰黄褐、黄褐	刻み目突帯、ミガキ (横)	ナテ、指頭圧痕、ハケ目 (縦) 後ナテ		2319	(第一面) (最大口径28.6cm)
第III-376図	11	1095	S 1	2	2	甕	口縁	(25.4)	1.9~	-	石・長・壘・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2233	(第一面)
第III-376図	12	1095	S 1	2	2	甕	口縁	26.0	2.1~	-	石・長・壘・角・赤	橙	ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ		2156	(第二面)
第III-376図	13	1095	S 1	2	2	甕	口縁	(20.4)	3.8~	-	石・長・壘・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		2219	(第一面)
第III-376図	14	1095	S 1	-	1	甕	口縁	(約70.0)	3.4~	-	石・長・壘	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2145	(第一面)
第III-382図	1	1167	S 1	1	1	甕	口縁	(24.0)	3.0~	-	石・長・壘・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		2144	類似土器1層出土
第III-382図	2	1167	S 1	1	1	甕	底部	-	1.3~	11.0	石・長・壘・角	にぶい橙	ナテ	磨減		2147	
第III-383図	1	1163	S 1	床面	床面	甕	口縁	(32.0)	2.1~	-	石・長・壘・角	にぶい橙・明赤褐	横ナテ	横ナテ		1989	
第III-383図	2	1163	S 1	床面	床面	甕	底部	-	4.9~	5.4	石・長・壘・角	橙・黒褐	ハケ目 (縦) 後横ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ		1970	
第III-387図	1	1169	S 1	2	2	台付鉢	底部	-	3.1~	7.0	石・長・壘	橙	ナテ、横ナテ	磨減		2186	
第III-387図	2	1169	S 1	1	1	甕	底部	-	2.9~	6.0	石・長・壘・角	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	磨減		2181	
第III-389図	1	1100	S 1	床面	床面	甕	口縁	(23.0)	1.8~	-	石・長・壘	橙	横ナテ	横ナテ		2127	スス付処
第III-389図	2	1100	S 1	床面	床面	甕	底部	-	2.7~	6.6	石・長・壘・角	にぶい橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	磨減		2290	
第III-389図	3	1100	S 1	胴部	胴部	高坏	脚部	-	9.0~	-	長・石・壘・赤	明赤褐	ナテ	しほり痕、指頭圧痕		2132	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 36

押印 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色相	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-389回	4	1100	S I	1下	3	甕	口縁	(24.8)	2.2~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3層出土	2123	
第III-389回	5	1100	S I	3	3	甕	口縁	-	2.5~	10.4	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ、ミガキ痕	ナテ	黒斑	2128	
第III-389回	6	1100	S I	2	2	甕	口縁	(18.2)	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙・灰褐	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ	スス付処	2125	
第III-389回	7	1100	S I	1下・1上	1下	甕	底部	-	9.9~	6.3	石・長・雲・角	橙・褐灰	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ		2122	
第III-389回	8	1100	S I	1下	1下	甕	底部	-	3.3~	6.8	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		2217	
第III-389回	9	1100	S I	1下	1下	甕	口縁	(24.6)	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(横・多方向)	横ナテ、ハケ目(縦)		2124	
第III-389回	10	1100	S I	1上	1上	甕	口縁	(28.4)	2.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付処	2143	
第III-389回	11	1100	S I	1上	1上	甕	口縁	26.0	5.1~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	スス付処	2134	
第III-389回	12	1100	S I	1上	1上	甕	口縁	(18.2)	1.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	ナテ	ナテ		2152	
第III-389回	13	1100	S I	-	1上	甕	底部	-	4.8~	6.6	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ		2119	
第III-389回	14	1100	S I	1上	1上	甕	底部	-	3.0~	7.8	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		2177	
第III-389回	15	1100	S I	1上	1上	甕	口縁	(23.0)	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		2150	
第III-389回	16	1100	S I	1上	1上	甕	口縁	(21.0)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2112	
第III-389回	17	1100	S I	1上	1上	甕	口縁	(16.2)	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ナテ		2160	
第III-389回	18	1100	S I	1上	1上	甕	頸部	-	3.3~	-	長・石・雲・赤	橙・黄灰	横ナテ、刻み目突帯	ナテ、ミガキ痕		2133	
第III-390回	1	1097	S I	床面	No	甕	口縁	(27.4)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ		1740	
第III-390回	2	1097	S I	床面・2	No	甕	口縁~胴部	23.4	6.0~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ		1755	
第III-390回	3	1097	S I	床面	P	甕	口縁	24.2	4.9~	-	石・長・雲	にぶい黄橙・橙	横ナテ、ナテ、沈線	横ナテ	類似土器P・1層出土	1730	
第III-390回	4	1097	S I	P	P	甕	底部	-	3.4~	6.0	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)、ナテ	磨減		1757	
第III-390回	5	1097	S I	床面	床面	甕	口縁	(28.0)	1.9~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1742	
第III-390回	6	1097	S I	床面	床面	甕	口縁	(28.4)	2.3~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1737	
第III-390回	7	1097	S I	床面	床面	甕	口縁	(26.0)	1.7~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		4819	
第III-390回	8	1097	S I	床面	床面	甕(穿孔)	口縁	16.0	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1738	
第III-390回	9	1097	S I	床面	床面	甕	底部	-	3.4~	5.0	石・長・雲・角・赤	橙	ナテ	ナテ	黒斑	1775	
第III-390回	10	1097	S I	床面	床面	器台	底部	-	2.8~	(21.0)	長・雲・角	橙	工具による調整、横ナテ	磨減		1752	
第III-390回	11	1097	S I	3	3	甕	底部	-	4.4~	8.4	石・長・雲・角・赤	赤	ハケ目(横)後ナテ、ナテ	ナテ		1758	
第III-390回	12	1097	S I	3	3	甕	口縁	(25.6)	6.4~	-	石・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	ナテ		1754	
第III-390回	13	1097	S I	2	2	甕	口縁	(22.0)	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1745	
第III-390回	14	1097	S I	2	2	甕	口縁	(21.6)	2.1~	-	石・長・雲・角・灰	明褐	ミガキ(横)、横ナテ	ミガキ(横)		1747	
第III-397回	1	129	S I	第二次床面・2	No	甕	胴部	-	10.2~	-	石・長・雲・角・赤	明褐	帯幅縮文・帯幅波状文(横) 横ナテ、ミガキ痕	ナテ、指頭圧痕	黒斑 (最大胴径16.4cm)	1780	
第III-397回	2	129	S I	第二面P・2	第二面P	甕	口縁	28.6	3.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、突帯、ミガキ(横)	横ナテ、ナテ		1796	
第III-397回	3	129	S I	II	第二面P	甕	口縁	25.6	4.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、沈線	横ナテ、指ナテ	類似土器P・床面・3層出土	1731	
第III-397回	4	129	S I	II	第二面P	甕	口縁~胴部	26.0	6.7~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ	スス付処、類似土器P・3・2・1層出土	1710	
第III-397回	5	129	S I	第二次床面	第二次床面	甕	口縁	36.8	2.3~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ	類似土器床面・4・3・1層出土	1699	
第III-397回	6	129	S I	第一次床面	第一次床面	甕	口縁	(23.0)	2.4~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	ナテ		1711	
第III-397回	7	129	S I	第一次床面	第一次床面	甕	底部	-	5.4~	5.6	石・長・雲・角	明赤褐・黒褐	ハケ目(縦)、ナテ	ナテ		1732	
第III-397回	8	129	S I	II	第一次床面	甕	底部	-	4.1~	8.0	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ	類似土器床面・3・2・1層出土	1778	
第III-397回	9	129	S I	床面	第一次床面	甕	口縁	(22.0)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ		1726	
第III-397回	10	129	S I	II	第二次床面	甕	底部	-	2.1~	8.8	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙・橙	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	ナテ、指頭圧痕	類似土器床面・3層出土	1721	
第III-397回	11	129	S I	IV	IV	甕	口縁~胴部	24.0	3.6~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、突帯	ナテ、横ナテ		1760	
第III-397回	12	129	S I	III	IV	甕	口縁	(37.6)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器4・3層出土	1744	
第III-397回	13	129	S I	III	IV	甕	口縁	(41.0)	3.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後横ナテ		1250	
第III-397回	14	129	S I	IV	IV	鉢	口縁	(32.0)	4.6~	-	石・長・雲・角	褐灰	横ナテ、ミガキ(横)後ナテ	横ナテ、ナテ		1759	
第III-397回	15	129	S I	IV	IV	甕	口縁	21.0	3.6~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)	類似土器4・3・1層出土	1756	
第III-397回	16	129	S I	IV	IV	甕	口縁	(17.4)	1.4~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ	黒斑	1749	
第III-397回	17	129	S I	III・IV	IV	長頸甕	口縁	10.4	6.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1748	
第III-397回	18	129	S I	IV	IV	甕	底部	-	2.5~	6.0	長・雲・角・赤	橙	ナテ	ナテ		1743	
第III-397回	19	129	S I	IV	IV	高坏	口縁	(29.8)	0.6~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器4・3・2層出土	1753	
第III-398回	1	129	S I	II・III	III	甕	口縁~胴部	20.2	19.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	(最大胴径23.8cm)	1800	
第III-398回	2	129	S I	III	III	甕	底部	-	2.9~	7.2	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減		1728	
第III-398回	3	129	S I	III	III	甕	底部	-	4.6~	6.2	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、指ナテ	指ナテ	類似土器3・2層出土	1722	
第III-398回	4	129	S I	III	III	甕	底部	-	3.7~	10.2	長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦・左上・横)後ナテ、横ナテ	磨減	類似土器3層出土	1734	
第III-398回	5	129	S I	I	III	甕(穿孔)	口縁	21.4	3.6~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ	類似土器3・1層出土	1265	
第III-398回	6	129	S I	III・(トレ)	III	甕	口縁	17.2	1.65~	-	長・雲・角・赤	明赤褐・橙	横ナテ、暗文後横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1259	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 37

挿入 番号	枝 番号	遺構 種類	遺構 層位	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-398回	7	129	S I	III・II・I	III	壺	口縁~胴部	18.8	13.9~	-	石・長・髹・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦・多方向)後ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ、ナテ	黒斑 (最大胴径19.9cm)	1274	
第III-398回	8	129	S I	III・I	III	壺	口縁~胴部	18.6	14.8~	-	石・長・髹・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(右上)後暗文(縦) 横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後横ナテ、ナテ	(最大胴径19.6cm)	1790	
第III-398回	9	129	S I	III	III	壺	口縁	(28.2)	2.1~	-	石・長・髹・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1252	
第III-398回	10	129	S I	III	III	壺	口縁	(18.2)	2.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1251	
第III-398回	11	129	S I	I	III	壺	口縁	(18.0)	1.7~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ナテ、二条刻み目文(端部)	肩減	類似土器3・1層出土	1717	
第III-398回	12	129	S I	III	III	壺	口縁	(17.4)	1.7~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1234	
第III-398回	13	129	S I	III	III	壺	口縁	(28.2)	2.9~	-	長・髹・角・赤	明赤褐	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、ミガキ(横)		1228	
第III-398回	14	129	S I	III	III	無頭壺	口縁	(6.4)	1.85~	-	長・髹・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	赤色顔料	1221	
第III-398回	15	129	S I	III	III	壺	胴部	-	5.3~	-	石・長・髹・角・赤	橙・黒	楕圓縁文・楕圓波状文(横)、ナテ	ナテ		1750	
第III-398回	16	129	S I	III	III	壺	底部	-	4.0~	8.0	石・長・髹・角	黄灰	ミガキ(縦)、ハケ目(縦)、ナテ	横ナテ	赤色顔料	1776	
第III-398回	17	129	S I	III・(1)	III	壺	底部	-	4.7~	8.6	長・髹・角・赤	橙	ナテ、横ナテ	ナテ、指頭圧痕	黒斑	1768	
第III-398回	18	129	S I	III	III	壺	底部	-	4.2~	6.6	石・長・髹・角・赤	灰黄	ナテ	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	黒斑	1702	
第III-398回	19	129	S I	III	III	器台	口縁	(15.4)	2.8~	-	石・長・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ		1235	
第III-399回	1	129	S I	II	II	壺	口縁~胴部	(34.0)	7.1~	-	石・長・髹・角・赤	にぶい橙	横ナテ、刻み目突帯(端部・胴部) 横ナテ後工具による線、暗文(縦)	条痕(横)後横ナテ	(夜白式土器)	4020	
第III-399回	2	129	S I	II	II	壺	口縁	(24.0)	1.5~	-	石・長・髹・角	赤	ナテ	ナテ		1707	
第III-399回	3	129	S I	I	II	壺	口縁	33.0	6.7~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2・1層出土	1698	
第III-399回	4	129	S I	II	II	壺	口縁~胴部	(34.0)	3.2~	-	石・長・髹・角	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ		1674	
第III-399回	5	129	S I	II	II	壺	口縁	(25.6)	1.5~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1715	
第III-399回	6	129	S I	II	II	壺	口縁~胴部	24.2	28.3~	-	長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)	ハケ目(横・多方向)、ハケ目後ナテ	スス付処 (最大胴径28.9cm)	1818	
第III-399回	7	129	S I	II	II	壺	口縁~胴部	20.2	9.7~	-	石・長・髹・角・赤	橙	ハケ目(右上・左上)、横ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)	スス付処	1685	
第III-399回	8	129	S I	II・I	II	壺	底部	-	9.8~	13.1	長・髹・角・赤	にぶい黄橙	ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	ナテ、指頭圧痕	砂付処	1720	
第III-399回	9	129	S I	II・I・包・攪乱	II	鉢	口縁~底部	17.8	7.0	7.4	長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦・右上)後ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑 (最大胴径14.8cm)	1704	
第III-399回	10	129	S I	II	II	壺	口縁	11.4	5.0~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)	横ナテ、ナテ		1708	
第III-399回	11	129	S I	II	II	壺	口縁	(16.0)	1.7~	-	石・長・髹・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		1675	
第III-399回	12	129	S I	II	II	壺	口縁	(15.0)	4.1~	-	長・髹・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		1676	
第III-399回	13	129	S I	I	II	壺	口縁	(28.6)	3.4~	-	石・長・髹・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)、ナテ後ハケ目(縦)	横ナテ	類似土器2・1層出土	1706	
第III-399回	14	129	S I	II	II	壺	口縁	(19.4)	2.5~	-	長・髹・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1691	
第III-399回	15	129	S I	II	II	壺	口縁	(13.8)	1.9~	-	長・髹・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ	(土師器)	1705	
第III-399回	16	129	S I	II	II	壺	底部	-	3.2~	10.2	石・長・髹・角	橙	ミガキ(横)、横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	1696	
第III-399回	17	129	S I	II	II	高坏	坏底部~脚部	-	4.3~	-	石・長・髹・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(多方向)後ナテ	ミガキ(縦)、ナテ		1694	
第III-399回	18	129	S I	II	II	器台	脚部	-	5.3~	13.0	石・長・髹・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	横ナテ、ナテ		1733	
第III-399回	19	129	S I	II・I	II	器台	底部	-	4.3~	14.0	石・長・髹・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	横ナテ、ナテ		1716	
第III-400回	1	129	S I	I	I	壺	口縁	21.4	4.1~	-	石・長・髹・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ナテ	スス付処	1709	
第III-400回	2	129	S I	トレ	I	壺	口縁	(25.0)	2.0~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		1712	
第III-400回	3	129	S I	I	I	壺	口縁	16.0	7.0~	-	長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ、ハケ目(多方向)		1718	
第III-400回	4	129	S I	I	I	壺	底部	-	2.5~	7.6	石・長・髹・角・赤	明褐	ハケ目(縦)、横ナテ	肩減		1719	
第III-400回	5	129	S I	I	I	壺	口縁~胴部	11.8	9.6~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ナテ		1703	
第III-400回	6	129	S I	I	I	壺	口縁	14.2	2.5~	-	石・長・髹・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		1688	
第III-400回	7	129	S I	I	I	壺	口縁	(18.2)	2.5~	-	長・髹・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(左上)後横ナテ・ナテ	横ナテ、ハケ目(横)		1701	
第III-400回	8	129	S I	I	I	壺	口縁	20.8	2.8~	-	石・長・髹・角	明赤褐	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		1695	
第III-400回	9	129	S I	トレ	I	無頭壺	口縁	(20.0)	5.5~	-	長・髹・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ナテ		1723	
第III-400回	10	129	S I	I	I	壺	底部	-	2.4~	(11.0)	長・髹・角・赤	橙	ミガキ痕	横ナテ		1713	
第III-400回	11	129	S I	I	I	高坏	口縁	21.0	2.5~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	横ナテ		1686	
第III-400回	12	129	S I	I	I	器台	脚部	-	2.7~	11.8	長・髹・角	にぶい橙	ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ		1692	
第III-404回	1	1113	S I	床面	1	壺	口縁	23.8	3.0~	-	長・石・髹・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ		4822	
第III-404回	2	1113	S I	-	1	壺	口縁	(22.4)	2.5~	-	長・髹・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2207	
第III-404回	3	1113	S I	-	1	壺	底部	-	2.1~	8.4	長・髹・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	肩減		2212	
第III-404回	4	1113	S I	1. (2)	1	壺	底部	-	5.8~	6.8	石・長・髹・角・赤	にぶい黄橙・黒	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ナテ	スス付処	2215	
第III-404回	5	1113	S I	1	1	壺	口縁	(26.8)	3.8~	-	長・髹・角・赤	明黄褐	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		2214	
第III-406回	1	1088	S I	2	2	壺	口縁~胴部	22.8	6.5~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ、沈線、ナテ	横ナテ、ナテ		1957	
第III-408回	1	1124	S I	床面	1	壺	口縁	(20.0)	2.1~	-	石・長・髹	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2196	
第III-408回	2	1124	S I	2	2	壺	口縁	(21.8)	1.8~	-	石・長・髹・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	スス付処	2197	
第III-410回	1	1099	S I	2	2	壺	口縁	(27.6)	3.8~	-	石・長・髹・角	明黄褐	横ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ		2209	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 38

検出 番号	検出 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-410回	2	1099	S	1	1	壺	口縁	(34.8)	3.4~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			2203	
第III-410回	3	1099	S	1	1	壺	口縁	(19.8)	1.8~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			2198	
第III-410回	4	1099	S	1	1	壺	口縁	21.2	3.1~	-	長・雲・角	黒褐・明褐	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ナテ			2225	
第III-410回	5	1099	S	1	1	壺	口縁	24.4	3.2~	-	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ			2208	
第III-411回	1	1101	S	1	1	壺	口縁	28.8	2.1~	-	長・石・雲・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻		2183	
第III-411回	2	1101	S	1	1	壺	口縁	(20.0)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙・灰	横ナテ	横ナテ			2182	
第III-411回	3	1101	S	1	1	壺	口縁	(15.2)	1.6~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい褐	ナテ	ナテ			2184	
第III-416回	1	1133	S	2	2	壺	口縁	(25.6)	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			2243	
第III-416回	2	1133	S	2	2	壺	口縁	(19.6)	2.1~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2254	
第III-416回	3	1133	S	1	1	壺	底部	-	3.2~	8.0	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(左上)後ナテ、横ナテ	磨減			2240	
第III-415回	1	1103	S	P	P	壺	口縁	(28.8)	3.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	表面剥離	表面剥離			2210	
第III-415回	2	1103	S	床面	床面	壺	口縁	(26.8)	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2201	
第III-415回	3	1103	S	1	2	壺	口縁	(25.6)	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土		2185	
第III-415回	4	1103	S	1	1	鉢	底形	17.2	9.2	6.3	長・雲・角	明赤褐・橙	横ナテ、ハケ目(縦・多方向)	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ、ナテ	一部欠損(最大胴径16.1cm)		1814	PL-29
第III-415回	5	1103	S	1	1	台付鉢	脚部	-	4.2~	10.6	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	ハケ目(縦)	赤色顔料		2202	
第III-415回	6	1103	S	1	1	壺	口縁	(18.0)	2.1~	-	長・雲・角・赤	褐灰・にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2194	
第III-415回	7	1103	S	1	1	壺	口縁	(18.6)	2.3~	-	長・雲・角・赤	灰黄褐	横ナテ	横ナテ			2200	
第III-415回	8	1103	S	1	1	壺	口縁	(18.8)	4.9~	-	長・雲・角・赤	黒褐・明黄灰	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ			2195	
第III-415回	9	1103	S	1	1	壺	底部	-	2.7~	7.4	石・長・雲・角・赤	橙	ミガキ(多方向)	ナテ、指頭圧痕			2199	
第III-421回	1	1121	S	床面	床面	壺	口縁	(20.4)	2.0~	-	石・長・雲	橙	暗文(縦)、横ナテ	横ナテ			2272	
第III-421回	2	1121	S	2	2	壺	口縁	(19.8)	3.5~	-	石・長・雲	橙	ミガキ(横)、横ナテ	横ナテ			2271	
第III-421回	3	1121	S	2	2	壺	口縁	(20.8)	1.5~	-	石・長・雲	明赤褐	横ナテ	横ナテ			2273	
第III-421回	4	1121	S	1	1	壺	口縁	(測定不能)	2.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			2256	
第III-421回	5	1121	S	1	1	壺	口縁	(23.4)	1.7~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			2238	
第III-421回	6	1121	S	1	1	壺	口縁	(25.0)	2.7~	-	石・長・雲・角	黄橙	横ナテ	横ナテ			2258	
第III-421回	7	1121	S	1	1	壺	底部	-	4.8~	7.8	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)、ナテ	ナテ	スス付廻		2257	
第III-421回	8	1121	S	1	1	壺	口縁	18.0	4.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			2328	
第III-422回	1	1160	S	炉	炉	壺	口縁~胴部	(31.6)	9.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄褐	刻み目突帯(端部・胴部)、ナテ、条痕(縦)	条痕(横)後ナテ	(夜臼式土器)スス付廻		4024	
第III-422回	2	1160	S	炉	炉	壺	口縁	(21.1)	2.1~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、指(爪)による圧痕	横ナテ、ハケ目(縦)			2268	
第III-422回	3	1160	S	2	2	壺	口縁	15.2	2.3~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ヘラ押さえ痕	穿孔の可能性あり		2284	
第III-422回	4	1160	S	1	1	壺	口縁	(14.8)	2.8~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ナテ			2270	
第III-426回	1	1119	S	P	P	壺	口縁	(15.0)	3.8~	-	雲・角	浅黄橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ			2278	
第III-426回	2	1119	S	2	2	壺	口縁	(26.4)	1.4~	-	石・長・雲	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻		2263	
第III-426回	3	1119	S	2	2	壺	口縁	(25.4)	5.1~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	スス付廻		2299	
第III-426回	4	1119	S	2	2	壺	口縁	(26.8)	5.1~	-	石・長・雲	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)	黒斑		2264	
第III-426回	5	1119	S	2	2	壺	口縁	(20.8)	1.4~	-	石・長・雲	黒褐	ミガキ(横)、横ナテ	横ナテ			2259	
第III-426回	6	1119	S	1	1	壺	口縁	(33.3)	3.3~	-	石・長・雲	黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			2286	
第III-426回	7	1119	S	1	1	壺	口縁	(27.5)	2.5~	-	石・長・雲	灰褐	横ナテ	横ナテ	スス付廻		2285	
第III-427回	1	1152	S	SK	SK	壺	口縁	23.2	6.2~	-	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ、ハケ目(縦)後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)			2358	
第III-427回	2	1152	S	SK	SK	壺	胴部	-	17.4~	-	長・雲・角・赤	橙	突帯、ミガキ(横)	ハケ目(多方向)後ナテ、ナテ			4818	
第III-427回	3	1152	S	床面	床面	壺	口縁	(23.3)	2.7~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ			2326	
第III-427回	4	1152	S	床面	床面	壺	底部	-	3.2~	8.0	石・長・角	浅黄・黒褐	ハケ目(縦)、横ナテ	磨減			2342	
第III-430回	1	1200	S	SK	SK	壺	口縁	(18.6)	2.8~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻		2314	
第III-430回	2	1200	S	SK	SK	壺	口縁	(23.4)	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			2279	
第III-430回	3	1200	S	SK	SK	壺	口縁	(18.0)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2315	
第III-431回	1	1096	S	SK	SK	壺	口縁	(20.6)	3.2~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻		2213	
第III-431回	2	1096	S	P	P	壺	底部	-	3.3~	6.0	石・長・雲	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ			2234	
第III-431回	3	1096	S	P	P	壺	胴・底部	-	15.8~	7.2	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦・多方向)後ナテ	ハケ目(多方向)、指頭圧痕	黒斑		2224	
第III-431回	4	1096	S	床面	床面	台付鉢	脚部	-	3.1~	7	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	横ナテ			2253	
第III-431回	5	1096	S	5	5	壺	口縁	(26.2)	2.2~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器5・3層出土		2265	
第III-431回	6	1096	S	4	4	坏	口縁	(17.8)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、粗み上げ痕	横ナテ	(土師器)回転台使用		2222	
第III-432回	1	1096	S	3	3	壺	口縁	27.0	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、刻み目文(胴部)	横ナテ、指頭圧痕	スス付廻		2237	
第III-432回	2	1096	S	1	3	壺	口縁	(25.6)	3.1~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土		2297	
第III-432回	3	1096	S	3	3	鉢	口縁	(14.6)	1.8~	-	石・長・雲	にぶい橙	横ナテ	磨減			2235	

2区竪穴住居・弥生土器観察表 39

検出 番号	検出 番号	遺構 種類	遺構 部位	出土 部位	レイアウト 図位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号	
第III-432図	4	1096	S	1	3・2・1・(2)	3	壺	口縁・底部	17.4	約22.0	5.0	石・長・壺・角・赤	横ナテ、ハケ目(右上)、ハケ目(左上)後ナテ、ナテ	ハケ目(多方向)	(最大胴径19.0cm) 図面上で復元	2316		
第III-432図	5	1096	S	1	3	3	壺	底部	-	4.4~	4.6	長・壺・角	横ナテ(縦)、横ナテ	ナテ		2226		
第III-432図	6	1096	S	1	3・2・1・(-)	3	壺	口縁~底部	13.2	35.5~	7.7	石・長・壺・角・赤	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ、ナテ	黒斑 (最大胴径24.3cm) 図面上で復元	2360		
第III-432図	7	1096	S	1	2・(2・トレ)	2	壺	胴部	-	10.5~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐・にぶい橙	帯幅直線文、ハケ目(左上)	横ナテ、ハケ目(横・縦)後ナテ	黒斑 (最大胴径21.0cm)	2361	
第III-432図	8	1096	S	1	3	3	器台	脚部	-	4.6~	10.8	石・長・壺・角	にぶい橙	ハケ目(縦)	ナテ		2227	
第III-432図	9	1096	S	1	3	3	器台	脚部	-	3.0~	(19.4)	長・壺・角・赤	橙	ハケ目(右上)	横ナテ		4825	
第III-432図	10	1096	S	1	2	2	壺	口縁	14.6	2.4~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		2249	
第III-432図	11	1096	S	1	2	2	器台	脚部	-	2.95~	19.4	長・壺・角・赤	にぶい橙	ハケ目(横)、横ナテ	横ナテ		2248	
第III-432図	12	1096	S	1	2	2	器台	脚部	-	3.9~	15.2	石・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、指頭圧痕	横ナテ、ハケ目(横)後ナテ		2252	
第III-438図	1	284	S	1	2	2	壺	口縁	(28.0)	4.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		2276	
第III-438図	2	284	S	1	2	2	壺	口縁	(12.8)	3.6~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ナテ		2250	
第III-438図	3	284	S	1	2	2	壺	底部	-	3.0~	8.0	長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)、ナテ	磨滅		2364	
第III-438図	4	284	S	1	2	2	高坏	口縁	28.0	1.7~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、二条刻み目文(端部)	暗文(縦)		2244	
第III-438図	5	284	S	1	2	2	高坏	脚部	(16.8)	5.1~	-	石・長・壺・角・赤	明黄褐	ミガキ(縦)、横ナテ	ハケ目(横)	黒斑	1634	
第III-438図	6	284	S	1	1	1	坏	口縁	(23.0)	2.2~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		2327	
第III-438図	7	284	S	1	トレ	1	壺	口縁	(23.6)	1.8~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2241	
第III-438図	8	284	S	1	トレ	1	壺	口縁	(23.6)	2.2~	-	石・長・壺・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ		2277	
第III-438図	9	284	S	1	トレ	1	台付鉢	脚部	-	2.8~	8.0	石・長・角	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	横ナテ		2332	
第III-438図	10	284	S	1	1	1	壺	口縁	19.2	2.9~	-	石・長・壺	暗褐・黒	ミガキ(横)、ハケ目(縦)後暗文(縦)	ミガキ(横)		2292	
第III-438図	11	284	S	1	1	1	無頭壺	口縁	(21.0)	3.5~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ(縦)後横ナテ	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ		2242	
第III-440図	1	1186	S	1	2	2	鉢	口縁	(22.4)	2.5~	-	石・長・壺	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ	類似土器2層出土	2301	
第III-442図	1	1182	S	1	2	2	壺	口縁	(22.6)	1.7~	-	壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2320	
第III-442図	2	1182	S	1	2	2	壺	胴部	-	7.9~	-	長・石・壺・赤	明黄褐	沈線、横ナテ	ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	黒斑、スス付痕 (最大胴径32.2cm)	4826	
第III-442図	3	1182	S	1	-	1	壺	口縁	(25.2)	1.7~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2324	
第III-442図	4	1182	S	1	-	1	壺	口縁	(19.6)	1.0~	-	長・壺・角・赤	灰黄褐	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ		2322	
第III-447図	1	1179	S	1	SK	SK	壺	口縁	(27.2)	3.7~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2303	
第III-447図	2	1179	S	1	P	P	壺	口縁	(21.0)	2.7~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		2302	
第III-447図	3	1179	S	1	SK	SK	壺	底部	-	4.4~	7.2	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	磨滅により調整不明		2321	
第III-447図	4	1179	S	1	3	3	壺	底部	-	6.1~	10.0	長・壺・角・赤	橙・黒	ハケ目(横)、横ナテ、ナテ	ナテ、ハケ目(縦)後ナテ		2325	
第III-447図	5	1179	S	1	2	2	壺	口縁	(22.4)	2.1~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2305	
第III-447図	6	1179	S	1	1	2	壺	口縁~胴部	23.8	5.6~	-	石・長・壺・角	黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	類似土器2層出土	2291	
第III-447図	7	1179	S	1	-	2	壺	底部	-	4.1~	6.0	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ	スス付痕、類似土器2・1層出土	2309	
第III-447図	8	1179	S	1	2	2	壺	口縁	(29.8)	4.3~	-	長・壺・角・赤	黒褐・にぶい黄褐	ミガキ(横・左上)、横ナテ	ミガキ(横)		2251	
第III-447図	9	1179	S	1	1	2	壺	口縁	(14.8)	1.7~	-	石・長・角	にぶい黄褐	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	2295	
第III-447図	10	1179	S	1	2・包	2	壺	胴部~底部	-	10.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	ハケ目(縦)後ナテ、ナテ		2317	
第III-447図	11	1179	S	1	2	2	坏	口縁	(24.6)	1.3~	-	石・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2262	
第III-447図	12	1179	S	1	-	1	壺	口縁	(49.8)	4.0~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2245	
第III-447図	13	1179	S	1	1	1	壺	口縁	(40.0)	2.9~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2280	
第III-447図	14	1179	S	1	-	1	壺	口縁	(29.4)	3.7~	-	石・長・壺・角	灰黄	横ナテ	横ナテ		2260	
第III-447図	15	1179	S	1	-	1	壺	口縁	(18.4)	1.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2306	
第III-447図	16	1179	S	1	1	1	壺	底部	-	3.0~	6.0	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ	磨滅		2288	
第III-447図	17	1179	S	1	1	1	鉢	口縁~胴部	24.2	5.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、ナテ		2289	
第III-447図	18	1179	S	1	1	1	鉢	口縁~胴部	12.3	7.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目後横ナテ、ハケ目(左上)、ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑 (最大胴径13.4cm)	2304	
第III-447図	19	1179	S	1	-	1	壺	口縁	14.8	3.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		2287	
第III-447図	20	1179	S	1	-	1	壺	口縁	(14.0)	3.2~	-	石・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後暗文(縦)	横ナテ		2331	
第III-447図	21	1179	S	1	-	1	壺	口縁	(22.0)	5.5~	-	石・長・角・赤	明黄褐	横ナテ、沈線	横ナテ、ミガキ(横)		2343	
第III-447図	22	1179	S	1	1	1	壺	口縁	(18.0)	3.7~	-	長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		2311	
第III-447図	23	1179	S	1	1	1	壺	口縁	(20.2)	5.8~	-	石・長・壺・角・赤	橙・黄橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(多方向)		2261	
第III-447図	24	1179	S	1	-	1	壺	口縁	(19.8)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ		2308	
第III-447図	25	1179	S	1	-	1	壺	胴部	-	6.7~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、突帯、ナテ	ナテ		2255	
第III-447図	26	1179	S	1	-	1	器台	口縁	11.0	6.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ		2337	
第III-447図	27	1179	S	1	-	1	器台	脚部	-	4.2~	15.4	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(左上)、ハケ目後横ナテ、横ナテ	ハケ目(多方向)、ハケ目後横ナテ	黒斑	2307	
第III-451図	1	1188	S	1	床面	床面	高坏	脚部	-	3.2~	16.0	長・壺・角・赤	橙	暗文(縦)	横ナテ、ナテ	赤色顔料	2339	
第III-453図	1	1183	S	1	床面・2	No	壺	口縁~胴部	20.4	10.4~	-	長・壺・角・赤	橙	ハケ目(右上・左上)後横ナテ、横ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)	(最大胴径18.6cm)	2350	

2区 竪穴住居・弥生土器観察表 40

挿図 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号	図版 番号
第III-453図	2	1183	S I	1	床面・(1)	甕	口縁~胴部	19.4	15.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ	黒斑 (最大胴径22.1cm)	2362	
第III-453図	3	1183	S I	2	2	甕	口縁	(26.0)	2.5~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		2354	
第III-453図	4	1183	S I	2	2	甕	口縁	(23.2)	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	明黄橙	横ナテ	横ナテ		2344	
第III-453図	5	1183	S I	1	1	甕	口縁	(23.0)	2.3~	-	石・長・雲・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ		2341	
第III-453図	6	1183	S I	1	1	鉢	口縁	(約15.0)	2.6~	-	石・長・雲・角・赤	明赤橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		2359	
第III-453図	7	1183	S I	1	1	甕	底部	-	1.9~	7.4	長・雲・角・赤	黒橙	横ナテ、ナテ	ナテ		2355	
第III-456図	1	1146	S I	1	1	甕	口縁~胴部	11.8	12.3~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙・橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ	横ナテ、ナテ	スス付処、黒斑 (最大胴径17.7cm)	2336	PL-29
第III-456図	2	1146	S I	1	1	甕	口縁~胴部	16.6	3.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙・橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	ハケ目(多方向)、指頭尻痕	スス付処	2347	
第III-458図	1	1145	S I	-	1	甕	口縁	(17.2)	3.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2352	
第III-458図	2	1145	S I	1	1	甕	口縁	(20.4)	3.1~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		2351	
第III-458図	3	1145	S I	1	1	甕	口縁	(14.6)	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		4827	
第III-458図	4	1145	S I	1	1	高坏	脚部	-	3.4~	16.4	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ(縦)	横ナテ		2353	
第III-461図	1	1157	S I	-	1	甕	口縁	21.2	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付処	2345	
第III-461図	2	1157	S I	-	1	甕	口縁	(19.4)	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	スス付処	2346	
第III-462図	1	1158	S I	-	1	甕	底部	-	1.3~	5.6	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	黒斑		2348	
第III-466図	1	279	S X	P	P	甕	口縁	(13.8)	1.9~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		972	
第III-466図	2	279	S X	1階	1	甕	口縁	20.4	2.3~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	穿孔	985	

No.82 区 竪穴住居出土土器観察表 1

挿図 番号	棟 番号	遺構 番号	遺構 種類	グリット	出土層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号
第III-469図	1	19	S I	6914b	P・床面	P	鉢	口縁	24.2	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	ミガキ(横)、横ナテ		2376
第III-469図	2	19	S J	6914b	P	P	甕	口縁	(17.6)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	ミガキ(多方向)		2374
第III-472図	1	14	S I	6914c	床面下	床面	甕	口縁	(22.2)	2.0~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付処、類似土器3層出土	2439
第III-472図	2	14	S I	6914c	床面下	床面	甕	底部	-	2.2~	8.6	長・雲・角・赤	橙・にぶい橙	ナテ、横ナテ	ナテ		2438
第III-472図	3	14	S I	6913d	床面	床面	甕	口縁	19.2	3.2~	-	長・石・雲・赤	浅黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ミガキ(横)	赤色顔料	2446
第III-472図	4	14	S I	6913d	3	3	甕	口縁	22.6	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付処	2448
第III-472図	5	14	S I	6913d	3	3	甕	底部	-	1.9~	7.6	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ	横ナテ		2449
第III-472図	6	14	S I	6913d	3	3	甕	口縁	(25.4)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2452
第III-472図	7	14	S I	6913d	3	3	甕	口縁	(20.5)	2.4~	-	石・長・雲	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		2443
第III-472図	8	14	S I	6913d	3	3	甕	口縁	(27.0)	1.9~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		2474
第III-472図	9	14	S J	6914c	3・2・P	3	甕	口縁~胴部	32.0	7.1~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横・縦)後ナテ	スス付処	2429
第III-472図	10	14	S I	6914c	3	3	甕	口縁~胴部	31.6	5.6~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ		2498
第III-472図	11	14	S I	6913d	3	3	甕	底部	-	4.6~	8.2	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	黒斑	類似土器2層出土	2495
第III-472図	12	14	S I	6913d	2	3	甕	底部	-	5.0~	8.4	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ	類似土器2層出土	2493
第III-472図	13	14	S I	6913d	3	3	甕	底部	-	3.0~	7.2	石・長・雲・角	橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ、ナテ	黒斑	類似土器2層出土	2458
第III-472図	14	14	S I	6913d	2	3	鉢	口縁~胴部	25.6	6.3~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ	スス付処	2447
第III-472図	15	14	S I	69114c	1・2	3	鉢	口縁~底部	18.2	7.9~	8.2	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ ハケ目(多方向)後ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)、ナテ	スス付処、黒斑、類似土器3層出土 赤色顔料(最大胴径14.5)	2394
第III-472図	16	14	S J	6914c	3	3	甕	口縁	(22.6)	2.1~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		2473
第III-472図	17	14	S I	6913d	3	3	甕	口縁	(23.4)	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい赤橙	横ナテ	横ナテ		2470
第III-472図	18	14	S I	6914c	3	3	甕	口縁	(21.2)	2.9~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙・灰黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ミガキ(多方向)		2459
第III-472図	19	14	S I	6914c	3	3	甕	口縁	15.0	3.8~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ(横)		2479
第III-472図	20	14	S I	6913d	2	2	甕	口縁	(23.6)	1.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		2424
第III-472図	21	14	S I	6913d	2・1	2	甕	口縁	(26.4)	2.8~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目後横ナテ		2440
第III-472図	22	14	S I	6914c	2	2	黒頸甕	口縁	11.5	3.7~	-	石・長・雲・角	オリーフ黒	横ナテ	横ナテ	(最大胴径13.0)	2421
第III-472図	23	14	S I	6913d	1	1	甕	口縁	(42.0)	2.6~	-	長・石・雲・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2445
第III-472図	24	14	S I	6913d	1	1	甕	口縁	(23.8)	1.7~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		2441
第III-472図	25	14	S I	6914c	1	1	甕	口縁	(25.6)	3.1~	-	長・雲・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後器文(縦)	横ナテ、ナテ		2444
第III-472図	26	14	S I	6914c	1	1	器台	脚部	-	5.7~	11.6	長・石・雲・赤	にぶい黄橙・にぶい橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	ナテ、横ナテ	黒斑	2442
第III-474図	1	13	S I	6914a	P	P	甕	口縁	(30.8)	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3層出土	2427
第III-474図	2	13	S I	6914a	P	P	甕	口縁	(20.6)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	表面剥離		2423
第III-474図	3	13	S I	6914c	床面	床面	甕	口縁	(24.6)	1.8~	-	石・長・雲	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器床2層出土	2432
第III-474図	4	13	S I	6914c	床面	床面	甕	口縁	27.6	4.6~	-	石・長・雲	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器1層出土	2435
第III-474図	5	13	S I	6914a	床面	床面	甕	口縁	27.6	3.5~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ		2433

No.82 区 堅穴住居出土土器観察表 2

検出 番号	検出 番号	遺構 番号	遺構 種類	グリット	出土層位	レアウト 図	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号
第III-474回	6	13	S I	6914 b	床面	床面	壺	口縁	(23.6)	1.9~	-	石・長・壺・角	黒褐	横ナテ	横ナテ		2490
第III-474回	7	13	S I	6914 c	床面	床面	壺	口縁	(13.4)	2.7~	-	長・石・壺・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	2478
第III-474回	8	13	S I	6914 c	床面	床面	壺	口縁	(25.8)	3.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		2477
第III-474回	9	13	S I	6914 b	4	4	壺	口縁	(26.6)	2.1~	-	長・石・壺・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ痕		2437
第III-474回	10	13	S I	6914 b	3	3	壺	口縁	(10.6)	1.6~	-	石・長・壺・角・赤	灰黄褐	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	2412
第III-474回	11	13	S I	6914 b	3	3	壺	口縁	(26.8)	2.1~	-	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻	2436
第III-474回	12	13	S I	6914 d	2	2	壺	口縁	(25.0)	2.6~	-	石・長・壺	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	2434
第III-474回	13	13	S I	6914 c	2	2	壺	口縁	(19.8)	2.5~	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ、ハケ目後横ナテ	横ナテ		2413
第III-477回	1	02	S I	6914 b	P	P	壺	口縁	(26.0)	2.5~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	2371
第III-477回	2	02	S I	6914 b.c	床面下	床面	壺	口縁	(25.6)	2.2~	-	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2384
第III-477回	3	02	S I	6914 b	床面内	床面	鉢	口縁	27.6	3.3~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (左上)	赤色顔料	2399
第III-477回	4	02	S I	6914 b	2	2	壺	口縁	(20.8)	2.7~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2396
第III-477回	5	02	S I	6914 b	1	1	壺	口縁	22.4	2.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		2411
第III-477回	6	02	S I	6914 b	トレ	1	壺	口縁	(23.2)	2.1~	-	石・長・壺・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ		2429
第III-477回	7	02	S I	6914 b	1	1	壺	口縁	(29.4)	3.3~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付廻	2383
第III-477回	8	02	S I	6914 b	1	1	壺	底部	-	3.5~	6.8	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	指痕		2386
第III-477回	9	02	S I	6914 b	1	1	壺	底部	-	3.2~	9.4	石・長・壺・角	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	指痕	砂付廻	2381
第III-477回	10	02	S I	6914 b.d	1	1	鉢	口縁	18.6	4.8~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		2380
第III-477回	11	02	S I	6914 a	1	1	壺 (穿孔)	口縁	(10.2)	1.4~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ		2379
第III-480回	1	08	S I	6914 b	P	P	壺	底部	-	2.2~	8.6	石・長・壺・角	明黄褐	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	指痕		2409
第III-480回	2	08	S I	6914 b	2	2	壺	口縁	19.8	3.7~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ、横ナテ後ミガキ (横)		2408
第III-480回	3	08	S I	6914 a	2	2	壺	底部	-	3.5~	4.6	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ハケ目 (左上) 後ナテ、ナテ	横ナテ、指頭圧痕		2484
第III-480回	4	08	S I	6914 b	1	1	壺	口縁~胴部	15.8	8.3~	-	長・壺・角・赤	明黄褐	横ナテ、刻み目文 (胴部) 刻み目文突帯 (胴部)、ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑 (最大胴径19.1cm) (夜白式土器)	2499
第III-482回	1	07	S I	6914 b	1	1	壺 (穿孔)	口縁	(15.0)	1.4~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		2426
第III-481回	1	01	S I	6914 a	3	3	壺	口縁	(22.8)	1.8~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2385
第III-481回	2	01	S I	6914 b	3	3	壺	口縁	(24.2)	1.8~	-	石・長・壺・角	黒褐・灰黄褐	横ナテ	横ナテ		2395
第III-481回	3	01	S I	6914 a	3	3	壺	底部	-	3.0~	(約10.0)	石・長・壺・角	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	2375
第III-481回	4	01	S I	6914 a	3	3	壺	口縁	(11.8)	1.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2431
第III-481回	5	01	S I	6914 a	2	2	壺	口縁	26.0	4.2~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	2373
第III-481回	6	01	S I	6914 b	2	2	壺	口縁	19.0	2.6~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		2398
第III-481回	7	01	S I	6914 a	1	2	壺	底部	-	4.1~	5.4	石・長・角	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	指痕	類似土器2層出土	2372
第III-481回	8	01	S I	6914 a	1	1	壺	底部	-	5.5~	5.4	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	ナテ	スス	2389
第III-481回	9	01	S I	6904 c 6914 b	1・2・3	3	壺	完形	5.8	14.8	6.6	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙・黒褐	横ナテ、凹線文、刻み目文、横ナテ ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ	横ナテ、指頭圧痕、横ナテ ハケ目 (右上) 後ナテ	黒斑・スス付廻、(最大胴径21.1cm) PL-29	2504
第III-484回	1	03	S I	6914 c	床面下	床面	壺	口縁	(21.0)	2.3~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2418
第III-484回	2	03	S I	6914 c	床面下・3	床面	壺	底部	-	2.8~	11.6	長・壺・角・赤	黄橙・明黄褐	ナテ	ナテ、横ナテ	黒斑	2492
第III-484回	3	03	S I	6914 c	床面	床面	壺	口縁~頸部	(23.0)	4.8~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ	スス付廻	2460
第III-484回	4	03	S I	6914 c	-	床面	壺	底部	-	2.7~	6.4	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器床面出土	2450
第III-484回	5	03	S I	6914 c	床面・1	床面	壺	口縁	19.8	5.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ミガキ (横)	ミガキ (横)、横ナテ、ナテ	赤色顔料	2461
第III-484回	6	03	S I	6914 c	床面	床面	壺	底部	-	1.8~	6.6	石・長・壺	にぶい黄橙	ミガキ (横)	指痕		2471
第III-484回	7	03	S I	6914 c	1	2	壺	口縁	(25.8)	1.6~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	2417
第III-484回	8	03	S I	6914 c	2	2	壺	胴部	-	11.9~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙・橙	ナテ、刻み目文突帯、横ナテ、暗文 (縦)	ナテ		2475
第III-484回	9	03	S I	6914 c	2	2	壺	底部	-	3.9~	9.6	石・長・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (左上)、横ナテ、ナテ	指痕	砂付廻	2404
第III-484回	10	03	S I	6913 d	2	2	壺	底部	-	4.3~	7.0	石・長・壺・角	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	ナテ		2496
第III-484回	11	03	S I	6913 d	2	2	壺	口縁	(20.0前後)	3.0~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2403
第III-484回	12	03	S I	6914 c	2	2	壺	口縁	19.6	3.7~	-	長・壺・角	橙	刻み目文 (胴部)、横ナテ、ナテ	刻み目文 (胴部)、横ナテ、ナテ	スス付廻・黒斑	2410
第III-484回	13	03	S I	6914 c	2	2	壺	底部	-	2.8~	7.8	石・壺・角・赤	にぶい橙	ハケ目 (左上) 後ナテ、ナテ	ナテ		2485
第III-484回	14	03	S I	6914 c	2	2	壺	底部	-	1.8~	3.4	長・壺・角・赤	褐灰・灰黄褐	ナテ	横ナテ、指頭圧痕		2405
第III-484回	15	03	S I	6914 c	1	1	壺	口縁	18.8	2.2~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙・黒褐	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ		2422
第III-486回	1	05	S I	6914 c	P	P	壺	口縁	(22.6)	1.6~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器P・1層出土	2402
第III-486回	2	05	S I	6914 c	床面下	床面	壺	口縁	(29.8)	2.0~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ		2428
第III-486回	3	05	S I	6914 c	床面下	床面	壺 (穿孔)	口縁	19.2	2.6~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2419
第III-486回	4	05	S I	6914 c	床面下	床面	壺	口縁	(24.2)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	褐灰	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ、ハケ目後ミガキ (横)	スス付廻	2393
第III-486回	5	05	S I	6914 c	床面・4	床面	壺	口縁~胴部	38.6	21.9~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、突帯、ハケ目 (左上) 後ナテ	横ナテ、ナテ	スス付廻	2420
第III-486回	6	05	S I	6914 c	床面	床面	壺	底部	-	1.8~	11.4	石・長・壺・角・赤	灰黄褐・にぶい橙	横ナテ、ナテ後ミガキ	ハケ目 (縦) 後ナテ	黒斑	2394

No.82 区竪穴住居出土土器観察表 3

挿入 番号	校 番号	遺構 番号	遺構 種類	グリット	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号
第III-486図	7	05	S	1	6914 b	3	壺	口縁	18.0	3.5~	-	長・石・雲・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後ミガキ (縦)	ミガキ (横)、横ナテ	赤色顔料	2451
第III-486図	8	05	S	1	6914 c	3	壺	口縁	21.6	4.4~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後暗文 (縦)	横ナテ		2400
第III-486図	9	05	S	1	6914 c	2	2 壺	口縁	(29.8)	1.6~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	刻み目文 (鋸部)、横ナテ、指頭圧痕	横ナテ		2377
第III-486図	10	05	S	1	6914 c	2	2 壺	口縁	28.0	2.0~	-	長・石・雲・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		2390
第III-486図	11	05	S	1	6914 c	2	2 壺	口縁	(22.8)	2.0~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑	2387
第III-486図	12	05	S	1	6914 c	2	2 壺	口縁	(22.8)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (左上) 後横ナテ		2378
第III-486図	13	05	S	1	6914 c	2	2 鉢	口縁	(20.6)	1.8~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑	2388
第III-486図	14	05	S	1	6914 c	2	2 鉢	口縁	(22.4)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ (横)	横ナテ		2430
第III-486図	15	05	S	1	6914 c	2	2 壺 (跨台)	口縁	(20.6)	2.2~	-	長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		2391
第III-486図	16	05	S	1	6914 c	2	2 壺	口縁	(18.6)	2.2~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (左上) 後暗文 (縦)	横ナテ、ミガキ (多方向)		2397
第III-486図	17	05	S	1	6914 c	1	1 壺	口縁	(22.8)	2.1~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	スス付痕	2392
第III-486図	18	05	S	1	6914 c	1	1 壺	口縁	(18.8)	2.6~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (横)		2401
第III-486図	19	05	S	1	6914 c	1	1 壺	口縁	(29.2)	4.5~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ、暗文 (左上)	横ナテ、ナテ		2382

東西水路調査区出土弥生土器観察表 1

挿入 番号	校 番号	遺構 番号	遺構 種類	グリット	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号		
第III-489図	1	23	S	1	5984 a		床面	床面	壺	口縁	(23.2)	2.1~	-	石・長・雲・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ		3507
第III-489図	2	23	S	1	5984 a		1	床面	壺	口縁	(21.4)	2.2~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器床面出土	3505
第III-489図	3	23	S	1	5984 a		3	壺	底	-	2.9~	8.2	石・長・雲・角	黄橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	磨減		3501	
第III-489図	4	23	S	1	5984 a		2	2 壺	口縁	(29.2)	2.8~	-	石・長・雲・角	黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	3525	
第III-489図	5	23	S	1	5984 a		2	2 壺	口縁	(23.6)	2.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3502	
第III-489図	6	23	S	1	5984 a		1	1 壺	胴部	-	4.6~	-	石・角・赤	にぶい黄橙・浅黄橙	ミガキ (横) 後沈線 (右上)	ハケ目 (縦) 後ナテ	裏裡の可能性あり	3524	
第III-491図	1	25	S	1	5985 b		1	3 壺	口縁	(30.0)	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・2・1層出土	3506	
第III-491図	2	25	S	1	5985 b		2	2 壺	口縁	(21.2)	3.3~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ		3543	
第III-491図	3	25	S	1	5985 b		2	2 壺	底部	-	3.1~	5.4	石・長・雲・角	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ、ナテ	磨減		3540	
第III-491図	4	25	S	1	5985 b		1	1 壺	口縁	(16.2)	2.1~	-	石・長・雲・角	灰黄橙	ナテ	横ナテ		3547	
第III-493図	1	33	S	1	5985 a・d		床面	床面	壺	口縁	(24.2)	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		3632
第III-495図	1	36	S X	1	5986		-	1 壺	口縁	(40.0)	2.2~	-	石・長・雲・角	明赤橙	横ナテ	横ナテ		3566	
第III-498図	1	04	S	1	5986		床面	床面	壺	口縁	(22.6)	3.1~	-	雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3592
第III-498図	2	04	S	1	5986		床面	床面	壺	底部	-	3.8~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	ハケ目 (縦)、ナテ	横ナテ	黒斑、砂付痕	3616
第III-498図	3	04	S	1	5986		3	3 壺	口縁	(21.6)	2.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3636	
第III-498図	4	04	S	1	5986 d・c		3	3 壺	口縁	(33.0)	3.3~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3637	
第III-498図	5	04	S	1	5986 d・c		3	3 壺	底部	-	1.1~	6.0	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙・橙	ナテ	磨減		3628	
第III-498図	6	04	S	1	5986 d・c		2	2 壺	口縁	(約20.0)	1.7~	-	石・長・雲・角	黄灰	横ナテ	横ナテ		3626	
第III-498図	7	04	S	1	5986 d・c		2	2 壺	口縁	(6.8)	2.7~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑	3627	
第III-498図	8	04	S	1	5986 d・c		1	1 壺	口縁	(20.0~30.0)	1.7~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3625	
第III-498図	9	04	S	1	5986 d・c		1	1 壺	口縁	(30.0)	1.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3624	
第III-499図	1	32	S	1	5987 c		3	3 壺	胴部	-	3.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ	スス付痕	3585	
第III-499図	2	32	S	1	5987 c		2	2 壺	口縁	29.6	6.3~	-	石・雲・角・赤	にぶい黄橙・橙	横ナテ、ハケ目 (左上) 後横ナテ	横ナテ、ハケ目 (横)、ハケ目 (左上) 後ナテ	スス付痕	3584	
第III-499図	3	32	S	1	5987 c		2	2 台付鉢	口縁-胴部	15.8	10.1~	-	石・長・雲・角	明赤橙	ミガキ (横)	ミガキ (横)	赤色顔料	3639	
第III-499図	4	32	S	1	5987 c		2	2 高杯	口縁	(35.4)	1.5~	-	石・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、暗文 (縦)	赤色顔料	3586	
第III-500図	1	34	S	1	5987 c		5	5 壺	口縁	測定不能	1.3~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、刻み目文 (鋸部)	横ナテ		3575	
第III-500図	2	34	S	1	5987 c		5	5 壺	口縁	(27.8)	2.2~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		3604	
第III-500図	3	34	S	1	5987 c		5	5 壺	口縁	27.2	3.6~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3623	
第III-500図	4	34	S	1	5987 c		5	5 壺	口縁	(21.4)	1.6~	-	石・長・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		3571	
第III-500図	5	34	S	1	5987 c		5	5 壺	胴部	-	13.4~	-	石・雲・角・赤	浅黄橙	ハケ目 (左上) 後ナテ、横ナテ、刻み目突帯	指ナテ	黒斑	3630	
第III-500図	6	34	S	1	5987 c		1	1 壺	底部	-	8.6~	15.0	石・長・雲・角・赤	明黄橙	指ナテ (縦)、ハケ目 (多方向) 後ナテ、横ナテ	磨減		3629	
第III-503図	1	15	S	1	5984 a		2	2 壺	口縁	(31.6)	1.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付痕	3508	
第III-503図	2	15	S	1	5984 a		1	1 壺	口縁	(24.6)	1.9~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		3512	
第III-505図	1	12	S	1	5984 a、(5985 b)		4・(3)	4 壺	口縁	27.0	3.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		3510	
第III-505図	2	12	S	1	5984 a		4	4 壺	口縁	(22.6)	2.2~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3509	

東西水路調査区出土弥生土器観察表 2

押図 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	グリット	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号
第III-505図	3	12	S	5984 a	3	3	甕	口縁	(30.0)	2.3~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3511
第III-505図	4	12	S	5984 a	2	2	甕	口縁	(25.2)	2.7~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3526
第III-505図	5	12	S	5984 a	2	2	甕	口縁	(17.0)	2.0~	-	長・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		3529
第III-504図	1	19	S	5984 a	-	1	甕	口縁	(29.0)	2.8~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		3513
第III-507図	1	11	S	5984 b	3	3	甕	口縁	(23.0)	3.5~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		3521
第III-507図	2	11	S	5984 b	3	3	甕	口縁	(29.4)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		3503
第III-507図	3	11	S	5984 b	3	3	甕棺	口縁	(40.0)	1.7~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ		3504
第III-507図	4	11	S	5984 b	2	2	甕	口縁	(25.8)	4.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		3520
第III-510図	1	24	S	5986 b	1	1	甕	口縁	(29.8)	2.9~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		3530
第III-512図	1	20	S	5985 b	-	2	甕	口縁	(24.0)	2.3~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2・1層出土	3565
第III-512図	2	20	S	5985 b	-	1	甕	口縁	(23.4)	2.4~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付処	3591
第III-512図	3	20	S	5985 b	-	1	甕	口縁	(21.4)	2.5~	-	長・角・赤	にぶい褐	横ナテ	横ナテ		3535
第III-512図	4	20	S	5985 b	-	1	甕棺	胴部	-	7.5~	-	石・長・雲	にぶい赤褐	横ナテ	横ナテ	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、二条突帯、ナテ	3638
第III-512図	5	20	S	5985 b	-	1	甕	口縁	(21.4)	4.0~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ痕 (横)		3536
第III-513図	1	13	S	5985 b	-	1	甕	口縁	(19.4)	2.1~	-	石・長・雲・角	褐灰	横ナテ	横ナテ、ナテ		3523
第III-513図	2	13	S	5985 b	-	1	甕	口縁	(29.0)	3.0~	-	長・雲・角	赤	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		3538
第III-513図	3	13	S	5985 b	-	1	甕	口縁	(29.4)	2.2~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		3539
第III-514図	1	14	S	5985 b	4	4	甕	口縁	(30.0)	4.7~	-	雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	3564
第III-514図	2	14	S	5985 b	4	4	甕	口縁	28.4	4.4~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3553
第III-514図	3	14	S	5985 b	1	4	甕	口縁	(25.6)	2.9~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄褐	横ナテ	横ナテ	類似土器4・1層出土	3567
第III-514図	4	14	S	5985 b	4	4	甕	底部	-	2.9~	7.0	長・雲・角	黄橙	横ナテ	横ナテ		3549
第III-514図	5	14	S	5985 b	4	4	甕	底部	-	2.1~	6.6	長・雲・角・赤	銘褐	横ナテ	横ナテ		3550
第III-514図	6	14	S	5985 b	4	4	甕 (穿孔)	口縁	(16.8)	1.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		3641
第III-514図	7	14	S	5985 b	4	4	甕 (穿孔)	口縁	19.4	2.0~	-	長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	3589
第III-514図	8	14	S	5985 b	4	4	甕	口縁	(18.4)	2.9~	-	雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		3551
第III-514図	9	14	S	5985 b	4	4	甕	口縁	20.8	3.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)		3644
第III-514図	10	14	S	5985 b	4	4	甕	口縁	(15.2)	2.4~	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ、ミガキ (縦)	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	黒斑、類似土器3・1層出土	3587
第III-514図	11	14	S	5985 b	3	4	甕	口縁	(18.4)	5.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器4層出土	3573
第III-514図	12	14	S	5985 b	4	4	甕	胴部	-	9.0~	-	石・長・雲・角	黒褐・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3588
第III-514図	13	14	S	5985 b	4	4	甕	底部	-	2.6~	6.8	長・雲・角・赤	黒・灰黄	横ナテ	横ナテ		3552
第III-514図	14	14	S	5985 b	4	4	高坏	口縁	(26.0)	2.3~	-	石・長・雲・角	褐灰	横ナテ	横ナテ		3559
第III-514図	15	14	S	5985 b	3	3	甕	口縁	27.8	7.4~	-	雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、ナテ		3548
第III-514図	16	14	S	5985 b	3	3	甕	底部	-	2.3~	7.2	石・長・雲・角	にぶい黄褐	横ナテ	横ナテ		3618
第III-514図	17	14	S	5985 b	3	3	甕	口縁	(18.6)	2.2~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (右上) 後ナテ	横ナテ		3534
第III-514図	18	14	S	5985 b	3	3	甕	底部	-	1.9~	11.8	石・長・角・赤	黒・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3533
第III-514図	19	14	S	5985 b	1	2	甕	口縁	(26.4)	1.6~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土	3560
第III-514図	20	14	S	5985 b	トレ	1	甕	口縁	(18.2)	2.1~	-	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ		3544
第III-514図	21	14	S	5985 b	トレ	1	甕	底部	-	3.3~	9.2	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3545
第III-514図	22	14	S	5985 b	1	1	甕 (穿孔)	口縁	(20.8)	3.1~	-	石・長・雲・角・赤	赤	横ナテ	横ナテ		3617
第III-514図	23	14	S	5985 b	トレ	1	甕 (穿孔)	口縁	(23.6)	1.9~	-	石・雲・角・赤	赤	横ナテ	横ナテ		3546
第III-516図	1	08	S	5985 a	3	3	甕	口縁	(21.0)	2.5~	-	長・石・雲・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3561
第III-516図	2	08	S	5985 a	3	3	甕	口縁	(27.6)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		3562
第III-516図	3	08	S	5985 a	3	3	甕	口縁	(27.2)	1.8~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ		3619
第III-517図	1	01	S	5985 a・b	床面	床面	甕	口縁	(17.4)	2.0~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ		3555
第III-517図	2	01	S	5985 a	3	3	甕	口縁	(26.6)	2.4~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		3595
第III-517図	3	01	S	5985 a	3	3	甕	口縁	27.0	2.4~	-	石・長・雲・角	にぶい黄褐	横ナテ	横ナテ		3642
第III-517図	4	01	S	5985 a・b	2	2	甕	口縁	(20.6)	2.7~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)		3556
第III-517図	5	01	S	5985 a・b	2	2	甕	口縁	(30.0)	4.7~	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ		3554
第III-517図	6	01	S	5985 a・b	1	1	甕	口縁	(27.0)	1.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3557
第III-519図	1	07	S	5986 b・c	6	6	甕	口縁	(25.8)	1.9~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3528
第III-519図	2	07	S	5986 b・c	6	6	甕	口縁	測定不能	2.5~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (縦)	横ナテ		3527
第III-519図	3	07	S	5986 b・c	6	6	甕	胴部	-	4.8~	-	石・長・雲・角	赤褐・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		3582
第III-519図	4	07	S	5986 b・c	4	4	甕	口縁	(24.6)	2.3~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3563
第III-519図	5	07	S	5986 b・c	4	4	甕	口縁	(29.8)	2.2~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3537

東西水路調査区出土弥生土器観察表 3

押出 番号	枝 番号	遺構 種類	遺構 種類	グリット	出土 層位	シフト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測 番号
第III-519回	6	07	S I	5986 b・c	3	3	壺	底部	-	2.9~	9.4	石・長・角	黄橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	磨滅		3541
第III-519回	7	07	S I	5986 b・c	3	3	壺	口縁	(24.6)	4.1~	-	石・長・角・赤	浅黄橙・橙	横ナテ、暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		3542
第III-521回	1	02	S I	5985 a・d、5986 b	3	3	壺	口縁	測定不能	5.6~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)		3600
第III-521回	2	02	S I	5985 a・d、5986 b	2	2	壺	口縁	(19.0)	2.8~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3570
第III-521回	3	02	S I	5985 a・d、5986 b	トレ	1	壺	口縁	(41.8)	5.1~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ハケ目	スス付否	3640
第III-521回	4	02	S I	5985 a・d、5986 b	1	1	壺	口縁	(28.0)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		3572
第III-521回	5	02	S I	5985 a・d、5986 b	1	1	器台	口縁	13.0	3.6~	-	石・長・雲・角・赤	赤褐・にぶい黄橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ		3568
第III-522回	1	03	S I	5986 b	床面	床面	壺	口縁	(16.4)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		3581
第III-522回	2	03	S I	5986 b	3	3	壺	口縁	23.4	5.25~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	スス付否、黒斑	3593
第III-522回	3	03	S I	5986 b	2	2	壺	口縁	(30.0)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	3596
第III-522回	4	03	S I	5986 b	2	2	壺	口縁	(19.8)	3.5~	-	石・長・雲・角・赤	黄橙・灰黄褐	横ナテ	横ナテ	類似土器1層出土	3579
第III-522回	5	03	S I	5986 b	2	2	壺	口縁	(18.4)	3.6~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、暗文(縦)		3597
第III-522回	6	03	S I	5986	1	1	壺	口縁	(19.8)	4.9~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		3610
第III-522回	7	03	S I	5986	1	1	壺	底部	-	1.5~	7.6	石・長・角・赤	橙・黄橙	ミガキ(横)	横ナテ	黒斑	3606
第III-522回	8	03	S I	5986	1	1	高坏	口縁	(22.0)	0.8~	-	石・長・角	明赤褐	ナテ	暗文(縦)	赤色顔料	3609
第III-525回	1	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	口縁	(43.0)	4.2~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3・1層出土	3645
第III-525回	2	06	S I	5986 d	3	床面	壺	口縁	30.4	8.0~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)横ナテ・ナテ	横ナテ、ナテ	スス付否、類似土器床面出土	3646
第III-525回	3	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	口縁	23.6	2.9~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付否	3602
第III-525回	4	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	口縁	測定不能	3.0~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ		3622
第III-525回	5	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	口縁	(17.6)	2.1~	-	雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		3603
第III-525回	6	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	口縁	(21.0)	2.4~	-	長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		3611
第III-525回	7	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	口縁	(22.4)	2.7~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ後暗文(縦)、横ナテ	ミガキ(横)		3601
第III-525回	8	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	胸部~底部	-	6.4~	7.2	石・長・雲・角・赤	明赤褐	ミガキ(横)、ミガキ(横)後ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	(最大胴径21.2cm)	3576
第III-525回	9	06	S I	5986 d	床面	床面	壺	底部	-	2.7~	8.0	石・長・雲・角	にぶい橙	ハケ目(縦)、ナテ	指頭圧痕		3599
第III-525回	10	06	S I	5986	1	3	壺	口縁	(34.0)	3.0	-	石・長・雲	にぶい褐	横ナテ、ヘラによる圧痕	横ナテ	類似土器3・1層出土	3643
第III-525回	11	06	S I	5986	3	3	壺	口縁	(16.4)	1.6~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3594
第III-525回	12	06	S I	5986 d	3	3	壺	底部	-	2.0~	7.6	長・角・赤	橙	ハケ目(多方向)、横ナテ	磨滅		3583
第III-525回	13	06	S I	5986 d	トレ	1	壺	胸部	-	5.65~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙・にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(左上・縦)、刻み目突帯	横ナテ	櫛搔状工具使用	3635
第III-528回	1	05	S I	5986 d	トレ	4	壺	口縁	24.8	3.9~	-	石・長・雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器4・1層出土	3598
第III-528回	2	05	S I	5986 d	4	4	壺	口縁	(28.8)	1.7~	-	石・長・雲・角	明赤褐	ミガキ(横)、ハケ目(横)後刻み目文(端部)	横ナテ	黒斑、櫛搔状工具使用	3633
第III-528回	3	05	S I	5986 d	3	3	壺	底部	-	3.4~	7.4	石・長・雲・角	にぶい橙	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	磨滅		3608
第III-528回	4	05	S I	5986 d	3	3	壺	口縁	(21.6)	5.8~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ		3607
第III-528回	5	05	S I	5986 d	トレ	1	壺	口縁	(22.2)	2.3~	-	石・長・雲・角	浅黄橙	横ナテ	横ナテ		3580
第III-528回	6	05	S I	5986 d	1	1	壺	口縁	(29.8)	2.8~	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付否	3605
第III-528回	8	05	S I	5986 d	トレ	1	壺	口縁	(30.2)	2.0~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		3578
第III-528回	9	05	S I	5986 d	トレ	1	壺	口縁	測定不能	2.4~	-	長・雲・角・赤	浅黄橙・橙	横ナテ	横ナテ		3634
第III-528回	7	05	S I	5986 d	トレ	1	壺	口縁	(17.4)	2.6~	-	長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		3620
第III-528回	10	05	S I	5986 d	1	1	壺	口縁	(15.0)	2.3~	-	長・雲・角・赤	にぶい褐	ナテ	ナテ		3621

2 区屋外土坑出土弥生土器観察表 1

押出番号	枚番号	遺物番号	遺物種類	グリット	出土層位	レイアウト層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-532回	1	1033	S K	6903 c	3	3	甕	口縁	(25.0)	2.4~	-	石・長・髷	にふい檜	横ナテ	横ナテ			1771
第III-532回	2	1033	S K	6903 c	3	3	甕	口縁	31.2	3.1~	-	石・長・髷・角	褐灰	横ナテ	横ナテ	黒斑		1770
第III-532回	3	1033	S K	6903 c	3	3	甕	口縁	(24.4)	2.5~	-	石・長・髷・角・赤	楳	横ナテ	横ナテ			1763
第III-532回	4	1033	S K	6903 c	3・2・(包)	3	甕	胴部~底部	-	34.5~	8.8	石・長・髷・角・赤	にふい檜	ハケ目 (左上)、二条刻み目突帯	ナテ	(最大胴径34.1cm)	PL-35	2206
第III-532回	5	1033	S K	6903 c	3	3	甕	底部	-	2.3~	5.8	石・長・髷・角	楳	ナテ	ナテ	黒斑		1777
第III-532回	6	1036	S K	6913 b	2	2	甕	口縁	(25.0)	2.9~	-	石・長・髷・角・赤	にふい黄楳	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ナテ			965
第III-532回	7	1036	S K	6913 b	2	2	甕	口縁	(約14.0)	2.8~	-	石・長・髷・角	にふい楳	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			994
第III-532回	8	1036	S K	6913 b	2	2	甕	口縁	(9.0)	0.9~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ	横ナテ			964
第III-532回	9	1036	S K	6913 b	2	2	甕	底部	-	3.2~	8.8	石・長・髷・角	にふい黄楳	ハケ目 (縦)、ナテ	ナテ			984
第III-532回	10	1070	S K	6912 a	2	2	甕	底部	-	4.7~	6.0	石・長・髷・角・赤	楳	ハケ目 (縦)、ハケ目後ナテ	黒斑			798
第III-532回	11	1070	S K	6912 a	2	2	甕	口縁	(9.4)	1.7~	-	石・長・髷	楳	横ナテ	ナテ			828
第III-532回	12	1070	S K	6912 a	1	1	甕	口縁	(約31.0)	2.3~	-	石・長・髷・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ、ナテ			835
第III-532回	13	1224	S X	6901 d	2	2	甕	口縁	19.3	3.6~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ	横ナテ			10
第III-536回	1	170	S X	6911 b	-	No.1	甕	完形	11.9	20.5	-	長・髷・角・赤	楳	ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ、指頭圧痕 ハケ目 (多方向)、ナテ	黒斑 (最大胴径16.3cm) 底部欠損	PL-35	20
第III-536回	2	170	S X	6911 b	-	No.3	高杯	胴部	-	3.1~	-	石・長・角・赤	明褐	ハケ目 (多方向) 後ナテ	ナテ、ハケ目 (多方向) 後ナテ			859
第III-537回	1	171	S K	6911 b	-	-	甕	口縁	(18.2)	2.3~	-	石・長・髷	明赤褐	横ナテ	横ナテ			875
第III-539回	1	218	S X	6901 a	屈下層	屈下層	甕	口縁	23.0	2.1~	-	石・長・髷・角	浅黄楳	横ナテ	横ナテ			1037
第III-539回	2	218	S X	6902 b	屈下層	屈下層	甕	口縁	(29.6)	2.2~	-	長・髷・角・赤	浅黄楳	横ナテ	横ナテ			1039
第III-539回	3	218	S X	6902 b	屈下層	屈下層	甕	口縁	22.0	2.2~	-	長・石・髷・赤	浅黄楳	横ナテ	横ナテ、工具によるナテ			1038
第III-539回	4	218	S X	5992 b	3	3	甕	口縁	(32.0)	2.2~	-	石・長・髷・角	にふい黄楳	横ナテ	横ナテ			1004
第III-539回	5	218	S X	6902 b	2	2	甕	口縁	(34.0)	2.3~	-	石・長・髷・角・赤	にふい黄楳	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (左上)、ナテ			1005
第III-539回	6	218	S X	6902 b	2	2	甕	口縁	30.0	1.6~	-	石・長・髷・角・赤	にふい楳	横ナテ	横ナテ			1024
第III-539回	7	218	S X	6902 b	2	2	甕	口縁	24.6	3.5~	-	石・長・髷	黄楳	横ナテ	横ナテ			968
第III-539回	8	218	S X	6902 b	1	2	甕	口縁	28.0	2.6~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ	横ナテ	黒斑、類似土器2層出土		866
第III-539回	9	218	S X	6901 a	1	2	甕	口~頸部	28.0	4.0~	-	石・長・髷・角	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2層出土		865
第III-539回	10	218	S X	6902 d	2	2	甕	口縁	28.6	3.2~	-	石・長・髷	にふい楳	横ナテ	横ナテ			834
第III-539回	11	218	S X	6902 d	1	2	甕	口~頸部	(30.0)	2.5~	-	石・長・髷	にふい黄楳	横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器2層出土		953
第III-539回	12	218	S X	6902 d	2	2	甕	口縁	(約50.0)	2.7~	-	石・長・髷・角・赤	褐灰楳	横ナテ	横ナテ			1006
第III-539回	13	218	S X	6902 b	2	2	甕	胴部	-	4.6~	-	長・髷・角・赤	にふい楳	突帯、ナテ	ハケ目 (横) 後ナテ			1023
第III-539回	14	218	S X	6902 b	トレ	1	甕	口縁	(32.0)	2.5~	-	長・髷・角・赤	黄楳	横ナテ	横ナテ、ナテ			864
第III-539回	15	218	S X	6901 a	1	1	甕	口~胴部	25.8	5.0~	-	石・長・髷	にふい黄楳	横ナテ、沈線	ナテ			901
第III-539回	16	218	S X	6901 a	1	1	甕	口縁	(32.0)	1.8~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ	横ナテ			955
第III-539回	17	218	S X	6902 b	1	1	甕	底部	-	2.5~	8.0	石・長・髷・角	楳	横ナテ	黒斑			1079
第III-539回	18	218	S X	6902 b	トレ	1	不明	把手	-	4.0~	-	石・長・髷・角・赤	赤褐	ナテ	黒斑	赤色顔料		1045
第III-539回	19	218	S X	6902 b	トレ	1	甕 (穿孔)	口縁	(20.0)	2.3~	-	石・角・赤・髷	楳	横ナテ	横ナテ	穿孔		903
第III-539回	20	218	S X	6901 a	1	1	甕	口縁	(17.4)	3.2~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ	横ナテ、ミガキ (横)			904
第III-539回	21	218	S X	6901 a	1	1	甕	口~頸部	19.4	6.8~	-	長・髷・角・赤	にふい黄楳	横ナテ、突帯、ナテ	横ナテ			863
第III-539回	22	218	S X	6901 a	1	1	甕	口縁	19.4	3.3~	-	長・髷・角	楳	横ナテ、ミガキ (横)、暗文 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)			956
第III-539回	23	218	S X	6902 b	1	1	甕	胴部	-	7.1~	-	長・髷・角	楳	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ 二条刻み目突帯	ハケ目 (横・縦)			1080
第III-541回	1	1006	S K	6902 b	4	4	甕	口縁	24.4	2.6~	-	石・長・髷・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ			831
第III-541回	2	1006	S K	6902 b	3	3	甕	口縁	25.4	3.5~	-	長・石・髷・赤	浅黄楳	横ナテ	横ナテ			967
第III-541回	3	1006	S K	6902 b	3	3	甕	口縁	(34.6)	2.7~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ	横ナテ、ナテ			830
第III-541回	4	1006	S K	6902 b	3	3	甕	口縁~頸部	(36.0)	3.9~	-	石・長・髷・角・赤	楳	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ			832
第III-543回	1	291	S X	6901 a	3	3	甕	口縁	(24.6)	2.2~	-	長・石	黄楳、黄楳	横ナテ	横ナテ			951
第III-543回	2	291	S X	6901 a	1	1	甕	口縁	(28.6)	1.8~	-	石・長・髷・角	黄楳	横ナテ	横ナテ			973
第III-547回	1	1027	S K	6902 a	屈下層	屈下層	甕	口縁	(26.0)	1.7~	-	石・長・角・赤	にふい黄楳、黒斑	横ナテ、ナテ	ナテ			905
第III-548回	1	1026	S X	6902 a	3	3	甕	底部	-	4.0~	(4.7)	石・長・髷・角	楳、灰	黒斑	指ナテ			887
第III-548回	2	1026	S X	6902 a	1	1	甕	口縁	(20.0)	3.2~	-	長・髷・角・赤	明赤褐	横ナテ、刻み目突帯、ナテ	横ナテ、ナテ	夜臼式土器		895
第III-548回	3	1026	S X	6902 a	1	1	甕	口縁	(21.4)	3.0~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			890
第III-548回	4	1026	S X	6902 a	1	1	甕	胴部	-	3.5~	-	長・石・髷・赤	楳	横ナテ、突帯、ナテ	ナテ			894
第III-550回	1	1021	S X	5992 c	底面	底面	甕	底部	-	2.7~	5.8	石・長・髷	楳	ナテ	黒斑			922
第III-550回	2	1021	S X	6902 b	2	2	甕	口縁~胴部	(19.6)	5.2~	-	石・長・髷・角	にふい楳	横ナテ、沈線	横ナテ			4802
第III-550回	3	1021	S X	5992 c、6902 b	2	3	甕	口縁	(30.8)	3.4~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ、ナテ	類似土器3・1層出土		1967
第III-550回	4	1021	S X	5992 c、6902 b	1	3	甕	口縁	22.4	4.3~	-	石・長・髷・角	にふい黄楳	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	又ス付短、類似土器3・2層出土		4809
第III-550回	5	1021	S X	5992 c、6902 b	3	3	甕	口縁	(36.0)	2.9~	-	石・長・髷・角	楳	横ナテ	横ナテ	黒斑		4805
第III-550回	6	1021	S X	5992 c、5902 b	-	3	甕	底部	-	3.4~	9.8	石・長・髷・角・赤	楳	ハケ目 (縦)、ナテ、横ナテ、指頭圧痕	黒斑	類似土器3・1層出土		935
第III-550回	7	1021	S X	6902 a	2	2	甕	口縁	-	3.0~	9.0	石・長・角・赤	浅黄、黒	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、ナテ	黒斑			945

2 区屋外土坑出土弥生土器観察表 2

押収番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	グリット	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第Ⅲ-550図	8	1021	SX	6902 b	2	2	壺	口縁	(23.8)	4.6~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ、二条刻み目突帯 (脚部)	横ナテ			4804
第Ⅲ-550図	9	1021	SX	6902 b	2	2	壺	底部	-	3.6~	4.2	石・髑・角・赤	黄灰・灰黄	ハケ目 (多方向)・ナテ	ナテ			923
第Ⅲ-550図	10	1021	SX	6902 a	1	2	壺	底部	-	4.1~	8.2	石・長・角・赤	橙・にぶい黄橙	ミガキ (横)	ナテ	黒斑、類似土器2図出土		933
第Ⅲ-550図	11	1021	SX	6902 a	トレ	1	壺	口縁	(29.6)	2.6~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			1276
第Ⅲ-550図	12	1021	SX	5992 d, 6902 a	1	1	壺	口縁	(20.0~30.0)	1.9~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	ナテ			4807
第Ⅲ-550図	13	1021	SX	5992 c, 6902 b	1	1	壺	口縁	(23.0)	2.3~	-	石・長・髑・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	塗り		4801
第Ⅲ-550図	14	1021	SX	5992 c, 6902 b	1	1	壺	底部	-	4.6~	6.5	石・長・髑・角・赤	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、ナテ	ナテ			975
第Ⅲ-550図	15	1021	SX	6902 b	トレ	1	壺	底部	-	3.2~	6.0	石・長・髑・角	にぶい橙	ハケ目 (縦)・ナテ、横ナテ、指ナテ	指蓋			929
第Ⅲ-551図	1	1023	SX	6902 a・b	4	4	壺	口縁	(20.0~25.0)	3.3~	-	長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ			992
第Ⅲ-551図	2	1023	SX	6902 a	3	3	壺	口縁	(28.6)	3.0~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			982
第Ⅲ-551図	3	1023	SX	6902 a	2	2	壺	口縁	22.6	2.7~	-	石・長・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ			950
第Ⅲ-551図	4	1023	SX	6902 a	2	2	壺	口縁	(25.0)	2.3~	-	石・長・髑・角・赤	黄褐	横ナテ	横ナテ			944
第Ⅲ-551図	5	1023	SX	6902 a	1	1	壺	口~胴部	24.6	5.2~	-	石・長・髑・角・赤	明赤褐	沈線、横ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ナテ			969
第Ⅲ-553図	1	226	SX	6902 a	2	2	壺	口縁	測定不能	2.0~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ			825
第Ⅲ-553図	2	226	SX	6902 a	2	2	壺	口縁	(20.6)	1.5~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			937
第Ⅲ-553図	3	226	SX	6902 a	1	1	壺	口縁	26.0	1.8~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ			826
第Ⅲ-553図	4	226	SX	6902 a	1	1	壺	口縁	26.0	3.2~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			771
第Ⅲ-553図	5	226	SX	6902 a	1	1	壺	口縁	(22.0)	2.0~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			822
第Ⅲ-553図	6	226	SX	6902 a	1	1	壺	口縁	測定不能	4.0~	-	長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ、指ナテ、ナテ			871
第Ⅲ-555図	1	227	SX	6903 b, 5993 c	図・2・(包)	胴部	壺	口~胴部	44.0	14.8~	-	髑・角・赤	赤褐	横ナテ、突帯、ハケ目 (縦)	横ナテ、ナテ	黒斑、S=1/4指蓋		718
第Ⅲ-555図	2	227	SX	6903 b	底面	底面	壺	底部	-	3.4~	9.8	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (縦)・横ナテ	指蓋			705
第Ⅲ-555図	3	227	SX	6903 b	底面・2	底面	組合口縁壺	口縁	11.2	5.1~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ、ハケ目 (在上) 後横ナテ	横ナテ			665
第Ⅲ-555図	4	227	SX	6903 b	4	4	壺	口縁	28.6	3.7~	-	石・長・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ	黒斑		678
第Ⅲ-555図	5	227	SX	6903 b	4	4	壺	口縁	26.0	2.6~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			668
第Ⅲ-555図	6	227	SX	6902 a	3	3	壺	口縁	測定不能	3.2~	-	長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			671
第Ⅲ-555図	7	227	SX	6903 b	3	3	壺	口縁	25.4	2.9~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			704
第Ⅲ-555図	8	227	SX	6902 a	3	3	壺	口縁	24.0	2.4~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			663
第Ⅲ-555図	9	227	SX	6903 b	3	3	壺	底部	-	1.0~	6.0	長・髑・角	橙	ナテ	ナテ			675
第Ⅲ-555図	10	227	SX	6903 b	3	3	壺	底部	-	3.5~	8.2	長・髑・角	黄橙	ナテ	ナテ			674
第Ⅲ-555図	11	227	SX	6903 b	2	2	壺	底部	-	3.1~	5.6	石・長・髑・角	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ	指蓋			690
第Ⅲ-555図	12	227	SX	6903 b	2	2	鉢	口縁~胴部	13.0	4.8~	-	石・長・髑・角	明赤褐	ハケ目 (左上) 後横ナテ	ハケ目 (左上) 後横ナテ			684
第Ⅲ-555図	13	227	SX	6903 b	2	2	壺	底部	-	3.0~	9.0	石・長・髑・角	明赤褐	ナテ	ナテ			672
第Ⅲ-555図	14	227	SX	5992 d	1	1	壺	口縁	20.5	2.45~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			666
第Ⅲ-555図	15	227	SX	6903 b	-	1	壺	口縁	27.0	2.3~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ			679
第Ⅲ-555図	16	227	SX	6902 b	トレ	1	壺	口~胴部	24.0	6.1~	-	石・長・髑・角	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、指ナテ			667
第Ⅲ-555図	17	227	SX	6903 b	1	1	壺	口縁	25.0	2.8~	-	石・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			659
第Ⅲ-555図	18	227	S	6902 a	1	1	壺	口縁~頸部	29.8	4.2~	-	髑・角・赤	にぶい橙	突帯、横ナテ	横ナテ、ナテ			670
第Ⅲ-555図	19	227	SX	6903 b	1	1	壺	口縁	24.2	5.8~	-	石・長・髑・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			677
第Ⅲ-555図	20	227	SX	6913 b	1	1	壺	口縁	(29.2)	5.1~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ			1273
第Ⅲ-555図	21	227	SX	6902 a	1	1	壺	底部	-	4.7~	7.0	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	指蓋			708
第Ⅲ-556図	1	227	SX	6903 b, 6913 b	1・(包)	1	壺	口縁	29.6	4.8~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			703
第Ⅲ-556図	2	227	SX	6903 b	1	1	壺	口縁	(23.8)	3.8~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (横・左上) 後横ナテ			700
第Ⅲ-556図	3	227	SX	6903 c・b	-・(包)	1	壺	口縁	24.4	5.9~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、簡文 (縦)・ナテ	横ナテ、ナテ			539
第Ⅲ-556図	4	227	SX	6903 b	1	1	壺	口縁	15.4	2.5~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、簡文 (縦)	横ナテ、ナテ	ミガキ (横)		701
第Ⅲ-556図	5	227	SX	6903 b	1	1	壺	口縁	16.0	2.6~	-	石・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			669
第Ⅲ-556図	6	227	SX	6903 b	-	1	壺	口縁	(7.1)	2.4~	-	髑・角・赤	浅黄橙	横ナテ、簡文 (縦)	横ナテ、ナテ			610
第Ⅲ-556図	7	227	SX	6902 a	1	1	壺	口縁	(40.6)	5.0~	-	石・長・髑・角	明赤褐	横ナテ、突帯、ハケ目 (多方向)	ハケ目 (多方向) 後ナテ	二重口縁壺		691
第Ⅲ-556図	8	227	SX	6903 b	1	1	無頸壺	口縁	15.4	5.6~	-	長・髑・角	橙・黒	横ナテ、ハケ目 (右上) 後ナテ	横ナテ、ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	(最大胴径16.4cm)		682
第Ⅲ-556図	9	227	SX	6903 b	1	1	垢罨	垢罨~脚部	-	5.3~	-	石・長・髑・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目 (縦)・しほ離れ	ナテ			683
第Ⅲ-557図	1	1001	SK	6903 b	3	3	壺	口縁	(約28.0)	1.4~	-	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	ミガキ (横)			960
第Ⅲ-557図	2	1001	SK	6903 b	1	1	壺	口縁	(19.6)	1.7~	-	長・石・髑・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			936
第Ⅲ-559図	1	273	SK	6903 b	2	2	壺	口縁	21.0	3.4~	-	石・長・髑・角・赤	橙	ナテ	ナテ、横ナテ			900
第Ⅲ-559図	2	273	SK	6903 b	2	2	壺	口縁	(15.0)	2.8~	-	石・長・髑・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ			897
第Ⅲ-559図	3	273	SK	6903 b	2	2	壺	口縁	(28.0)	2.9~	-	石・長・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ (横) 後ナテ			915
第Ⅲ-559図	4	273	SK	6903 b	1	1	壺	口縁	26.0	2.8~	-	長・石・髑・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			893
第Ⅲ-559図	5	273	SK	6903 b	1	1	壺	口~胴部	22.6	4.5~	-	石・長・角・赤	橙・相灰	横ナテ、ハケ目 (左上)	横ナテ			896
第Ⅲ-563図	1	249	SX	5982 a	1	1	壺	口縁	24.0	4.3~	-	石・長・髑・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			1581
第Ⅲ-565図	1	134	SK	5973 a	3	3	壺	口縁	(34.4)	2.6~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			1578

2区屋外土坑出土弥生土器観察表 3

挿入番号	枝番号	遺構番号	遺構種類	グリット	出土層位	レイアウト層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-565図	2	134 S.K	5972 c	3	3	壁	口~頸部	27.6	2.6~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (縦)				1597
第III-565図	3	134 S.K	5972	3	3	壁	口~胴部	24.8	5.9~	-	石・長・髑・角	淡黄橙・灰黄	横ナテ、沈線、ナテ	横ナテ、ナテ				1625
第III-565図	4	134 S.K	5972 d	3	3	壁	口縁	(22.0)	1.9~	-	長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				1604
第III-565図	5	134 S.K	5973 a	3	3	壁	口縁	(17.0)	1.9~	-	長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				1590
第III-565図	6	134 S.K	5973 a	3	3	壁	口縁	(20.0)	3.0~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				1587
第III-565図	7	134 S.K	5973 a	3	3	壁	口縁	(12.0)	2.5~	-	石・髑・角・赤	橙	横ナテ、晒文 (縦)	横ナテ				1602
第III-565図	8	134 S.K	5972 c	2	3	壁	口縁	(19.6)	3.3~	-	石・長・髑・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器3層出土			1569
第III-565図	9	134 S.K	5972 c	3	3	壁	底部	-	3.0~	測定不能	長・髑・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ痕	ナテ				1575
第III-565図	10	134 S.K	5972 b	2	2	壁	口縁	(22.0)	1.8~	-	石・長・髑・角・赤	赤橙	横ナテ	横ナテ				1605
第III-565図	11	134 S.K	5972 c	2	2	壁	口縁	18.4	1.8~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ				1600
第III-565図	12	134 S.K	5972 c	2	2	壁	口縁	21.0	2.1~	-	石・長・髑	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ				1615
第III-565図	13	134 S.K	5972 b	2	2	壁	底部	-	3.1~	6.0	石・長・髑・角	赤橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	磨減				1603
第III-565図	14	134 S.K	5972 c	2	2	壁	底部	-	2.6~	9.2	石・長・髑・角	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	磨減				1610
第III-565図	15	134 S.K	5972 b	2	2	壁	胴部	-	4.6~	-	石・長・髑・角・赤	明赤橙・にぶい黄橙	横ナテ、二条刻み目突帯	ハケ目 (左上) 後ナテ				1612
第III-565図	16	134 S.K	5972 d	2	2	壁	胴部	-	3.1~	-	長・髑・角・赤	明赤橙	横ナテ、突帯	磨減	接合痕			1586
第III-565図	17	134 S.K	5972 d	-	1	壁	口縁	(22.6)	2.6~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				1579
第III-565図	18	134 S.K	5973 a	-	1	壁	口縁	(約30.0)	2.9~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄	横ナテ	横ナテ				1576
第III-565図	19	134 S.K	5972 d	1	1	壁	口縁	(約20.0)	3.1~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				1568
第III-567図	3	139 S.K	5983-d	-	2	壁	口縁	(21.8)	2.2~	-	石・長・角	灰黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器2層出土			1198
第III-567図	2	139 S.K	5983-d	-	2	壁	口縁~胴部	23.4	10.3~	-	長・石・髑・赤	明赤橙・明黄橙	横ナテ、刻み目突帯、ミガキ (横)	ミガキ痕、横ナテ				1201
第III-567図	1	139 S.K	5983-a	-	2	壁	口縁	22.2	1.9~	-	石・長・髑・角・赤	灰黄	横ナテ	横ナテ	赤色顔料、類似土器2層出土			1239
第III-570図	1	1106 S.K	5953 a	2	2	壁	口縁	27.4	2.1~	-	石・長・髑・角	橙・にぶい橙	横ナテ	横ナテ				2334
第III-570図	2	1106 S.K	5953 a	2	2	壁	口縁	(29.4)	1.9~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				2333
第III-570図	3	1106 S.K	5953 a	2	2	壁	口縁	19.2	2.3~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				2335
第III-570図	4	1217 S.K	5964 c	-	1	壁	口縁	(44.8)	3.2~	-	石・長・髑・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ	瓜斑			2340
第III-570図	5	1217 S.K	5964 c	-	1	壁	口縁	(23.0)	3.0~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				2247
第III-570図	6	1141 S.K	5953 b	-	3	壁	口縁	24.0	1.5~	-	石・長・髑・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	スス付石、類似土器3層出土			2281
第III-570図	7	1141 S.K	5953 b	3	3	壁	頸・胴部	-	8.1~	-	石・長・髑・角	明赤橙	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ				4803
第III-570図	8	1141 S.K	5953 b	1	1	壁	口縁	20.8	2.7~	-	長・石・髑・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	赤色顔料			2282
第III-570図	9	1212 S.K	5954 c	5	5	壁	口縁	(20.8)	2.9~	-	石・長・髑・角	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ (多方向)、ナテ	瓜斑			2239
第III-570図	10	1187 S.K	5942 d	5	5	壁	口縁	(32.4)	2.2~	-	石・長・髑・角・赤	淡黄橙	横ナテ	横ナテ				2349
第III-570図	11	1187 S.K	5942 d	2	2	壁	口縁	(26.2)	2.5~	-	長・石・髑・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ				2323
第III-572図	1	1114 S.X	5964 d	2	2	壁	口~胴部	26.2	5.8~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (左上)	横ナテ、ハケ目 (左上) 後横ナテ	類似土器2層出土			2204
第III-572図	2	1156 S.K	5953 b	2	2	壁	口縁	(20.0~30.0)	2.8~	-	石・長・髑	にぶい橙	横ナテ	横ナテ				2312
第III-572図	3	1156 S.K	5953 b	1	1	壁	口縁	(17.6)	1.8~	-	石・髑・角・赤	淡黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付石			2275
第III-572図	4	1149 S.K	5934 d	-	1	壁	口縁	(24.3)	2.4~	-	石・長・髑	橙	横ナテ	横ナテ				2357

82区屋外土坑出土弥生土器観察表

図版番号	枝番号	遺構番号	遺構種類	グリット	出土層位	レイアウト層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-578図	1	12 S.K	6913 d	-	1	壁	口縁	(21.4)	1.8~	-	長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後晒文 (縦)	横ナテ				2414
第III-578図	2	10 S.K	6913 d	-	1	壁	口縁	(20.0)	1.5~	-	石・長・髑・角・赤	橙	横ナテ	磨減				2464
第III-578図	3	10 S.K	6914 c	-	1	壁	底部	-	2.6~	9.8	石・髑・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	磨減				2407
第III-578図	4	10 S.K	6914 c	-	1	壁	口縁	(23.4)	3.9~	-	長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ				2406
第III-578図	5	11 S.K	6914 c	1	1	壁	口縁	(20.8)	4.6~	-	長・髑・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付石			2415
第III-578図	6	11 S.K	6914 c	-	1	壁	口縁	(22.6)	2.2~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ				2416
第III-578図	7	04 S.X	6904 c	-	1	壁	口縁	(25.0)	1.8~	-	石・長・髑・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ				2503

2 区屋外炉出土弥生土器観察表

押印 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	グリッド	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外)	調整 (内)	備考	実測番号
第III-581図	1	239	S X	6902 d	-	1	甕	口~胴部	30.4	6.4~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、沈線	横ナテ、指ナテ、ナテ		824
第III-581図	2	239	S X	6902 d	1	1	甕	口縁	(16.5)	2.5~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目 (左上)		949
第III-581図	3	251	S X	5982 d	1	1	甕	口縁	(29.0)	2.5~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ナテ		962
第III-581図	4	137	S X	5982	1	1	甕	口縁	(32.4)	2.7~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑	1589
第III-581図	5	137	S X	5982	1	1	甕	口縁	(20.0~30.0)	1.9~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ		4808
第III-581図	6	137	S X	5982	1	1	甕	口縁	(20.0~30.0)	1.5~	-	石・長・雲・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ミガキ (横)	横ナテ		4806
第III-581図	7	136	S X	5982 a	1	1	甕	口縁	(23.2)	1.5~	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、磨滅		1618
第III-581図	8	1184	S X	5942 d	1	1	甕	口縁	(27.0)	4.6~	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		1648
第III-581図	9	1184	S X	5942 d	2	2	甕	口縁	(22.0)	1.7~	-	石・長・雲・角	黄橙	横ナテ	横ナテ		2356
第III-581図	10	1111	S X	5953 c	2	2	甕	口縁	(25.0)	1.7~	-	石・長・雲	橙	横ナテ	横ナテ、磨滅	スス付箱	2267
第III-581図	11	1111	S X	5953 c	2	2	甕	口縁	(31.3)	4.3~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (左上)	横ナテ、ハケ目 (縦)	黒斑	2266
第III-581図	12	1111	S X	5953 c	2	2	甕	口~胴部	21.2	4.9~	-	石・長・雲・角・赤	明黄褐	横ナテ、ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ナテ	スス付箱	2318
第III-584図	1	1237	S X	5983 b	1	1	甕	口~胴部	28.0	9.0~	-	石・長・角	灰黄褐	横ナテ、ハケ目 (多方向)、沈線	ナテ		1209
第III-584図	2	1237	S X	5983 d	-	1	甕	口縁	(24.0)	1.0~	-	長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ		1202
第III-584図	3	1110	S X	5953 d	2	2	甕	口縁	(20.0)	1.8~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		2313
第III-586図	1	264	S X	6902 a	トレ	1	甕	口~頸部	(24.4)	4.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (左上)		914
第III-586図	2	264	S X	6902 a	1	1	甕	口縁	(15.2)	1.8~	-	石・長・角	明赤褐	横ナテ、ハケ目後横ナテ	ミガキ (横)	赤色顔料	911
第III-586図	3	1016	S X	6902 a	-	1	甕	口縁	(約30.0)	2.3~	-	石・長・雲・角	灰黄褐	横ナテ	横ナテ、ナテ		983
第III-586図	4	191	S X	6901 d	1	1	甕	口縁	(27.6)	2.0~	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		961
第III-586図	5	191	S X	6901 d	-	1	甕	底部	-	3.4~	9.8	石・長・雲・角・赤	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	指ナテ		946

土器棺墓出土土器観察表 1

押印 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	調査区	グリッド	出土 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大口径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図面 番号	実測 番号
第III-591図	1	230	S X	2区	6902 d	-	甕	完形	-	47.0~	5.9	32.9	石・長・雲・角・赤	明褐	横ナテ、刻み目突帯 横ナテ後ハケ目 (縦)	横ナテ、横ナテ後ハケ目 (横・縦)	口縁部は意図的に打ち欠き、 胴部に穴がある。黒斑	PL-30	98
第III-592図	1	230	S X	2区	6902 d	掘り方1層位	甕	口縁	27.0	2.2~	-	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			827
第III-592図	2	230	S X	2区	6902 d	掘り方1層位	甕	底部	-	2.7~	7.8	-	石・長・雲・角・赤	明赤褐	ナテ、横ナテ	磨滅			833
第III-592図	3	230	S X	2区	6902 d	掘り方2層位	甕	口縁	測定不能	1.7~	-	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			815
第III-592図	4	230	S X	2区	6902 c	掘り方1層位	甕	口縁	25.0	2.4~	-	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			804
第III-592図	5	230	S X	2区	6902 d	掘り方1層位	甕	口縁	測定不能	2.4~	-	-	雲・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			819
第III-592図	6	230	S X	2区	6902 d	掘り方1層位	甕	口縁~頸部	測定不能	5.7~	-	-	石・長・雲・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ、突帯	表面剥離			822
第III-594図	1	208	S X	2区	6901	1層位	甕	口縁~胴部	33.9	32.3~	-	33.9	石・長・雲・角	にぶい黄橙・灰黄	横ナテ、突帯、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	スス付箱	PL-34	247
第III-594図	2	208	S X	2区	6901	1層位	甕	底部	-	5.5~	9.1	-	-	浅黄・黒	横ナテ、ナテ後ハケ目 (左上)	横ナテ、ナテ	(一部欠損) 推定器高47.8cm	PL-34	247
第III-595図	1	208	S X	2区	6901 b	トレ	甕	口縁	(30.0)	4.3~	-	-	石・長・雲・角・赤	浅黄	横ナテ、ナテ後ハケ目 (左上)	横ナテ、ナテ			649
第III-595図	2	208	S X	2区	6901 b・c	-	甕	口縁	測定不能	2.1~	-	-	石・長・雲・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ			654
第III-595図	3	208	S X	2区	6901 b・c	-	甕	底部	-	3.6~	(7.0)	-	石・長・雲・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	磨滅			655
第III-595図	4	208	S X	2区	6901 b	-	鉢	口縁	(25.0)	1.8~	-	-	石・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			646
第III-597図	1	229	S X	2区	6902 a	-	甕	完形	-	39.8~	8.6	36.8	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (縦) 後横ナテ、指ナテ (横) 二条刻み目突帯、横ナテ後ハケ目・ナテ	横ナテ、ナテ、指頭尻痕	口縁部は意図的に打ち欠いている。 黒斑	PL-30	873
第III-598図	1	229	S X	2区	6902 b	掘り方3層位	甕	口縁	(26.0)	2.3~	-	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付箱		1055
第III-598図	2	229	S X	2区	6902 b	掘り方2層位	甕	口縁	(20.0)	2.2~	-	-	石・雲・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			1057
第III-598図	3	229	S X	2区	6902 b	掘り方2層位	甕	底部	-	2.2~	6.0	-	石・長・雲・角	明黄褐	ナテ	ナテ			1162
第III-598図	4	229	S X	2区	6902 c	掘り方1層位	甕	口縁	(18.0)	1.6~	-	-	石・長・雲・角	にぶい橙	横ナテ、刻み目文 (胴部)	横ナテ			1175
第III-598図	5	229	S X	2区	6902 b	掘り方1層位	甕	口縁	(29.6)	2.8~	-	-	石・長・雲・角	灰黄褐	横ナテ	横ナテ			1088
第III-598図	6	229	S X	2区	6902 b	掘り方1層位	甕	口縁	(23.0)	3.2~	-	-	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ	横ナテ			1043
第III-598図	7	229	S X	2区	6902 b	掘り方1層位	甕	口縁	(23.4)	1.5~	-	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			1053
第III-598図	8	229	S X	2区	6902 b	掘り方1層位	甕	底部	-	1.2~	3.3	-	石・長・角・赤	明黄褐	横ナテ	指ナテ			1051
第III-602図	1	228	S X	2区	6902 a	-	鉢	完形	31.7	24.8	9.9	30.1	石・長・雲・角	明黄褐	横ナテ、横ナテ後ハケ目 (縦)、ナテ	横ナテ、ナテ後ハケ目 (多方向)	黒斑 (合口裏側の蓋) S=1/3・1/4で磨滅	PL-30	73
第III-601図	2	228	S X	2区	6902 a	-	甕	完形	27.3	49.3	8.8	42.6	石・長・雲・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦)、ナテ、刻み目突帯	横ナテ、ハケ目 (横・縦・左上) ナテ、指ナテ		PL-30	2369
第III-602図	2	228	S X	2区	6902 a	掘り方1層位	甕	口縁	(32.0)	2.9~	-	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			732
第III-602図	3	228	S X	2区	6902 a	掘り方3層位	甕	口縁	33.2	2.7~	-	-	石・長・雲・角	橙	横ナテ	横ナテ			730

土器棺墓出土土器観察表 2

標本 番号	枝 番号	遺構 番号	遺構 種類	調査区	グリット	出土 部位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大口径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第III-602区	4	228	S X	2区	6902 a	掘り方3層	壺	口縁	(28.2)	2.0~	-	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			770
第III-602区	5	228	S X	2区	6902 a	掘り方3層	壺	口縁	28.2	7.5~	-	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			33
第III-605区 (606区)	1	289	S X	2区	5993 c	-	壺	完形	32.6	38.2	9.1	31.2	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙・にぶい黄橙	横ナテ、ナテ後ハケ目(左上)、ナテ	横ナテ、ナテ後ハケ目(多方向) 指ナテ、指頭尻痕	スス付胎 (合口壺縁の筋) S=1/3・1/4で掲載	PL-30	264
第III-605区	2	289	S X	2区	5993 c	-	壺	完形	-	56.4~	12.2	53.5	石・長・壺・角・赤	黄橙・明黄橙	ナテ後ハケ目(左上)、ナテ後ミガキ(多方向) 突帯、ミガキ(多方向)後ナテ	ナテ	黒斑、口縁部は意図的に打ち欠いている。 赤色顔料、S=1/4で掲載	PL-30	601
第III-606区	2	289	S X	2区	5993 c	掘り方4層	盃	口縁	25.2	1.5~	-	-	石・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			658
第III-606区	3	289	S X	2区	5993 c	掘り方4層	壺	口縁	(19.2)	3.0~	-	-	石・壺・角・赤	黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ			664
第III-610区	1	1129	S X	2区	5953 d	-	胸丸壺棺	完形	28.3	55.8	15.1	48.1	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙・灰黄橙	横ナテ、横ナテ後ミガキ(縦)後暗文(縦) ミガキ(横)、三条刻み目突帯	ナテ	黒斑 (底部欠損)	PL-31	1811
第III-612区	1	1150	S X	2区	5953 d	-	壺	完形	27.0	53.0~	-	39.8	石・長・壺・角・赤	赤褐・橙	ハケ目(縦・多方向)後暗文(縦・右上) 二条突帯、ミガキ(横)	ミガキ(横)、ハケ目(多方向)、ナテ	黒斑、底部は意図的に打ち欠いている。	PL-31	2021
第III-615区	1	1154	S X	2区	5953 a・b	-	胸丸壺棺	完形	26.5	63.1	8.7	45.1	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ、ミガキ(横・縦)、刻み目突帯、ナテ	横ナテ	赤色顔料、黒斑	PL-31	1050
第III-618区	1	1075	S X	2区	5953 a	-	胸丸壺棺	完形	29.8	59.8	7.5	46.5	石・長・壺・角・赤	浅黄橙・明黄橙	ナテ、ミガキ(横・縦)	ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ、横ナテ	黒斑、S=1/4で掲載	PL-31	2229
第III-619区	1	1075	S X	2区	5953 a	掘り方3層	壺	口縁	(32.0)	2.4~	-	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			2294
第III-619区	2	1075	S X	2区	5953 a	掘り方3層	壺	底部	-	2.6~	7.0	-	石・長・壺・角・赤	橙	ナテ	ナテ			2228
第III-619区	3	1075	S X	2区	5953 a	掘り方1層	壺	底部	-	4.0~	7.2	-	石・長・角	橙	ミガキ(横)、横ナテ	ハケ目(左上)			2330
第III-620区	1	1131	S X	2区	5953 a	-	胸丸壺棺	完形	31.8	70.5	8.1	52.8	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ミガキ(横・縦)、突帯、ナテ	横ナテ、ナテ、ハケ目(左上)	黒色顔料、黒斑、 S=1/4で掲載	PL-32	2298
第III-621区	1	1131	S X	2区	5953 a	掘り方2層	壺	口縁	20.0	1.7~	-	-	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			2283
第III-625区	1	1083	S X	2区	5952 5953	-	壺	完形	37.1	53.1	-	37.8	石・長・壺・角・赤	黄橙	横ナテ、突帯、ハケ目(縦・多方向)	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ 指頭尻痕、ナテ、ハケ目(横)	スス付胎 (底部欠損) S=1/4で掲載	PL-32	2365
第III-626区	1	1076	S X	2区	5953 a	掘り方1層	壺	口縁	20.2	4.5~	-	-	壺・角・赤	黄橙	横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、ナテ			2246
第III-627区	1	1076	S X	2区	5953 a 5954 b	-	胸丸壺棺	完形	32.6	72.2	8.1	51.3	石・長・壺・角・赤	明黄橙	横ナテ、ミガキ(横)、突帯 ハケ目(縦)後ミガキ(左上)、ナテ	横ナテ、ハケ目(左上・縦)後ナテ 指頭尻痕、ナテ	赤色顔料、黒色顔料、黒斑 S=1/4で掲載	PL-32	2190
第III-628区	1	1084	S X	2区	5954 c	-	壺	完形	26.1	57.6	7.1	40.4	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後暗文(縦)後横ナテ 刻み目突帯(頭部)、二条刻み目突帯 暗文(縦)後横ナテ、ミガキ(横)	横ナテ、ミガキ(横) ハケ目(多方向)後ナテ ナテ	黒斑	PL-32	1975
第III-630区	1	1108	S X	2区	5954 c	-	壺	完形	20.6	37.5	6.4	27.3	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)、突帯 ミガキ(多方向)、ナテ	横ナテ、ハケ目(多方向)、ナテ	底部に意図的に打ち欠いた穴がある。 黒斑	PL-33	1902
第III-632区	1	1081	S X	2区	5954 c	-	壺	完形	23.0	40.8	4.4	28.9	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、突帯(頭部・胸部)、ハケ目(多方向) 後暗文(縦)、ハケ目(左上)後ミガキ(横)	横ナテ、ハケ目(横・左上)			1977
第III-634区	1	1082	S X	2区	5954 c	-	壺	完形	22.0	43.9	5.7	31.7	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、暗文(縦)、横ナテ 刻み目突帯、ハケ目(左上)後横ナテ ミガキ(横)、ミガキ(横)後ナテ	横ナテ、ミガキ(横) ナテ、指頭尻痕	黒斑	PL-33	1630
第III-638区	1	1080	S X	2区	5954 c	-	壺	完形	29.9	44.0	6.2	29.4	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、突帯、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、ナテ	黒斑、黒色の煮炊き痕 (底部欠損)	PL-33	1976
第III-641区	1	1078	S X	2区	5954 c	-	壺	口縁~胸部 底部	42.5 -	62.8~ -	- 7.8	43.7	石・長・壺・角・赤	橙・黄橙	横ナテ、突帯、ナテ ハケ目(多方向)後ナテ・横ナテ	横ナテ、横ナテ後ハケ目(横)、ナテ ハケ目(左上)後ナテ	スス付胎、煮炊き痕、S=1/4で掲載 図面上で復元、推定器高68.2cm		2310
第III-643区	1	1079	S X	2区	5954	-	壺	完形	42.2	73.2	8.8	46.5	石・長・壺・角	橙	横ナテ、突帯、ハケ目(縦)後ナテ ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ ナテ	スス付胎、煮炊きによる赤変 黒斑、焦げ痕	PL-34	4811
第III-645区	1	1077	S X	2区	5954	-	壺	完形	26.0	59.1	7.4	39.7	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)、突帯(頭部)、駒状浮文 暗文(縦)、二条突帯、ミガキ(多方向)	横ナテ、指頭尻痕、ナテ	黒斑 俯視実測図(第III-646区)	PL-34	1807
第III-647区	1	1077	S X	2区	5954 a・b	掘り方1層	壺	口縁・胸部	28.6	30.0~	-	44	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、暗文(縦)、突帯(頭部)、二条突帯 ハケ目(左上)後暗文(縦)、ミガキ(横)	横ナテ、ミガキ(横) ハケ目(横・左上)後ナテ			2274
第III-649区	1	1210	S X	2区	5953 a	流れ込み	胸丸壺棺	口縁~胸部 胸部~底部	23.4 -	27.1~ 18.8~	- 9.0	40.1	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙・灰黄橙	横ナテ、ミガキ(縦)後ナテ、ミガキ(横) 刻み目突帯、ナテ、ヘラナテ(横)後ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑、一部欠損(推定器高49.8cm) 図面上で復元		1622
第III-652区	1	1238	S X	P18区	5932 b・c	-	壺	胸部~底部	-	86.8~	12.2	76.5	石・長・壺・角・赤	橙	ハケ目(縦)後ナテ、二条突帯、横ナテ、ナテ	ハケ目(縦・横)後横ナテ、ナテ	黒斑、S=1/5で掲載	PL-35	2370
第III-654区	1	1239	S X	P18区	5921 a	-	壺	完形	32.4	72.2	7.4	44.0	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、突帯(頭部・胸部2条) 暗文(縦)、ミガキ(多方向)	横ナテ、ミガキ(横)、ナテ ハケ目(縦)後ナテ	黒斑、S=1/4で掲載	PL-35	2366
第III-657区	1	04	S X	新61区	5864 b	-	壺	完形	27.7	54.4	10.1	40.8	石・長・壺・角・赤	橙・黄灰	横ナテ、横ナテ(縦)、ミガキ(横) 刻み目突帯、板ナテ後ミガキ(縦)、ナテ	指ナテ、ナテ	黒色顔料、黒斑	PL-34	2508
第III-658区	1	04	S X	新61区	5865 b	壺	口縁	(32.2)	2.8~	-	-	石・長・角	にぶい橙	横ナテ	横ナテ	黒色顔料		4824	
第III-658区	2	04	S X	新61区	5864 b	壺	口縁	(26.4)	1.7~	-	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	スス付胎		2456	
第III-658区	3	04	S X	新61区	5864 b	壺	口縁	(23.0)	1.8~	-	-	石・長・壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			2481	
第III-658区	4	04	S X	新61区	5864 b	掘り方1層	壺	口縁	(20.8)	1.9~	-	-	石・長・壺・角	明黄橙	横ナテ	横ナテ			2487
第III-658区	5	04	S X	新61区	5864 b	掘り方1層	鉢	口縁	(28.8)	1.1~	-	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(横)後ナテ	スス付胎		2466

土壇墓・木棺墓出土土器観察表

挿図番号	枝番号	遺構種類	遺構種類	調査区	グリット	出土部位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大胴径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-661図	1	1135	S X	2区	5954 a・b	1層	甕	口縁	(18.6)	4.8~	-	-	石・長・雲・角	にぶい黄楳	刻み目突帯、縦ナテ後横ナテ	横ナテ			4013
第III-661図	2	1135	S X	2区	5954 a	掘り方1層	甕	底部	-	1.6~	11.0	-	石・長・雲・角・赤	黄楳	ミガキ (横)	ナテ、指頭圧痕			2218
第III-664図	1	1136	S X	2区	5953 a	2層	甕	口縁	(26.6)	2.6~	-	-	石・長・雲・角	浅黄楳	横ナテ	横ナテ			2293
第III-664図	2	1136	S X	2区	5953 a	2層	甕	底部	-	4.2~	9.0	-	長・石・赤	横・明赤褐	ミガキ (横)、横ナテ	ミガキ (横)			2329
第III-664図	3	1136	S X	2区	5953 a	-	鉢	口縁	(23.0)	1.5~	-	-	石・長・角	浅黄楳	横ナテ	横ナテ	黒斑		2296
第III-666図	1	1153	S X	2区	5934 b	-	甕	口縁	(24.4)	2.1~	-	-	石・長・雲	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			2338
第III-670図	1	16	S X	東西水路	5984 a	底面	甕	口縁	32.2	10.2~	-	-	石・雲・角・赤	浅黄楳	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付箱		3514
第III-670図	2	16	S X	東西水路	5984 a	底面	甕	口縁	(約26.0)	2.2~	-	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			3515
第III-670図	3	16	S X	東西水路	5984 a	底面	甕	胴部	-	10.5~	-	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄楳	ハケ目 (縦) 後横ナテ、横ナテ 横ナテ、刻み目突帯、ハケ目 (縦)	ハケ目 (左上・縦)	櫛形状工具使用		3631
第III-671図	1	17	S X	東西水路	5985 b	2	甕	口縁	(約26.0)	2.0~	-	-	雲・角・赤	灰白	横ナテ	横ナテ	スス付箱		3517
第III-671図	2	17	S X	東西水路	5985 b	1	甕	口縁	(20.0)	2.5~	-	-	石・長・雲・角	浅黄楳	横ナテ	横ナテ			3522
第III-671図	3	17	S X	東西水路	5985 b	1	甕	口縁	(27.2)	1.7~	-	-	石・長・雲・角	明黄楳	横ナテ	横ナテ			3532
第III-671図	4	17	S X	東西水路	5985 b	1	甕	口縁	(約25.0)	2.3~	-	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			3516
第III-671図	6	17	S X	東西水路	5985 b	1	湯鉢	口縁	(26.4)	1.6~	-	-	石・長・雲・角	浅黄楳	横ナテ	横ナテ			3519
第III-671図	5	17	S X	東西水路	5985 b	1	甕	口縁	(約26.0)	2.5~	-	-	石・長・雲・角・赤	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			3518
第III-671図	7	17	S X	東西水路	5985 b	トレ	甕	口縁	(16.4)	2.5~	-	-	石・長・角	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			3569
第III-671図	8	17	S X	東西水路	5985 b	1	甕	口縁	(16.8)	4.3~	-	-	石・長・雲・角・赤	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)			3531
第III-671図	9	17	S X	東西水路	5985 b	1	甕	底部	-	3.3~	6.2	-	石・長・雲・角・赤	浅黄楳	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			3558

新 No.61 区出土土器観察表

挿図番号	枝番号	グリット	出土地点	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大胴径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-673図	1	5864 a・b	表土	甕	口縁	(28.8)	1.11~	-	-	石・長・雲・角	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (右上)、ナテ	黒斑		2488
第III-673図	2	5856 b・c・d	表土	甕	口縁	(31.8)	1.12~	-	-	石・長・雲・角	黄楳	横ナテ	横ナテ	黒斑		2455
第III-673図	3	5855 b	表土	甕	口縁	(25.2)	1.13~	-	-	石・長・雲・角	横	横ナテ	横ナテ			2476
第III-673図	4	5866 c	掘乱	甕	口縁	33.4	1.14~	-	-	石・長・雲・角・赤	横	横ナテ、突帯	横ナテ			2453
第III-673図	5	一括	トレンチ	甕	口縁	(27.0)	1.15~	-	-	石・長・雲・角・赤	横	横ナテ	横ナテ、ナテ	スス付箱		2454
第III-673図	6	5865 a	落ち込み	甕	底部	-	1.16~	6.2	-	石・長・雲・角・赤	横	ハケ目 (縦)、横ナテ	横ナテ、ナテ			2457
第III-673図	7	5856 c	掘乱	甕	口縁	(14.8)	1.17~	-	-	長・雲・角・赤	にぶい黄楳	横ナテ、頭文 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)			2500
第III-673図	8	5858 b	表土	甕	口縁	(17.8)	1.18~	-	-	長・雲・角・赤	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			2472
第III-673図	9	5856 b・c・d	表土	甕	口縁	(17.9)	1.19~	-	-	長・雲・角・赤	外黒・にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ	黒斑		2486
第III-673図	10	一括	トレンチ	厚頸甕	口縁	(17.1)	1.2~	-	-	長・雲・角・赤	にぶい黄楳	横ナテ、ハケ目 (右上)、ナテ	横ナテ、ナテ			2491
第III-673図	11	5866 a・b	表土	甕	胴~胴部	(17.1)	1.21~	-	-	石・長・雲・角	明赤褐・横	ナテ、突帯、ミガキ (横)	ミガキ (横)、ナテ			2497

2区遺物包含層・撈乱出土弥生土器観察表

挿図番号	枝番号	グリット	部位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大胴径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-691図	1	6911 b	包舎層	甕	口縁	23.2	1.5~	-	-	長・石・角	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			403
第III-691図	2	5954 b	包舎層	甕	口縁	27.0	9.7~	-	-	長・石・角・雲・赤	横	ハケ目 (左上・横) 指頭圧痕	ハケ目 (横・左上)			2221
第III-691図	3	5954 c	包舎層	鉢	底形	10.7	7.8	-	11.7	長・角・雲・赤	横	横ナテ、ナテ、押さえ痕	横ナテ、ナテ			2223
第III-691図	4	5952 d	包舎層	甕	底形	13.6	11.45~	-	14.7	長・石・角・雲	横	ナテ、横ナテ、ハケ目 (右上)	ナテ、しぼり後指頭圧痕	黒斑	PL-36	23
第III-691図	5	5993 a	掘水、包舎層	甕	底形	19.9	23.2~	欠損	23.9	長・石・角・赤	横	横ナテ、突帯 (頸部・胴部)、ハケ目 (縦)、ミガキ痕	横ナテ、指頭圧痕、ナテ		PL-36	786
第III-691図	6	5942 d・5943 c	掘水、包舎層	甕	底形	15.0	35.3	4.3	23.2	長・石・角・赤	にぶい黄楳・にぶい黄楳	横ナテ、ハケ目 (横・縦) 後ナテ	横ナテ、ハケ目 (右上) 後ナテ	黒斑	PL-36	4028

東西水路調査区遺物包含層・撈乱出土土器観察表

挿図番号	枝番号	地区名	出土部位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大胴径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	図版番号	実測番号
第III-692図	1	E区	包舎層	甕	口縁	28.4	2.0~	-	-	長・雲・角・赤	にぶい黄楳	横ナテ	横ナテ			3615
第III-692図	2	E区	包舎層	甕	口縁	22.2	4.4~	-	-	石・長・雲・角	黄楳	横ナテ、洗線	横ナテ			3614
第III-692図	3	E区	包舎層	鉢	口縁	(23.0)	3.4~	-	-	長・雲・角・赤	赤楳	横ナテ	横ナテ			3613
第III-692図	4	E区	包舎層	甕	口縁	(18.6)	2.4~	-	-	雲・角・赤	横	横ナテ	横ナテ			3612
第III-692図	5	E区	包舎層	甕	底部	-	2.8~	6.6	-	長・雲・角	黄楳	ナテ、ハケ目 (多方向)	ナテ	黒斑		3577
第III-693図	1	B区	掘乱	甕	口縁~胴部	(26.0)	7.2~	-	-	石・雲・角・赤	赤褐	横ナテ、突帯、ナテ後頭文 (縦)	横ナテ後頭文 (放射線)、ナテ	赤色顔料		3574

1・4区出土弥生土器観察表 1

挿入番号	枝番号	グリット	分割地区	出土地点	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	型式記号	実測番号
第III-714 回	1	6807c	イ	耕作溝	壺	口縁	28.0	3.6~	-	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	スス付筋	Y-4	5066
第III-714 回	2	6807c	イ	耕作溝	壺	口縁	23.6	1.8~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、指頭圧痕、ヘラナテ、指ナテ後横ナテ	ヘラナテ (縦)、ハケ目 (左上)、指ナテ後横ナテ			5076
第III-714 回	3	5697c	イ	耕作溝	壺	口縁	(27.6)	4.0~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5042
第III-714 回	4	6807d	イ	耕作溝	壺	口縁~胴部	16.6	5.9~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ハケ目 (横) 後横ナテ、ハケ目 (左上)	スス付筋	Y-13	5077
第III-714 回	5	6807c	イ	耕作溝	壺 (穿孔)	口縁	20.6	1.9~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		Y-22	5074
第III-714 回	6	6806d	イ	耕作溝	壺	底部	-	3.0~	9.2	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ (横)	ミガキ (横) 後ナテ			5078
第III-715 回	1	6826a	口	攪乱	壺	口縁	(18.4)	1.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、刻み目文 (端部)	横ナテ			5088
第III-715 回	2	6826a	口	包1層	壺	口縁	(31.6)	1.9~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			5129
第III-715 回	3	6816d	口	攪乱	壺	口縁	(28.0)	3.7~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目 (右上) 後横ナテ、ハケ目 (横)	ハケ目 (多方向)			5073
第III-715 回	4	6816b	口	耕作溝	壺	胴部	-	5.1~	-	壺・角	明黄褐	ハケ目 (縦)、櫛描直線文、櫛描波状文、ナテ	ハケ目 (右上・横)			5101
第III-715 回	5	6826a	口	耕作溝	壺	底部	-	4.25~	8.0	石・長・壺・角	明褐・黄灰	ハケ目 (多方向)、ナテ	ナテ		Y-25	5084
第III-716 回	1	E3	二	耕作溝	壺	口縁	(22.8)	4.2~	-	石・長・角	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ			5067
第III-716 回	2	E1	二	耕作溝	壺	底部	-	4.8~	7.8	石・長・角	橙	ハケ目 (縦)、横ナテ	横ナテ、ナテ	黒斑	Y-18	5069
第III-716 回	3	A3	二	耕作溝	壺	口縁	(22.4)	2.8~	-	長・壺・角・赤	黄橙	横ナテ	横ナテ			5098
第III-716 回	4	A2	二	耕作溝	壺	口縁	22.6	3.1~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ、暗文 (縦)	横ナテ、ミガキ (横)		Y-24	5145
第III-716 回	5	A2	二	耕作溝	壺	口縁	(25.0)	4.0~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ミガキ痕			5081
第III-716 回	6	C4 (J2・I2)	二	耕作溝	高坏	坏部	26.0	6.5~	-	石・長・壺	橙	横ナテ、横ナテ後暗文 (横)	横ナテ、ミガキ (横)	同一個体あり		5034
第III-716 回	7	A2	二	耕作溝	高坏	脚部	-	3.2~	(13.8)	長・角・赤	にぶい黄橙・橙	ミガキ (横)、横ナテ	ハケ目 (左上)、横ナテ			5146
第III-717 回	1	G2	ホ	攪乱	壺	口縁	(16.0)	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5049
第III-717 回	2	L3	ホ	耕作溝	壺	口縁	(23.8)	3.5~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄	横ナテ後ハケ目 (左上)、指頭圧痕	横ナテ			5160
第III-717 回	3	M2	ホ	包2層	壺	底部	-	6.8~	6.6	石・長・壺・角・赤	橙・褐灰	ハケ目 (縦)、横ナテ	横ナテ、ナテ		Y-12	5096
第III-717 回	4	G4	ホ	耕作溝	壺	口縁	(20.4)	4.3~	-	長・石・壺・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	ハケ目 (横) 後ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ		Y-21	5090
第III-717 回	5	G2・3	ホ	包3層	壺	口縁	15.0	2.2~	-	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ			5108
第III-717 回	6	L3	ホ	耕作溝	壺	胴部	-	9.3~	-	長・壺・角	橙	櫛描直線文 (横・縦)、櫛描波状文 (縦)、横ナテ	横ナテ	赤色顔料		5099
第III-717 回	7	G3	ホ	耕作溝	壺	底部	-	4.4~	6.2	石・長・壺・角・赤	橙・にぶい黄橙	ハケ目 (縦)	ハケ目 (多方向)、横ナテ、指頭圧痕			5083
第III-717 回	8	G4・H1	ホ	耕作溝	高坏	脚部	-	6.7~	14.6	石・長・角	にぶい黄	ハケ目 (縦)、横ナテ	ナテ、ハケ目 (横)			5027
第III-717 回	9	G3	ホ	耕作溝	高坏	脚部	-	2.3~	(16.4)	石・長・壺・角・赤	橙	ミガキ (横)、横ナテ	横ナテ			5086
第III-718 回	1	J3	へ	耕作溝	壺	口縁	(26.6)	4.7~	-	石・長・壺・角・赤	明黄褐	刻み目文、横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		Y-14	5035
第III-718 回	2	K2	へ	耕作溝	壺	口縁	17.2	4.3~	-	長・壺・角・赤	黄褐・橙	横ナテ、沈線	横ナテ、指頭圧痕			5030
第III-718 回	3	I1	へ	耕作溝	壺	口縁	18.5	2.8~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	スス付筋	Y-32	5142
第III-718 回	4	J3	へ	包3層	壺	口縁	25.4	6.2~	-	石・長・壺・角・赤	黒褐	横ナテ、沈線	横ナテ、指頭圧痕、ハケ目 (横)			5163
第III-718 回	5	J2	へ	耕作溝	壺	口縁	20.8	2.7~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		Y-6	5112
第III-718 回	6	I3	へ	耕作溝	壺	口縁	(20.8)	2.2~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			5126
第III-718 回	7	K	へ	包	壺	口縁	31.4	5.1~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ			5117
第III-718 回	8	K2	へ	耕作溝	壺	口縁	(32.2)	3.2~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ			5118
第III-718 回	9	H2	へ	耕作溝	壺	口縁	(18.6)	2.5~	-	長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5125
第III-718 回	10	K1	へ	包3層	壺	口縁	(25.8)	3.6~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	スス付筋		5043
第III-718 回	11	H1	へ	耕作溝	壺	口縁	24.0	3.6~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、ハケ目 (右上)、ハケ目 (横)			5033
第III-718 回	12	K1	へ	耕作溝	壺	口縁	(約90.0以上)	3.3~	-	長・壺	にぶい黄橙	刻み目文 (櫛形)、横ナテ	横ナテ			5031
第III-718 回	13	J2	へ	耕作溝	壺	口縁	33.0	3.1~	-	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目 (多方向) 後ナテ			5140
第III-718 回	14	H1・4	へ	耕作溝	壺	胴部	-	4.7~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、刻み目突帯、突帯	ハケ目 (左上) ナテ			5175
第III-718 回	15	K	へ	包	壺	底部	-	4.8~	5.7	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ハケ目 (縦)、ナテ	ナテ	スス付筋		5107
第III-719 回	1	I1	へ	包3層	鉢	口縁	(29.4)	2.2~	-	石・長・壺・角	黄橙	横ナテ	横ナテ			5128
第III-719 回	2	H1	へ	耕作溝	鉢	口縁	(16.4)	4.2~	-	長・壺・角	明黄褐・明褐	横ナテ、ハケ目 (多方向) 後ナテ	ハケ目 (多方向)			5124
第III-719 回	3	K4	へ	耕作溝	鉢	口縁	30.6	7.9~	-	石・長・壺・角	明赤褐	横ナテ、ハケ目 (縦)、二条突帯	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ			5123
第III-719 回	4	J4	へ	包3層	壺	口縁	18.0	4.2~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後暗文 (縦)	横ナテ、ハケ目 (横) 後暗文 (縦)、ミガキ (横)			5133
第III-719 回	5	I1	へ	包3層	壺	口縁	25.6	3.5~	-	石・長・角	橙	横ナテ、ハケ目 (左上)	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ			5111
第III-719 回	6	I1	へ	耕作溝	壺	口縁	(36.2)	3.1~	-	長・石・赤	橙	横ナテ	横ナテ、ナテ			5167
第III-719 回	7	J2	へ	耕作溝	壺	口縁	(30.8)	4.2~	-	壺・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ			5139
第III-719 回	8	H2	へ	耕作溝	壺	口縁	(15.4)	4.9~	-	石・長・角	にぶい黄橙・橙	ナテ	ナテ	黒斑		5038
第III-719 回	9	J3	へ	包3層	壺	口縁	(33.2)	2.5~	-	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑		5106
第III-719 回	10	J2	へ	耕作溝	壺	口縁	29.4	6.0~	-	石・長・角・赤	明黄褐	横ナテ、ハケ目 (縦)、突帯	横ナテ、ハケ目 (横) 後ナテ			5131
第III-719 回	11	J3	へ	包3層	壺	口縁	(20.6)	1.7~	-	長・壺・角・赤	にぶい黄褐	横ナテ	暗文 (縦)、横ナテ		Y-27	5104
第III-719 回	12	H4	へ	包3層	壺	口縁	(12.8)	3.1~	-	長・石・赤	赤褐	横ナテ、ハケ目 (左上) 後横ナテ	横ナテ			5057
第III-719 回	13	K2	へ	耕作溝	無頸壺	口縁	測定不能	5.3~	-	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ		Y-28	5164
第III-719 回	14	I3	へ	耕作溝	壺	胴部	-	5.0~	-	石・長・壺・角・赤	黄褐・にぶい黄橙	横ナテ、刻み目突帯、刻み目鉤状浮文 横ナテ後暗文 (縦)	ナテ、指頭圧痕			5121

1・4区出土弥生土器観察表2

検出番号	枝	グリット	分割	出土	器種	部位	口径	器高	底径	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	型式	実測
番号			地区	地点			(cm)	(cm)	(cm)						記号	番号
第III-719図	15	H1	ハ	耕作溝	壺	胴部	—	5.0~	—	石・長・壺・角・赤	明赤褐・黒褐	直弧文、ミガキ(横)	ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	最大胴径(約20.0cm)		5114
第III-719図	16	H1	ハ	包3層	壺	底部	—	4.3~	12.6	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目(縦)、ナテ	ナテ	黒斑		5169
第III-719図	17	K	ハ	包	壺	底部	—	3.4~	8.6	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	磨滅	磨滅			5138
第III-719図	18	J3	ハ	包3層	壺	底部	—	1.7~	8.6	石・長・壺・角・赤	赤・橙	ナテ	ナテ			5130
第III-719図	19	K2	ハ	耕作溝	壺	底部	—	4.1~	7.8	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	ミガキ(多方向)	指頭圧痕、ナテ	Y-30		5119
第III-719図	20	K4	ハ	耕作溝	高坏	口縁	26.0	3.8~	—	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(多方向)後ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			5024
第III-719図	21	H1	ハ	耕作溝	高坏	坏部	(24.6)	1.0~	—	石・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	ミガキ(横)			5137
第III-719図	22	K2	ハ	耕作溝	高坏	脚部	—	5.1~	—	石・長・壺・角	明赤褐	ミガキ(縦)	ナテ			5132
第III-719図	23	J2	ハ	耕作溝	高坏	脚部	—	4.0~	15.0	長・壺・角・赤	橙	ミガキ(縦・横)	横ナテ			5045
第III-720図	1	P3	ト	包3層	壺	口縁	28.8	7.2~	—	石・長・壺・角	黒・黒灰	横ナテ、沈線、ハケ目(縦)	横ナテ、ナテ	Y-2		5028
第III-720図	2	P2	ト	耕作溝	壺	口縁	(30.0)	2.1~	—	石・長・壺・角	黄橙	横ナテ	横ナテ			5022
第III-720図	3	Q1	ト	包	壺	口縁	(33.4)	6.3~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ	Y-10		5041
第III-720図	4	Q1	ト	耕作溝	壺	口縁	(40.0)	7.2~	—	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、突帯、ナテ	横ナテ、ナテ	Y-17		5122
第III-720図	5	K4	ト	耕作溝	壺	口縁~胴部	29.5	8.1~	—	石・長・壺・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	指頭圧痕、横ナテ	黒斑		5002
第III-720図	6	K4	ト	耕作溝	壺	口縁	(21.8)	2.4~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(左上)後横ナテ	横ナテ、ハケ目(右上)、ナテ			5091
第III-720図	7	P2	ト	耕作溝	壺	底部	—	4.5~	5.8	石・長・角	橙	横ナテ、ナテ、ハケ目(縦)	磨滅	スス付		5150
第III-720図	8	P1	ト	耕作溝	壺(穿孔)	口縁	19.4	3.5~	—	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			5153
第III-720図	9	P1	ト	耕作溝	壺(穿孔)	口縁	19.6	1.3~	—	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	ナテ	ナテ			5171
第III-720図	10	Q2	ト	包3層	壺	口縁	(22.4)	4.0~	—	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ、横ナテ後弧文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)			5159
第III-720図	11	P2	ト	包3層	壺	口縁	(30.2)	1.7~	—	石・長・角	橙	横ナテ、横ナテ後弧文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)			5151
第III-720図	12	Q	ト	包	壺	口縁	17.6	5.2~	—	石・長・角	明赤褐	横ナテ、弧文(縦)、ミガキ(横)	ミガキ(横)			5149
第III-720図	13	K4	ト	耕作溝	壺	口縁	(23.4)	2.5~	—	長・壺・角	灰黄褐・にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ	黒斑		5127
第III-720図	14	K1・2、P1	ト	耕作溝	壺	胴部	—	10.8~	—	長・壺・角・赤	橙	弧文(縦)、ハケ目(左上)後ナテ、横ナテ 刻み目突帯、ミガキ(横)	ナテ、指頭圧痕	黒斑、最大胴径(30.0cm)		5109
第III-720図	15	P2	ト	耕作溝	壺	底部	—	6.5~	11.8	石・長・壺・角・赤	にぶい橙・明黄褐	ミガキ(横・縦・多方向)、ナテ	ナテ			5166
第III-720図	16	P2	ト	耕作溝	壺	底部	—	3.2~	8.4	石・長・壺・角	黒	ハケ目(縦)後ナテ	ナテ			5134
第III-720図	17	K1	ト	耕作溝	高坏	坏部	25.0	7.3~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(多方向)	ミガキ(横)、ナテ	黒斑		5052
第III-720図	18	P3	ト	耕作溝	高坏	脚部	—	2.6~	16.8	長・壺・角・赤	橙	ミガキ(横)、横ナテ	ミガキ(横)、指頭圧痕			5179
第III-721図	1	O2	チ	包	壺	胴部	—	7.9~	—	長・石・壺・角	にぶい赤褐・にぶい黄橙	工具によるナテ、突帯	横ナテ			5029
第III-721図	2	N	チ	包	壺	口縁	17.6	5.0~	—	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、突帯	横ナテ			5025
第III-721図	3	O1・4	チ	耕作溝	壺	口縁	(22.2)	2.6~	—	長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ			5144
第III-721図	4	O1	チ	耕作溝	壺	口縁	(28.0)	4.0~	—	石・長・壺・角	にぶい黄橙	ミガキ(多方向)、ハケ目(横)、ハケ目(縦)	ミガキ(横)	赤色顔料		5170
第III-721図	5	2	チ	包	壺	口縁	16.4	2.2~	—	石・長・壺・角・赤	橙	刻み目文、横ナテ	横ナテ、刻み目文			5165
第III-721図	6	R1・4	チ	トレ	壺	胴部	—	4.0~	—	長・壺・角・赤	橙・灰褐	横ナテ、ナテ、刻み目突帯、刻み目様浮文	横ナテ、ナテ			5143
第III-721図	7	R	チ	耕作溝	壺	底部	—	1.6~	7.4	石・長・壺・角	橙・にぶい黄橙	ハケ目(縦)、横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			5172
第III-722図	1	6826a	用水路	扱水	壺	口縁	(40.4)	2.9~	—	石・長・角	黒褐・浅黄橙	横ナテ	横ナテ			5039
第III-722図	2	6806d	用水路	扱水	壺	口縁	(34.0以上)	7.0~	—	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			5053
第III-722図	3	B	用水路	扱水	壺	口縁	40.2	5.8~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、突帯	横ナテ			5005
第III-722図	4	6806d	用水路	扱水	壺	口縁	42.4	2.5~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5070
第III-722図	5	K1	用水路	扱水	壺	口縁	32.4	5.2~	—	石・壺・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)の横ナテ	横ナテ	黒斑		5001
第III-722図	6	6807d	用水路	扱水	壺	口縁	44.0	4.4~	—	石・長・壺・角	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ	Y-3		5047
第III-722図	7	O3・4	用水路	扱水	壺	口縁	35.8	5.5~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ、突帯	横ナテ、ハケ目(横)			5161
第III-722図	8	O3・4	用水路	扱水	壺	口縁	(30.2)	4.9~	—	石・長・壺・角	橙	ハケ目(縦)後横ナテ、刻み目文(端部)	横ナテ、指頭圧痕、ハケ目(多方向)、ナテ	スス付		5174
第III-722図	9	O2	用水路	扱水	壺	口縁	30.2	4.3~	—	壺・角・赤	明黄褐	横ナテ、刻み目文	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ			5135
第III-722図	10	L1	用水路	扱水	壺	口縁	14.6	3.9~	—	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(左上)	横ナテ	スス付		5036
第III-723図	1	6806d	用水路	扱水	壺	口縁~胴部	27.6	5.0~	—	石・長・壺・角・赤	明赤褐	横ナテ、突帯	横ナテ、ナテ			5032
第III-723図	2	R2・3	用水路	扱水	壺	口縁	18.2	1.65~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5156
第III-723図	3	6826a	用水路	扱水	壺	口縁	(32.3)	1.5~	—	石・長・壺・角・赤	橙	磨滅、横ナテ	磨滅、横ナテ	Y-15		5120
第III-723図	4	6827b	用水路	扱水	壺	口縁	(28.0)	1.8~	—	石・長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			5044
第III-723図	5	O3・4	用水路	扱水	壺	口縁~胴部	23.0	5.0~	—	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)、沈線	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ			5037
第III-723図	6	O2・3	用水路	扱水	壺	口縁~胴部	28.4	8.8~	—	石・長・壺・角	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	Y-5		5048
第III-723図	7	6817b	用水路	扱水	壺	口縁~胴部	(25.7)	4.8~	—	石・長・壺・角	にぶい橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ			5115
第III-723図	8	O3・4	用水路	扱水	壺	口縁~胴部	27.8	4.6~	—	石・長・壺・角	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ	Y-9		5141
第III-723図	9	6807c	用水路	扱水	壺	口縁	(27.0)	3.3~	—	長・壺・角・赤	にぶい橙	横ナテ	横ナテ			5064
第III-723図	10	6827	用水路	扱水	壺	口縁	(28.6)	2.5~	—	石・長・壺・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	スス付		5102
第III-723図	11	L1	用水路	扱水	壺	口縁	(22.6)	3.0~	—	石・長・壺・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			5095

1・4区出土弥生土器観察表 3

挿入番号	枝番号	グリット	分前地区	出土地点	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	型式記号	実測番号
第III-723回	12	6807c	用水路	掘水	壺	口縁~胴部	25.6	6.4~	-	長・黄・角・赤	橙	横ナテ、ナテ、沈線	横ナテ、ナテ	スス付刃	Y-11	5054
第III-723回	13	A3	用水路	掘水	壺	口縁~胴部	29.6	7.6~	-	石・長・黄・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、ハケ目 (横)、ハケ目 (多方向)、指頭圧痕			5026
第III-723回	14	5896a	用水路	掘水	壺	口縁	(27.2)	2.8~	-	石・長・黄・角	橙	横ナテ	横ナテ			5062
第III-723回	15	6806c	用水路	掘水	壺	口縁	(25.0)	1.95~	-	石・黄・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5147
第III-723回	16	J4・8・D	用水路	掘水	壺	口縁~胴部	23.5	11.2~	-	石・長・黄・角・赤	にぶい黄橙・にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、ハケ目 (多方向)	スス付刃		5009
第III-723回	17	6827b	用水路	掘水	壺	口縁~頸部	22.2	6.2~	-	石・長・黄・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	ハケ目 (横) 後横ナテ、横ナテ			5023
第III-723回	18	O3・4	用水路	掘水	壺	口縁~頸部	17.0	3.8~	-	石・長・黄・角	にぶい黄橙	ハケ目 (縦)、ナテ	ナテ			5154
第III-723回	19	O2・3	用水路	掘水	壺	口縁~頸部	(20.2)	3.45~	-	長・黄・角・赤	明赤橙	横ナテ、ハケ目 (右上)	横ナテ、ハケ目 (左上)			5157
第III-723回	20	6807c	用水路	掘水	壺	口縁~頸部	(18.4)	5.6~	-	石・長・黄・角	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、ハケ目 (左上) 後ナテ	スス付刃		5021
第III-723回	21	E2	用水路	掘水	壺	底部	-	4.8~	(7.0)	石・長・角	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、ナテ	肩減			5092
第III-723回	22	O3・4	用水路	掘水	壺	底部	-	4.2~	8.4	石・長・黄・角・赤	橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ、ナテ	肩減			5056
第III-723回	23	O3・4	用水路	掘水	壺	底部	-	5.4~	5.8	石・長・黄・角	にぶい黄橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	ナテ		Y-19	5155
第III-723回	24	6807c	用水路	掘水	壺	底部	-	2.4~	8.3	石・黄・赤	にぶい橙	ハケ目 (縦) 後ナテ、横ナテ	肩減	砂付刃		5071
第III-724回	1		用水路	掘水	壺	胴部	-	16.5~	-	石・長・黄・角	橙・にぶい黄橙	ハケ目 (左上・縦)、突帯、横ナテ、刻み目突帯	ハケ目 (左上・横)	スス付刃、最大胴径 (54.0cm)		5051
第III-724回	2	J1	用水路	掘水	瀬丸壺	胴部	-	6.7~	-	石・長・黄・角・赤	赤橙・にぶい黄橙	ミガキ (縦)、沈線	ハケ目 (左上)、圧痕			5097
第III-724回	3	L1	用水路	掘水	壺	胴部	-	3.6~	-	石・長・角	にぶい黄橙	横ナテ、刻み目突帯	肩減	黒斑		5094
第III-724回	4	M2	用水路	掘水	鉢	口縁	(31.8)	1.1~	-	長・黄・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5105
第III-724回	5	O3・4	用水路	掘水	鉢	口縁	(28.8)	3.8~	-	石・長・黄・角・赤	にぶい橙	ナテ	横ナテ、ナテ			5020
第III-724回	6	6806c	用水路	掘水	壺 (穿孔)	口縁~胴部	21.0	7.0~	-	長・黄・角・赤	にぶい赤橙	横ナテ、ミガキ (横)	横ナテ、指頭圧痕、ハケ目 (左上) 後横ナテ			5058
第III-724回	7	I	用水路	掘水	壺 (穿孔)	口縁~胴部	17.2	4.7~	-	長・黄・角・赤	にぶい赤橙・にぶい橙	横ナテ、ミガキ (横)	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ			5004
第III-724回	8	6826a	用水路	掘水	壺	口縁	15.8	2.1~	-	石・長・黄・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ (横) 後ナテ	横ナテ			5093
第III-724回	9	K1	用水路	掘水	壺 (穿孔)	口縁~胴部	15.8	13.2~	-	石・長・角・赤	明赤橙・にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ	黒斑		5006
第III-724回	10	L1	用水路	掘水	壺	口縁~頸部	20.4	7.8~	-	石・長・角	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、指頭圧痕、ナテ		Y-23	5113
第III-724回	11	O3・4	用水路	掘水	壺	口縁	18.2	3.9~	-	石・長・黄・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			5173
第III-724回	12	6806d	用水路	掘水	壺	口縁	15.6	4.6~	-	石・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横ナテ	横ナテ			5089
第III-724回	13	O3・4	用水路	掘水	壺	口縁	(25.4)	6.5~	-	石・長・角・赤	明黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ	黒斑		5178
第III-724回	14	5986a	用水路	掘水	壺	口縁	(30.0)	2.3~	-	長・黄・角・赤	橙	ナテ、刻み目文 (網部)	ナテ			5103
第III-724回	15	6806c	用水路	掘水	壺	口縁	(16.8)	1.8~	-	長・黄・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			5059
第III-724回	16	F3	用水路	掘水	壺	口縁	(16.8)	3.1~	-	石・長・黄・角・赤	橙	刻み目文、横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ			5080
第III-724回	17	O3・4	用水路	掘水	壺	口縁	17.2	4.0~	-	石・長・黄・角	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (多方向)、指頭圧痕刻み目文 (網部)	横ナテ			5176
第III-724回	18	O3・4	用水路	掘水	壺	口縁	(27.8)	4.3~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ (横)	横ナテ			5152
第III-725回	1	F3	用水路	掘水	壺	口縁	(25.2)	1.7~	-	石・長・黄・角	橙	刻み目ハケ、横ナテ	横ナテ			5116
第III-725回	2	6806c	用水路	掘水	壺	口縁	(24.6)	2.6~	-	長・黄・角・赤	橙	横ナテ、粘土を貼り付けてみかいている	刻み目文、横ナテ			5079
第III-725回	3	B	用水路	掘水	壺	口縁	19.0	4.9~	-	石・長・黄・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後横文 (縦)、突帯	横ナテ、ハケ目 (横)			5003
第III-725回	4	6817	用水路	掘水	壺	口縁	22.8	6.3~	-	石・長・角	浅黄橙	横ナテ、陶文 (縦)、ナテ	ミガキ (横)		Y-26	5068
第III-725回	5	6817b・C	用水路	掘水	壺	口縁	(27.0)	3.2~	-	長・黄・角	赤・黒	横ナテ、ミガキ (横)	横ナテ	スス付刃		5019
第III-725回	6	6807	用水路	掘水	壺	口縁	(19.7)	2.7~	-	長・黄・角・赤	橙	肩減	横ナテ、ミガキ痕	白川流域型		5065
第III-725回	7	6806d	用水路	掘水	壺	口縁	23.0	3.8~	-	黄・角・赤	にぶい黄橙	ハケ目状工具による刻み目文、横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ			5100
第III-725回	8	C1	用水路	掘水	複合口縁壺	口縁	(15.4)	3.3~	-	石・長・黄・角	にぶい黄橙	横ナテ	横ナテ			5087
第III-725回	9	6806c	用水路	掘水	複合口縁壺	口縁	測定不能	4.3~	-	長・黄・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ハケ目 (横) 痕			5061
第III-725回	10	6827b	用水路	掘水	壺	胴部	-	10.1~	-	石・長・黄・角	明赤橙	ミガキ (横) 後沈線、突帯、横ナテ	ハケ目 (左上) 後ナテ、横ナテ	最大胴径37.0cm		5050
第III-725回	11	6817b	用水路	掘水	壺	胴部	-	3.4~	-	石・長・黄・角	橙・にぶい橙	横ナテ、沈線	ナテ			5075
第III-725回	12	P3・E	用水路	掘水	無頸壺	口縁	10.0	11.0~	-	石・長・黄・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ	黒斑		5007
第III-725回	13	O2	用水路	掘水	無頸壺	口縁	12.8	5.4~	-	石・長・黄・角・赤	にぶい橙	横ナテ、ハケ目 (多方向)	横ナテ、ハケ目 (右上) 後横ナテ、ハケ目 (多方向)			5168
第III-725回	14	L1	用水路	掘水	無頸壺	口縁	(21.8)	3.6~	-	石・長・黄・角	橙・灰	横ナテ	横ナテ			5148
第III-725回	15	5896d	用水路	掘水	壺	底部	-	5.3~	5.4	石・長・黄・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ (多方向) 後ナテ、ナテ	ナテ、ミガキ (横)、指頭圧痕	黒斑、最大胴径11.6cm		5072
第III-725回	16	6806d	用水路	掘水	壺	底部	-	4.3~	10.6	石・長・黄・角・赤	にぶい橙・黒	ハケ目 (縦)、ナテ	ハケ目 (縦)、横ナテ			5082
第III-725回	17	6807d	用水路	掘水	壺	底部	-	5.0~	7.8	長・黄・角・赤	にぶい黄橙・にぶい黄橙	ミガキ (多方向)	ナテ	黒斑	Y-29	5060
第III-725回	18	5896a	用水路	掘水	壺	底部	-	2.7~	5.6	石・長・黄・角・赤	にぶい赤橙・にぶい黄橙	ナテ	ナテ			5055
第III-726回	1	K1	用水路	掘水	ジョッキ型土器	把手	-	2.5~	-	長・黄・角・赤	にぶい橙	ハケ目 (横) ナテ、横ナテ	指押さえ痕	兔田式土器	Y-7	5177
第III-726回	2	5896a	用水路	掘水	器台	脚部	-	3.7~	15.0	石・長・黄・角	赤橙	ハケ目 (縦)、ナテ	ハケ目 (横) 後ナテ			5063
第III-726回	3	6817b・c	用水路	掘水	高坏	坏部	24.8	2.8~	-	長・黄・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ (横)、陶文 (縦)	横ナテ			5136
第III-726回	4	6817b・c	用水路	掘水	高坏	口縁	(36.0)	1.8~	-	石・長・黄・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			5110
第III-726回	5	D3・4	用水路	掘水	高坏	坏部	27.0	3.0~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ミガキ (横)	ミガキ (右上)、横ナテ			5046
第III-726回	6	O3・4	用水路	掘水	高坏	脚部	-	7.2~	15.4	石・長・黄・角・赤	赤橙	肩減	肩減			5162
第III-726回	7	B	用水路	掘水	高坏	脚部	-	3.0~	13.0	黄・角・赤	にぶい黄橙	ミガキ (縦)、横ナテ	横ナテ			5008

平安時代遺構出土土器観察表

押図番号	枝番号	遺構番号 グリット	土器種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	図版 番号	実測 番号
第III-733回	1	198S I	土師器	1・2	2	坏	底部	13.1	4.7	8.9	長・角・赤	褐色・にぶい橙・灰黄	回転ナテ、ヘラナテ、ナテ	回転ナテ、ナテ	赤焼け、回転台使用、粘土細積み上げ痕(最大胴径13.6cm)	PL-37	15
第III-733回	2	198S I	土師器	2	2	坏	底部	-	1.1~	7.6	石・長・角・赤	赤褐	横ナテ、暗文(内周方向)	横ナテ、暗文(内周方向)	赤色顔料、スズ付痕、回転台使用		540
第III-733回	3	198S I	土師器	2	2	皿	底部	16.6	1.7	13.0	石・長・角・赤	橙	横ナテ、粘土細積み上げ痕	横ナテ、粘土細積み上げ痕	一部欠損(最大胴径16.8cm)	PL-37	4023
第III-733回	4	198S I	土師器	2・1	2	皿	底部	1.2	1.7	13.6	長・角・赤	明赤褐	回転ナテ、粘土細積み上げ痕	回転ナテ、粘土細積み上げ痕	赤色顔料、一部欠損、類似土器2・1煎		315
第III-733回	5	198S I	土師器	2	2	坏	底部	-	-	-	長・角・赤	橙	暗文(渦巻状)、島目	暗文(渦巻状)	(島目土器)	PL-37	4036
第III-733回	6	198S I	土師器	1	1	壺(瓶子)	口縁	8.2	2.1~	-	長・角・赤	灰黄	回転ナテ	回転ナテ			423
第III-733回	7	198S I	土師器	1	1	壺	胴部	-	5.3~	-	長・角	暗灰黄	横ナテ、格子タタキ目後横ナテ	横ナテ、円窓タタキ目後横ナテ	拓本貼付		524
第III-733回	8	198S I	土師器	1	1	坏	口縁	16.0	2.6~	-	長・角・赤	明赤褐	横ナテ、暗文(横)	横ナテ、暗文(横)	全赤色顔料		505
第III-733回	9	198S I	土師器	1	1	坏	口縁~胴部	12.0	2.8~	-	長・石・角・赤	橙	横ナテ、暗文(横)	横ナテ、暗文(横)	赤色顔料		506
第III-733回	10	198S I	土師器	1	1	坏	底部	-	2.1~	7.0	長・石・角・赤	明赤褐	暗文(内周方向)、ヘラケズリ後暗文(横)	暗文(内周方向)	赤色顔料		483
第III-733回	11	198S I	土師器	1	1	皿	口縁~底部	16.4	2.1	12.0	長・角・赤	橙	横ナテ、ナテ、粘土細積み上げ痕	横ナテ、ナテ	赤色顔料、一部欠損		481
第III-733回	12	198S I	弥生土器	2	2	壺	口縁	(28.0)	2.0~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ、ナテ	ナテ			388
第III-733回	13	198S I	弥生土器	2	2	壺	口縁	29.0	1.9~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			398
第III-733回	14	198S I	弥生土器	2	2	壺	口縁	(38.0)	2.6~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ	横ナテ			421
第III-733回	15	198S I	弥生土器	2	2	壺	口縁	19.0	3.3~	-	長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			415
第III-733回	16	198S I	弥生土器	2	2	壺	底部	-	1.9~	4.6	長・角・赤	明赤褐	横ナテ、ヘラナテ後ナテ、ナテ	ナテ			453
第III-733回	17	198S I	弥生土器	1	1	壺	底部	-	4.1~	3.0	石・長・角・赤	にぶい橙	ハケ目(縦)、横ナテ	横ナテ			445
第III-733回	18	198S I	弥生土器	1	1	壺	口縁	19.2	2.3~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	ハケ目(横)、ナテ			428
第III-733回	19	198S I	弥生土器	1	1	壺	口縁	(23.0)	2.3~	-	石・長・角	明赤褐	横ナテ	横ナテ	赤色顔料		414
第III-733回	20	198S I	弥生土器	1	1	壺	口縁	(33.8)	2.7~	-	石・長・角・赤	にぶい黄橙	横ナテ	ハケ目(横)			417
第III-733回	21	198S I	弥生土器	1	1	壺	口縁	(32.0)	1.9~	-	石・長・角	明赤褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ			394
第III-733回	22	198S I	弥生土器	1	1	壺	口縁	17.0	2.7~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(横)、ナテ			410
第III-734回	1	6923b	須恵器	包舎器	坏	坏	口縁	14.0	4.5~	5.5	長・石・角	黄灰	回転ナテ	回転ナテ	回転台使用		4009
第III-734回	2	6923b	土師器	2b層	坏	坏	底部	-	1.9~	10.4	長・角・赤	橙	暗文、ヘラケズリ、ナテ	暗文、ナテ			4012
第III-734回	3	6923b	須恵器	2b層	皿	皿	口縁~底部	16.0	1.6~	13.8	角・黄	灰	ナテ	ナテ	回転台使用	PL-37	4022
第III-734回	4	6923b	土師器	2b層	坏	坏	底部	-	1.6~	12.8	長・石・角・赤	明赤褐・明橙	回転ナテ	回転ナテ	回転台使用、赤色顔料		4005
第III-734回	5	6923b	土師器	埴土・2b層	無	無	底部	-	3.6~	15.2	長・石・角・赤	明赤褐・明橙	横ナテ、ナテ、ミガキ、沈線(多方向)	回転ナテ	回転台使用、赤色顔料		4010
第III-734回	6	6923b	須恵器	埴土	坏	坏	底部	-	2.8~	8.0	長・角・赤	灰黄	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	回転台使用、赤色顔料		4011
第III-734回	7	6923b	須恵器	2b層	皿	皿	口縁	(17.6)	2.9~	-	長・角	灰	回転ナテ後ナテ	回転ナテ後ナテ	回転台使用、粘土細積み上げ痕	PL-37	4015
第III-734回	8	6923b	須恵器	2b層	皿	皿	口縁	(9.6)	1.8~	-	長・角	灰	回転ナテ後ナテ	回転ナテ後ナテ	回転台使用	PL-37	4001
第III-734回	9	6923b	土師器	埴土	皿	皿	口縁~底部	13.9	2.6~	8.4	長・角・赤	褐色・明赤褐	横ナテ	横ナテ			4003
第III-734回	10	6924b	土師器	埴土	坏	坏	底部	-	1.8~	6.8	長・石・角・赤	橙	横ナテ、暗文、ヘラケズリ	横ナテ	回転台使用	PL-37	4016
第III-734回	11	6923b	土師器	埴土	坏	坏	底部	-	1.8~	6.2	長・石・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ			4004
第III-734回	11	6923b	土師器	埴土	坏	坏	底部	-	1.8~	6.2	長・石・角・赤	橙	回転ナテ	回転ナテ			4006

古代屋外炉出土土器観察表

押図番号	枝番号	遺構番号 グリット	土器種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	写真 番号	実測 番号
第III-736回	1	202S X	土師器	1	1	坏	底部	-	2.0~	4.5	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ケズリ	横ナテ、指ナテ後ミガキ	回転台使用		1052
第III-736回	2	202S X	須恵器	1	1	坏	底部	-	1.7~	8.0	石・長・角	暗灰黄	ナテ、粘土細積み上げ痕	ナテ	回転台使用		1142
第III-737回	1	120S X	土師器	1	1	壺	口縁~胴部	25.6	9.0~	-	石・長・角・赤	明赤褐	横ナテ、ハケ目(縦)	横ナテ、ケズリ(縦)			1802

82区古代遺構出土土器観察表

押図番号	枝番号	遺構番号 グリット	土器種類	出土 層位	レイアウト 層位	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測 番号
第III-741回	1	09 S X	底面	底面	壺	口縁~胴部	27.0	5.7~	-	長・角・赤	浅黄橙	横ナテ	横ナテ	類似土器4・3層出土	2482	
第III-741回	2	09 S X	底面	底面	壺	口縁	25.6	3.1~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ	横ナテ		2483	
第III-741回	3	09 S X	底面	底面	壺	口縁	(24.0)	3.1~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		2468	
第III-741回	4	09 S X	3	底面	壺	口縁~頸部	26.2	5.7~	-	石・長・角	橙	横ナテ、突帯	横ナテ		2467	
第III-741回	5	09 S X	4	4	壺	底部	-	3.8~	6.8	石・長・角・赤	橙	ハケ目(縦)、ナテ、横ナテ	横ナテ	類似土器底面・3層出土	2467	
第III-741回	6	09 S X	4	4	壺	口縁	(22.8)	2.6~	-	石・長・角・赤	橙・にぶい橙	横ナテ、横ナテ後暗文(縦)	横ナテ、ミガキ(横)		2502	
第III-741回	7	09 S X	1	3	壺	底部	-	4.5~	8.5	石・長・角・赤	浅黄・灰黄	ハケ目(縦)後ナテ、横ナテ	ナテ	スズ付痕、類似土器3層出土	2462	
第III-741回	8	09 S X	3	3	壺	口縁	(21.4)	2.2~	-	石・長・角	橙	横ナテ	横ナテ		2469	
第III-741回	9	09 S X	3	3	台付鉢	脚部	-	2.3~	7.8	石・長・角・赤	橙	横ナテ(縦)、横ナテ	横ナテ		2465	
第III-741回	10	09 S X	3	3	壺	口縁~頸部	23.0	8.5~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、突帯、ハケ目(縦)	横ナテ、ハケ目(横)、指頭圧痕、ナテ		2506	
第III-741回	11	09 S X	3	3	壺	口縁~頸部	20.2	7.5~	-	石・長・角	橙	ナテ、ハケ目(縦)後暗文(縦)	ミガキ痕		2507	
第III-741回	12	09 S X	-	1	壺	底部	-	5.1~	10	石・長・角	橙・褐色	ハケ目(縦)、横ナテ	ナテ		2480	
第III-741回	13	09 S X	1	1	壺	口縁	18.8	5.2~	-	長・角	橙	ナテ、暗文(縦)、ハケ目(横)後板ナテ(縦)	ナテ後ミガキ(横)		2505	
第III-741回	14	09 S X	-	1	壺	口縁~頸部	24.4	5.5~	-	石・長・角・赤	橙	横ナテ、ハケ目(縦)後ナテ、二条刻目目文(端部)、突帯	横ナテ		2463	

2区遺物包含層・攪乱出土須恵器・土師器観察表

検出番号	検出層	グリッド	出土層位	土器種類	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測番号	登録番号
第III-742図	1	5992 c	2b層	須恵器	埴	底部	—	3.2~	9.9	長・角・赤	黄灰	回転ナテ	回転ナテ			7016
第III-742図	2	5913 b, c	2b, 2a層	土師器	埴	底部	13.4	3.0~	9.2	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			7022
第III-742図	3	5992 c	2b層	土師器	埴	底部	—	2.4~	8.6	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	ヘラによる筋文		7017
第III-742図	4	5964	2b層	土師器	埴	口縁~底部	12.2	3.0~	9.4	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	粘土積み上げ痕		7020
第III-742図	5	5993 d	2b層	土師器	埴	口縁~底部	12.8	3.0~	8.4	長・石	黄	回転ナテ	回転ナテ	ろくろ右回転、赤色顔料		7002
第III-742図	6	6912a, d	2b層	土師器	埴	底部	—	3.0~	9.2	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			7011
第III-742図	7	5982 b	2b層	須恵器	埴	口縁	15.6	4.8~	—	石・角	黄	回転ナテ	回転ナテ	砂と灰		7013
第III-742図	8	6903 c	急倉層	須恵器	埴	口縁 (17.8)	—	3.3~	—	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			7008
第III-742図	9	5973	急倉層	須恵器	埴	口縁~胴部	26.0	2.17~	—	長・石・角・赤	黄	横ナテ、ハケ目 (縦・多方向)	横ナテ、ナテ後ヘラケズリ (縦)	スス付四、(最大胴径24.9cm)		4017
第III-742図	10	6923 b	攪乱・表層	土師器	埴	口縁	16.8	6.7~	—	石・角・赤	黄	横ナテ、指ナテ、ハケ目 (縦) 後ナテ	横ナテ、ヘラケズリ (右上)	スス付四		4008
第III-742図	11	5942 d	2b層	須恵器	埴	口縁 (11.2)	—	1.9~	—	長・角	黄	横ナテ	ナテ			7023
第III-743図	1	5972	1層	須恵器	埴	底部	—	2.2~	7.8	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			7025
第III-743図	2	6912 a, d	1層	須恵器	埴	底部	12.6	3.0~	7.4	長・赤	にぶい黄	横ナテ	横ナテ			7024
第III-743図	3	5963 c	攪水	須恵器	埴	口縁~底部	12.4	3.1~	8.4	長・角	オリーブ灰	ヘラケズリ、回転ナテ、ナテ	回転ナテ、ナテ	ろくろ右回転		7003
第III-743図	4	5962 b	攪水	須恵器	埴	口縁	15.2	2.8~	—	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			7021
第III-743図	5	5983	攪水	須恵器	埴	底部	—	1.4~	8.6	長・角	黄	回転ナテ	回転ナテ			7018
第III-743図	6	5993	攪水	土師器	埴	口縁 (15.0)	—	3.0~	—	長・角・赤	黄	赤相	回転ナテ			7010
第III-743図	7	5963 c	攪水	土師器	埴	底部	—	1.5~	9.4	長・角・赤	黄	明赤相・黄相	回転ナテ			7011
第III-743図	8	5983	攪水	土師器	埴	底~高台	—	1.4~	7.0	長・角	黄	回転ナテ、指ナテ	回転ナテ	ろくろ右回転		7019
第III-743図	9	5983	攪水	土師器	埴	底部	—	2.8~	7.0	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			7004
第III-743図	10	5983	攪水	土師器	埴	底~高台	—	2.9~	6.6	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	ろくろ右回転、赤色顔料		7014
第III-743図	11	5982 a	攪水	土師器	埴	底部	—	3.0~	9.6	長・角・赤	黄	明赤相	回転ナテ			7005
第III-743図	12	6912 a	攪水	土師器	埴	底~高台	—	3.0~	15.8	長・石・角・赤	黄	横ナテ	横ナテ	ろくろ右回転		7012
第III-743図	13	5963 b	攪水	土師器	埴	口縁	20.4	2.8~	—	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			7015
第III-743図	14	6923 b	攪水	土師器	埴	口縁	16.2	3.9~	—	長・石・角・赤	黄	横ナテ、ハケ目 (縦)	横ナテ、横ナテ			7009
第III-743図	15	5954 b	攪水	土師器	埴	口縁	25.4	3.5~	—	長・石・角・赤	黄	横ナテ	横ナテ			7017
第III-743図	16	6913	攪水	土師器	埴	口縁 (23.8)	—	4.0~	—	長・石・角・赤	黄	横ナテ	横ナテ			7026
第III-743図	17	5834 a	攪水	黒色土師	埴	口縁	10.0	4.0~	—	長・角・赤	にぶい黄	横ナテ後ミガキ (横)、ミガキ (横)	横ナテ後ミガキ (横)、ミガキ (横)			7006
第III-744図	1	5972	攪水	土製紡錘車	土製紡錘車	方形	外径 (6.5)	孔径 (0.8)	厚み0.9		明赤相・黄	ミガキ、ナテ	ナテ、指おさえ			7028
第III-744図	2	6903 c	2b層	土製紡錘車	土製紡錘車	方形	外径 (4.0)	孔径 (0.6)	厚み0.9							7029
第III-744図	3	5954 c	攪水	土師	土師	方形	全長 (2.2)	孔径 (0.2)	厚み0.7							7029

1・4区出土須恵器・土師器観察表

検出番号	検出層	大区	分区分名	グリッド	出土地点 (遺構)	土器種類	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整 (外面)	調整 (内面)	備考	実測番号	登録番号	
第III-747図	1	4区	口	6916 c	耕作溝	須恵器	埴	口縁~底部	11.6	4.8~	7.2	長・角	黄	回転ナテ	回転ナテ			6512 S-④	
第III-748図	1	4区	ハ	北部一括	1層	土師器	埴	底部	—	2.4~	11.8	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6504 H-⑤	
第III-748図	2	4区	ハ	北部一括	1層	土師器	埴	口縁~底部	14.4	2.7~	9.0	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6503	
第III-749図	1	1区	E-1	耕作溝	土師器	埴	底部	—	2.4~	7.7	石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	赤色顔料			6507	
第III-749図	2	1区	ニ	A-3	耕作溝	須恵器	埴	口縁	13.4	2.7~	—	長・角	黄	横ナテ	横ナテ			6524	
第III-750図	1	1区	ヘ	J-4		須恵器	埴	口縁	15.2	1.9~	—	長・石・角	黄	回転ナテ	回転ナテ			6521	
第III-751図	1	1区	チ	S-3		土師器	埴	口縁	12.8	3.7~	—	長・石・角・赤	黄	明赤相	回転ナテ			6506	
第III-751図	2	1区	チ	O-2		須恵器	埴	底部	—	3.7~	9.2	長・石・角	黄	回転ナテ	回転ナテ			6523 S-③	
第III-751図	3	1区	チ	R-1・4	耕作溝	土師器	埴	底部	—	3.5~	7.0	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	赤色顔料			6516
第III-752図	1	1区	用水路	O-3・4	攪水	土師器	埴	口縁~底部	13.0	3.5~	8.6	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6511 H-⑥	
第III-752図	2	1区	用水路	J-1	攪水	土師器	埴	底部	—	1.7~	9.8	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6508	
第III-752図	3	1区	用水路	O-3・4	攪水	須恵器	埴	底部	—	2.6~	8.0	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6525 S-⑧	
第III-752図	4	1区	用水路	6806 c	攪水	須恵器	埴	底部	—	2.8~	9.8	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6520	
第III-752図	5	1区	用水路	O-3・4	攪水	須恵器	埴	口縁~底部	16.0	4.9~	7.0	長・角・赤	黄	回転ナテ、ケズリ後ナテ	回転ナテ			6517 S-②	
第III-752図	6	1区	用水路	E-3	攪水	土師器	埴	底部	—	4.2~	11.2	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	赤色顔料			6509
第III-752図	7	1区	用水路	E-1	攪水	黒色土師	埴	底部	—	3.4~	4.8	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	ヘラミガキ (横)			6510
第III-752図	8	4区	用水路	6805 d	攪水	土師器	埴	底部	—	1.8~	13.6	長・石・角	黄	回転ナテ、積み上げ痕	回転ナテ			6527 H-⑩	
第III-752図	9	1区	用水路	P-2	攪水	土師器	埴	口縁~底部	19.4	1.8~	15.4	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ	スス付四			6518
第III-752図	10	4区	用水路	6806 c	攪水	土師器	埴	口縁	27.0	3.8~	—	長・石・角・赤	にぶい黄	回転ナテ	回転ナテ、ヘラケズリ			6522	
第III-752図	11	1区	用水路	E-3	攪水	土師器	埴	口縁	24.1	7.8~	—	長・石・角・赤	黄	横ナテ	横ナテ、ヘラケズリ			6505 H-①	
第III-752図	12	1区	用水路	O-3・4	攪水	土師器	埴	口縁	28.5	2.0~	—	長・石・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6526	
第III-752図	13	1区	用水路	K-4	攪水	須恵器	埴	口縁	15.4	3.0~	—	長・石・角	黄	回転ナテ	回転ナテ			6514	
第III-752図	14	1区	用水路	L-1	攪水	須恵器	埴	口縁	(21.8)	5.7~	—	長・石・角	黄	横ナテ	横ナテ			6519	
第III-752図	15	1区	用水路	P-2	攪水	須恵器	埴	口縁	—	4.7~	—	長・石	黄	横ナテ	横ナテ	自然釉			6501
第III-752図	16	1区	用水路	L-1	攪水	土師器	埴	底部	—	3.7~	14.0	長・角・赤	黄	回転ナテ	回転ナテ			6515	
第III-752図	17	1区	用水路	I	攪水	須恵器	埴	底部	—	2.1~	15.2	長・角・赤	黄	回転ナテ、ヘラケズリ	回転ナテ、ヘラミガキ、沈線 (沈線)			6513	
第III-752図	18	1区	用水路	D-3	攪水	土師器	埴	底部	—	2.1~	—	長・角・赤	黄	回転ナテ、沈線、指ナテ	回転ナテ	赤色顔料			6502

縄文時代遺物観察表

押収番号	枚 番号	グリッド	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	質量 (g)	石材	推定産地	特記事項	図版 番号	実測 番号
第III-11図	1	6901b	-	-	包含層	球状耳飾	2.4~	1.6	0.75	-	-	-	-	-	縄文早期のものかもしれない(九州国古)	PL-46	166
第III-11図	2	6922a	179	SI	3層	石鏃(打製)	4.8	2.15	1.45	-	-	10.42	微珧晶花崗岩	山鹿	刃部長3.6 基部幅0.5 刃部角度57°		67
第III-11図	3	5962d	-	-	撥乱水層	碧玉	1.29	0.56	0.55	-	0.23	-	-	-	四角柱状のものを研削しており、帯状の平坦面が通る。両面V字穿孔		-
第III-11図	4	5972d	-	-	撥乱水層	碧玉(欠損)	(1.57)	(0.69)	(0.28)	-	(3.2)	-	-	-	やや胴膨らみ、縁を残さない研削、両面V字穿孔。		-
第III-11図	5	1区	-	-	撥乱水層	ガラス玉	-	-	-	-	0.85	0.15	-	-	濃い青色を呈す		302
第III-11図	6	4区	-	-	撥乱水層	碧玉	3.15	0.57	0.59	0.6	0.3~0.22	-	-	-	八角形の柱状のものを研削されている。		-

砥石観察表

押収番号	枚 番号	グリッド	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	器厚 (cm)	質量 (g)	石材	推定産地	特記事項	図版 番号	実測 番号
第III-74図	1	6911d	160	S I	1層	10.1~	4.0	3.8	199.72			各面と稜角はあまり残っていないが、縁辺部には比較的強く残っている。又、各面ともに中央部にほくまが確認できる。	PL-39	40
第III-84図	1	6922b	167	S X	3層	7.3~	4.5	3.7	150.75				PL-39	41
第III-98図	4	6912d	163	S I	1層	6.3~	7.6	1.7	88.22	流紋岩	大矢野岳	表面にくぼみあり	PL-39	24
第III-157図	1	6901c	161	S I	3層下層	10.6	20.0	5.2	1625.5				PL-40	84
第III-167図	1	5991d	210	S I	1層	9.6~	5.0~	5.0	362.36			表面に鉄鏝を置いたと思われるくぼみが、何力所か有る。		73
第III-186図	1	5992d	247	S I	P1	19.5	12.3	5.6	2349.6			横断面で見ると使用してすり減ったと思われる痕跡が、残っている。		101
第III-205図	2	6903b	286	S I	2層	15.6	5.7	3.7	292.16			先端に近いところに、鉄鏝を置いたと思われるくぼみが何力所か有る。	PL-40	44
第III-216図	1	5993b	270	S I	2層	8.7~	4.05	4.2~	212.14				PL-40	74
第III-259図	1	5982a	132	S I	2層	6.3~	3.5	1.5	50.37			破損した石鏃を、砥石に再研削したものと思われる	PL-41	39
第III-263図	1	5983a	126	S I	4層	9.2	6.3~	1.9	133.65				PL-41	75
第III-263図	3	5983a	126	S I	1層	5.4~	2.65	1.4	33.14	砂岩		稜角はほとんど見られず、側面の使用は不明。	PL-41	34
第III-287図	2	5973a	122	S I	3層	4.2~	5.5~	2.0	57.59	アルココース砂岩	山鹿、大年田		PL-41	13
第III-304図	1	5961d	1194	S I	SK01-1層	17.0	12.25	4.3	1338.5					113
第III-373図	1	5963b	1185	S I	2層	8.4	7.6	4.4	337.74				PL-43	109
第III-697図	1	6922b	-	-	包含層	7.0~	6.0	3.9	228.65				PL-45	110
第III-698図	1	5993b	-	-	包含層	6.1	10.3	2.9	179.97	砂岩	御船府		PL-45	120
第III-698図	2	5952a	-	-	包含層	8.5	4.6	1.4	94.16	砂質頁岩	御船府	縄文	PL-45	114
第III-699図	1	5993a	-	-	包含層	10.65~	1.9	1.8	84.48	凝灰岩	御船府中(湯殿火山)	使用してすり減ったあとがある	PL-45	27
第III-699図	2	5973d	-	-	包含層	15.8	2.6	1.7	61.17	玄武岩(灰床)			PL-45	127
第III-706図	1	6910d	-	-	撥乱	6.7	5.3	2.2	59.74	半花崗岩	木の炭山、神川周辺		PL-47	112
第III-706図	2	5982a	-	-	撥乱	5.3	5.6	1.6	52.41	泥岩	御船府		PL-47	125
第III-706図	3	6902b	-	-	撥乱	4.05~	3.6~	-	17.94	砂岩	御船府		PL-47	155

凹石観察表

押収番号	枚 番号	グリッド	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	長さ (cm)	幅 (cm)	器厚 (cm)	質量 (g)	凹部径 (cm)	凹部深径 (cm)	石材 (cm)	推定産地	特記事項	図版 番号	実測 番号
第III-188図	1	6902d	245	SI	P01	18.3	26.5	9.8	7300	6.4	2.0	砂岩				91
第III-192図	2	6992c	235	SI	1層	11.6	10.3	3.6	668.4	4.3	0.4					89
第III-201図	1	6903	1029	SI	床面	9.5	10.0	5.3	517.65	4.55	1.1					50
第III-558図	1	6903b	227	SK	1層	5.6	7.7	3.25	121.15	4.0	0.6	多摩貫安山岩	西斜面		PL-44	60
第III-568図	1	5983a	139	SK	1層	7.0	10.6	5.3	370.67	6.0	1.9	玄武岩貫安山岩	阿蘇下田-高森間の南外輪山	くぼみの部分は、磨き損したと思われる使用痕	PL-44	111
第III-700図	1	6912a	-	-	包含層	27.05	30.0	11.25	7200	-	-				PL-47	165

石槍・石剣観察表

押収番号	枚 番号	グリッド	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質量 (g)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	刃部 角度	石材	推定産地	特記事項	種類	図版 番号	実測 番号
第III-257図	1	5972d	132	S I	3層	不明	-	-	-	2.8	-	-	-			大部分を欠損する。	-	PL-41	16
第III-259図	2	5972d	132	S I	1層	石槍	3.8~	2.5~	0.9~	6.27	3.85~	-	43°				打製	PL-41	72
第III-731図	1	G6923	198	S I	2層	石剣	3.0~	1.7~	0.6~	2.9	3.0~	-	-	黒色 片岩	釜山川	頁岩(池辺慎一郎氏談)	磨製	PL-39	33

石包丁観察表

挿入番号	枝番号	グリッド	迎柄番号	迎柄種類	出土層位	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質目 (mg)	基部長 (cm)	基部幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	刃部角度 (度)	孔徑 (cm)	孔間距離 (cm)	孔背間距離 (cm)	石材	推定産地	特記事項	図版番号	実測番号	
第III-62図	1	6911c	162	S I	1層	5.3	7.7~	0.6	48.02	4.8	7.7~	4.7~	0.5	58°	0.5	3.55	2.75	2.55	砂岩系頁岩		砂岩(池辺慎一郎氏談)	PL-39	4
第III-109図	1	6922d	180	S I	3層	5.1	5.8~	0.9	33.69	4.3	5.5~	3.75~	0.8	64°	0.5	—	2.75	2.35	黒色片岩	金山川		PL-40	3
第III-109図	2	6923c	180	S I	2層	1.9~	3.15~	0.25~	2.91	1.9~	2.45~	—	—	—	—	—	—	—			表面は、剥離。	PL-40	22
第III-238図	4	5983a	101	S I	2層	4.2	8.9~	0.5	33.5	3.8	8.1~	7.9~	0.3	77°	0.3	3.4	3.05	1.05			頁岩(池辺慎一郎氏談) 第2面の右孔には、穿孔し直した痕跡あり。	PL-40	6
第III-257図	3	5982b	132	S I	2層	3.35~	3.9~	0.4	7.98	3.0	3.75~	2.5~	0.35	63°	—	—	2.7	0.65				PL-41	11
第III-334図	2	5962b	123	S I	3層	3.9~	3.8~	0.4	6.81	3.6~	1.85~	1.5~	0.3	72°	—	—	—	—	硬砂岩	御船層	片側の表面は、あまり丁寧に磨かれていない。		25
第III-696図	5	5983c	-	-	包含層	5.4	10.5	0.7	55.78	5.1	10.3	10.5	0.3	50°	0.4	2.3	4.1	1.3	結晶片岩、黒色片岩	金山川		PL-45	77
第III-696図	6	5993b	-	-	包含層	4.0~	4.7~	0.6	13.8	4.0~	3.7~	1.2~	0.4	—	0.6	—	3.3~	0.7	黒色片岩	金山川		PL-45	105
第III-696図	7	6913a	-	-	包含層	3.7~	2.3~	0.5~	2.84	—	—	1.5~	0.6	64°	—	—	—	—	硬砂岩	御船層	A、B面ともに、不特定方向の研磨を施す。研磨痕が、明瞭に残存。		153
第III-696図	8	6922a	-	-	包含層	3.5	4.1~	0.7	14.64	3	3.5~	3.5~	0.5	49°	0.4	—	3	0.5	結晶片岩	金山川	黒色 Hue 2.5Y 2/1	PL-45	80
第III-696図	9	5982a	-	-	包含層	4.2~	2.8~	4.55~	7.79	4.2~	2.3~	—	—	0.4	1.9	2.3~	1.4	緑色片岩	金山川	表面の、剥離が激しい。表面の、赤化しているところは、極暗赤褐色。	PL-45	78	
第III-705図	1	6923b	-	-	攪乱	6.5	7.1~	0.9	71.52	5.6	5.0~	6.2~	0.9	70°	0.6	3.3	4.1	2.4	黒色片岩	金山川	背部に、紐擦れによる摩耗がみられる。	PL-46	7
第III-705図	2	6923	-	-	攪乱	4.9	11.7~	0.6	44.15	4.65	10.9~	9.6~	0.25	74°	0.3	2.25	4.1	0.8	輝石安山岩	大切畑~俵山間	砂岩(池辺慎一郎氏談)	PL-46	5
第III-705図	3	5992b	-	-	攪乱	3.5	4.7~	0.7	17.91	3.15	1.8~	4.6~	0.35	60°	0.6	—	1.7	1.7	凝灰岩	御船山	側縁部にも、刃部が作り出されている。下半分は、左前の片刃で、上半分は右前の片刃。	PL-46	79
第III-705図	4	6902c	-	-	攪乱	3.7~	4.3~	0.5~	11.16	—	—	4.3~	0.9	62°	—	—	—	—	輝石安山岩	外輪 西斜面	B面は刃部を除きほとんど欠損。刃部は研磨と使用による擦れにより滑らかになっている。	PL-46	154
第III-705図	5	5963a	-	-	攪乱	3.0~	4.2~	0.5	5.76	3.0~	4.2~	1.3~	0.3	38°	—	—	0.3	—	結晶片岩	金山川		PL-46	103

石斧観察表

挿入番号	枝番号	グリッド	迎柄番号	迎柄種類	出土層位	種類	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質目 (mg)	基部長 (cm)	基部幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	刃部角度 (度)	石材	推定産地	特記事項	図版番号	実測番号
第III-98図	1	6922a	169	S I	2層	磨製		2.4~	3.4~	—	8.02	—	—	2.6~	—	80°	玄武岩	灰床(権現山)	大部分を欠損しており、残存部は刃部の一部と思われる。		19
第III-98図	2	6912d	169	S I	1層	磨製		6.8	3.8~	1.6	31.78	5.65	2.2	1.25~	1.15	67°	蛇紋岩	川内田産	剥離した石器の剥離面を軽く研ぎ直して再利用しようとしたと思われる	PL-39	48
第III-153図	1	6901d	165	S I	1層	磨製		10.1	4.4	2.7	182.6	—	1.75	3.1	—	145°	蛇紋岩	川内田産		PL-40	8
第III-227図	1	5993c	272	S I	床面	磨製	扁平片刃	4.1	2.4	1.0	20.51	2.9	1.95	2.1	1.2	68°	流紋岩	大矢野島		PL-40	29
第III-245図	1	5982d	224	S I	1層	打製		10.95	5.85	1.4	95.54	—	3.6	—	—	90°	黒色片岩、白い斑点到曹長石	金山川		PL-41	146
第III-257図	2	5973c	132	S I	3層	磨製	扁平片刃	7.3	2.45	1.4	53.18	5.9	2.0	2.2	1.4	66°				PL-41	31
第III-259図	3	5972d	132	S I	1層	磨製		6.1~	5.5	1.3~	37.29	5.3~	—	5.0~	0.8	65°	片岩		歯こぼれあり。石包丁を転用して石斧にした可能性有り。	PL-41	71
第III-266図	1	5983d	103	S I	3層	磨製		10.5~	5.6	3.3	296.2	—	3.9	5.4	—	80°	凝灰岩(赤色)、砂岩	御船層	基部部を欠損した後、割れた面の周縁を敲打によりつぶしている	PL-41	2
第III-282図	1	5974c	127	S I	1層	磨製	扁平片刃	3.8	2.65	0.8	13.24	3.05	2.3	2.65	0.75	62°			石包丁の肩部を再利用、整形して作られたと思われる	PL-41	14
第III-295図	1	5972b	124	S I	肩部	打製		8.45~	5.75	1.55	91.05	—	—	5.75	—	86°	泥岩	御船層		PL-42	143
第III-316図	1	5962c	1209	S I	床面	打製		4.6~	5.5	1.8	49.16	—	—	5.5	—	60°	黒色泥岩	御船層			144
第III-334図	1	5962d	123	S I	4層	打製		12.1	5.0	1.5	159.9	—	3.1	5.0	—	90°	普通角閃石、石墨片岩、黒色片岩	金山川		PL-42	145
第III-423図	1	5953d	1121	S I	2層	磨製	柱状片刃	7.65	1.3	1.55	32.76	5.65	1.1	1.15	2.0	67°	凝灰岩	御船?大矢野?		PL-43	26
第III-433図	1	5953c	1096	S I	SKO1	打製		7.6~	4.8	2.1	89.06	—	—	4.8	—	90°					142
第III-433図	3	5952d	1096	S I	4層	磨製	扁平片刃	3.7~	2.9~	0.6	13.1	—	2.9~	—	—	—	絹雲母石英片岩、白色片岩	金山川	石の目が縦方向に入っている。	PL-43	62
第III-573図	1	5933d	1140	S K	—	打製		8.6~	7.0	0.9	71.91	—	7.0	—	—	—	陽起石緑泥石片岩、結晶片岩、緑色片岩	金山川		PL-44	147
第III-694図	3	5972d	—	—	包含層	磨製		8.0	2.3	2.7	60.19	—	1.7	1.9	—	80°	砂岩	御船層		PL-44	152
第III-695図	1	5973c	—	—	包含層	磨製		11.3	5.0	3.9	413.5	6.4	4.7	4.5	4.9	56°	輝石安山岩 カンラン石	立野火山初期噴火物		PL-44	160

抉入石斧観察表

挿入番号	枝番号	グリッド	迎柄番号	迎柄種類	出土層位	種類	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質目 (mg)	基部長 (cm)	基部幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	刃部角度 (度)	抉部幅 (cm)	抉部深度 (cm)	石材	推定産地	特記事項	図版番号	実測番号
第III-313図	1	5962c	153	S I	4			2.0~	2.5~	1.0~	5.61	1.4~	—	2.0~	0.6	75°	—	—	凝灰岩	御船層			46
第III-694図	1	6922b	—	—	包含層			8.4~	3.5	1.3	42.3	—	—	—	—	—	1.7	0.4	凝灰岩質頁岩	御船層	御船層は、神隠山、小山群山起源	PL-44	161
第III-694図	2	5983a	—	—	包含層			7.7~	2.1	3.2~	43.75	—	—	0.7~	—	—	—	—	硬砂岩	—	残存が少なく刃部の厚みから抉入片刃石斧の可能性があり、研磨が施されている。	PL-44	156

石鏃観察表

挿図番号	枝番号	グリッド	遺構番号	遺構種類	出土層位	種類	全長 (cm)	全幅 (cm)	器厚 (cm)	質量 (mg)	基部幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	刃部角度	袂部有無	袂部深度 (cm)	石材	推定産地	特記事項	図版番号	実測番号	
第III-84図	2	6912c	167	S X	1層	磨製	3.1~	1.9~	0.2	2.7	--	2.55~	--	--	有	0.1~			基部袂入部には中央に線がはしり、表・裏両面から砥ぎ出したことがわかる。	PL-39	1	
第III-98図	3	6912d	169	S I	1層	磨製	3.8	2.4	0.3	3.76	1.7	3.8	0.3	72°	無	--			頁岩?(池辺慎一郎氏談)	PL-39	23	
第III-136図	1	6902d	190	S I	1層	打製	2.9	1.6	0.5	2.05	1.5	2.9	--	27°	有	0.4			玄武岩(池辺慎一郎氏談)	PL-39	61	
第III-157図	2	6901	161	S I	1層	打製	2.7	1.7	0.6	3.04	1.7	2.7	--	65°	無	--				PL-40	57	
第III-172図	1	5991b	209	S I	2層	打製	2.0	1.4	0.25	0.65	1.4	2.0	--	53°	無	0.5	黒曜石		頁岩(池辺慎一郎氏談)	PL-40	150	
第III-205図	1	6903b	286	S I	床面	打製	1.9~	1.3	0.35	0.68	1.3	1.9~	--	--	無	--				PL-40	54	
第III-238図	1	5983a	101	S I	2層	磨製	2.4~	2.7	0.25	1.76	2.3	2.4~	--	--	無	--	凝灰岩	御船町	上部を欠損した石鏃の欠損面を研ぎ直して刃部を作り出したもの。		15	
第III-238図	2	5983c	101	S I	2層	磨製	4.8	1.65	0.3	2.74	1.4	4.8	0.1	32°	無	--			頁岩(池辺慎一郎氏談)	PL-40	12	
第III-238図	3	5983d	101	S I	2層	磨製	1.65	1.1	0.1	0.23	1.1	1.65	0.1	68°	有	0.1			研ぎ減りによって矮小化したものと思われる。	PL-40	17	
第III-249図	1	5982b	234	S I	1層	打製	2.65	1.7~	0.4	1.58	--	2.65	--	44°	無	--				PL-41	56	
第III-263図	2	5983a	126	S I	1層	磨製	2.4~	2.0	0.2	1.79	2.0	2.4~	--	--	有	0.3				PL-41	28	
第III-287図	1	5974b	122	S I	3層	打製	2.2	1.85	0.4	0.98	1.85	2.2	--	79°	有	0.25	無斑島安山岩	西斜面		PL-41	58	
第III-295図	2	5972a	124	S I	3層	磨製	4.15	2.1	0.25	2.87	1.8~	4.15	0.1	60°	有	0.15	礫岩	御船町		PL-42	45	
第III-295図	3	5972a	124	S I	3層	磨製	2.6	2.1~	0.3	1.79	2.1~	2.6	--	--	無	--	輝石安山岩	西斜面		PL-42	42	
第III-334図	3	5962b	123	S I	2層	打製	2.5	1.6	0.6	1.92	1.45	2.5	--	43°	有	0.1				PL-42	63	
第III-348図	1	5962b	1172	S I	2層	磨製	3.0~	2.7	0.3	2.79	2.7	3.0~	--	--	有	0.5	粘板岩	緑川上流	頁岩(池辺慎一郎氏談)	PL-42	21	
第III-348図	2	5962c	1172	S I	1層	磨製	3.8~	1.85~	0.3	3.11	1.5~	3.8以上	--	--	有	0.2	花崗片麻岩	中央町	袂部は中央に線がはしり、表裏両面から砥ぎ出したことがわかる。 先刃と側面のみ欠損。擦痕は不明瞭。	PL-42	9	
第III-350図	1	5962c	1173	S I	2層	磨製	2.3~	1.4	0.3	1.19	--	2.3~	0.2~	--	無	--	無斑島安山岩	西斜面		PL-42	51	
第III-360図	1	5962a	1105	S I	1層	打製	3.2	1.5	0.5	2.01	1.4	3.2	--	58°	有	0.2	無斑島安山岩	西斜面		PL-42	64	
第III-401図	1	5963a	129	S I	III層	磨製	3.2~	1.8~	0.3~	2.3	--	3.2~	0.3~	--	無	--	閃緑岩	緑川ダム付近		PL-43	52	
第III-417図	1	5954c	1133	S I	1層	磨製	3.9	2.1	0.25	3.08	1.9~	3.9	0.6と0.8	22°	有	0.35	滑石片岩		研磨の偏りは、制作者のクセによるものか?	PL-43	38	
第III-417図	2	5954c	1133	S I	1層	磨製	3.4	1.45	0.35	1.41	1.3	3.4	0.5	29°	有	0.2	輝石安山岩			PL-43	30	
第III-417図	3	5954c	1133	S I	1層	磨製	2.6	1.5	0.25	1.34	1.5	2.6	--	--	有	0.25	凝灰岩	御船町	擦痕の残りがわるい。	PL-43	37	
第III-417図	4	5954c	1133	S I	1層	磨製	1.85~	1.6	0.2	0.23	1.45	1.85~	--	--	無	--	凝灰岩	御船町		PL-43	35	
第III-417図	5	5954c	1133	S I	1層	磨製	1.9~	1.65~	0.2	0.86	1.65~	1.9~	--	--	無	--	滑石片岩			PL-43	10	
第III-418図	1	5954c	1103	S I	2層	磨製	3.5~	2.4	0.15	1.72	2.25	3.5~	--	--	有	0.1	凝灰岩	御船町	チャート?(池辺慎一郎氏談)	PL-43	47	
第III-418図	2	5954c	1103	S I	2層	磨製	2.7	2.0	0.3	1.77	2.0	2.7	--	--	有	0.3	輝石安山岩			PL-43	36	
第III-433図	4	5953c	1096	S I	3層	磨製	2.0~	1.8~	0.2	1.22	--	2.0~	0.2	57°	無	--	花崗片麻岩	中央町		PL-43	43	
第III-542図	1	6901	244	S X	2層	打製	1.6	1.0	0.3	0.42	1.0	1.6	--	30°	無	--	黒曜石		阿蘇山の1回目の火砕流による岩石	PL-44	148	
第III-564図	1	5982c	249	S X	2層	打製	2.5	1.6	0.5	2.05	1.25	2.5	--	50°	有	0.2	黒曜石			PL-44	66	
第III-566図	1	5972c	134	S K	1層	打製	2.7	1.6	0.4	1.53	1.6	2.7	--	50°	無	--	無斑島安山岩	西斜面		PL-44	65	
第III-582図	1	5992a	251	S X	1層	打製	1.6	1.2	0.4	0.47	1.2	1.6	--	45°	有	0.4	チャート			PL-44	149	
第III-695図	2	6901a	--	--	--	包含層	磨製	1.7	1.5	0.2	0.55	1.5	1.7	0.2	60°	有	0.1	輝石安山岩	西斜面		PL-45	76
第III-695図	3	6912c d	--	--	--	包含層	磨製	3.1~	1.7	0.3	1.93	1.7	3.1~	0.25	50°	無	--	黒色片岩	金山川		PL-45	99
第III-695図	4	6912a d	--	--	--	包含層	磨製	3.2~	2.5	0.4	3.72	2.5	3.2~	--	有	0.4	硬砂岩	御船町		PL-45	93	
第III-695図	5	5982a	--	--	--	包含層	磨製	3.3~	2.7~	0.25	2.69	2.7~	3.3~	0.4	25°	有	0.3	粘板岩	御船町		PL-45	95
第III-695図	6	5953b	--	--	--	包含層	磨製	3.1~	2.2~	0.2	1.45	2.2~	3.1~	--	有	0.2	無斑島安山岩	西斜面		PL-45	96	
第III-695図	7	6903b	--	--	--	包含層	磨製	3.6~	2.95	0.2	1.74	2.95	3.6~	--	有	0.25~	硬砂岩	御船町		PL-45	100	
第III-696図	1	6913b	--	--	--	包含層	打製	1.9~	1.5~	0.35	0.7	--	1.9~	--	有	0.5	石英			PL-45	159	
第III-696図	2	5953d	--	--	--	包含層	打製	1.5~	1.8~	0.4	1.14	--	--	--	無	--	黒曜石				55	
第III-696図	3	5982d	--	--	--	包含層	打製	2.45	2.0	0.4	1.4	2.0	2.45	--	45°	無	--	チャート			PL-45	135
第III-696図	4	5924a	--	--	--	包含層	打製	3.1	2.4~	0.5	2.67	--	3.1	--	88°	有	0.95	無斑島安山岩	西斜面		PL-45	59
第III-704図	1	6912a b	--	--	--	撥乱	打製	2.35~	1.4	0.2	0.97	1.4	2.35~	--	48°	無	--	緑石片岩	金山川	先頭部が残存(基部は欠損) 両面の研磨痕(擦痕) はやや不明瞭。	PL-46	158
第III-704図	2	5954c	--	--	--	撥乱	磨製	4.7	1.9	0.2	3.43	1.9	4.7	--	有	0.2	硬砂岩	御船町		PL-46	94	
第III-704図	3	5954c	--	--	--	撥乱	磨製	4.3~	1.85	0.25	2.67	1.4~	4.3~	--	有	0.15	凝灰岩	御船町	緑色片岩(池辺慎一郎氏談) 無形磨製石鏃ほぼ完形。両面を入念に研磨。擦痕がやや明瞭。	PL-45	157	
第III-704図	4	6913d	--	--	--	撥乱	打製	1.8	1.5	0.45	0.18	1.5	1.8	--	30°	無	--	黒曜石		頁岩(池辺慎一郎氏談)	PL-46	162
第III-704図	5	6912b	--	--	--	撥乱	打製	2.6~	1.7	0.4	1.26	1.7	2.6~	--	有	0.7	無斑島安山岩	西斜面		PL-46	129	
第III-704図	6	5993c	--	--	--	撥乱	打製	2.0~	1.85~	5.5	1.12	1.85~	2.0~	--	無	0.6	黒曜石			PL-46	164	
第III-704図	7	5954b	--	--	--	撥乱	打製	2.3	1.9	0.4	1.38	1.9	2.3	--	52°	有	0.2	輝石安山岩			PL-46	132

敲石観察表

押図番号	枚番号	グリッド	遺構番号	遺構種類	出土層位	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚 (cm)	質量 (mg)	石材	推定産地	特記事項	図版番号	実測番号
第Ⅲ-99図	2	6912d	169	SI	3層	10.0	4.2		228.94				PL-39	81
第Ⅲ-192図	1	5992c	235	SI	床面	11.6	10.2		1139.7					90
第Ⅲ-201図	2	6903b	1029	SI	3層	11.1	9.2		729.9					88
第Ⅲ-211図	2	5992d	269	SI	2層	16.1	8.3		1191					104
第Ⅲ-333図	3	5962d	123	SI	4層	9.1	8.7		519.59				PL-42	118
第Ⅲ-367図	1	5963d	1190	SI	床面	12.3	6.0		393.74				PL-42	133
第Ⅲ-402図	1	5973a	129	SI	床面	11.6	10.1		982					126
第Ⅲ-402図	2	5973a	129	SI	床面	12.8	7.1		635.9					130
第Ⅲ-433図	2	5953c	1096	SI	焼土上	9.0	8.3		491.31	中心部・縁辺部は何かを敷いて覆われている				138
第Ⅲ-434図	1	5953c	1096	SI	焼土上	18.0	8.9		1959.1					136
第Ⅲ-611図	1	5953	1150	SX	基底石	11.9	9.65		626			壁槽の基底石に使用		163
第Ⅲ-702図	1	5983	包含層	包含層	包含層	7.9	5.8		283.35	普通角閃石安山岩	礫山層後の滑岩			151

磨石観察表

押図番号	枚番号	グリッド	遺構番号	遺構種類	出土層位	種類	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚 (cm)	質量 (mg)	石材	特記事項	図版番号	実測番号
第Ⅲ-99図	1	6912c	169	SI	3層		12.7	8.6	4.2	702.90			PL-39	82
第Ⅲ-304図	2	5961d	1194	SI	床面		8.8	9.6	5.3	605.10	赤色顔料がのこっている		PL-42	53
第Ⅲ-333図	2	5962b・c	123	SI	床面		6.95	7.0	5.1	366.90				117
第Ⅲ-549図	1	5902	1026	SK	3層		8.4	6.0	3.3	273.84				85
第Ⅲ-701図	1	5952d	-	-	包含層		8.9	8.8	3.1	356.98	普通角閃石安山岩			115
第Ⅲ-701図	2	5924c	-	-	包含層		9.3	8.6	4.1	538.42		両面ともに使用し、平坦になっている		124

石皿・石台観察表

押図番号	枚番号	グリッド	遺構番号	遺構種類	出土層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	質量 (mg)	石材	特記事項	図版番号	実測番号
第Ⅲ-156図	1	6911a	161	SI	床面	20.2	26.2	9.9	8000	不明			86
第Ⅲ-168図	1	5991d	210	SI	1層	29.8	32.7	8.6	11900	不明			106
第Ⅲ-189図	1	5992c	245	SI	床面	26.3	31.3	7.1	8900	不明			92
第Ⅲ-191図	1	5992c	235	SI	床面	21.2	23	9.2	7900	不明			102
第Ⅲ-211図	1	5992d	269	SI	床面	24.8	33.6	9	12000	不明			107
第Ⅲ-223図	1	5993b	1048	SI	床面	18.9	11.9	5.9	2233	不明			87
第Ⅲ-333図	1	5962b・c	123	SI	床面	11.6	15.7	5.6	1979.8	不明			116
第Ⅲ-367図	2	5963d	1190	SI	床面	19.9	28.6	9.9	9700	不明			131
第Ⅲ-368図	1	5963b	1190	SI	第一面1層	24.9	28.8	6.8	6400	不明			134
第Ⅲ-377図	1	5963b	1095	SI	第二面2層	18.4	15.2	4	1443.3	不明		PL-43	123
第Ⅲ-378図	1	5963b	1095	SI	第一面	19	21.7	6.2	3936.6	不明		PL-43	121
第Ⅲ-379図	1	5963b	1095	SI	床面	16.5	7.6	3.4	666.6	不明		PL-42	122
第Ⅲ-402図	3	5963b	129	SI	床面	16.9	15.6	4.5	1710.4	不明			119
第Ⅲ-544図	1	6901a	291	SX	1層	19.7	22.8	8.6	5398.6	不明			83
第Ⅲ-564図	2	5982c	249	SX	1層	29.8	32.1	12.7	15600	不明			108

土器棺墓出土石観察表

押図番号	枚番号	グリッド	遺構番号	遺構種類	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	質量 (mg)	石材	推定産地	特記事項	実測番号
第Ⅲ-609図	1	5953d	1129	SX	壁槽の礎石	15.1	19.6	14.2	5215.7	不明	不明		140
第Ⅲ-609図	2	5953d	1129	SX	壁槽の礎石	17.3	13.6	8.3	2574.3	不明	不明		141
第Ⅲ-609図	3	5953d	1129	SX	壁槽の礎石	26.5	21.5	6.3	5716.5	不明	不明		139
第Ⅲ-611図	1	5953	1150	SX	壁槽の礎石	11.9	9.65		626.0	不明	不明		163
第Ⅲ-648図	1	5954a・b	1077	SX	壁槽の礎石	19.1	21.1	6.1	3473.3	不明	不明		137

勾玉・玉類観察表

押図番号	枚番号	グリッド	遺構番号	遺構種類	出土層位	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚 (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	質量 (mg)	石材	推定産地	特記事項	図版番号	実測番号
第Ⅲ-229図	1	5983c	275	S	1層	管玉	1.25	-	-	0.35	0.15	0.22	碧玉	酒和村		PL-40	70
第Ⅲ-384図	1	5963b	1167	S	1層	管玉	0.95	-	-	0.4	0.15	0.32	碧玉	酒和村		PL-43	69
第Ⅲ-412図	1	5964c	1101	S	1層	勾玉	3.35	-	0.9	-	0.4	5.3	燧水晶	初めの穴が欠損した後、作り直したと思われる。		PL-43	68
第Ⅲ-703図	1	5972a	-	-	包含層	管玉	0.9	-	-	0.3	0.15	0.11		酒和村		PL-45	128

鉄器観察表 1

押印番号	枚番号	グリット	遺構 番号	遺構 種類	出土 層位	種類	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	茎部長 (cm)	茎部幅 (cm)	器厚 (cm)	特記事項	図版 番号	鉄器分析 番号	実測 番号
第III-63回	1	6921b	162	SI	1層上層	鍛造品	ヤリがんな	5.6	1.5	2.5	0.2	3.1	1.3	0.25	X線写真あり。	PL-50		31
第III-63回	2	6921b	162	SI	1層上層	鍛造品	剣の柄	8.3以上	1.7	—	—	8.3以上	1.7	0.6	全体に錆が付着して本体が非常にわかりにくい。	PL-50	UMK-2	7
第III-63回	3	6921b	162	SI	1層下層	鍛造品	鋸造鉄片	4.2	2.6~3.2	—	—	4.2	3.2	0.35~0.5以上		PL-50		26
第III-63回	4	6921b	162	SI	1層下層	鍛造品	鉄鏝	3.2以上	2.0	3.2以上	0.2	—	1.9	2.5		PL-50		27
第III-67回	1	6911c	175	SI	1層	鍛造品	鋸造鉄片	3.35	2.9	—	—	—	—	0.4		PL-50		74
第III-85回	1	6922b	167	SX	2層	鍛造品	鉄鏝	3.3以上	1.85以上	1.1以上	0.2	1.75	0.85	0.2		PL-50		75
第III-85回	2	6922b	167	SX	1層	鍛造品	ヤリがんな	2.9以上	1.9	1.4以上	不明	1.5以上	1.9	0.2		PL-50		76
第III-97回	1	6911d	169	SI	2層	鍛造品	鋸造鉄片を利用した素材	4.5以上	1.6~2.7	—	—	4.5以上	2.3	0.5	鋸造鉄片を利用した素材。錆におおわれていて詳細不明。	PL-50	UMK-7	14
第III-97回	2	6911d	169	SI	1層	鍛造品	鋸造鉄片	4.0以上	2.2~2.6	—	—	4.0以上	2.2	0.5~0.8	器厚は、鏝が、L字になっている。	PL-50		37
第III-97回	3	6912d	169	SI	1層	鍛造品	ヤリがんなの基部	3.2以上	0.5~0.65	—	—	3.2以上	0.5	0.25		PL-50		38
第III-104回	24	6922d	179	SI	3層	鍛造品	鉄鏝	4.1	3.4	4.1	0.2	—	3.4	0.2	木質付着 8mmの僅の矢筈	PL-50		4
第III-111回	1	6922d	183	SI	1層	鍛造品	鉄鏝	3.1以上	2.8以上	2.8以上	0.25	—	2.2以上	0.25		PL-50		73
第III-118回	1	6913c	1058	SI	1層	鍛造品	鋸造鉄片	4.3	2.9~3.9	—	—	4.3	2.9	0.5		PL-50		23
第III-137回	1	5991a	190	SI	P1層方	鍛造品	鋸造鉄片	5.7以上	3.0	3.3	0.4	2.4以上	2.2	0.4		PL-50	UMK-15	17
第III-137回	2	6902c	190	SI	1層	鍛造品	不明(鉄片)	1.9以上	0.9~1.5以上	—	—	1.9以上	0.9	—		PL-50		42
第III-142回	1	6902a	212	SI	1層	鍛造品	鋸造鉄片	3.75	2.4~2.95	—	—	3.75	2.95	0.4~0.6	X線写真あり。	PL-50		33
第III-158回	1	6901a	161	SI	床面	鍛造品	ヤリがんな	3.95以上	1.35	3.95	0.3	—	—	0.25		PL-50		64
第III-169回	1	5991a	210	SI	1層	鍛造品	刀子先端	4.9以上	1.3以上	4.6以上	0.3	4.55以上	1.0	0.4		PL-50		18
第III-177回	1	5991a	216	SI	床面	鍛造品	鋸造鉄片	3.9以上	2.1~2.4以上	—	—	3.9以上	2.4	0.5以上	鋸造鉄片の破片のように見えるが袋の部分の痕跡が見られない。 X線写真あり。	PL-50	UMK-4	9
第III-210回	1	5992d	269	SI	2層	鍛造品	2条突帯斧	3.0	2.3~2.4	—	—	3.0	2.3	0.5		PL-50		34
第III-239回	1	5983c	101	SI	3層	鍛造品	手鐮(鉄製穂柄)	1.7	7.9	7.7	0.2	1.5	7.9	0.1	実測図を参照	PL-50		15
第III-239回	2	5983d	101	SI	3層	鍛造品	鑿状鉄器	4.2以上	2.1	2.1	0.5	3.7以上	2.1	0.35		PL-50	UMK-16	6
第III-239回	3	5983d	101	SI	3層	鍛造品	棒状鉄片	1.8以上	0.45~0.55	—	—	1.8以上	0.55	0.3		PL-50	UMK-12	40
第III-239回	4	5983c	101	SI	3層	鍛造品	穿孔具(棒状鉄片)	7.4以上	0.45~0.6	—	—	7.4以上	0.6	0.25~0.6		PL-50		39
第III-258回	1	5972d	132	SI	2層	鍛造品	鉄鏝	2.8	1.6	2.8	0.2	—	1.4	0.2	鑿製石鏝と形式的に類似	PL-50		32
第III-264回	1	5973d	126	SI	1層	鍛造品	ヤリがんな	3.9以上	1.7以上	1.8	—	3.9以上	1.6	0.5以上	先端部屈曲	PL-50		29
第III-264回	2	5983a	126	SI	1層	鍛造品	鉄鏝	2.8	2.45	2.8	0.1	—	2.45	0.15		PL-50		71
第III-264回	3	5983a	126	SI	1層	鍛造品	棒状鉄片(板)	3.7以上	1.0以上	—	—	3.7以上	0.8	0.2以上		PL-50		30
第III-271回	1	5983a	102	SX	2層	鍛造品	板状鉄片	12.2以上	4.1~5.4	—	—	12.2以上	4.1	0.8~0.9以上	てっぺんの稜線は明確でなく丸い。	PL-50	UMK-8	20
第III-271回	2	5982a	102	SX	2層	鍛造品	棒状鉄片	3.1	0.5	—	—	3.1	0.5	0.2		PL-50		35
第III-283回	1	5974b	122	SI	2層	鍛造品	鑿状鉄器	7.2以上	1.3~1.8以上	1.3	1.9	5.3以上	1.8	0.8以上	柱状片刃石斧と同様な用途と思われる。	PL-50	UMK-3	8
第III-296回	1	5972a	124	SI	3層	鍛造品	鉄鏝	2.3以上	1.3~1.6以上	2.3以上	—	—	1.3	0.25		PL-50		41
第III-349回	1	5962c	1172	SI	2層	鍛造品	手鐮(鉄製穂柄)	2.4	8.0	7.5	0.2	2.2	8.0	0.12	実測図を参照	PL-51		16
第III-369回	1	5963b	1190	SI	第二次床面	鍛造品	鋸造鉄片	2.1以上	2.0	—	—	2.1以上	2.0	0.45		PL-51		83
第III-369回	2	5963	1190	SI	第一次床面	鍛造品	鋸造鉄片	5.1以上	1.55~2.9	—	—	5.1以上	2.9	0.35~0.75	茎部幅は、打ってつぶしている。X線写真あり。	PL-51		36
第III-396回	1	5963d	129	SI	第三次床面	鍛造品	刀子	7.4以上	1.1	2.6以上	0.3	4.8以上	0.8	0.3	錆落とし不十分不明。さや装留 X線写真あり。	PL-51		5
第III-396回	2	5963a	129	SI	第一次床面	鍛造品	鉄鏝	3.2以上	1.2	1.9	0.3	1.3以上	0.3	0.3		PL-51	UMK-17	47
第III-435回	1	5953c	1096	SI	床面	鍛造品	鋸造鉄片	2.7以上	2.9	2.8	0.35	2.25	2.9	0.6		PL-51		90
第III-435回	2	5953c	1096	SI	床面	鍛造品	鉄鏝	3.7以上	1.9	2.1	0.2	1.6以上	0.5	0.2		PL-51		91
第III-435回	3	5953c	1096	SI	4層	鍛造品	鏝	7.3以上	2.15	7.3以上	0.35	4.3	1.8	0.25	基部の部分完全に残っている。	PL-51		46
第III-444回	1	5952c	1186	SI	1層	鍛造品	棒状鉄片	1.2以上	0.2	—	—	1.2以上	0.2	0.2				45
第III-452回	1	5942d	1183	SI	床面	鍛造品	鋸造鉄片	3.5以上	3.3以上	3.5以上	1.0	3.1以上	2.3	0.4	鉄片を石包丁形鉄器に転用した可能性あり。	PL-51	UMK-9	21
第III-508回	1	A地区	11	SI	1層	鍛造品	板状鉄片	8.3	3.9	3.9	1.1	7.2	3.7	0.7	X線写真あり。		UMK-13	95
第III-529回	1	D地区	05	SI	1層	鍛造品	鉄鏝	7.85以上	2.2	4.0	—	3.85以上	0.25~0.9	0.35		PL-51	UMK-14	93
第III-533回	1	6913b	1036	SK	2層	鍛造品	ヤリがんな	3.4以上	0.9~1.7以上	—	—	3.4以上	0.9	0.35~0.4以上		PL-51		28
第III-540回	1	6902b	218	SX	2層	鍛造品	鋸造鉄片	3.5	1.8~2.5以上	—	—	3.5以上	1.8	0.4~0.5以上	X線写真あり。			25
第III-540回	2	6902b	218	SX	2層	鍛造品	鋸造鉄片	2.0	3.0~4.7以上	4.5	0.2	1.8	3.0以上	0.2	木質が横方向に残る。X線写真あり。		UMK-10	22
第III-540回	3	6901a	218	SX	1層	鍛造品	鉄鏝	2.6以上	1.3	1.2	0.2	1.4以上	0.35	0.45	X線写真あり。			69
第III-707回	1	5982c	—	—	包含層	鍛造品	鋸造鉄片	3.8	5.8以上	5.8以上	1.0	2.8	5.8以上	1.0	破損した鋸先を素材として利用しようとした可能性あり。	PL-51	UMK-1	3
第III-707回	2	5982a	—	—	包含層	鍛造品	鑿状鉄器	3.0	2.1	2.1	0.7	2.3	2.1	0.45		PL-51		53
第III-707回	3	5983a	—	—	包含層	鍛造品	鑿状鉄器	2.35	2.1	1.8	0.3	2.05	2.1	0.3		PL-51		52
第III-707回	4	5992b	—	—	包含層	鍛造品	鋸造鉄片	4.8以上	0.6~2.3以上	—	—	4.8以上	1.8	0.5~0.9		PL-51		50
第III-707回	5	5992d	—	—	包含層	鍛造品	鋸造鉄片	4.0	0.8~2.1	—	—	4.0	2.1	0.4~0.5		PL-51		48
第III-707回	6	5972c	—	—	包含層	鍛造品	鋸造鉄片の破片	2.3以上	2.1以上	—	—	2.3以上	2.1	0.4		PL-51		54
第III-707回	7	6913b	—	—	包含層	鍛造品	袋状鉄片	11.5	3.0~4.0	4.1	0.9	10.6	3.4~4.0	0.4	袋部内面に約7cmの長さで木質が残存する。	PL-51	UMK-11	1
第III-707回	8	5983c	—	—	包含層	鍛造品	鉄製穂柄(石包丁型鉄器)	5.7以上	4.2	5.7以上	0.2	5.7	4.0	0.25		PL-51		51

鉄器観察表 2

拝観番号	枚番号	グリット	遺構番号	遺構種類	出土部位	種類	器種	全長 (cm)	全幅 (cm)	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	鋸部長 (cm)	鋸部幅 (cm)	鋸厚 (cm)	特記事項	図版番号	X線図版	実測番号
第Ⅲ-707図	9	6910a	--	--	包含層	鍛造品	鉄製櫛櫛具か鍔先の折り返し部分	3.2以上	0.7~0.9以上	--	--	3.2以上	0.9	0.25		PL-51		44
第Ⅲ-707図	10	5972b	--	--	包含層	鍛造品	櫛造品 櫛状鉄器の鋸部のみ	4.8以上	1.3~2.15以上	--	--	4.8以上	1.3	0.4		PL-51		56
第Ⅲ-707図	11	5962d	--	--	包含層	鍛造品	不明	2.85以上	--	--	--	2.85以上	0.8	0.2		PL-51		57
第Ⅲ-708図	1	6911b	--	--	包含層	鍛造品	鉄鏝	3.3	0.6~1.9	1.9	1.0	2.3	0.6	0.3		PL-51		43
第Ⅲ-708図	2	5983a	--	--	包含層	鍛造品	鉄鏝	3.95以上	2.6	3.25	0.25	--	2.6	0.25		PL-51		63
第Ⅲ-708図	3	5972c	--	--	包含層	鍛造品	鉄鏝	3.6以上	2.7	3.6以上	0.2	--	2.7	0.4		PL-51		55
第Ⅲ-708図	4	5992b	--	--	包含層	鍛造品	鉄鏝	3.3	1.5	3.3	0.3	--	1.5	0.2		PL-51		49
第Ⅲ-708図	5	5972a	--	--	包含層	鍛造品	鉄鏝	2.25	1.05	0.8	0.1	1.45	0.3	0.1		PL-51		62
第Ⅲ-708図	6	5982a.b	--	--	包含層	鍛造品	鉄鏝	2.0以上	2.2以上	2.0以上	0.2	--	2.2以上	0.25		PL-51		77
第Ⅲ-708図	7	北側	--	--	包含層	鍛造品	棒状鉄片	3.8以上	0.6	--	--	3.8以上	0.5	0.3		PL-51		82
第Ⅲ-709図	1	5973b	--	--	掘乱	鍛造品	不明	2.0以上	2.3	--	--	2.0以上	2.3	0.6		PL-52		80
第Ⅲ-709図	2	5944c	--	--	掘乱	鍛造品	やりがんな	5.1以上	2.1	1.5	0.2	3.6以上	1.8	0.2		PL-52		81
第Ⅲ-709図	3	5954d	--	--	掘乱	鍛造品	手鍬 (鉄製櫛櫛具)	3.2	6.5	6.5	0.4以上	2.6	4.85	0.2	木質残存	PL-52		2
第Ⅲ-709図	4	5953b	--	--	掘乱	鍛造品	鏝	9.4以上	3.2	4.2	0.95	9.4以上	2.25	0.5		PL-52		59
第Ⅲ-709図	5	5944d	--	--	掘乱	鍛造品	刀子	5.7以上	1.4	5.2以上	0.15	5.7以上	1.25	0.25				68
第Ⅲ-709図	6	6912c	--	--	掘乱	鍛造品	刀子	5.75以上	1.1	5.35以上	0.45	5.75以上	0.45	0.28		PL-52		58
第Ⅲ-709図	7	6922d	--	--	掘乱	鍛造品	釘	6.75	1.3以上	--	--	0.8	1.3以上	0.6		PL-52		13
第Ⅲ-709図	8	5944c	--	--	掘乱	鍛造品	釘 (棒状鉄片)	3.1以上	0.7	--	--	0.5	0.6	0.5	同じ袋に2個はいつている。	PL-52		67
第Ⅲ-710図	1	6912a	--	--	掘乱	鍛造品	鉄鏝	6.1以上	2.9以上	3.9	0.5	2.2	2.9	0.25		PL-52		19
第Ⅲ-710図	2	5944c	--	--	掘乱	鍛造品	鉄鏝	5.6以上	1.85	--	--	5.6以上	0.3	0.3	同じ袋に2個はいつている。	PL-52		66
第Ⅲ-710図	3	5923d	--	--	掘乱	鍛造品	鉄鏝	4.9	2.95	3.4	0.3	1.5	2.95	0.25		PL-52		70
第Ⅲ-710図	4	5954c	--	--	掘乱	鍛造品	鉄鏝	4.0以上	1.8	4.0	0.15	--	--	0.15		PL-52		65
第Ⅲ-710図	5	5953b	--	--	掘乱	鍛造品	剃の柄の部分	9.7以上	1.8~2.0	--	--	9.7以上	1.8	0.7	錆ついでいて、本体が見えにくい。X線写真あり。	PL-52		61
第Ⅲ-710図	6	5952a	--	--	掘乱	鍛造品	鉄鏝	4.9以上	0.4~1.4	0.8	--	4.1以上	0.4	0.4	刃部に錆が付着して、刃部幅は詳細不明。	PL-52		60
第Ⅲ-711図	1	B2区	--	--	包含層	鍛造品	釘	5.35以上	1.2	--	--	0.95	1.2	0.7				84
第Ⅲ-712図	1	C2地区	--	--	包含層	鍛造品	やりがんな	3.7以上	1.8	3.7以上	--	--	1.8	0.2				92
第Ⅲ-727図	1	6816d	--	--	包含層	鍛造品	鋳造鉄片	3.0	1.1~1.9	1.5	0.2	2.8	0.9	0.2~0.3		PL-52	UMK-6	12
第Ⅲ-727図	2	6815	--	--	包含層	鍛造品	鋳造鉄片	2.55	2.2以上	--	--	2.55	2.2以上	0.35		PL-52		72
第Ⅲ-727図	3	6815a	--	--	包含層	鍛造品	釘	3.75以上	0.9	--	--	1.05	0.9	0.4		PL-52		87
第Ⅲ-727図	4	6806b	--	--	包含層	鍛造品	釘	4.75以上	0.85	--	--	--	0.6	四角い釘と思われる 中の部分が 錆で空洞になっている。			99	
第Ⅲ-727図	5	--	--	--	用水路	鍛造品	鉄鏝	2.5	1.55	2.5	0.1	--	1.5	0.15	たがねで切った可能性。	PL-52		10
第Ⅲ-728図	1	二地区	--	--	包含層	鍛造品	刀子	6.4以上	1.1	4.65	0.6	6.4以上	0.8	0.3				104
第Ⅲ-728図	2	--	--	--	用水路	鍛造品	刀子	3.1以上	1.35	3.1以上	0.25	3.1以上	--	0.2				103
第Ⅲ-728図	3	ト地区	--	--	包含層	鍛造品	刀子	2.3以上	1.3	2.3以上	0.25	2.3以上	--	0.3				106
第Ⅲ-728図	4	ヘ地区	--	--	包含層	鍛造品	鏝	4.05	0.6	--	--	--	--	0.3				100
第Ⅲ-728図	5	子地区	--	--	包含層	鍛造品	棒状鉄片	2.95以上	0.2~0.4	--	--	--	--	0.3以上				105
第Ⅲ-728図	6	ト地区	--	--	包含層	鍛造品	鉄鏝	5.0	2.0	5.0	0.2	--	2.0	0.2		PL-52		79
第Ⅲ-728図	7	--	--	--	掘乱水路	鍛造品	鉄鏝	3.3	2.2	3.3	0.2	--	2.2	0.2		PL-52		78
第Ⅲ-728図	8	--	--	--	用水路	鍛造品	剃の柄	3.4以上	1.9以上	--	--	3.4以上	1.9以上	0.65				89
第Ⅲ-729図	1	--	--	--	掘乱水路	鍛造品	鋳造鉄片	6.1	4.4以上	0.7	2.5以上	5.4	4.0以上	0.55				101
第Ⅲ-729図	2	--	--	--	掘乱水路	鍛造品	鋳造鉄片	2.8	3.2	3.1	0.55	2.25	3.2	0.5				96
第Ⅲ-729図	3	--	--	--	掘乱水路	鍛造品	石包丁形鉄器	5.7以上	3.85	5.7以上	0.2	4.7以上	3.65	0.5				88
第Ⅲ-729図	4	ヘ地区	--	--	3層 (下層)	鍛造品	板状鉄片	6.5	2.1~3.2	3.2	0.8~1.3	5.2~5.7	2.1	0.25~0.45	鋳造鉄片の破片を利用して作ったもの。表面には、刃を作り出しており、片刃となっている。打撃によりゆがみあり。	PL-52	UMK-5	11
第Ⅲ-729図	5	--	--	--	掘乱水路	鍛造品	袋状鉄片	8.5	3.05~4.2	4.2	1.5	7.0	3	2.1				94
第Ⅲ-729図	6	--	--	--	掘乱水路	鍛造品	やりがんな	3.0以上	1.55以上	3.0以上	0.2	--	--	0.2				98
第Ⅲ-729図	7	子地区	--	--	包含層	鍛造品	やりがんな	3.8以上	1.5	--	--	3.8以上	1.5	0.2		PL-52		86
第Ⅲ-729図	8	子地区	--	--	包含層	鍛造品	やりがんな	8.0	2.0	3.5	0.25	4.5	2.0	0.25		PL-52		85
第Ⅲ-729図	9	--	--	--	掘乱水路	鍛造品	やりがんな	4.5以上	1.15	--	--	4.5以上	1.3	0.2				102
第Ⅲ-765図	1	確認調査区2			2b層	鍛造品	鉄片	3.0	2.35	2.1	0.6	2.3	2.3	0.55	鋳造鉄片の破片を利用して作ったもの。表面には、刃を作り出しており、片刃となっている。刃部に直交して一糸突帯あり。	PL-52		97

図 版



遺跡周辺航空写真（西から）



(1) 2区北側全景
(空中写真)



(2) 2区南側全景
(空中写真)



(1) 2区北部
土器棺墓出土状況
(空中写真)



(2) 2区中央部
遺構発掘状況
(空中写真)



(1) 2区中央部全景
(東から)



(2) 2区中央部全景
(北から)



(3) 169SI
(南から)



(1) 173SI
(東から)



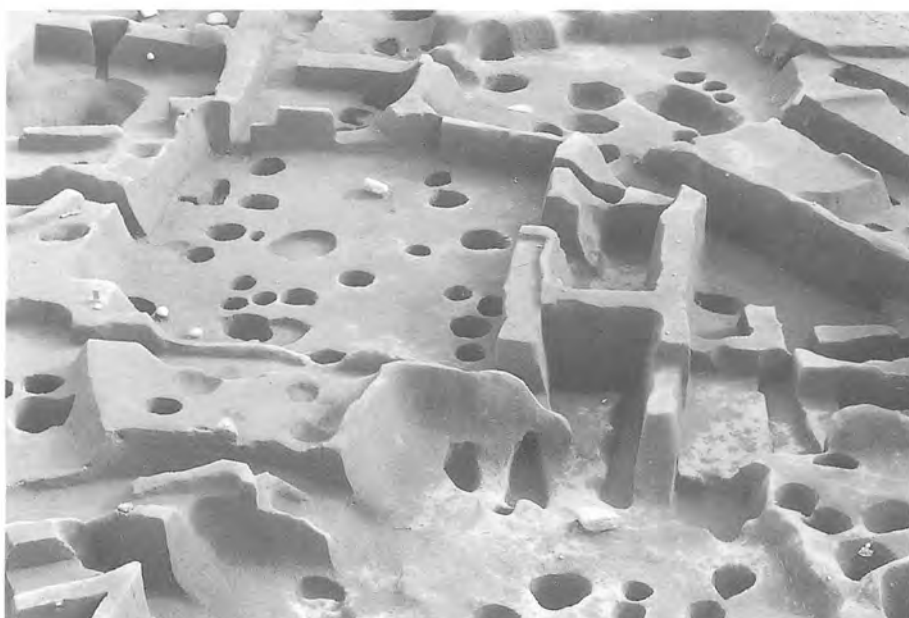
(2) 209・210SI
(東から)



(3) 221SI
(東から)



(1) 216・217・210・221SI
(東から)



(2) 270・272SI
(北から)



(3) 275SI
(北から)



(1) 101SI
(西から)



(2) 122SI
(北から)



(3) 1194・1174・
1175・123SI
(東から)



(1) 123・1196SI
(東から)



(2) 1172・1173SI
(東から)



(3) 1095SI
(東から)



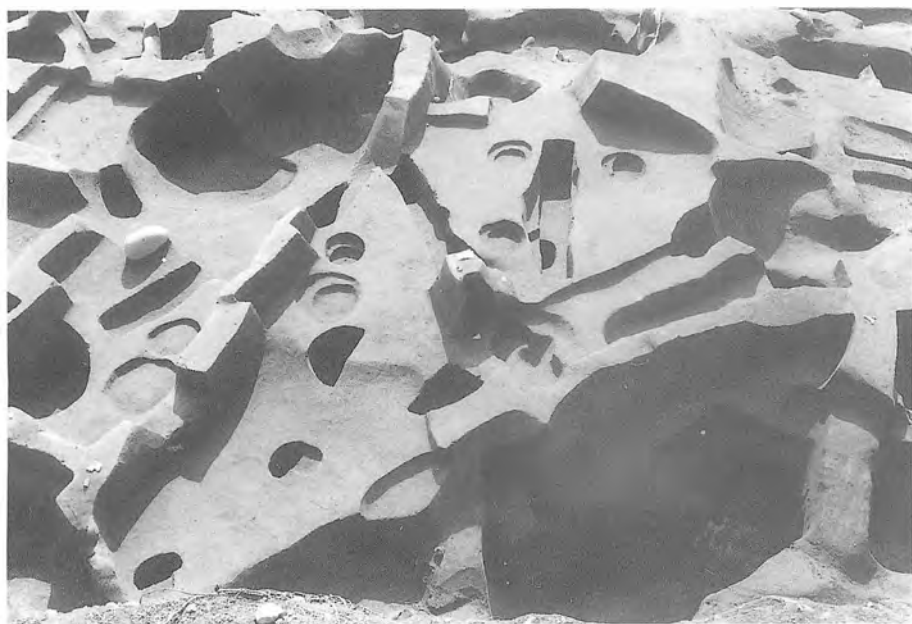
(1) 129SI
(西から)



(2) 129SI
(東から)



(3) 1095・1097SI
(東から)



(1) 1139SI
(東から)



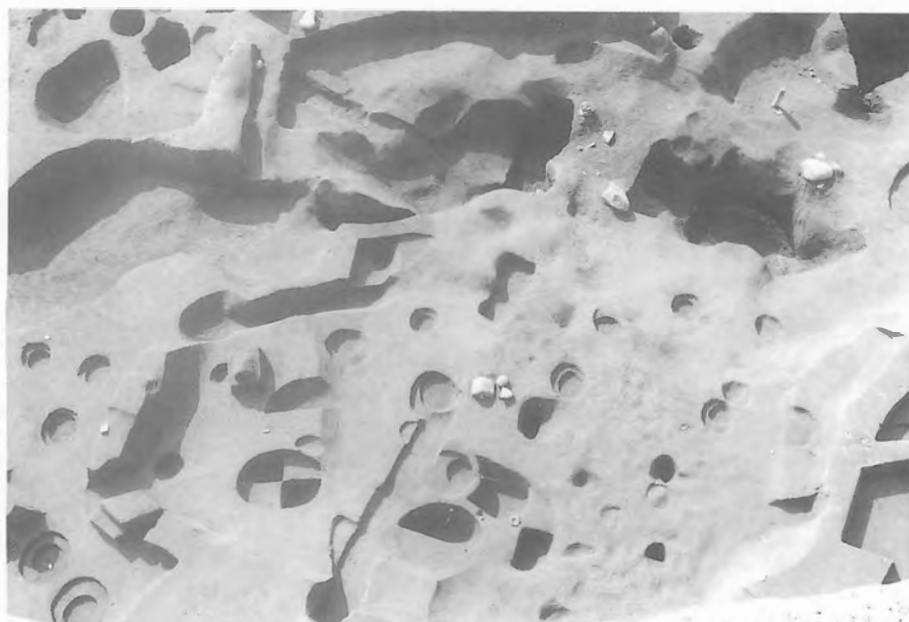
(2) 1152SI
(東から)



(3) 1096SI
(東から)



(1) 1182・1186SI
(東から)



(2) 1179SI
(東から)



(3) 1096SI
(東から)



(1) 1区 縄文前期～中期初めの遺構検出状況



(2) 1区 V層検出集石 (北東から)



(3) 1区 V層検出集石 断面 (北東から)



(4) No.82区 03SI・05SI (南から)



(5) No.82区 05SI・02SI・07SI (南から)



(6) No.82区 15SI (西から)



(7) 東西水路 A・B地区 (西から)



(8) 東西水路D地区 05SI炭化物検出状況 (北から)



(1) 1076・1079・
1078SX 他
(北西から)



(2) 1077・1079・
1078・1082・
1081・1084SX 他
(北西から)



(3) 2区北側
土器棺墓完掘状況
(西から)



(1) 230SX (北東から)



(2) 229SX (北から)



(3) 228SX (北から)



(4) 289SX (北東から)



(5) 1129SX (南から)



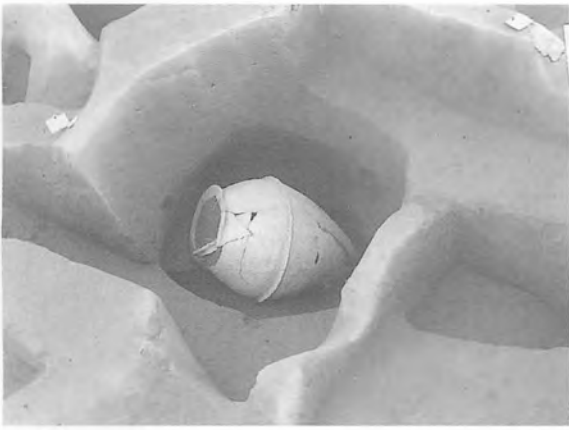
(6) 1129SX 土器棺内遺物出土状況 (東から)



(7) 1150SX (南東から)



(8) 1150SX 土器棺内遺物出土状況 (北から)



(1) 1154SX (南から)



(2) 1154SX 土器棺内遺物出土状況 (南西から)



(3) 1075SX (北から)



(4) 1075SX 土器棺内遺物出土状況 (東から)



(5) 1131SX (北から)



(6) 1083SX (東から)



(7) 1076SX (北から)



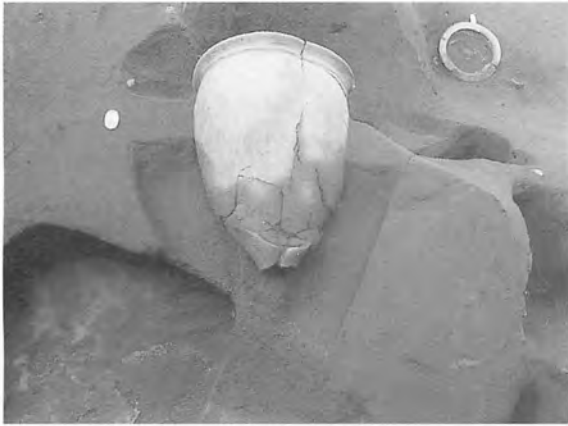
(8) 1108SX (北東から)



(1) 2区 1081SX (北から)



(2) 2区 1082SX (南から)



(3) 2区 1080SX (西から)



(4) 2区 1082SX 土器棺内遺物出土状況



(5) 2区 1077SX (南から)



(6) 2区 1077SX 土器棺内遺物出土状況 (南から)



(7) 2区 1079SX (北から)



(8) 新No.61区 04SX (東から)



(1) 2区 287SX (東から)



(2) 2区 1135SX (南から)



(3) 2区 1153SX (北から)



(4) 2区 1135SX 木棺墓内遺物出土状況 (南から)



(5) 新 No.61 区全景 (東から)



(6) 新 No.61 区 04SX 周辺 (東から)



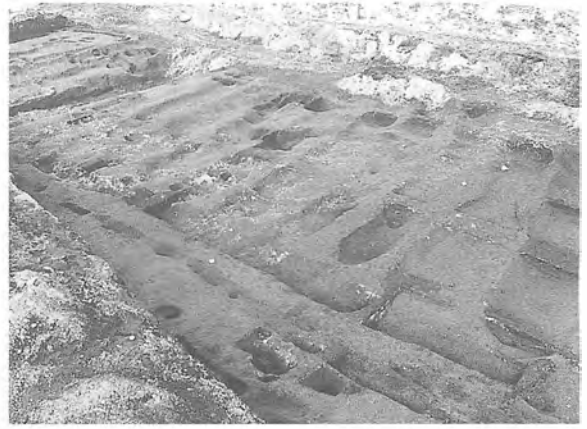
(7) 新 No.61 区 05・90SX 他 (西から)



(8) 仮 No.61 区全景 (南から)



(1) 1区全景 (南から)



(2) 4区全景 (南西から)



(3) 確認調査区1 505SX 他 (南から)



(4) 確認調査区1 508SX (北から)



(5) 確認調査区1 504SX (南から)



(6) 確認調査区2 全景 (東から)



(7) 作業風景 1



(8) 作業風景 2



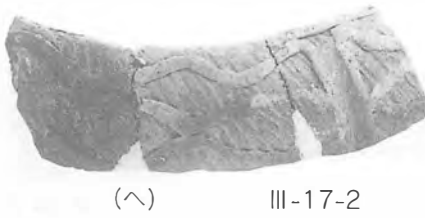
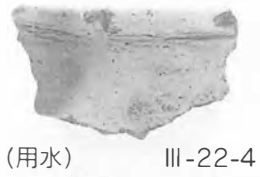
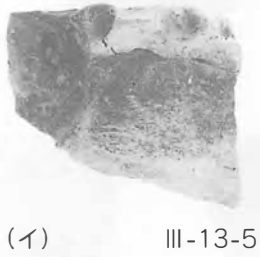
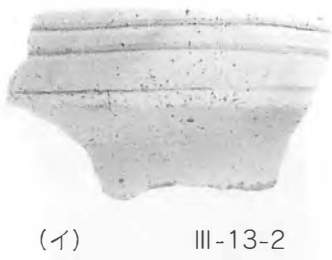
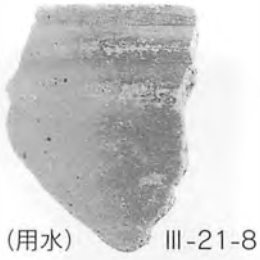
(1) 千地区出土縄文土器(尾田式)

III-6-1



(2) 千地区出土縄文土器(轟C・D式)

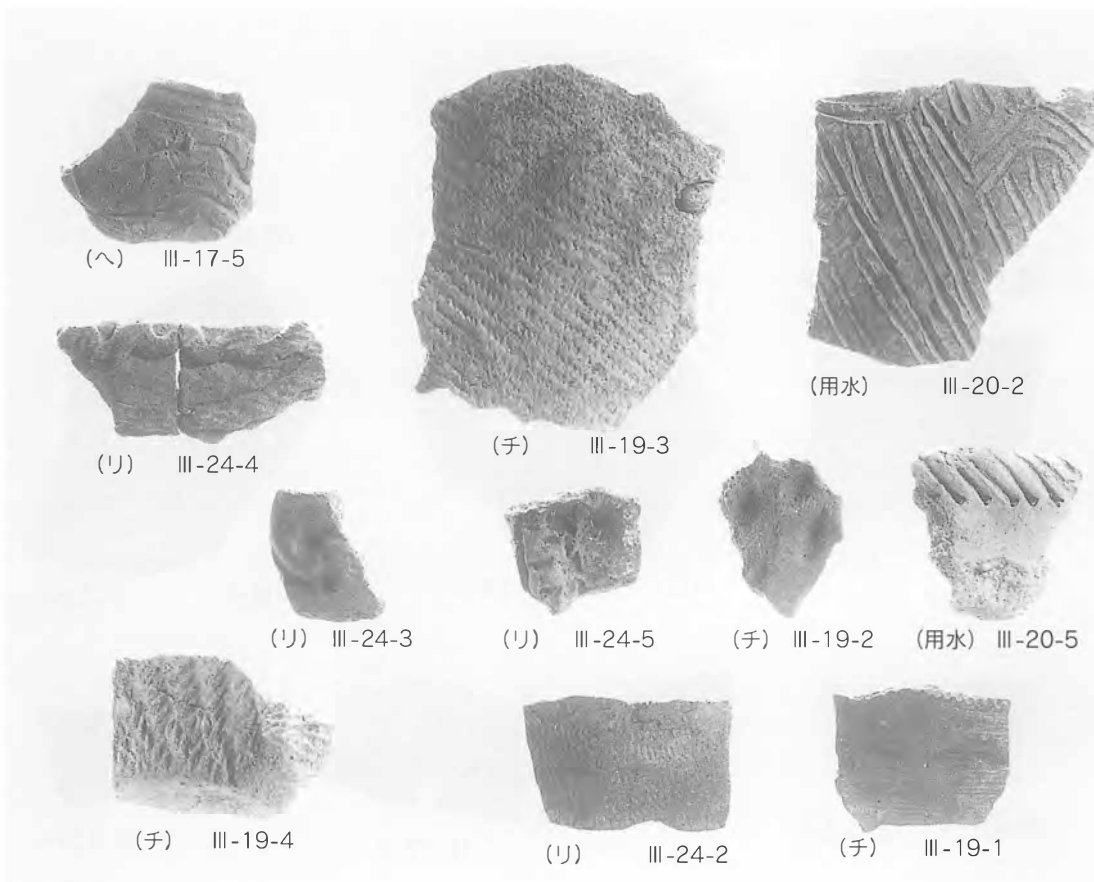
III-7-1



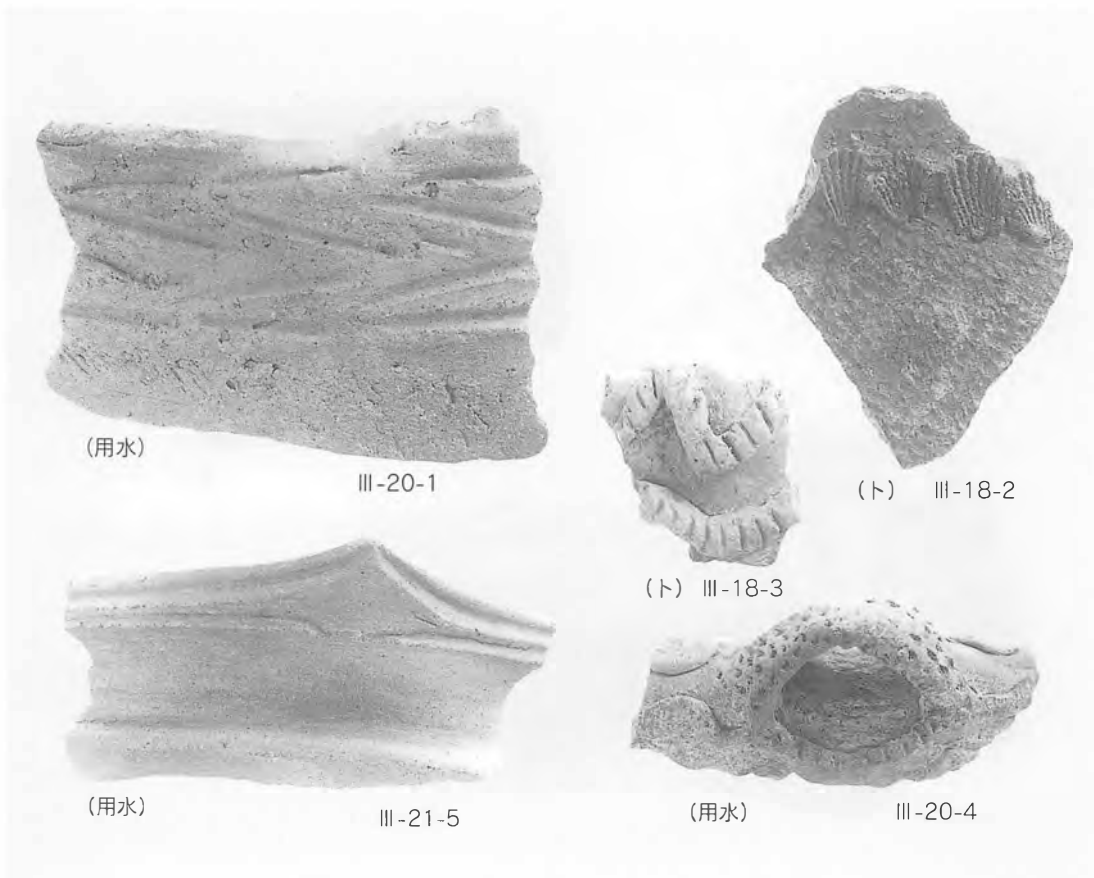
(1)



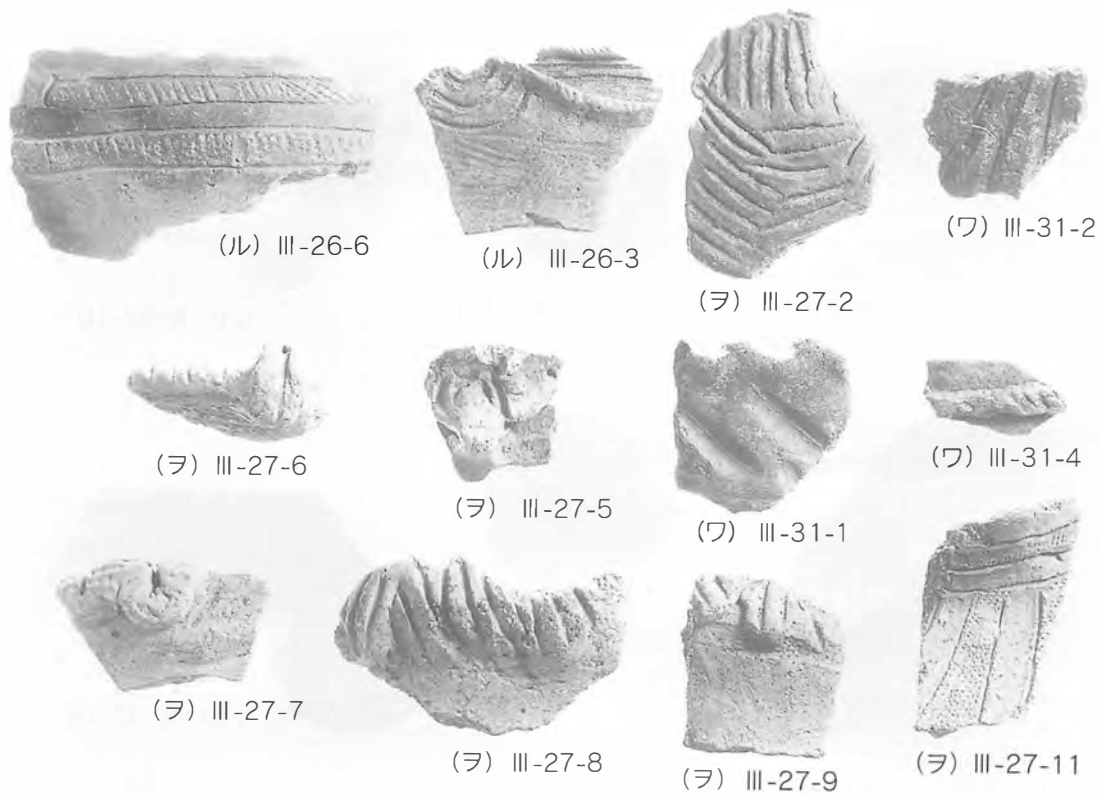
(2)



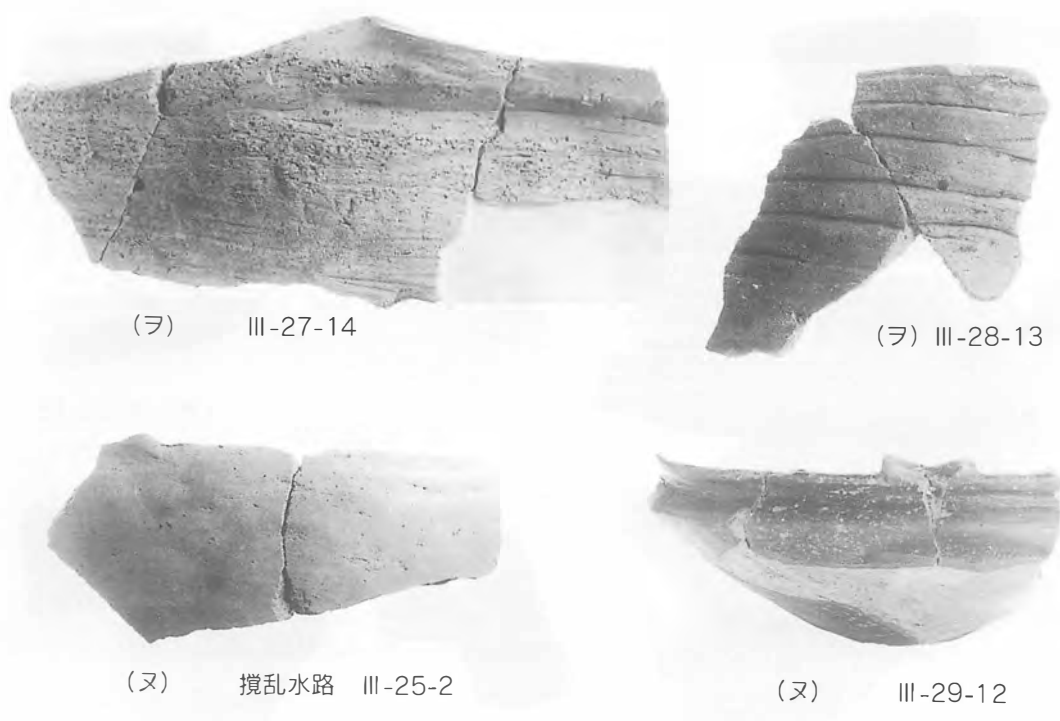
(1)



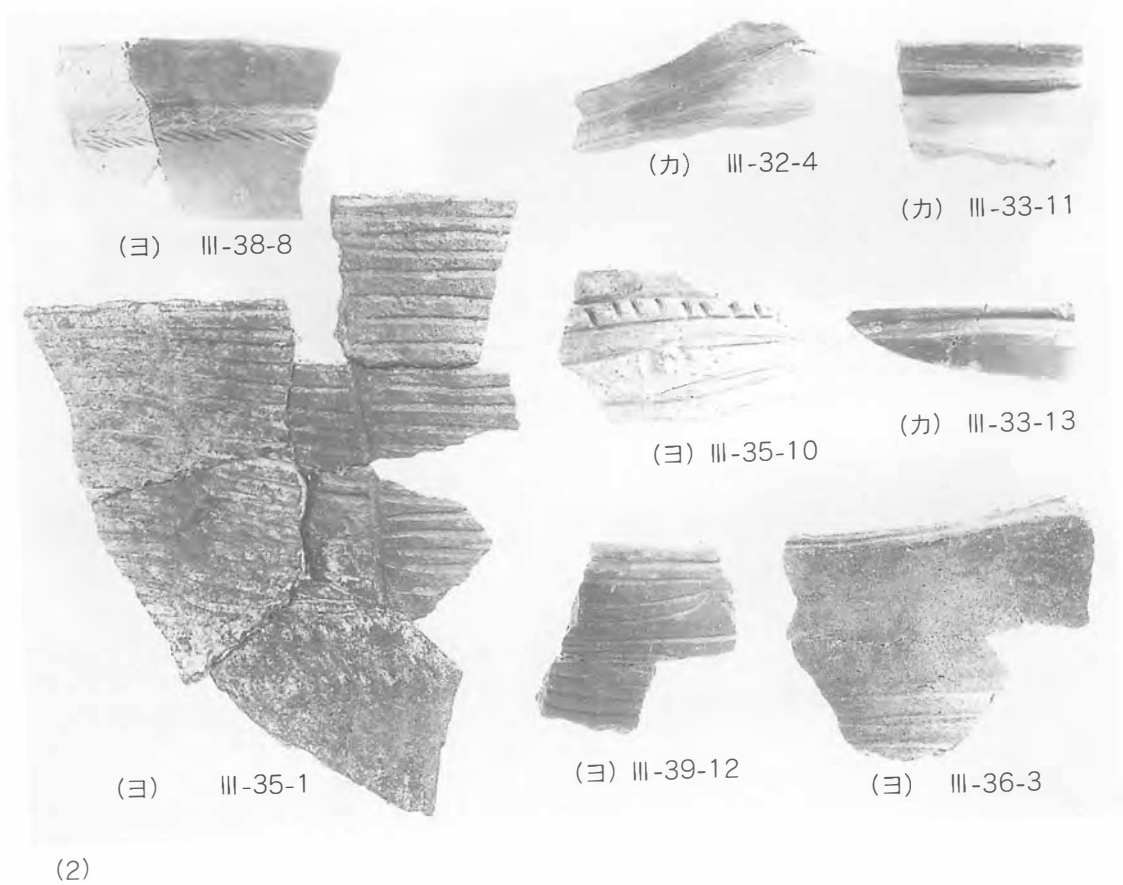
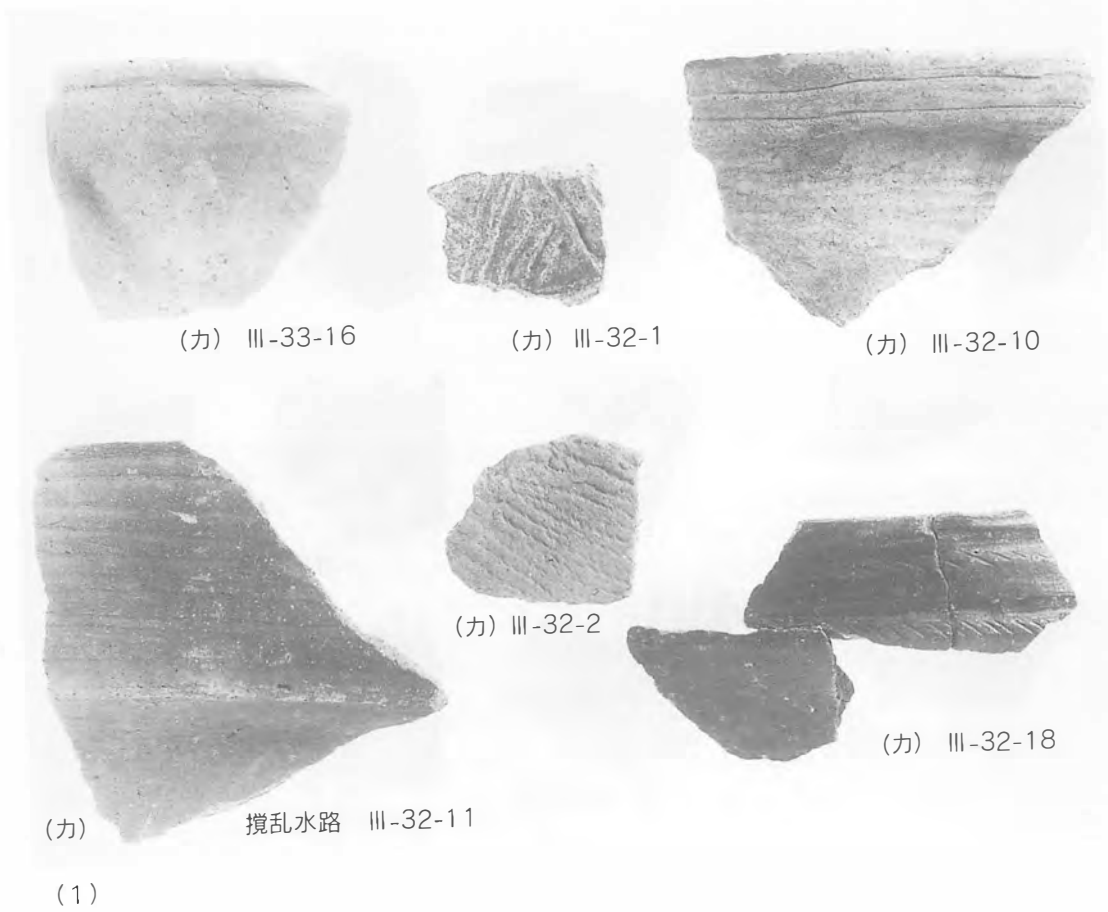
(2)

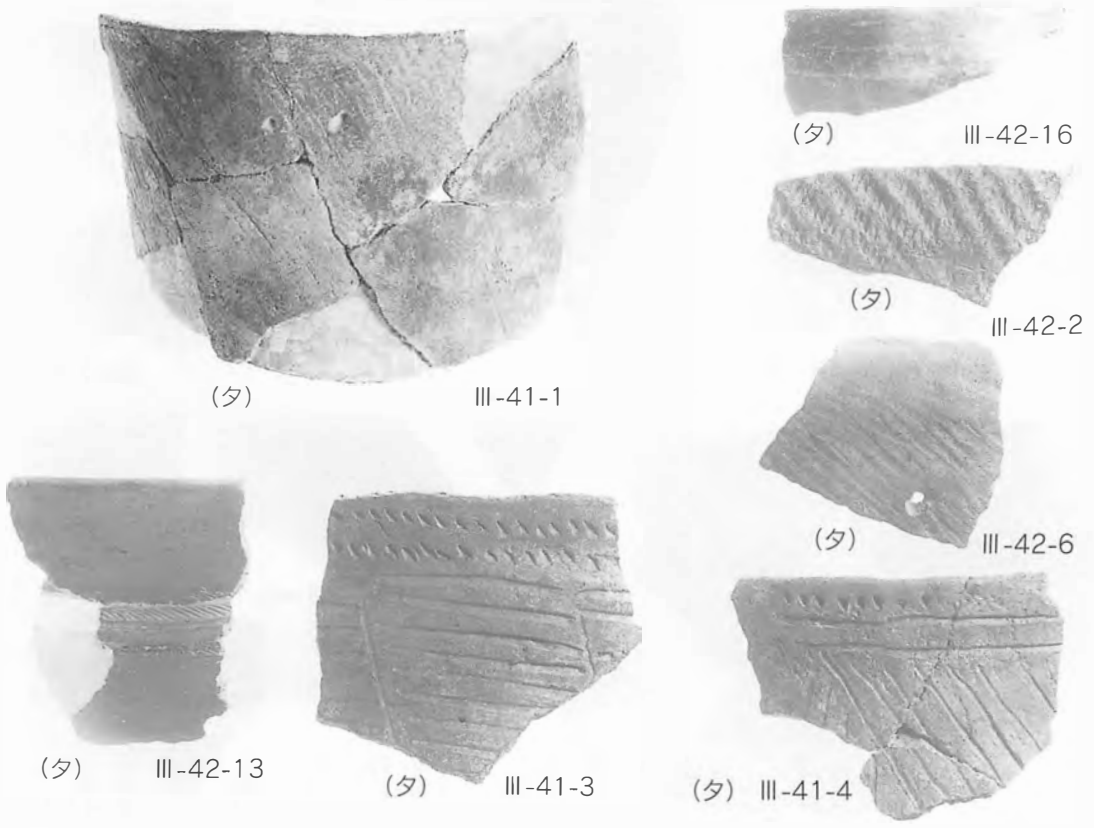
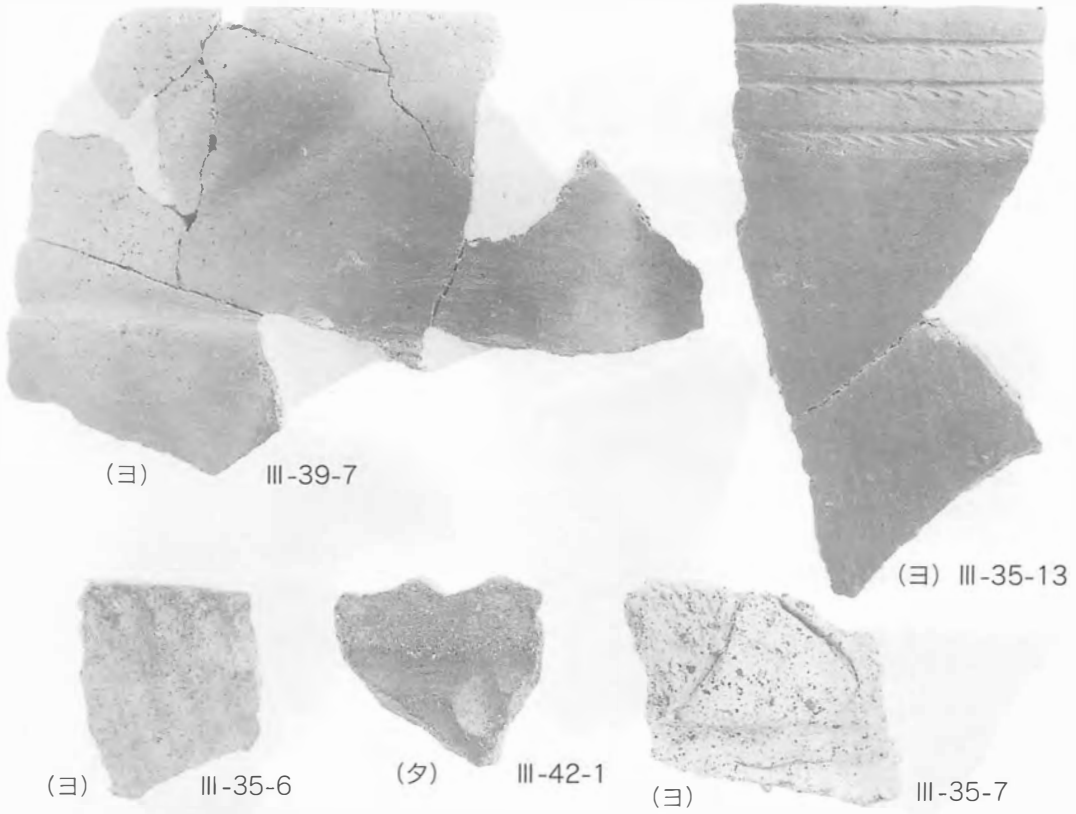


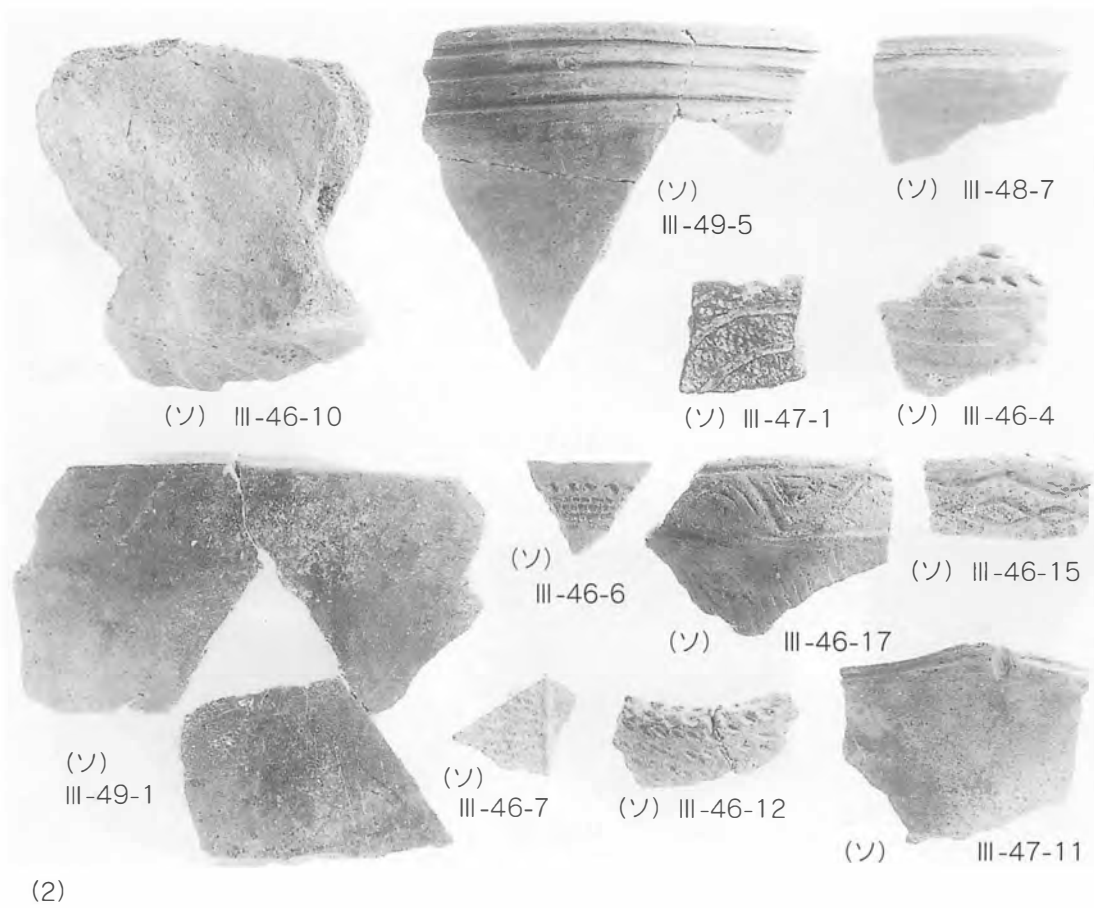
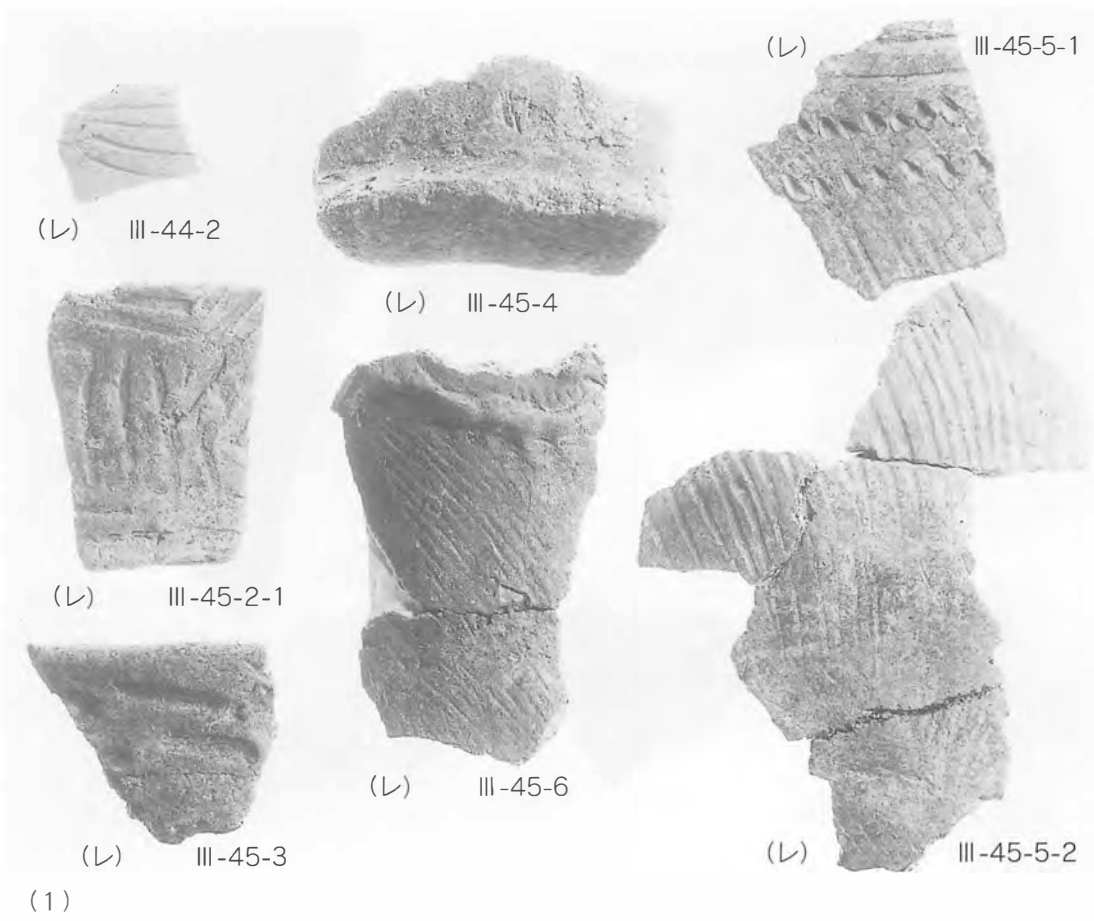
(1)



(2)









(1) 181SI III-53-11



(2) 181SI III-53-12



(3) 186SI III-55-3



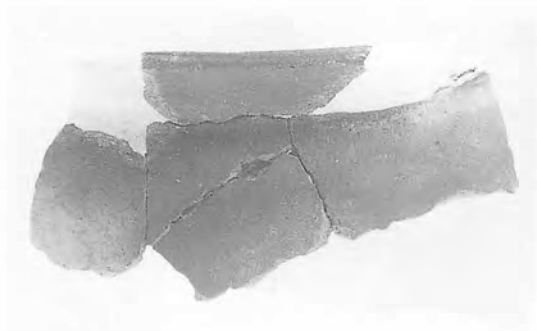
(4) 160SI III-70-1



(5) 182SI (内面)



(外面) III-79-10



(1) 160SI

III-70-7



(2) 192SI

III-64-2



(4) 167SX

III-87-1



(3) 179SI

III-104-11



(5) 1236SI

III-88-3



(6) 169SI III-94-17
須恵器瓶子 (混入)



(7) 167SX III-88-15



(8) 167SX III-89-17



(1) 180SI III-106-5



(3) 183SI・炉 III-112-1



(2) 180SI III-106-7



(4) 286SI III-204-8



(5) 272SI III-226-3



(6) 286SI III-204-2



(7) 269SI III-207-2



(8) 132SI III-256-30



(1) 272SI

III-226-1



(2) 141SI

III-276-9



(3) 128SI

III-274-1



(4) 101SI

III-236-7



(5) 126SI III-262-22



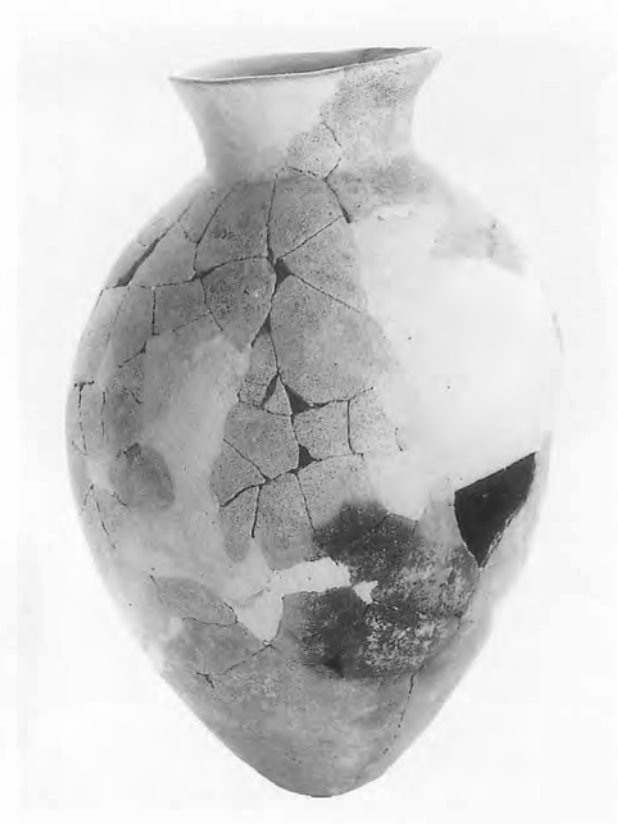
(6) 127SI

III-281-3



(7) 138SI

III-318-3



(8) 123SI

III-328-1



(1) 123SI III-332-21



(2) 123SI III-329-8



(5) 1185SI III-371-11



(3) 123SI III-329-9



(6) 1103SI III-415-4



(4) 123SI III-329-7



(8) No.82区01SI III-481-9



(7) 1146SI III-456-1



(1) 230SX

III-591-1



(2) 229SX

III-597-1



(3) 228SX (上鉢)

III-601-1



(5) 289SX (上甕)

III-605-1



(4) 228SX (下甕)

III-601-2



(6) 289SX (下壺)

III-605-2



(1) 1129SX

III-610-1



(2) 1150SX

III-612-1



(3) 1154SX

III-615-1



(4) 1075SX

III-618-1



(1) 1131SX

III-620-1



(2) 1083SX

III-625-1



(3) 1076SX

III-627-1



(4) 1084SX

III-628-1



(1) 1108SX

III-630-1



(2) 1081SX

III-632-1



(3) 1082SX

III-634-1



(4) 1080SX

III-638-1



(1) 1079SX

III-643-1



(2) 1077SX

III-645-1



(3) 208SX

III-594-1



(5) 新No61区04SX

III-657-1



(4) 208SX

III-594-2



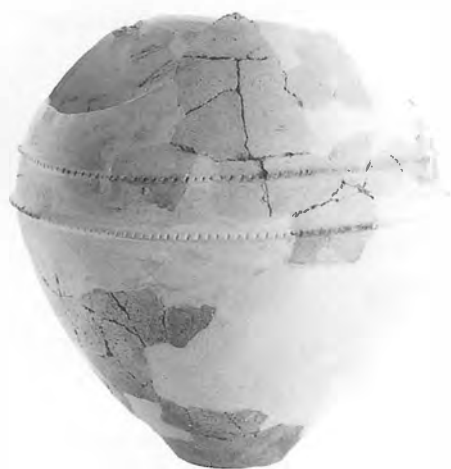
(1) P18区1238SX

Ⅲ-652-1



(2) P18区1239SX

Ⅲ-654-1



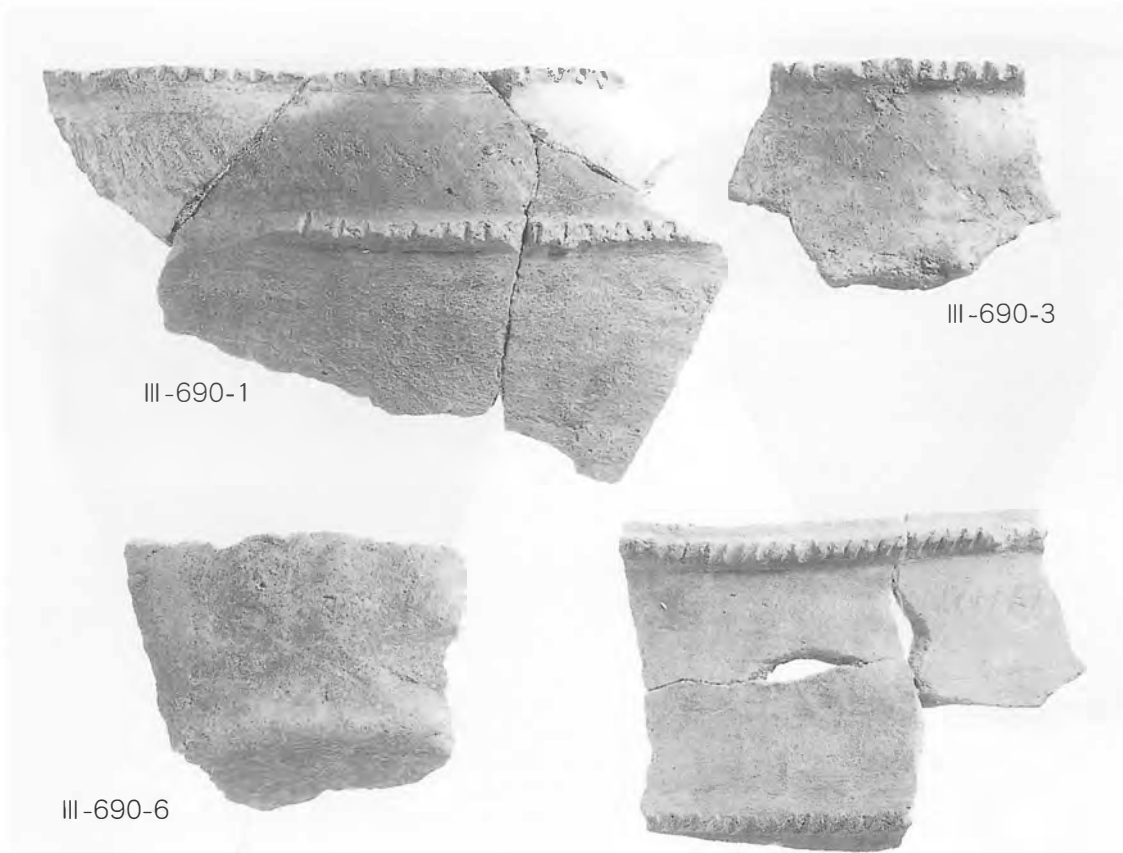
(3) 1033SK

Ⅲ-532-4



(4) 170SX

Ⅲ-536-1



(1) 夜白式～板付式土器



(2) III-691-5

(3) III-691-4

(4) III-691-3



(1) 198SI



(2) 198SI

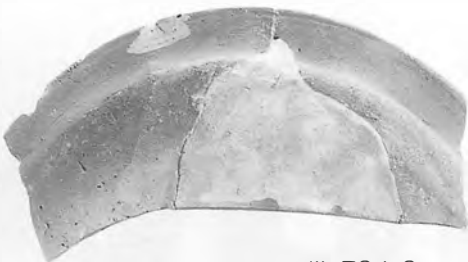
III-733-1



III-734-6



III-734-9



III-734-3



III-734-7

(3) G6923



(4) 198SI

III-733-3



(5) 攪乱 III-744-2



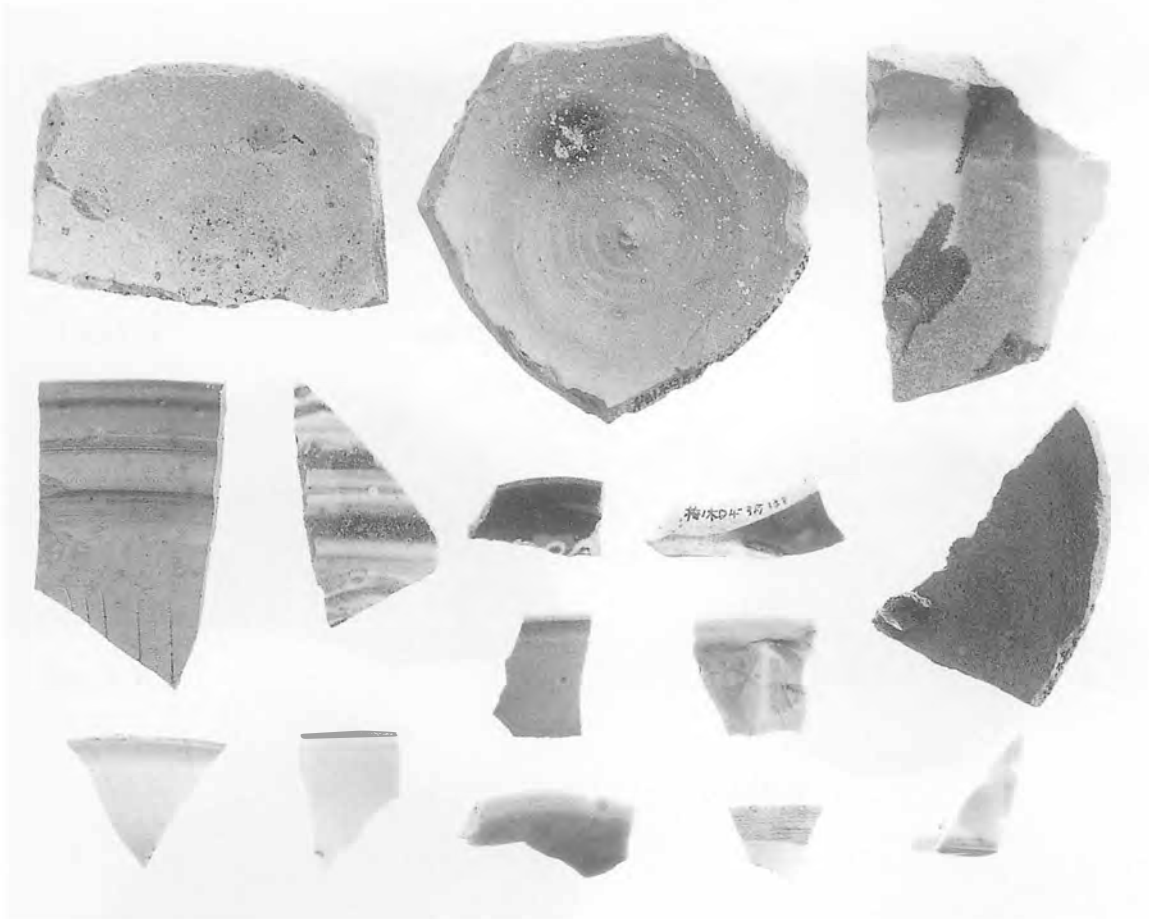
(7) 攪乱 III-744-3



(6) 遺物包含層 III-744-1



(8) 198SI III-733-5

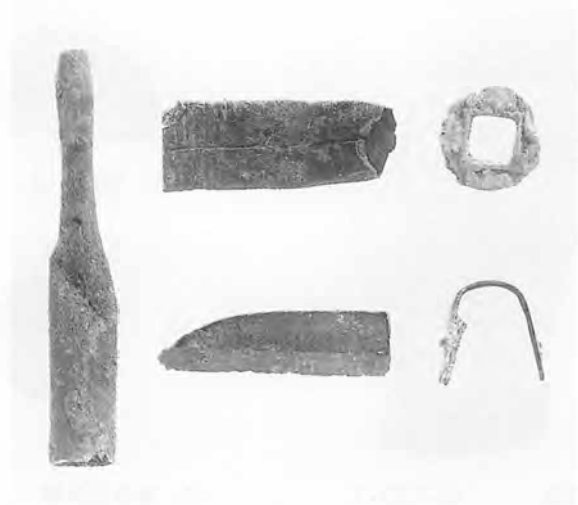


(1) 1・4区出土陶磁器

(2) 2区攪乱・G5963出土
銅錢



(3) 1区・2区攪乱出土
銅製品





(上) (1) 162SI (III-62-1)
(下) (2) 167SX (III-84-2)



(5) 169SI (左) III-98-3
(6) 169SI (右) III-98-2



(左) (3) 167SX (III-84-1)
(右) (4) 160SI (III-74-1)



(7) 169SI (III-98-4)



(左) (10) 198SI (III-731-1)
(右) (11) 190SI (III-136-1)



169SI (左) (8) III-99-2 (右) (9) III-99-1



(上) (1) 180SI (III-109-1)
(下) (2) 165SI (III-153-1)



(上) (3) 180SI (III-109-2)
(中) (4) 161SI (III-157-2)
(下) (5) 209SI (III-172-1)



(6) 161SI (III-157-1)



(左) (7) 270SI (III-216-1)
(右) (8) 286SI (III-205-2)



(上段左) (9) 272SI (III-227-1) (上段右) (10) 275SI (III-229-1)
(中段左) (11) 101SI (III-238-2) (中段中央) (12) 286SI (III-205-1)
(中段右) (13) 101SI (III-238-3) (下段) (14) 101SI (III-238-4)

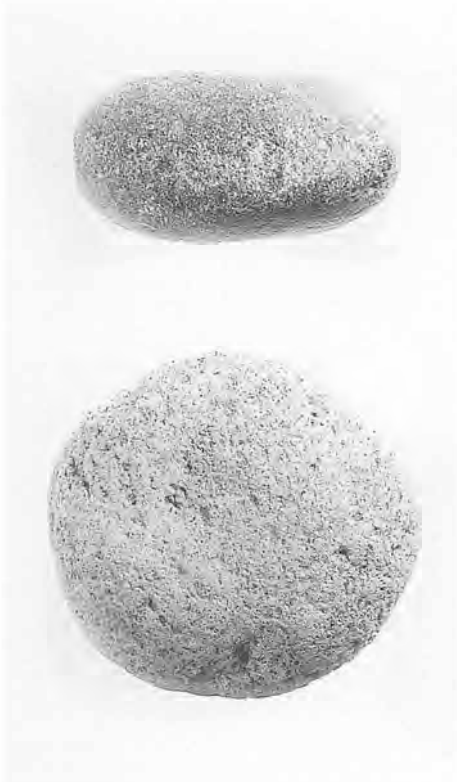


(上)(1)132SI (Ⅲ-257-1)
(下)(2)132SI (Ⅲ-257-2)

(左上)(3)234SI (Ⅲ-249-1) (上中央)(4)132SI (Ⅲ-259-2)
(右上)(5)132SI (Ⅲ-257-3) (左下)(6)132SI (Ⅲ-259-1)
(右下)(7)132SI (Ⅲ-259-3)



(左上)(8)224SI (Ⅲ-245-1) (上中央)(9)103SI (Ⅲ-266-1) (右上)(10)126SI (Ⅲ-263-1)
(下段)左から(11)126SI (Ⅲ-263-2) (12)127SI (Ⅲ-282-1) (13)122SI (Ⅲ-287-1)
(14)122SI (Ⅲ-287-2) (15)126SI (Ⅲ-263-3)



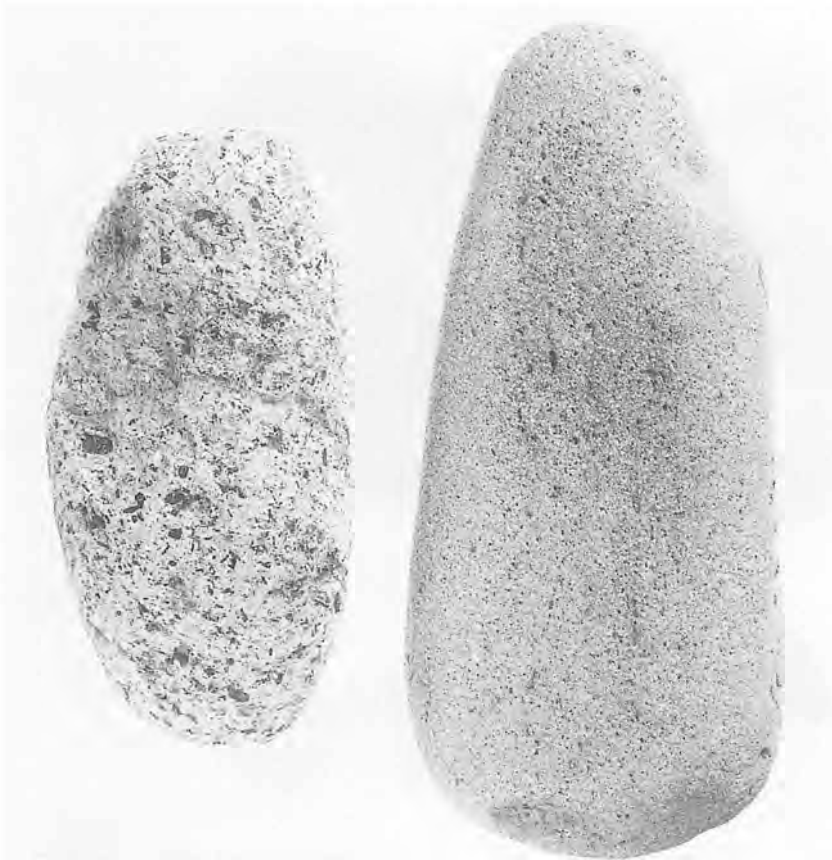
(上) (1) 123SI (Ⅲ-333-3)
 (下) (2) 1194SI (Ⅲ-304-2)



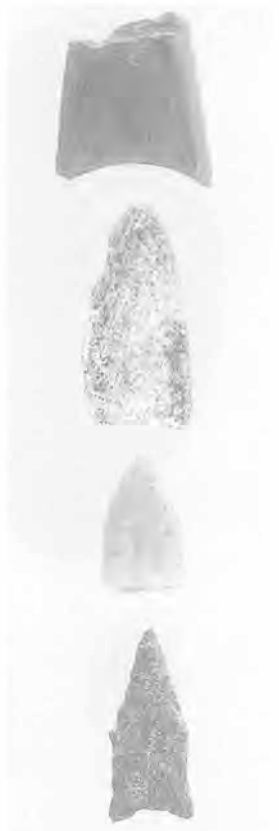
(左) (3) 124SI (Ⅲ-295-2) (中央) (4) 124SI (Ⅲ-295-3)
 (右) (5) 123SI (Ⅲ-334-3)



(左) (6) 124SI (Ⅲ-295-1)
 (右) (7) 123SI (Ⅲ-334-1)



(左) (8) 1190SI (Ⅲ-367-1) (右) (9) 1095SI (Ⅲ-379-1)

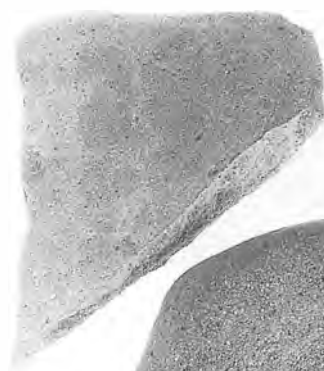


(上から)
 (10) 1172SI (Ⅲ-348-1)
 (11) 1172SI (Ⅲ-348-2)
 (12) 1173SI (Ⅲ-350-1)
 (13) 1105SI (Ⅲ-360-1)



(1)1185SI

(III-373-1)



(上)(4)1095SI
(下)(5)1095SI

(III-377-1)
(III-378-1)



(2)1167SI
(III-384-1)



(3)129SI
(III-401-1)



(上段左から)	(6)1101SI	(III-412-1)	(7)1103SI	(III-418-1)	(8)1103SI	(III-418-2)
(中段左から)	(9)1133SI	(III-417-1)	(10)1133SI	(III-417-2)	(11)1096SI	(III-433-3)
(下段左から)	(12)1133SI	(III-417-3)	(13)1133SI	(III-417-4)	(14)1133SI	(III-417-5)
	(15)1096SI	(III-433-4)	(16)1121SI	(III-423-1)		

1区 土坑出土石器



(左)(3)249SX (Ⅲ-564-1) (左)(5)251SX (Ⅲ-582-1)
 (右)(4)134SK (Ⅲ-566-1) (右)(6)244SX (Ⅲ-542-1)

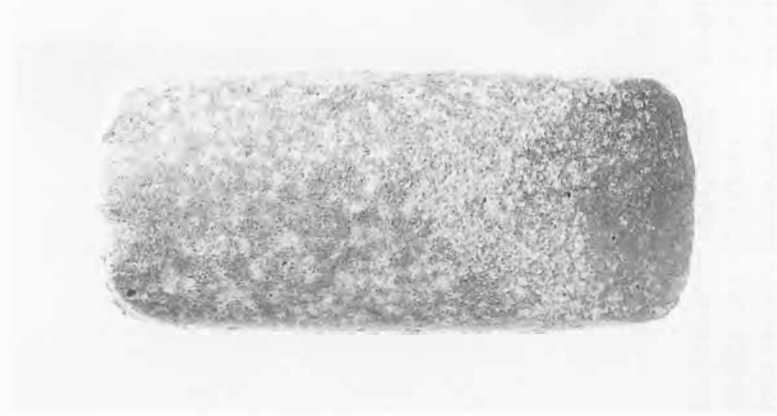


(上)(1)227SX (Ⅲ-558-1)
 (下)(2)139SK (Ⅲ-568-1)



(7)1140SK (Ⅲ-573-1)

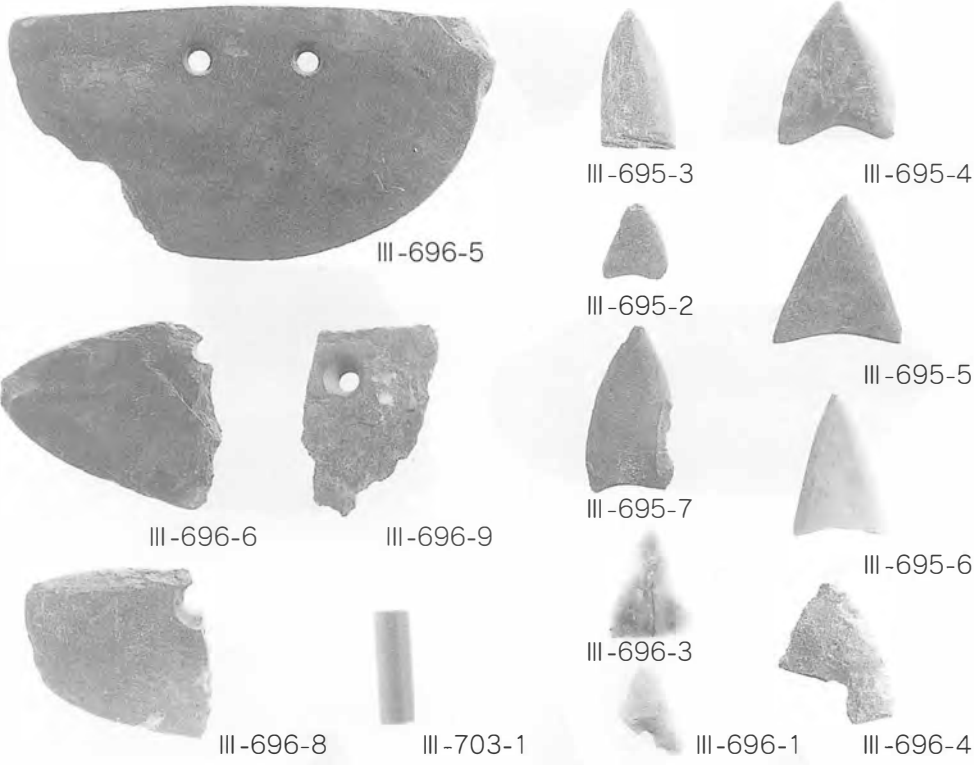
2区 遺物包含層出土石器 ①



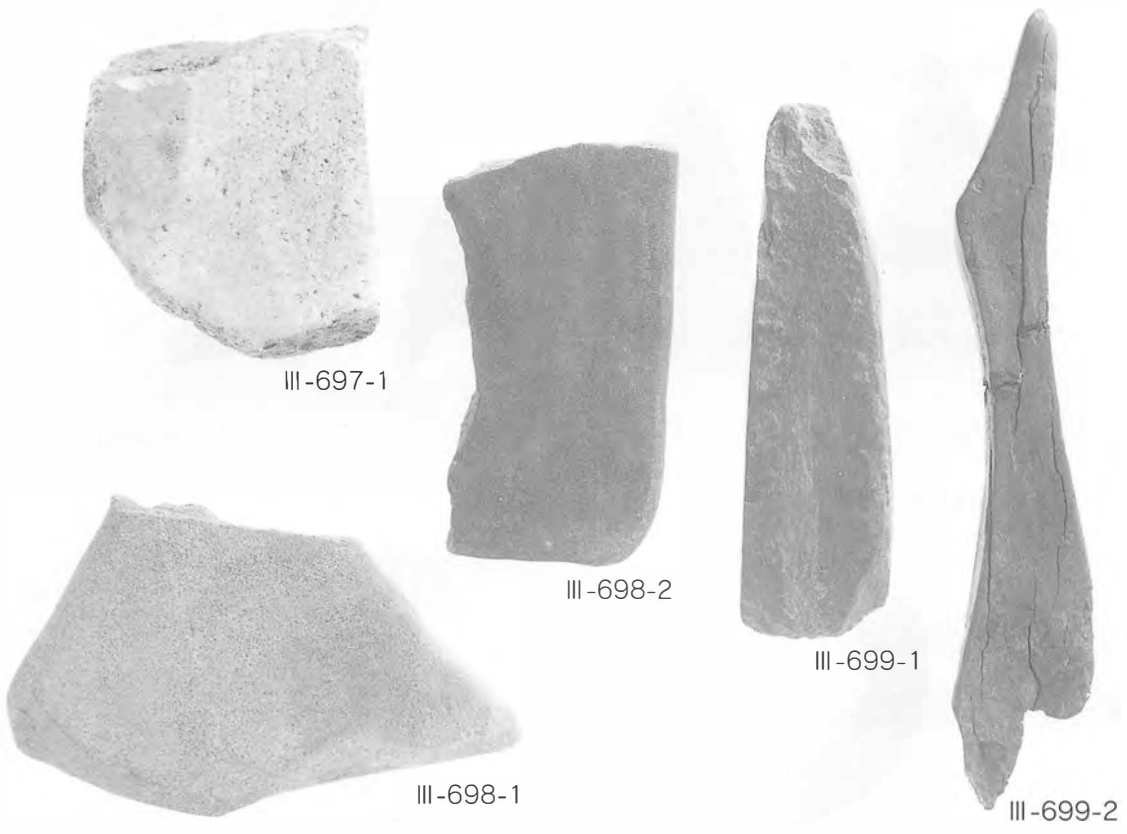
(8)Ⅲ-695-1



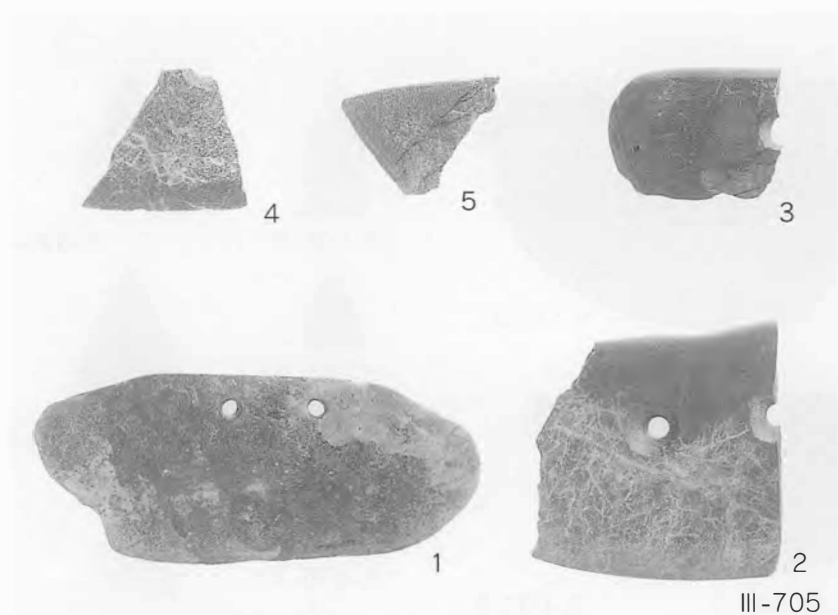
(左)(9)Ⅲ-694-3
 (中央)(10)Ⅲ-694-2
 (右)(11)Ⅲ-694-1



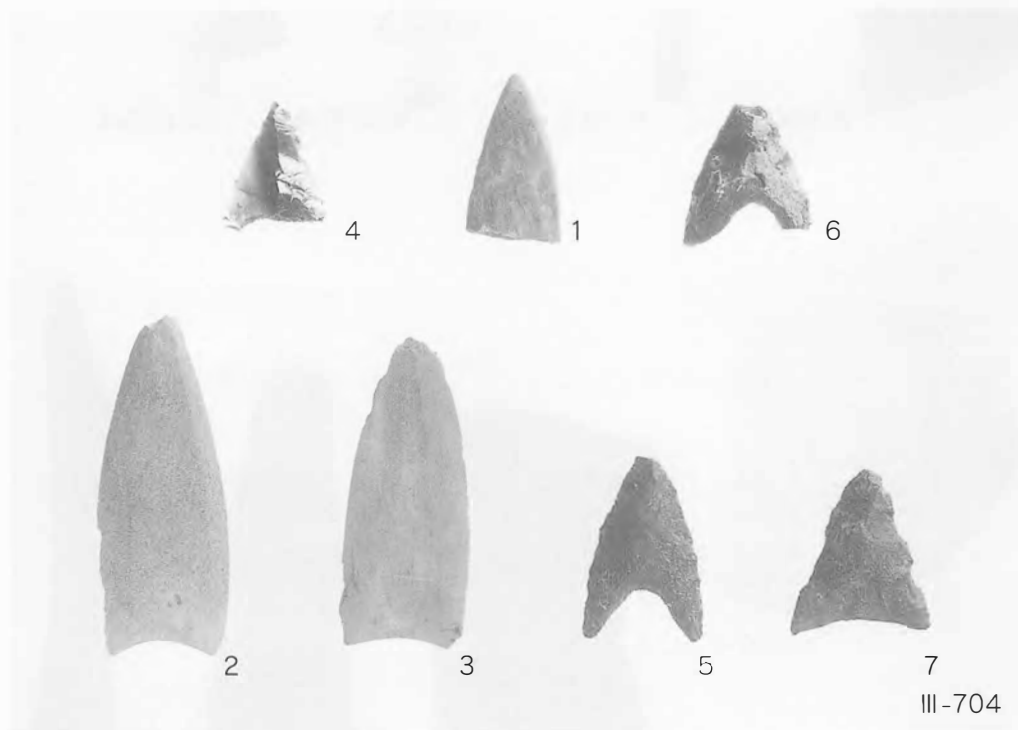
(1)



(2)



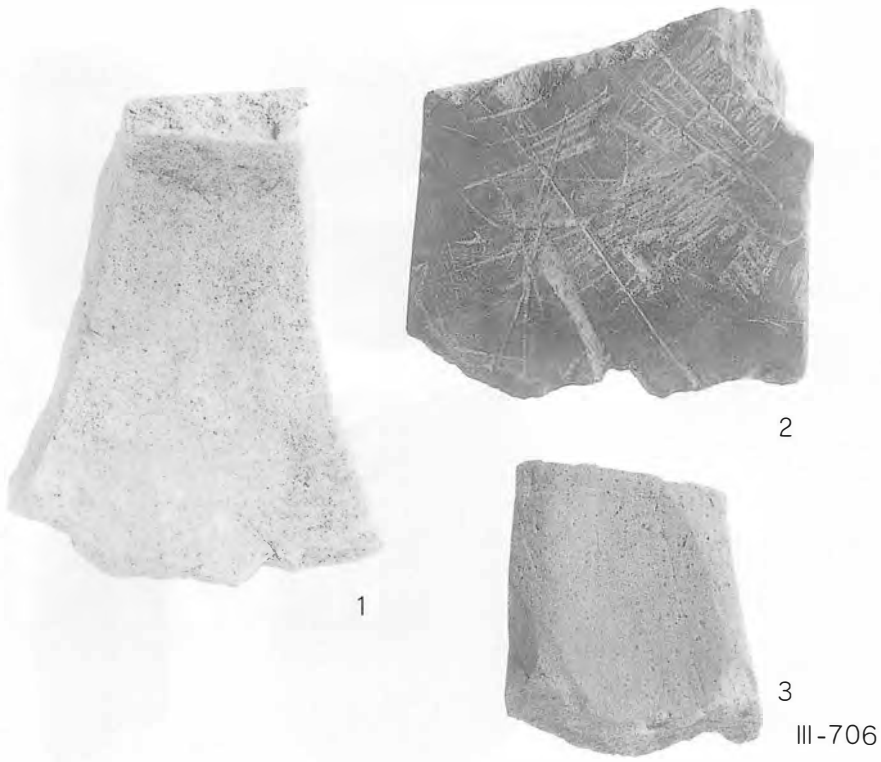
(1) 2区 攪乱出土石器



(2) 2区 攪乱出土石器



(3) 2区遺物包含層出土 玦状耳飾

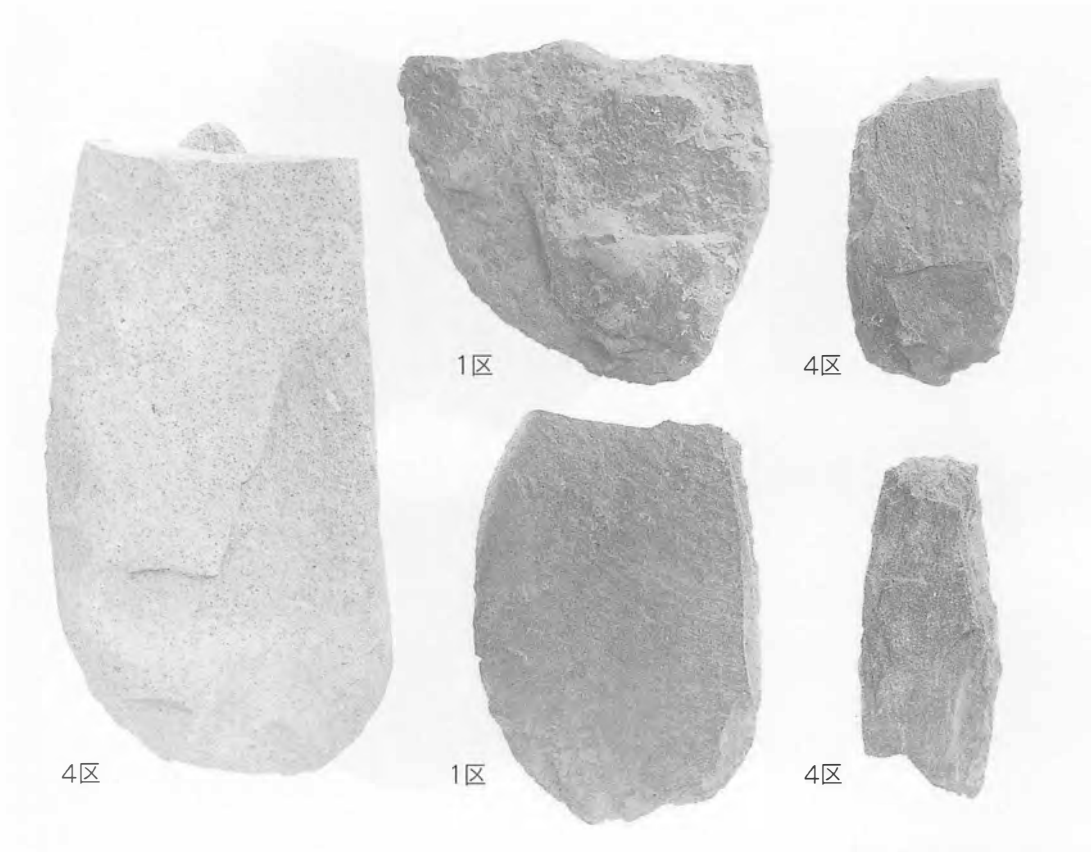


(1) 2区 攪乱出土石器



(2) 遺物包含層出土石器

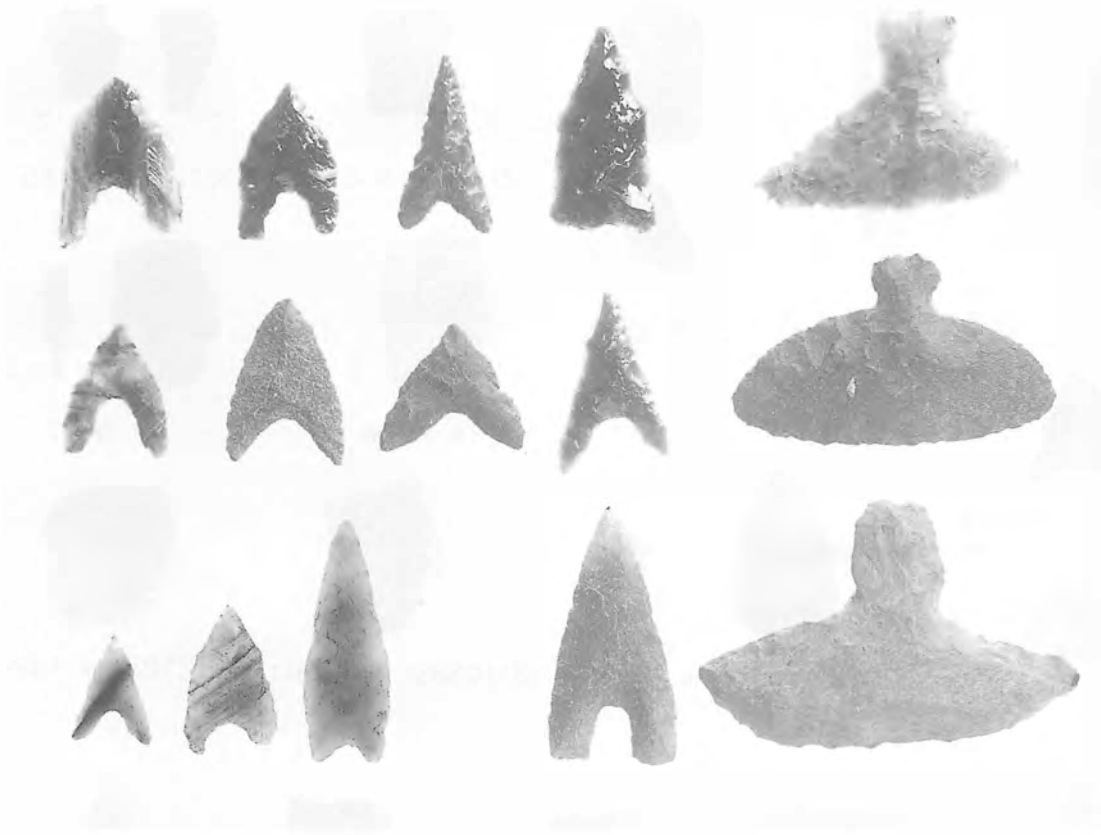
III-700-1



(1) 1区・4区 出土打製石斧

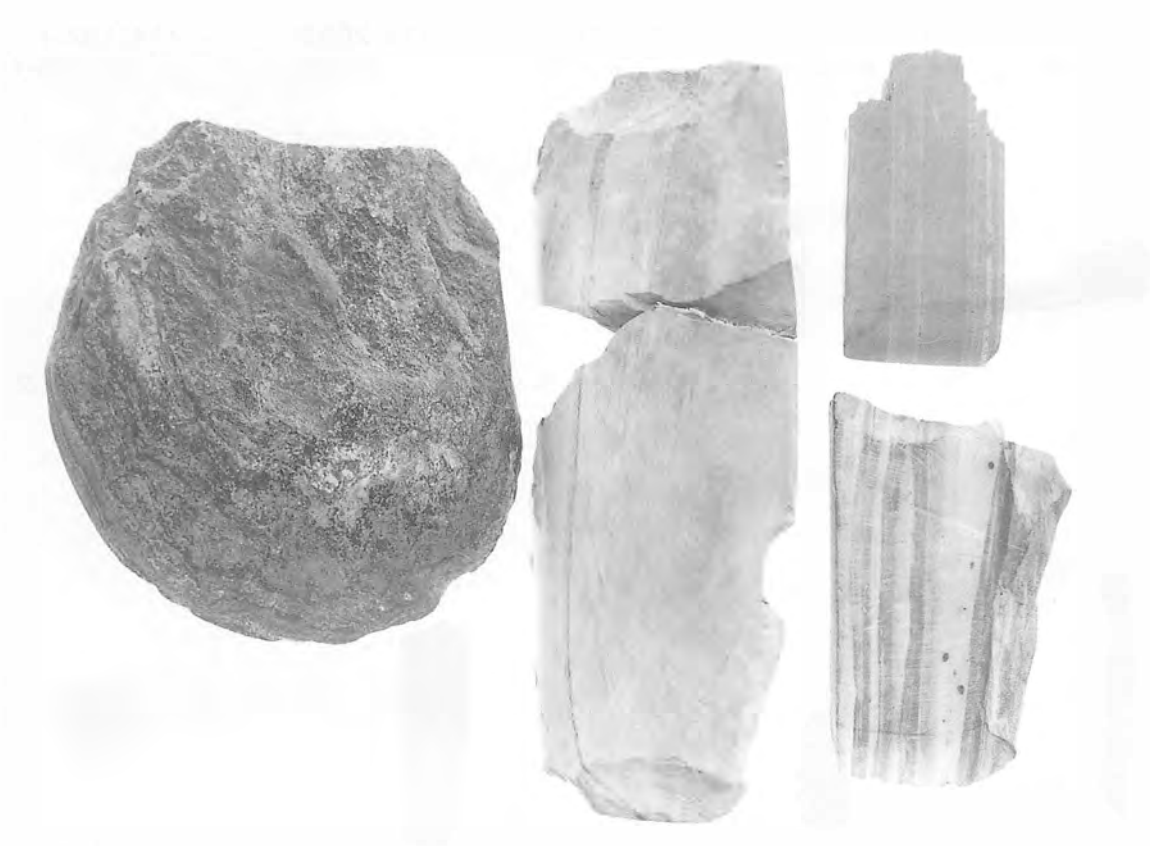


(2) 2区 遺物包含層出土石斧・円盤状石器・Y字形石器ほか



(1) 石鏃

石匙



(2) 石斧

挟入片刃石斧

扁平片刃石斧



1



2

(1) 162SI



3



4

III-63



(2) 175SI III-67-1



1

2

(3) 167SX III-85



1

(4) 169SI



2

3

III-97



(5)

179SI III-104-24



1



2

(7) 190SI III-137



(8) 1058SI III-118-1



(9) 212SI III-142-1



(6)

183SI III-111-1



(10) 161SI
III-158-1



(11) 210SI
III-169-1



(12) 216SI
III-177-1



(13) 269SI
III-210-1



(14) 132SI
III-258-1



1



2



(17) 102SX III-271-1



102SX III-271-2



4

(15) 101SI III-239



3



2



1



3

(16) 126SI III-264



(18) 122SI III-283-1



(19) 124SI
III-296-1



(1)1172SI III-349-1



1



2

1



(6)05SI III-529-1
(東西水路)



(4)1096SI III-435

3



1



2



2



(5)1183SI III-452-1



(7)1036SK III-533-1

(2)129SI III-396

(3)1190SI III-369



III-707-1



III-707-2



III-707-9



III-707-5



III-708-4



2区 III-707-4



III-707-7



III-708-1



III-707-3



III-707-8



III-708-2



III-708-6



2区 III-708-7



III-707-6



III-708-5



III-707-11



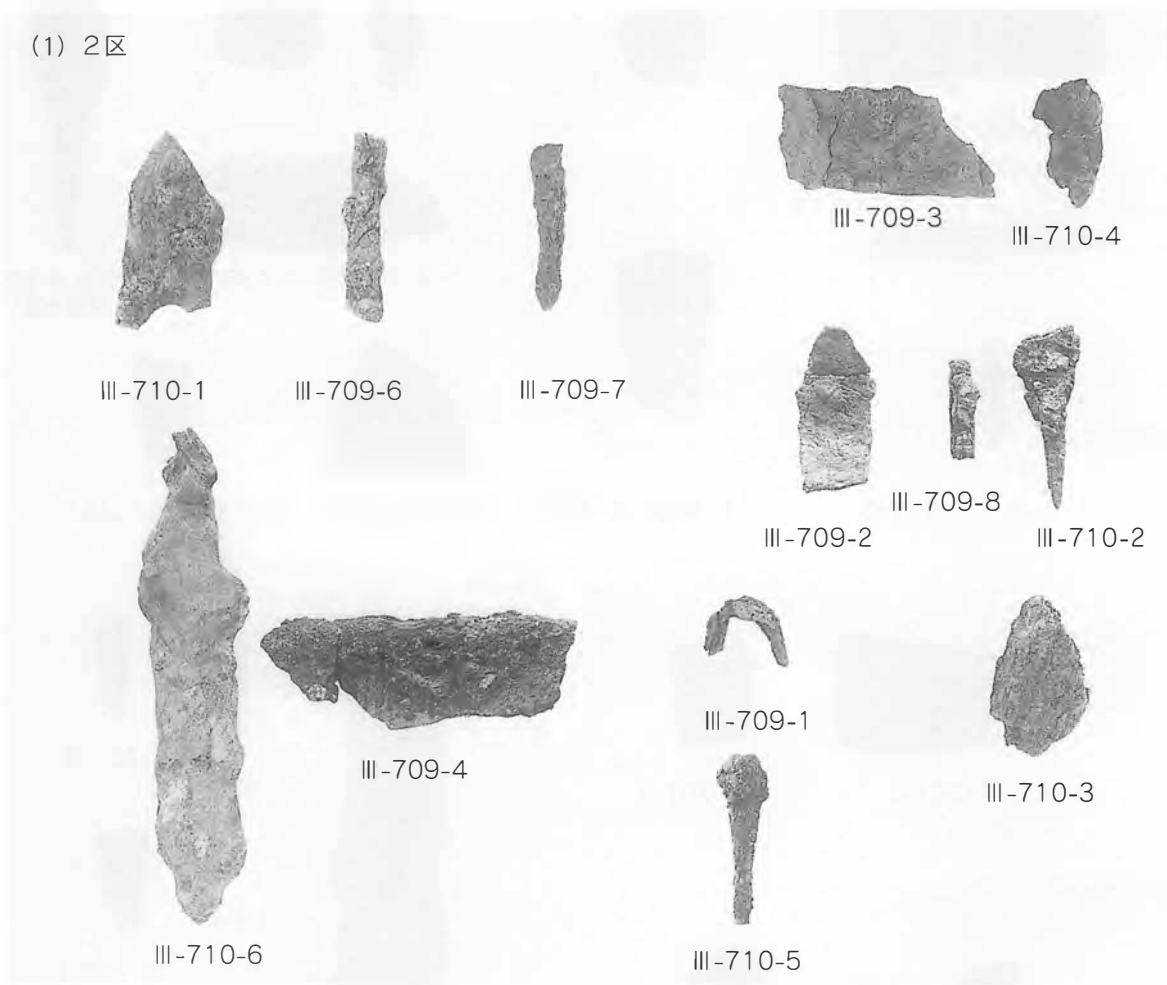
(9)No.82区 III-711-1

III-707-10

III-708-3

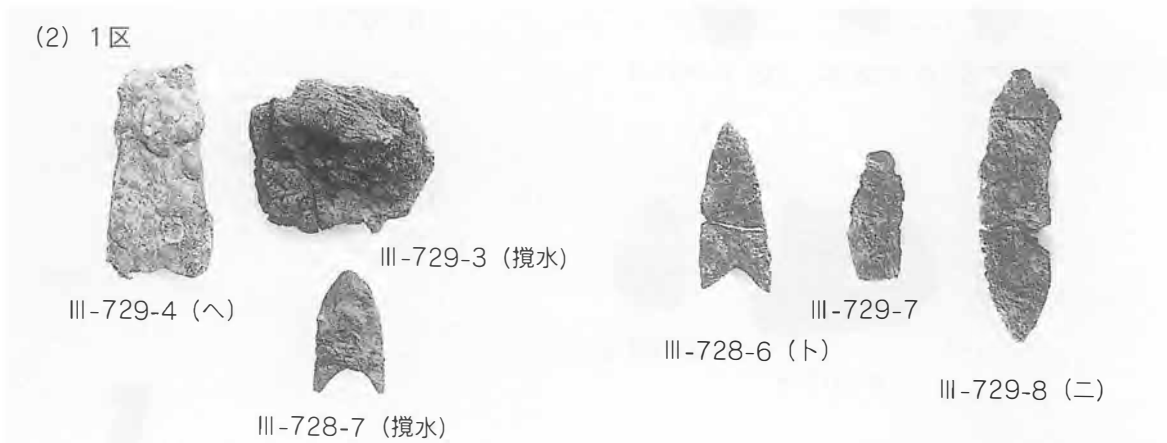
(8) 2区遺物包含層出土鉄器

(1) 2区



(1) 2区 攪乱

(2) 1区



(3) 4区



付 編

六地蔵・鹿帰瀬遺跡

—九州電力送電塔移転に伴う埋蔵文化財発掘調査—

第1章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

菊池郡菊陽町津久礼所在の六地藏遺跡は阿蘇山から有明海へ向けて東西に流れる白川の右岸に位置する。白川は阿蘇の外輪山から西に連なる合志台地と白水台地の間に氾濫原（阿蘇の裾野が白川によって浸食・堆積して形成された地形）を形成しているが、六地藏遺跡はその合志台地と白川に挟まれた氾濫原の中にある。遺跡の推定範囲は南北約400m、東西約700mで、今回調査した場所は六地藏遺跡とされている範囲の最西端にあたる。

鹿帰瀬遺跡は熊本市の最北東にある鹿帰瀬町に所在する。北に白川、南に小山山などが含まれる託麻台地があり、白川の左岸に位置する。梅ノ木遺跡や六地藏遺跡と同じく氾濫原中の遺跡で、梅ノ木遺跡とは川を挟んで対峙する。遺跡の推定範囲は南北約500m、東西約1kmである。

第2節 歴史的環境

周辺の縄文時代の遺跡としては台地の縁に立地する遺跡として駄飼代遺跡・広街道遺跡などが、白川の沖積平野に井口下鶴遺跡・久保遺跡・六地藏遺跡・鹿帰瀬遺跡などがある。縄文時代後期の指標となっている辛川式の標式遺跡である辛川東原遺跡も同じ白川流域にある。

周辺には弥生時代の遺跡も多い。梅ノ木遺跡・鹿帰瀬遺跡も今回の調査で弥生時代の集落であることが確認されている。鹿帰瀬遺跡の南西約1kmのところにある山尻遺跡群は神園山・小山山の北麓に位置する弥生時代後期の環濠集落である。

平安時代の遺跡としては六地藏遺跡の西方約4kmの位置に楠の木遺跡がある。そのほか梅ノ木遺跡や狸坂遺跡群でも古代の住居跡・建物跡などが確認されている。前述の山尻遺跡群と隣接する神園山遺跡群は古代の窯業跡である。また六地藏遺跡周辺には室町時代の六地藏を配した石塔があり、六地藏という字名の由縁となっている。

六地藏遺跡の調査は昭和60・62年度にA区とB区に分けて実施されている。B区については弥生時代の中期から後期にかけての竪穴住居跡が200基以上重複して存在する事がわかったため、協議の結果盛り土をして現状保存することになった。A区では平面形態が円形・楕円形で北久根山式土器を伴う縄文時代後期の竪穴住居が17基検出された。一方鹿帰瀬遺跡は過去に本格的な調査が行われたことはなく、縄文時代から平安時代にかけての遺物の散布地として扱われていた。

第2章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成11年に国民体育大会が熊本で開催されるに先立ち、熊本県内では競技用施設や道路の新設などの環境整備が行われた。その一つとして県道235号線が建設されたが道路新設に伴い九州電力株式会社（以下九州電力）の送電塔を移転する必要が生じた。今回の調査は送電塔の移転先で実施したものである。

平成8年の3月から4月にかけて熊本県教育庁文化課で試掘調査を行った。9ヶ所の調査対象区のうち遺物が出土した箇所、遺構が確認された箇所等について本調査が必要である旨通知した。本調査は平成9年度に実施・終了した。

第2節 調査の方法と経過

本調査区は5箇所に分かれ、総面積は約1000㎡である。各調査区の呼称については九州電力により移転する送電塔に番号がふられていたためその番号にならうこととした。梅ノ木遺跡に含まれる仮No.61区・新No.61区・No.82区、六地藏遺跡に含まれるNo.60区、鹿埴瀬遺跡に含まれるNo.80区である。No.60区は電線引きこみアンカーが建設される東側調査区と、支線ブロックが建設される西側調査区の2区からなり、約30m離れている。これらの各区に5mピッチで任意にグリッドを設定し、移転の順番や調査状況等を考慮しながら全調査区をほぼ併行するかたちで調査を実施した。

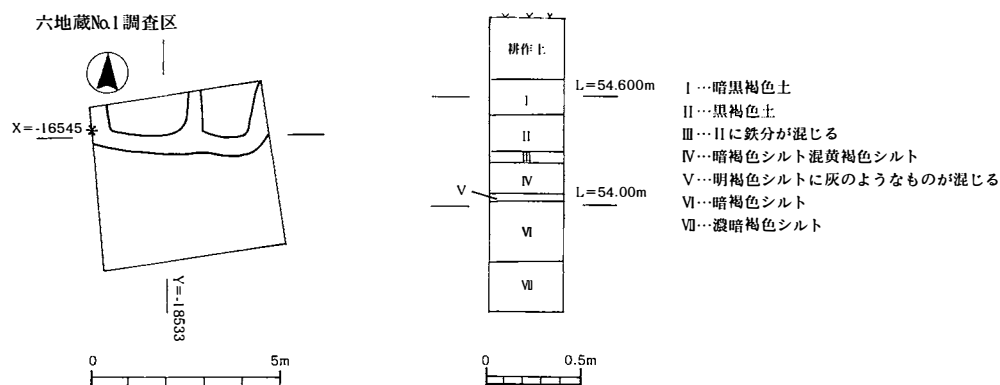
本調査は平成9年11月末から開始し、12月下旬には仮No.61区・新No.61区・No.60区の調査が、同月末にはNo.82区の調査が、翌年2月末にはNo.80区の調査がそれぞれ終了した。

なお、調査報告については、梅ノ木遺跡に含まれる仮No.61区・新No.61区・No.82区については本報告書作成時において梅ノ木遺跡全体の様相を把握する一手段としてとらえ、本編に付すこととした。

第3章 調査の成果

第1節 六地藏遺跡

六地藏遺跡は2つの調査区からなる。西側調査区は調査面積約22㎡の方形である。昭和20年代に設置された溝以外に遺構は確認されなかった。東側調査区の調査面積は2m×6mの約12㎡である。縄文時代の竪



第1図 六地藏遺跡トレンチ図及び基本土層図

穴状遺構、弥生時代の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡がそれぞれ1基ずつ検出された。ほ場整備事業により上部は削平されていたが、旧地形は北から南へ緩やかに傾斜していたようである。

1 No.1 調査区 (第1 図)

表土除去後、調査区の北側に幅1m、深さ0.6mほどの溝が検出されたが、地元の方からの聞き取りにより昭和28年の水害時の水抜き用の溝であることがわかった。その後ほぼ水平に堆積した層を掘り進めていったが前述の溝に流れ込んだごく少量の弥生土器片のほかは遺構・遺物ともに確認されなかった。

2 No.2 調査区

ア 縄文時代の遺構・遺物

03 竪穴状遺構 (第2 図)

調査区北側に位置し、旧地形をほぼ留めていると思われる。東・西・北側は調査区外のため検出していない。床面は北側がわずかに高くなっており、住居跡であるかどうかは不明である。

調査の早い段階から縄文時代の遺物が調査区北側に集中して出土しており、遺構の存在が予想された。しかし床面直上での出土はみられなかった。流れ込みによる遺物は微小な胴部片が多く図化には至っていないが、磨研土器の胴部片など縄文時代後期から晩期にかけての特徴を持つ遺物が下層から多く出土していることから縄文時代後・晩期ごろの遺構であると思われる。

イ 弥生時代の遺構・遺物

02SI (第3 図)

調査区南側に位置し、東・西・南側は調査区外のため検出していない。北壁近くの床面から検出した炉は、直径約1mの円形で、深さは約10cm、焼土と3~5mmの炭化物が混じった暗茶褐色土を埋土とする。

弥生時代の遺物は調査区の中央部を除く北側・南側から主に出土した。遺構からの出土遺物としては薄い器壁の胴部片やハケメ調整のある胴部片などが少量出土したが、床面での出土は見られなかった。1は甕の口縁部である。口縁端部の内側を上方にややつまみあげるように調整している。

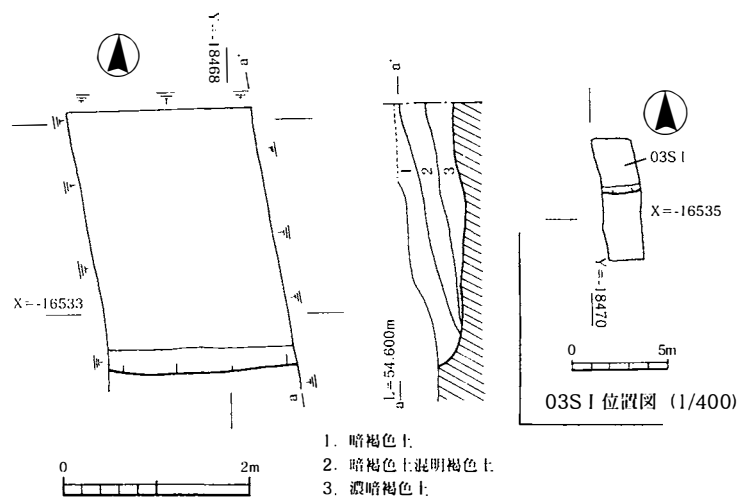
埋土に縄文時代と弥生時代の遺物が含まれ、弥生時代以降の遺物は見られないことと、その特徴が弥生時代後期の土器に見られるものであることから、住居の時期も弥生時代後期頃と思われる。

ウ 平安時代の遺構・遺物

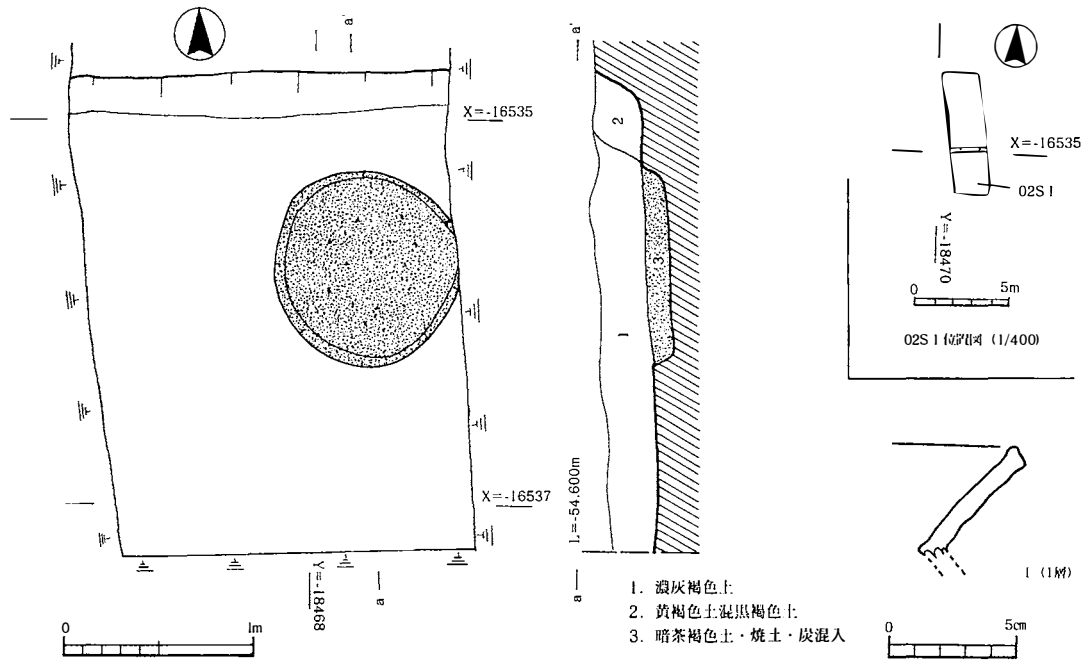
01SI (第4 図)

調査区南側に位置する。上層部は削平されている。東・西・南側は調査区外のため検出していない。柱穴や炉などは確認できなかったが断面から住居と判断した。

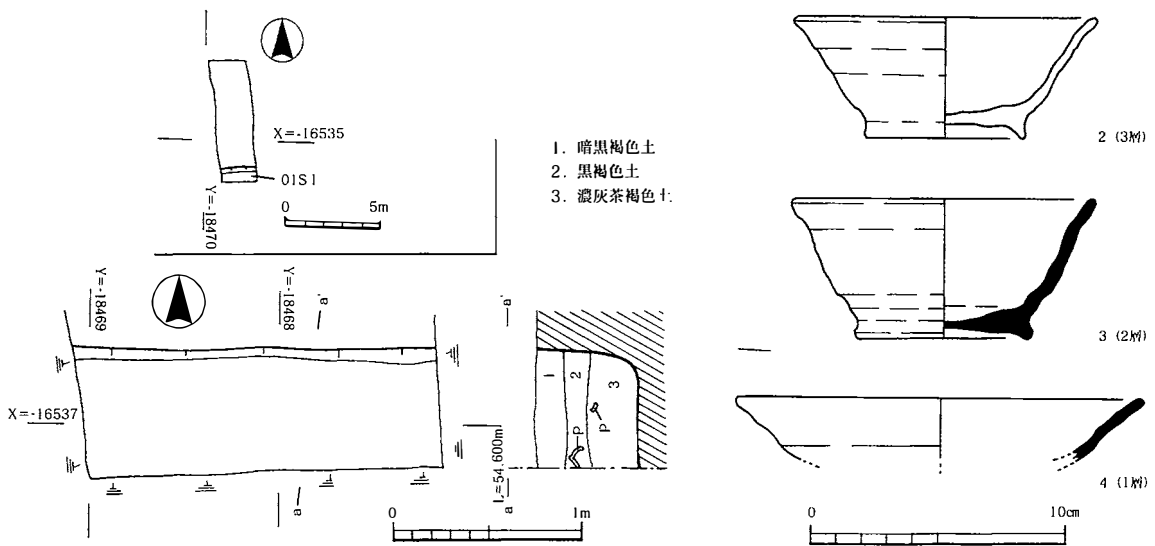
床面と判断した一定の面から少し浮いた状態で土師器・須恵器等が出土した。2は土師器の坏である。高台が一部はがれている。3・4は須恵器の坏である。3は約1/2が



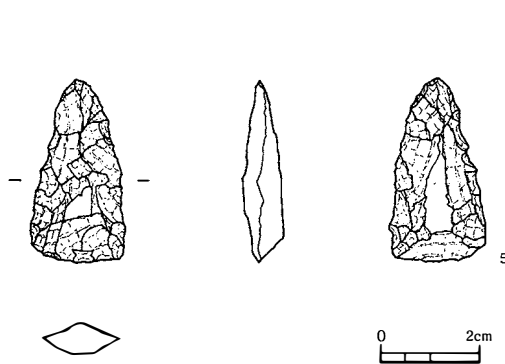
第2 図 六地藏遺跡 03SI (竪穴状遺構) 平面・断面図 (1/80)



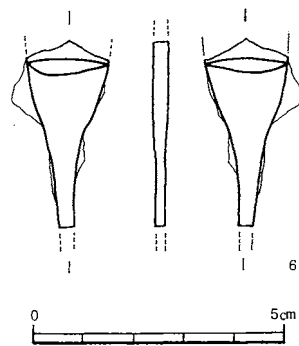
第3图 六地藏遺跡 02S1 平面・断面図 (1/40) 出土土器実測図 (1/3)



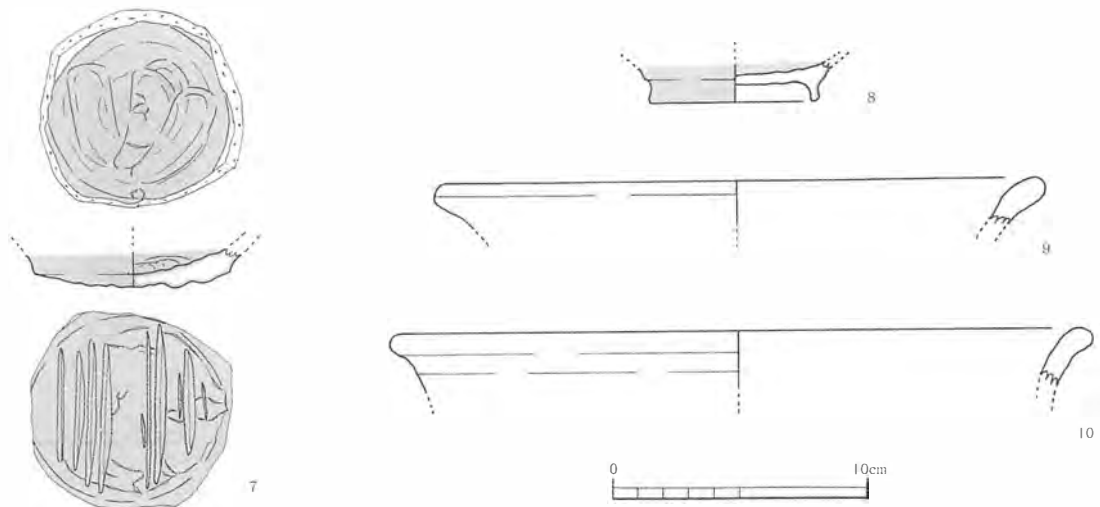
第4图 六地藏遺跡 01S1平面・断面図 (1/40) 出土土器実測図 (1/3)



第5图 包含層出土石器実測図 (2/3)



第6图 六地藏遺跡
包含層出土鉄器実測図 (2/3)



第7図 六地蔵遺跡 包含層出土土器実測図 (1/3)

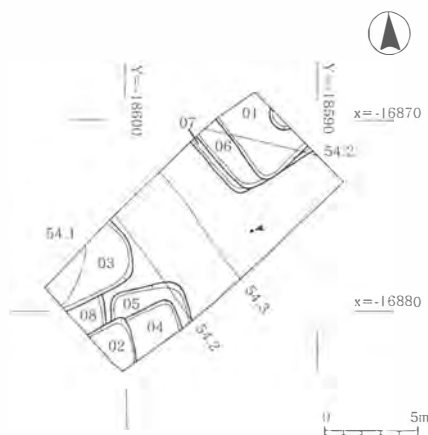
残存し外底面に墨書のごく一部が観察できる。

遺物の様相から遺構の時期は9世紀中頃と推定される。

エ その他の出土遺物 (5～7 図)

5～10は包含層出土の遺物である。5は石鏃で長さ3.6cm、基部の幅1.8cm、厚みは7mmである。6は有茎鉄鏃である。先端が欠損し、中央は錆ぶくれて空洞となっている。残存する長さは3.7cm、最大幅は1.5cm、厚みは約3mmである。7・8は土師器の底部でともに内外面に赤色顔料が残る。

9・10は土師器の甕の口縁部である。ともに反転復元している。



第8図 鹿埴瀬遺跡 遺構配置図 (1/400)

第2節 鹿埴瀬遺跡

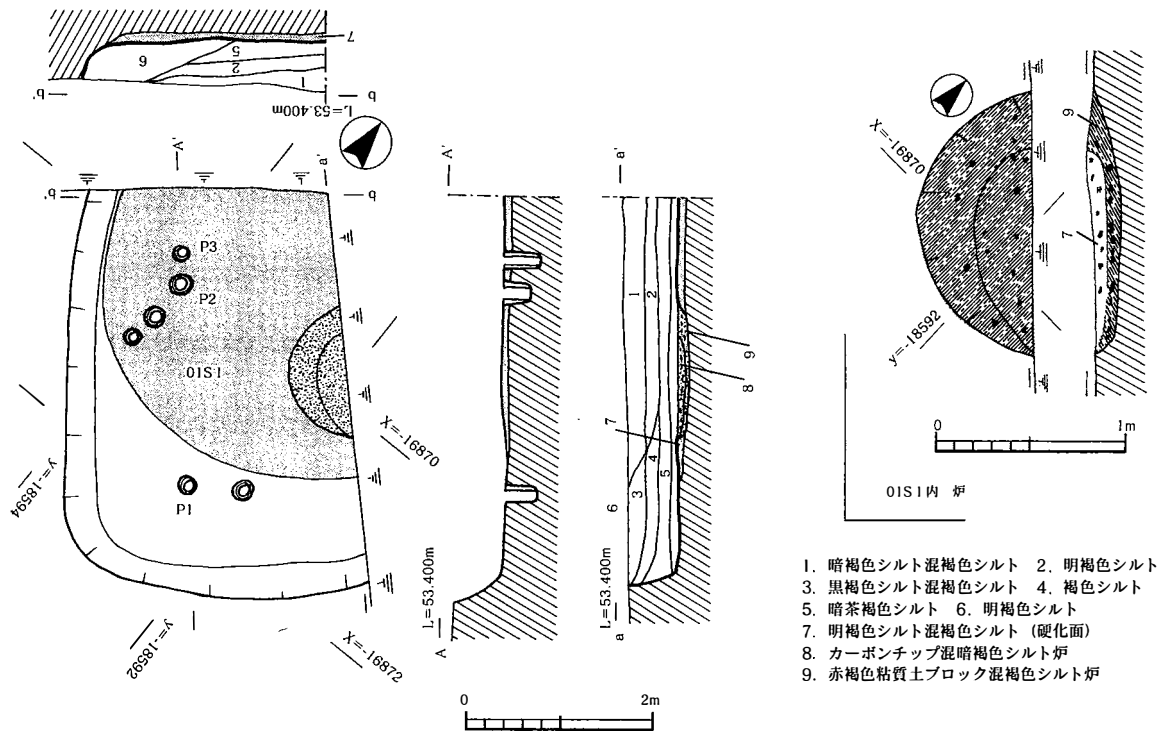
今回の調査では弥生時代の竪穴住居8軒と近世の溝1条を検出したが、遺構のほとんどは調査区の西側に集中していた。表土はぎ直後の土色は調査区の東から中央にかけては黄褐色、中央から西にかけて黒褐色を呈しており、南東部から中央にかけては白色粘質土ブロックと黒色有機物の混じった層が一面に広がっていた。また、中央付近には数条の溝があったが、地元の方からの聞き取りにより、昭和28年の水害時の水抜き用の溝であることがわかった。原地形は東から西へ緩やかに傾斜していたものと思われる。

ア 弥生時代の遺構・遺物

01SI (第9～10 図)

調査区北側に位置し、旧地形をほぼ留めていると思われる。住居の北・東側は調査区外のため検出していない。平面形態は方形で硬化面は広い範囲に認められる。埋土は主に4層からなる自然堆積である。炉が1基検出された。半分は調査区外のため検出していないが、およそ径130cm、深さ12cmの円形であると思われる。

11～14は床面から出土した土器である。11・12は鉢形土器である。11は下方に一部黒斑がある。



第9図 鹿帰瀬遺跡 01SI平面・断面図(1/80)、炉平面・断面図(1/40)

12の外面には装飾的なハケメ調整がみられる。13は甕の脚部で内面の一部に指頭圧痕がみられる。14は複合口縁壺の口縁部である。口縁下方端部と頸部の貼りつけ突帯に貝殻状工具による刻み目をつけられる。15は3層から出土した甕の口縁部である。頸部に一部炭化物が付着する。16～21は1層出土の土器である。16、17は甕の口縁部である。端部の調整に違いがある。18・19は甕の脚部である。20・21は壺の口縁部である。

住居の構造はP1・P2を支柱とする4本柱の可能性があり、また14・15の遺物がともに住居の上層と下層の接合遺物であることから01SIは比較的短期間に埋没したと思われる。

13や16などの遺物の特徴から、住居の時期は弥生時代後期後半と推定される。

06SI(第12図)

調査区北側に位置し、旧地形をほぼ留めていると思われる。東側は01SIに切られ北側は調査区外のため検出していない。住居は方形で硬化面は広い範囲に認められる。埋土は4層からなる自然堆積である。出土遺物は流れ込みによる弥生土器片があるが、いずれも胴部片で図化には至っていない。

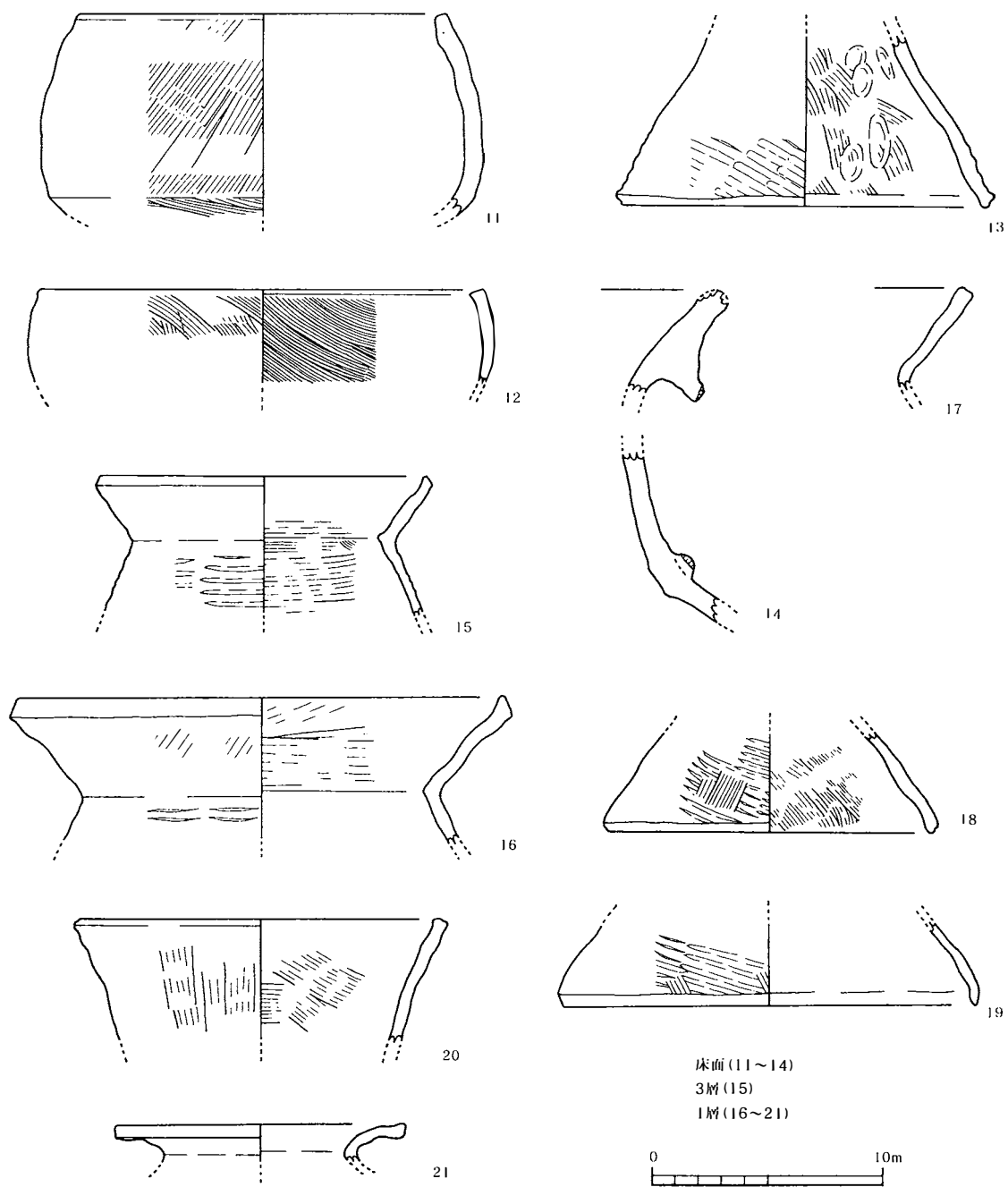
支柱穴はP1～P3で構成されるものとP4～P6で構成されるものが考えられ、建て替えとも考えられるがP4・P5は他の柱痕跡よりも小さいため補助的な柱である可能性もある。22は床面で出土したやりがんで残存する長さは7.5cm、最大幅1.5cm、厚みは約2mmである。

出土遺物の内容が01SIのものと同様であることから、01SIに先行するものの顕著な時期差はないと考えられる。

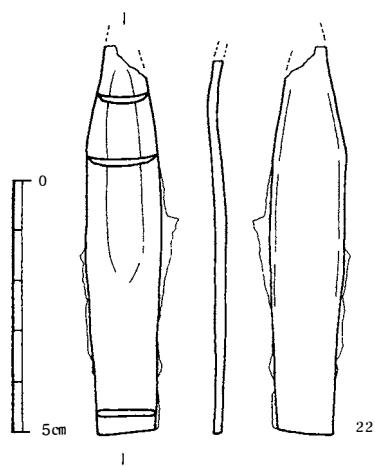
07SI(第12・13図)

調査区北側に位置し、旧地形をほぼ留めていると思われる。上層を含む大部分は06SIに切られ北側は調査区外のため検出していない。住居は方形で硬化面の有無は不明である。埋土は2層からなる自然堆積である。

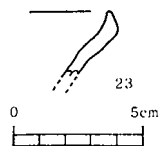
出土遺物としては流れ込みによる弥生土器片が数点出土した。23は2層から出土した甕の口縁部である。



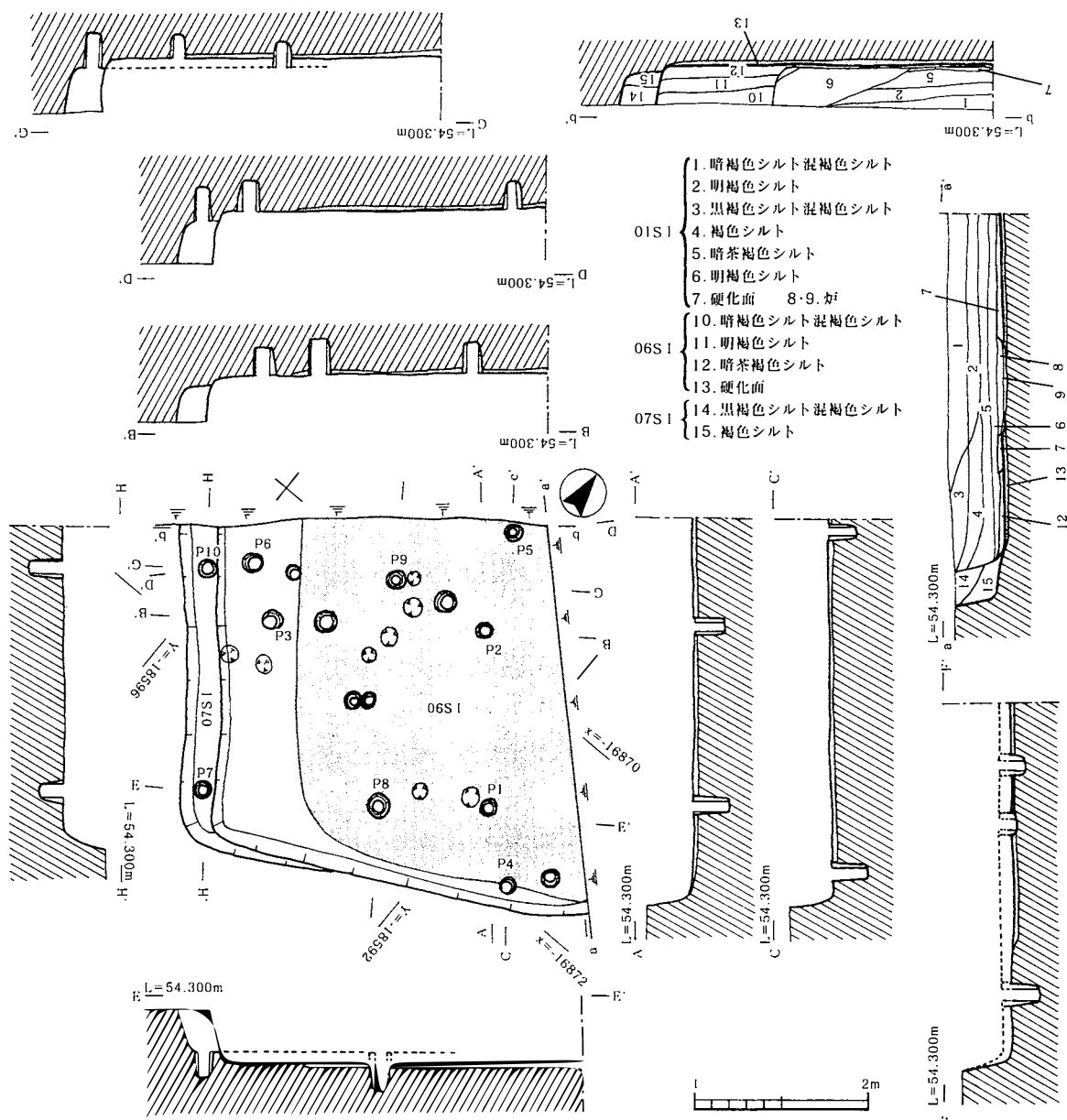
第10図 01SI 出土土器実測図(1/3)



第11図 06SI 出土鉄器実測図(2/3)



第12図 07SI 出土土器実測図(1/3)



第13図 鹿帰瀬遺跡 06SI・07SI 平面・断面図 (1/80)

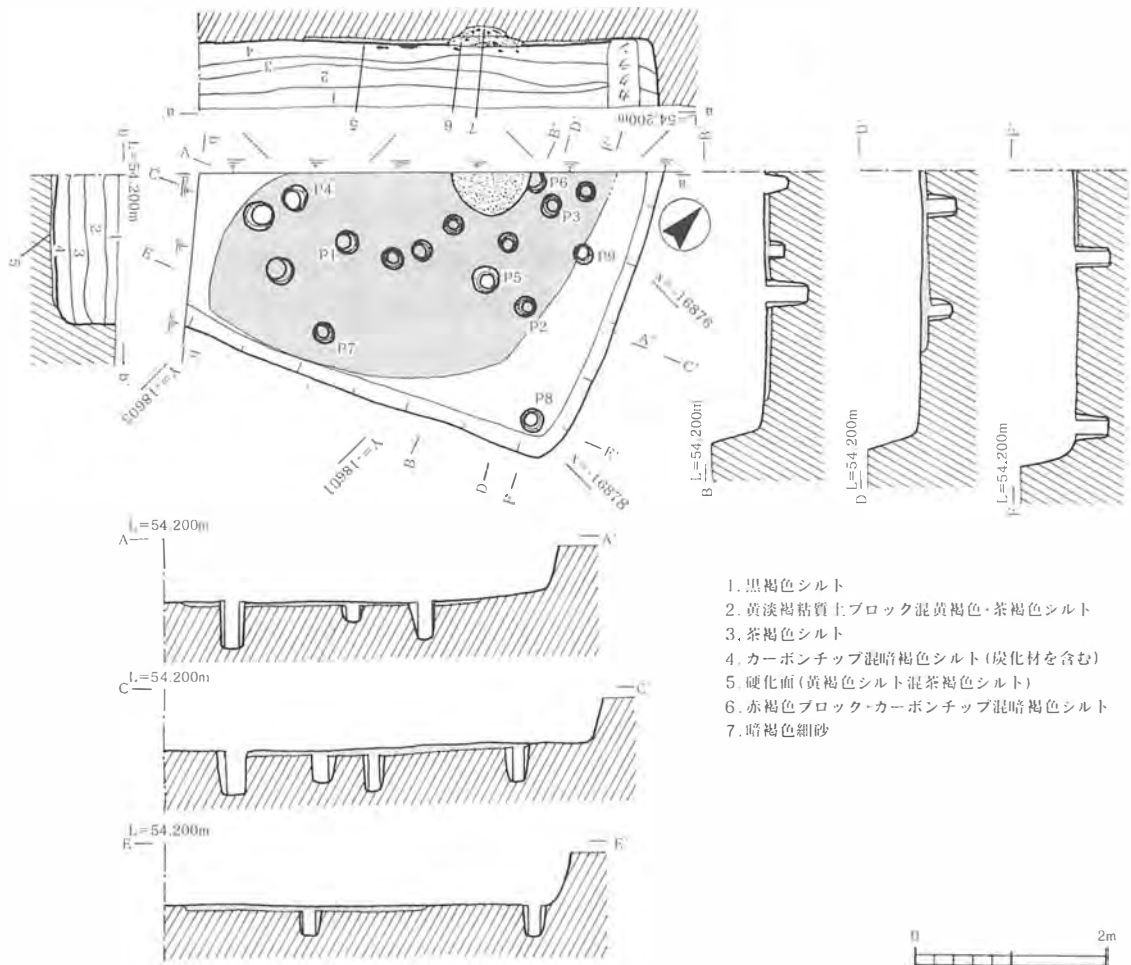
構造としては06SIに切られているため詳細は不明である。また06SIと07SIがほとんど重なることから建て替えの可能性もある。

よって06SIに先行するものの顕著な時期差はないと考えられる。

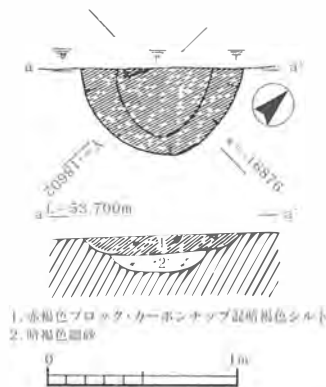
03SI (第14・15・16・17図)

調査区西側に位置し、旧地形をほぼ留めていると思われる。北・西側は調査区外のため検出していない。住居は方形で硬化面は広い範囲に認められる。埋土は4層からなる自然堆積である。埋土には炭化物が多量に混入しており、長さ20cm程度の炭塊も床面から浮いた状態で検出された。炉が1基検出され半分は調査区外にかかるが、およそ径80cm、深さ20cmの円形であると思われる。

24・28・29は床面から出土した土器である。24は丸底の甕である。口縁部から胴部にかけて外面のハケメ調整を連続して確認することができ、調整後に口縁部を折り曲げて作った様子がわかる。29は甕の口縁部である。内外面とも丁寧なハケメ調整が施され、頸部には刻み目突帯がつく。28は高坏で、ラッパ状に大きく開いた口縁部の上面に放射状の暗文が施される。25・30・31は3層出土、26・27は



第14図 鹿帰瀬遺跡 03SI平面・断面図 (1/80)



第15図 03SI炉平面・断面図

2層出土、32・33は1層出土の土器で、いずれも甕である。その他赤色顔料の残る土器片等が出土した。

柱穴についてはP1～P3が硬化面下層から、P4～P6は硬化面上層からそれぞれ検出されており、前者の構造から後者の構造へ建て替えがなされたものと思われる。P1～P3に伴う硬化面は確認していない。28の高炉は上層から下層にかけて同一個体もしくは同一形態のものが出土しており、住居は比較的短期間に埋没したと思われる。また多量の炭化物が混入していることから焼失家屋の可能性もあるが、焼土は確認できなかった。

住居の時期は遺物の様相から弥生時代後期後半頃と思われる。

02SI (第18図)

調査区南側に位置し、住居内を斜めに走る近世の溝のために遺構の大半が破壊され、西・南側は調査区外のため検出していない。住居は方形で硬化面の有無は不明である。埋土は4層の砂質土からなる自然堆積である。柱穴は検出したが構造は不明である。埋土に土器片は混入していたが時期を特定できる材料にはならなかった。

遺構下部は砂質土のため床面の判断が困難だった。住居の時期については、埋土に弥生土器(胴部片)



第16図 鹿帰瀬遺跡 03SI 遺物及び炭化材出土状況 平面・断面図 (1/40)

が含まれることと、住居を切る溝に弥生時代後期後半の特徴を持つ土器片が含まれることから住居の時期も同時期であると思われる。

04SI (第18・19図)

調査区南側に位置し、西側は02SIに切られ、南側は調査区外のため検出していない。住居は方形で硬化面の有無は不明である。埋土は砂質土の2層からなる自然堆積である。床面を検出した範囲では柱穴は確認されなかった。

遺物は流れ込みによる数点の弥生土器片が出土している。34・35は2層出土の土器である。34は複合口縁壺の口縁部で、口縁端部下方に刻み目を持つ。内外ともハケメ調整が施される。35は甕の脚部で、内面に指頭圧痕が残る。36・37は1層出土の甕の口縁部で、いずれも端部の調整を強くつまみあげるように行っている。

床面の標高や軸方位が、02SIとほとんど同じであることから建て替えられた可能性もある。

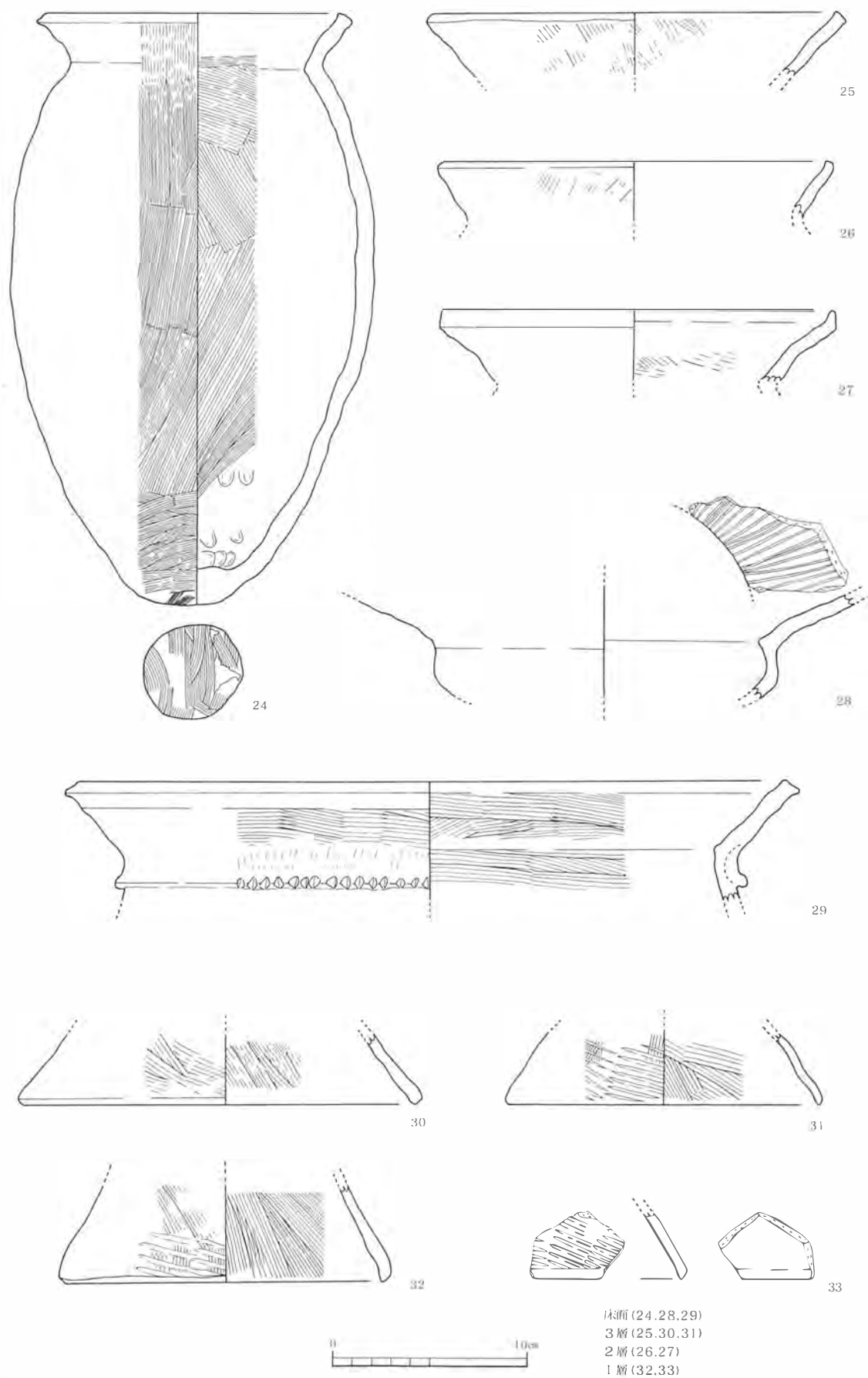
遺物の様相から、住居の時期は弥生時代後期後半と推定される。

05SI (第18図)

調査区南側に位置し、南西部は02・04SIに切られ、南側は調査区外のため検出していない。住居は方形で硬化面の有無は不明である。埋土は2層の細砂層からなる自然堆積で、遺物は1点も出土しなかった。

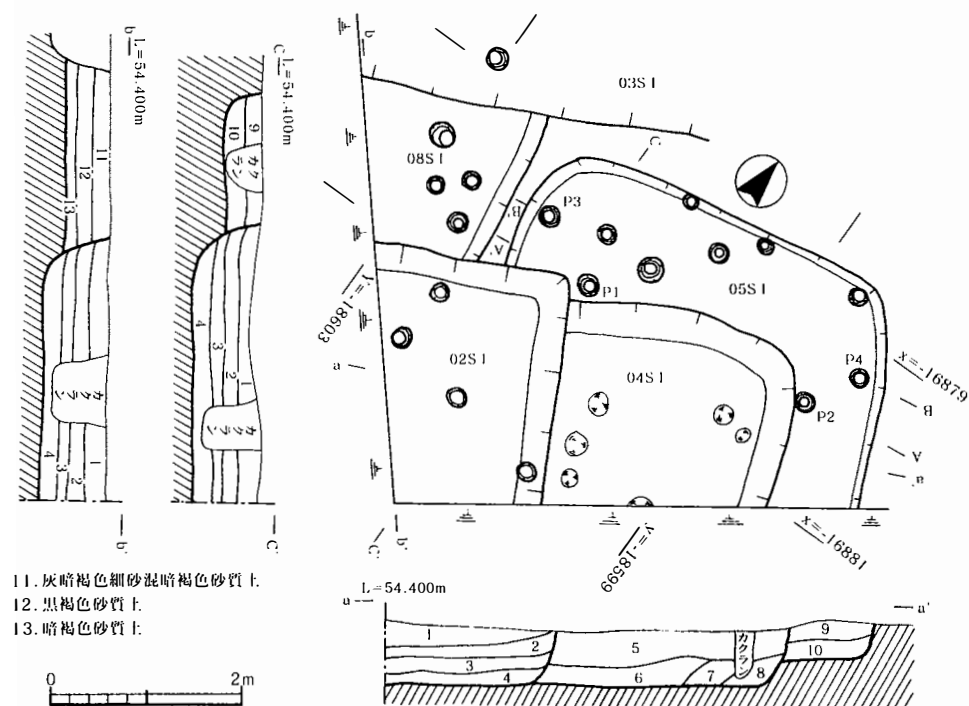
主柱穴はP1・P2付近になると思われるが詳細は不明である。

形態が他の住居跡と大差ないことから、住居の時期もほぼ同時期とみられる。

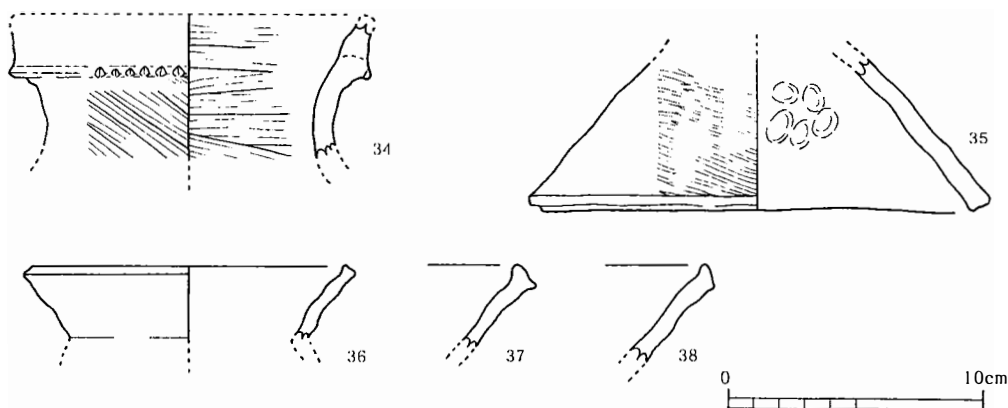


第17图 03SI 出土土器实测图 (1/3)

1. 暗黒褐色砂質土
2. 暗黒褐色砂質土混明褐色砂質土
3. 明褐色砂質土
4. 灰褐色砂質土
5. 灰褐色砂質土混暗黒褐色シルト
6. 暗褐色砂質土混灰褐色砂質土
7. 灰褐色砂質土
8. 暗褐色砂質土
9. 灰暗褐色細砂
10. 黄褐色シルトブロック混灰褐色細砂



第18図 鹿帰瀬遺跡 O2SI・O4SI・O5SI・O8SI 平面・断面図 (1/80)

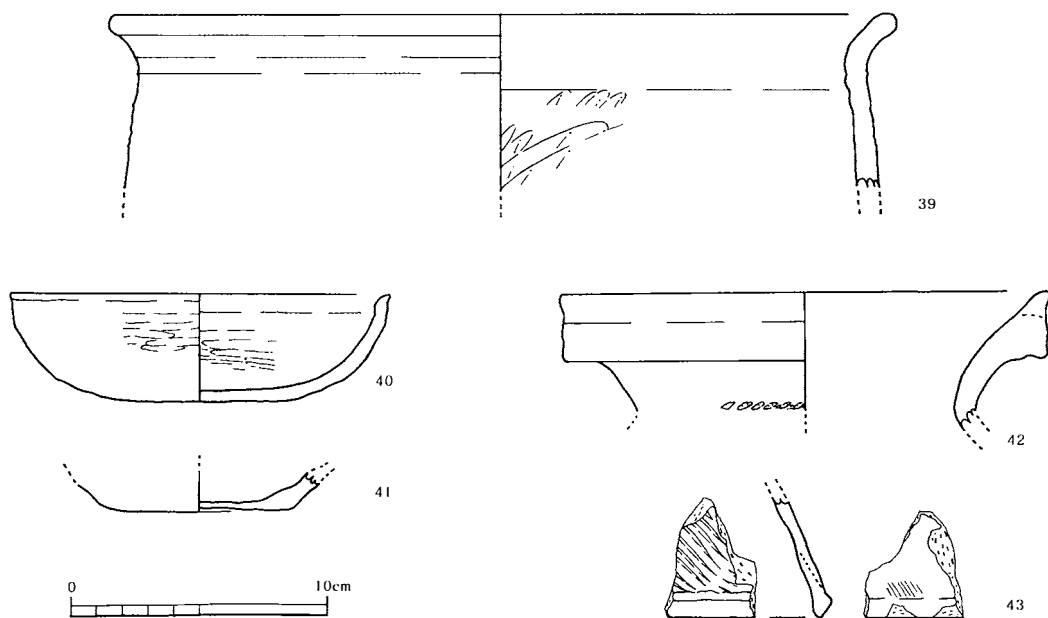


第19図 O4SI<2層(34・35)、1層(36・37)>、O8SI<1層(38)> 出土土器実測図 (1/3)

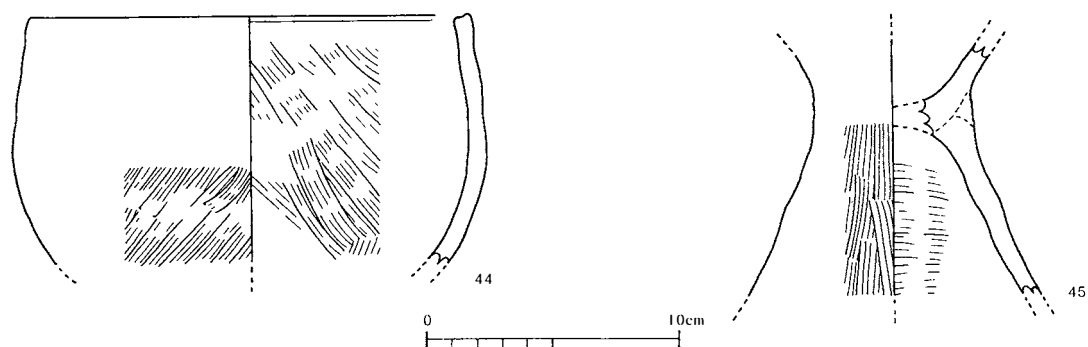
O8SI (第18・19図)

調査区南側に位置し、北側はO3SIに、南側はO2SIに切れ、西側は調査区外のため検出していない。住居の平面形態は検出した一辺が直線を呈するため方形になると思われる。硬化面の有無は不明である。埋土は3層の砂質土からなる自然堆積である。

遺物は1点出土している。38は甕の口縁部である。



第20図 鹿埴瀬遺跡 包含層出土土器実測図 (1/3)



第21図 鹿埴瀬遺跡 攪乱層出土土器実測図 (1/3)

柱穴を伴うことと、土層の堆積状況が他の住居跡と大差ないことから住居跡と判断した。
遺物の様相などから他の住居跡とほぼ同時期の遺構であると思われる。

イ その他の遺物 (第20図)

39～45は包含層出土の土器である。39は土師器甕の口縁部である。40・41は土師器坏で、40の上位は横方向の丁寧なヘラミガキが施され、41はヘラ切りの底部である。内外面とも横ナデで調整する。42～45は弥生土器である。42は複合口縁壺の口縁部で、頸部に刻み目が確認できる。43は甕の脚部で、外面をタタキ調整する。44は鉢形土器で、内外面をハケメで丁寧に調整する。45は甕の底部から脚部にかけての部位で、甕と脚部の接合部が確認できる。

第4章 まとめ

第1節 六地藏遺跡

今回行った調査は面積にして30㎡余のごく狭い面積だったが、東側調査区では縄文時代、弥生時代、平安時代の遺構を検出し、遺跡の範囲を確認する調査となった。以下時代別に前回の調査と比較してみたい。

ア 各時代の様相

縄文時代については前回の調査で北久根山式土器を伴った縄文時代後期の遺構を中心に報告されている。この報告では当時の調査区の西側に集中して住居跡が検出されており、さらに西へ広がる可能性が指摘されている。今回検出した03 堅穴状遺構もこれらと同時期の遺構である可能性が高い。

弥生時代については、前回現状保存となったほ場整備対象地区の東側一帯や、梅ノ木遺跡、鹿埴瀬遺跡、その他多くの周辺の遺跡との関連が考えられる。梅ノ木遺跡は調査の結果、白川に沿ったかたちで広がる集落とその東側に形成された墓地といったおおまかな性格がつかめた。六地藏遺跡における前回の調査では、調査区の東側に集落が広がる可能性が指摘されている。つまり今回の調査区は白川に沿って同じ右岸に立地する梅ノ木遺跡と六地藏遺跡の各集落との中間地点にあたる。これが従来の六地藏遺跡の最西端にあたるのか別の集落が存在するのか、今回の調査では判断できない。

平安時代については前回の調査では触れられていなかったが、第2章で述べたとおり、古代の遺跡は周辺地域で数多く確認されている。が、検討を重ねるには材料不足である。

県内において01SI出土の遺物と同様の特徴がみられる遺物については、球磨窯跡群の下り山4号窯跡出土須恵器、神水遺跡第3・4調査区出土須恵器などがある。九州の古代の土器は福岡県太宰府市の大宰府条坊跡などから出土した資料と比較して論じられることも多い。01SI出土の須恵器は大宰府の編年を参考にすれば9世紀前半に想定されている18次調査のSE400出土遺物と類似していることを報告しておきたい。

イ 西側調査区について

今回の調査では、東側調査区では縄文時代・弥生時代・平安時代という3つの文化層が確認できたが、約30m離れた西側調査区では遺構・遺物ともに確認されなかった。

その理由として1つ目に考えられるのは東側と西側とでは旧地形で高低差があったのではないかということである。しかし土層の堆積状況は双方ともおおむね安定していたし、西側調査区では、包含層から出土する遺物も見られなかった。

2つ目に考えられるのは2つの調査区の間になんらかの境界があったのではないかということであるが、それでも西側調査区から遺物が出土しなかった点は疑問を残すところである。

いずれにしても判断する材料に欠けるため、今後の資料収集・整理を待ちたいと思う。

第2節 鹿埴瀬遺跡

今回の調査では弥生時代の住居跡8軒を検出した。鹿埴瀬遺跡はこれまで包蔵地として扱われており、発掘調査を行ったのは今回が初めてである。最大の成果は弥生時代後期の集落という遺跡の性格が確認できたことである。本遺跡は白川の中流域に立地しているため、時期の特定については同じ白川の上流域に立地する下山西遺跡・狩尾遺跡群の資料を主な参考資料とした。集落の時期等について以下述べていきたいと思う。

ア 出土遺物の時期について

下山西遺跡も狩尾遺跡群とともに熊本県阿蘇郡阿蘇町に所在する弥生時代後期の集落を中心とする遺跡

である。下山西遺跡では弥生時代後期の竪穴住居が34軒検出された。狩尾遺跡群は狩尾・湯の口遺跡、狩尾・方無田遺跡、狩尾・前田遺跡、池田・古園遺跡から構成される遺跡群である。各遺跡とも弥生時代後期の竪穴住居が数十軒ずつ検出され、全体では131軒の住居跡が確認されている。

遺構の年代をより正確に検討するためには甕・壺・鉢・高坏などがセットで出土すること、完形もしくは完形に復元できる遺物が床面で出土することなどの条件が必要である。03SIの床面で出土した、長胴の甕(24)は今回の調査における出土遺物の中で、唯一完形に近い状態で復元できた資料である。甕に限って言えば、長胴化し胴部の最大径の部分が上部に目立ってみられず、脚を持たない丸底等の特徴は弥生時代の後期後半から終末期にかけてみられるものである。下山西遺跡の07SI、池田・古園遺跡の3号住居跡出土の甕に同様の特徴を持つものがあり、いずれも編年案の中で前述の時期に比定されている。ちなみに同時期の菊池川流域の遺跡と比較してみると菊池郡七城町所在の「うてな遺跡10号B溝」から出土している甕が似た様相を示しており、編年案では(うてなB期)として扱われている。

また白川流域における甕の底部について変遷をおおまかにたどってみると、弥生時代中期後半から後期初頭にかけては底部をえぐったように見える脚部であるものが、次第にハの字型に伸び始め、後期中葉からはさらに伸びが直線的になり、丸底の甕も共伴するようになる。終末期になると脚は次第に姿を消し、丸底が主流になっていく傾向がみられる。01SIでは直線的に伸びる長い脚部が床面から出土しているが、同様のものは、「狩尾・方無田遺跡4号住居」から完形のものが出土している。

一方口縁部についてみると、端部の調整に変化がみられる。中期後半から後期初頭にかけては丸みを帯びたやや厚めのくの字のものが多く、その後端部の内側をややつまみあげるように、あるいは断面が方形を呈するように変化していく。全体的に器壁が薄くなっていく傾向も見られる。

鹿埴瀬遺跡の住居跡から出土した甕の口縁部は全て上記のような特徴を持った成形であった。

イ 遺構の時期差について

遺構の集中する調査区南側をみると、03・04SIが一番上にある。04SIでは時期を特定し得る資料はなかったが、02SIと床面の標高等に差がなく、ほとんど時期差がない可能性がある。また02・04SIが建て替えの可能性を持つことについては第3章で述べた。05・08SIについては同時期とみるには接近しすぎているようである。

これらを調査区の北側と比較してみると、03SIの埋土に見られる甕の脚と同様の形態のものが、01SIの床面で出土していることから、01SIは03SIより若干古い時期であると思われる。03・04SIを同時期であると仮定すると、①03・04・05SI、②01・05SIもしくは08SI、③04・05SIもしくは08SIの、少なくとも3時期に分けることができる。これらは全体的に見て顕著な時期差が見られない。

住居の構造については全体を検出した住居が皆無であるため検討の余地は狭いが、検出した中でみていくと一辺が5m前後、平面形態は方形という共通項はあるようである。主柱穴については何本で構成されるものなのかは不明である。炉は01・03SIの住居内でそれぞれ検出したが、全ての住居に伴うものであるかどうかはわからない。

他にも鹿埴瀬遺跡の集落の範囲について等、課題は多いが今後の資料収集・整理を待ちたいと思う。

< 参考資料 >

- 緒方勉編 「熊本県文化財調査報告第82集 神水遺跡II」熊本県教育委員会、 1986
- 高谷和生編 「熊本県文化財調査報告第88集 下山西遺跡」熊本県教育委員会、 1987
- 西住欣一郎編 「熊本県文化財調査報告第121集 うてな遺跡」熊本県教育委員会、 1992
- 木崎康弘編 「熊本県文化財調査報告第131集 狩尾遺跡群」熊本県教育委員会、 1993
- 三島格 「肥後の須恵器資料(1)」『熊本史学 21・22号』熊本史学会、 1961
- 小田富士雄 「窯業(九州)」『日本の考古学VI 歴史時代(上)』河出書房、 1967
- 松本健郎編 「生産遺跡基本調査報告書II」熊本県教育委員会、 1980
- 網田龍生 「奈良時代肥後の土器」『先史学・考古学論究』龍田考古会、 1994

ほか

六地藏遺跡出土土器観察表

遺物番号	検出番号	出土地点	出土層位	器種	部位	法量 (cm)			胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測番号
						口径	残存径	底径						
1	第3回	O2S1	1	壺	口縁	-	4.3	-	長石・石英・霞母・角閃石・赤色酸化粒	橙	横ナテ、ハケ目後横ナテ	横ナテ、ハケ目後横ナテ		9
2	第4回	O1S1	3	坏	口縁～底部	(11.7)	4.7	(6.2)	長石・石英・角閃石・赤色酸化粒	橙	横ナテ	横ナテ	土師器	1
3	第4回	O1S1	2	坏	口縁～底部	(11.8)	5.5	(6.8)	長石・石英・角閃石	灰黄	横ナテ	横ナテ、指ナテ	土師器	3
4	第4回	O1S1	1	坏	口縁	(16.0)	2.4	-	長石・石英・霞母	にぶい黄橙	回転ナテ	回転ナテ	須恵器	6
7	第7回	包含層	包含層	坏	底部	-	1.5	7.8	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	明赤褐	横ナテ、指ナテ、板状圧痕	指ナテ	土師器、赤色顔料	2
8	第7回	包含層	包含層	坏	底部	-	1.5	(6.6)	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	明赤褐	横ナテ、ナテ	ナテ	土師器、赤色顔料	7
9	第7回	包含層	包含層	壺	口縁	(23.6)	1.8	-	長石・石英・霞母・角閃石・赤色酸化粒	橙	横ナテ	横ナテ		8
10	第7回	包含層	包含層	壺	口縁	(27.0)	2.2	-	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	橙	横ナテ	横ナテ		5

鹿帰瀬遺跡出土土器観察表

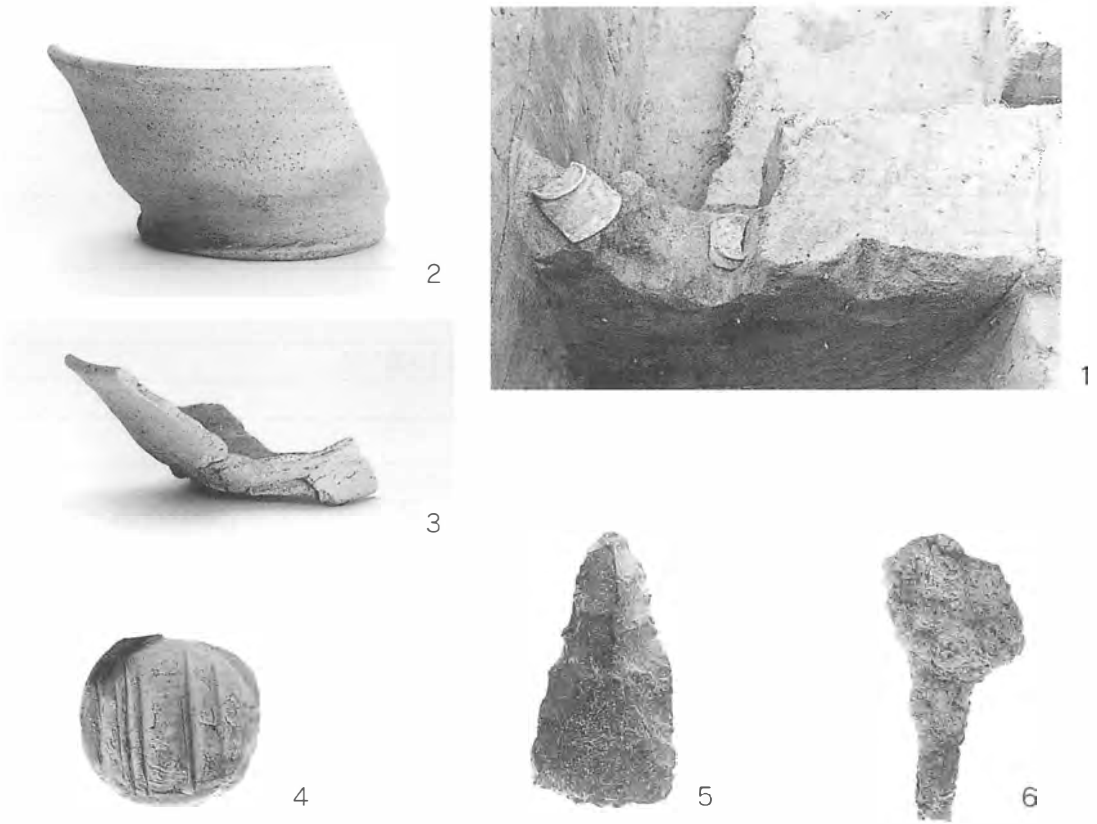
遺物番号	検出番号	遺構種類	出土層位	器種	部位	法量 (cm)			胎土	色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測番号
						口径	残存径	底径						
11	第10回	O1S1	床面・1	鉢	口縁～胴部	(16.2)	8.8	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	にぶい黄橙	ハケ目(右上・左上)後横ナテ	ナテ、ハケ目後ナテ	最大口径19.6cm	3
12	第10回	O1S1	床面・1	鉢	口縁～胴部	(19.6)	4.0	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	にぶい黄橙	横ナテ、横ナテ後左上ハケ目、ハケ目後ナテ	ハケ目(左上)	最大口径20.7cm	15
13	第10回	O1S1	床面	壺	底部	-	7.3	(16.0)	長石・石英・霞母・角閃石・赤色酸化粒	にぶい赤褐	ナテ、タタキ(左上)、横ナテ	指頭圧痕、ハケ目(多方向)		28
14	第10回	O1S1	床面・3・1	複合口縁壺	口縁・頸部	-	4.9	8.3	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	黄橙	横ナテ、刻み目突帯(口縁・頸部)、ハケ目後横ナテ	横ナテ、ナテ、ナテ後ハケ目	口縁部と頸部を因循して復元	1・2
15	第10回	O1S1	3・(包)	壺	口縁～頸部	(14.4)	6.9	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	黄橙	横ナテ、ハケ目後ナテ、タタキ後ナテ	ハケ目後ナテ	スス付否	4
16	第10回	O1S1	1	壺	口縁～頸部	(21.6)	6.4	-	長石・角閃石・霞母・赤色酸化粒	灰褐	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ、タタキ後ナテ	ハケ目(横)後ナテ		5
17	第10回	O1S1	1	壺	口縁	-	4.2	-	長石・角閃石・霞母・赤色酸化粒	明黄褐	横ナテ、ハケ目(右上)後横ナテ	ハケ目(左上)後ナテ、ナテ		6
18	第10回	O1S1	1	壺	底部	-	4.4	(14.0)	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	明黄褐	横ナテ、タタキ(左上)後ハケ目(右上)	ハケ目(左上)後ナテ		18
19	第10回	O1S1	1・(包)	壺	底部	-	3.6	(18.0)	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	明黄褐	タタキ(左上)後ハケ目後ナテ、横ナテ	ナテ		14
20	第10回	O1S1	1	壺	口縁	(15.8)	5.3	-	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)後横ナテ	横ナテ、タタキ(左上)後ナテ		17
21	第10回	O1S1	1	壺	口縁	(12.8)	1.6	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	明黄褐	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ		16
23	第12回	O7S1	3	壺	口縁	-	2.5	-	長石・角閃石・霞母・赤色酸化粒	橙	横ナテ	横ナテ、ハケ目痕		7
24	第17回	O3S1	床面	壺	完形	14.3	29.8	5.0	長石・石英・霞母・角閃石	にぶい黄	ハケ目(縦)後横ナテ、ハケ目(縦・横)	ハケ目(横・左上・右上)	最大口径18.6cm	29
25	第17回	O3S1	3	壺	口縁	(20.6)	3.2	-	長石・角閃石・霞母・赤色酸化粒	明黄褐	ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	ハケ目(左上)後ナテ		8
26	第17回	O3S1	2	壺	口縁	(19.6)	3.0	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	暗灰黄	横ナテ、ハケ目(右上)後横ナテ	横ナテ		10
27	第17回	O3S1	2	壺	口縁	(20.0)	3.6	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	明黄褐	横ナテ	横ナテ、ハケ目(左上)後横ナテ	黒斑	9
28	第17回	O3S1	床面下・2・1	高坏	頸部	(25.5)	5.4	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	暗褐	ハケ目(左上・横)縦、横ナテ	暗文(縦)、横ナテ	最大口径17.6cm	20
29	第17回	O3S1	床面	壺	口縁～頸部	(36.6)	6.1	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(横)、刻み目突帯(頸部)	ハケ目(横)、横ナテ		19
30	第17回	O3S1	3	壺	底部	-	3.5	(20.2)	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	にぶい黄橙	ハケ目(左上)後ナテ、横ナテ	ハケ目(左上)後ナテ、横ナテ		12
31	第17回	O3S1	3	壺	底部	-	3.5	(16.0)	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	にぶい黄橙	ハケ目後タタキ(左上)、横ナテ	ハケ目(多方向)		11
32	第17回	O3S1	1	壺	底部	-	5.0	(16.4)	長石・霞母・赤色酸化粒	にぶい黄橙	ハケ目(左上)後タタキ(左上)後ナテ	ハケ目(左上)		32
33	第17回	O3S1	1	壺	底部	-	3.4	-	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	明黄褐	タタキ(左上)後ナテ、横ナテ	ナテ		13
34	第19回	O4S1	2	複合口縁壺	口縁	(14.2)	5.3	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	明黄褐	横ナテ、刻み目突帯、ハケ目(左上)	ハケ目(横)ナテ	頸部欠損	21
35	第19回	O4S1	2・1(1)	壺	底部	-	5.9	(19.0)	長石・石英・霞母・角閃石・赤色酸化粒	明黄褐	タタキ(左上)後ナテ、横ナテ	指頭圧痕、ナテ		31
36	第19回	O4S1	1	壺	口縁	(12.4)	2.9	-	長石・石英・角閃石・赤色酸化粒	橙	横ナテ、ハケ目(右上)後ナテ	横ナテ		34
37	第19回	O4S1	トレンチ	壺	口縁	(20.2)	3.2	-	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	にぶい黄橙	横ナテ	ハケ目後ナテ、ナテ		22
38	第19回	O8S1	トレンチ	壺	口縁	(22.0)	3.8	-	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	にぶい黄	横ナテ	横ナテ	スス付否	23
39	第20回	包含層	包含層	壺	口縁	(30.8)	6.2	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	明黄褐	横ナテ	横ナテ後ヘラケズリ		26
40	第20回	包含層	包含層	瓶	口縁～胴部	(15.0)	4.0	(14.7)	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	橙	ミカキ(横)、横ナテ	ミカキ(横)	(土師器)	27
41	第20回	包含層	包含層	坏	底部	-	1.5	(7.0)	長石・石英・霞母・角閃石・赤色酸化粒	橙	横ナテ、ナテ	横ナテ、ナテ	(土師器)	30
42	第20回	包含層	包含層	複合口縁壺	口縁	(19.0)	5.5	-	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	黄橙	横ナテ、沈線後刺突列点文(貝殻?)	横ナテ		35
43	第20回	包含層	包含層	壺	底部	-	4.7	-	長石・石英・霞母・赤色酸化粒	にぶい黄橙	タタキ(左上)、ナテ、横ナテ	ハケ目(左上)後ナテ		33
44	第21回	攪乱	攪乱	鉢	口縁～胴部	(17.4)	9.6	-	長石・霞母・角閃石・赤色酸化粒	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(右上)	横ナテ、ハケ目(左上)後ナテ	最大口径18.9cm	24
45	第21回	攪乱	攪乱	壺	底部	-	9.2	-	長石・石英・角閃石・霞母・赤色酸化粒	にぶい黄橙	横ナテ、ハケ目(縦)	ナテ、ハケ目(横)後ナテ	頸部欠損	25

*法量の()は復元値である。

六地藏・鹿帰瀬遺跡出土鉄器・石器観察表

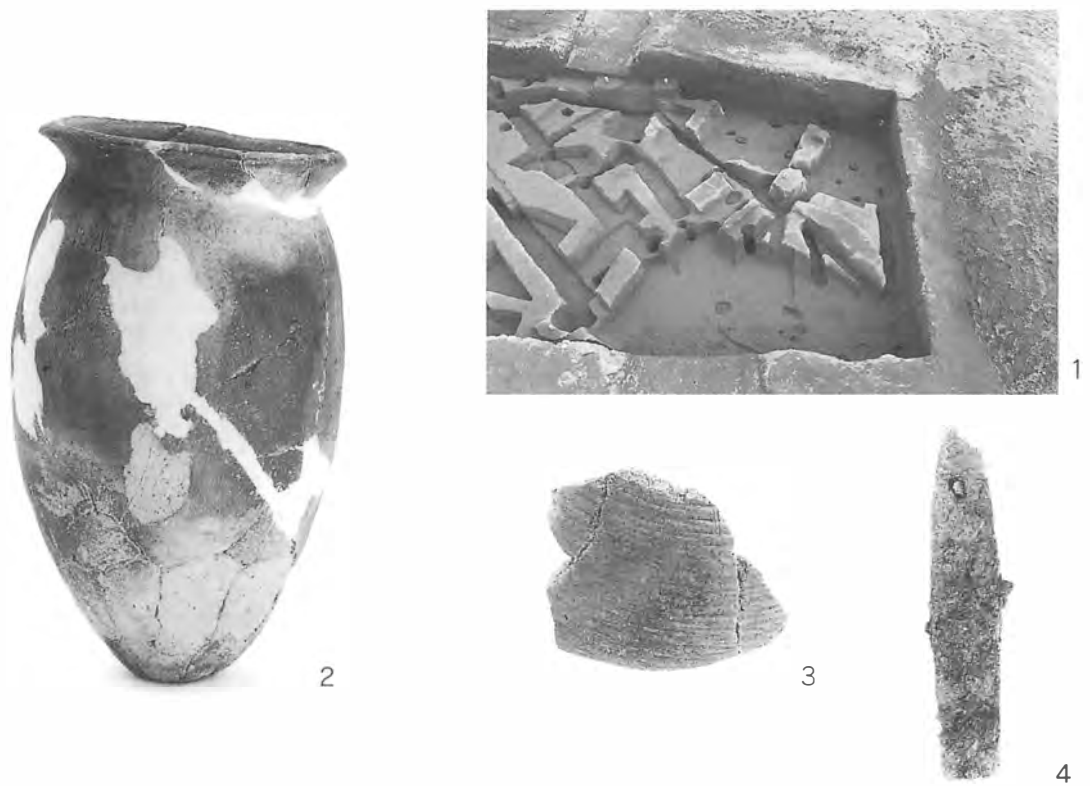
遺物番号	出土遺跡	検出番号	出土地点	出土層位	器種	法量 (cm)			備考	時期
						長さ	幅	厚み		
6	六地藏	第6回	包含層	包含層	有蓋鉄蒔	<3.7>	1.5	0.3	鉄蒔、先端部欠損	弥生時代
22	鹿帰瀬	第11回	O6S1	床面	やりがんな	<7.5>	1.5	0.2	鉄蒔	弥生時代
5	六地藏	第5回	包含層	包含層	石鏝	3.6	1.8	0.7	石鏝	

*法量の<>は残存値である。



(1) 六地藏遺跡

1、01SI 遺構出土状況 2・3、01SI 出土遺物 4～6、包含層出土遺物



(2) 鹿埴瀨遺跡

1、03SI 及び周辺検出状況 2・3、03SI 出土遺物 4、06SI 出土遺物

報告書抄録

書名	梅ノ木遺跡II
副書名	県道益城菊陽線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告書
シリーズ番号	第199集
編集者名	亀田 学
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒860-0011 熊本市水前寺6丁目18番1号
発行年月日	西暦2001年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
梅ノ木遺跡	熊本県 菊池郡 菊陽町 津久礼	43404	019	32° 51'	130° 47'	1996.5.20 ~ 1999.5.18	約8,000㎡	道路建設
六地藏遺跡	熊本県 菊池郡 菊陽町 津久礼	43404	016	32° 51'	130° 48'	1997.4.21 ~ 1999.5.18	約50㎡	九州電力 鉄塔建設
鹿帰瀬遺跡	熊本県 熊本市 鹿帰瀬	43201	112	32° 50'	130° 48'	1997		九州電力 鉄塔建設

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
梅ノ木遺跡	縄文時代前期晩期 弥生時代中期後期 平安時代	集石遺構1基 土坑1基 竪穴住居225軒、 土器棺22基、 木棺墓61基 竪穴住居1軒	甌式系（尾田 式土器）、 黒髪式土器 大陸系磨製石器・ 鑄造鉄器23・ 鍛造鉄器83	鑄造鉄斧片23 板状鉄斧2・扁平片刃石斧・ 抉入片刃石斧・ 太形蛤刃石斧 鈎手文の黒髪式土器 縄文後・晩期の組織痕土器・ 玦状耳飾
六地藏遺跡	縄文時代後・晩期 弥生時代 平安時代	竪穴住居1基 竪穴住居1基 竪穴住居1基	黒色磨研土器 深鉢 弥生土器・鉄鏃 須恵器・土師器	
鹿帰瀬遺跡	弥生時代後期後半	竪穴住居8軒	弥生土器・ やりがんな	

(編集後記)

平成8年度調査を実施した際には、これほど住居群や墓地群が出土するとは、予想できなかった。当初予定された期間を超過し、県土木部や国体関連道路建設事務所にも多大な協力を得た。

遺構の重複は、すさまじく、十分に調査を行えなかった部分も多いに違いない。そのため、遺構の時期認定に多大な時間を費やし、十分な分析が行えなかった。ひとえに編集者の能力不足であるが・・・

幸いにも一部本調査と整理作業を併行して行えたことが、調査にも役立ち、時間が経つに連れ、調査の精度も増したと感じている。

報告書作成も多大な資料の前に呆然としたが、様々な方々のご教示や協力のおかげで本書を世に送り出したことに感謝したい。

以下、直接作業に発掘調査、整理・報告書作成作業に従事していた方々を列記してご紹介するとともに感謝の意を表したい。ありがとうございました。(敬称略)

(現場作業に従事して頂いた方)

阿部弘紀、荒木貴充、池永幸子、池永敏憲、石坂信子、上野栄子、宇野公子、宇野教光、江藤春子、岡田イツ代、岡部祐亮、川井田久子、川井田祐輔、栗崎シトミ、古閑麗子、坂田真由美、佐藤洋子、佐藤雅代、瀬上ムツミ、立石佳子、田中知恵美、田上ツチ子、田上由加里、田部英俊、田村ムツミ、土田ちえみ、寺本令子、富田智子、富永ミチ子、永野千代女、永野恒雄、中原キミヨ、中村清美、中村茂二、中山森重、西匡之、登尾由美子、馬場健次、林田恵子、原田致誠、原田春子、平川恵里子、広野淳子、福田淳二、藤原千尋、古庄美伊子、古谷生子、水上敏貞、水谷和代、水野美知子、宮原テル子、山口和子、米村大

(整理・報告書作成作業に従事・協力して頂いた方)

井島秀子、磯崎智子、岩下恵美子、上田まゆみ、上野栄子、小野美樹、小山健生、宇野公子、甲斐照代、川井田久子、古閑知子、古閑満代、坂本貴美子、佐藤紀子、篠崎チカ子、園田智子、田中知恵美、田部英俊、塚本博子、富田智子、浪床せい子、原かおる、原田春子、平井和子、平川恵里子、平川早苗、平木智子、藤江望、古庄志真子、古庄美伊子、古庄律子、松本直枝、右田美津子、溝上涼子、宮田日文、山口和子、吉武知佐子、吉田久美、谷直子、辻村美代子

熊本県文化財調査報告第 199 集

梅ノ木遺跡 II
下巻

発行年月日 平成 13 年 3 月 31 日

編集・発行 熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市水前寺 6 丁目 18 番 1 号

印刷 啓文社（株）

〒861-3102 熊本県上益城郡嘉島町下六嘉 1765

TEL.096-368-8100

12 教委 教文

② 008

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 199 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：梅ノ木遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

電話： 096-383-1111

URL： <http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日